

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第188集

新山権現社遺跡発掘調査報告書

一般県道長坂東稻前沢線箱石橋橋梁整備事業関連遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

頁	行 等 (位置)	誤	正
目次	写真図版37	ミニチュア土器	実測した土器・ミニチュア土器
20	22	第V章に掲載したのもでも詳しい記載は第V章で	第IV章に掲載したのもでも詳しい記載は第V章で
23	調査区周辺の地形	スケールに数字が入っていない	左端が0、右端が20m (S=1/1000)
51	一番左のセクションポイント	6 Fと6 Gが逆	6 G→6 F 6 F→6 G
85	6ベルトA面 7ベルトA面	グリッドの境が正確でない	
87	31	(写真図版7～36)	(写真図版7～37上段)
87	32	(写真図版37)	(写真図版37下段)
99	190の土器	下の図が斜めになっている	
245	左例の一番下の土器	番号(写植)が入っていない	2536
420	1272の上の土器	番号(写植)が入っていない	2473

しんざんごんげんしゃ

新山権現社遺跡発掘調査報告書

一般県道長坂束稲前沢線箱石橋橋梁整備事業関連遺跡発掘調査

序

本県には縄文時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、7,600ヵ所に及ぶ遺跡が確認されております。これら先人の残した文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた重大な責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、地域開発にともなう社会資本の充実も重要な一施策であります。特に幹線道路網の整備は、産業経済開発の大動脈として、多方面から期待されるところであります。

このような埋蔵文化財の保護・保存と開発の調和も今日の課題であり、当岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行ない、記録保存する処置をとってまいりました。

本報告書は、一般県道長坂東稲前沢線箱石橋橋梁整備事業に関連して、平成3年度に発掘調査した新山権現社遺跡の調査結果をまとめたものであります。

新山権現社遺跡は、西磐井郡平泉町に所在し、調査により、膨大な量の縄文時代後期の遺物が発見されました。県南部で、この時期のまとまった遺物の出土はこれまでになく、該期の研究にとって貴重な資料を提供することができました。

本報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず埋蔵文化財に対する理解の一助になれば幸いです。

おわりに、これまで発掘調査および報告書作成に御援助、御協力を賜りました平泉町教育委員会をはじめ、関係各位に衷心より謝意を表します。

平成5年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 工藤 巖

例 言

1. 本報告書は、岩手県西磐井郡平泉町長島字月館79-3ほかに所在する新山権現社遺跡（新山権現社）の発掘調査の結果を収録したものである。
2. 本遺跡の調査は、一般県道一関北上線改良に伴う事前の発掘調査である。調査は岩手県教育委員会と岩手県土木部との協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
3. 岩手県遺跡台帳に登録される遺跡番号はNE 66-1255、遺跡略号はNYG-91で、発掘調査面積は1300㎡である。
4. 発掘調査期間は平成3年4月10日～8月9日、整理期間は平成3年11月1日～平成5年3月31日である。
5. 野外調査は金子昭彦・阿部勝則・引屋敦 学、室内整理は金子が担当した。
6. 本報告書の執筆はIを鈴木恵治、それ以外を金子が担当した。
7. 遺物の鑑定にあたっては次の方々へ依頼した。石質：佐藤二郎氏（佐藤地質工芸学研究所）、黒曜石の産地：藁科哲男（京都大学原子炉実験所）
8. 本報告書作成にあたり、下記の方々・機関にご協力・ご指導いただいた（敬称略）。
秋元信夫、稲野裕介、稲村晃嗣、上野修一、江原 英、大島秀俊、大塚達朗、大野憲司、小笠原義範、岡田康博、小田野哲憲、小野正文、久保 泰、熊谷常正、小林 克、関根達人、菅谷通保、鈴木徳雄、高橋 理、高橋龍三郎、高柳圭一、田村俊之、手塚 薫、豊田宏良、中沢道彦、中村良幸、成田滋彦、野村 崇、本間 宏、宮 宏明、武藤祐浩、八重樫忠郎、山本孝司、和田晋治（50音順・敬称略）、平泉町教育委員会
9. 野外調査では山田 実氏ほか31名の、室内整理では藤沢成子さんほか20名のご協力を得た。
10. 本遺跡の調査で得られた一切の資料は岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。
11. 本報告書の凡例は以下のとおりである。また、脚註、参考文献は各節・各項の末に一括してある。その他、細かい事項については第三章を参照していただきたい。



焼土・赤色付着物



石器磨り面



黒色付着物



土師器黒色処理

目次

序 例言

〔本文〕

I. 調査に至る経過	1	4. 土坑(ピット)	27
II. 立地と環境		5. 捨て場	27
1. 位置	1	V. 遺物	
2. 立地	1	1. 縄文土器・弥生土器	87
3. 基本層序と検出・出土状況	3	2. 土製品	320
4. 周辺の遺跡	6	3. 石器・石製品	368
III. 調査・整理の方法と経過		4. 平安時代およびそれ以降の遺物	404
1. 野外調査	16	VI. 考察	
2. 室内整理と報告書の作成	19	1. 遺物	405
IV. 遺構		2. 遺構	464
1. 竪穴住居跡	21	3. 遺跡	466
2. 墓墳	25	VII. まとめ	468
3. 配石遺構	25	附編(黒曜石の産地同定)	469

〔図版〕

第1図 岩手県全図	2	第10図 第1号住居跡	53
第2図 遺跡の位置	3	第11図 第2号・第3号住居跡	54
第3図 周辺の地形	5	第12図 墓墳、第1号配石	55
第4図 周辺の遺跡(1)―縄文時代―	8	第13図 第2号・第3号配石	56
第5図 周辺の遺跡(2)―平安時代―	11	第14図 礫石鋪出土状況、 石器剥片出土状況	57
第6図 遺構全体図	23	第15図 第1号～第7号土坑	58
第7図 調査北区西半部遺構全体図	48	第16図 第8号～第12号土坑	59
第8図 調査北区東半部遺構全体図	49	第17図 第13号～第18号土坑	60
第9図 調査南区遺構全体図	51		

第18図	第19号～第31号土坑	61	第48図	層で取りあげた土器(4)	97
第19図	第32号～第43号土坑	62	第49図	層で取りあげた土器(5)	98
第20図	第44号～第49号土坑	63	第50図	層で取りあげた土器(6)	99
第21図	第50号～第55号土坑	64	第51図	層で取りあげた土器(7)	100
第22図	第56号～第60号土坑	65	第52図	層で取りあげた土器(8)	101
第23図	第61号～第69号土坑	66	第53図	層で取りあげた土器(9)	102
第24図	北区土器捨て場断面図(1)	67	第54図	層で取りあげた土器(10)	103
第25図	北区土器捨て場断面図(2)		第55図	層で取りあげた土器(11)	104
	・南区土器捨て場断面図(1)	69	第56図	層で取りあげた土器(12)	105
第26図	北区土器捨て場断面図(3)	71	第57図	層で取りあげた土器(13)	106
第27図	北区土器捨て場断面図(4)	72	第58図	層で取りあげた土器(14)	107
第28図	北区土器捨て場断面図(5)	73	第59図	層で取りあげた土器(15)	108
第29図	北区土器捨て場断面図(6)	74	第60図	層で取りあげた土器(16)	109
第30図	北区土器捨て場断面図(7)	75	第61図	層で取りあげた土器(17)	110
第31図	北区土器捨て場断面図(8)	76	第62図	層で取りあげた土器(18)	111
第32図	北区土器捨て場断面図(9)	77	第63図	層で取りあげた土器(19)	112
第33図	北区土器捨て場断面図(10)	78	第64図	層で取りあげた土器(20)	113
第34図	北区土器捨て場断面図(11)	79	第65図	層で取りあげた土器(21)	114
第35図	北区土器捨て場断面図(12)	80	第66図	層で取りあげた土器(22)	115
第36図	北区土器捨て場断面図(13)	81	第67図	層で取りあげた土器(23)	116
第37図	北区土器捨て場断面図(14)	82	第68図	層で取りあげた土器(24)	117
第38図	北区土器捨て場断面図(15)	83	第69図	層で取りあげた土器(25)	118
第39図	南区土器捨て場断面図(2)	84	第70図	層で取りあげた土器(26)	119
第40図	南区土器捨て場断面図(3)	85	第71図	層で取りあげた土器(27)	120
第41図	南区土器捨て場断面図(4)	86	第72図	層で取りあげた土器(28)	121
第42図	遺構出土土器(1)	91	第73図	層で取りあげた土器(29)	122
第43図	遺構出土土器(2)	92	第74図	層で取りあげた土器(30)	123
第44図	遺構出土土器(3)	93	第75図	層で取りあげた土器(31)	124
第45図	遺構出土土器(4)		第76図	層で取りあげた土器(32)	125
	・層で取りあげた土器(1)	94	第77図	層で取りあげた土器(33)	126
第46図	層で取りあげた土器(2)	95	第78図	層で取りあげた土器(34)	127
第47図	層で取りあげた土器(3)	96	第79図	層で取りあげた土器(35)	128

第80図	層で取りあげた土器(36)	129	第112図	層で取りあげた土器(88)	161
第81図	層で取りあげた土器(37)	130	第113図	層で取りあげた土器(89)	162
第82図	層で取りあげた土器(38)	131	第114図	層で取りあげた土器(90)	163
第83図	層で取りあげた土器(39)	132	第115図	層で取りあげた土器(91)	164
第84図	層で取りあげた土器(40)	133	第116図	層で取りあげた土器(92)	165
第85図	層で取りあげた土器(41)	134	第117図	層で取りあげた土器(93)	166
第86図	層で取りあげた土器(42)	135	第118図	層で取りあげた土器(94)	167
第87図	層で取りあげた土器(43)	136	第119図	層で取りあげた土器(95)	168
第88図	層で取りあげた土器(44)	137	第120図	層で取りあげた土器(96)	169
第89図	層で取りあげた土器(45)	138	第121図	層で取りあげた土器(97)	170
第90図	層で取りあげた土器(46)	139	第122図	層で取りあげた土器(98)	171
第91図	層で取りあげた土器(47)	140	第123図	層で取りあげた土器(99)	172
第92図	層で取りあげた土器(48)	141	第124図	層で取りあげた土器(100)	173
第93図	層で取りあげた土器(49)	142	第125図	層で取りあげた土器(101)	174
第94図	層で取りあげた土器(50)	143	第126図	層で取りあげた土器(102)	175
第95図	層で取りあげた土器(51)	144	第127図	層で取りあげた土器(103)	176
第96図	層で取りあげた土器(52)	145	第128図	層で取りあげた土器(104)	177
第97図	層で取りあげた土器(53)	146	第129図	層で取りあげた土器(105)	178
第98図	層で取りあげた土器(54)	147	第130図	層で取りあげた土器(106)	179
第99図	層で取りあげた土器(55)	148	第131図	層で取りあげた土器(107)	180
第100図	層で取りあげた土器(56)	149	第132図	層で取りあげた土器(108)	181
第101図	層で取りあげた土器(57)	150	第133図	層で取りあげた土器(109)	182
第102図	層で取りあげた土器(58)	151	第134図	層で取りあげた土器(110)	183
第103図	層で取りあげた土器(59)	152	第135図	層で取りあげた土器(111)	184
第104図	層で取りあげた土器(60)	153	第136図	層で取りあげた土器(112)	185
第105図	層で取りあげた土器(61)	154	第137図	層で取りあげた土器(113)	186
第106図	層で取りあげた土器(62)	155	第138図	層で取りあげた土器(114)	187
第107図	層で取りあげた土器(63)	156	第139図	層で取りあげた土器(115)	188
第108図	層で取りあげた土器(64)	157	第140図	層で取りあげた土器(116)	189
第109図	層で取りあげた土器(65)	158	第141図	層で取りあげた土器(117)	190
第110図	層で取りあげた土器(66)	159	第142図	層で取りあげた土器(118)	191
第111図	層で取りあげた土器(67)	160	第143図	層で取りあげた土器(119)	192

第144図	層で取りあげた土器⑩	193	第176図	層で取りあげた土器⑩	225
第145図	層で取りあげた土器⑩	194	第177図	層で取りあげた土器⑩	226
第146図	層で取りあげた土器⑩	195	第178図	層で取りあげた土器⑩	
第147図	層で取りあげた土器⑩	196		・その他の土器(1)	227
第148図	層で取りあげた土器⑩	197	第179図	その他の土器(2)	228
第149図	層で取りあげた土器⑩	198	第180図	その他の土器(3)	229
第150図	層で取りあげた土器⑩	199	第181図	その他の土器(4)	230
第151図	層で取りあげた土器⑩	200	第182図	その他の土器(5)	231
第152図	層で取りあげた土器⑩	201	第183図	その他の土器(6)	232
第153図	層で取りあげた土器⑩	202	第184図	その他の土器(7)	233
第154図	層で取りあげた土器⑩	203	第185図	その他の土器(8)	234
第155図	層で取りあげた土器⑩	204	第186図	その他の土器(9)	235
第156図	層で取りあげた土器⑩	205	第187図	その他の土器⑩	236
第157図	層で取りあげた土器⑩	206	第188図	その他の土器⑪	237
第158図	層で取りあげた土器⑩	207	第189図	その他の土器⑫	238
第159図	層で取りあげた土器⑩	208	第190図	その他の土器⑬	239
第160図	層で取りあげた土器⑩	209	第191図	その他の土器⑭	240
第161図	層で取りあげた土器⑩	210	第192図	その他の土器⑮	241
第162図	層で取りあげた土器⑩	211	第193図	その他の土器⑯	242
第163図	層で取りあげた土器⑩	212	第194図	その他の土器⑰	243
第164図	層で取りあげた土器⑩	213	第195図	その他の土器⑱	244
第165図	層で取りあげた土器⑩	214	第196図	その他の土器⑲	245
第166図	層で取りあげた土器⑩	215	第197図	その他の土器⑳	246
第167図	層で取りあげた土器⑩	216	第198図	その他の土器㉑	247
第168図	層で取りあげた土器⑩	217	第199図	その他の土器㉒	248
第169図	層で取りあげた土器⑩	218	第200図	その他の土器㉓	249
第170図	層で取りあげた土器⑩	219	第201図	その他の土器㉔	250
第171図	層で取りあげた土器⑩	220	第202図	その他の土器㉕	251
第172図	層で取りあげた土器⑩	221	第203図	その他の土器㉖	252
第173図	層で取りあげた土器⑩	222	第204図	その他の土器㉗	253
第174図	層で取りあげた土器⑩	223	第205図	その他の土器㉘	254
第175図	層で取りあげた土器⑩	224	第206図	その他の土器㉙	255

第 207 図	その他の土器(4)	256	第 238 図	石器(1)	371
第 208 図	その他の土器(4)		第 239 図	石器(2)	372
	・ミニチュア土器	257	第 240 図	石器(3)	373
第 209 図	土製品(1)	324	第 241 図	石器(4)	374
第 210 図	土製品(2)	325	第 242 図	石器(5)	375
第 211 図	土製品(3)	326	第 243 図	石器(6)	376
第 212 図	土製品(4)	327	第 244 図	石器(7)	377
第 213 図	土製品(5)	328	第 245 図	石器(8)	378
第 214 図	土製品(6)	329	第 246 図	石器(9)	379
第 215 図	土製品(7)	330	第 247 図	石器(10)	380
第 216 図	土製品(8)	331	第 248 図	石器(11)	381
第 217 図	土製品(9)	332	第 249 図	石器(12)	382
第 218 図	土製品(10)	333	第 250 図	石器(13)	383
第 219 図	土製品(11)	334	第 251 図	石器(14)	384
第 220 図	土製品(12)	335	第 252 図	石器(15)	385
第 221 図	土製品(13)	336	第 253 図	石器(16)	386
第 222 図	土製品(14)	337	第 254 図	石器(17)	387
第 223 図	土製品(15)	338	第 255 図	石器(18)	388
第 224 図	土製品(16)	339	第 256 図	石器(19)・石製品(1)	389
第 225 図	土製品(17)	340	第 257 図	石製品(2)	390
第 226 図	土製品(18)	341	第 258 図	石製品(3)	391
第 227 図	土製品(19)	342	第 259 図	石製品(4)	392
第 228 図	土製品(20)	343	第 260 図	石製品(5)	393
第 229 図	土製品(21)	344	第 261 図	石製品(6)	394
第 230 図	土製品(22)	345	第 262 図	石製品(7)	395
第 231 図	土製品(23)	346	第 263 図	平安時代以降の遺物	404
第 232 図	土製品(24)	347	第 264 図	出土土器集成(1)	417
第 233 図	土製品(25)	348	第 265 図	出土土器集成(2)	418
第 234 図	土製品(26)	349	第 266 図	出土土器集成(3)	419
第 235 図	土製品(27)	350	第 267 図	出土土器集成(4)	420
第 236 図	土製品(28)	351	第 268 図	出土土器集成(5)	421
第 237 図	土製品(29)	352	第 269 図	出土土器集成(6)	422

第 270 图	出土土器集成(7)	423	第 285 图	参考土器(9)	438
第 271 图	出土土器集成(8)	424	第 286 图	参考土偶(1)	446
第 272 图	出土土器集成(9)	425	第 287 图	参考土偶(2)	447
第 273 图	出土土器集成(10)	426	第 288 图	参考土偶(3)	448
第 274 图	出土土器集成(11)	427	第 289 图	参考土偶(4)	449
第 275 图	出土土器集成(12)	428	第 290 图	参考土偶(5)	450
第 276 图	出土土器集成(13)	429	第 291 图	参考土偶(6)	451
第 277 图	参考土器(1)	430	第 292 图	出土土偶集成(1)	452
第 278 图	参考土器(2)	431	第 293 图	出土土偶集成(2)	453
第 279 图	参考土器(3)	432	第 294 图	出土土偶集成(3)	454
第 280 图	参考土器(4)	433	第 295 图	出土土偶集成(4)	455
第 281 图	参考土器(5)	434	第 296 图	出土土偶分布图(1)	457
第 282 图	参考土器(6)	435	第 297 图	出土土偶分布图(2)	459
第 283 图	参考土器(7)	436	第 298 图	出土土製品分布图	461
第 284 图	参考土器(8)	437			

[写真图版]

写真图版 1	調査前全景	483	写真图版 16	土器08:	"	498
写真图版 2	遺構(1)	484	写真图版 17	土器09:	"	499
写真图版 3	遺構(2)	485	写真图版 18	土器10:	"	500
写真图版 4	遺構(3)	486	写真图版 19	土器11:	"	501
写真图版 5	遺構(4)	487	写真图版 20	土器12:	"	502
写真图版 6	遺構(5)	488	写真图版 21	土器13:	"	503
写真图版 7	土器(1): 実測した土器	489	写真图版 22	土器14:	"	504
写真图版 8	土器(2): "	490	写真图版 23	土器15:	"	505
写真图版 9	土器(3): "	491	写真图版 24	土器16:	"	506
写真图版 10	土器(4): "	492	写真图版 25	土器17:	"	507
写真图版 11	土器(5): "	493	写真图版 26	土器18:	"	508
写真图版 12	土器(6): "	494	写真图版 27	土器19:	"	509
写真图版 13	土器(7): "	495	写真图版 28	土器20:	"	510
写真图版 14	土器(8): "	496	写真图版 29	土器21:	"	511
写真图版 15	土器(9): "	497	写真图版 30	土器22:	"	512

写真図版 31	土器(25): "	513
写真図版 32	土器(26): "	514
写真図版 33	土器(27): "	515
写真図版 34	土器(28): "	516
写真図版 35	土器(29): "	517
写真図版 36	土器(30): "	518
写真図版 37	土器(31): ミニチュア土器	519
写真図版 38	土器(32): 採掘土器	520
写真図版 39	土器(33): "	521
写真図版 40	土器(34): "	522
写真図版 41	土器(35): "	523
写真図版 42	土器(36): "	524
写真図版 43	土器(37): "	525
写真図版 44	土器(38): "	526
写真図版 45	土器(39): "	527
写真図版 46	土器(40): "	528
写真図版 47	土器(41): "	529
写真図版 48	土器(42): "	530
写真図版 49	土器(43): "	531
写真図版 50	土器(44): "	532
写真図版 51	土器(45): "	533
写真図版 52	土器(46): "	534
写真図版 53	土器(47): "	535
写真図版 54	土器(48): "	536
写真図版 55	土器(49): "	537
写真図版 56	土器(50): 採掘土器・図版不掲載	538
写真図版 57	土器(51): 図版不掲載	539
写真図版 58	土器(52): "	540
写真図版 59	土器(53): "	541
写真図版 60	土器(54): "	542
写真図版 61	土器(55): "	543
写真図版 62	土器(56): "	544

写真図版 63	土器(57): "	545
写真図版 64	土器(58): "	546
写真図版 65	土器(59): "	547
写真図版 66	土器(60): "	548
写真図版 67	土器(61): "	549
写真図版 68	土器(62): "	550
写真図版 69	土器(63): "	551
写真図版 70	土器(64): "	552
写真図版 71	土器(65): 突起類	553
写真図版 72	土器(66): "	554
写真図版 73	土器(67): "	555
写真図版 74	土器(68): "	556
写真図版 75	土器(69): "	557
写真図版 76	土器(70): "	558
写真図版 77	土器(71): "	559
写真図版 78	土器(72): "	560
写真図版 79	土製品(1)	561
写真図版 80	土製品(2)	562
写真図版 81	土製品(3)	563
写真図版 82	土製品(4)	564
写真図版 83	土製品(5)	565
写真図版 84	土製品(6)	566
写真図版 85	土製品(7)	567
写真図版 86	土製品(8)	568
写真図版 87	土製品(9)	569
写真図版 88	土製品(10)	570
写真図版 89	土製品(11)	571
写真図版 90	土製品(12)	572
写真図版 91	土製品(13)	573
写真図版 92	土製品(14)	574
写真図版 93	土製品(15)	575
写真図版 94	土製品(16)	576

写真図版 95 石器(1).....	577	写真図版 105 石器(1).....	587
写真図版 96 石器(2).....	578	写真図版 106 石器(2).....	588
写真図版 97 石器(3).....	579	写真図版 107 石器(3).....	589
写真図版 98 石器(4).....	580	写真図版 108 石製品(1).....	590
写真図版 99 石器(5).....	581	写真図版 109 石製品(2).....	591
写真図版 100 石器(6).....	582	写真図版 110 石製品(3).....	592
写真図版 101 石器(7).....	583	写真図版 111 石製品(4).....	593
写真図版 102 石器(8).....	584	写真図版 112 石製品(5).....	594
写真図版 103 石器(9).....	585	写真図版 113 石製品(6).....	595
写真図版 104 石器(10).....	586	写真図版 114 平安時代以降の遺物.....	596

[表]

第1表 周辺の遺跡(1)-縄文時代-.....	9	第9表 土器観察表(1)-遺構出土土器-.....	258
第2表 周辺の遺跡(2)-平安時代-.....	14	第10表 土器観察表(2)	
第3表 土坑(ピット)一覧表.....	29	-層で取り上げた土器-.....	261
第4表 層序一覧表(1)-北区-.....	31	第11表 土器観察表(3)	
第5表 層序一覧表(2)-南区-.....	35	-その他の土器-.....	312
第6表 北区捨て場土層観察表(1)		第12表 土器観察表(4)	
-広がりを持つ層-.....	37	-ミニチュア土器-.....	319
第7表 北区捨て場土層観察表(2)		第13表 土製品観察表.....	353
-一部にしか層現われない層-.....	42	第14表 石器分類表.....	368
第8表 南区捨て場土層観察表.....	44	第15表 石器・石製品観察表.....	396

I. 調査に至る経過

一般県道長坂東稲前沢線は前沢町と平泉町長島地区を結ぶ。箱石橋はこの県道の北上川にかかる橋架である。新山権現社遺跡は、この県道と一般県道一関北上線が合流する地点に立地しており、この箱石橋橋架整備事業の一環として発掘調査がなされた。

この事業に関連する埋蔵文化財の取扱いについては事業主体である岩手県土木部と岩手県教育委員会との間で協議がなされ、特にも新山権現社遺跡は、古くから多量の土器が出土することでも知られていたため、岩手県教育委員会が平成2年9月に試掘調査を実施した。その結果、トレンチから多量の縄文土器が出土し、発掘調査の必要性が岩手県土木部に伝えられた。その後、県土木部と教育委員会の調整によって、当該遺跡の発掘調査を平成3年度における岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とした。これにより、当埋蔵文化財センターは平成3年4月1日付け文化振興事業団理事長宛「一土第1573号」の発掘調査実施依頼および平成3年4月11日の委託契約にもとづいて調査に着手することとなった。

II. 立地と環境

1. 位置（第1図、第2図）

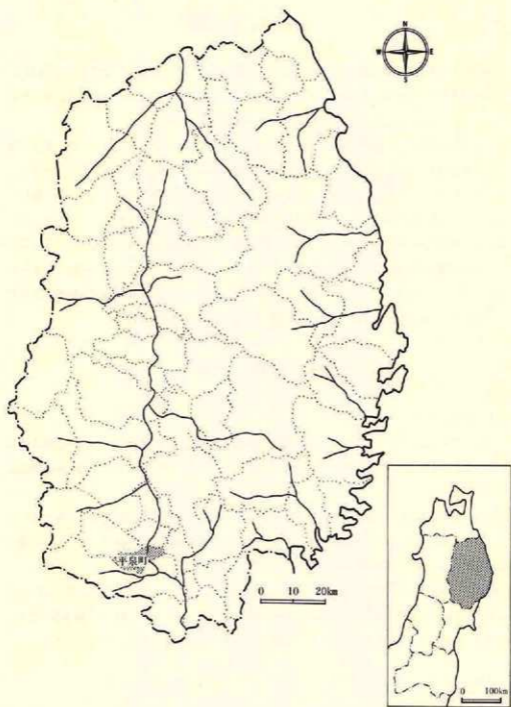
新山権現社遺跡は岩手県南部の西磐井郡平泉町長島字月館79-3ほかに所在し、東日本旅客鉄道東北本線平泉駅の北東約4kmにあり、東稲山麓の、沢に向かって落ちる北向きの緩斜面に立地している。

新山権現社遺跡は古くから知られた遺跡で、北上川東側に広がる水田に向かって西に下る斜面直上に、新山権現社の小さな祠があり、そのそばに新山権現社遺跡の碑がある。今回の調査区は、そこからほぼ平坦な緩やかな斜面を100mほど東に下った部分にあたる。

遺跡が所在する平泉町は、県都盛岡市から南に約83km、県南の北上河谷帯南端部に位置している。北は胆沢郡前沢町と衣川村、東は東磐井郡東山町、南は一関市と隣接し、総面積は6,375km²ある。遺跡は平泉町の最北に位置し、前沢町との境に近い県道一関北上線添いにある。

2. 立地（第2図、第3図）

平泉町の地勢を概観すると、町の中央部を北上川が南流し、東側は北上山地西縁部が北上河谷帯（北上盆地）に接している。北上川は県北の七時両山に源を発し、北上・奥羽両山系を東西に二分し、南北に縦走する全長243kmの大河で宮城県への追波湾に注いでおり、平泉町は北上



第1圖 岩手県全圖



第2図 遺跡の位置

川の中流域にあたる。北上山地は青森県八戸市から宮城県牡鹿半島に至る南北240 km、東西約77 kmの紡錘形に発達した山地である。起伏に乏しく、隆起準平原や残丘状山地が随所に見られる。この地域の北上山地西縁部は比較的標高が低く、標高596 mの東稲山山地に続く東稲西麓丘陵、駒ヶ峰丘陵からなる。北上川の西側には衣川丘陵が広がっている。

本道跡は北上川のすぐ東側にあり、東稲西麓丘陵に立地している。調査区の北側には小さな沢が流れている。道跡の周囲には水田、畑が広がり、その造成にあたって削平等の地形の改変が行なわれているらしい。調査区の標高は40 m前後で、現状は畑地と宅地であった。

平泉町及び周辺の地質は北上河谷帯の西側を南北に縦断する盛岡-白河構造線によって東西に分けられる。東側は花崗岩・礫岩・泥岩等で構成される古生層が基盤岩類であり、西側は新第三紀以降の堆積岩および安山岩質岩石が広く分布している。

参考文献

- 岩手県農政部北上開発室 1978 『北上山系開発地域 土地分類基本調査 一冊』
高橋義介ほか 1988 「Ⅱ 2. 地形と地質」『毛越寺跡発掘調査報告書』岩手県歴史文化財センター

3. 基本層序と検出・出土状況

基本層序は3層に大別され、このうちⅡ層は縄文人の廃業行為によって形成されたと考えられる層である。

Ⅰ層 現在の表土であり、層厚20～40 cmで、土地の利用状況によって異なる。調査区の現状は、道路の西側の広い部分（北区と称する）の西半分は畑地、東半分は宅地、道路の東側の狭く南北に細長い部分（南区と称する）の北半分は畑地、南半分は宅地（納屋跡）として利用されていた。

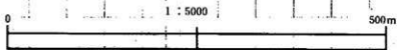
畑地部分（納屋跡を含む）は、褐灰色土（7.5 YR 4/1）、締まりやや悪く、粘性ややあり、3 cm程度の小石を含む。

宅地部分は、黒褐色土（10 YR 3/2）、締まり悪く、隙、水道管の一部等の住宅の残存物を含む。

Ⅱ層 縄文時代後期の遺物包含層で、一部晩期後半の遺物包含層を含む。調査北区の西半部南区南半部には検出されなかった（第8図、第24図参照）。層厚10～100 cm。縄文人の廃業行為によって形成された層で、その内容は地点によって異なる。この層の直上及び層中から竪穴住居跡、土坑が検出された。

Ⅲ層 黄褐色土（10 YR 5/8）。地山。層厚は確認していない。この層の上面は一部の土坑の検出面である。なお、場所によってはこの層の中から巨大な花崗岩が出土することがある。

次に遺構・遺物の保存状況（原位置性）、検出・出土状況について述べる。



第3図 周辺の地形

北区の西半部は、昭和初期頃井戸が掘られ、また畑にする際かなりの削平を受けているようで、表土（Ⅰ層）のすぐ下は地山（Ⅲ層）という状態であった。さらに、南区の南半部も表土のすぐ下は地山であり、これらの場所は保存状況は良いとは言えない。したがって、北区の西半部に検出された土坑群の掘りこみ面はもっと高かったと思われる。

残りの、捨て場が検出された部分は比較的保存状況は良いと思われる。遺物の出土状況も比較的良好と思われ、地点差・層位差も大体において認められる。例えば、後期の遺物なら、沢に向かうほど（北東に向かうほど）新しくなる傾向がある。ただし、捨て場中にも風倒木痕が認められ、また調査時の手抜かりのため、層位差はあまり厳密にはとらえられていない。

4. 周辺の遺跡

新山権現社遺跡から出土した遺物には、縄文時代、弥生時代、平安時代のものがある。弥生時代のもは土器が一片確認されたのみであり、また、この時代の周辺の遺跡には不明な点が多い。そこで、ここでは縄文、平安の二つの時代に限って周辺の遺跡を見ていくことにする。なお、この地域の他の時期の遺跡については『平泉の埋蔵文化財』（平泉郷土館 1991）、『上衣川地区遺跡詳細分布調査報告書』（衣川村教育委員会 1987）、『下衣川地区遺跡詳細分布調査報告書』（衣川村教育委員会 1988）などに詳しい。

(1) 縄文時代（第1表、第4図参照）

この地域で縄文時代の遺跡が発掘されたことはあまりなく、東北縦貫自動車道建設に伴って行われた緊急調査によるものがほとんどであるため（第1表3、4、7、12、13）（岩手県教育委員会 1980 a、1980 b）、詳細については不明な点が多い。以下、新山権現社遺跡のほとんど全ての遺物が属する後期～晩期の遺跡についてやや詳しく見ていきたい。

・後期

新山権現社遺跡から出土した後期の土器は初頭から末葉までであるが、その中心は前葉である。しかし、この地域では後期初頭～前葉の土器がまとまって出土した遺跡は知られていない。中葉も同様であるが、衣川を北上川の合流点から5 kmほど遡った、衣川村の沖の野遺跡で中葉の注口土器が出土しており、前述の衣川村教育委員会（1987）に紹介されている。後期後葉～晩期初頭では、当埋蔵文化財センターが平成3年に調査した泉屋遺跡がある（第1表8）(出)。土器も比較的まとまった点数が見られ、また晩期初頭の岩版が珍しい。土器の胎土、焼成は新山権現社のものと非常に似ていて興味深い。

・晩期

今回出土した晩期土器は、前半のものも十数点見られるが、大部分は中葉～後葉のもので、

大洞C式がほとんどである。この地域の初頭の遺跡では前述の泉屋遺跡があり、晩期前半の遺跡では東裏遺跡（第1表3）が有名で、多量の土器・石器等が出土しており、また大形の透光器土偶も出土している（岩手県教育委員会 1980 a）。東裏遺跡では中葉の大洞C式土器も多量に出土していて、この時期の完形の「中腰」の状態にあるかのごときポーズをとる土偶も見られる（岩手県教育委員会 前掲）。衣川村の館（山口）遺跡でも、昭和62年の試掘調査の際に大洞C式土器が出土している（衣川村教育委員会 1988）。

以上、この地域の縄文時代後～晩期の遺跡を見てきたが、泉屋遺跡、東裏遺跡以外はほとんど発掘調査が行なわれていないのが現状で、地域の様相を検討するには不明な点が多い。なお、岩手県南部の後期の遺跡では花泉町の貝島貝塚が有名であるが、貝島貝塚は新山権現社遺跡から約25km南にあり、北上川の支流の夏川流域にあって仙台平野の最奥部に位置する。貝島貝塚からは後期初頭から後期後葉までの土器も出土しており、また晩期中葉（大洞C式）土器も出土しているなど（花泉町教育委員会 1971）、新山権現社遺跡を理解するのに参考になる部分が多いので、報告書を参照して得られた知見を以下に示しておく。

まず土器から。後期初頭の土器は非常に類似している。前葉では、貝島貝塚では仙台湾の南境式（Ⅱ群2類）や関東地方の堀ノ内式（Ⅱ群3類、Ⅱ群4類の一部）に似たものが多く、東北地方北部の十腰内I式や大湯式（Ⅱ群4類の一部）は非常に少量しか出土していないのに対し、新山権現社遺跡から出土した土器の大部分は十腰内I式（あるいは併行）のもので大量に出土している。また、その文様も、貝島貝塚のものが比較的直線的で関東地方のものへの近似を示しているのに対し、新山権現社遺跡では横位に曲線的に展開するものが多く、むしろ東北地方北部への近似を示している。中葉～後葉の土器はかなり共通しているようだが、新山権現社遺跡で多く見られた大形突起がほとんど掲載されていないのが気になる。

石器・石製品については特に著しい共通点も相違点も認められないが、石棒はよく似ている気がする。土製品のうち土偶・土製耳飾はかなり共通した様相が見られる。新山権現社遺跡であまり見られなかった土罎は貝島貝塚ではかなり多く出土している。このあたりは遺跡の立地の違いを表していると考えられるが、その代わり新山権現社遺跡で比較的まとまった出土量が見られた土罎が1点も掲載されていないのはどういうわけであろうか。

この他、新山権現社遺跡から比較的近い範囲で後期の土器を多量に出土した遺跡には以下の遺跡がある。北上川流域では、下流域に宝ヶ峯遺跡（宮城県桃生郡河南町、新山権現社遺跡から直線距離で南に約55km）があり（斎藤報恩会 1991）、最下流に南境貝塚（宮城県石巻市、新山権現社遺跡から直線距離で南南東に約60km）がある。北には、直線距離で北に約35kmで八天遺跡（岩手県北上市）があり（北上市教育委員会 1978）、北上川支流の神貫川上流に位置する立石遺跡（岩手県神貫郡大迫町、直線距離で北北東に約60km）がある（大迫町教育委員会



第4図 周辺の遺跡(1) 縄文時代一(1/50000)

第1表 周辺の遺跡(1)―縄文時代―

№	遺跡名	所在地	遺跡の性格・遺構・遺物	備考
1	新山梅塚社	平泉町	住居跡・ピット・後、晩期の捨て場・その他	今回調査
2	通場	前沢町	後期	
3	東畠	衣川村	晩期包含層・土偶 34 点	昭和 48、49 年調査
4	北館	"	後～晩期土器敷点（遺跡自体は中期主体?）	昭和 48、49 年調査
5	館（山口）	"	大冨C ₂ 式土器・石器（石鏃・石匙）	昭和 62 年試掘調査
6	泉ヶ城	平泉町	中期～後期土器	
7	大沢	"	後期後葉～晩期中葉土器敷点	昭和 48 年調査
8	泉屋	"	後期末～晩期初葉土器・岩版 1 点（晩期初葉）	平成 3 年調査
9	白鳥水沢	前沢町	縄文	
10	永沢東	"	"	
11	合ノ沢A	"	中期	
12	泊ヶ崎	"	中期?土器敷点	昭和 48 年調査
13	新城	"	中期土器敷点	昭和 48 年調査
14	月館Ⅱ	平泉町	中期土器	
15	二反田	"	縄文	
16	壺ヶ坂	"	"	
17	新田	"	"	
18	館岡	"	"	
19	下平	"	"	

1979)。北上山系を越えて沿岸に出ると、直線距離で東に約50kmで門前貝塚（岩手県陸前高田市）、直線距離で南東に約35kmで田柄貝塚（宮城県気仙沼市）がある（宮城県教育委員会1986）。奥羽山系を越えて日本海側に出ると、直線距離で西北西に約55kmで八木遺跡がある（秋田県平鹿郡増田町）（秋田県教育委員会1989）。

岩手県で後期の遺物を大量に出土した遺跡となると、この他に大槌町崎山弁天遺跡（大槌町教育委員会1974）、盛岡市蔦内遺跡（岩手県埋蔵文化財センター1982）などがあるが、沿岸の崎山弁天貝塚まで北東に直線距離で約80km、北上川支流の雫石川中流にある蔦内遺跡まで北北西に直線距離で約70kmある。

以上の遺跡を主体とする時期によってまとめると、後期初頭～前葉では八天遺跡、門前貝塚、八木遺跡、前葉～中葉では貝島貝塚、立石遺跡、南境貝塚、崎山弁天遺跡、中葉から後葉では田柄貝塚、宝ヶ峯遺跡、蔦内遺跡ということになる。本遺跡の様相を理解する上で、これらの遺跡との比較検討が大きな助けになるのは言うまでもない。

(2) 平安時代（第2表、第5図参照）

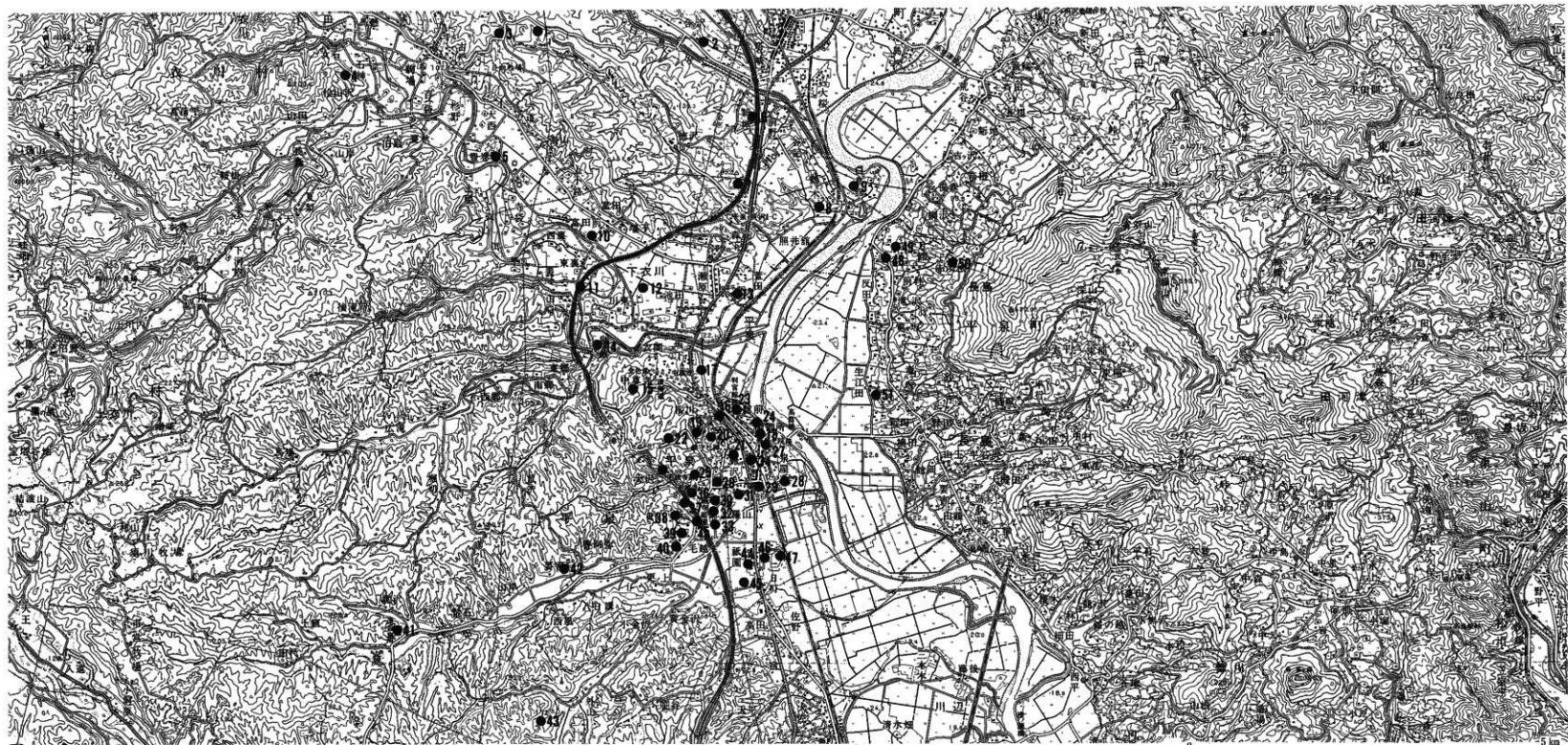
新山権現社遺跡からは、内黒の土師器、12世紀の白磁、かわらけが出土している。平泉町内で北上川の東側からかわらけが出土したのは初めてであり非常に意義深いのであるが、残念ながら、これらの遺物は遺構に伴って出土したものではなく、何れも表土に近いところか攪乱層からの出土である。したがって、これらの遺物が後世の人間によって柳之御所遺跡などの平泉遺跡群から運び込まれた可能性も否定できない。そこで、平安時代の遺跡については軽く扱うことにしたい。

平泉町内には毛越寺（第2表25）、無量光院跡（第2表27）、中尊寺境内（第2表15）などの特別史跡があり、古くから発掘調査が行われて多くの成果をあげ、その成果は「平泉の埋蔵文化財」（平泉郷土館1991）にわかりやすくまとめられている。最近の調査では、当埋蔵文化財センターおよび平泉町教育委員会による柳之御所遺跡（第2表24）の発掘調査で重要な発見が相次ぎ、その一部が公表されている（平泉町教育委員会1992など、岩手県埋蔵文化財センター1991）。また平成4年に当埋蔵文化財センターと平泉教育委員会の両機関によって調査された志羅山遺跡（第2表31）でも完形の白磁の水注の出土など重要な成果が得られている。

平泉町以外はあまり発掘調査が行われておらず不明な点が多いが、平成4年に行われた衣川村教育委員会による阿部館遺跡の調査で、11～12世紀の青磁や建物跡の発見などの重要な成果が得られている。

註

註. 報告書は平成4年度に刊行される。



第5図 周辺の遺跡(2) —平安時代—

参考文献

- 秋田県教育委員会 1989 『八木道跡発掘調査報告書』
岩手県教育委員会 1980 a 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書V』
1980 b 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書VI』
岩手県埋蔵文化財センター 1982 『高内道跡』
1985 『高玉道跡発掘調査報告書』
1991 『御之御所跡 姿を現した厩館跡』
大船町教育委員会 1974 『崎山弁天道跡』
大迫町教育委員会 1979 『立石道跡』
北上市教育委員会 1978 『八天道跡』
衣川村教育委員会 1987 『上衣川地区道跡詳細分布調査報告書』
1988 『下衣川地区道跡詳細分布調査報告書』
高橋報恩会 1991 『宝ヶ塚』
花泉町教育委員会 1971 『貝島貝塚』
平泉町郷土館 1991 『平泉の埋蔵文化財』
平泉町教育委員会 1992 『御之御所跡発掘調査報告書－第30次調査概報－』
宮城県教育委員会 1986 『田柄貝塚』

第2表 周辺の遺跡(2)―平安時代―

No	遺跡名	所在地	遺跡の性格・遺構・遺物	備考
1	一貫坂	前沢町	土師器、須恵器	
2	合ノ沢A	"	須恵器	
3	長根	衣川村	土師器(内黒、9～10世紀)	
4	阿部館	"	阿部氏の居城跡?・柱穴・青磁の皿(11～12世紀)、白磁、鉄器	昭和61年試掘調査 平成4年調査
5	館城	"	須恵器(10世紀頃)	
6	新城	前沢町	土師器、須恵器	昭和48年調査
7	舞鶴公園付近	"	須恵器	
8	衣岡	"	土師器、須恵器	
9	白鳥館	"	居館跡	平成4年調査
10	向館	衣川村	居館跡、土師器	
11	北館	"	壑穴・土師器	昭和48、49年調査
12	長者ヶ原廃寺	"	藤原時代あるいはそれ以前の寺院	昭和33年調査 昭和47年調査
13	瀬原館	平泉町		
14	泉ヶ城	"		
15	中尊寺境内	"	伽藍遺構、礎跡・かわらけ、陶磁器片	長期にわたって発掘調査
16	衣岡	"	寺社・土器、陶器片	
17	坂下	"	寺社・伽藍遺構・かわらけ、陶磁器片	
18	鎌間ヶ岡	"	池跡・かわらけ、陶磁器片	
19	金鶏山	"	経塚・壑、壺	
20	花立I	"	寺社、城跡・礎石・瓦、かわらけ、陶磁器片	館跡は破壊
21	花立II	"	寺社・建物跡・瓦、かわらけ、陶磁器片	破壊
22	鈴懸の森	"	経塚・石組が露頭	破壊
23	高館	"	城跡・土器、罌、段・かわらけ	
24	朝之御所	"	館跡・多数の遺構・烏帽子、漆器折敷、かわらけ、陶磁器片、木製品	長期にわたって発掘調査
25	毛越寺	"	寺社・伽藍遺構、庭園遺構(漣水)・かわらけ、陶磁器片	長期にわたって発掘調査

25	観自在王院	平泉町	寺社・伽藍遺構・かわらけ、陶磁器片	昭和29～31年および整備事業にともなって調査、史跡公園として復元整備
27	無量光院	〃	寺社・伽藍遺構・塚塔、金銅製裝飾金具、めのう玉石、碑、かわらけ、陶磁器片	
28	伽藍之御所	〃	館跡・土器・かわらけ、陶磁器片	
29	泉屋	〃	漆塗りの棟、かわらけ、陶磁器片	平成3年ほか調査
30	倉町	〃	かわらけ、陶磁器片	
31	志羅山	〃	板御鉢、井戸跡・烏帽子?、白磁の水注(12世紀第3四半期)、木製品(サイコロ、下駄4個など)、かわらけ、陶磁器片	平成4年ほか調査
32	国術館	〃	城館・かわらけ、陶磁器片	
33	高南館	〃	かわらけ、陶磁器片	
34	白山社	〃	土器、堀跡、麗岸石組を持つ池跡(12世紀後半)・かわらけ	
35	毛越Ⅰ	〃	建物跡・かわらけ、陶磁器片	昭和48、49年調査
36	毛越Ⅱ	〃		昭和48年調査
37	毛越Ⅲ	〃		〃
38	毛越Ⅳ	〃		
39	毛越Ⅴ	〃	かわらけ	
40	毛越Ⅵ	〃	〃	
41	西光寺	〃	大磨崖仏・玉石積護岸・かわらけ、木器	昭和43年ほか調査
42	要誓Ⅰ	〃		
43	比丘尼寺	〃		
44	祇園社	〃		
45	祇園Ⅰ	〃		
46	王子社	〃		
47	高玉	〃	建物跡・土師器、須恵器、かわらけ、陶磁器片	昭和59年風埋蔵文化財センターによって調査
48	新山陶製社	〃	土師器、かわらけ、磁器片(白磁)	今回調査
49	東福寺	〃		
50	東福寺	〃		
51	佐藤屋敷 (庄司屋敷)	〃		

Ⅲ. 調査・整理の方法と経過

1. 野外調査

初めに調査経過について述べ、次に報告書を読む際に留めておいていただきたい点を述べる。

(1)調査経過

調査面積は1,300㎡で、野外調査は平成3年4月10日から同年8月9日まで行なわれた。

調査に入る前、県教育委員会文化課による試掘調査で遺物が大量に出土することがわかってきた。そこで、調査方法の検討と土捨て場確保のために、遺物包含層が調査区域内にどのよう広がるのかを調べようと、調査区いっばいに試掘トレンチを入れることにした（遺物包含層直上まで）。調査区は県道を挟んで二ヶ所に別れていたため、道路の西側（以下、北区と称する）では十字、道路の東側（以下、南区と称する）では一字にトレンチを入れた。すると、北区の西半部、南区の南半部は表土の下がすぐ地山という状態であることがわかり、ここを土捨て場としようと考えた。ただし、北区西半部では多くの土坑が検出されたので、まずその精査を始めた（5月下旬まで）。さらに、北区の東半部には住宅のコンクリートの叩きなどが残っており、人力でこれを剥ぐのは困難であると思われたので重機によって剥ぐことにした。その後、包含層の堆積状態と遺物の出土状態を見るために、宅地後の攪乱部分（便所など）を取り除き、また文化課による試掘トレンチを清掃した（4月下旬）。その結果、1mくらいの厚さで上から下までびっしり遺物が含まれているが、この間を分層するのは難しく一様であるように見えた。そこで、遺物の取り上げは2×2mの小グリッドで上から10cmごとに行い、土捨てのために一輪車を通る道および土層観察用に幅50cmのベルトを残して掘り下げることにした。ただし、遺構が確認される可能性もあるので、2つの小グリッドを東西にくっつけて面的な広がりも確認できるようにした。したがって、実際には3×1.5mの幾つものトレンチを同時に10cmごとに掘り下げていったことになる（5月上旬以降）（写真図版5参照）。

当初、ベルトは調査が進むにつれて除去してだんだん数を減らしていくつもりであったが、調査の進行とともに以下のことがわかってきたので、最後まで残すことにし、さらに図面にその堆積状態を記録し、ベルトの掘り下げは層ごとに行なうことにした。以下のことは、地点によっては焼土や炭化物を多量に含む層を間に挟んで細かく分層できること、また遺物は比較的良好に出土していること、さらに遺構は配列に規則性があまりない柱穴程度の大きさの土坑が確認されるだけであったことである。以後、遺構の確認・精査・実測・写真撮影および包含

層の掘り下げが同時に行なわれ、南区については6月いっぱいではぼ終了した。

調査は、当初の予定では6月半ばまでであった。しかし、包含層はあまりに厚く、また遺物も大量に出土し、多い日には30×40×30cmのコンテナで9箱も出土する有様であった。そのため、調査期間がずるずると延び、予算内で終了しそうもなくなったので、調査期間延長について、7月8日に委託者、県文化課、当センターの調査課長および担当者との三者協議が行なわれ、8月一週までは必ず終了させるということになった。当初雨の日は遺物洗いをしてしたが、この日から雨の日も野外作業を行なうことになった。この年は例年になく雨の多い7月で、調査終了までほとんど毎日雨中の作業であり、さらに、周囲の田圃の方が調査区より標高が高いため水が調査区内に集まり、毎日の作業はまず水を交いだすことから始まる有様であった。土も粘着質で、水を含むとどろどろになり、逆に日が当たるとがちがちに堅くなるので、作業も思うように進まなかった。このような状況のため、遺構の検出・精査もままならず、調査も粗かったと言わざるをえない。特に、柱穴状の土坑については、調査時に気付かず室内に溜って断面図から起こしたものも多い。大いに反省する次第である。

8月9日午前中まで作業を行ない、同日午後器材を搬出して調査は終了した。また、これより先、8月7日に約250箱の遺物の搬出を済ませていた。

(2)特記事項

・グリッドについて

グリッドは平面直角座標(第X系)に合わせ、調査区にうまくかかるように10×10mのメッシュをかけて、南北方向には1、2、3のアラビア数字、東西方向にはA、B、Cのアルファベットを付し、1A、2Aと呼称した(第6図参照)。その際基点となった2C、2Eの西北端(基点1、基点2)の平面直角座標値は次のとおりである。基点1(X=-109,535、Y=26,650)、基点2(X=-109,535、Y=26,670)。さらに、1A、2Aの大グリッドを25等分した小グリッドに西北からa、b、cを付して、1Aa、1Ab等の基本グリッドを設定した(第8図、第9図参照)。

・遺構の検出・精査について

捨て場以外での遺構の検出・精査については従来行なわれているやり方と変わりはない。

捨て場の精査については平面よりも断面重視の方針で行なった。これは現代考古学の方針に反しているが、次の理由で、あえて行なった。近年行なわれている捨て場の精査の方法としては、宮城県でしばしば行なわれているような、層を面的に剥いでいく方法と、全国的に行なわれている、一部層序観察用ベルトを残して、遺物を残しながら面的に下げ、その出土状態を断面などに記録していく方法の二つがある。前者の方法が捨て場の精査方法としては最良と思わ

れるが、それには相当の技術と観察眼を必要とし、少ない調査員が多く作業員を使って限られた時間の中で調査するという行政調査ではなかなか難しい。後者の方法も、記録を綿密にとっていけばそれなりの成果は得られるが、そうなるとやはり多くの時間を必要とする。そこで、ベルトを多く残し、面的に下げる部分も10cm単位に行なって遺物をベルト中の層に出来るだけ戻せるように努め、最後に残ったベルトは、図面にその堆積状態を記して、層的に掘り下げるという断面重視の方法を採ったのである。遺物の取り上げは2×2mの小グリッドを最小単位と考えたので、ベルトはこのグリッドに沿って設定した(第8図、第9図参照)。当初は調査が進むにつれベルトを減らすことも考えたが、前述したように包含層が厚く(1m~1.5m)、遺物も層的に良好な状態で出土しているようであり、遺構も調査の終了近くになるまで柱穴程度の土坑が確認されるだけであったので、調査の遅れも気になったが最後まで残すことにした。

捨て場中の遺構の検出は、ベルトを残したため、グリッドに沿った3×1.5mの幾つものトレンチを同時に10cmごとに下げて(写真図版5参照)、その面で遺構を確認し、また10cm下げるというやりかたをとった。これは、前述した、遺物を層的にあげたいという目的と遺構は平面で確認しなければならないという調査基準を同時に満たすために採った苦肉の策である。しかし、ベルトを土捨てのための一輪車の通る道を兼ねさせたために幅が厚くなってしまい(0.5~1m)、さらに調査員の数が少なかったので目が届かず、その結果ベルト中での層の変化や柱穴状の土坑を確認できない場合もあった。そのためか、野外調査で思っていたほど遺物は層的に出土していない(第V章参照)。また、第3号住居跡を平面で検出できなかったのは、ベルトを多く残すという断面重視の方針が原因の可能性もある(広がり、つながりが見えにくい)。捨てていた大きな石も、全て残していれば配石遺構と認められた可能性もある(遺構と認定しなかった理由は第IV章参照)。

・遺構の実測について

土坑の大部分、墓塚、配石遺構については、いわゆる簡易遣り方で、壁穴住居跡、土坑の一部は平板で実測した。平板で実測したのは、調査の終盤、糸を張る時間がなくなったためである。

・遺物の取り上げについて

捨て場出土の遺物については、上記の調査方法のため、ベルト中の遺物については層ごとに、その他のものについては表土から~cmというようにあげている。ただし、北区の捨て場は表土を重機で削いているので重機で削いだ面から~cm(重機から~cmというように略した)とした。また、層から出土した遺物についても、その層が厚い場合には~層(上面)から~cmという取り上げ方をしたものがある。

2. 室内整理と報告書の作成

初めに作業経過について述べ、次に報告書を読む際特に心に留めておいていただきたい点について述べる。

(1)作業経過

整理作業は平成3年11月1日から平成5年3月31日まで行なわれた。

遺構写真の整理・点検は調査員1名が平成3年12月から翌年1月までに行い、図面の整理は平成3年11月と平成4年11月に行い、そのトレースを作業員2名が平成4年11月～12月に行なった。

現場で洗いきれなかった遺物が約150箱ぶんあり、その水洗を作業員平均5名で平成3年11月1日から平成4年4月1日まで行なった。この間に土製品の実測を作業員1名が並行して行った。平成4年4月1日から8月10日まで作業員平均4名と調査員1名が遺物の分類、接合・復元、注記を行なった。その後同じ作業員が10月31日まで破片土器の拓本およびその断面実測を行ない、そのトレースおよび拓影の合成を12月いっぱいまで行なった。また、この間別の作業員平均6名が遺物の実測およびトレースを行ない、随時調査員が点検した(11月上旬まで)。遺物の写真撮影は、当センターの岩淵希士氏が6月下旬から9月上旬まで行なった。

平成4年11月から翌年1月31日まで、遺構図版、同写真図版、遺物図版、同写真図版、遺物観察表の作成が行なわれた。その後、調査員が原稿執筆、割り付けを3月31日まで行なった。

(2)特記事項

・遺構図面の点検・修正・遺構図版作成について

雨でも野外作業を行なったためあって、遺構図面の点検を現場で十分に行なえず、平面図と断面図が合わない等多数の問題があった。写真などによって修正可能なものは良いが、できないものもある。これについては強引につじつまを合わせるのが常であるが、作業量の割に得るものは少ないと思われ、それよりも正直に報告した方が、報告書という性格上望ましいのではないかと考えた。そのため、本報告書では、修正不可能な図についてはそのままトレースして図版に載せることにした。

・遺物の報告書掲載基準について

予算と期間が限られていることから遺物に次のような優先順位を付けた。①土製品・石製品→基本的に出土したものは全て掲載する(焼粘度塊など、表および文章記載で済ましたものも一部ある)。②遺構出土の遺物→小さくてよくわからない土器片等を除き、出来るだけ多く載せる。③層で採りあげた土器→5×5cm以上の土器は全部載せたい。④②、③以外の土器→資料

価値の高いと思われる土器を時間のある限り実測、採拓して載せる。⑤②以外の石器→期間を区切って（作業員1名で4月～8月）、それまでに実測できたものだけ載せる。

実際に作業を行ってみた結果、③と④にはかなりの不満が残った。③については、粗製土器のうち完形のものも少し、破片についてはほとんど載せられなかった。④についてはほとんど載せられなかったと言っても過言ではない。不掲載土器（復元していない）は30×40×30cmのコンテナで180箱に及ぶ。また、一部この方針が徹底していないところがある。

・遺物の分類、接合、注記について

水洗後、遺物の種類によって土器、土製品、石器・石製品に分類した。その後、土器については遺構出土のもの、層で取り上げたもの、その他に分け、石器については遺構出土のものどそれ以外に分類し、さらに石器については器種ごとに分けた。土製品・石製品については、全点掲載するという方針のため、実測後種類によって分類した。

接合は、期間が限られているため、土器については、遺構出土のものど層で取り上げたものについてだけ行ない、土製品については気付いたものだけ、その他の遺物については一切行っていない。

注記は、土器については報告書に掲載するものだけ行なった。その他の遺物については1点1点別の小袋にしまい、原則として注記はしていない。

・報告書について

〔遺構図版について〕

前述の理由のため、平面図と断面図が合わない図がある。

〔遺構出土遺物の掲載・記載位置について〕

遺構のほとんどは捨て場から発見され、その帰属がはっきりしないことなどから、明らかに遺構に伴うと思われる遺物以外は第V章に掲載している。第V章に掲載したものでも詳しい記載は第V章で行なった。

〔遺物の記載の仕方、掲載順序について〕

遺物の記載は基本的に表で行い、表の項目に当てはまらないことで記載する必要のあることは本文中に記し、そのページを表の「本文記載」という欄に記した。その他の細かいことについては、第V章 遺物を参照していただきたい。

〔遺物図版、写真図版について〕

図版の番号はそのまま写真図版の番号に対応し、基本的に写真図版は図版と同じ順序で並べられている。ただし、土器については第V章参照。

IV. 遺 構

調査で検出した遺構は、竪穴住居跡3棟、墓墳1基、配石遺構3基、土坑69基、後期の捨て場、晩期の捨て場である。時期は、竪穴住居跡は縄文時代後期～晩期、墓墳、配石遺構は縄文時代晩期中葉、土坑は不明なものが多いが、そのほとんどは縄文時代後期～晩期に属すると思われる。なお、「遺物包含層」ではなく「捨て場」という言葉を使ったことには理由がある。本遺跡の遺物包含層は、後期のものでは、検出した範囲だけでも500㎡を超える大規模なものであり、包含層中には明らかに捨てたと思われる焼土ブロックなどが認められ、また土器、土製品、石器、石製品など大量の遺物を包含しており、他の時期のものはほとんど混じっていない。晩期の包含層はずっと規模が小さいが、やはり、大量の遺物が含まれており、他の時期の遺物はほとんど混じっていない。こうした状況から自然現象によって堆積した土壌に遺物が包含しているというニュアンスを持つ「遺物包含層」より「捨て場」という言葉を使った方がより適切だと思われるのである。

以下、遺構の種類ごとに述べていく。なお、第三章でも述べたが、遺構はほとんどが捨て場中から検出されたために、その出土遺物がどちらに帰属するか不明なものが多い（遺構の覆土から発見されたと言っても、周囲の包含層が崩れて埋まった可能性が高い）、明らかに遺構に帰属すると思われるもの以外は全て第V章に掲載した。また本章に掲載したものでも、詳しい記載、実測図は第V章に掲載していることを付言しておく。

1. 竪穴住居跡

北区の県道側から3棟検出した。1棟は後期の捨て場直上で、2棟は捨て場中で確認した。竪穴住居跡が検出され始めたのは調査終盤の7月になってからのことであり、第三章でも述べたように7月はほとんどが雨の中での作業で、遺構が検出しづらく平面で確認することは全くできなかった。ただし、これは、今まで住居跡が全く検出されなかったので調査員が安心していたことによる部分も大きいと思われる（特に第3号住居跡）。大いに反省する次第である。

第1号住居跡（第10図）

〔位置・検出状況〕2D t ほか。後期の捨て場直上に位置する。住宅の残存物を重機で除去した面から10 cm以内で石囲炉を確認して住居跡と認定し、床面を這った。

〔覆土・堆積状況〕上のような検出状況のため不明。

〔平面形・規模〕壁を確認できず、床面も攪乱を大きく受けているため、不明。

〔壁・床面〕壁は不明。床は貼床である。床面標高は約42.8 mである。

〔炉跡、柱穴、周溝、付属施設など〕 炉は石囲炉、柱穴は3つ確認した。周溝や他の付属施設については確認できなかった。

〔出土遺物〕 住居に帰属するかどうか不明であるが、柱穴から縄文後期中葉土器（第42図1～10）、石鏃（第238図1～3）、その他に、石匙（第244図128）、掘器・削器等その他（第245図138）、土偶（第211図44）、焼粘度塊（第13表338）が出土している。

〔時期〕 柱穴から縄文後期中葉の土器が出土しているが、住居直下の捨て場からも後期中葉の土器が出土しているので、ここでは縄文時代後期中葉以降と広くとらえておく。

第2号住居跡（第11図）

〔位置・検出状況〕 2Dwでベルト掘り下げ中に確認。後期の土器捨て場中に位置する。貼り床らしきロームブロックの広がり（ただし第31図の断面図を見る限りあまり広がらないようである）の上に柱穴らしき土坑を検出したので住居跡と認定したが、住居跡ではない可能性もある。平面では全く確認できなかった。

〔覆土・堆積状況〕 2Dwの捨て場断面図（第31図）の4a1a2層が貼床にあたり、層の性質から考えて4a1層が覆土になる可能性がある。

〔平面形・規模〕 壁を確認できず、床も一部しか確認できなかったので不明であるが、上記の4a1層が覆土とすれば、非常に規模が小さく径2m以下ということになる。

〔壁・床面〕 壁は不明。床は貼床である。

〔炉跡、柱穴、周溝、付属施設など〕 柱穴を一つ確認したのみである。断面の記録は残っていない。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 捨て場の4a1層と4a1a2層の両方から縄文時代後期前葉の土器が出土しているので、この時期に位置付けられる可能性がある。

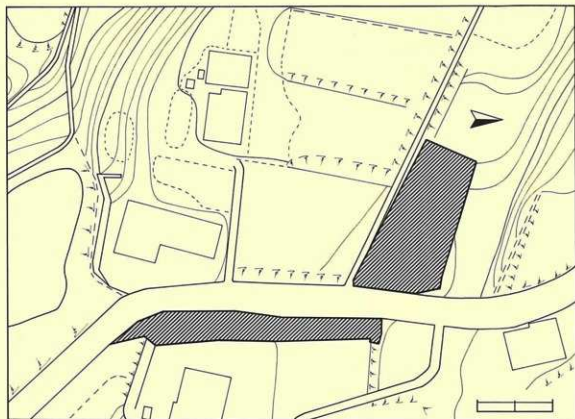
第3号住居跡（第11図）

〔位置・検出状況〕 2Dnoで、調査終了間際（他のベルトはほとんど除去した後）ベルト掘り下げ中に確認。床らしきロームブロックの広がりの上に柱穴らしき土坑を検出したので住居跡と認定した。平面では確認できなかった。第1号住居跡の下、後期の捨て場を掘り込んで建てられていると思われる。

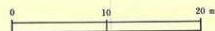
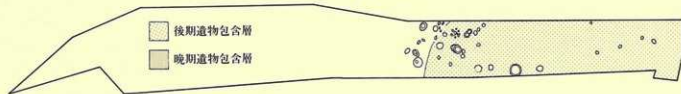
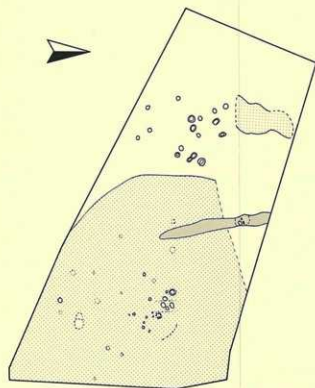
〔覆土・堆積状況〕 床面確認範囲の標高から推定すると、2Dm、n、o、r、s、t、2Ek、pの捨て場断面図の破線部（第30図、第31図）が床面と推定される。よって破線部より上が覆土と思われる。

〔平面形・規模〕 捨て場断面図（第30図、第31図）から推定する。西側は壁の立ち上がりが推定されるが、東側は、2Ekの東側断面ではまだ住居の床が続いており、それより東側は攪乱

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---



調査区周辺の地形 (■ 調査範囲)



A
B
C
D
E
F
G

第6図 遺構全体図

を受けていたため断面図を取っていないので不明。北側は、2 D m nの北側断面図ではまだ続いており、それより北側は攪乱を受けているので不明。南側は、2 D t、2 E pの北側断面図では全面に床面が見られるが、南側断面図にはもう見られない。以上から導き出したのが、第11図の住居プラン推定線である。これから判断すると、この住居は隅丸方形で、4.5×4.5程度の規模を持つものと推定される。

〔壁・床面〕2 D m n北面（第30図）に見られる壁ははっきりと立ち上がり外反して壁らしいが、その他はだらだらと立ち上がっている。床は貼床。床面標高は約42.5mである。

〔炉跡、柱穴、周溝、付属施設など〕炉跡は確認できなかった。包含層を下げている時にもそれらしいものは確認できなかった。柱穴は2つ検出した。

〔出土遺物〕住居に明らかに帰属する遺物は確認できなかった。覆土出土の遺物については、2 D m、n、o、r、s、t、2 E k、pの破線部（第30図、第31図）上の出土遺物参照。

〔時期〕住居より下の層からは後期中葉の土器が、覆土？からは後葉の瘤付土器が出土しているので、後期中葉ととらえておく。

2. 墓塚（第12図）

北区の晩期の捨て場から1基検出した。

〔位置と検出状況〕1 C eの晩期捨て場中で、合わせ口の鉢形土器が出土。周囲を精査したが掘り込み面は確認できず。鍬ち割ってみてもはっきりしなかったが、周囲に大きな石があり、人骨かどうかかわからないが骨片が出土し、何よりも合わせ口土器から、墓塚と認定した。

〔覆土と堆積状況〕周囲の晩期包含層の土とほとんど変わらず、不明。

〔規模と平面形〕不明。

〔深さと断面形〕不明。

〔付属施設など〕確認できなかった。

〔出土遺物〕墓塚に明らかに属する遺物には前述の鉢形土器がある（第12図＝第42図14、15）。

〔時期〕出土遺物から後期中葉と思われる。

3. 配石遺構

調査南区の捨て場の端6 F付近で3基検出。当遺跡の配石遺構については当初遺構と認定することに躊躇していた。それは、捨て場からは1m前後の大きな石がしばしば出土し、近所の方からこの辺りでは地山中からしばしば巨大な花崗岩が出るという話を聞き、また調査南区南端付近で実際に地山から1m前後の花崗岩が出土するのを目のあたりにし、さらに石の並び方などに人間の手がかえられているとは考えにくかったためである。しかし、その後各地の配石

遺構を見るうちに本遺跡のものも配石遺構と考えると良いと思うようになった。以上の経過のため、さらには検出されたのが6月で調査も予定より大幅に遅れていたため遺構とするのに迷うようなものにあまり時間が避けない状況だったので、精査が粗く配石の立面図も取っていない。また、捨て場中の石も配石だった可能性もある。捨て場中のものはこれら3基よりバラバラに出土し、その並びに人間の意志が関わっているとはとても思えなかったので遺構と認定しようとも思わなかったが。

第1号配石 (第12図)

〔位置・検出状況〕6 F cで表土直下、地山直上で検出。土坑群の中に位置する。Ⅱ層がほとんどないところだったので当初遺構と認定することに躊躇した。

〔平面形・方向・規模〕長楕円形?で、長軸方向は北西-南東。長軸1.5 m、短軸0.8 m。

〔配石の構成〕「山石」を疎に並べている。

〔石の性質〕特に変わった様子は認められない。石質は鑑定していない。

〔下部構造・付属施設など〕なし。

〔出土遺物〕第12図の鉢形土器 (=第42図16) がおそらくこの遺構に伴うと思われる。その他、第42図17、18の土器、第251図216の磨石が周囲から出土している。土器はいずれも晩期中葉のものである。

〔時期〕出土遺物から晩期中葉と思われる。

第2号配石 (第13図)

〔位置・検出状況〕5 F wの表土直下、地山直上で検出。第1号配石の北北東1 mのところに位置し、すぐ近くに57号土坑、第3号配石がある。第1号配石と同様の理由で遺構と認定することに躊躇した。

〔平面形・方向・規模〕不定形である。

〔配石の構成〕疎に並べている。

〔石の性質〕特に変わった様子は認められない。石質は鑑定していない。

〔下部構造・付属施設など〕なし。

〔出土遺物〕明らかに伴うと思われる遺物は出土していない。

〔時期〕不明だが、晩期中葉の可能性がある。

第3号配石 (第13図)

〔位置・検出状況〕5 F xの表土直下、地山直上で検出。第2号配石のすぐ東に位置する。第1号配石と同様の理由で遺構と認定することに躊躇した。

〔平面形・方向・規模〕不定形である。

〔配石の構成〕疎に並べている。

〔石の性質〕特に変わった様子は認められない。石質は鑑定していない。

〔下部構造・付属施設など〕第56号土坑が配石下にある（第22図参照）。

〔出土遺物〕明らかに伴うと思われる遺物は出土していない。

〔時期〕不明だが、晩期中葉の可能性がある。

4. 土坑（ピット）（第15図～第23図、第3表）

個々の記載については第3表に示したので、ここでは概要のみ述べる。なお、断面を実測した際に掘り足らなかった場合は掘り上がり後の断面図も図に掲げている。

北区で39、南区で30、計69基検出した。調査区の中で幾つか集中する地点があり、北区では、捨て場外の2B～2C、捨て場内の2D～3D、南区では5F～6Fにかけてである。規模は、25、45、56号ピットを除いて、何れも径が1mを越えない柱穴程度の小さなものである。63、64、67、68号ピットには断面に柱根状の痕跡が見られる。これらのことから当遺跡の土坑の大部分は柱穴の可能性が高い。ただし、調査中にも注意してみたが、少なくとも調査区域内で並んで建物を構成する（柱穴列、掘立柱建物跡）とは思われなかった。なお、56号ピットは第3号配石下にある、このことから墓墳の可能性もある。さらに、45号ピットは、平面形、規模、覆土とも他とは異質であり、他の土坑とは性格が違う可能性が高い。

5. 捨て場

大きく分けて後期の捨て場と晩期の捨て場がある。

後期の捨て場（第6図～第9図、第24図～第41図）

〔概要〕

北東に下る地形沿いに沿って形成され（第6図参照）、北側の調査区（以下、北区と呼ぶ）では東半分に、南側の調査区では北半分に確認された。同一の捨て場と考えられる（ただし、別々に調査したので、同じ層名（例えば1層）が使われていても同一層ではない）。規模は、検出された範囲で525㎡ほどの大規模なもので、層厚は、厚い所で1mをやや越え、平均して0.6～0.7mほどである。なお、調査区の残りの部分に見られないのは削平によって消滅したためと思われる。それは、捨て場以外の部分の表土の下がすぐ地山になっており（第8図、第24図北区南北ベルト1参照）、北区では少し離れた1B区の凹地内にも検出されたことからわかる（第7図）。

〔形成過程〕

土層の堆積状態から考えると、基本的に（地山の）標高の高いほうから低いほうへ、すなわち谷に向かってだんだんと捨てられていって形成され、北区では南西から北東に向かって、南区では南から北へ向かって形成されたと思われる。すなわち、それぞれの地点の最上層を比較

すれば、北区の南西寄りと南区の南寄りの方が古いということである。

〔包含層の様子〕

包含層は、間に焼土、炭化物、ロームブロック等を多量に含む層を挟む地点では貝塚並みに非常に細かく分層できる。そうでないところは1mほどの厚さがあっても上から下まで一様に見えほとんど分層できない。また、焼土等の含有物以外は、どの層も土色、土質ともほとんど変わらないので、地点を離れると、同一層の広がりなのか、別の層なのか全く識別できなかった。層間の対比は綿密に行ない、同一層と思われるものはできるだけ同じ名称を使うように努めたが、迷った場合には類似の名称を使った（例えば、4層に似ているので4a層等である）。逆に、同じ層と思っていたものが別の層で、そのため別の地点では層序が逆転してしまっている可能性もある。これらのことから、層の面的な広がりを復元することはあきらめ、また捨て場の形成過程を段階別に復元する（貝塚等で行なわれているような、同一時期に捨てられたと考えられるまとまりを大別層として設定する）ことはあきらめざるをえなかった。したがって、出土遺物の掲載も出土地区（グリッド）ごとに行なわざるをえなかった。

〔遺物の出土状態〕

混入は少なく比較的良好な状態で出土しており、廃棄単位がとらえられる箇所もあった。3Ew廃棄ブロック（写真図版4）は、そのひとつである。また、礫石錘が3Dmnで集中して出土した（第14図）。さらに、石器製作時の刮片が集中して出土する地点が幾つかあり、その多くは廃棄された焼土とともに出土している。その一例を第14図に示した。全体としては一般的な捨て場の出土状況であり、多くは破片で出土しているが完形土器の出土も何点か見られる（写真図版6参照）。

〔時期〕

出土遺物を見ると（第V章参照）、中期後葉、晩期の土器もわずかに見られるが、ほとんどは後期の遺物である。中でも前葉～中葉の遺物が大部分を占め、初頭は少なく、末葉はほとんどない。したがってほとんどは後期初頭～後葉の時期に形成されたものと考えられる。

晩期の捨て場（第6図、第8図、第24図、第28図のB1～B3層）

北区1C～2Dの雨裂を埋めるような形で形成。当初この雨裂は遺構側かと思っていたが、立ち上がりははっきりせず、斜面の傾斜に沿って形成され、上の方に向かってだんだん浅くなり、最後は自然になくなってしまいうので雨裂と判断した。墓墳もこの雨裂中に形成されている。斜面の上の方では周囲に後期捨て場がある。検出された範囲で12㎡ほどの小規模な捨て場である。3層に細分されたが（B1～B3層）、出土土器を見ると、基本的に大洞C₂式の時期に納まるようである。

第3表 土坑（ピット）一覧表

名称	位置	平面形	断面形	面積 (m) 長軸×短軸	深さ (m)	出土遺物	備考	図
1	1Bx	円形	バケツ形	0.49×0.46	0.43	土器 (15, 20) 石器 (130) 土製品 (339)		平面・断面
2	1By~1Cu	楕円形	楕形	0.53×0.30	0.10			"
3	1By~2Be	方形	"	0.73×0.63	0.11	土器 (21, 22) 石器 (140)		"
4	1Bx~2Bd			0.54×0.43	0.72	土器 (23, 24)		"
5	2Bb~m	円形		0.30×0.30	0.71			"
6	2Bc			0.42×0.32	0.27			"
7	2Cu	円形		0.31×0.29	0.38	石器 (4)		"
8	2Bt	方形		0.4×0.34	0.77			"
9	2Bf	方形		0.71×0.57	0.73	土器 (25, 26, 27)		"
10	2Be	方形	ビーカー形	0.49×0.40	0.00	土器 (28, 29, 30)		"
11	2Bf	円形		0.08×0.04	1.02	石器 (5, 81, 141, 198)		"
12	2Be~2Ca	楕円形		0.45×0.38	0.82	石器 (6, 142)		"
13	2Cb			0.83×0.83	0.5	土器 (31) 石器 (82, 143)		"
14	2Cf~g	方形	ビーカー形	0.53×0.5	0.65	土器 (32)	15号土坑を切る	"
15	2Cg	楕円形		0.75×0.5	0.43	土器 (33, 34) 石器 (7, 197)	14号土坑に切られる	"
16	2Cf	円形		0.49×0.46	0.47			"
17	2Cg~l			0.53×0.47	0.29	土器 (35)		"
18	2Co	不明			0.61	石器 (36) 土製品 (45, 46)		断面のみ
19	2Ck~l	"			0.58			"
20	2Du~3Da	"			0.40			"
21	3Dh	"			0.18			"
22	3Dm	"			0.34			"
23	3Ds	円形		0.39×0.36	0.71	石器 (8)		平面・断面
24	3Dt	不明			0.24			断面のみ
25	3Do~3Ee	"			0.83			"
26	3Di	不明			0.66			"
27	2Dx~3Dd	"			0.25			"
28	2Dr	"			0.5			"
29	2Dn			0.71×0.61	0.33	土器 (36, 37, 38) 石器 (144)		平面・断面
30	2Do	方形	楕形	0.62×0.47	0.06	土器 (39, 40) 石器 (145)		"
31	2Dn			0.45×0.41	0.13	土器 (41~45) 石器 (146, 147, 148)		"
32	2Da	円形		0.3×0.27	0.1	土器 (47)		"
33	2Dt	楕円形		0.19×0.16	0.19	土器 (48, 49)		"
34	"	"		0.22×0.17	0.22	土製品 (374)		"
35	2Ep	"		0.25×0.16	0.09			"
36	"	楕円形		0.31×0.26	0.28	土器 (50)		"
37	2Ev~3Eb	不明			0.41	石器 (9)		断面のみ
38	3Eh	"			0.45			"
39	3Eh	"			0.24			"
40	3Fx	楕円形		0.46×0.36	0.2	土器 (51, 52)		平面・断面
41	4Fd~l	"		0.37×0.3	0.16			"
42	3Fw	円形		0.35×0.32	0.11	石器 (10)		"
43	4Fa	"		0.34×0.31	0.15			"
44	3Fe	楕円形		0.50×0.51	0.22	土器 (53~60) 石器 (11, 107)		"

名称	位置	平面形	断面形	規模 (m) 長軸×短軸	深さ (m)	出土遺物	備考	図
45	S Fj	円形	楕形	1.21×1.16	0.1	土器 (81~73) 石器 (11, 149~152) 土製 品 (293, 343)		平面・断面
46	S Fo	"	"	0.47×(0.44)	0.06	石器 (13)		"
47	S Fi	円形?	"	0.71×(0.31)	0.47	土器 (74) 石器 (14)		"
48	S Fs	楕円形	"	0.26×0.27	0.21			"
49	S Fr	円形	"	0.25×0.23				平面のみ
50	"	"	ビーカー形	0.22×0.29	0.31			平面・断面
51	S Fr	"	"	0.44×0.43	0.26	土器 (75, 76) 石器 (15, 16, 17)		"
52	S Fr~w	楕円形	"	0.37×0.5	0.25	土器 (77, 78)	53号土坑に切られ る	"
53	S Fw	"	"	0.64×0.45	0.17	土器 (79) 石器 (18)	52号土坑を切る	"
54	S Fx	円形	ビーカー形	0.31×0.3	0.32			"
55	"	"	"	0.29×0.37	0.26			"
56	"	楕円形	"	1.17×0.86	0.3	土器 (80, 81, 82) 石器 (19~25, 158~ 156, 222, 252)	3号配石の下	"
57	S Fw	"	"	0.22×0.19	0.06	土器 (83) 石器 (197)		"
58	S Fy~S Fe	円形	"	0.2×0.29	0.43	石器 (217)		"
59	S Fd	"	"	0.29×0.28	0.1			"
60	"	"	"	0.7×0.69	0.26	土器 (84)		"
61	S Fe	"	"	0.24×0.22	0.13			"
62	"	"	"	0.49×0.47	0.57	土器 (85) 石器 (227)		"
63	S Fh	"	"	0.86×0.78	0.5	土器 (86, 87) 石器 (86)	柱礎あり?	"
64	S Fi	楕円形	"	0.22×0.26	0.23		"	"
65	"	円形	"	0.27×0.25	0.21		66号土坑に切られ る	"
66	"	"	"	0.29×0.28	0.18		65号土坑を切る	"
67	"	楕円形	"	0.81×0.56	0.58	石器 (26, 27, 28, 158) 土製品 (47, 48)	柱礎あり?	"
68	S Fj	円形	"	0.86×0.82	0.72	土器 (88~93) 石器 (181, 159, 198, 206, 223, 291)	"	"
69	S Fn	楕円形	"	0.57×0.42	0.34	石器 (243)		"

※ 規模の () は、調査範囲外に続いて正確な大きさがわからない場合で、数字は範囲内の値を示す。

第4表 層序一覧表(1) —北区— (表の見方はP36参照)

2C cd,h,i,m,n,r,s,wx
第26・27図

I
1(1)
2a(3)
1a(2)
2
3

2Ce
第28図

1
B1
B2
B3
1
2

2Cj
第38図

B2
B3
B3'
1
2

2(3に近い)

2Co
第38図

1
18号土坑
1b
4

2(3に近い)

2Ct
第28図

5
1b
2
3

2Deb
第28図

2Db2
B2
23
(1) 24
2Db1(2)
25
6
2

2-3

2Dfg
第29図

B2
B3
23
24
6
1b
4a2
4a5
4a5b
2
3

2Dkl
第29図

B3
6
19号土坑
1b(1)
1b'(2)
4a1
4a2
4a3
4a4
4a5
4a6
2

2Dpq
第29図

2Du1
6
1b
4a1'
4a1
4a2
4a3
4a4
4a5
2

2Duv
第30図

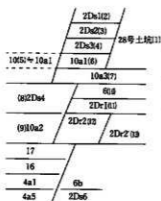
20号土坑
6(1)
8(2)
5b1(4)
(3) 5b2(5)
1b
(2)4a2
4a3
4a4
4a5
2

2Dmn
第30図

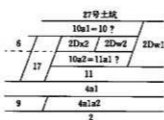
26a
29号土坑
2Du1
3De2
2De2'
2Dm1
2De2
2De3
2Dm1
2Dn5
2Dn2
10a1
10a3
6
1ba = 1b ?
4a5c
17
4a1
4a5
2
2'
3

第4表 つづき (表の見方はP36)

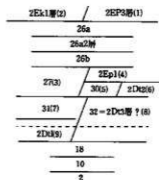
2Drs
第30図



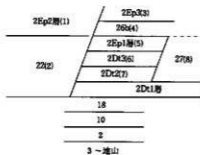
2Dwx
第31図



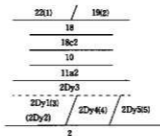
2Do-2Ek
第31図



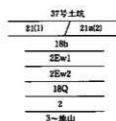
2Dt,2Ep
第32図



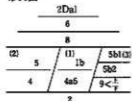
2Dy,2Eu
第32図



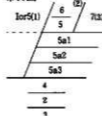
2Ewv
第32図



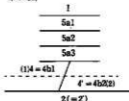
3Dab
第33図



3Dfg
第33図

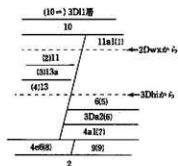


3Dkl
第33図

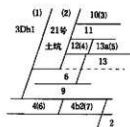


第4表 つづき (表の見方はP36)

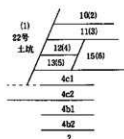
3Dcd
第34図



3Dhi
第34図



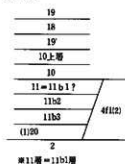
3Dmn
第34図



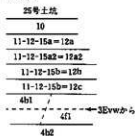
3Drs
第35図



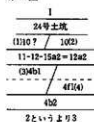
3De-j-3Ea-f
第35図



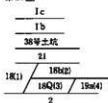
3Do-3Ek
第35図



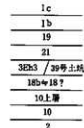
3Dty-3Ep-u
第36図



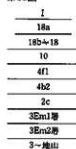
3Ebc
第37図



3Egh
第37図



3Emi
第38図



3Eqr
第38図

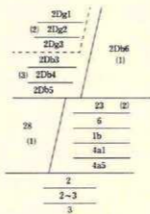


第4表 つづき (表の見方はP36)

3Evw, 4Ebc
第36図

1
10
4b1a
4b1
4g1
4f1
4b2
4b2

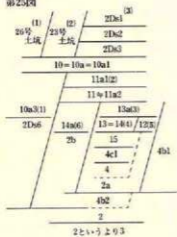
2Db.c, g.h.l.m.g.r.v.w
第24図



3Db.c.g.h.l.m.g.r
第24図

6
8
5b
9
5
7
5a1
5a2
5a3
4= 4b1
4b2
2

2Da.x
3Dd.i.n.s.x.
第25図



2Ce.j.a.t.x.3Cd
第24図

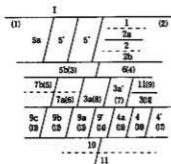
1
B1
B2
1
1a
2

2Ce.j.o.t
第24図

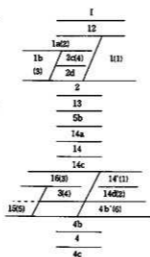
B1
B2
B3
1
1b(1)
4
1a(2)
2(3)
2
3

第5表 層序一覧表(2) - 南区 - (表の見方は36参照)

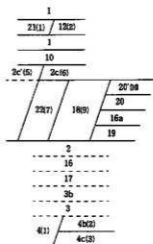
3F_{x,y}
第39図



4Fd, 4Fe
第39図



4Fj-j
第39図



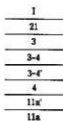
4Fo-4Fn
第40図



4Fs-t
第40図



4Fx-y
第40図



5Fc,d,e
第40図



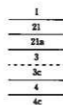
5Fh,i,j
第40図



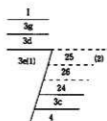
5Fn,m,o
第41図



5Fr,s,t
第41図



5Fx,y
第41図



第5表 つづき (表の見方は下半)

6Fc,d,e
第41図

1	
(1) 27	3d(2)
27a	
3d	
3e(3)	3e(4)

3Fy-4Fe-j-o-t-y
第25図

1	
12	
1	
2	
2c	
1-2 & 1a ?	
2c	
2d	
8	
3	
4=4c	

5Fa,j,o,t,y,6Fe
第25図

1	
21	21b
3	
4	

※(1)上から下に、上層から下層の順で並べてある。

(2)——は上下関係を表し、/は上下関係(新旧関係)が不明な事を表す(破線は新旧の可能性を示す)。

(3)()内の数字は新旧関係が不明な層の間で想定される順序(新→旧の順に1から番号をふってある)を表す。

第6表 北区捨て場土層観察表(1)-広がりを持つ層-

層名	種類	土色	性質	備考 (区分の過程・他層との関係)
B1	晩期包含層	黒 (10 YR 2/1) に黄褐色 (10 YR 7/8) の小砂利が粒状に入る。粘性なし。		
B2	晩期包含層	黒褐色 (10YR3/2)	B1層とよく似ているがB1層より色調が明るく1層に近い。	
B3	晩期包含層	褐灰色 (10YR4/1)	基本的な晩期包含層より黄褐色の小砂利が多い。	
B3a	晩期包含層	黒褐色 (10YR2/2)	B3層の上にある。B3層よりローム粒少なく色が茶色くて固い。黄色い砂利を含む。粘土の固まりあり。	B2層と同じか?
B4	晩期包含層	*	拳大以上の大きな礫を多く含む。	
1		褐灰色 (10YR4/1)		
1a		黒褐色 (10YR3/1)	1層に比べて炭化物が少ない。	この層の上に1層が入る可能性あり。
1b		黒褐色 (10YR2/3)		1層はこの層に含まれる。1b層の上の方で1層が識別できる時がある。
1b'		黒褐色 (10YR2/2)	多量の炭化物を含む。細かい炭粒が散る。締まり良	
1ba		黒褐色 (10YR3/1~3/2)	炭化物散る。	1b層と同じ? 2Dvwで、1b層が続いているのかどうか分からないので作った。
2		黒褐色 (7.5YR3/2)		
2'		暗褐色 (10YR3/3)	2層より固く締まり、色調が3層に近い。	
2a		灰黄褐色 (10YR4/2)	2層よりローム粒、レキを多く含む。	= 4a5層?
2b		褐灰色 (7.5YR4/1)		= 4a5層?
2c		暗褐色 (10YR3/3)	2層より色薄く、締まり良。	
3		褐色(7.5YR4/3)~明褐色(7.5YR5/6)。しまり非常に良し。		南区の4層に相当?
4		黒褐色 (10YR3/2)	1層と2層が混じった感じ。炭化物含む。	
4a1		黒色 (7.5YR2/1)	炭化物が散在。固く締まる。	1b層とよく似ている。
4a1'		黒褐色 (7.5YR2/2)	粘土が一面に凝じる。	
4a1a1	= 4a1層			
4a1a2		暗褐色 (10YR3/3)	多量のローム粒、炭化物を含む。	

層名	種類	土色	性質	備考 (区分の過程・他層との関係)
4a2		褐色(10YR4/4)に明黄褐色(10YR6/6)がかなり混入。締まる。		
4a3		黒褐色(10YR2/3)。上部に黒色(10YR1.7/1)を含む。		4a1層との区別難しい。
4a4		黒褐色(7.5YR3/2)	下部に多量の焼土混入。	
4a5		黒褐色(7.5YR3/2)	炭化物、焼土粒混入。	
4a5b		黒色(10YR3/1)	締まり良。5層とよく似ている。	4a5層の一部である可能性も高い。
4a5c		黒褐色(10YR3/4)	4a5層より炭化物の量が少なく、明るい。	4a5層と同じか、4a5層より新しい。2Dmnで、4a5層と他の層との関係が正確がわからなくなりそうだったので作った。
4a6		暗褐色(10YR3/3)	上部に炭化物。	= 4d6層?
4b1		明褐灰色(7.5YR7/1)	下部に土器が多く見られる。	4b1層と4b2層はどちらが4層にあたるか不明。一応4b1層=4層と考える。
4b1a		黒色(10YR2/1)	締まりやや悪い。	4b1層の上に出てきた。
4b2		褐灰色(7.5YR4/1)	土器片、大きなレキ多い。	4b1層参照。
4c1		黒褐色(10YR3/2)	ローム粒を多量に含み、炭化物、焼土粒も含む。	4c1層は5層と同じかもしれないが、ベルト内にて不明。3Dmnで、4c1層と4b1層がほとんど違くないがってしてしまう可能性があるので作った。
4c2		黒褐色(10YR3/1)	底面にまんべんなくロームブロック、粒が入る。その上は多量の炭化物。	
4c3		= 4b1層?		
4d6		黒褐色(10YR3/2)～黒色(10YR1.7/1)。炭化物(材)を多く含む。		= 4a6層?
4e6		黒褐色(10YR3/2)ににおい黄褐色(10YR7/3)。粘土?を多量に含む。		
4f1		黒褐色(10YR3/2)		= 4b1の可能性大。
4f1a		黒色(10YR2/1)	締まりやや悪い。	3Erの東西ベルトで4f1層の上に出てきた。
4f2		黒褐色(10YR3/2)	4f1層と上のビット?の層が混じった感じ。	ビットの覆土?
4g1		黒褐色(10YR3/2)	他と比べて締まり悪い。一部多量に焼土粒の入るところあり。	4b1層、4f1層との関係は不明。一応、古い→新しいの順で4f1→4g1→4b1としておく。
4h2		黒色(10YR2/1～1.7/1)	上の4b2層に比べて黒い。	4b1=4b2=2層と考える。
5		記録が残っていない。		
5'		黒褐色(10YR2/3)に黄褐色(10YR5/6)を含む。		5層の一部にやや似ているが、多くの土器、レキを含むところが違う。5層、6層より古く、4層より新しい。

層名	種類	土色	性質	備考 (区分の過程・他層との関係)
5a1		明黄褐色(10YR6/6)に褐色(10YR4/4)混じる。		
5a2		暗褐色(10YR3/3)に黒色(10YR1.7/1)が一部混入。		
5a3		黒褐色(10YR3/2)		
5b		暗褐色(10YR3/4)	一様に焼土混じる。上部に炭化物。焼けた石がかたまっている。かなり締まる。	
5b1		暗褐色(10YR3/4)にぶい黄褐色(10YR6/4)が混じる。締まっている。		4a2層にも似ているが、5層に近い。
5b2	焼土層	明赤褐色(5YR5/6)		
6		黒褐色(10YR3/2)	炭化物混入。1b層より赤茶色っぽく粘性が大きい。	1b層との違いは明確ではないが、1b層より新しい。
6b		暗褐色(10YR3/3)	縮降り状に炭化物、ローム粒、ロームブロック、焼土粒を含む。拳大～40cmのレンガを含む。	6層より茶色い気がする。11層に相当する可能性もあるが、11層より茶色い。
7		暗褐色(10YR3/3)	もろい。6層より色が薄く茶色っぽい。	6層と非常によく似ているが、6層より古い。
8		黒褐色(10YR3/2)	炭化物が散在。もろい。	1b層、4a1層、3層との区別は明確でない。6層より古く、5層より新しい。ただし、5層とセットで現われるので、5層の部分的変異と捉える事もできる。
8'		黒色(10YR2/1)	全体に炭化物を多量を含む。	
9		黒褐色(10YR2/3)	中央に炭化物混入。	基本的な色調は4a5層によく似ている。3Dab付近の南北ベルトで、4a5層が新しくなるため無選り作った層。1b層にもよく似ている。5層より古く、4層より新しい。上部と下部に分けられるところがある。
10上層		暗褐色(10YR3/3)～黒褐色(10YR3/1)。基本的な10層よりロームブロック、炭化物を多く含む。		3Efで、土器が並んだために確認された。10層との境は不明。10下層=10層?
10		黒褐色(10YR2/3)		6層との関係不明。6層より新しいと思う。4b2層との区別難しい。4b2層より新しいと思われる。
10?		黒褐色(10YR2/2)	炭化物、焼土粒、ローム粒少ない。	
10a1		褐色(10YR4/4)		= 10層?
10a2		褐色(10YR4/4)	10a1層とほとんど同じだが、大きなロームブロックを含む。	= 11a1層?
10a3		ぶい黄褐色(10YR4/3)		2Drsで、2Da4層とのからみで、10a2層との時期差を想定せねばならないために作った。10a2層と同じ可能性高い。
11		黒褐色(10YR2/2)	炭化物を多量に含む、下部に焼土粒、ロームブロックを含むところがある。	
11a1		褐色土(10YR4/4)に明黄褐色土(10YR6/8)が多量に入る。多量のローム粒、ロームブロックを含む。締まり良。		おそらく10層中のロームブロックにあたると思われるが、層的に分かれ、それが11層的に似ているために作った。
11a2		暗褐色(10YR3/3)	多量のロームブロックを含む。締まり良。	おそらく11層にあたると思われるが、後区を挟んでいるので不明。11a2層=9層の可能性が3Dedで出てしまったので作った。

層名	種類	土色	性質	備考 (区分の過程・他層との関係)
11b1			にがい黄褐色(10YR4/3)、明黄褐色(10YR6/8)。多量のロームブロックを含む。	
11b2		灰黄褐色(10YR4/2)	ローム粒、ロームブロック、炭化物を含む。	11b層の中で分けられるところがあったので作った。 11b1層=11a1層にあたるか。
11b3		黒褐色(10YR3/2)	ローム粒、ロームブロック、炭化物は11b2層より少ない。やや軟らかい。	
11-12-15a =12a			褐色(10YR4/4)～明黄褐色(10YR6/8)。多量のロームブロックを含む。	=11層? 11-12-15a層と11-12-15b層と11-12-15c層は、南北ベルト反対側の3Dmnで認められた層(11層、12層、15層)のどれに対応するか不明なので作った。一応aが11層、bが12層、cが15層に対応すると考える。
11-12-15a2 =12a2		黒色(10YR2/1)	多量の炭化物を含む。	=11-12-15a層?
11-12-15b =12b			にがい黄褐色(10YR4/3)～明黄褐色(10YR6/8)。多量のロームブロックを含む。	11-12-15a層参照。
11-12-15c =12c		黒褐色(10YR3/1)	多量の灰?、炭化物を含む。	11-12-15a層参照。
12		黒褐色(10YR2/2)	11層と同様に炭化物を多量に含むが、11層に比べて焼土粒、ロームブロックを多く含む。	12層と13層は同じ層の地点差の可能性あり。 12層=13層?
13		灰黄褐色(10YR4/2)	炭化物、焼土粒、20cm以上のレキを含む。	
13a			黒褐色(10YR3/2)を基調に黒色(10YR1.7/1)が混じる。掃まり良。多量の炭化物、焼土粒を含む。	南北ベルト3Dmn、3Dhlで、13層と14層がメビウスの輪になるために作った。
14		暗褐色(10YR3/3)	焼土粒、ローム粒、ロームブロックを多量に含む。	
14a		褐灰色(10YR4/1)	上面に多量のローム粒、ロームブロック、炭化物を含む。掃まり良。	14層がビットあるいは攪乱によって変化したものか。
15		黒褐色(10YR3/1)	11層、12層よりは少ないが、多量の炭化物を含む。	=13層の可能性はある。
16		黒褐色(10YR3/2)～黒色(10YR1.7/1)	炭化物、焼土粒、ローム粒を多量に含む。	4a1層に似ている。4a1層より新しいと思われる。
17		灰黄褐色(10YR4/2)、明黄褐色(10YR6/8)	ローム粒を多量に含む。	貼り床か?
18		褐色(10YR4/4)	多量のロームブロックを含む。	19層の上。 19層との違いは、3Ea、2Ea付近ではあまりしているが、それ以外では不明。
18a		黒褐色(10YR3/2)～褐色(10YR4/6)		18層と19層の中間的な層。
18b		黒褐色(10YR3/2)、褐色(10YR4/4)、黄褐色(10YR5/8)	地点によってロームブロックの含まれ方が違うので、色が違う。焼土粒はほとんど含まない。	3Eghで、18層の下が19層っぽく見え、逆転しようになったので作った。18層によく似ているが、地点が離れ、18層よりロームブロックが少なく色が濃い。ただし18層と同じ可能性もある。19層より新しい?
18C2			にがい黄褐色(10YR5/4)～黄褐色(10YR5/6)。多量のロームブロックを主として上面に含む。	2Dyで18層と分かれた。18層の下。
18Q		灰褐色(7.5YR4/2)、黒褐色(7.5YR3/2)	18b層より茶色い気がするが、境ははっきりしない。	18Q=18a層と19b層の中間的な層(Q=9)。3Ebcで18a層と19b層がメビウスの輪になってしまったので作った。18a層との違いはほとんどない。19b層との違いはある。
19		灰黄褐色(10YR4/2)	多量のローム粒、炭化物を含む。10上層より明るく、18層より暗い。	10層の上。 18層参照。 =21層か?
19'		灰黄褐色(10YR4/2)		

調査名	種類	土色	性質	備考 (区分の過程・地層との関係)
19 a		黒褐色 (10YR3/2)	18 Q 層に比べて灰色っぽい。底面にロームブロックが並ぶところがある。炭化物、骨片を多量に含む。	3 Egh と 3 Dej, 3 Eaf との層の種類のつながりがどうしても分からなかったで作った。
20		黒褐色 (10YR3/2)	大きなロームブロックを含む。	4 b 1 層、11-12-15 a 層に相当するかも。ただし、4 b 1 層にしてはロームブロックが多いし、11-12-15 a 層にしてはロームブロックが少ない。
21		黒褐色 (10YR3/1~3/2)	焼土粒、ローム粒が少ない。	19 層にそっくり。同じか。
21 a		黒褐色 (10YR2/2)		21 層と 18 b 層との中間的な層。
22		黒褐色 (10YR3/1~2/3)	多量の炭化物を含む。18 b 層などに似ている。底面にロームブロックが並ぶところがある。	2 Eo で出てきた。ロームブロックを採んでいるので、ここでは区別できるが、18 層とほとんど区別できない。18 層の上。
23		黒褐色 (10YR2/3)	6 層より炭化物が少ないせいか、色調が明るく茶色っぽい。	2 Dg 回りから北に出土。6 層の上。
23 b		黒褐色 (10YR2/3)	23 層とよく似ているが、23 層より暗い。6 層に非常によく似ている。	2 Dnn で、10 a 3 層と 6 層の関係が逆転するために作った。
24		黒褐色(10YR2/2)、部分的に褐色(10YR4/6)。		23 層より古い。
25		黒褐色 (10YR2/3)	炭化物、焼土粒がすごく少ない。	24 層より古い。2 西、24 層に似ている。
25'		黒褐色 (10YR3/2)	セクションベルトの B2 層、25 層の上に出てる。黄色い砂利？(ローム粒?)、砂利を多量に含む。再埋積? 残土? ビニールが出てくることも。	B2 層の上。
26 a		黒褐色 (10YR2/2)	多量の灰? を含む。炭化物、焼土粒は少ない。	住居跡の覆土?
26 a 2		灰黄褐色 (10YR4/2)	26 b 層に似ている。多量のローム粒、炭化物を含む。焼土粒等はほとんど含まない。	
26 b		黒褐色 (10YR3/1)	炭化物、ローム粒、焼土粒が多く散る。	住居跡の覆土?
27		黒褐色 (10YR3/2)		26 層に似ている。
28		黒褐色 (10YR2/3)	ほとんど何も混ざらない。25 層によく似ているが、25 層より淡茶色っぽい。北区斜面下に広がっていたのと同じ土か?	
29	欠番?			
30		暗褐色 (10YR3/2)	粘性大。炭化物、灰? を多量に含む。焼土粒、ローム粒はわずか。	
31		黒褐色 (10YR3/2)	2 D: 層よりロームブロックが少なく、色暗く、炭化物多い。	2 Dt 層の続き?
32		黒褐色 (10YR3/2)	炭化物多量に含む。ローム粒、焼土粒は少ない。骨片あり。2 D: 3 層に同じか?	2 Dt 3 層と同じか?

第7表 北区捨て場土層観察表(2)―一部にしか現われない層。ピットは除く―

層名	種類	土色	性質	備考 (区分の過程・他層との関係)
2 Da 1	攪乱?	黒褐色 (10YR3/2)	黒根、小砂利いっぱい。	
2 Db 3		黒褐色 (10YR2/3)	焼土粒、炭化物が散る。根にやられている。	23層に似ている。
2 Db 4		"	2 Db 3層よりやや暗い気がする。	23層、6層に似ている。
2 Db 5		黒褐色 (10YR2/2)		
2 Db 6		"		
2 Dg 1	攪乱?	黒色 (10YR2/1)		
2 Dg 2		黒褐色 (10YR2/2)	崩れやすい。	
2 Dg 3		"	粘性大。	
2 Dm 1		黒褐色 (10YR2/2)		
2 Dn 1		暗褐色 (10YR3/3)	炭化物、ローム粒多く散る。	
2 Dn 2	粘床	黄褐色 (10YR5/8)		
2 Da 5	攪乱?	黒褐色 (10YR2/2)	炭化物、焼土粒散る。	
2 Dr 1		明赤褐色(5YR5/8)と灰褐色(7.5YR4/2)の混土。砂?		
2 Dr 2		暗褐色 (7.5YR3/3)		10層によく似ているが、10層より濃い色。
2 Dr 2'		"		2 Dr 2層より暗く、6層によく似ている。
2 Dr 4		暗褐色 (10YR3/4)	ローム粒を多量に含み、焼土粒、炭化物を含む。	17層にやや似ている。
2 Ds 1	粘床か?	黄褐色 (10YR5/8)	ほぼローム単純層。やや焼土粒、炭化物含む。	
2 Ds 2		灰褐色 (10YR4/2)		
2 Ds 2'		褐色 (10YR4/4)		2 Ds 2層の続きか?
2 Ds 3	粘床?	明黄褐色(10YR6/6)に灰黄褐色(10YR4/2)混土。しまり良。炭化物、焼土粒をわずかに含む。		
2 Ds 4		にぶい黄褐色 (10YR6/3)	ロームの再堆積? 焼土粒、炭化物をわずかに含む。	
2 Ds 6	風倒木?	黒褐色(10YR2/2)と明黄褐色(10YR6/8)の混土。2層の土に地山の土が混じった感じ。		
2 Dt 1	粘床?			= 2 Ep 1層?
2 Dt 2	住居覆土?	黒褐色 (10YR3/2)	多量に炭化物が入って黒っぽい。焼土粒、ローム粒は少ない。	27層と同じか。
2 Dt 3		黒褐色 (10YR2/3)	多量の炭化物を含む。焼土粒、ローム粒は少ない。	2 Dt 2層に類似しているが、住居より古いと思われる。
2 Du 1		黒褐色 (10YR3/1)	しまり良し。炭化物、焼土粒入る。	隣の1b層によく似ている。
2 Dw 1		黒褐色 (10YR3/2)	やや赤っぽい。	たぶん10a層。
2 Dw 2		にぶい黄褐色 (10YR4/3)	炭化物、焼土粒を多量に含む。	10層よりやや暗く6層に似る。
2 Dx 2		黄褐色 (2.5Y5/3)	締まりよし。ロームの再堆積? 炭化物を含む。	
2 Dy 1	風倒木?	にぶい黄褐色(10YR6/4)～黄褐色(10YR5/8)。汚れたローム。		
2 Dy 4	風倒木?	褐灰色(10YR5/2)、靑面灰白色(7.5YR8/1)。非常に粘性大。		

層名	種類	土色	性質	備考 (区分の過程・他層との関係)
2Dy5	風倒木?		褐灰色(7.5YR4/1)と明黄褐色(10YR6/8)の混土層。粘性大。	
2Ek1	攪乱か?	灰黄褐色(10YR4/2)	炭化物、焼土粒、ローム粒少ない。	
2Ep1	貼床か?		明黄褐色(10YR6/8)に褐灰色(10YR4/1)が混じる。	
2Ep2		黒褐色(10YR2/2)	骨、炭化物、ローム粒をわずかに含む。	22層によく似ている。 攪乱か?
2Ep3		黒色(10YR2/1)	炭化物、ローム粒わずかに散る。根がいっぱい入っている。	攪乱か?
2Ew1		褐灰色(10YR4/1)	土よりも小砂利の方が多いくらい。	
2Ew2		黒褐色(10YR3/1)	炭化物、ローム粒やや多く、焼土粒少ない。	
3Da1		黒褐色(10YR3/2)	多量の炭化物が散る。所々小さな根が見える。	隣の4a5層に非常によく似ている。
3Dh1		にがい黄褐色(10YR4/3)	ロームブロック、小砂利を含む。	
3Eh3		暗褐色(10YR3/3)		
3Em1	風倒木?		明黄褐色(10YR6/8)に灰黄褐色(10YR4/2)が混じる。	
3Em2	風倒木?		灰黄褐色(10YR4/2)に明黄褐色(10YR6/8)が混じる。	

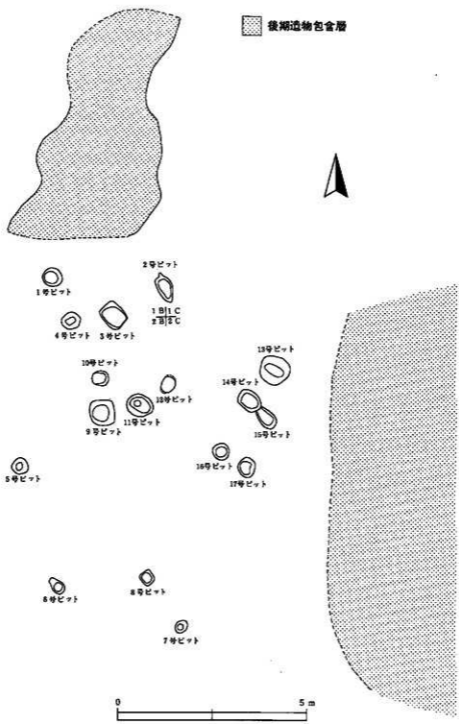
第8表 南区捨て場土層観察表

層名	種類	土色	性質	備考 (区分の過程・他層との関係)
1		黒褐色 (10YR3/1)	炭化物、灰を多量に含む。	根によって1層が混入している。
1a		黒褐色 (7.5YR3/1)	1層より炭化物が少なく、色調は2層とは とんど同じ。	
1b	1層中の炭化物が染まった感じ。			
1-2		黒褐色(10YR3/1)～暗褐色(10YR3/3)。1層中の薄 い部分の色調に似ている。1層よりローム粒を多く含んでい るせいか1層より黄色い感じ。他の含有物は1層に類似。		1a層に相当?
2		褐灰色(7.5YR4/1)～黒褐色(7.5YR3/1)多量の灰 を含む。		
2'	2層が根によって攪乱を受けたもの。			
2a		褐灰色 (7.5YR4/1)	2層よりやや淡い色。その他の性質は2層 と同じだが、混入物は2層より少ない。	
2b		におい黄褐 色 (10YR4/3)	2層よりローム粒を多く含む。その他の混 入物は2層よりずっと少ない。	
2c		黒褐色 (7.5YR3/1)	2層より暗い色調。2層よりさらに粘性少 ない。その他の性質は2層とはとんど同じ。	
2c'		黒褐色 (7.5YR3/2)	2c層とはとんど同じ。遊うところはロ ーム粒をやや多く含んでやや明るい色調であ ること。	
2d		黒色 (7.5YR2/1)	2層より灰暗い色調。	
3		黒褐色 (7.5YR3/1)	レキは少ない。	
3'	3層が根による攪乱を受けたもの。色調は3層に良く似ているが、締 まり弱く、粘性は3層よりやや強い。			
3a		黒褐色 (7.5YR3/1)	3層よりやや微土粒を多く含む。	
3a'	3a層が根によって攪乱を受けたもの。			
3b	基本的な色調は3層であるが、それ以外は16層に近い。16層との違 いは、16層より多くの微土粒を含むこと、粘性があること。			
3c		黒褐色(7.5YR3/1)～褐灰色(7.5YR4/1)。3層よ りやや明るい色調。締まり、粘性は3層と同じ。		
3d		黒褐色 (7.5YR3/1 ～3/2)	21層と3層の中間的な層。色調は21層よ り暗いが3層ほど暗くはない。3c層より 暗い。	おそらく3層として良いと思われる。
3d'		褐色 (7.5YR4/3)	3層よりローム粒を多く含んで明るい色調。	
3e		黒褐色 (7.5YR3/1)	典型的な3層の色の濃い部分にあたると思 われる。締まりは良いが3c層よりは悪い。	

層名	種類	土色	性質	備考 (区分の過程・他層との関係)
3f			褐色(7.5YR4/3)~にぶい黄褐色(7.5YR5/3)。3層~地山への落移層と思われる。締まりすこく良。2~10cm大のレキを含む。炭化物をわずかに含む。	3d層との境ははっきりせず、厳密には分けられない。
3g		灰褐色(7.5YR4/2)	色調、締まり、粘性は2f層に近い。塵による攪乱を大分受けており、2層と3c層が根による攪乱を受けて1層と混合したものか。	
3-4	3層と4層の中間的な層。			
3-4'	3-4層とほとんど同じ。風倒木によって押し下げられたものと混ざれる。			
4		黒褐色(7.5YR3/2)	色調は3層とあまり変わらないが、粘性が非常に大きい。レキは多量に含まれるが、土層はほとんどない。	
4'	4層が根による攪乱を受けたもの。			
4a			4層より締まりが悪く、レキを多く含む。	
4b		黒褐色(10YR3/1)	4層に比べて暗い色調。その他の性質は4層と同じ。	
4b'		黒褐色(10YR3/2)	4b層よりやや締まりが良く粘性が弱い。	
4c			黒褐色(10YR3/2)を基調に黄褐色(10YR5/8)が混じる。4層より地山に近い。粘性は4層より弱く、2~3cm程度の小石以外は何も含まない。	
4c'	4c層が根による攪乱を受けたもの。			
5a			褐灰色(7.5YR5/1~7.5YR4/1)。灰?を多量に含む。	
5b			褐灰色(7.5YR4/1)~黒褐色(7.5YR3/1)5a層よりやや濃い色調。5a層との違いは炭化物を含む点。	
5'	5a層が根によって非常に攪乱を受けたもの。			
5''	5a層が根によって攪乱を受けたもの。			
6		褐灰色(7.5YR5/1)	5a層に比べてはるかに多くの換土粒を含む。ローム粒も多量に含む。	
7a		黒褐色(7.5YR3/1)	色調は3層とほとんど同じだが、粘性は弱い。	
7b			7a層より多量の換土粒を含む。粘性もない。	
8		灰黄褐色(10YR4/2)	3層よりやや明るい色調。粘性も少ない。	
8'	8層が根による攪乱を受けたもの。			
9a		黒褐色(10YR2/2)	4層より色調が濃い。20cmほどのレキを含む。他の含有物は少ない。	
9b		黒褐色(10YR2/2)	9a層よりやや明るい色調。その他の性質は9a層とよく似ている。	

層名	種類	土色	性質	備考 (区分の過程・他層との関係)
9c		黒褐色 (7.5YR3/2)	4層と色調はほとんど同じ。ただし粘性は ずっと少ない。	
9f			9a層が根によって攪乱を受けたもの。粘性は9a層より強く、 11層と同じくらい。	
10		褐灰色 (7.5YR4/1)	水がわきだしてくる。2~3cmのレキをわ ずかには含むほかは何も含まない。粘性は最 大。	
11		におい黄褐色 (10YR7/4)	粘性は10層と同じ。地山が汚れた感じ。	
11a		黄褐色(10YR7/8)に おい黄褐色(10YR8/4)が混じる。締 まり良、粘性なし。地山に近い。		
11a'		黄褐色(10YR8/8~7/8)を基調に黒褐色(10YR1/3)が混 じる。全体としては11a層より明るい色調。風倒木によって地 山が持ちあげられたものと思われる。		
11f		黄褐色 (10YR7/8)	陥りすぎと思われる。	
12		灰黄褐色(10YR4/2)を基調にやや褐灰色(10YR4/1)が混 じる。1層との区別は不明瞭。2層が根によって攪乱を受けた もの。細かな焼土粒が散る。		
13		におい黄褐色(10YR4/3)を基調にやや褐灰色(10YR4/1)が 混じる。2層に比べて多量のローム粒を含み、2層よりやや多 くの焼土粒、炭化物を含む。		
14		褐灰色(7.5YR5/1)を基調に褐色(5YR6/8)が多量に混 じる。多量の細かい焼土粒を含む。細かい炭化物、骨片を含む。		
14f		褐灰色(10YR4/1)を基調に褐色(5YR6/8)が混じる。		
14a		褐灰色(7.5YR5/1)にわずかに褐色(5YR6/8)が混じる。14 層に比べて焼土粒が少ない。		
14b		褐色(5YR6/8)を基調に黒褐色(10YR3/2)が混じる。14層よ り焼土粒多い。		
14c		褐色(5YR6/8)を基調に黒褐色(10YR3/2)が混じる。14b層よ り焼土粒多い。		
14d		におい赤褐色 (5YR4/3)	焼土粒を含む。	
15		褐灰色 (10YR4/1)	多量の大きな礫を含む。小さな炭化物をわ ずかに含む。	
16		褐灰色 (10YR4/1)	締まり、粘性は3層と同じ。色調もかなり 似ている。ただし3層に比べると多量の炭 化物、焼土粒を含む。	
16a		褐灰色 (10YR4/1)	16層よりやや暗い色調。16層よりやや粘性 強く、やや締まり良し。16層と2c層の混 ざった感じ。焼土粒の入り方は16層と良く 似ている。16層より多くの炭化物を含む。	16層に似ているが、16層の変異では ない。2c層になっているか？
17		記録が残っていない。		
18		褐灰色(7.5YR4/1)と同程度にドット状に褐色(5YR 6/8)が入る。多量の焼土粒を含む(14層より多く14b 層より少ない)。骨片を含む。		
19		18層と良く似ているが、褐色(5YR6/8)の他、淡褐 色(5YR6/8)が入る。焼土の量は18層と同程度。		
19f		におい赤褐色 (5YR4/4)	19層からドット状の焼土粒を無くした感 じ。非常に細かい(1mm以下)焼土粒を 含む。	

層名	種類	土色	性質	備考 (区分の過程・他層との関係)
20	18層と同じ。			
20'	I層に焼土粒が混じった感じ。根による攪乱を受けたものか。			
21		黒褐色 (10YR3/2~3/1)	12層に良く似ているが色調がやや暗いところが違う。細かな焼土粒、ローム粒、小石を含む。場所によっては大きな礫も含む。	II (目) 層と呼んできたもの。土層が混みどころが多く、本層はかなり多くの層に分層できるはずだが、一概に見えて全く区別できない。
21 a		にぶい黄褐色 (10YR3/2)	典型的な21層よりローム粒を多く含んでいるため色調が明るく締まり良。粘性は21層と同じ。	
21 b		黒褐色 (10YR2/3)	周囲の21層に比べて締まりがやや悪い。3層との境にロームブロックがある。炭化物、灰を21層よりやや多めに含む。	
21-3		黒褐色 (7.5YR3/2)	色調は21層よりやや暗く、3層より茶色い。締まり、粘性は3層に良く似ていて、21層より粘性強い。	45号ピットの覆土(2層)。
22	18~19'層がいっしょになった感じ。			
23		黒褐色 (2.5YR3/1)	色調は青白っぽい印象を受ける。	45号ピットの覆土(1層)。
24		褐色 (7.5YR4/4)	色調以外は3c層と同じ。3c層が根による攪乱のためI層と混合したためにできたものか。	
25		灰褐色 (5YR4/2)	多量の焼土粒(非常に細かい)、焼けた石等を含む。	
26		暗赤褐色 (5YR3/2)	25層と3c層の中間的な感じ。締まり25層よりやや悪く、粘性は同じ。25層より少ないが多量の焼土粒を含む。	
27		にぶい黄褐色 (10YR6/3)	締まりすごく良。ロームブロック?	
27 a		27層に黄褐色(10YR8/6~7/8)のブロックが3f層との境に混じったもの。後の性質は27層と同じ。		



第7図 調査北区西半部遺構全体図

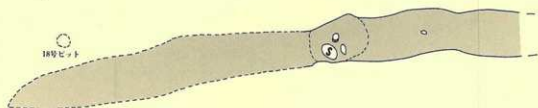
■ 晩期包含層

■ 住居床面確認範囲

3 C | 2 C

3 D | 2 D

20号ヒット



18号ヒット

19号ヒット

22号ヒット

23号ヒット

2号住

26号ヒット

27号ヒット

28号ヒット

29号ヒット

30号ヒット

25号ヒット

26号ヒット

24号ヒット

25号ヒット

31号ヒット

32号ヒット

33号ヒット

34号ヒット

35号ヒット

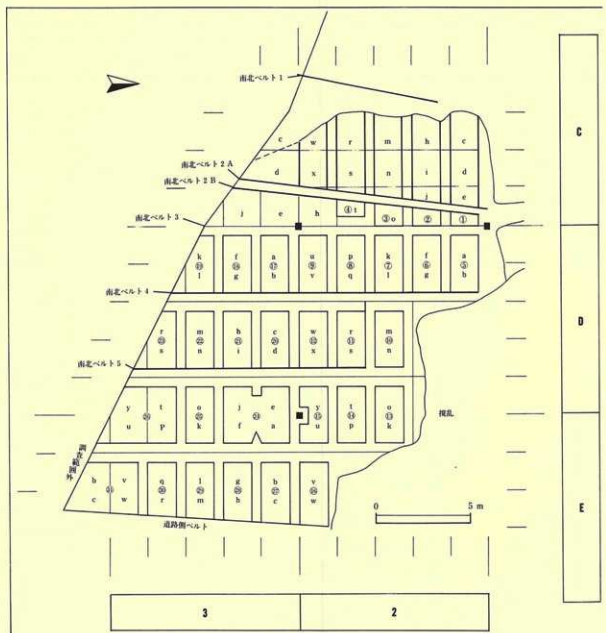
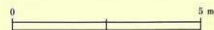
36号ヒット

37号ヒット

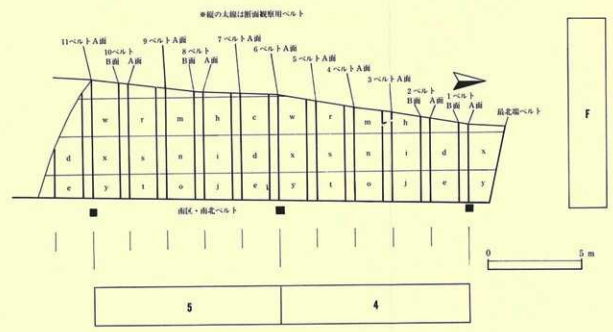
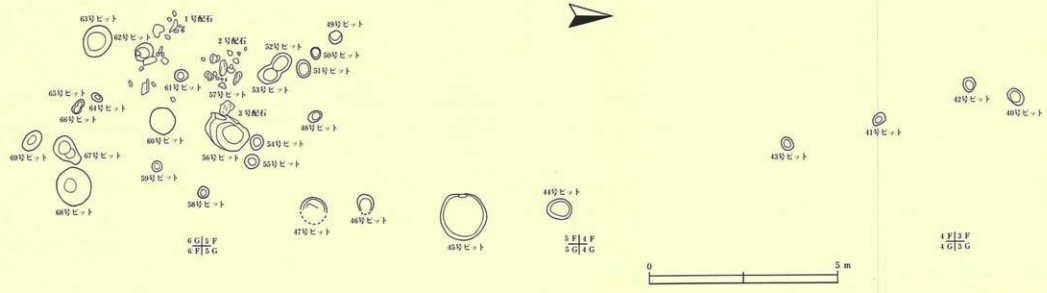
38号ヒット

37号ヒット

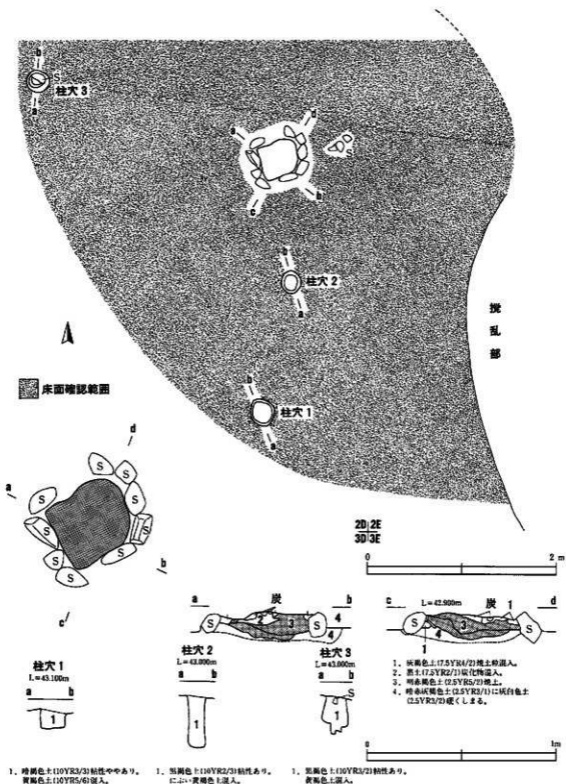
39号ヒット



第8図 調査北区東半部遺構全体図




第9図 調査南区遺構全体図



第10図 第1号住居跡 (S=1/6、炉・柱穴は1/6)

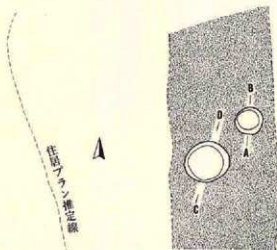
第2号住居跡



 床面確認範囲



第3号住居跡

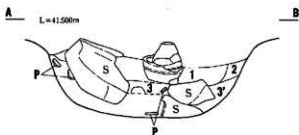
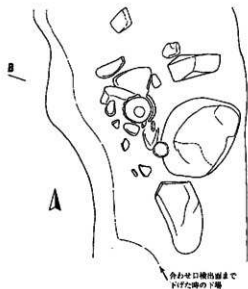


1. 当州色土(10YR5)炭化物粒まばらに混じる。骨片がわずかにある。

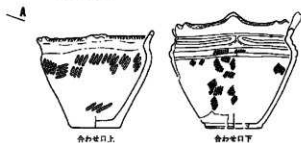


第11図 第2号、第3号住居跡 (S=1/4)

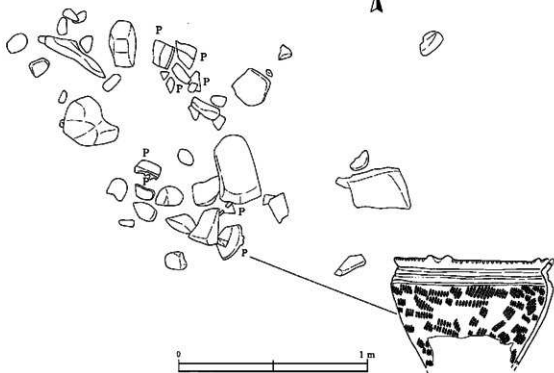
墓墳



1. 基本的な埋葬の墓土
2. 地山の再堆積
3. 灰黄層 (10YR4/2)
基本的な埋葬の墓土より明るい、こおし大の石多〜小石を含む
- 3'. 3と同じか?



第1号配石



第12図 墓墳・第1号配石 (S=1/8、土器はS=1/4)

2号配石

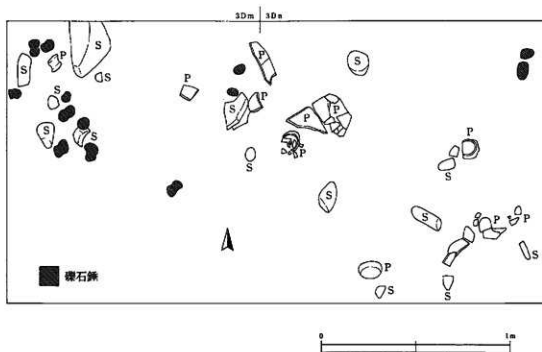


3号配石

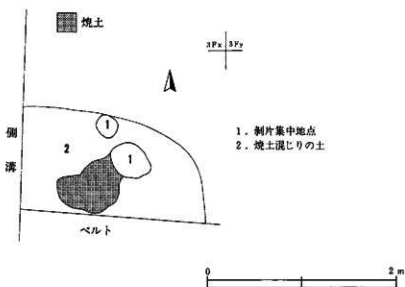


第13図 第2号・第3号配石 (S=1/2)

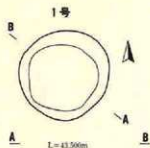
3Dmn 礫石錘出土状況



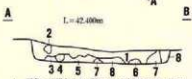
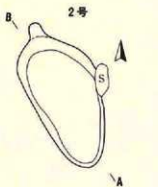
3Fx 石器製作時剥片出土状況



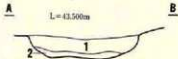
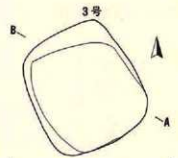
第14図 礫石錘出土状況 (S=1/6)、石器製作時剥片出土状況 (S=1/6)



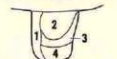
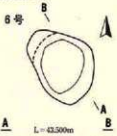
1. 黒褐色土(10YR3/2)炭化物、ローム粒微量、粘土ブロック含む。
2. 褐色土(10YR4/3)炭化物少量、浮石少量含む。1層より若干厚い。ローム粒多量に含む。
3. 暗褐色土(10YR3/4)炭化物少量。粘土ブロック層全体にあり。
4. 褐色土(10YR4/4-4/6)中央に粘土ブロック含む。
5. 暗褐色土(10YR3/4)粘性少しあり。炭化物微量。
6. 濃い黄褐色土(10YR1/3)炭化物(砂粒)ローム粒微量。粘土質。1-6層まですべて硬くしまっている。



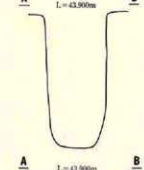
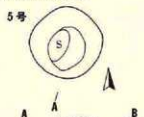
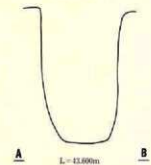
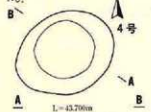
1. 褐色-暗褐色土(7.5YR4/4-2/4)サラサラする。粘性なし。
2. 暗褐色土(10YR3/3-3/4)サラサラする。粘性なし。
3. 黄褐色土(10YR5/8)粘性なし。炭化物微量。
4. 暗褐色土(10YR3/3-3/4)粘性なし。炭化物微量。
5. 暗褐色土(10YR3/4)炭化物少量。粘性なし。
6. 1層に似ている。
7. 褐色土(10YR4/6)
8. 褐色土(10YR4/4)粘性なし。



1. 褐色土(7.5YR4/3)炭化物少量。左側若干薄。ローム粒微量。粘性なし。硬。炭化物点状。
2. 暗褐色土(10YR3/4)粘性あり。1層より若干厚く見える。炭化物微量。粘。

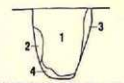
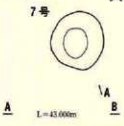


1. 褐色土(7.5YR4/4)炭化物微量。ローム粒微量。硬くしまり粘性強い。
2. 褐色土(7.5YR4/6)炭化物少量。ローム粒微量。径5cm大の粘土粒。
3. 褐色土-暗褐色土(7.5YR4/6)炭化物物微量。ローム粒微量。硬。
4. 濃い-褐色土(7.5YR3/3)粘(粘)粘性非常に強い。炭化物微量。



1. 暗褐色土(10YR3/4)粘性なし。炭化物微量。
2. 褐色土(10YR4/4)炭化物。ローム粒微量。径5cm大の浮石層の上面
3. 黄褐色土(10YR5/6)粘性弱い。炭化物微量。

0 50cm



1. 褐色土(7.5YR4/3-10YR4/6)ローム粒多く含む。粘性少しあり。炭化物微量。
2. 褐色-黄褐色土(10YR4/6-10YR5/8)粘土質(粘)粘性強い。
3. 褐色-黄褐色土(10YR1/6-10YR5/8)粘土質(粘)粘性強い。
4. 黄褐色土(10YR5/8)粘土質(粘)。

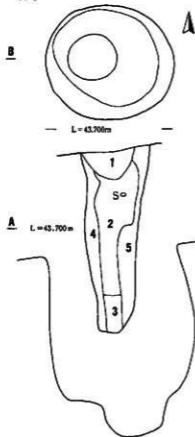
第15図 第1号~第7号土坑 (S=1/4)

8号



1. 褐色土(7.5YR4/4)ローム粒、炭化物微量。小石を多く含む。硬。
2. 明褐色土(7.5YR5/5)ローム粒、炭化物微量。サツサツする。硬。

11号



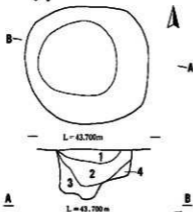
1. 暗褐色土(7.5YR3/4)炭化物微量。粘土粒散在。小石を多く含む。粘性なし。
 2. 暗褐色土(10YR3/4)炭化物。焼土粒。ローム粒散在。粘性なし。
 3. 褐色土(10YR4/6)粘土質(硬)。炭化物微量。粘り強い。
 4. 黄褐色土(10YR5/6)粘土質(硬)。4層より粘性弱い。
1. 暗褐色土(10YR3/4)硬くて粘性なし。炭化物微量。
 2. 褐色土(10YR4/6)炭化物微量。粘土質。軟い。浮石(径1cm未満)少量。
 3. 濃い黄褐色-褐色土(10YR4/3-4/4)非常に軟い。炭化物微量。ローム粒含む。
 4. 黄褐色(10YR5/5)粘土質。硬い。炭化物微量。
 5. 黄褐色(10YR5/6)粘土質。硬い。ローム粒含む。

1. 褐色土(10YR4/6)粘土質。粘性強い。
2. 褐色土(10YR4/4)ローム粒散在。粘土質。
3. 暗褐色土(10YR3/4)ローム粒散在。炭化物微量。粘土質。
4. 褐色土(10YR4/3)ローム粒散在。炭化物少量。焼土ブロック含む。粘性少しあり。
5. 褐色土(10YR4/4)粘性強い。炭化物少量。浮石(小)点在。ローム粒多く含む。
6. 褐色土(10YR4/6)粘土質。硬い。
7. 褐色-黄褐色土(10YR4/6)粘土質(硬い)。浮石(径2cm)

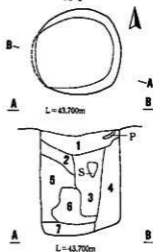
0 50cm

第16図 第8号~第12号土坑 (S=1/6)

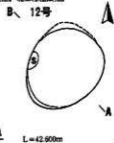
9号



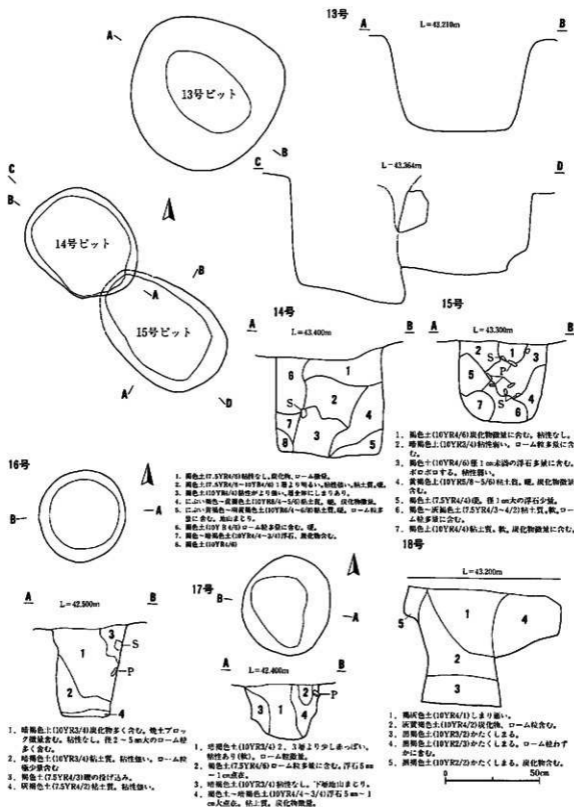
10号



1. 暗褐色土(10YR3/4)粘性なし。炭化物多量に含む。
2. 黄褐色土(10YR5/5)硬い。炭化物微量。
3. 褐色土(7.5YR4/4)。下層に焼土ブロック。炭化物含む。
4. 黄褐色土(10YR5/6)粘土質。硬い。ローム粒多量に含む。
5. 褐色-黄褐色土(10YR4/6-5/6)粘土質。硬い。
6. 黄褐色土(10YR5/6)粘土質。軟い。焼土ブロック含む。
7. 濃い黄褐色土(10YR5/4)粘土質。軟い。ローム粒散在。焼土粒散在。

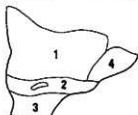


L=42.600m



第17図 第13号～第18号土坑 (S=1/6)

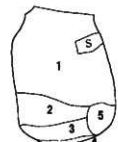
19号 L=42.900m



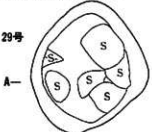
1. 黒褐色土(10YR2/3)しまり具、砂質あり、炭化物、骨をわずかに含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)しまり具、細かい炭化物粘土層を多く含む。骨を含む。
3. 土層とは全く同一。
4. 黒褐色土(10YR2/3)に黒褐色土(10YR2/3)が混じる。骨むもほぼ層と同一。



L=42.600m
L=43.300m

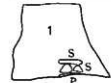


1. 黒褐色土(10YR2/3)しまり具。ローム状。炭化物、焼土粒を多く含む。
2. 黒褐色土(2.5YR2/3)しまり具。ローム状。炭化物、焼土粒を含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)むももの(2層)に同じだがより少ない。
4. 黒褐色土(10YR2/3)しまり具。骨を多量に含む。炭化物を含む。
5. 黒褐色土(10YR2/3)しまりや中悪い。



1. 黒褐色土(10YR2/3)をロウ。焼土粒混入。
2. 黒褐色土(10YR5/6)に黒褐色土(10YR2/3)混入。
3. 土に、黒褐色土(10YR4/3)に黒褐色土(4/4)混入。しまる。

20号 L=43.300m



1. 黒褐色土(10YR3/2)しまり具。炭化物、焼土粒を含む。隣の1層によく似ている。

25号

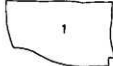
L=43.200m

21号 L=43.200m



1. 暗褐色土(10YR3/2)しまり具。

22号 L=43.300m



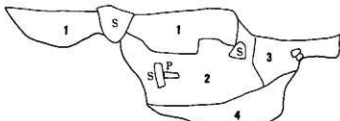
1. 黒褐色土(10YR3/2)しまり具。粘性なし。1cm以下の小石を含む。

24号

L=43.300m

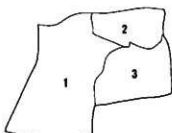


1. 黒褐色土(10YR3/2)しまりや中悪い。炭化物をわずかに含む。



1. 黒褐色土(10YR3/2)しまり具。多量の炭化物を含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2)しまり非常に良。炭化物、焼土粒が散る。
3. 灰黒褐色土(10YR4/2)しまり具。炭化物、焼土粒。ローム粒少ない。
4. 黒褐色土(10YR3/2)しまり具。

26号 L=43.300m



1. 黒褐色土(10YR3/2)しまり具。炭化物、焼土粒あり。20mm程度の硬を含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2)しまり具。非常に細かい炭化物、焼土粒を含む。
3. 黒褐色土(7.5YR3/2)しまりや中悪い。泥を多量に含む。炭化物、焼土粒、ローム粒を含む。

27号 L=43.200m



1. 黒褐色土(10YR2/3)しまり具。炭化物、焼土粒をわずかに含む。

28号 L=43.600m



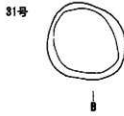
1. 暗褐色土(10YR2/3)6層。16x2層とはほとんど同じ。

30号

L=42.700m



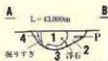
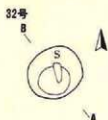
1. 黒褐色土(7.5YR2/2)に黒褐色土(10YR6/6)混じる。炭化物混入。



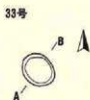
1. 黒褐色土(10YR2/3)に灰褐色土(2.5Y7/3)混入。焼土の部分に、土に、灰褐色土(10YR7/3)混じる。かたくなる。

第18図 第19号～第31号土坑 (S=1/2)
(29号の断面図は捨て場所面図から起こした)

0 50cm



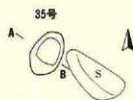
1. 黒褐色土(10YR3/2)粘性なし、炭化物微量。
2. 黒褐色土(10YR2/2)粘性なし、小石多し。1層より薄い。
3. 黒褐色土(10YR3/1)粘性なし、炭化物微量。
4. 黒褐色土(10YR2/2)粘性なし。



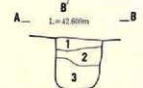
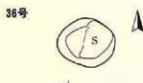
1. 灰褐色土(10YR4/3)に焼土粒を微量に含む。
2. 黒色土(10YR4/3)粘性あり。



1. 黒褐色土(10YR2/2)粘性ややあり。
2. 暗褐色土(10YR3/3)粘性あり。



1. 黒褐色土(10YR2/2)粘性なし、粘土又は鉄化合物の土か?



1. 黒褐色土(10YR3/2)に、2に黄褐色土(4/2)混入、よくしまる。焼土粒混入。
2. 黒褐色土(10YR2/2)に炭化物混入。粘性ややあり。
3. 灰褐色土(10YR4/3)粘性あり。



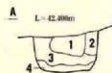
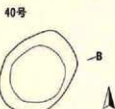
1. 黒色土(10YR2/1)しまり良。焼土粒炭化物はほとんど含まない。2層に似ている。



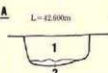
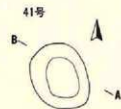
1. 黒褐色土(10YR3/1)しまり良。炭化物、骨、ローム粒をわずかに含む。



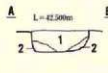
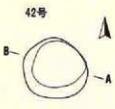
1. 黒褐色土(10YR3/2)しまり良。2層の層によって下に下げるためか、非常に細かい焼土粒、ローム粒を含む。炭化物を含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2)1層との違いは、含有物の粒が大きいこと。



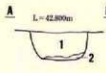
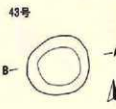
1. 黒褐色土(10YR2/2)粘性弱い、焼土粒、炭化物含む。
2. 暗褐色土と黒褐色土の混入。砂多し。ワゴロの土。粘りやろろの土。
3. 黒褐色土(10YR2/2)粘性あり。炭化物含む。
4. 黒褐色土(10YR2/1-3/1)粘性強い、しまりなし。



1. 黒褐色→暗褐色土(10YR2/2-3/0)を混入。炭化物多量含む。小石点。若干の粘性あり。焼土粒若干含む。かたしまりあり。
2. 黒褐色土(10YR2/2)1層より粘性強い。



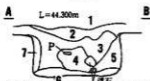
1. 暗褐色土(10YR3/3)層全体に焼土を多量に含む。パワパワする。焼土アロウ。炭化物含む。粘性なし。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ロームの再凝縮あるいは細り過ぎか?



1. 黒褐色土(10YR2/2-2/3)層にしまりあり。炭化物多量を含む。粘性なし。ローム粒少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)粘性強い。炭化物多量を含む。湿っぽい。

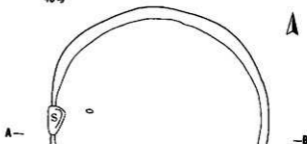
第19図 第32号～第43号土坑 (S=1/6)

44号



1. 黒褐色土(10YR2/2)しまりあり、炭化物含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)しまりなし。炭化物含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)ローム状含む。炭化物含む。
4. 黒褐色土(10YR2/2)炭化物を多量に含む。軟かい。
5. 黒褐色土(10YR2/2)炭化物含まない。ローム較多し。しまりない。4層より若干明るみを含む。
6. 黒褐色土(10YR2/2)地山まじり。ローム較多し。
7. 黒褐色土(10YR2/2)軟かい。炭化物を多量に含む。

45号



1. 黒褐色土(10YR2/2)粘性なし。炭化物多量。ローム粒微細。
 2. 黒褐色土(7.5YR3/2)1層より粘性少しあり。炭化物混入。
 3. 暗黄色土(7.5YR3/4)砂まじり。地山に近い。しまりあり。
 4. 暗褐色土(7.5YR3/3)ローム状を含む。砂混じり。地山に近い。
 5. 4層と同じ。
- 1・2層に砂・粒状の小石を含む。

46号



1. 暗褐色土(10YR2/2)粘性なし。炭化物含む。しまりあり。
2. 黒褐色土(10YR2/2)1層より粘りあり。炭化物多量に含む。
3. 暗褐色土(7.5YR3/2)バラバラする。炭化物多量。粘土を含む。
4. 暗褐色土(10YR2/4)ローム状含む。小石混じり。
5. 黒褐色土(10YR2/2)炭化物含む。ローム状含む。

48号 B



1. 黒褐色土(10YR2/2)炭化物微細。
2. 黒褐色土(7.5YR3/2)粘性なし。粘土質。砂まじり。
3. 黒褐色土(7.5YR3/2)粘土質。炭化物多量。砂まじり。2層よりは粘性弱い。

47号



49号

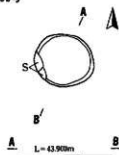


1. 黒褐色土(10YR2/2)粘土。
2. 黒褐色土(7.5YR2/2)粘性少しあり。1層より炭化物を多く含む。
3. 黒褐色土(7.5YR2/2)粘性あり。しまりあり。炭化物を多く含む。質褐色土粒少量含む。
4. 暗褐色土(7.5YR3/3)粘性強い。炭化物微細。
5. 暗褐色土(7.5YR3/3-4/3)粘土質。炭化物微細。しまりあり。砂混じり。地山に近い。

0 50cm

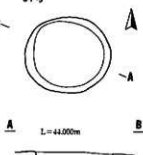
第20図 第44号～第49号土坑 (S = 1/6)

50号



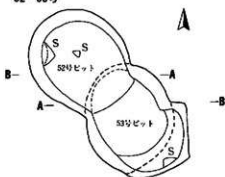
1. 黒褐色土(7.5YR2/2-2)炭化物を含む。ローム粒散見。粘性なし。しまりあり。
2. 黒褐色土(10YR2/2)軟かい。少し粘性あり。炭化物を含む。
3. 暗褐色土(7.5YR3/3)ローム粒を含む。下部に大きめの浮石を含む。砂粒。

51号

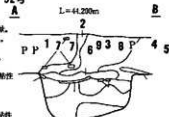


1. 黒褐色土(7.5YR2/2)粘性なし。炭化物散見。
2. 黒褐色土(7.5YR3/1)1層より少し粘性強い。
3. 灰褐色土(7.5YR4/2)粘性少しあり。
4. 黒褐色土(10YR2/2)炭化物多量に点する。
5. 黒褐色土(10YR2/2)
6. 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒散見。粘性あり。
7. 黒褐色土(10YR3/3)粘性かなり強い。ローム粒多量含む。黄土粒散見。
8. 暗褐色土(10YR3/4)砂降り。地山に近しい。粘性強い。軟かい。炭化物散見。

52・53号

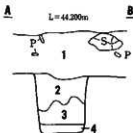
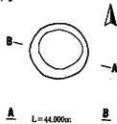


52号



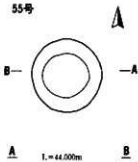
1. 黒褐色土(10YR2/2)炭化物散見。
2. 黒褐色土(10YR2/2)炭化物散見。
3. 暗褐色土(7.5YR3/4)炭化物。粘土粒含む。全体が赤みを帯びる。
4. 暗褐色土(7.5YR3/4)1-2層より粘性あり。炭化物多量を含む。
5. 褐色土(7.5YR4/6)硬土ブロック状。粘土質。
6. 暗褐色土(10YR3/4)硬土ブロック。3層の黒鉄屑。
7. 黒褐色土(7.5YR2/2)少し粘性あり。
8. 黒褐色土(7.5YR3/3)ローム粒散見。炭化物散見。
9. 暗褐色土(7.5YR3/4)砂降り。地山に近い。

54号

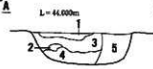


1. 黒褐色土(10YR2/2)
2. 暗褐色土(7.5YR3/3)
3. 黒褐色土(7.5YR2/2)
4. 暗褐色土(7.5YR3/4)褐色土(7.5YR4/3)粘土質。ロームブロックを含む。

55号



53号

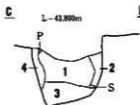
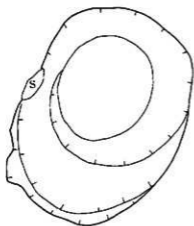
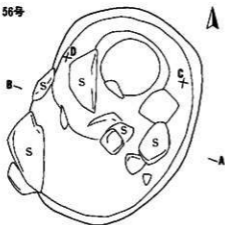


1. 黒褐色土(7.5YR2/2)小石まじり。炭化物を多量に含む。粘性なし。黒色土混じりあり。しまりあり。
2. 暗褐色土(7.5YR3/3)小石まじり。炭化物を多量に含む。粘性なし。しまりあり。
3. 黒褐色土(7.5YR2/2)小石混じり。炭化物を多量に含む。粘性なし。しまりあり。
4. 暗褐色土(7.5YR3/3)ローム粒多量に含む。しまりあり。
5. 張り過ぎ。

0 50cm

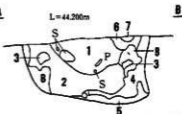
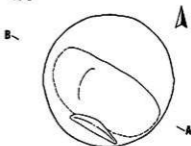
第21図 第50号～第55号土坑 (S=1/6)

56号



1. 灰褐色土(7.5YR4/2)しまりあり。粘性あり。5m程度の地土砂。炭化物、ローム粒をわずかに含む。微細な骨片を含む。
2. 灰褐色土(7.5YR4/1)しまり強い。粘性あり。ロームアブロックを最も多く含む。
3. 土褐色土(7.5YR3/2)しまり強い。水が通く。5m程度の炭化物を含む。粘性強い。並列にロームアブロックを含む。
4. 土褐色土(7.5YR3/1)しまり強い。微細なローム粒。炭化物、骨片を含む。粘性あり。

60号



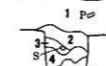
1. 土褐色土(7.5YR3/2)粘性なし。しまりあり。炭化物無し。
2. 黒褐色土(10YR2/3)1層より少し粘性あり。炭化物多量含む。ローム粒を含む。
3. 暗褐色～褐色土(10YR3/4-4/6)粘性の弱い粘土。
4. 黄～褐色土(7.5YR6/8-4/3)砂まじり。硬くしめる。
5. 暗褐色土(10YR2/3)炭化物多量を含む。粘性あり。
6. 暗褐色土(10YR3/4)粘性なし。しまりあり。
7. 褐色土(7.5YR4/4)粘性なし。しまりあり。
8. 暗褐色土(7.5YR3/4)しまりあり。

57号



1. 暗褐色土(7.5YR3/3)粘性なし。炭化物無し。
2. 褐色土(10YR4/6)粘土アブロック。

58号

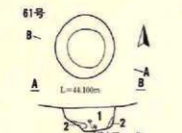


1. 黒褐色土(10YR2/3)粘性なし。小石・炭化物を含む。
2. 暗褐色土(7.5YR3/3)ローム粒を含む。地土粒を含む。炭化物無し。
3. 灰褐色土(7.5YR3/2)ローム粒を含む。炭化物無し。
4. 灰褐色土(7.5YR3/1-3/2)しまりあり。粘土質。
5. 褐色土(10YR4/6)しまりあり。強い粘土質。砂まじり。浮石を含む。

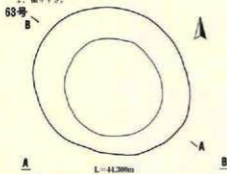
59号



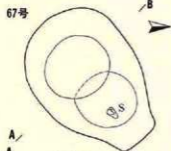
第22図 第56号～第60号土坑 (S=1/4)



1. 暗褐色土(10YR2/4)粘性あり、ローム粒、炭化物、地上アロップ含む。
2. 腐りすぎ。



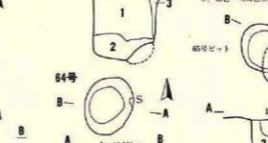
1. 暗褐色土(10YR2/3)しまり強い粘りなし、ローム粒、炭化物を含む。
2. 暗褐色土(10YR2/4)しまり強い粘りなし、ローム粒、炭化物を含む。
3. 暗褐色土(10YR2/3)しまり強い粘りなし、ローム粒、炭化物を含む。
4. 暗褐色土(10YR2/3)しまり強い粘りなし、ローム粒、炭化物を含む。



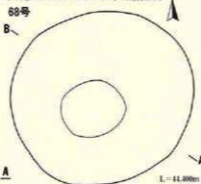
1. 黒褐色土(10YR2/3)しまりあり、炭化物少量。
2. 暗褐色土(10YR2/4)しまりあり。
3. 黄褐色土(10YR5/6)しまりあり、パリス含む。
4. 黄褐色土(10YR5/6)しまりあり。
5. 褐色～黄褐色土(10YR1/8-5/6)しまりあり、粘性強い、パリス含む。
6. 黒褐色土(7.5YR2/3)



1. 暗褐色土(7.5YR2/4)粘性なし、しまりあり、炭化物多量を含む。
2. 黒褐色土(7.5YR2/3)しまり強い、ローム粒含む、粘性少しあり。
3. 褐色～暗褐色土(7.5YR4/4-5/6)砂まじり。



1. 暗褐色土(10YR2/4)しまりあり、上層に炭化物多量を含む。
2. 褐色土(10YR4/4-4/6)しまりあり、上層に炭化物多量を含む。
3. 暗褐色土(10YR2/3)しまりあり。
4. 褐色土(10YR4/4)しまりあり、炭化物含む。

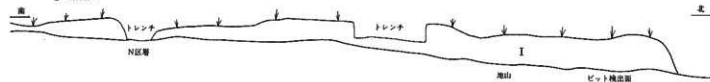


1. 暗褐色土(7.5YR2/4)しまり強い腐食土。
2. 暗褐色土(7.5YR2/4)粘性あり、しまりあり、粘アロップ含む。
3. 褐色土(7.5YR4/3)しまり強い、軟かい、ローム粒多量を含む、粘性かなり強い。
4. 暗褐色土(10YR2/4)ローム粒多量を含む、しまりあり、粘性あり、炭化物少量含む。
5. 黄褐色土～褐色土(7.5YR2/2-4/3)しまりあり、炭化物少量。ローム粒少量。
6. 黒褐色土(7.5YR2/2-3/2)炭化物多量を含む。
7. 暗土(10YR2/1)炭化物多量を含む、ローム粒多量を含む、軟かい、粘性あり。
8. 黄褐色～褐色土(10YR2/6-1/4)しまりあり、炭化物含む。
9. 黄褐色土(10YR2/6)炭化物含む。

第23回 第61号～第69号土坑 (S=1/6)

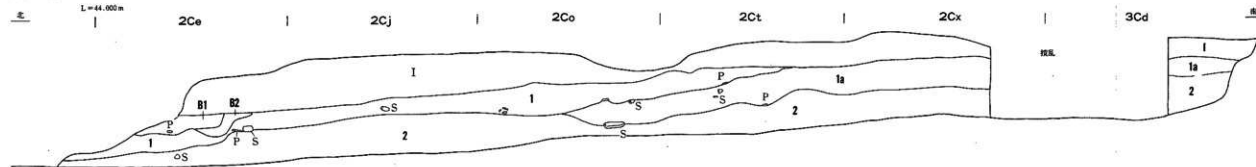
北区・南北ベルト1

L=44,000m



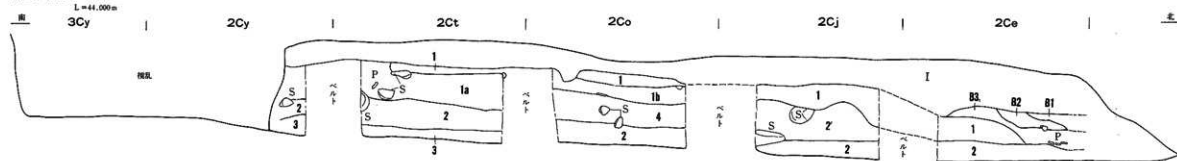
北区・南北ベルト2 A

L=44,000m



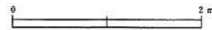
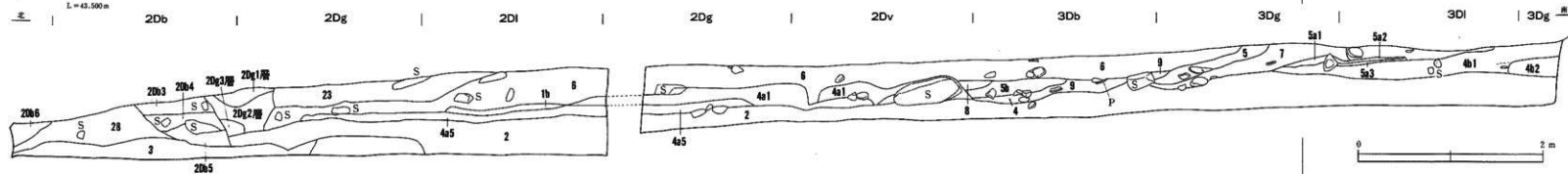
北区・南北ベルト2 B

L=44,000m



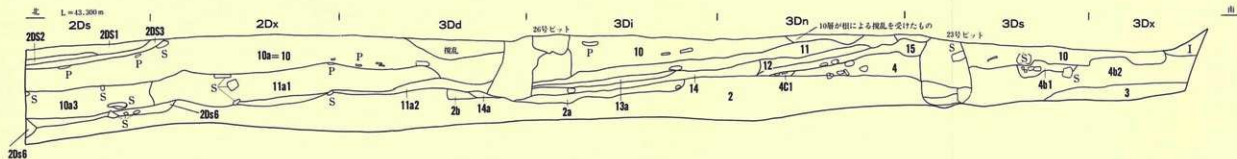
北区・南北ベルト4

L=43,500m

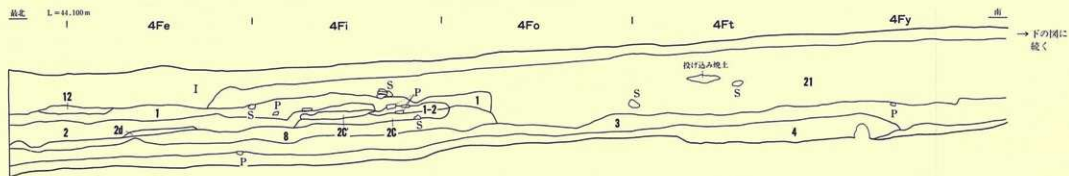


第24図 北区土器捨て場断面図(1) (S=1/4)

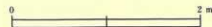
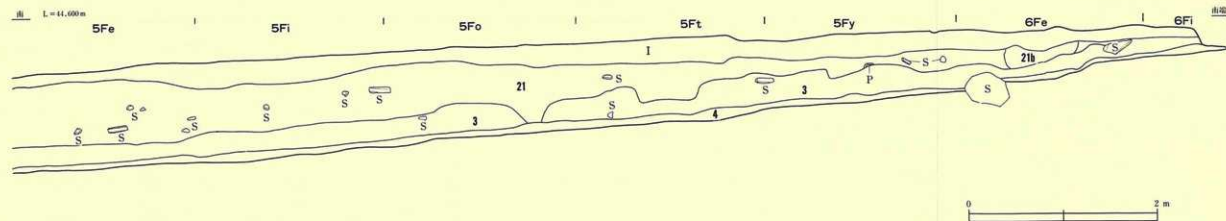
北区・南北ベルト 5



南区・南北ベルト(1)

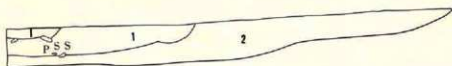


南区・南北ベルト(2)

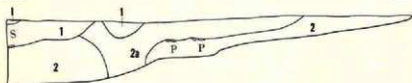


第25図 北区土器捨て場断面図(2) 南区土器捨て場断面図(1) (S=1/4)

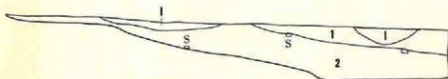
2Cde (L=43,500m)



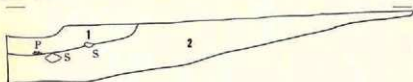
2Cih (L=43,500m)



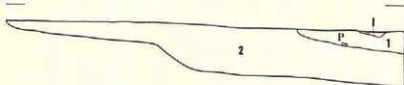
2Chi (L=43,500m)



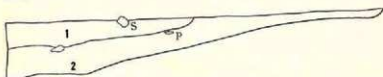
2Cmn (L=43,500m)



2Cnm (L=43,500m)

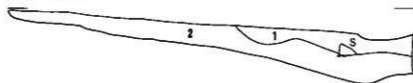


2Csr (L=43,700m)



第26図 北区土器捨て場断面図(3) (S=1/4)

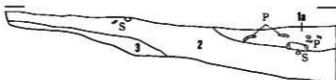
2Crs (L=43.700m)



2CwX (L=43.700m)

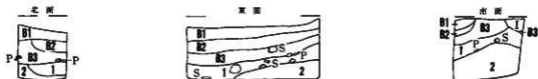


2CwX (L=43.700m)

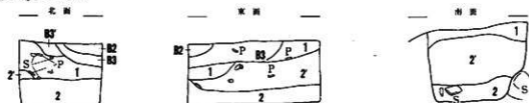


第27図 北区土器捨て場断面図(4) (S=1/4)

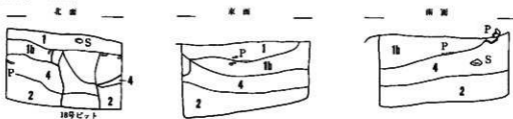
① 2Ce (L=43,100m)



② 2Cj (L=43,400m)

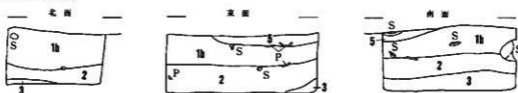


③ 2Co (L=43,500m)

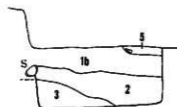


18号ピット

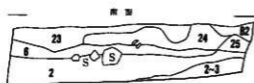
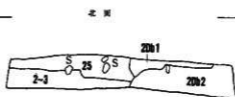
④ 2Ct (L=43,500m)



西面 (L=44,000m)

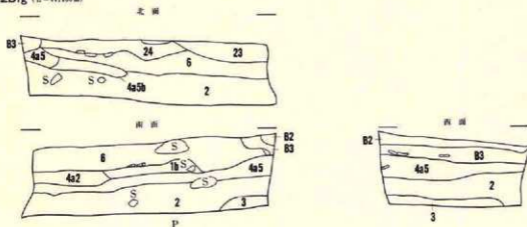


⑤ 2Dab (L=43,000m)

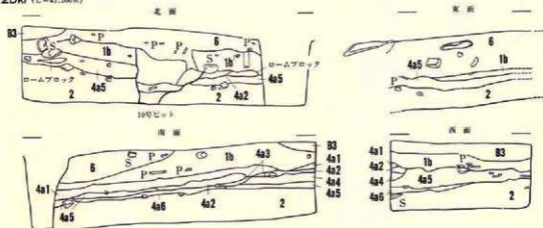


第28図 北区土器捨て場断面図(5) (S=1/4)

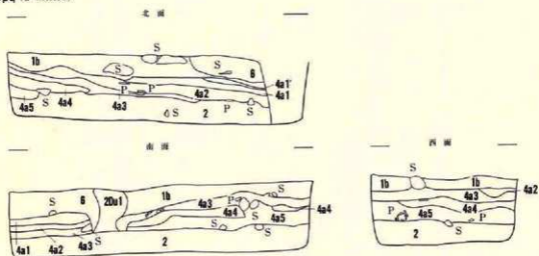
⑥ 2Dfg (L=41,100m)



⑦ 2Dkl (L=43,200m)



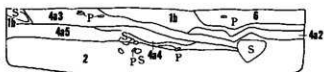
⑧ 2Dpq (L=43,300m)



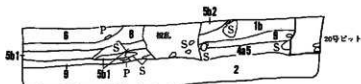
第29図 北区土器捨て場断面図(6) (S=1/4)

⑨ 2Duv (L=43,500m)

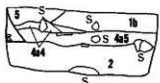
北面



南面

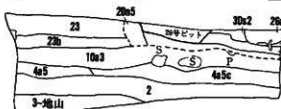


西面

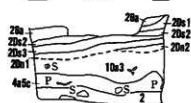


⑩ 2Dmn (L=43,100m)

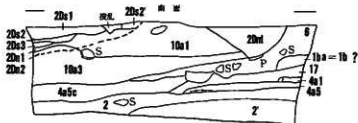
北面



東面



南面

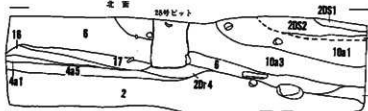


西面

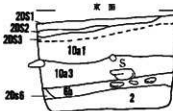


⑪ 2Drs (L=43,100m)

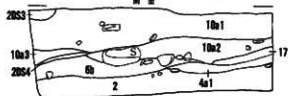
北面



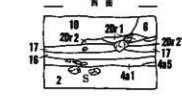
東面



南面

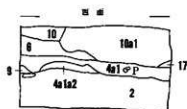
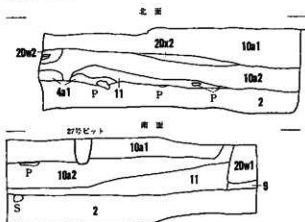


西面

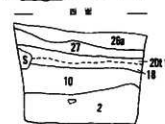
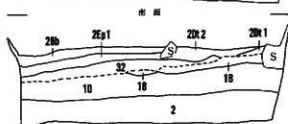
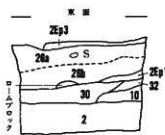
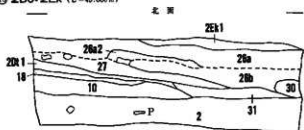


第30図 北区土器捨て場断面図(7) (S=1/4)

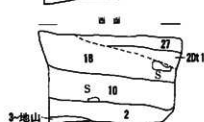
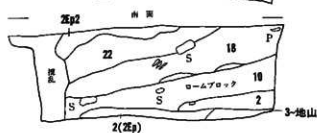
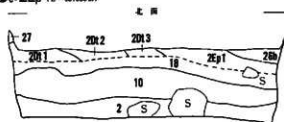
⑫ 2Dwx (L=43.300m)



⑬ 2Do・2EK (L=43.000m)

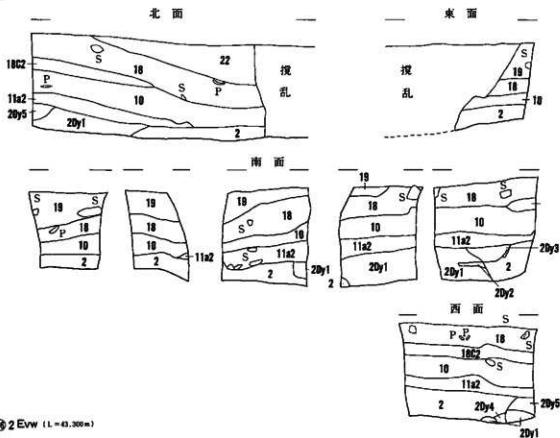


⑭ 2Dt・2Ep (L=43.000m)

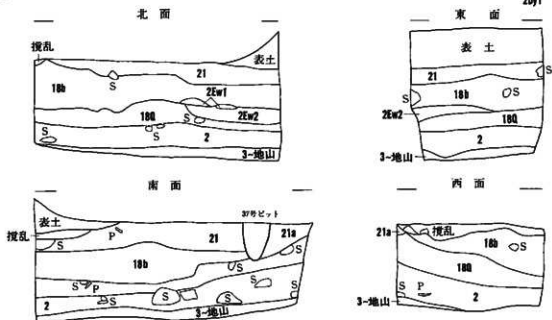


第31図 北区土器捨て場断面図(8) (S=1/4)

⑬ 2 Dy・2 Eu (L=43.200m)

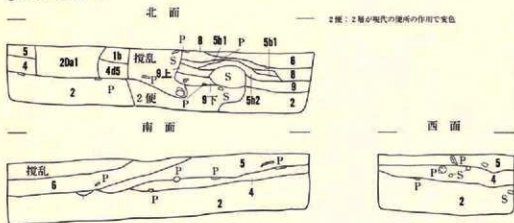


⑭ 2 Evw (L=43.300m)

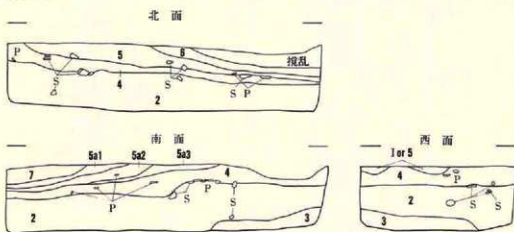


第32図 北区土器捨て場断面図(9) (S=1/4)

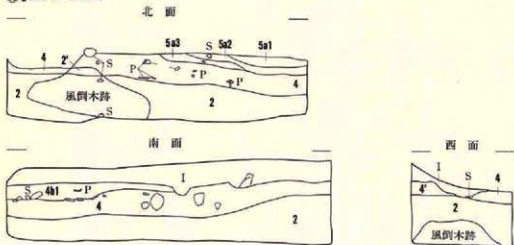
⑪ 3 Dab (L = 43,500 m)



⑫ 3 Dfg (L = 43,500 m)

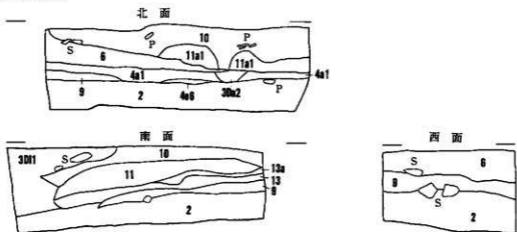


⑬ 3 Dkl (L = 43,700 m)

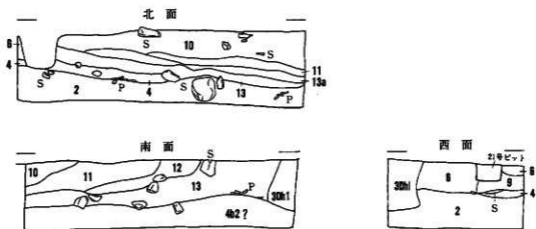


第33図 北区土器捨て場断面図⑩ (S = 1/4)

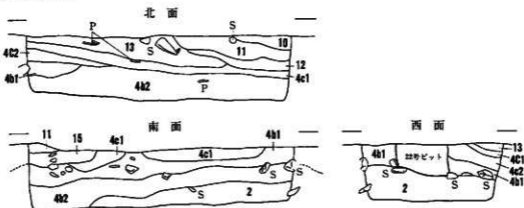
㊦ 3Dcd (L=43,300m)



㊦ 3Ddi (L=43,300m)



㊦ 3Dmn (L=43,400m)

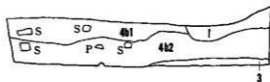
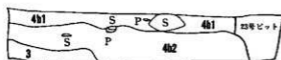


第34図 北区土器捨て場断面図(1) (S=1/4)

㊦ 3 Drs (L=43.700m)

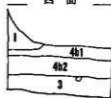
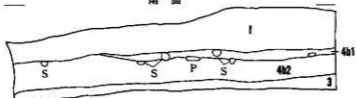
北面

東面



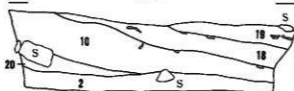
南面

西面

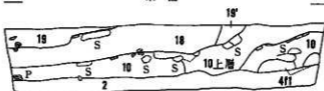


㊧ 3Dej・3Eaf (L=43.200m)

北面

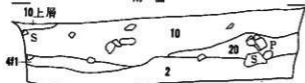


東面



南面

西面

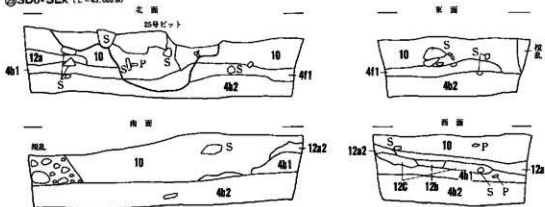


西面

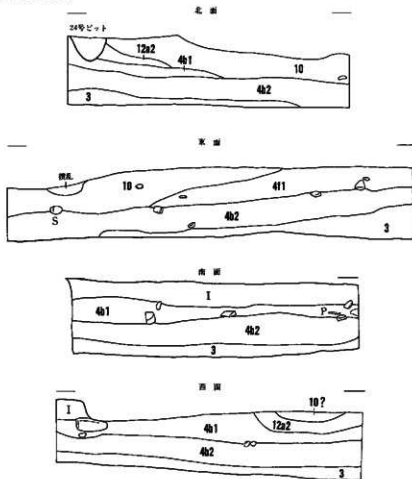


第35図 北区土器捨て場断面図(㊦) (S=1/4)

③ 3Do-3Ek (L=43,000m)

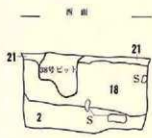
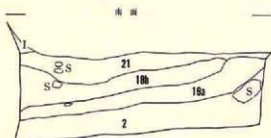
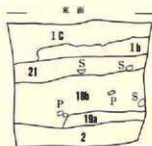
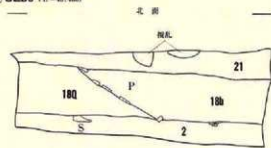


④ 3Dty-3EPu (L=43,500m)

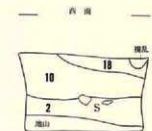
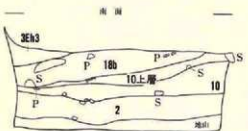
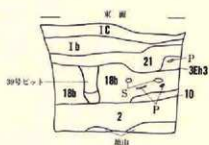
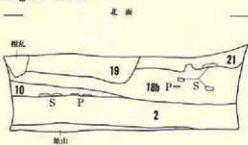


第36図 北区土器捨て場断面図③ (S=1/4)

㊦ 3Ebc (L. = 43,400)



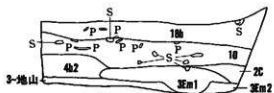
㊦ 3Egh (L. = 43,400m)



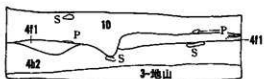
第37図 北区土器捨て場断面図(4) (S = 1/4)

③ 3Em1 (L=43,500m)

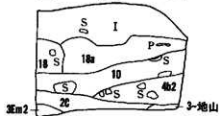
北面



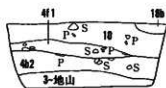
南面



東面

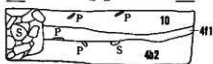


西面

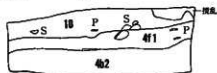


④ 3Eqr (L=43,300m)

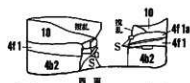
北面



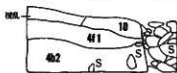
南面



東面

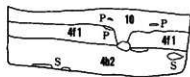


西面

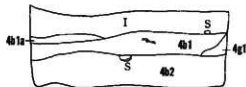


⑤ 3Evv・4Ebc (L=43,700m)

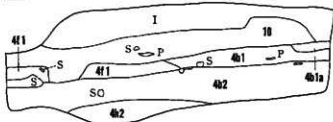
北面



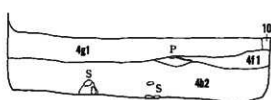
南面



東面

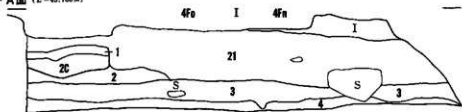


西面

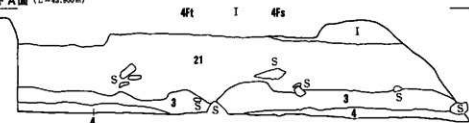


第38図 北区土器捨て場断面図(S = 石)

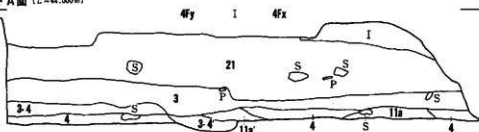
3 ベルト A 面 (L=43,700m)



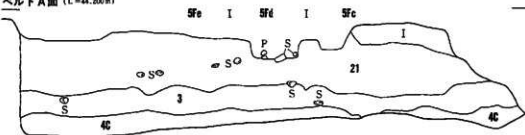
4 ベルト A 面 (L=43,900m)



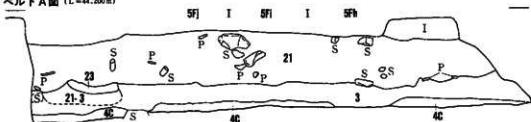
5 ベルト A 面 (L=44,000m)



6 ベルト A 面 (L=44,200m)



7 ベルト A 面 (L=44,200m)



21層と21-3層は65ピットの観上

第40図 南区土器捨て場断面図(3) (S=1/6)

V. 遺物

本遺跡から出土した遺物は、縄文土器・弥生土器、土製品、石器・石製品、平安時代の土師器、かわらけ、白磁などである。これらのほとんど全ては土坑内と捨て場中から発見された。

遺物の記載は図と表で行い、本文中にはその補足と概要のみ記したので、ここで、図版、写真図版、表を見る際の留意事項を述べておく。掲載順序は冒頭で述べた遺物の種類ごとに並べている。遺構出土の遺物は、その種類の中で最初に並べてある（土製品、石器・石製品の場合はさらに細別した種類一例、土偶、石鏃の最初に並べている）。遺構以外の遺物は遺構出土のもの後に出土位置の順（グリッド順）に並べ、同グリッド内の遺物は基本的の上から下へ並べてある。

図版の番号は写真図版の番号に対応する。写真図版は基本的に図版と同じ順序で並べている（土器については第1節 縄文土器・弥生土器参照）。

最後に表の出土位置・層の欄の見方について。グリッドについては第8図、第9図、層序については第4表、第5表等を参照していただきたい。なお、北区と南区（3F～6F）は別々に調査したので、同じ名称の層（例えば1層）であっても全く別の層なので、その層序および層の性質はそれぞれの区の所を見ていただきたい。また、2Dwxのように2つの（小）グリッド名が書かれているのは、どちらに所属するかはっきりしないものである。さらに、層の後に～cmと書かれているのは、厚い層の場合に便宜的に分けて取りあげたためであり、その層の一番上から～cm以内に出土した（基本的に10cm毎に分けて取りあげた）という意味である。そして、重機から～cm（重機より、重機下も同じ、重機となく～cmとだけ書いてあるのも同じ、ただし南区の場合（3F～6F）は全て表土からである）というのは重機で剥いだ面から～cmまで（基本的に10cmごとにあげている）に出土したという意味で、それがどの層に大体対応するかについてはそれぞれのグリッドの土層断面図（第24図～第41図）を参照していただきたい。断面図の上から～cmに対応する（縮尺は1/40）。

1. 縄文土器・弥生土器

掲載順序は、遺構出土の土器、層で取りあげた土器、その他に分け、この順序で載せた。ただし、ミニチュア土器については縮尺の都合から最後にまとめて掲載している（縮小してつづれないものは、それぞれの項に含めている）。写真図版の場合は、紙数の関係などで拓本土器の大部分を省略したためと手違いのため、やや異なっていて、実測した土器（写真図版7～36）→実測したミニチュア土器（写真図版37）→拓本を採った土器（写真図版38～56）→図版不

掲載土器（写真図版 56～70）→突起類（写真図版 71～78）の順になっているが、各土器の番号は図版と対応する。図版、表の見方のその他の留意事項については本章の冒頭部分を参照されたい。また、一部、手違いで以上の原則にしたがっていないものがある。なお、表と図の説明（原体など）が食い違っている場合は表の方が正しい。

基本的な観察事項は表に記したので、ここでは、まず概要を述べ、次に掲載順序にしたがって表の補足をしていく。なお、弥生土器と思われるものは1点のみである（第170図2208）。

本遺跡出土の土器・土製品は胎土の関係もあって磨耗が著しく、残りの悪いものが多い。胎土は砂質で時に砂粒を多く含むもので、（現在の北上市以南の）北上川中流域によく見られるものであり、泉屋遺跡（第Ⅱ章第4節参照）も同様の胎土であった。ただし、同じ胎土を使っても、その精製の度合い（砂粒を含むか含まないか）は時期によって大きく異なり、本遺跡では、晩期の土器には砂粒の混入は認められなかった。同じ後期の土器でも、初頭～前葉の土器にはしばしば砂粒が含まれているが、中葉以降の土器には混入はほとんど認められない。特に中葉の土器の場合は上に化粧粘土？を被せて丁寧に磨いており、これがはがれていないものとはがれているものとは大きく印象が異なる。なお、実測にあたっては、文様、縄文等をできるだけ復元しようとしたので、図と実物の間に大きな隔たりがある場合も多々あることをお断わりしておく。

・遺構出土の土器（第42図～第45図98）

・層で取り上げた土器（第45図99～第178図2358）

129の深鉢は、頸部の一番下の沈線が途中で途絶えており、その上の刻目もそこで終わっている。184の鉢の口縁部内側の沈線は途中で途絶えている。231の鉢の口縁部は、文様を縄の側面圧痕で縁取っており（ただし縦の隆帯の右側には施されていない）、縦の隆帯の上下には竹管文が施されている。257の深鉢の口縁部は縄を転がしているが、頸部の弧線文の内部は側面圧痕である。また口縁部から頸部にかけても弧状に圧痕しており、突起下の二つの側面圧痕の間には竹管状の工具で押し出した断続した点列が施されている。303の深鉢の口縁部は縄を回転した後に沈線を施しているが（沈線が縄文を切っている）、頸部と胴部の境の2本の平行沈線の間の縄文は側面圧痕である。542の深鉢の頸部は、側面圧痕した後にナデているため側面圧痕の一部が消えている。612の突起の単位は不明であるが6以上になるものと思われる。662の深鉢も542と同様に一部が消えている。688の口縁部内側の沈線の間には細かい刻目が施されている。764の口縁部は縄文施文の後に沈線を施しており、沈線が縄文を切っている。また、胴部の文様の狭い部分は縄を回転するのではなくて側面圧痕している。841の鉢の縄文は、この時期

のものには珍しく、口縁部とそれ以下とは別の原体を用いている。962は、口径11.5cm、胴部最大径12.6cm（注口部先端を含めて13.5cm）、底径5.4cm、器高10cm。胴部の注口直上よろろ器状の粘土板がある。

1002の拓影下半の左右に見える粘土粒の貼付は、文様の起点に位置し、瘤状突起の成れの果てといった感じで、非常に低く上に刻目が施されている。1025の三段作りの注口土器の頸部は4単位の尖った大きめの突起の間に小さな瘤状突起を施している。胴部の最も張り出した部分（注口の位置）には3単位の大きく尖った突起が施されている。なお注口は接合面から剝離している。1221は231と全く同じ施文の仕方であり、やはり縦の隆帯の右側には側面圧痕されていない。胴部は羽状縄文（LRのみ）が施されている。1225の口縁部も縄文を転がした後に沈線を施している。また、口縁部直下の磨消部分には一部縄文が消えずに残っている。1242の注口欠損部には黒色付着物（アスファルト？）で修復した跡が見られる。1257の深鉢の頸部も542と同様に側面圧痕の後にナデしているため圧痕の一部が消えている。1272の蓋の頂部は橋状把手は付かないと思う。1541の口縁部の突起は頂部に刻目（2つ）が施されるものと施されないものがあり、それぞれ対角線上に対になっている（2単位づつ）。1556は摺糸文を施文した後に沈線を施しており、沈線に切られた摺糸文が一部磨り消されずに残っている。1582の壺形土器は全面朱塗である。1625の胴部中央の沈線、刺突およびそれ以下の縄文の一部に黒色付着物（アスファルト？）が付着している。1640も542、1257と同様に側面圧痕の一部が消えかかっている。1674の深鉢は4単位の緩やかな波状口縁の可能性が高く、波頂部の内面には二つの刻目が施されている。胴部文様は4単位である。1766の胴部の縦の隆帯は2種類あり、それぞれが対角線上に対になっている（2単位づつ）。片方の隆帯の頂部には貫通孔があるが、これは紐などを通して吊したものであろうか。

2195の三段作りの注口土器の頸部の文様は5単位で、頸部のボタン状の突起も5単位である。胴部の最も張り出した部分にあるボタン状の突起は4単位で、注口下のものだけ刺突がある。注口の欠損部には黒色付着物（アスファルト？）で修復した跡があり、底部は井戸底状である。2209の内面の胴部下半には細い隆帯が巡り、隆帯上に縄文（LR）が施されている。2264の上の部分は接合面からの剝離で、表面は非常になめらかである。

・その他の土器（第178図～第208図）

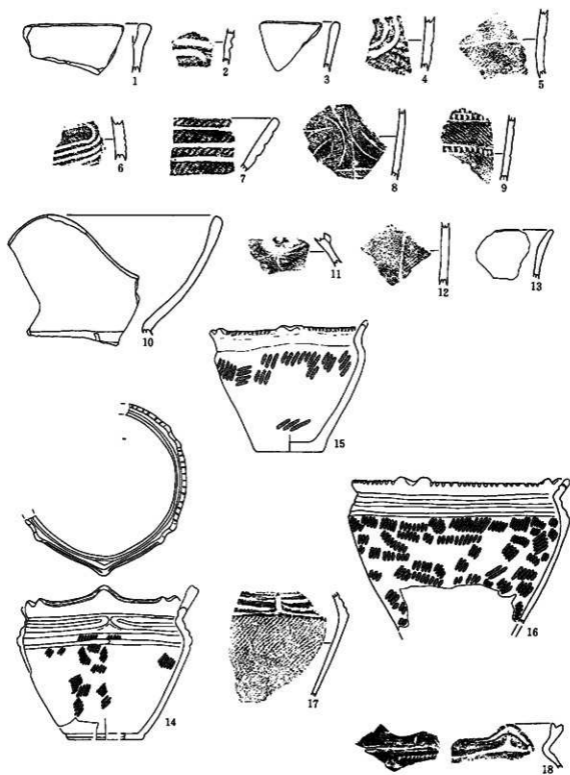
2374は1225と同様に磨消部に縄文の一部が消されずに残っている。2387の異形の注口土器は、口径7.4cm、胴部最大長24.2cm、最大幅12cm、底部は長軸6.6cm、短軸5.7cmの楕円形の揚底である。緻密な曲線文が先端と底部付近を除いた胴部全体に展開していて所々渦をまいており、注口部と反対側の突出部先端にも渦文を持つ。曲線文中には細かな縄文と刺突列が見ら

れるが、沈線と刺突は縄文施文の後に加えられたものであり、縄文は両者に切られている。捨て場からの出土である。2412の頸部中央の側面圧痕列の一部はナデの時に消えたらしく、代わりに爪形の圧痕が見られる。底部も、木葉痕がナデによって消えたように思われる。2435の底部は鑿状の工具で三ヶ所を押さえて、三つの高台状の作り出しが見られる。2450の壺形土器の頸部の4単位の把手の間には2個1組の貫通孔が開けられている(4単位)。この貫通孔は補修孔ではなく製作時に開けられたものである。またナデと沈線施文は縄文を施してから行なわれている。

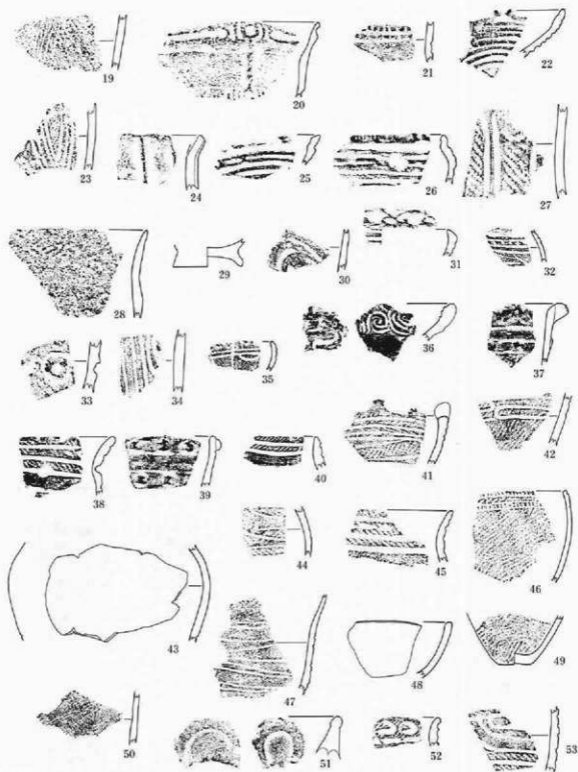
2560は再利用(転用)の底部穿孔土器で、孔は内側から開けられている。この土器が遺構に伴ったかどうかは不明である。2573の浅鉢の底部も2435と同様に3つの高台状になっている。2574の鉢形土器は交互に違う文様を4単位づつ配している。2602の突起の割れ口には中央の幅1cm程度の範囲に擦痕が見られるが、製作時に付けられたものか砥石代わりに使用されたのかは不明である。2640の口縁部は内側に肥厚しているが、大きな突起の間はさらにその下に隆帯があり、上に刻目が施されている。

・ミニチュア土器(第208図)

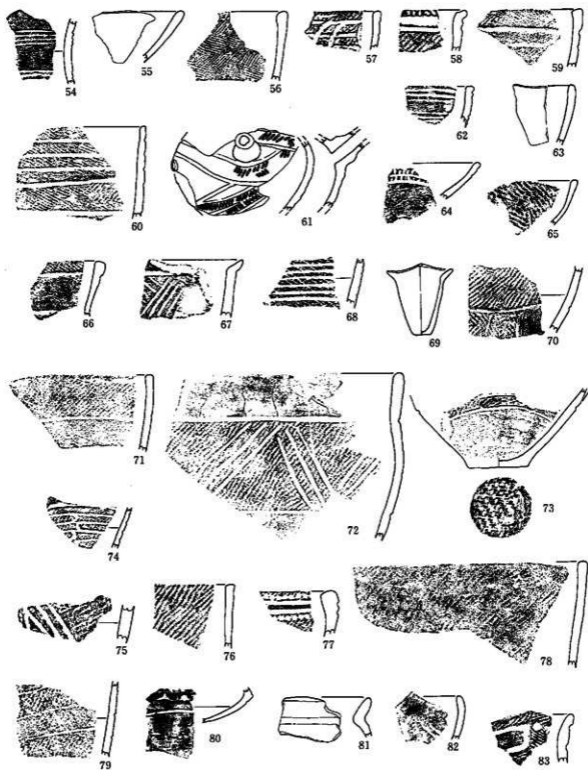
ミニチュア土器の定義は難しい。一般的には通常のおおきさよりずっと小さく作られるものと考えられているが、縄文時代後期中葉には異形土器が多く、この“通常のおおきさ”をどのように考えたら良いかがわからない。ここでは、便宜的に完形時の大きさが5×5cm以下で、1/3に縮小するとつぶれてしまうものを集めた。したがって、前項までの中にもミニチュアと思われるものが含まれている。



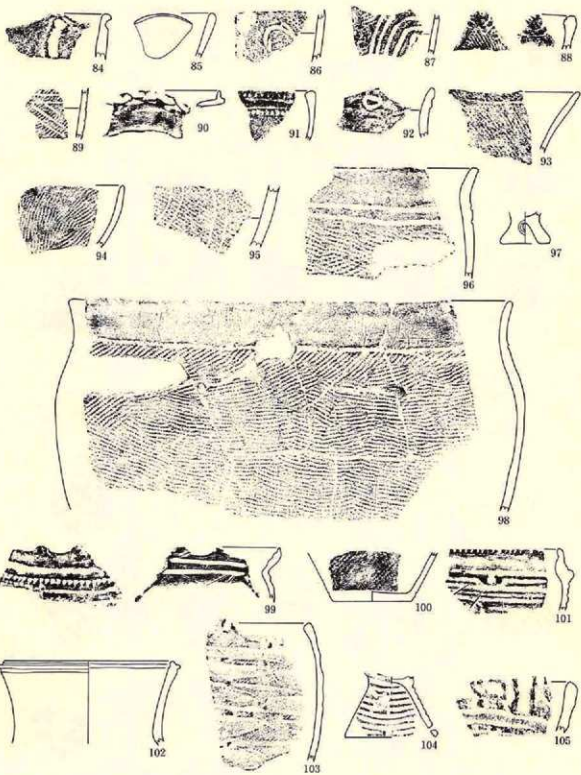
第42图 遼南出土土器(1) (S=1/5)



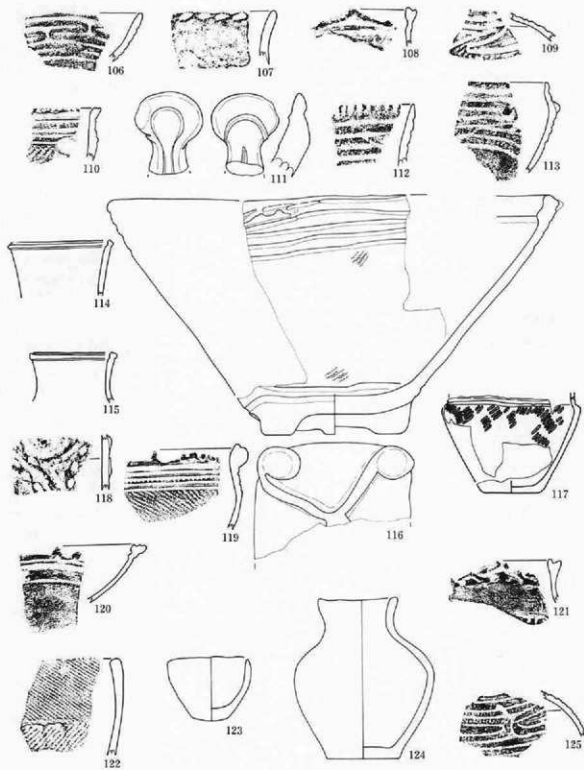
第43圖 遺構出土土器(2) (S=1/5)



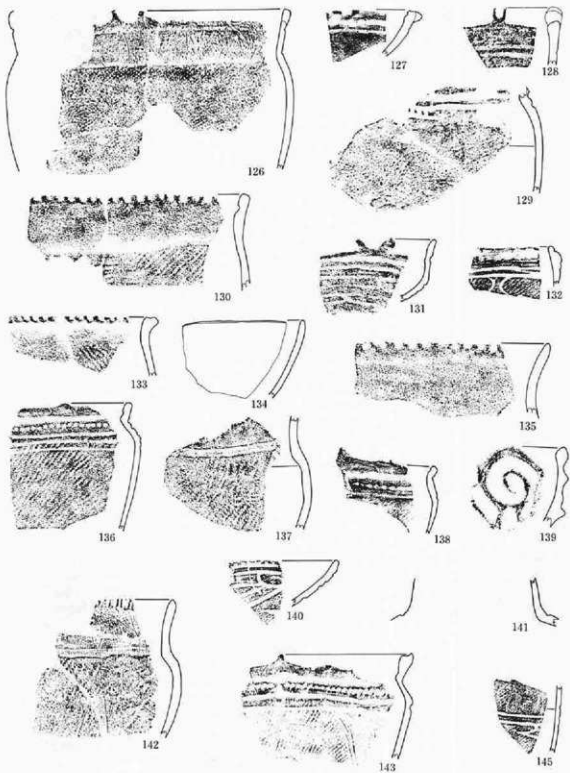
第44图 遼寧出土土器(3) (S=1/5)



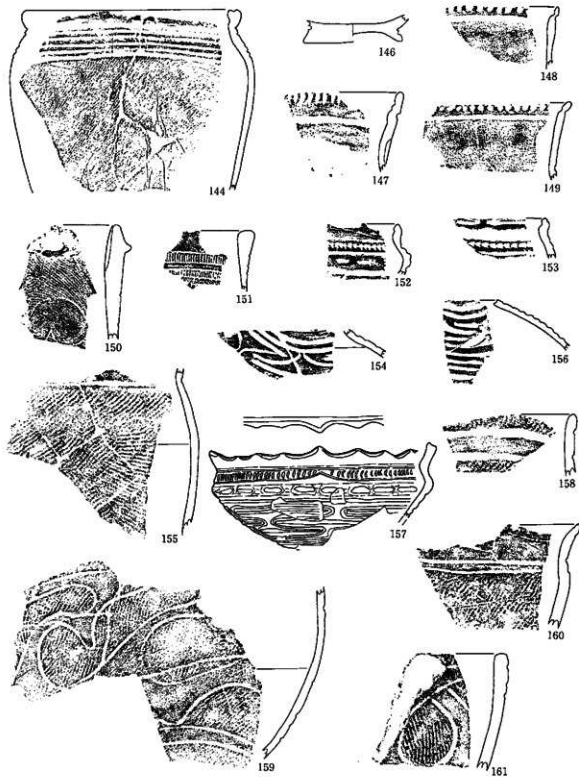
第45図 遺構出土土器(4)・層で取りあげた土器(1) (S = 1/5)



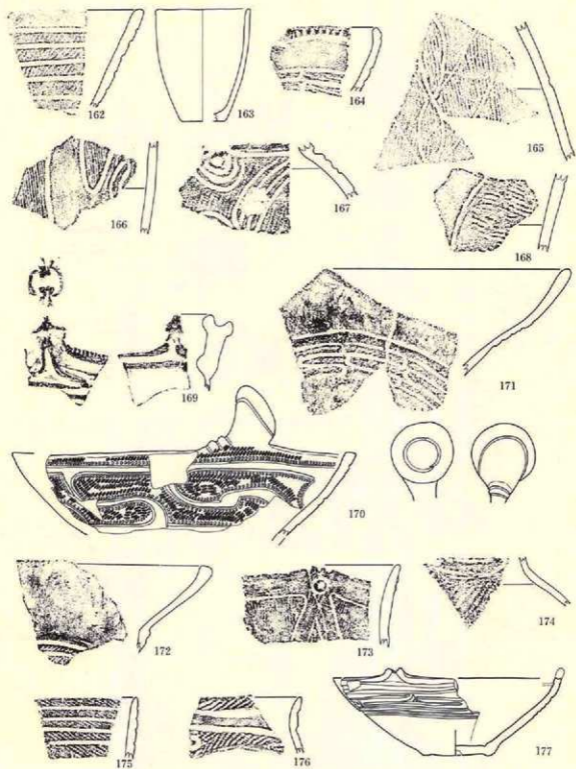
第46図 層で取りあげた土器(2) (S=1/5)



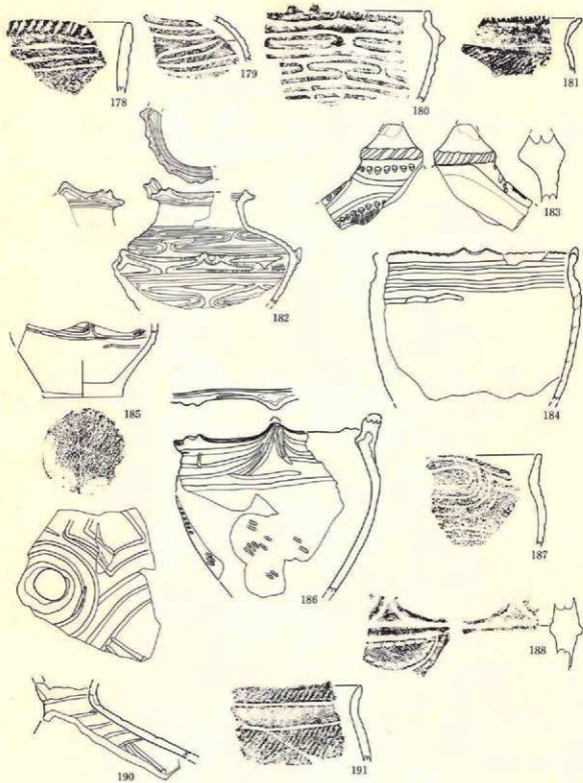
第47図 層で取りあげた土器(3) (S=1/5)



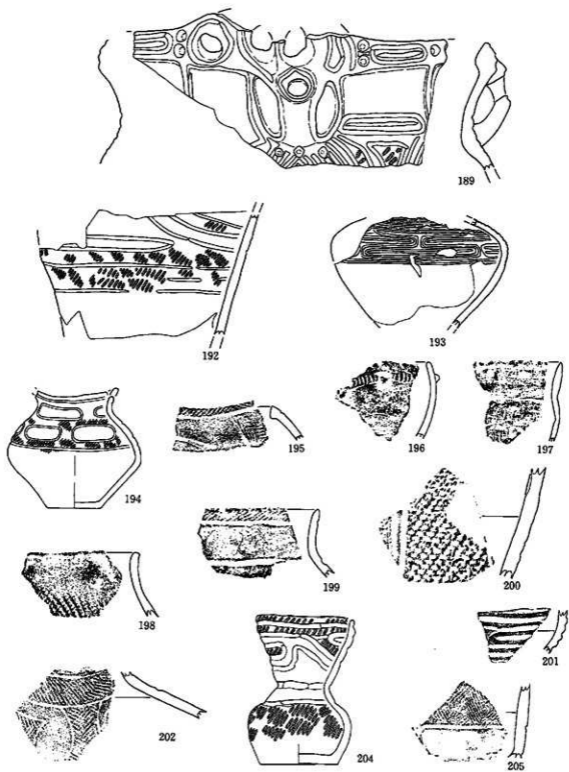
第48図 層で取りあげた土器(4) (S=1/5)



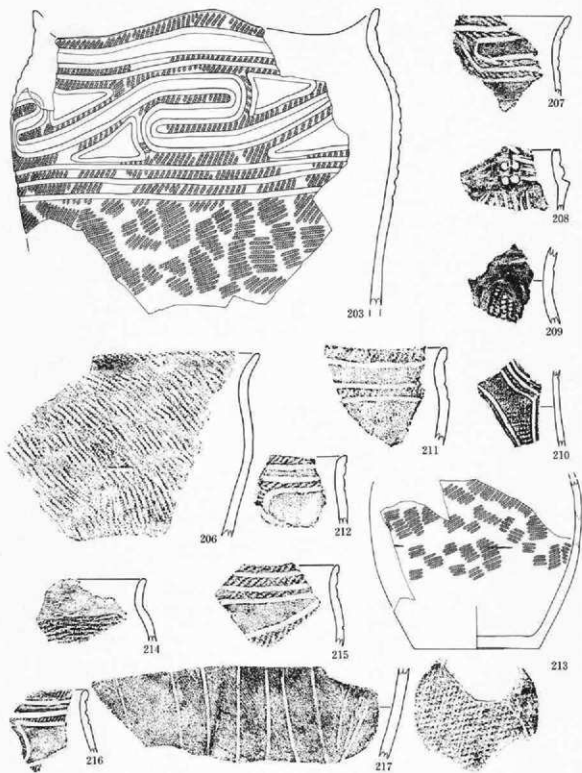
第49回 層で取りあげた土器(5) (S = 1/5)



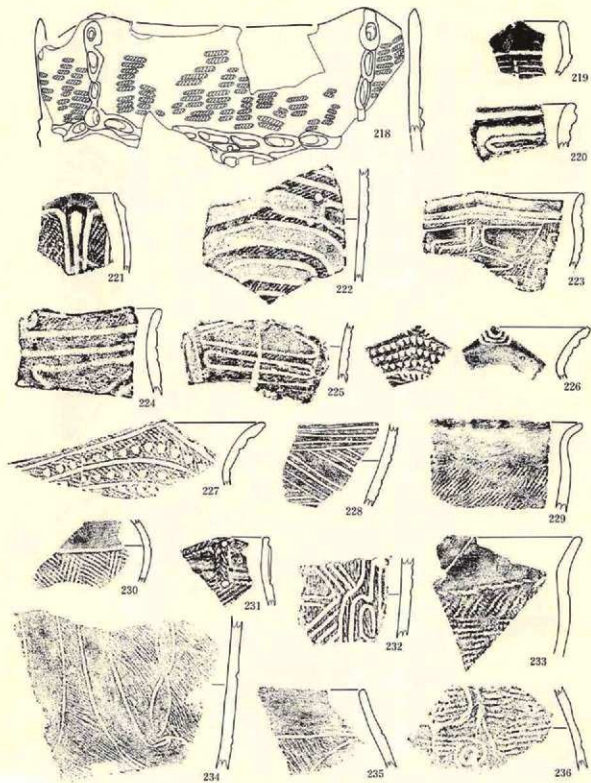
第50図 層で りあげた土器(6) (S = 1/5)



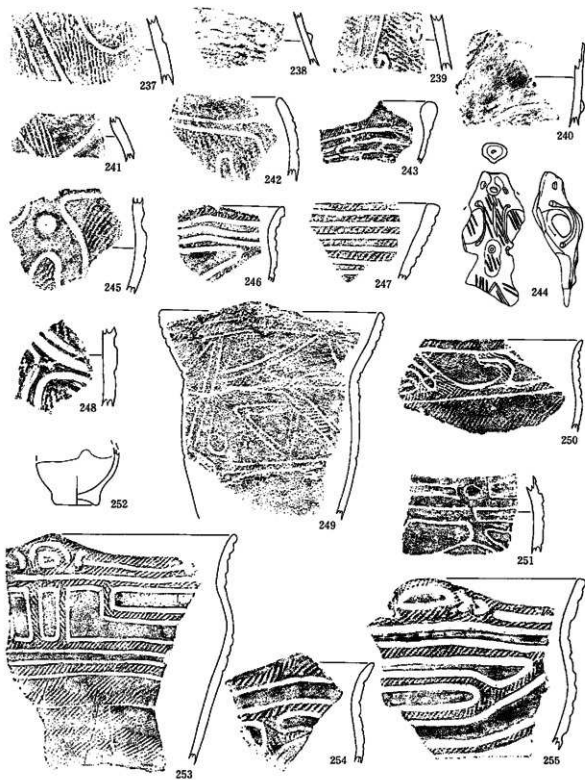
第51図 層で取りあげた土器(7) (S=1/6)



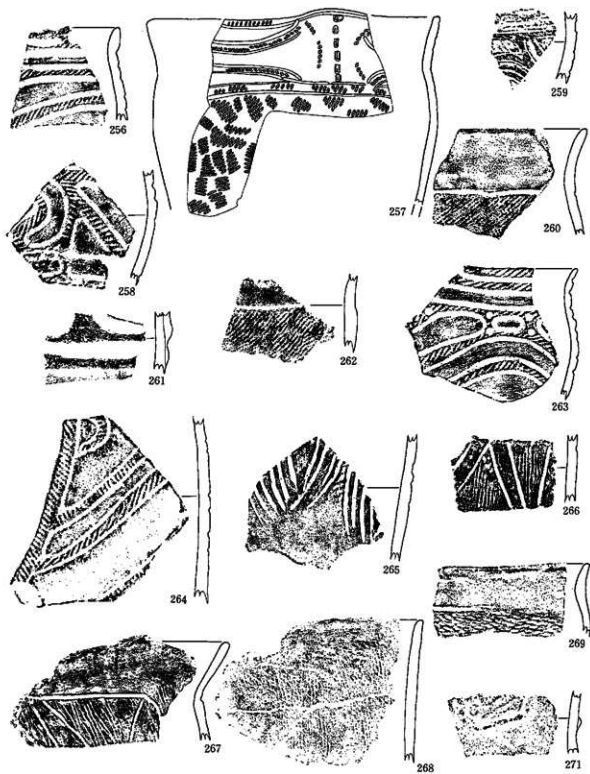
第52図 層で取りあげた土器(8) (S=1/5)



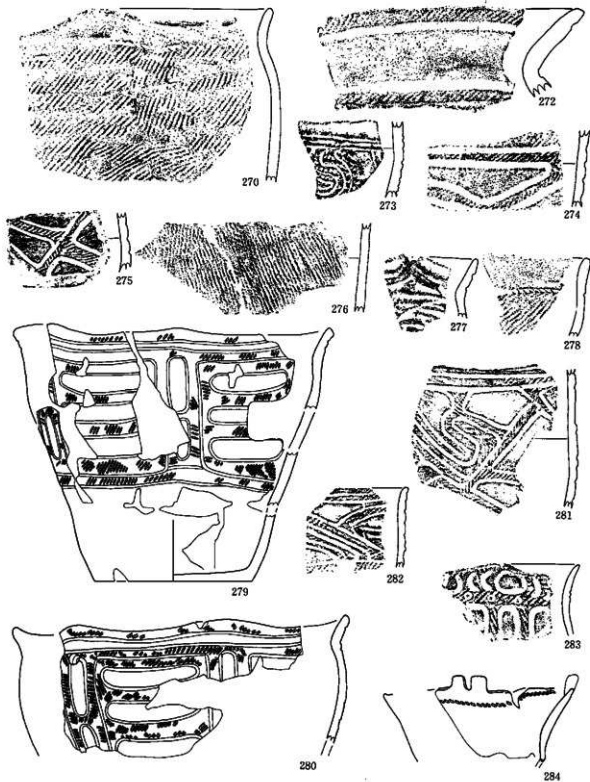
第53図 層で取りあげた土器(9) (S=1/4)



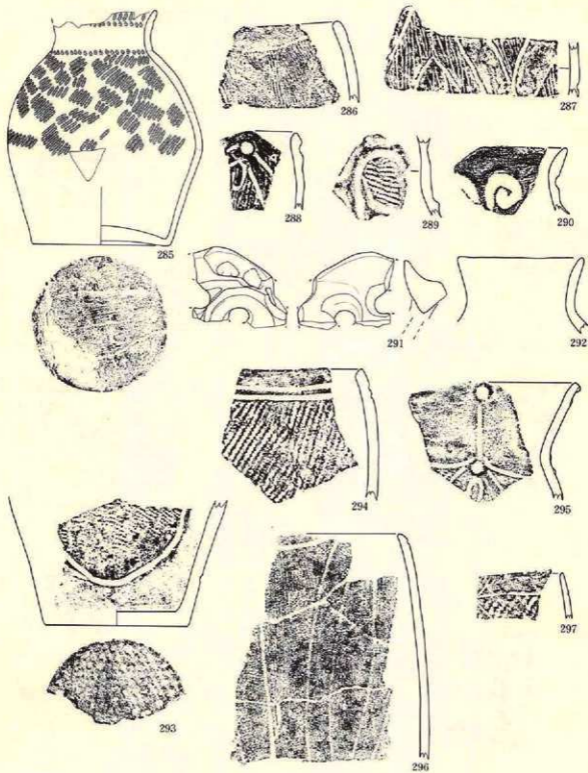
第54図 層で取りあげた土器(0 (S=1/6))



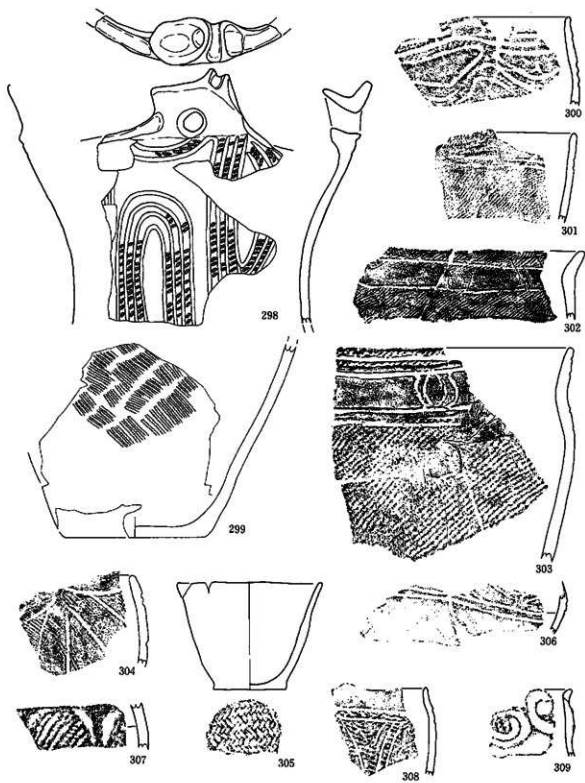
第55図 層で取りあげた土器(1) (S=1/6)



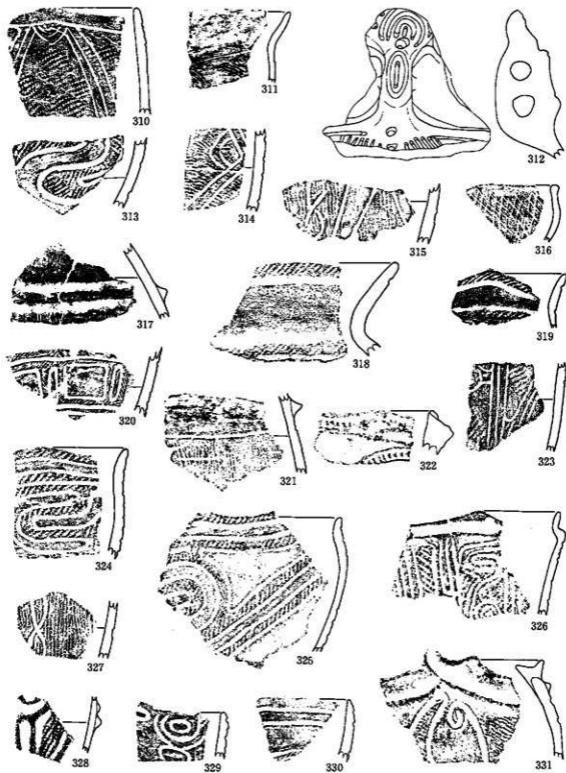
第56図 層で取りあげた土器(2) (S=1/5)



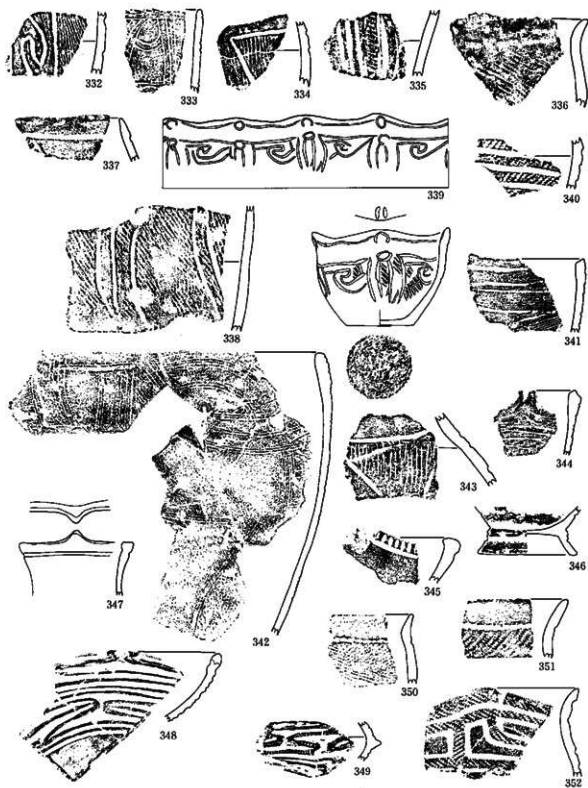
第57図 層で取りあげた土器の⑩ (S=1/5)



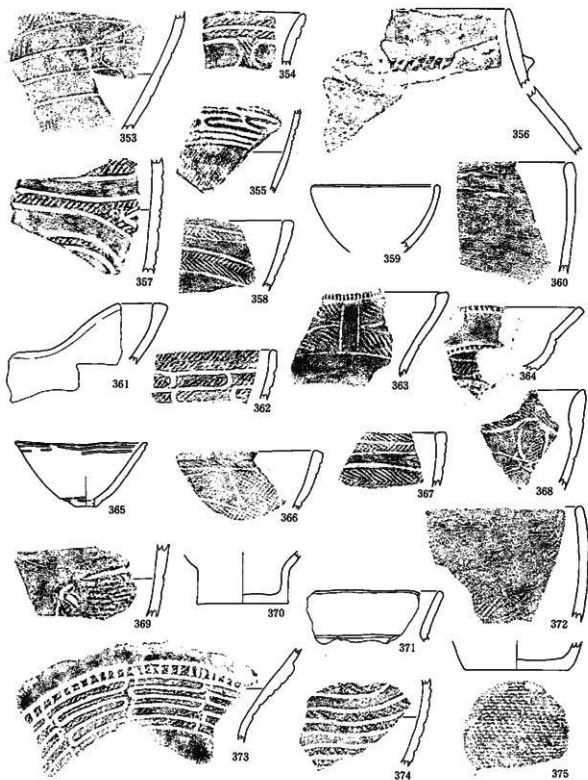
第58圖 層で取りあげた土器(4) (S = 1/2)



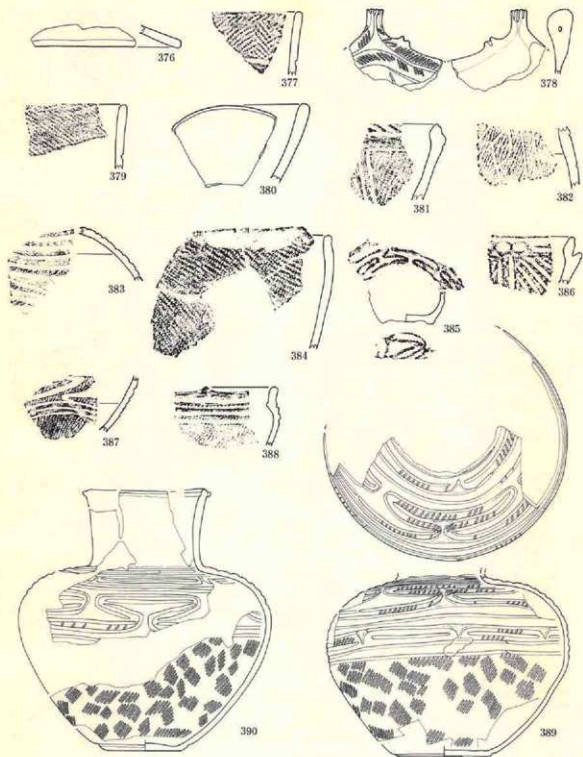
第59図 層で取りあげた土器(19) (S=1/6)



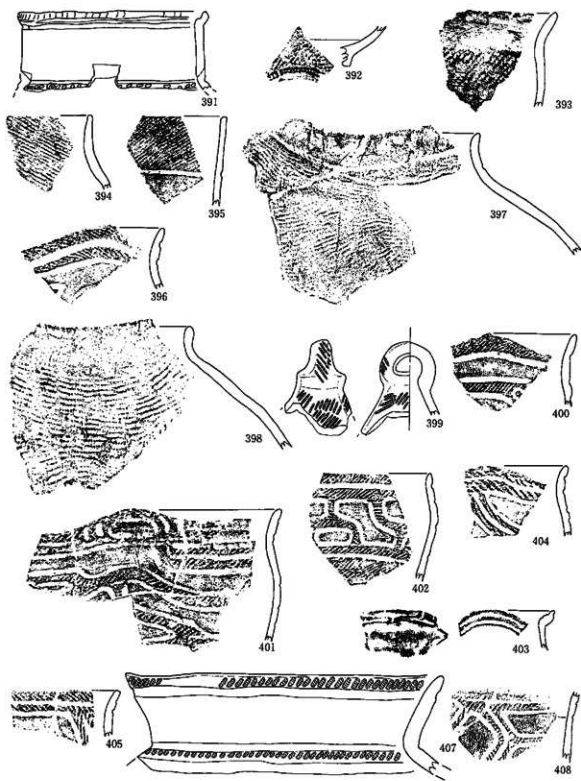
第60図 層で取りあげた土器(Ⅱ) (S=1/2)



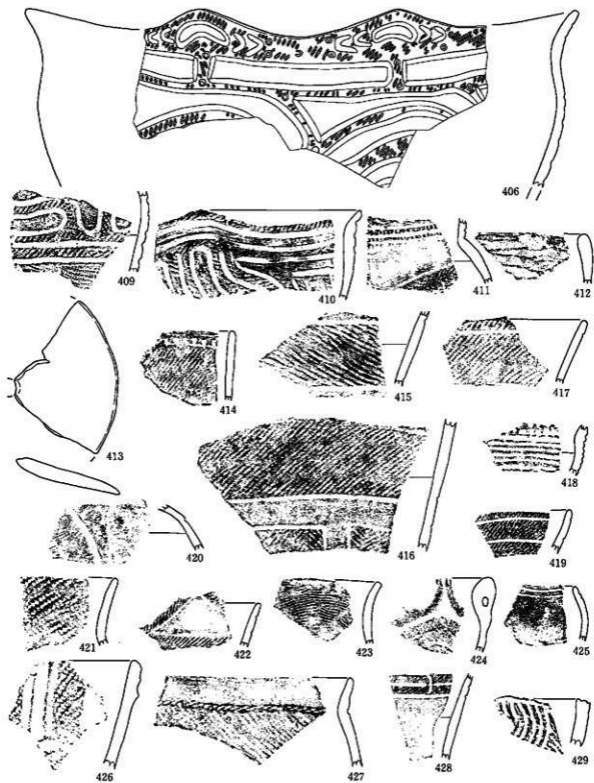
第61図 層で取りあげた土器(7) (S=1/5)



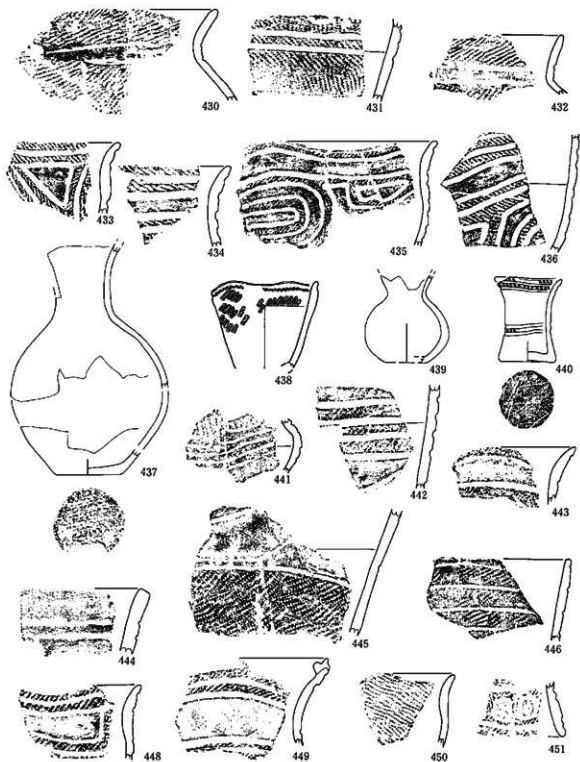
第62図 層で取りあげた土器18 (S=1/5)



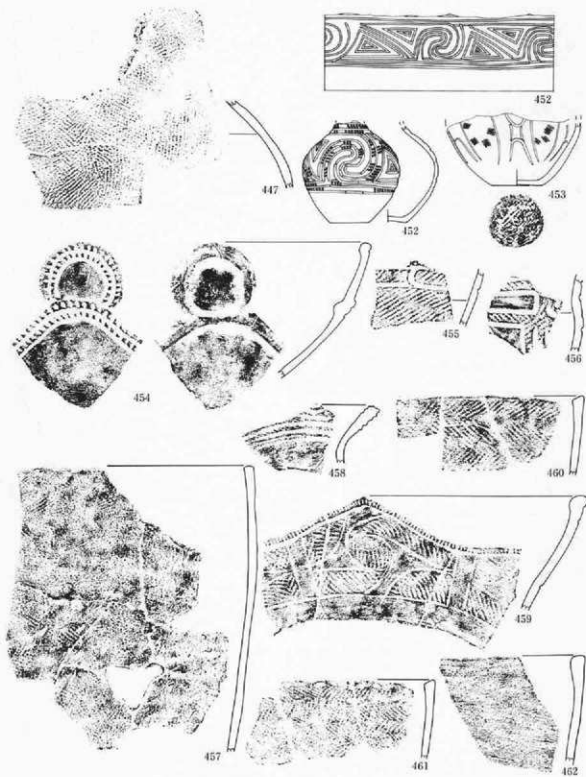
第63図 層で取りあげた土器の碎片 (S=1/5)



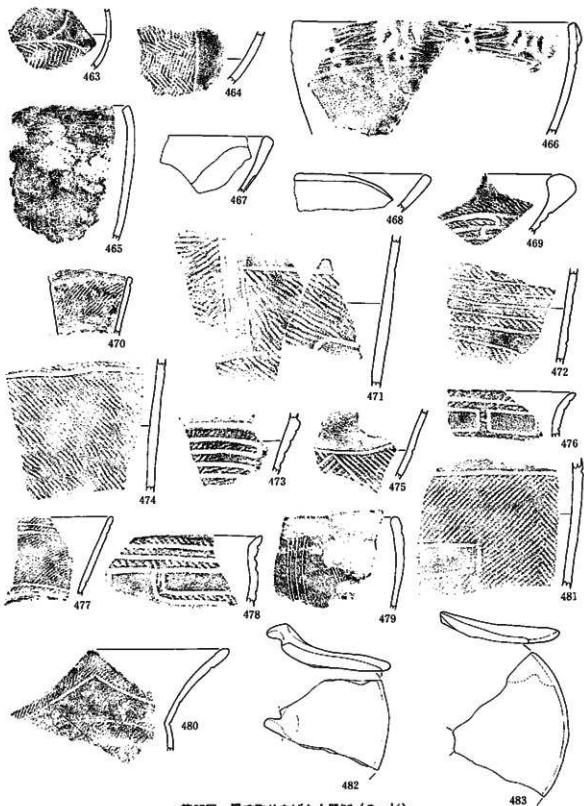
第64図 層で取りあげた土器群 (S=1/2)



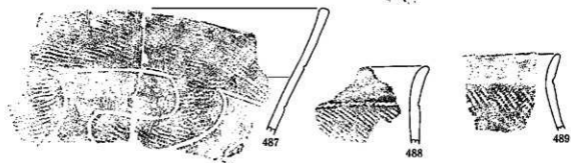
第65図 層で取りあげた土器② (S=1/5)



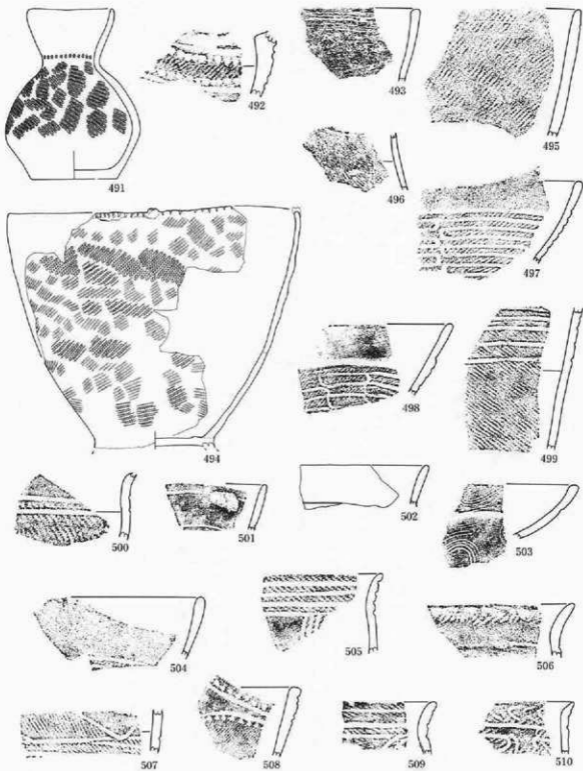
第66図 層で取りあげた土器22 (S=1/5)



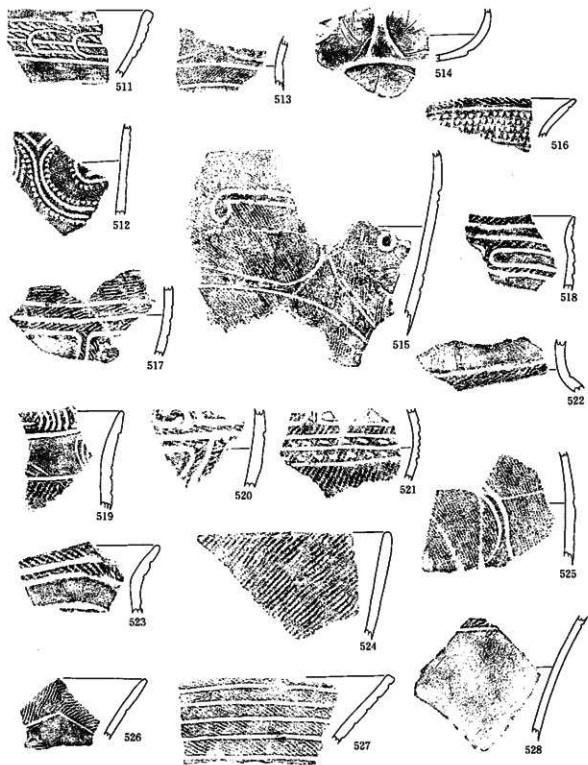
第67図 層で取りあげた土器23 (S=1/5)



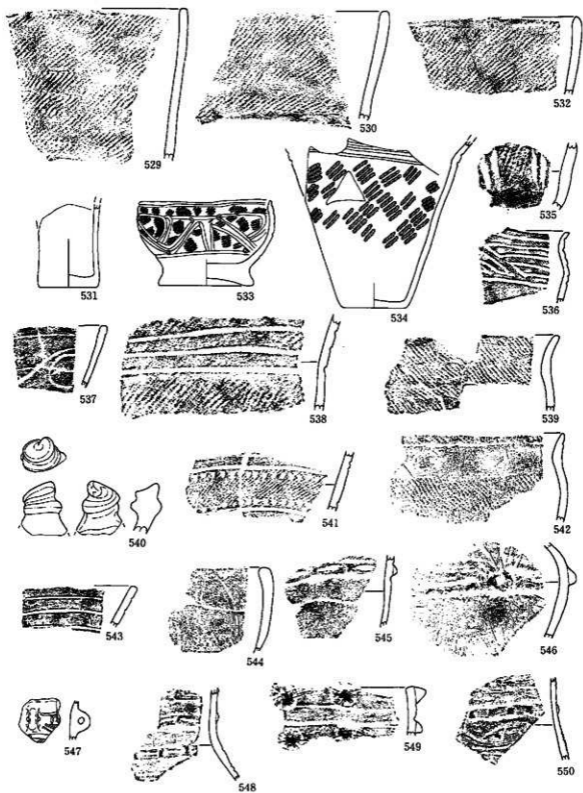
第68図 層で取りあげた土器24 (S=1/5)



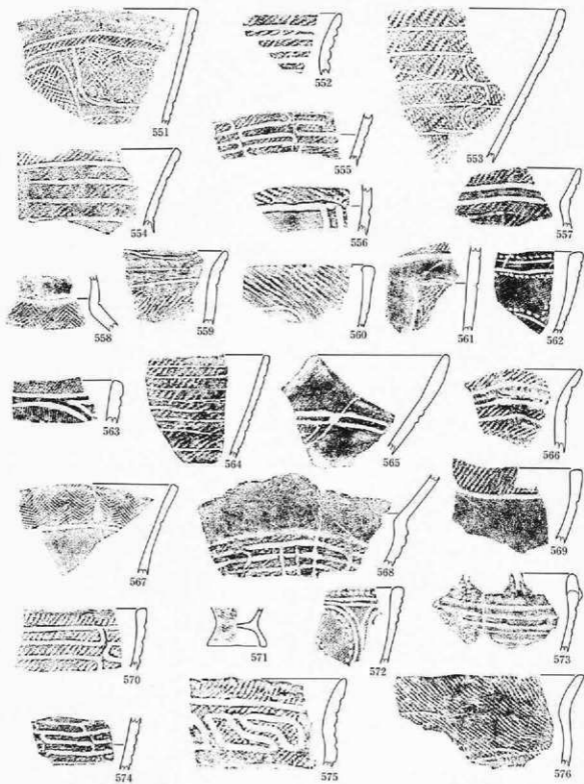
第69図 層で取りあげた土器25 (S=1/5)



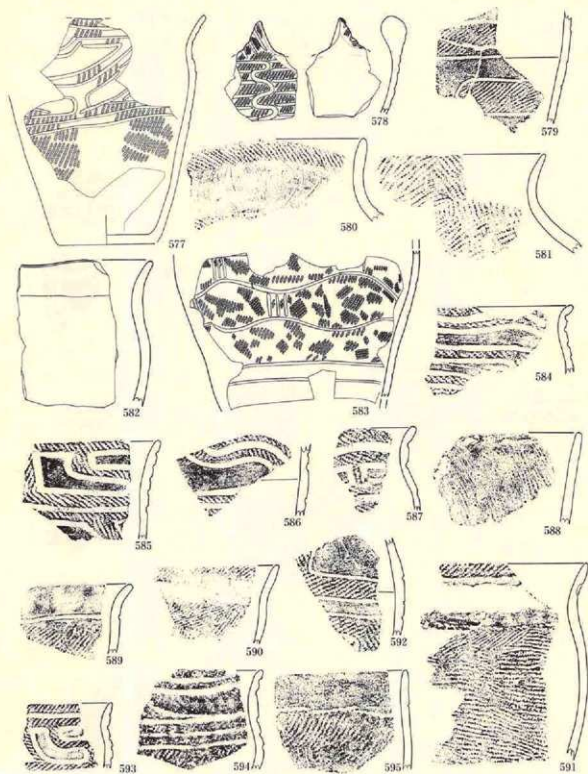
第70層 層で取りあげた土器26 (S=1/6)



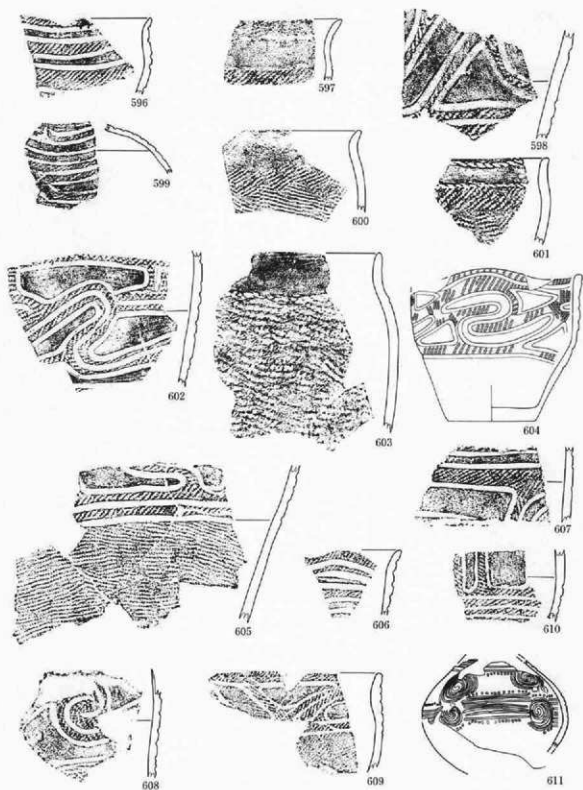
第71図 層で取りあげた土器(切) (S=1/3)



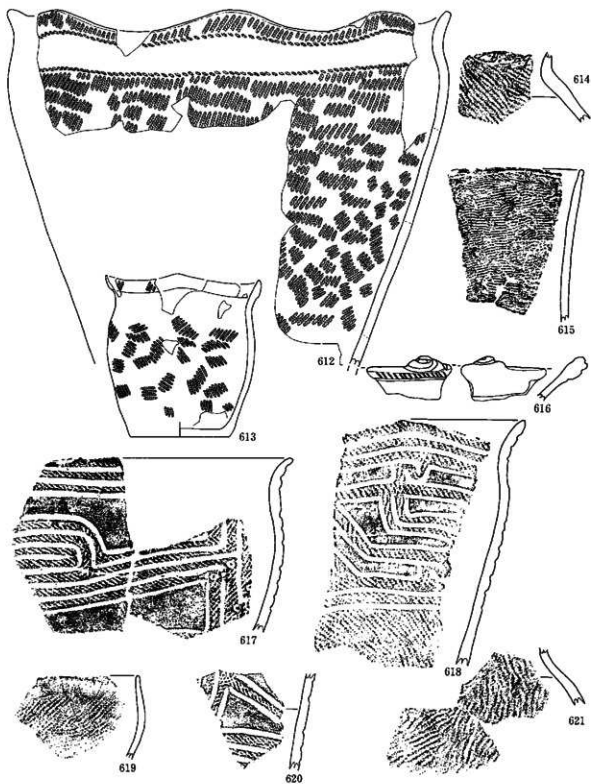
第72図 層で取りあげた土器(Ⅱ) (S=1/5)



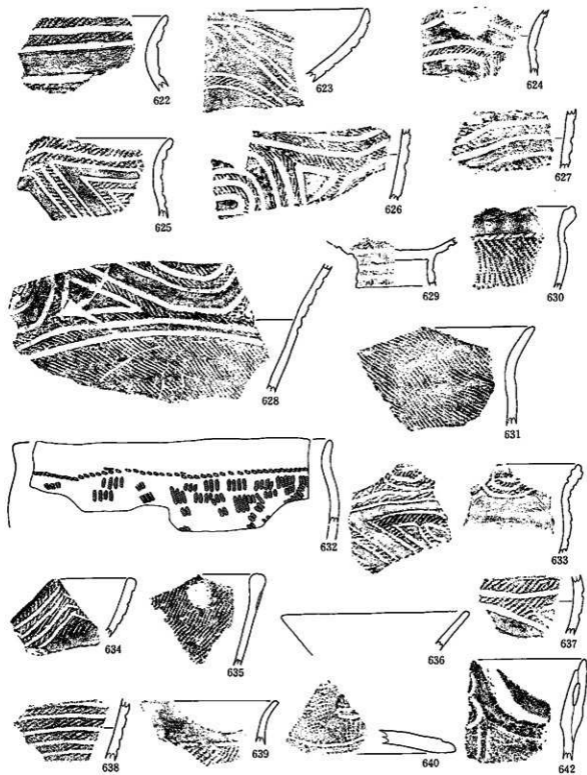
第73図 層で取りあげた土器② (S = 1/5)



第74図 層で取りあげた土器30 (S = 1/5)



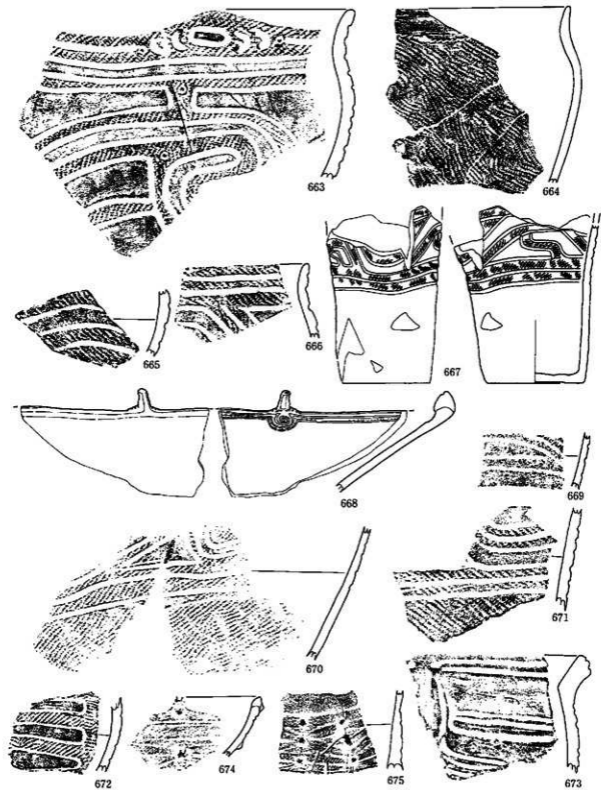
第75図 層で取りあげた土器⑩ (S=1/5)



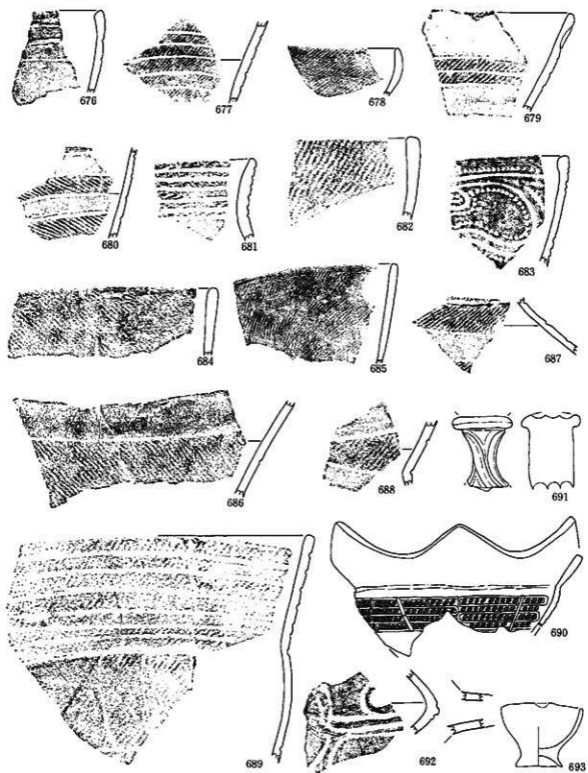
第76図 層で取りあげた土器② (S=1/6)



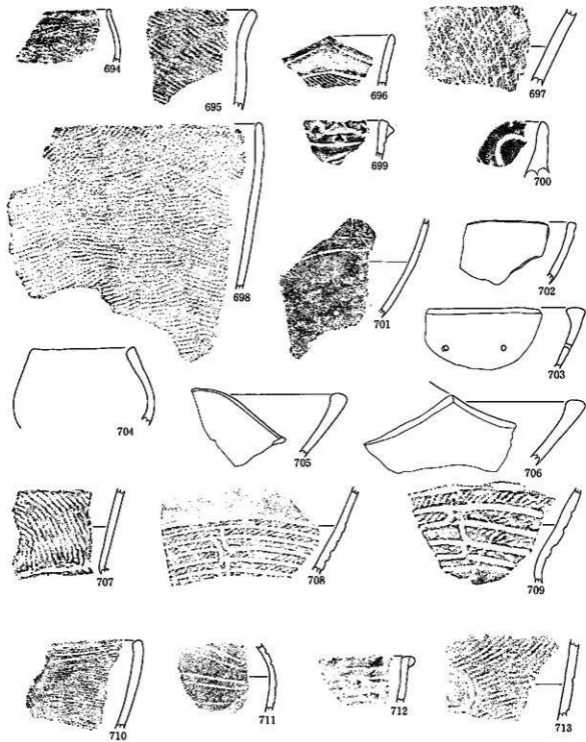
第77図 層で取りあげた土器(3) (S=1/5)



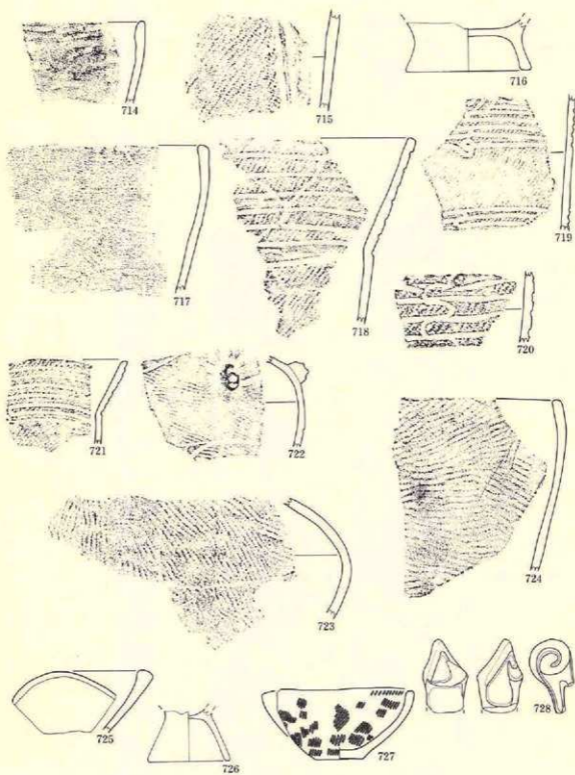
第78圖 層で取りあげた土器④ (S=1/5)



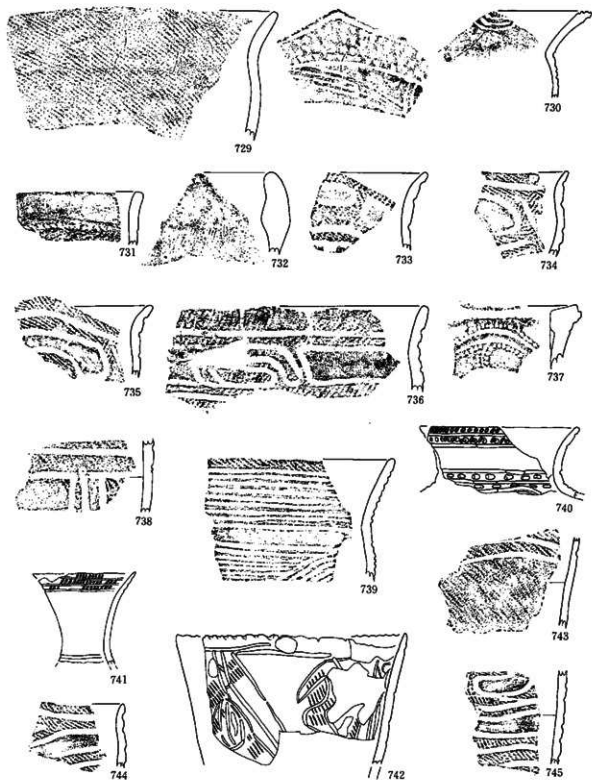
第79図 層で取りあげた土器99 (S = 1/5)



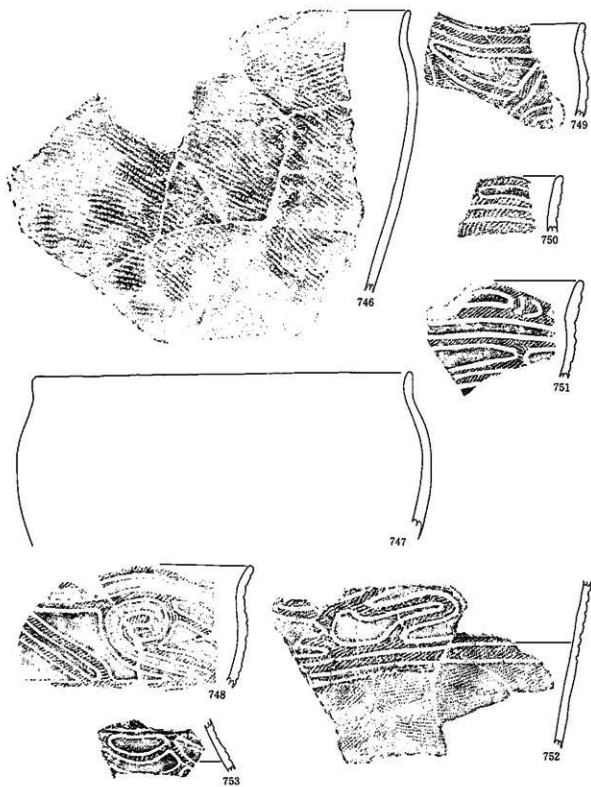
第80図 層で取りあげた土器36 (S=1/5)



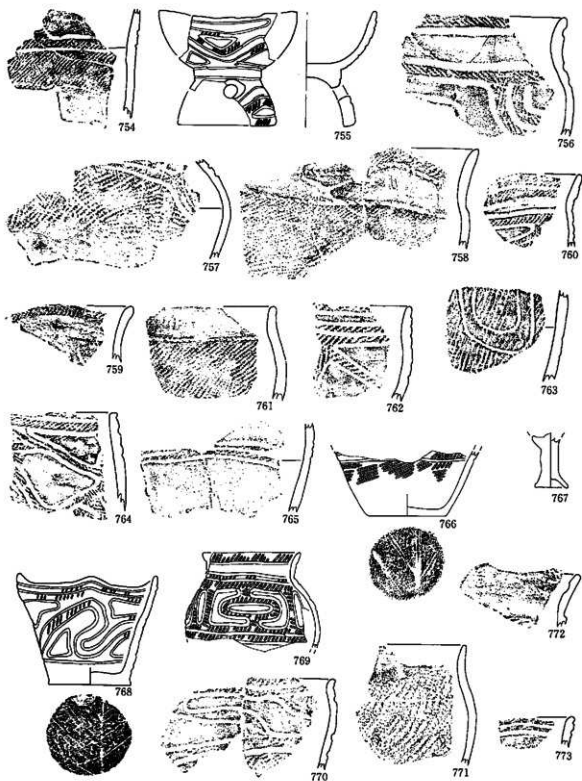
第81図 層で取りあげた土器(37) (S=1/5)



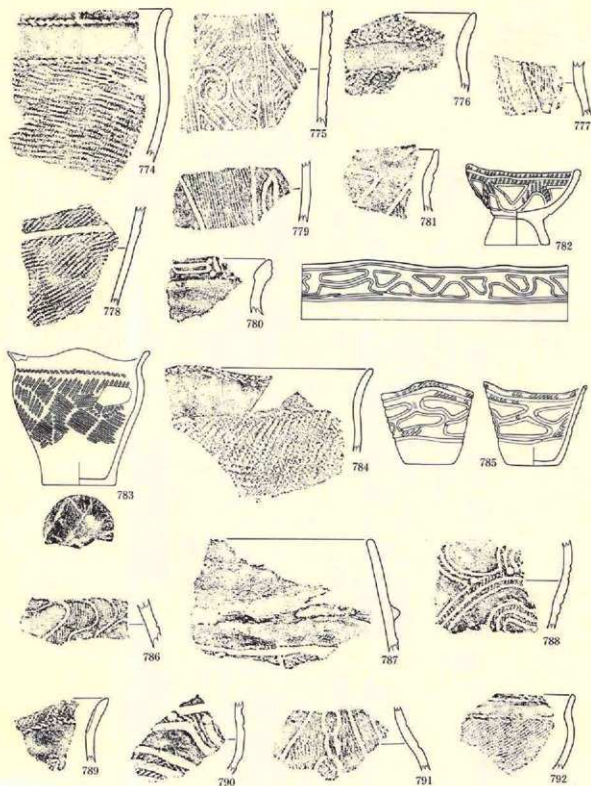
第82図 層で取りあげた土器③ (S=1/6)



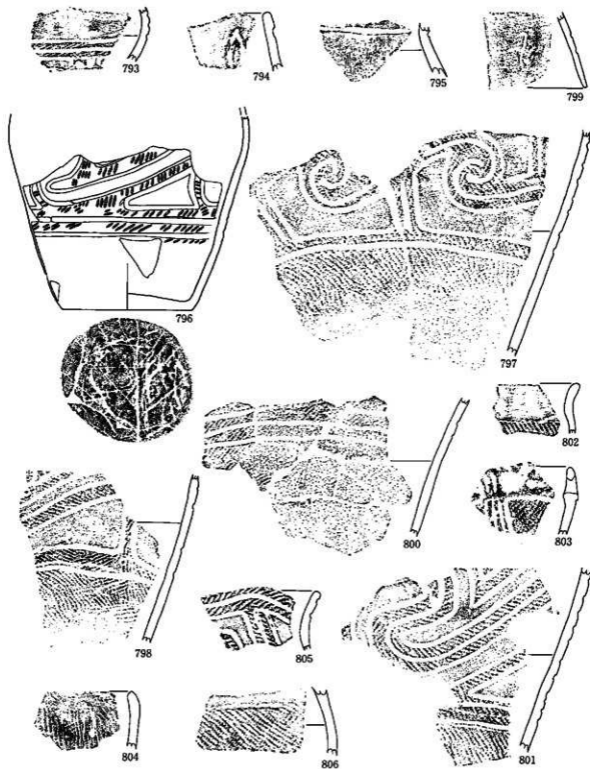
第83図 層で取りあげた土器③(S = 1/6)



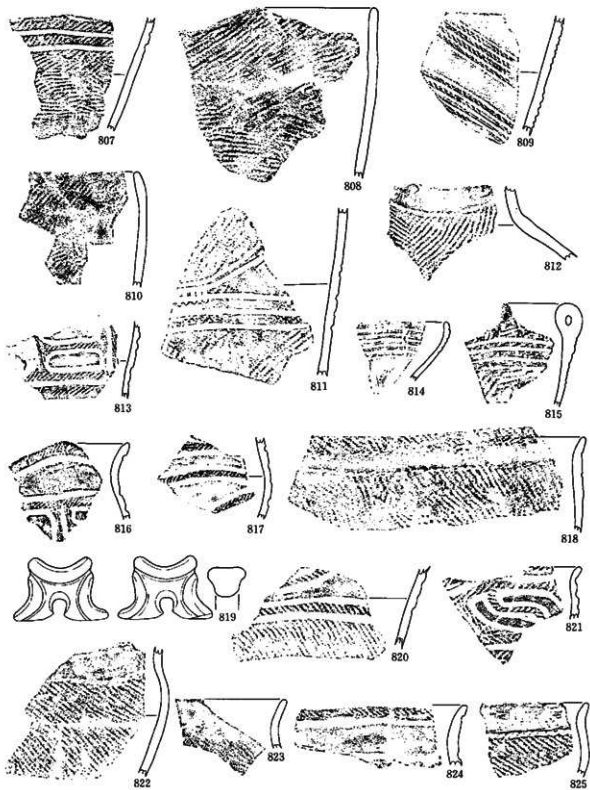
第84図 層で取りあげた土器40 (S=1/5)



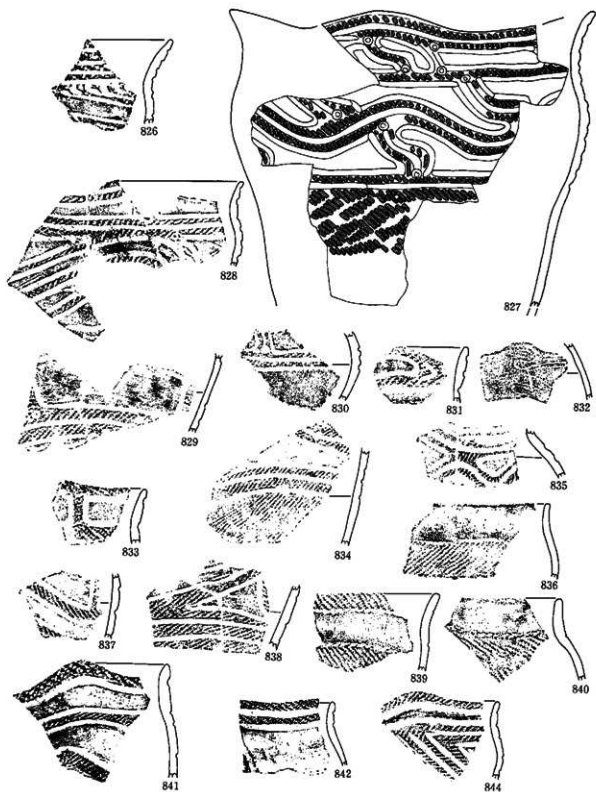
第85図 層で取りあげた土器41 (S=1/5)



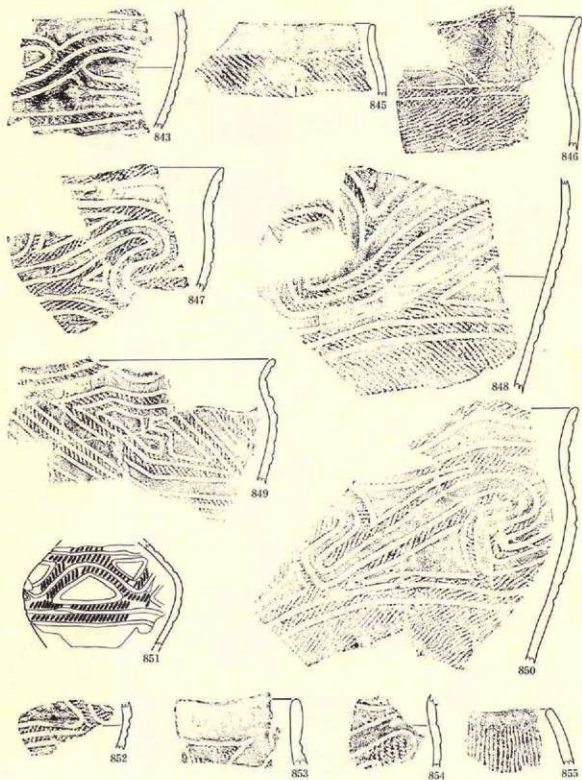
第86図 層で取りあげた土器(2) (S=1/5)



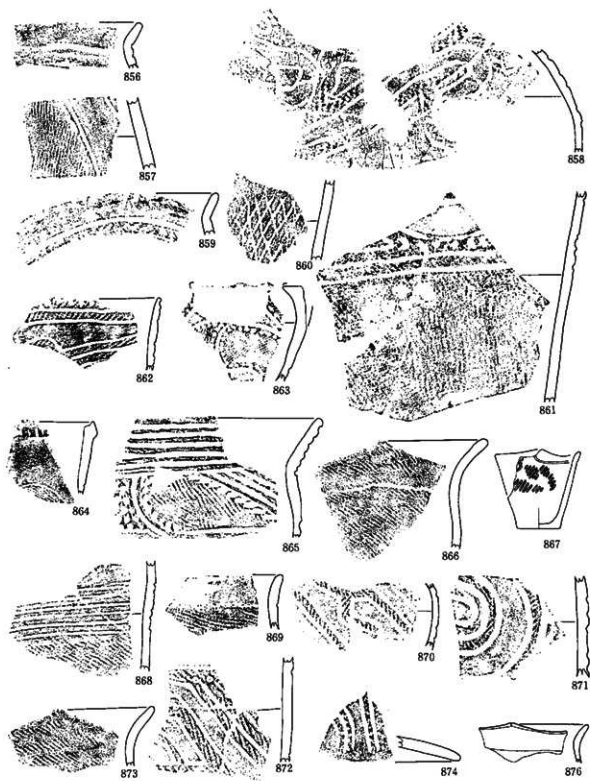
第87図 層で取りあげた土器48 (S=1/5)



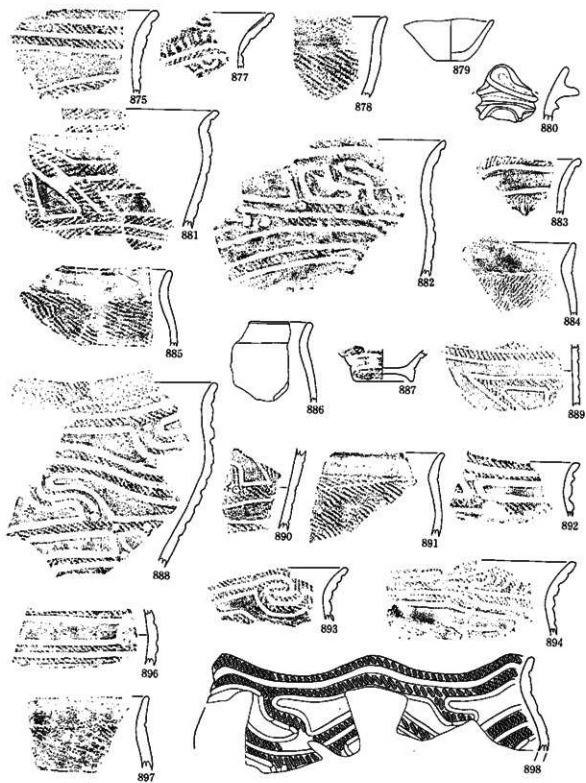
第88図 層で取りあげた土器(40 (S = 1/5))



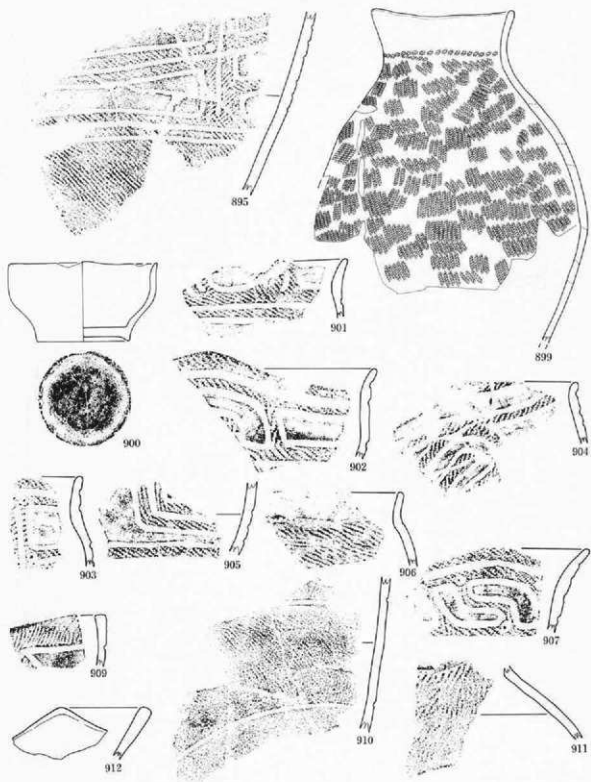
第89図 層で取りあげた土器45 (S = 1/5)



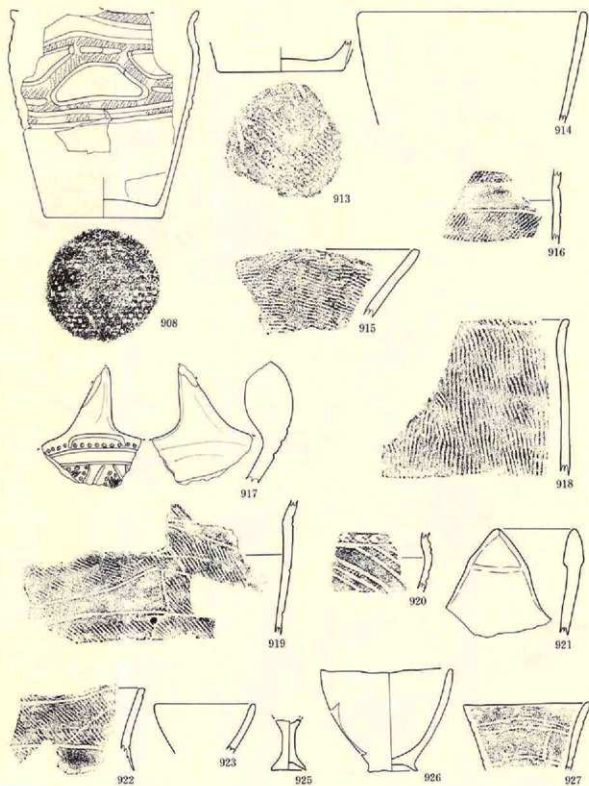
第90圖 層で取りあげた土器40 (S=1/5)



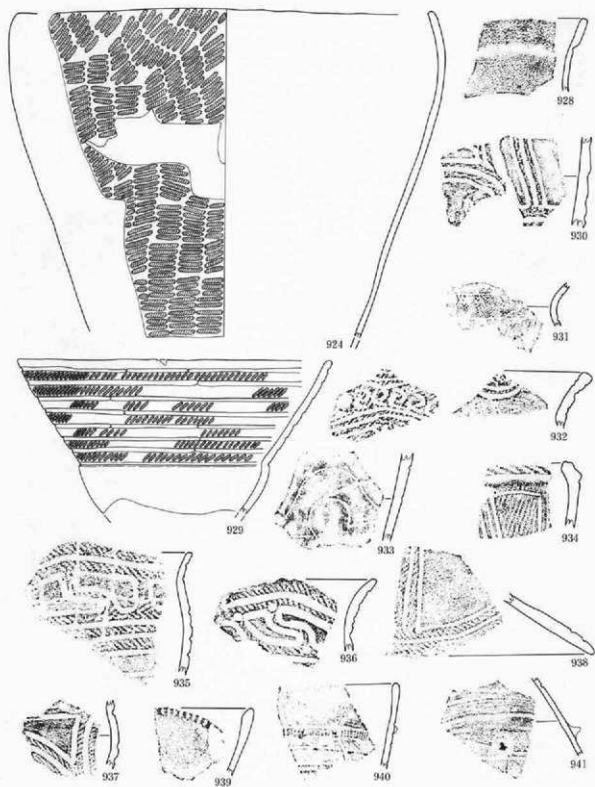
第91圖 層で取りあげた土器(7) (S=1/5)



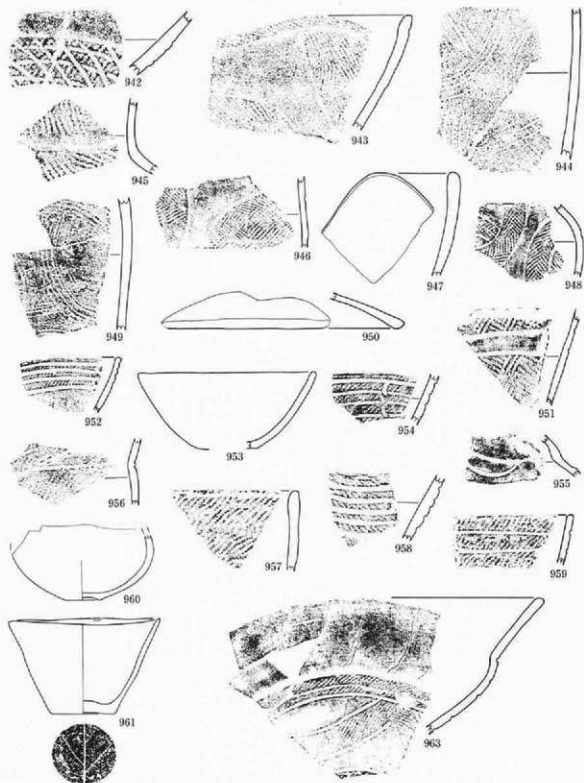
第92図 層で取りあげた土器46 (S = 1/2)



第93図 層で取りあげた土器群 (S = 1/5)



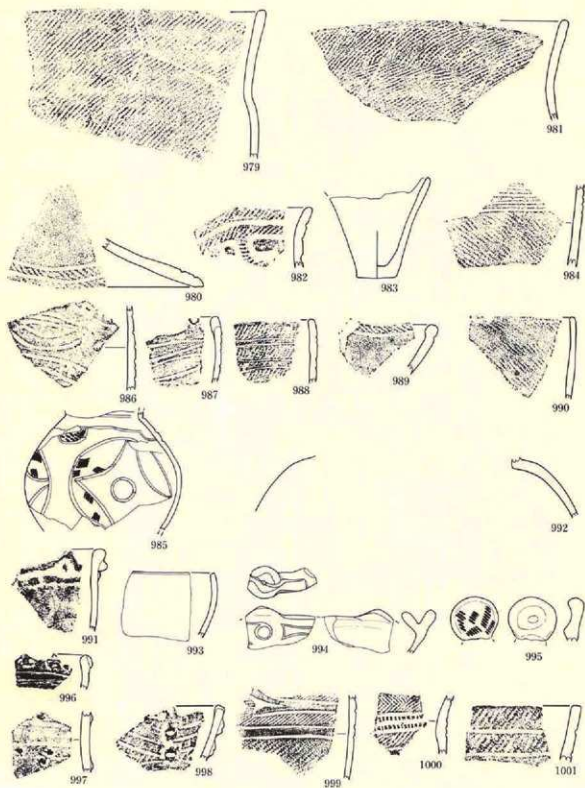
第94図 層で取りあげた土器50 (S = 1/5)



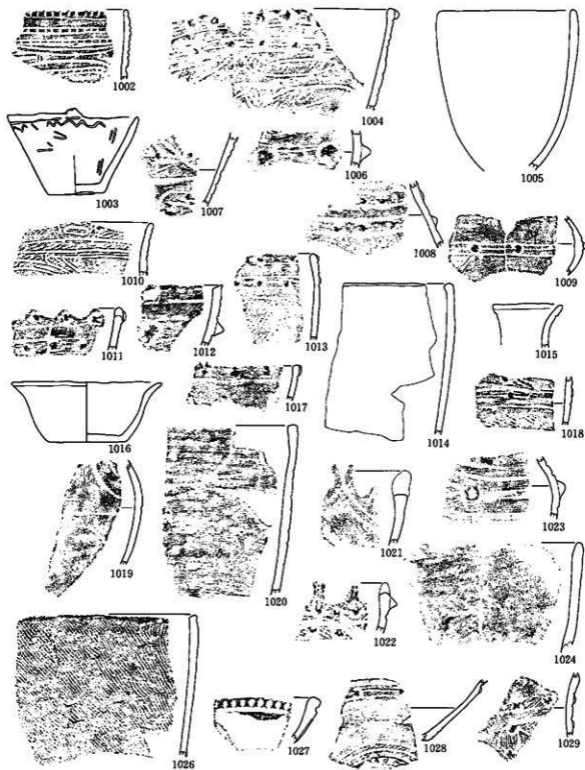
第95図 層で取りあげた土器引(S = 1/5)



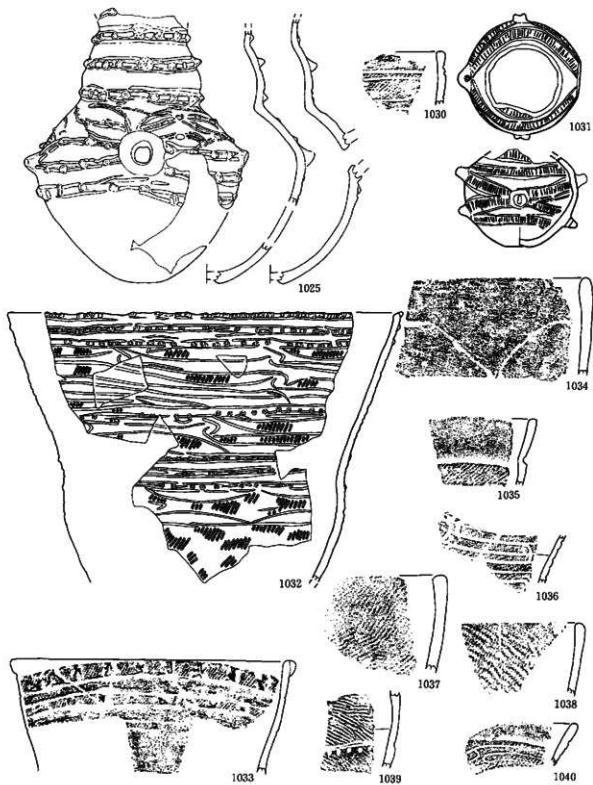
第96図 層で取りあげた土器50 (S=1/2)



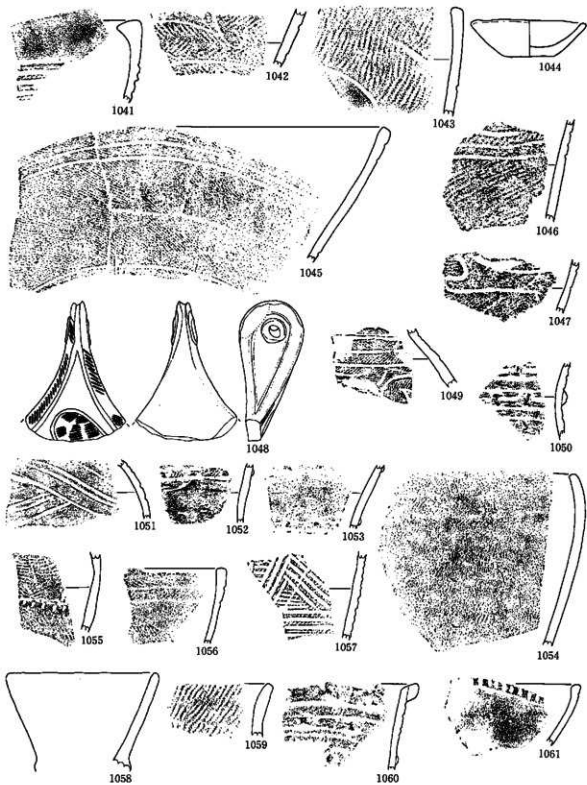
第97図 層で取りあげた土器53 (S=1/5)



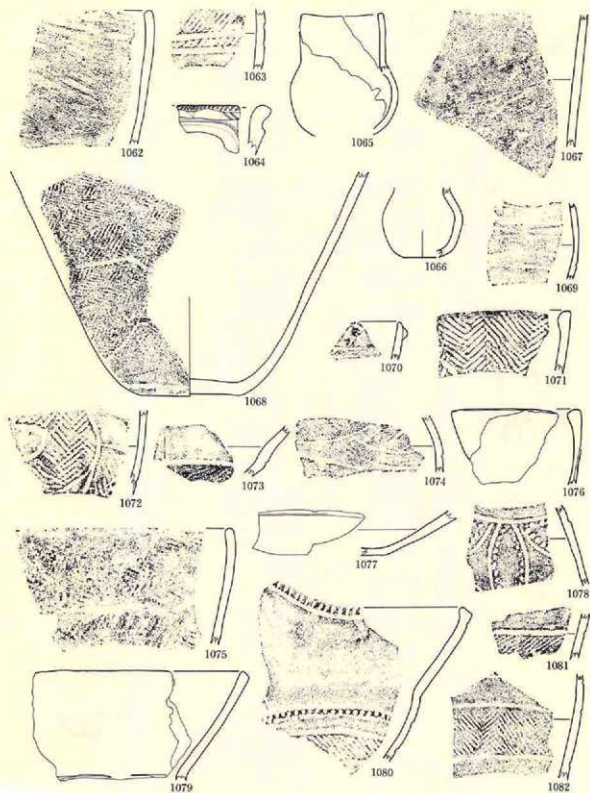
第98図 層で取りあげた土器54 (S=1/2)



第99図 層で取りあげた土器の断片 (S=1/6)



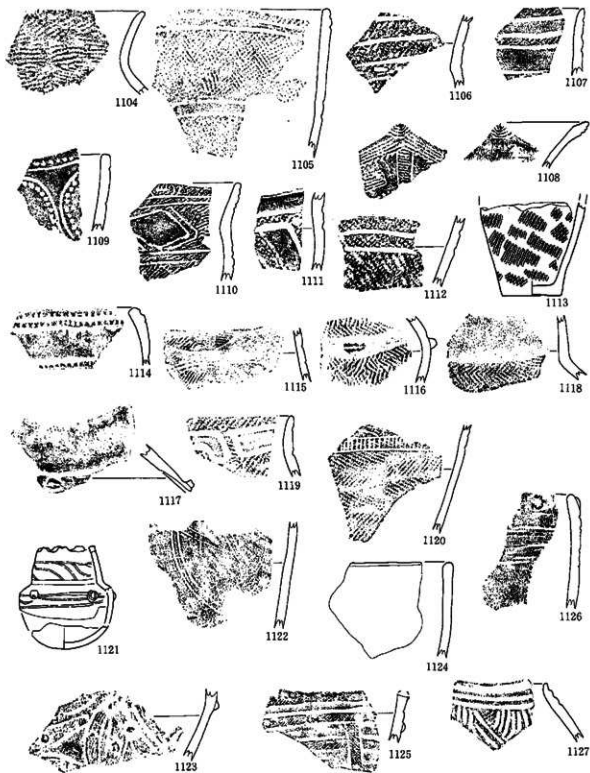
第100図 層で取りあげた土器56 (S=1/2)



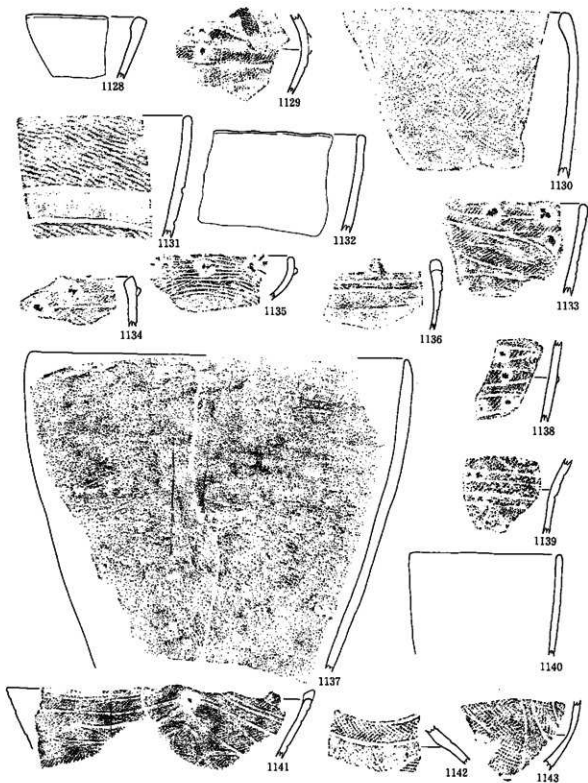
第101図 層で取りあげた土器57 (S=1/5)



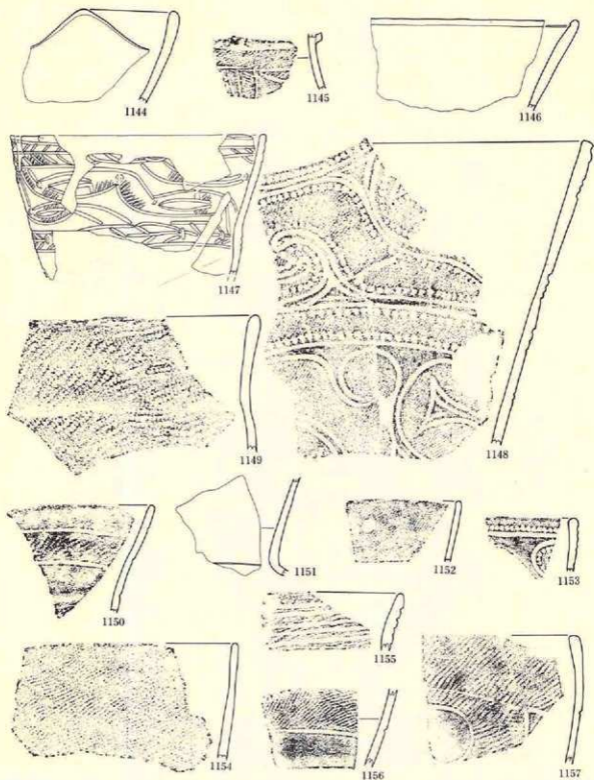
第102図 層で取りあげた土器50 (S=1/5)



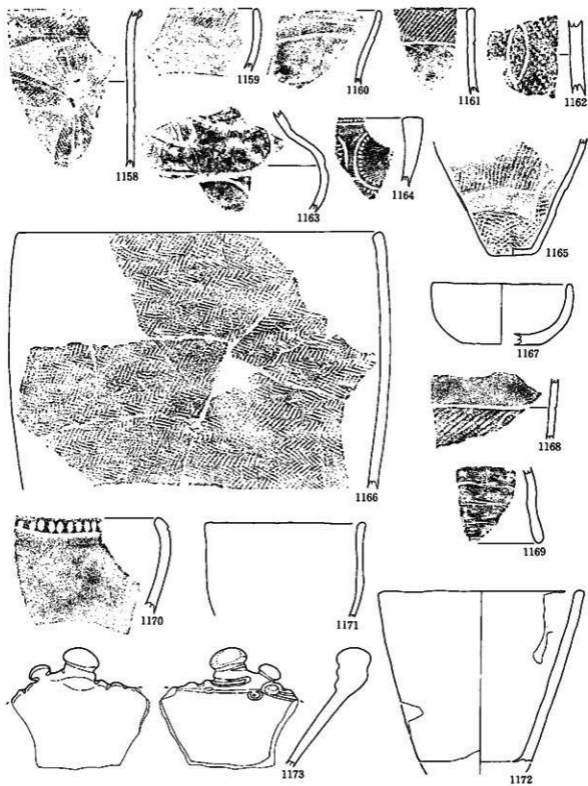
第103図 層で取りあげた土器59 (S=1/5)



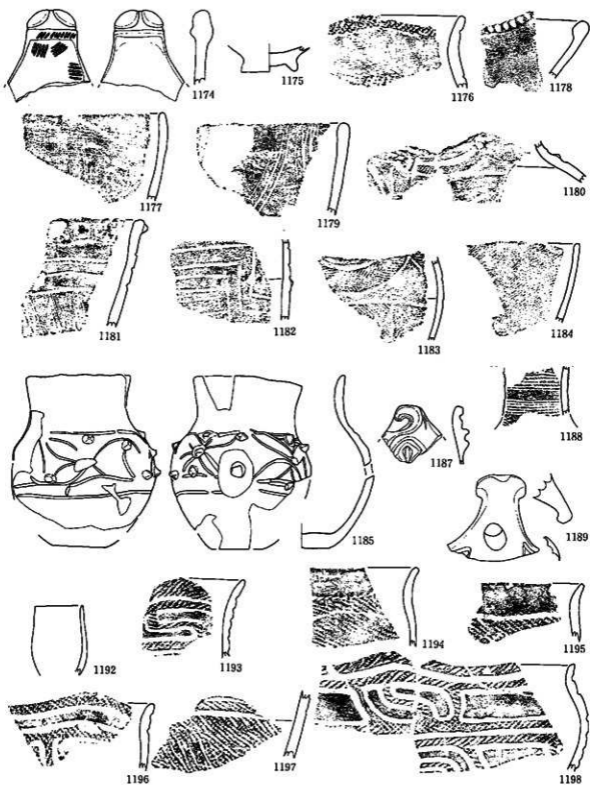
第104図 層で取りあげた土器60 (S=1/5)



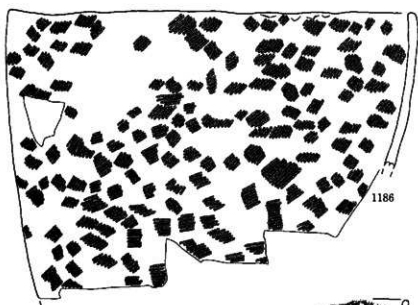
第105図 層で取りあげた土器(1) (S=1/5)



第106図 層で取りあげた土器62 (S=1/2)



第107図 層で取りあげた土器破片 (S=1/5)



1186



1199



1200



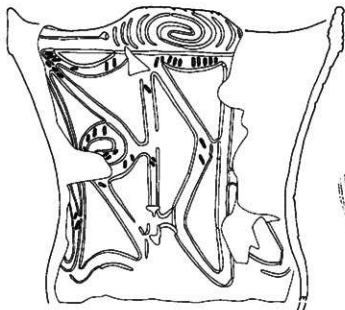
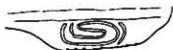
1202



1201



1203



1190

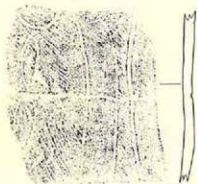
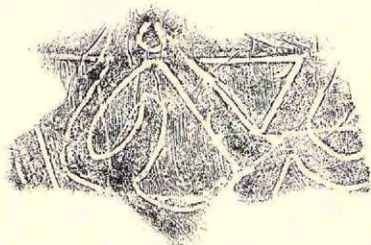


1204

第108図 層で取りあげた土器群(S=1/2)



1191



1205



1206



1207

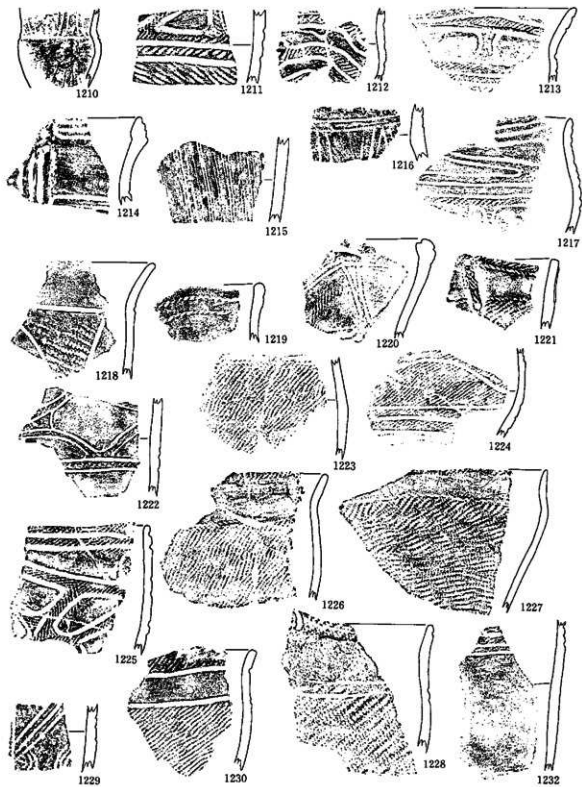


1208

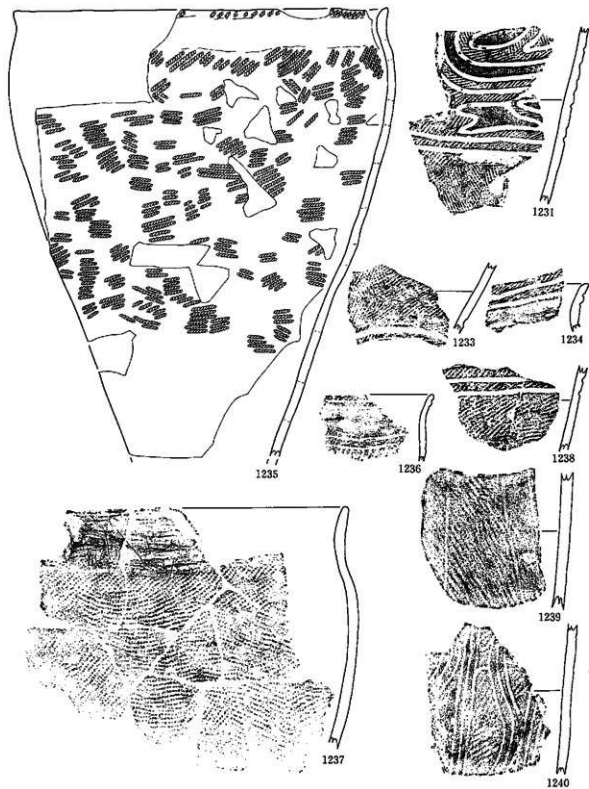


1209

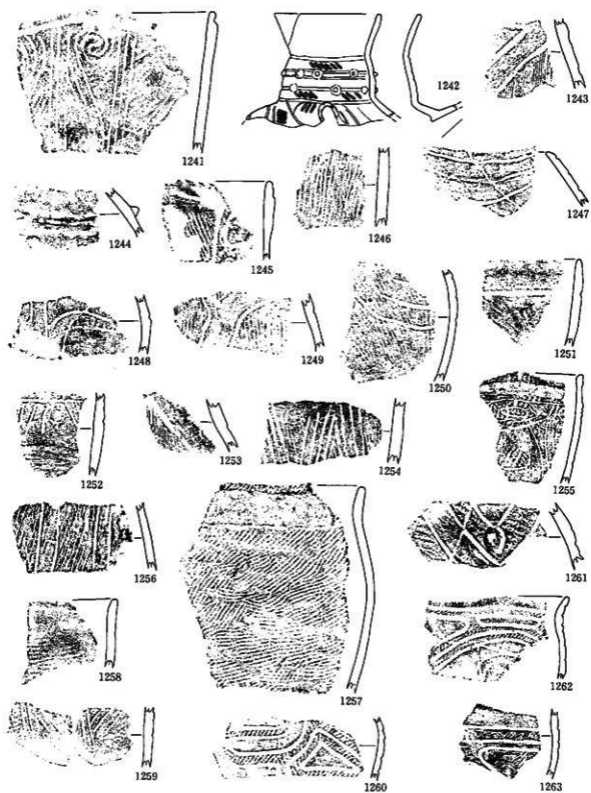
第109図 層で取りあげた土器55 (S=1/5)



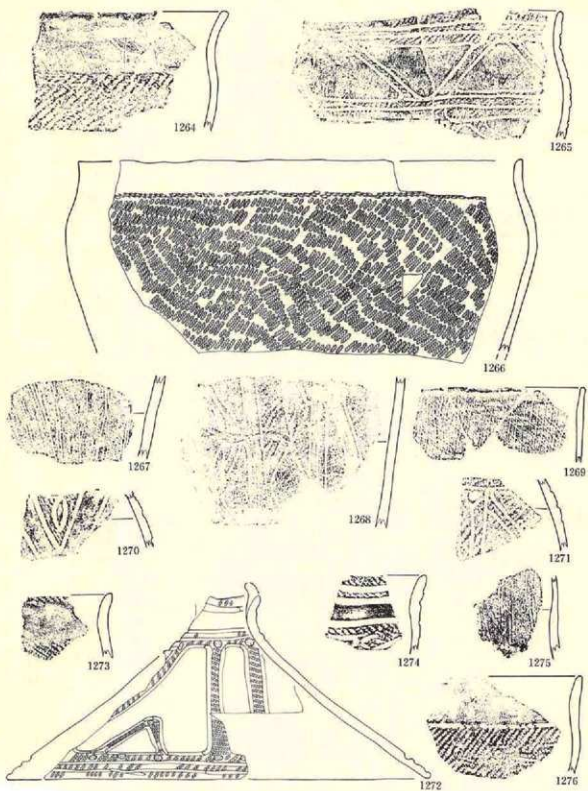
第110図 層で取りあげた土器60 (S=1/5)



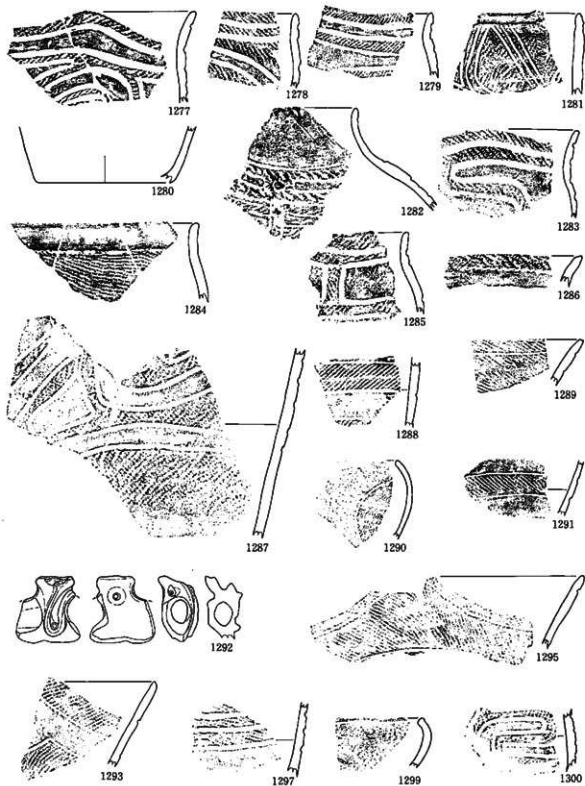
第1111図 層で取りあげた土器初 (S=1/5)



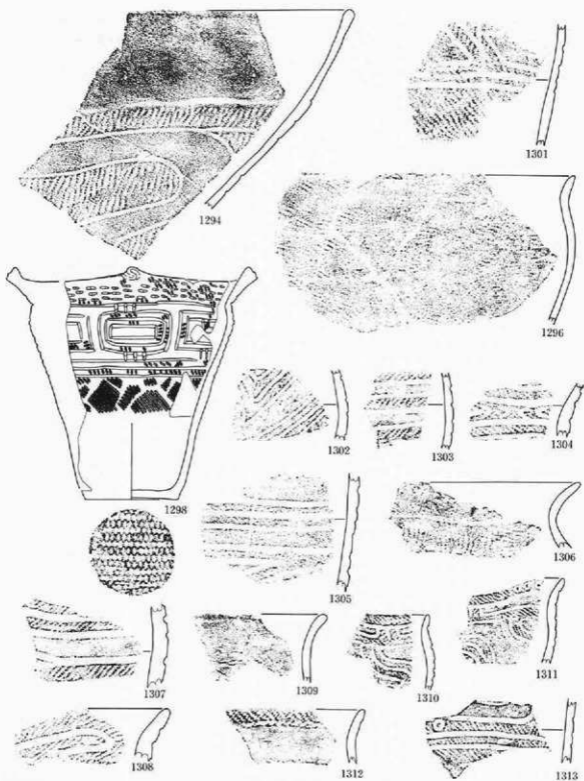
第112図 層で取りあげた土器破片 (S=1/5)



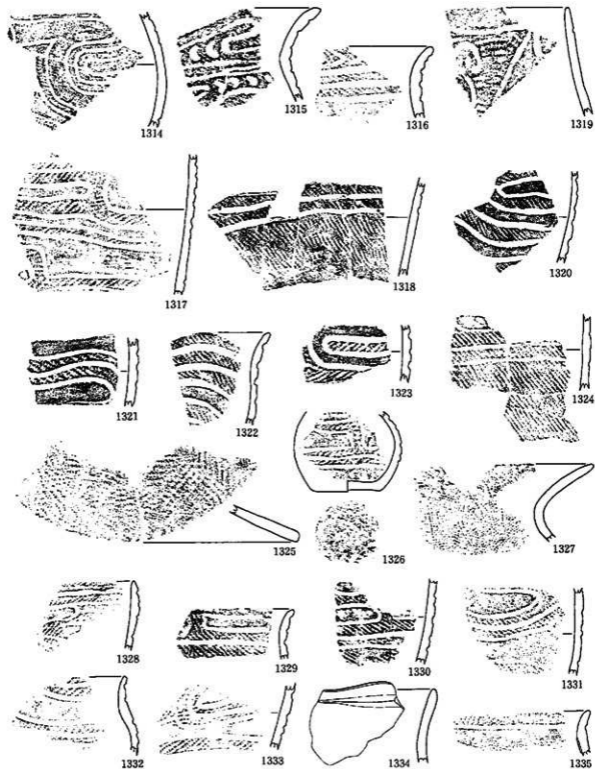
第113圖 層で取りあげた土器69 (S = 1/5)



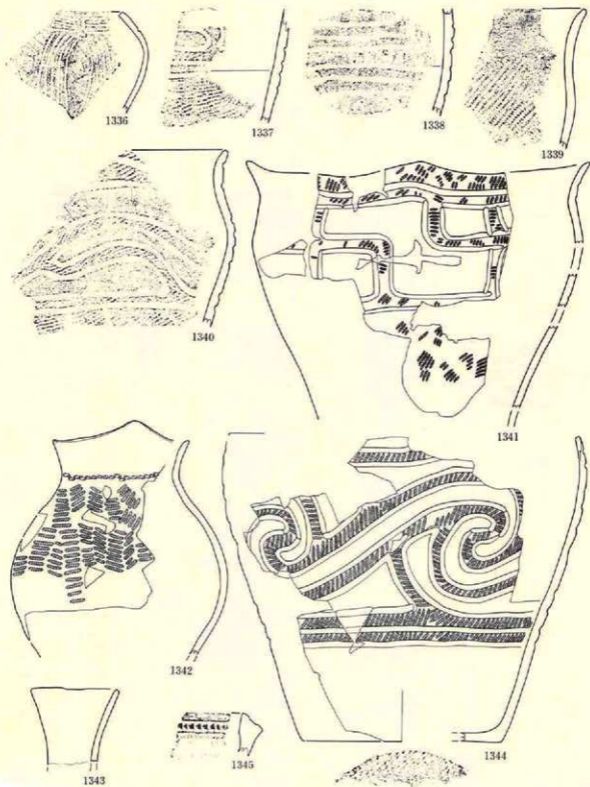
第114図 層で取りあげた土器片(S=1/2)



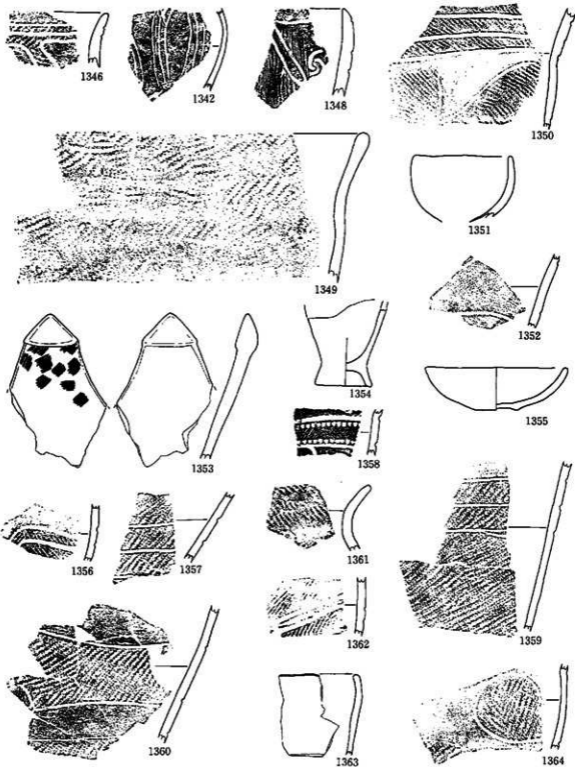
第115図 層で取りあげた土器片(S=1/5)



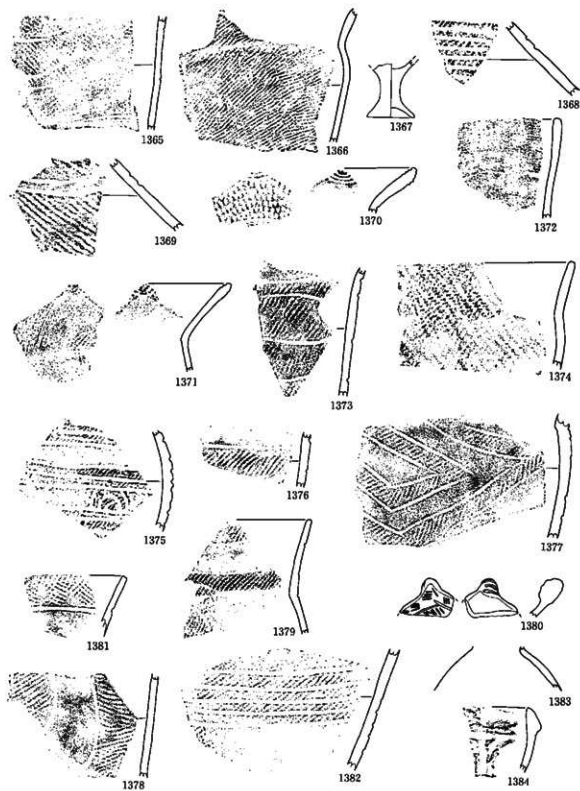
第116図 層で取りあげた土器片 (S=1/5)



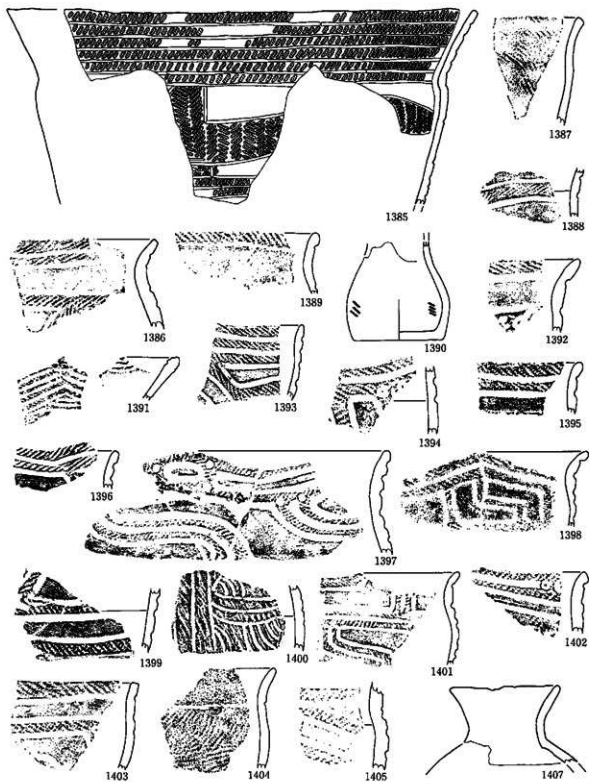
第117図 層で取りあげた土器(73 (S=1/5))



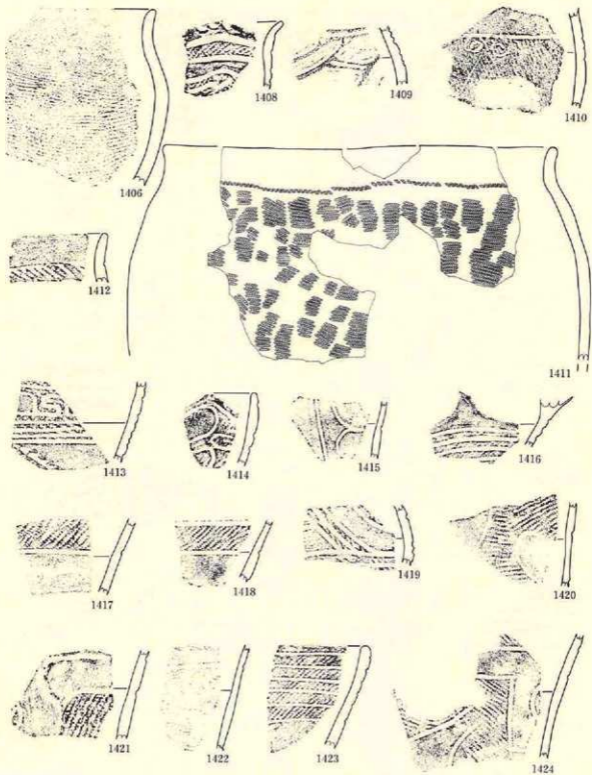
第118図 層で取りあげた土器片(S=1/2)



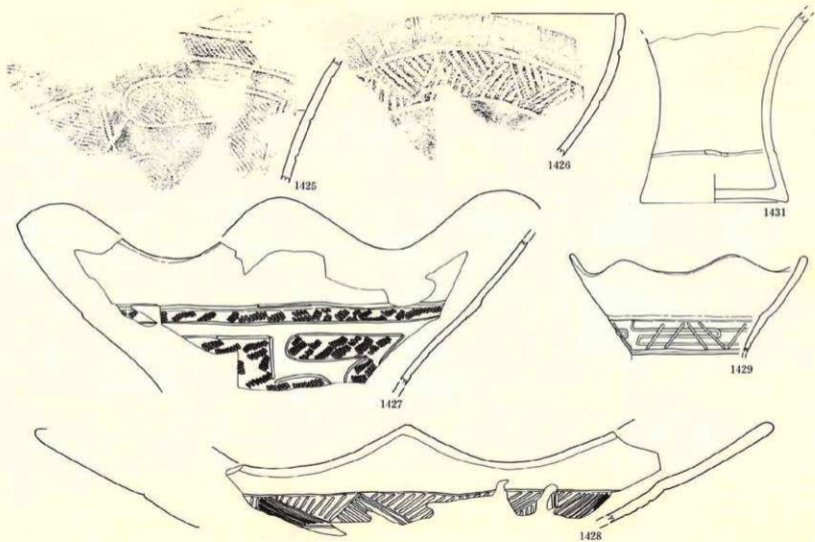
第119図 層で取りあげた土器の9 (S=1/5)



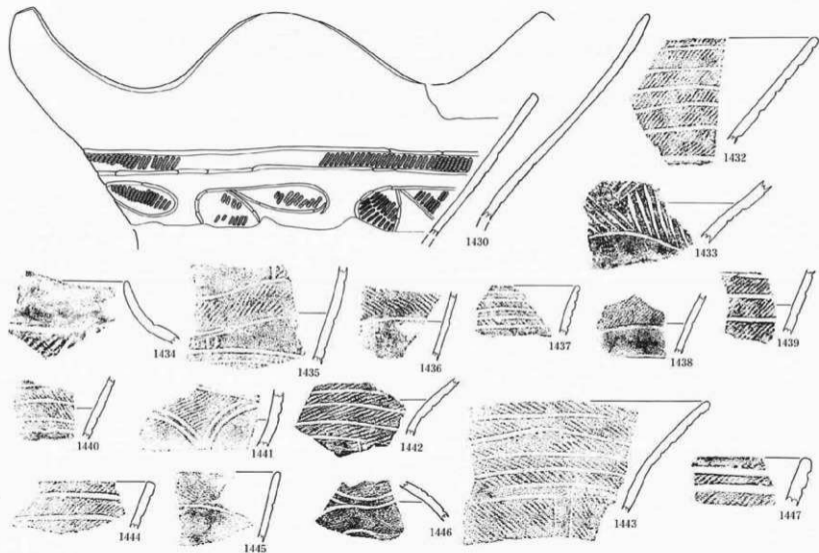
第120図 層で取りあげた土器06 (S=1/5)



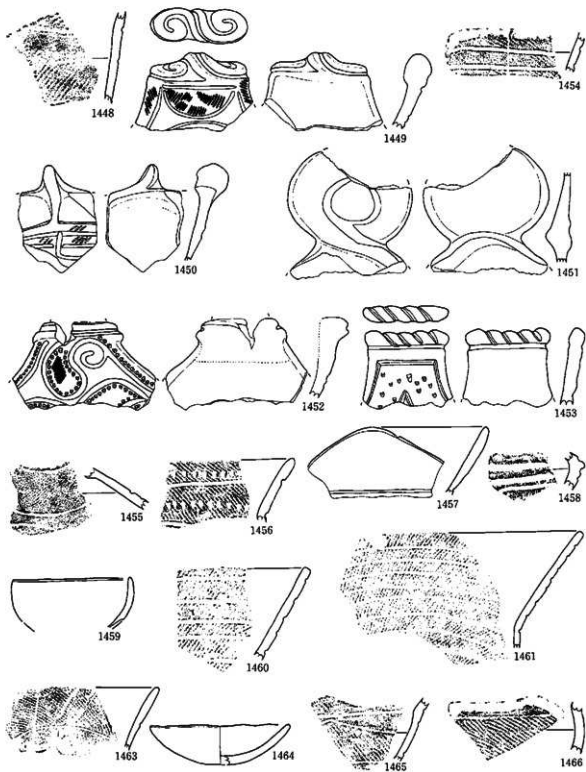
第121図 層で取りあげた土器の(7) (S=1/5)



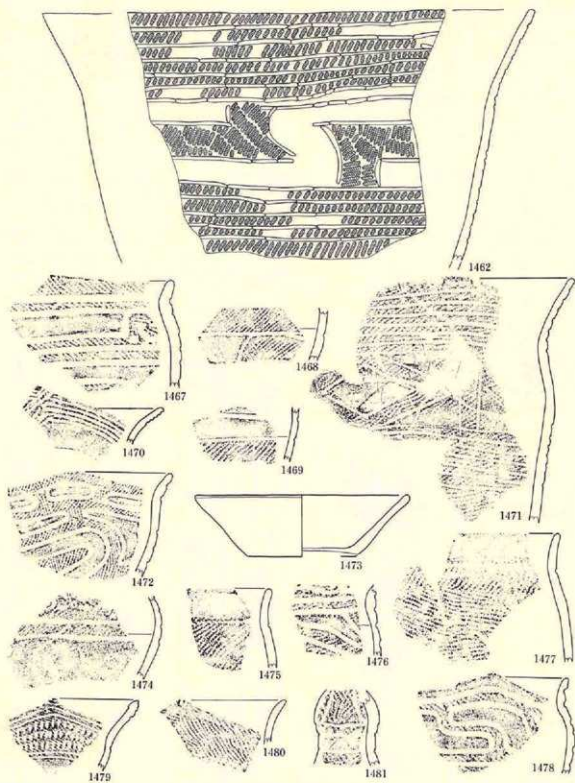
第122回 層で取りあげた土器7例 (S=1/5)



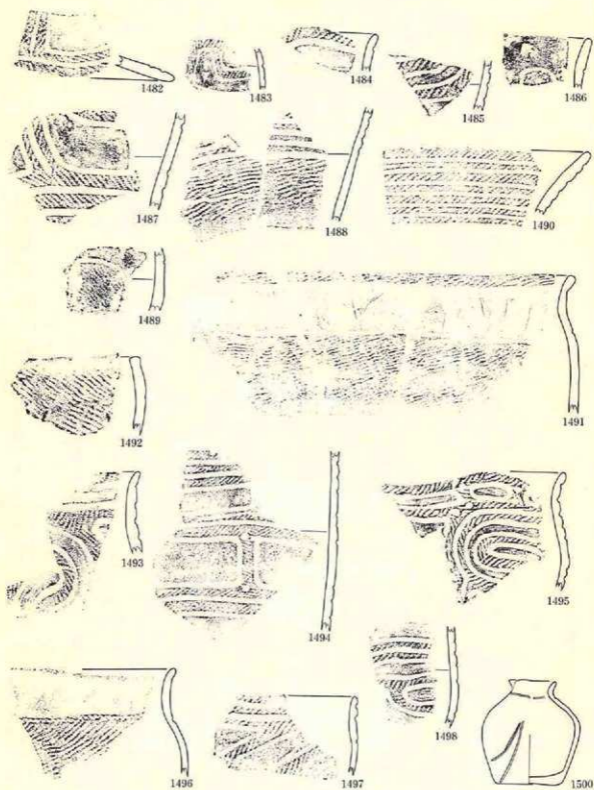
第123図 層で取りあげた土器79 (S = 1/5)



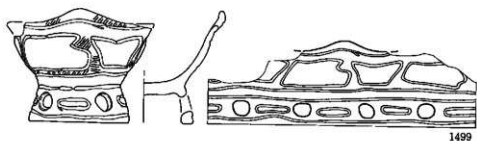
第124図 層で取りあげた土器片 (S=1/3)



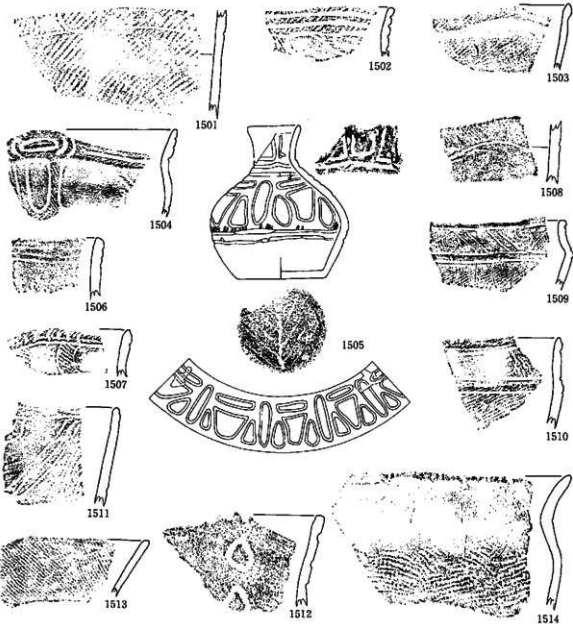
第125図 層で取りあげた土器④(1/5)



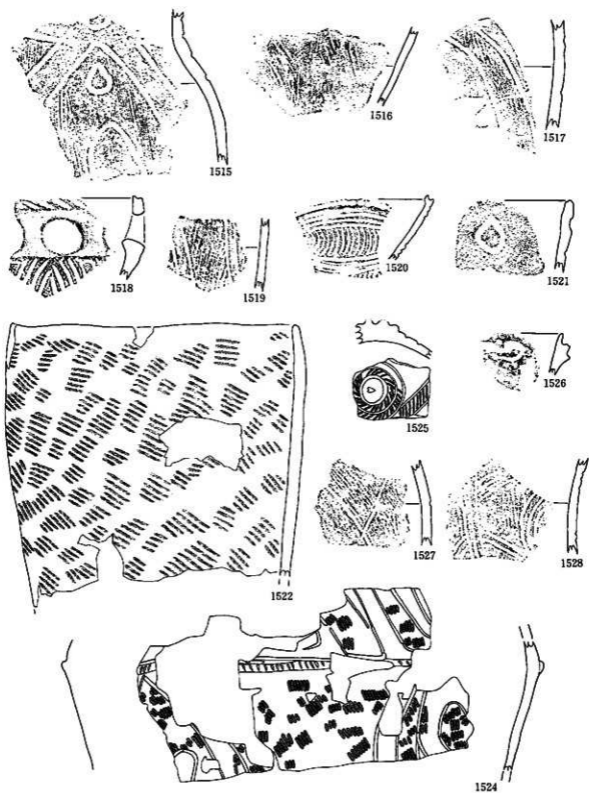
第126図 層で取りあげた土器② (S=1/5)



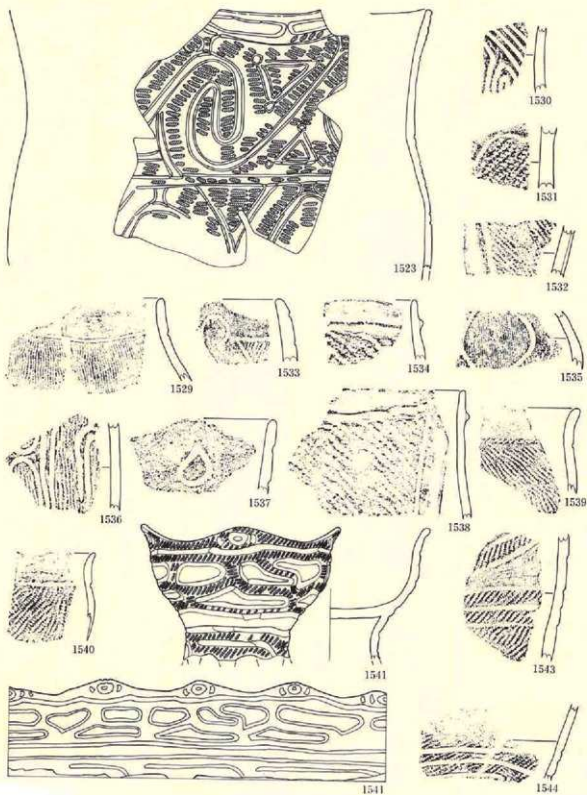
1499



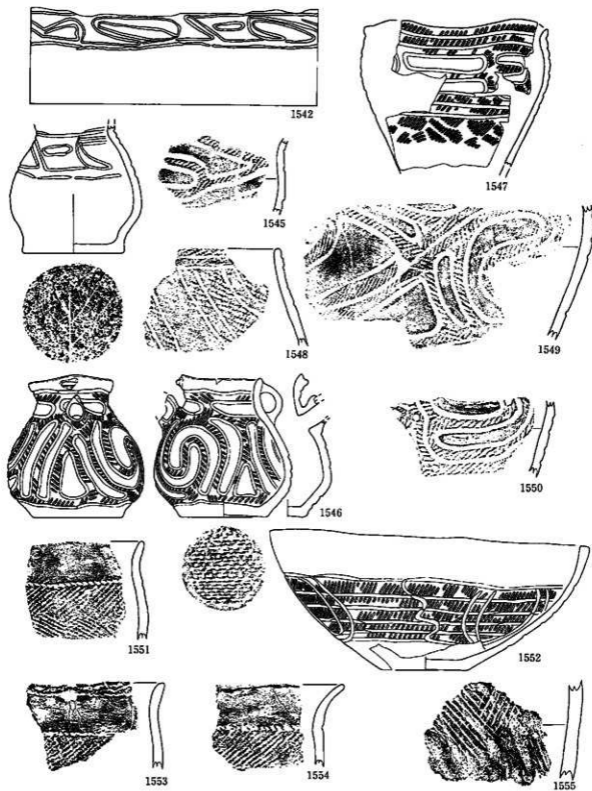
第127図 層で取りあげた土器群 (S=1/5)



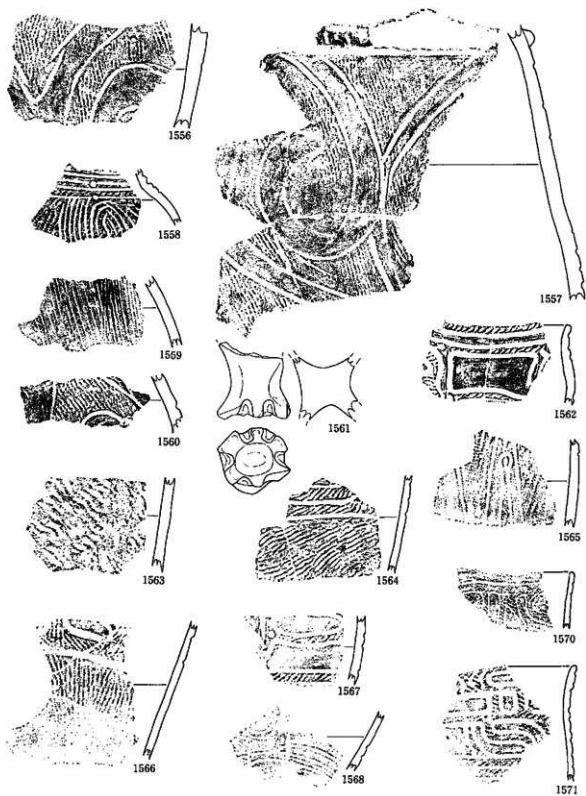
第128図 層で取りあげた土器群 (S=1/5)



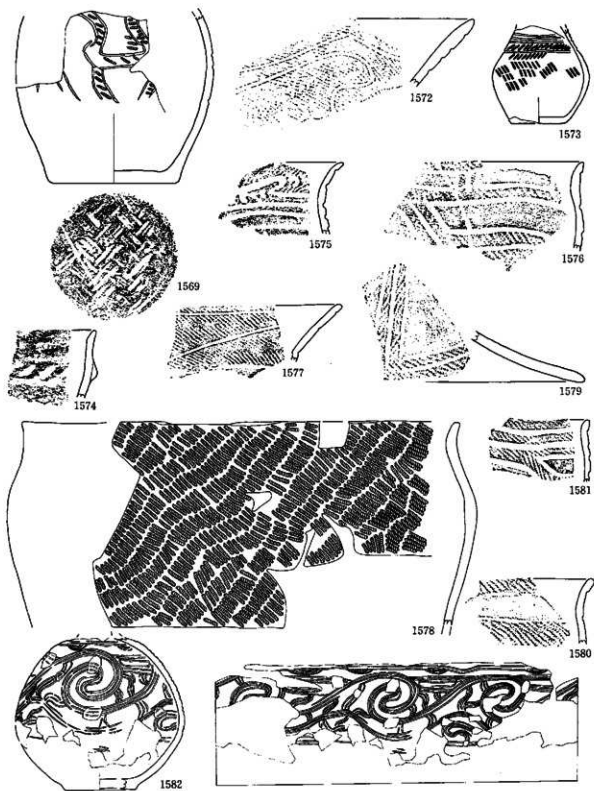
第129図 層で取りあげた土器85 (S=1/6)



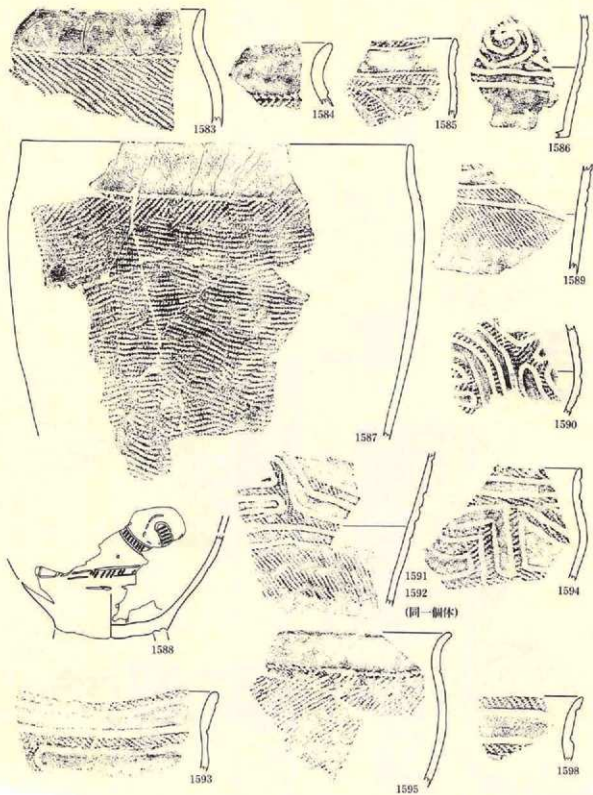
第130図 層で取りあげた土器断片 (S=1/5)



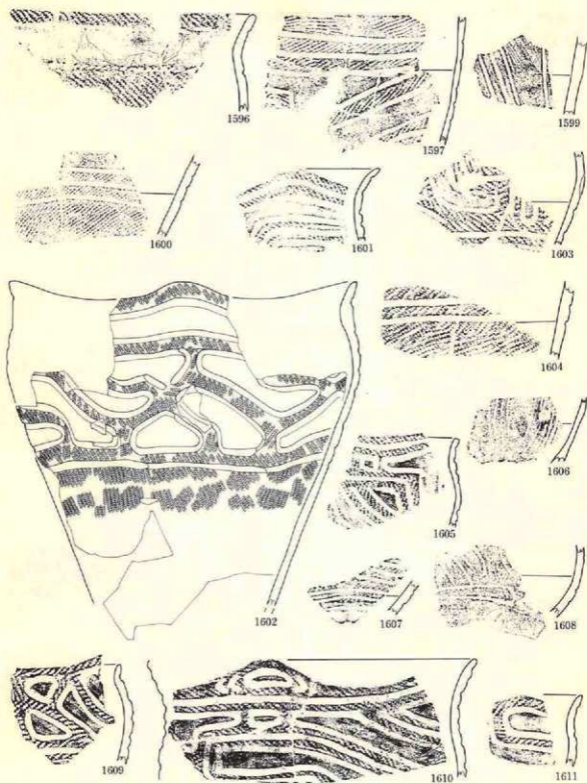
第131図 層で取りあげた土器断片 (S=1/5)



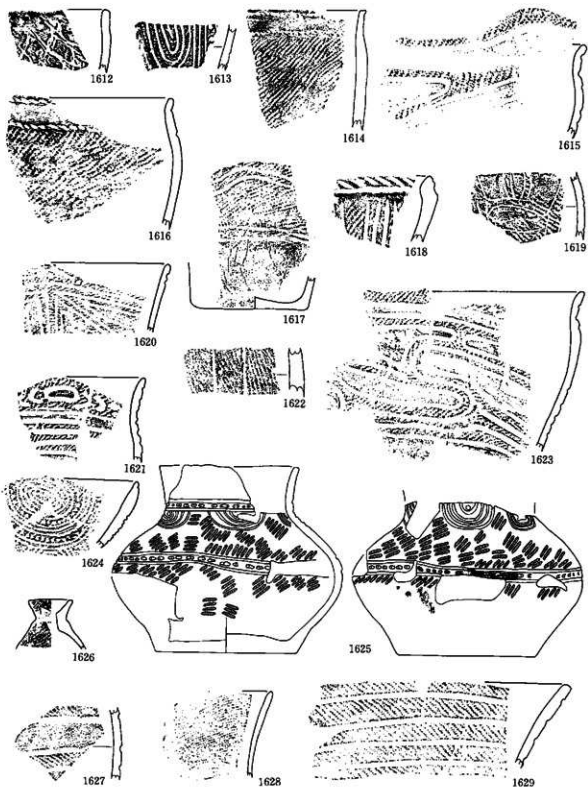
第132図 層で取りあげた土器類 (S = 1/2)



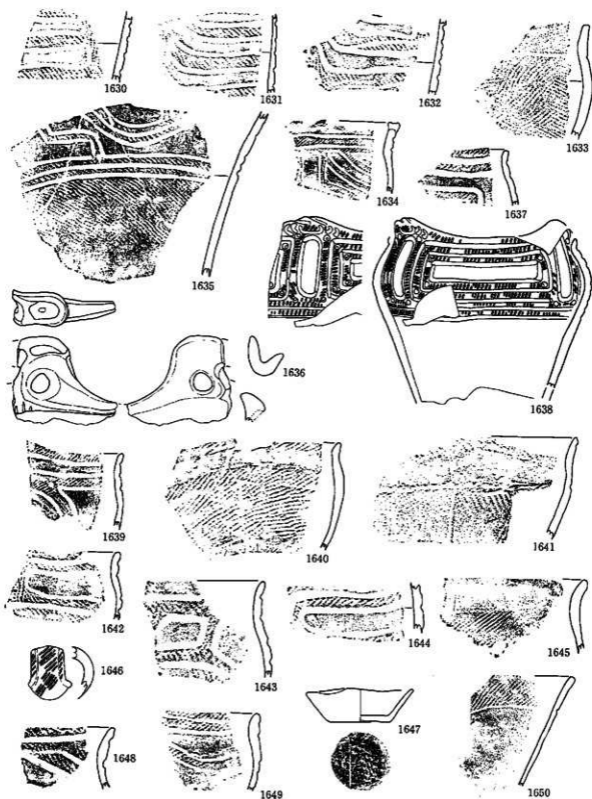
第133図 層で取りあげた土器⑧ (S=1/5)



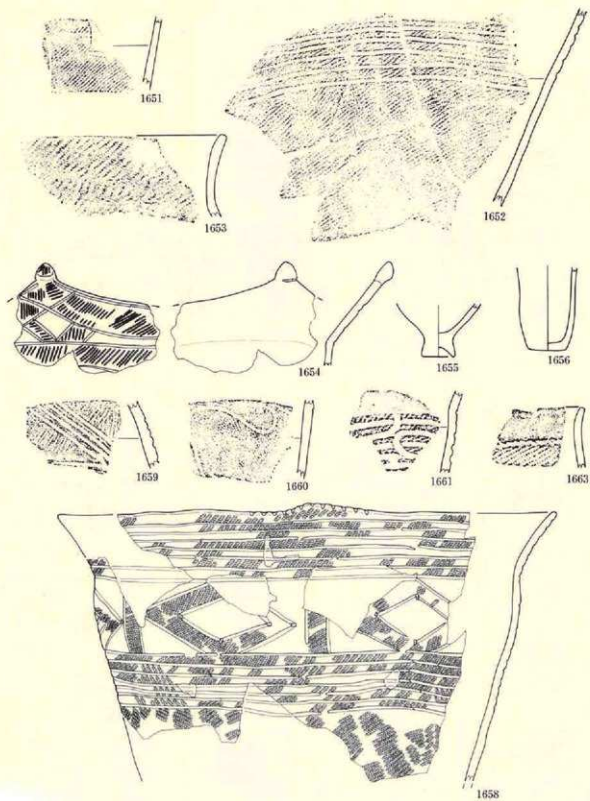
第134図 層で取りあげた土器99 (S = 1/5)



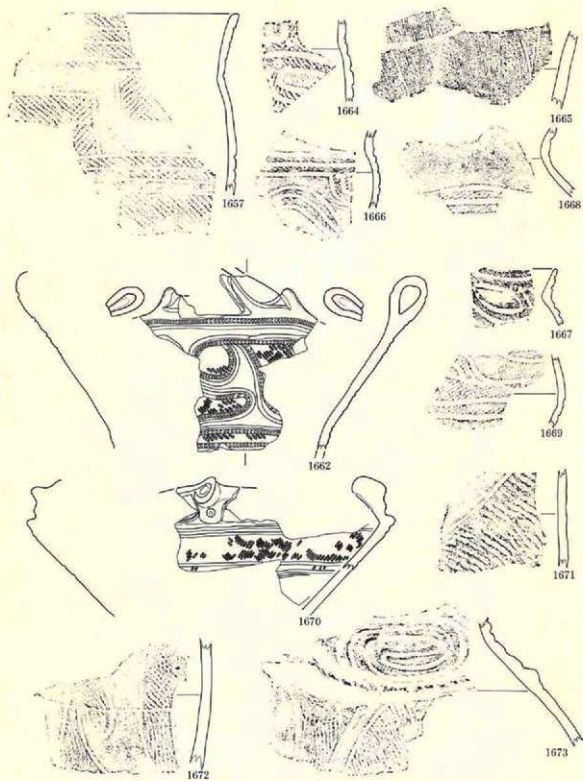
第135図 層で取りあげた土器⑨ (S=1/5)



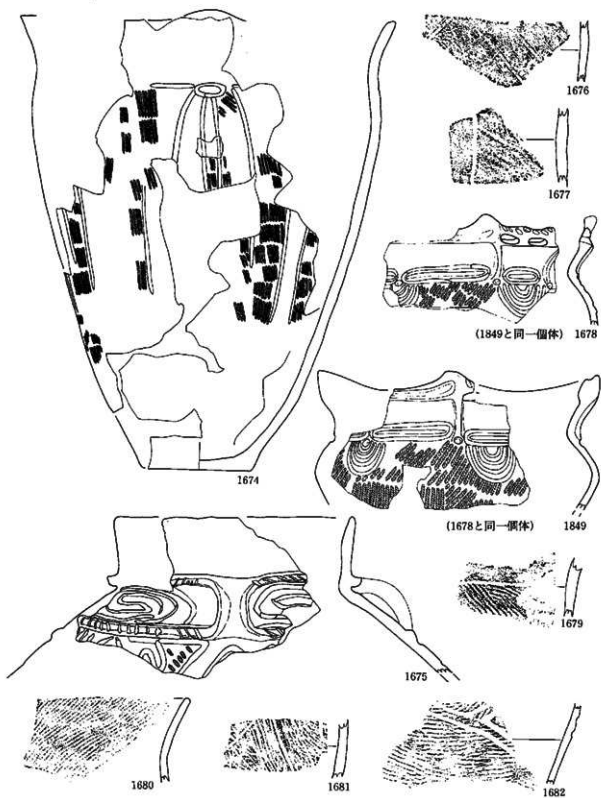
第136図 層で取りあげた土器② (S=1/5)



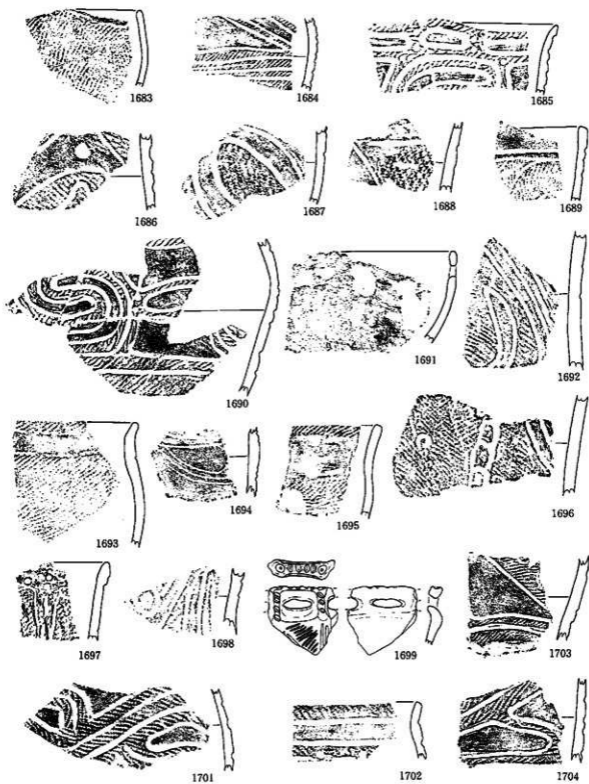
第137図 層で取りあげた土器30 (S=1/5)



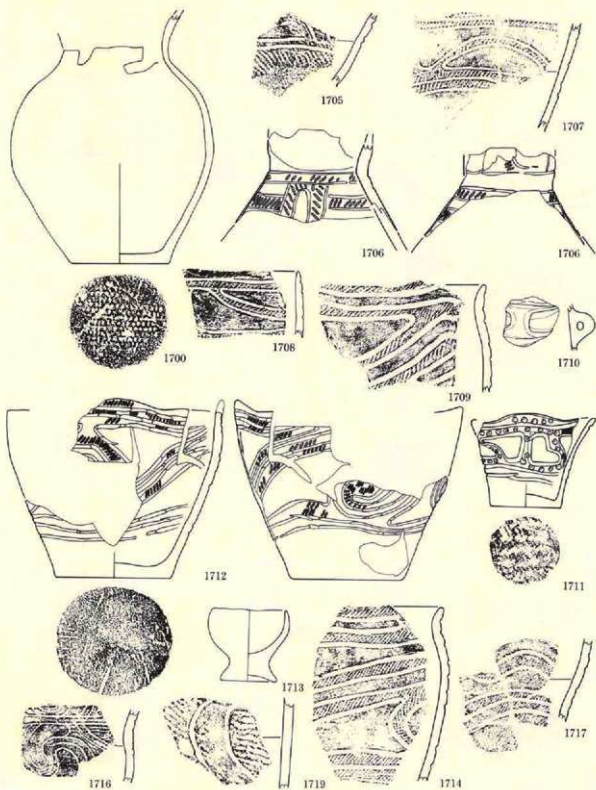
第138図 層で取りあげた土器94 (S=1/5)



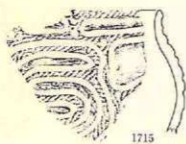
第139図 層で取りあげた土器群 (S=1/5)



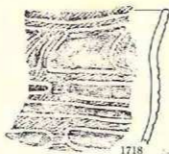
第140図 層で取りあげた土器の片 (S=1/5)



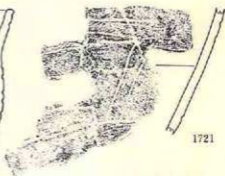
第141図 層で取りあげた土器⑦ (S=1/3)



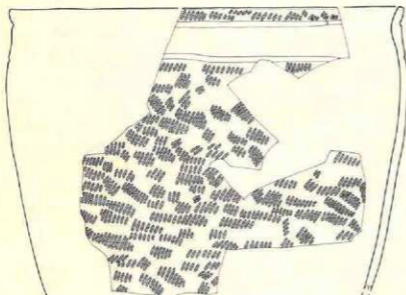
1715



1718



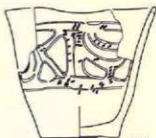
1721



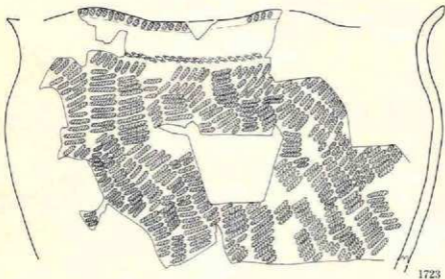
1722



1720

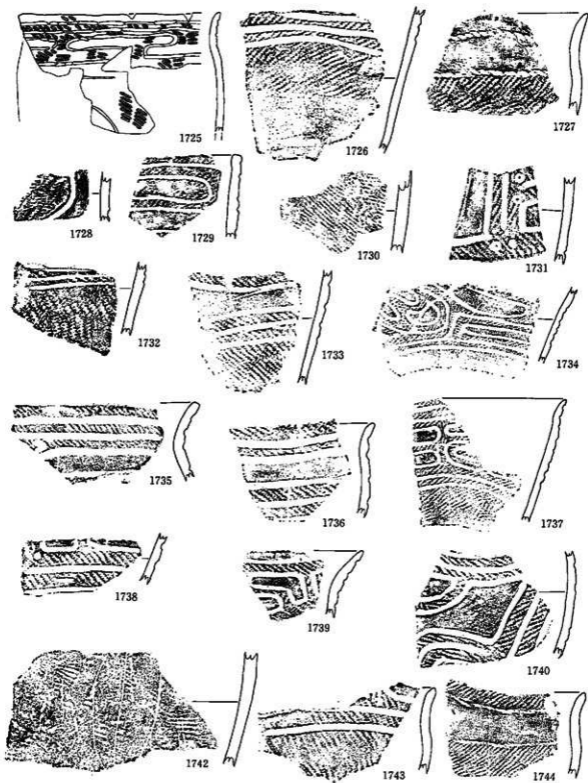


1724

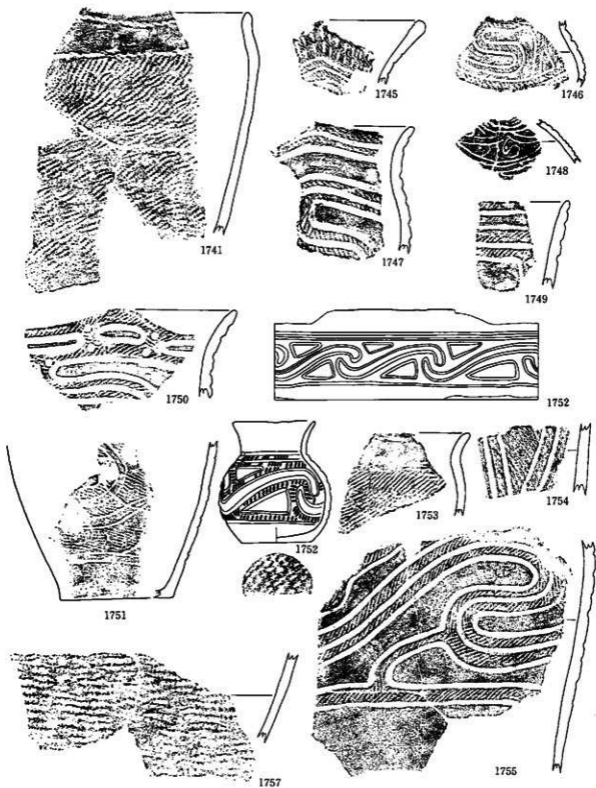


1723

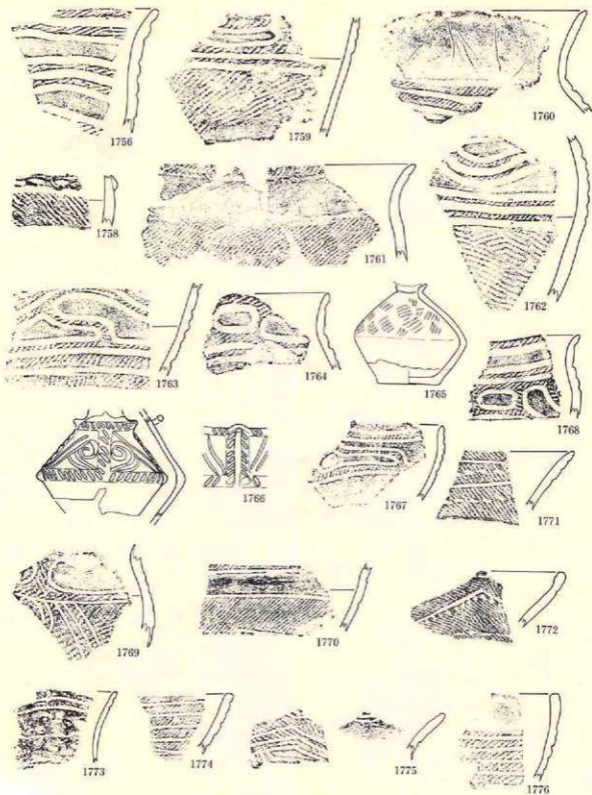
第142図 層で取りあげた土器98 (S=1/5)



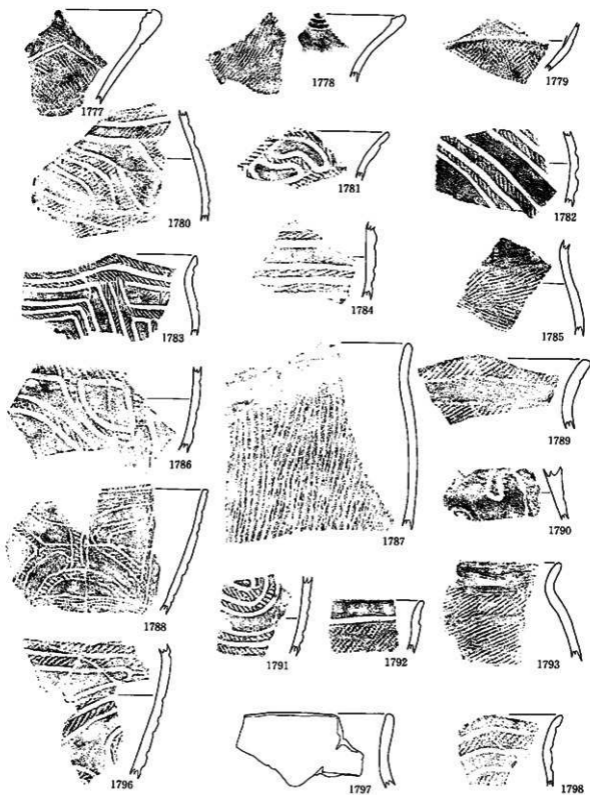
第143図 層で取りあげた土器例 (S=1/5)



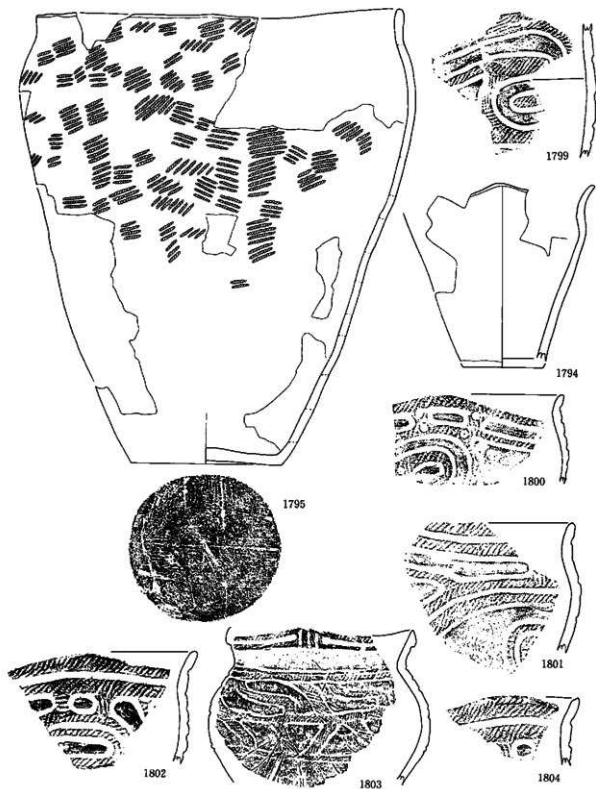
第144図 層で取りあげた土器(100) (S=1/5)



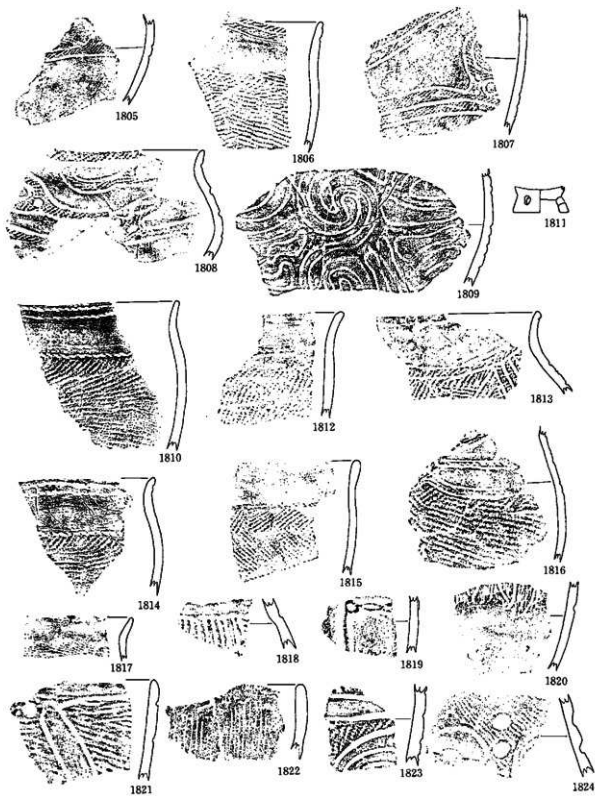
第145図 層で取りあげた土器(101) (S=1/5)



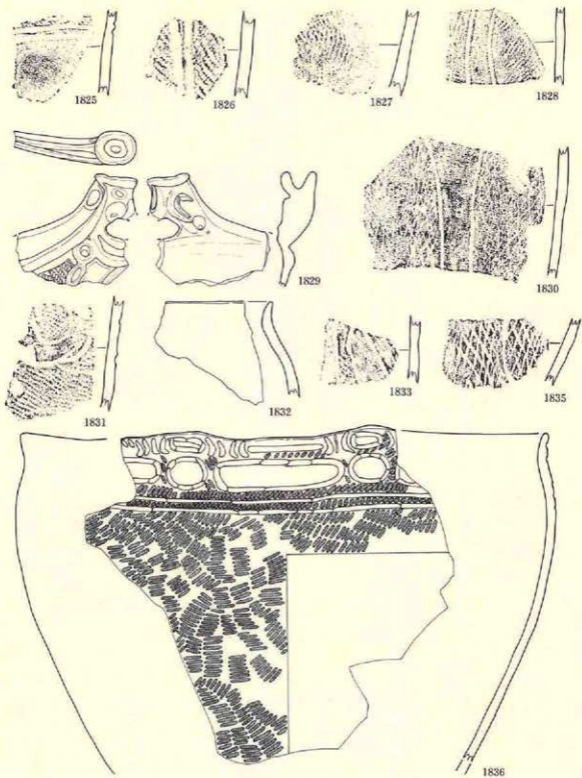
第146図 層で取りあげた土器(102) (S=1/2)



第147圖 層で取りあげた土器(103) (S = 1/2)



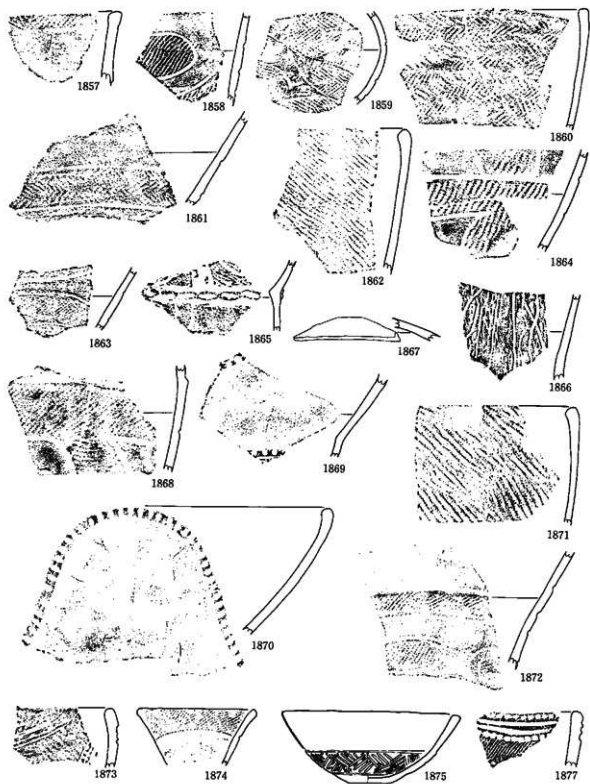
第148図 層で取りあげた土器(104) (S=1/5)



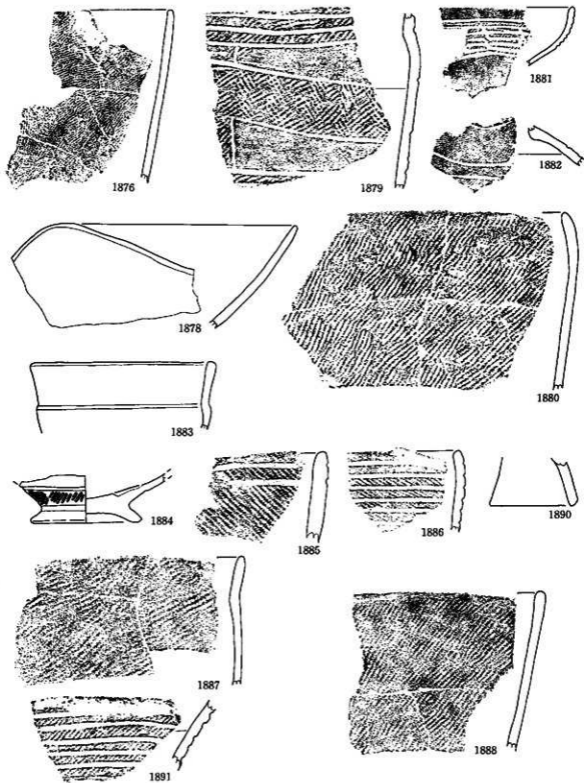
第149図 層で取りあげた土器(105) (S=1/5)



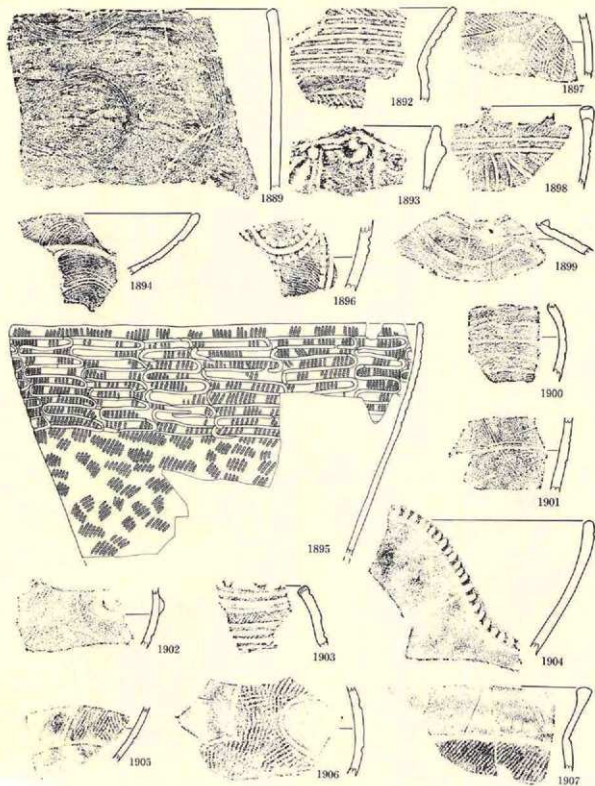
第150図 層で取りあげた土器(106) (S = 1/5)



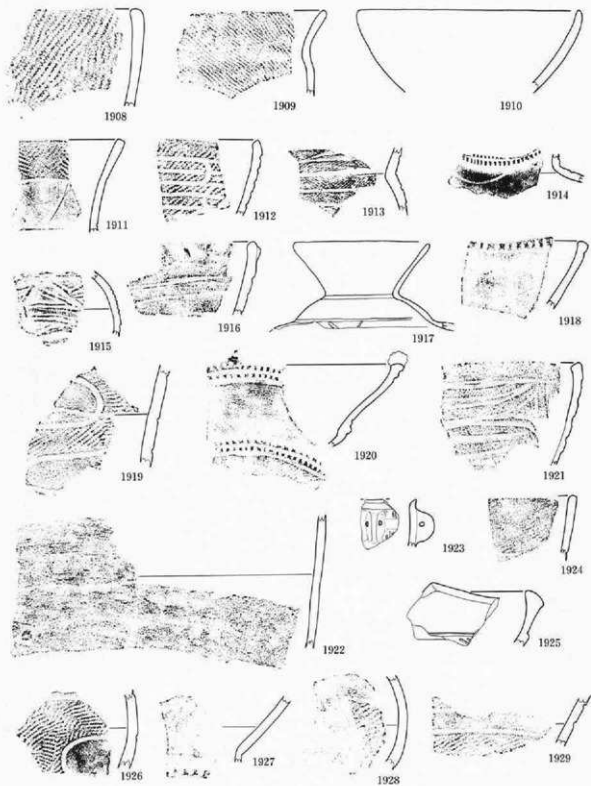
第151図 層で取りあげた土器(107) (S=1/4)



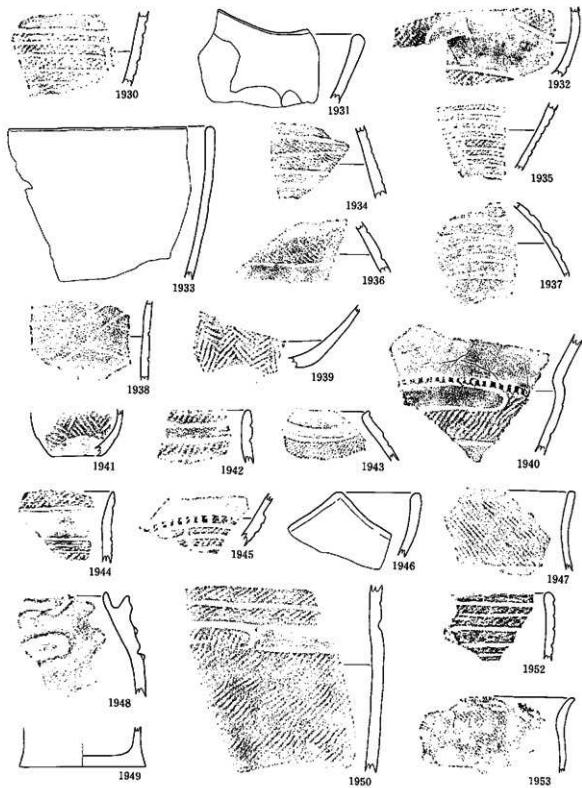
第152圖 層で取りあげた土器(108) (S=1/5)



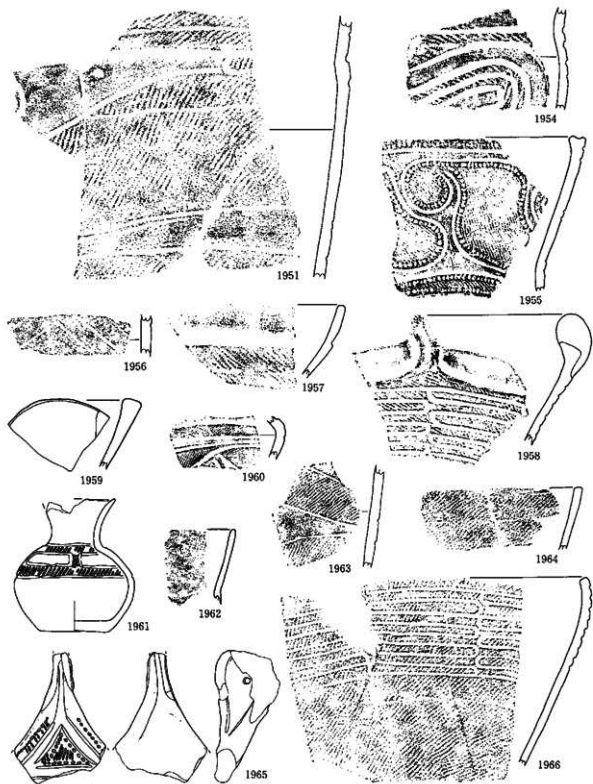
第153図 層で取りあげた土器(119) (1895は $\frac{1}{4}$ 他は $\frac{1}{5}$)



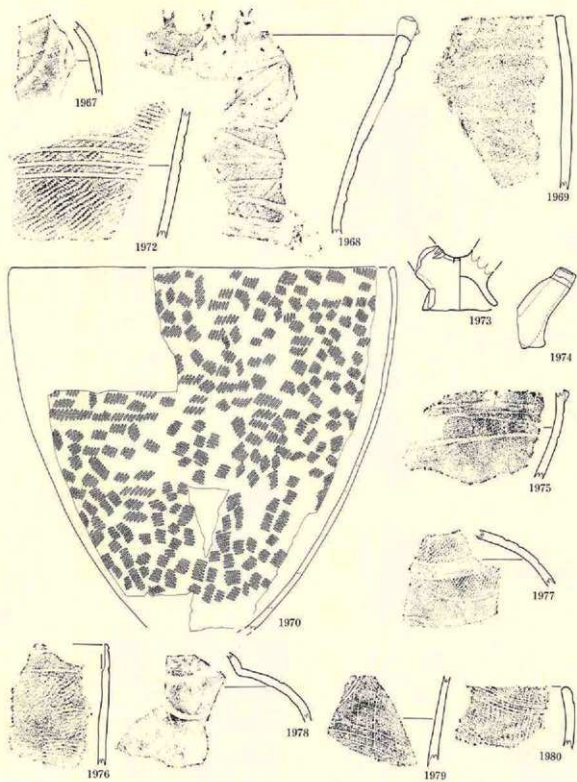
第154図 層で取りあげた土器(110) (S=1/5)



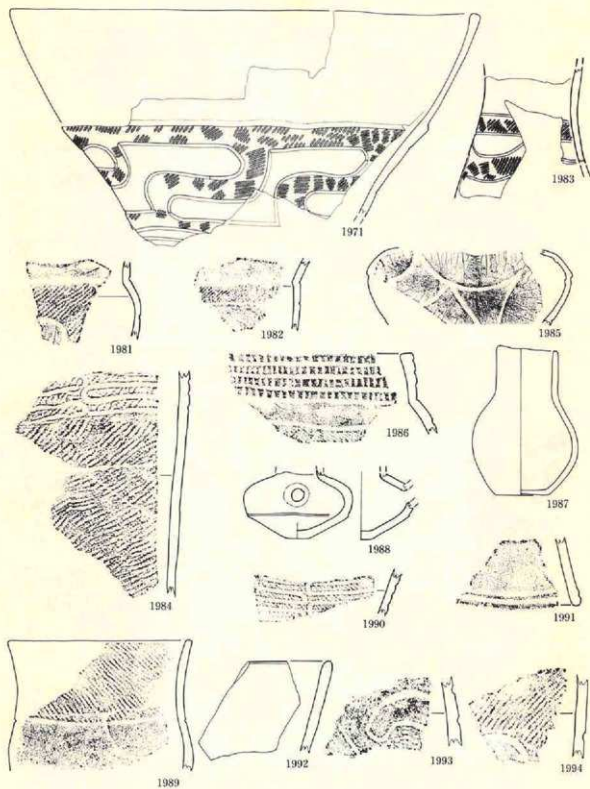
第155図 層で取りあげた土器(111) (S=1/2)



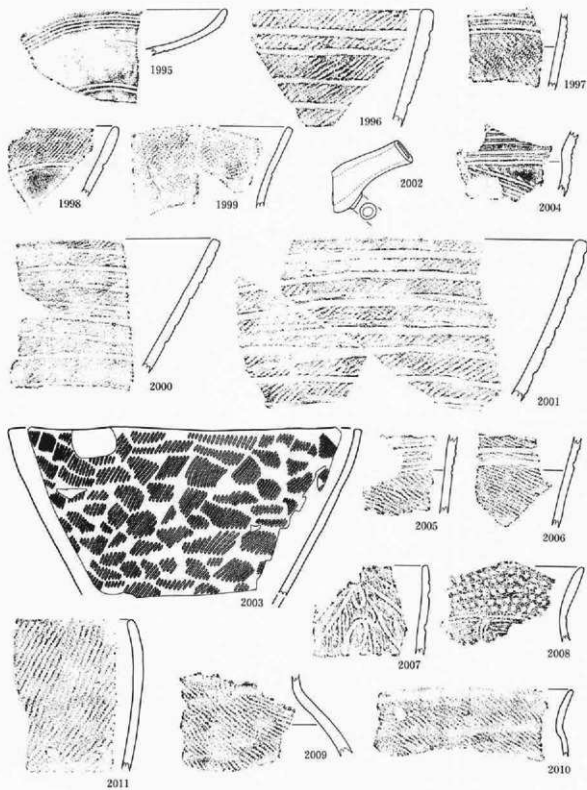
第156図 層で取りあげた土器(112) (S=1/2)



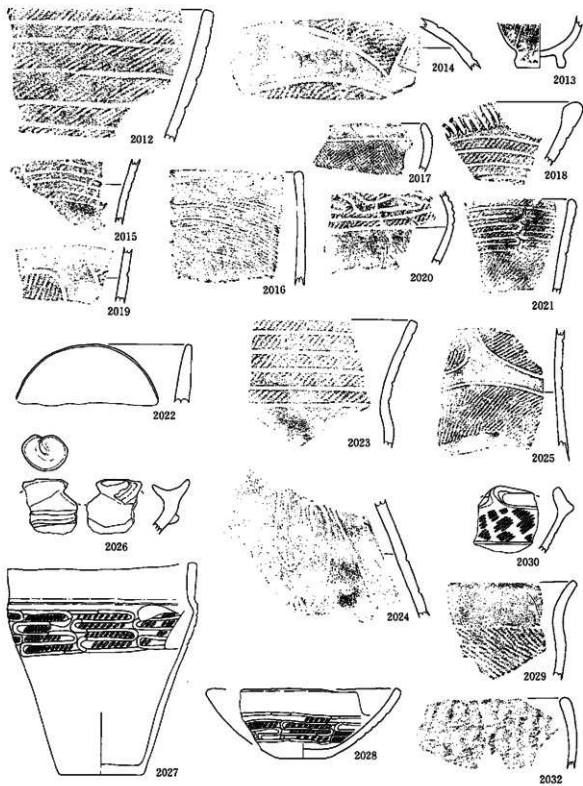
第157図 層で取りあげた土器(118) (1970は $\frac{1}{4}$ 他は $\frac{1}{2}$)



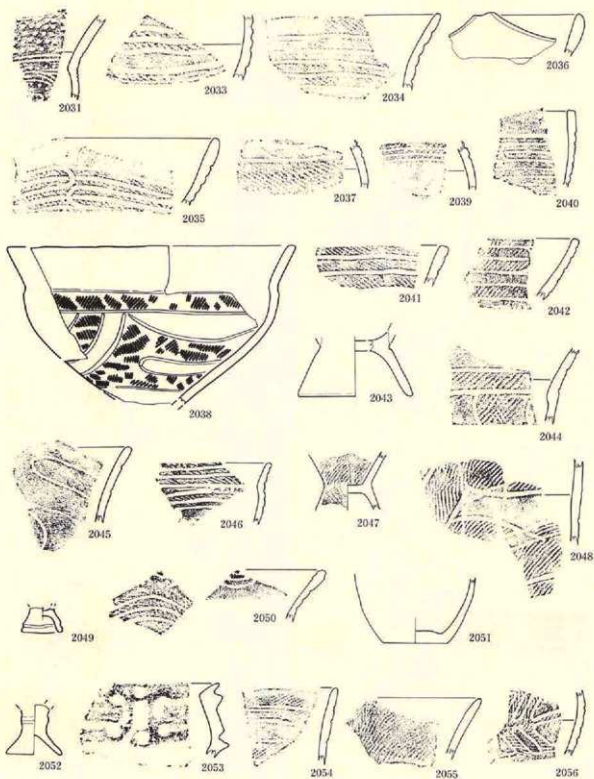
第158図 層で取りあげた土器(114) (1971は $\frac{1}{2}$ 他は $\frac{1}{4}$)



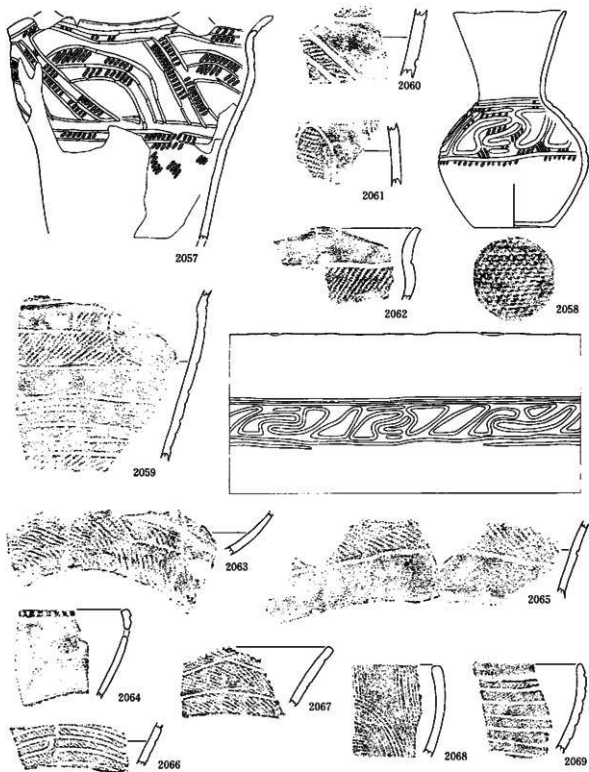
第159図 層で取りあげた土器(115) (S=1/5)



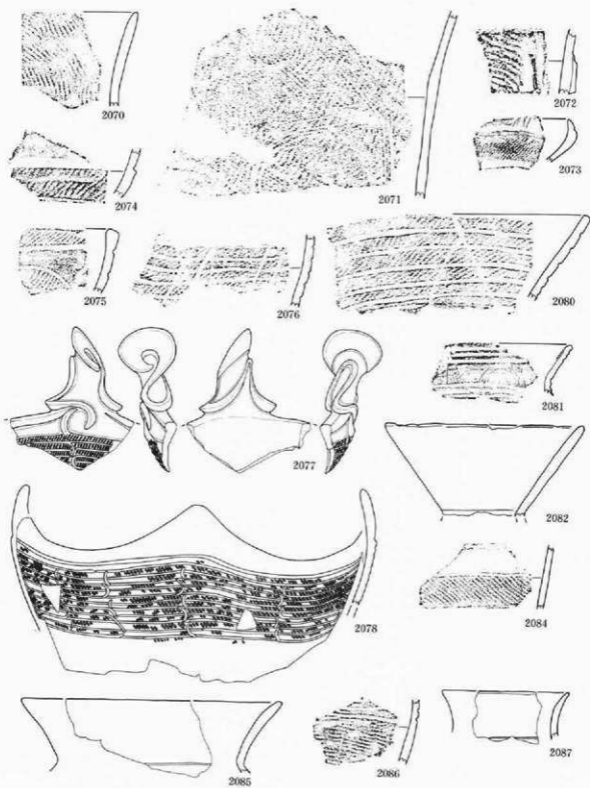
第160図 層で取りあげた土器(116) (S = 1/5)



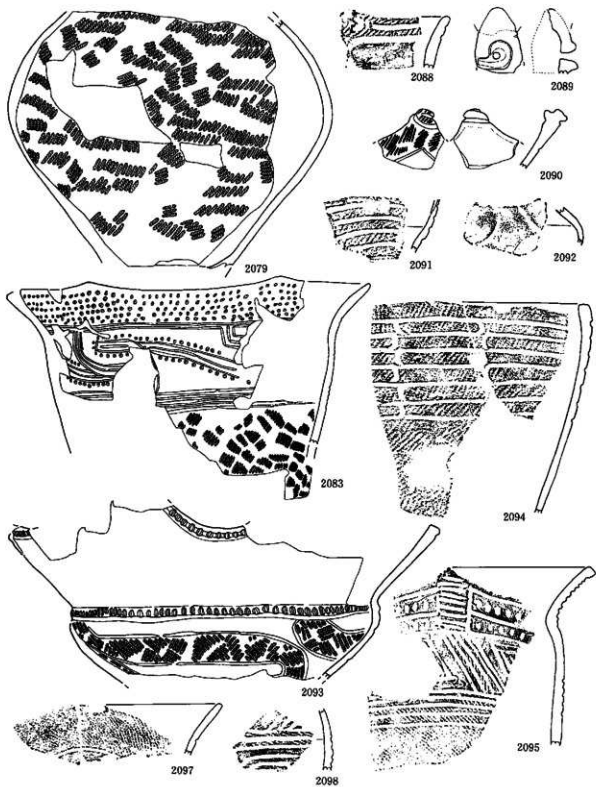
第161図 層で取りあげた土器(117) (S=1/5)



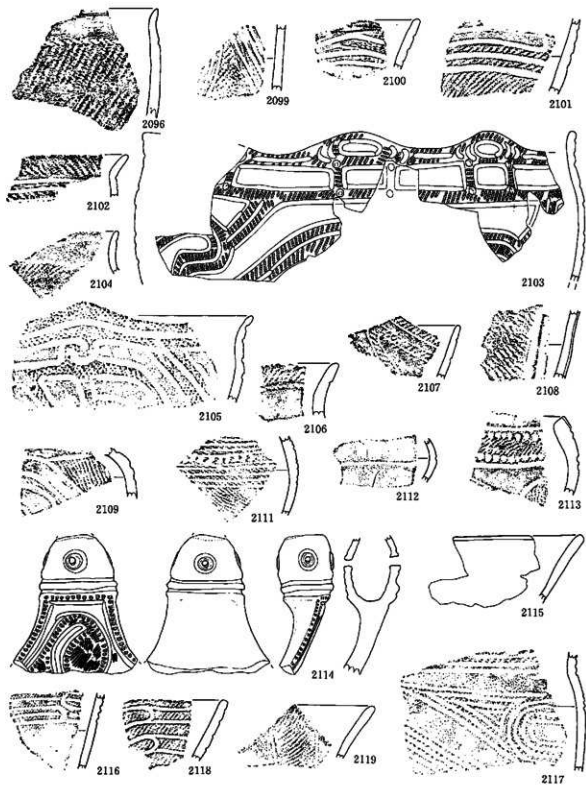
第162図 層で取りあげた土器(118) (S=1/2)



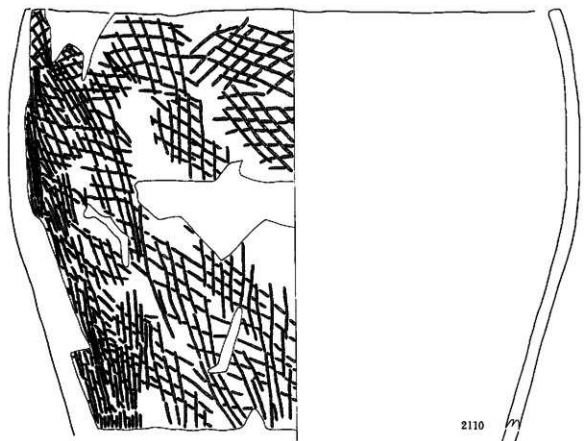
第163図 層で取りあげた土器(129) (S=1/5)



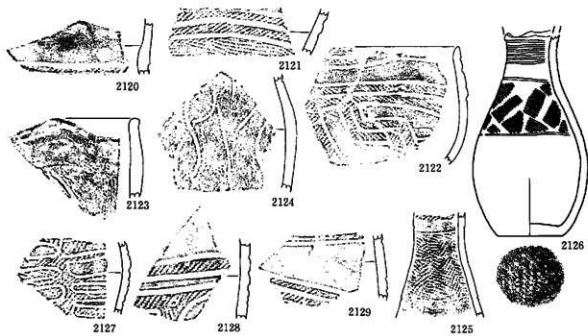
第164図 層で取りあげた土器(120) (S=1/5)



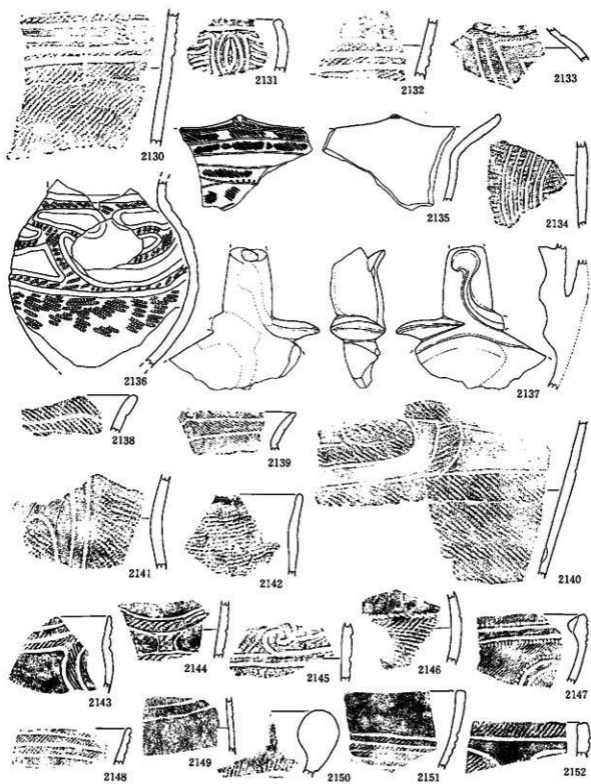
第165図 層で取りあげた土器(121) (2108は $\frac{1}{4}$ 他は $\frac{1}{2}$)



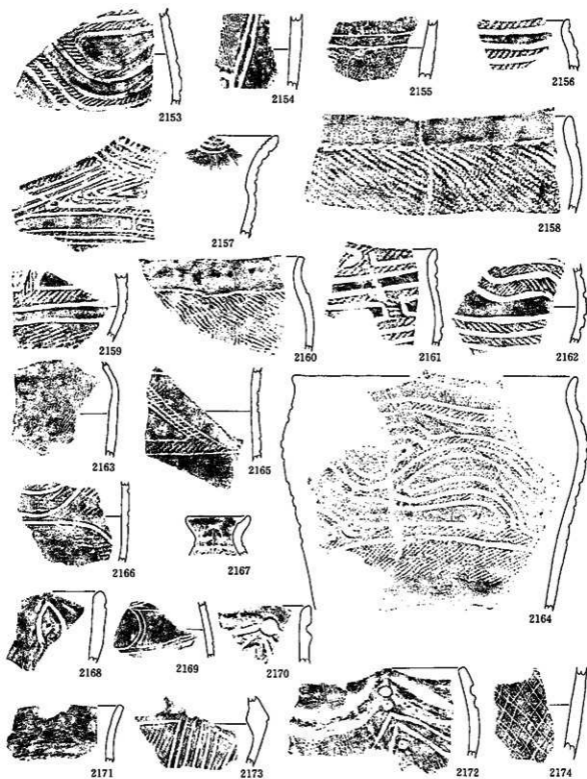
2110



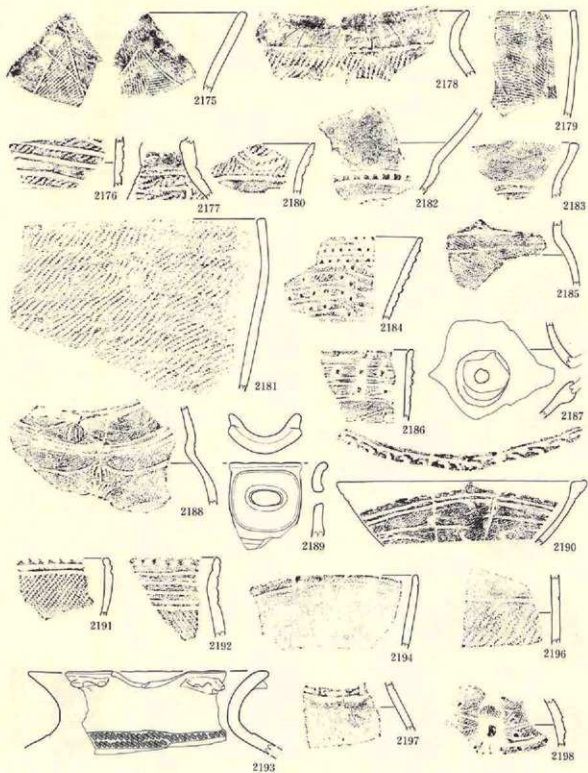
第166図 層で取りあげた土器(122) (S=1/5)



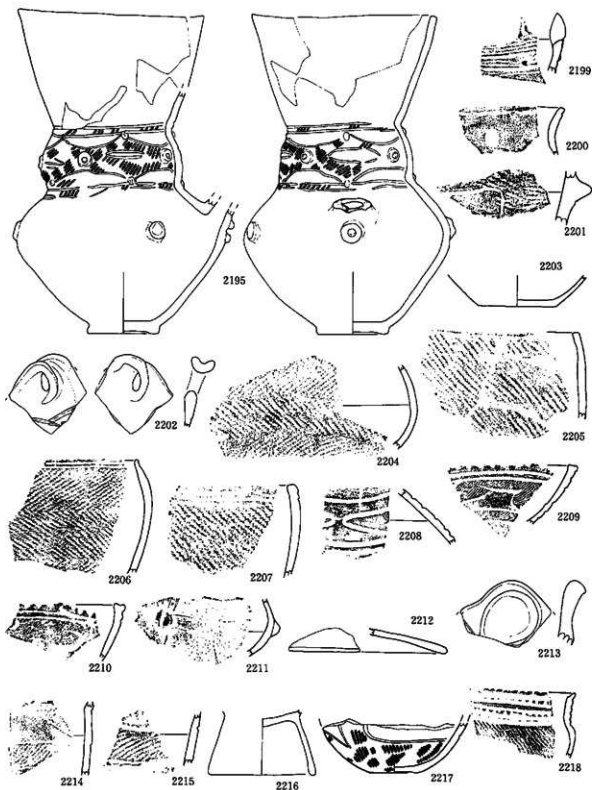
第167図 層で取りあげた土器(123) (S=1/5)



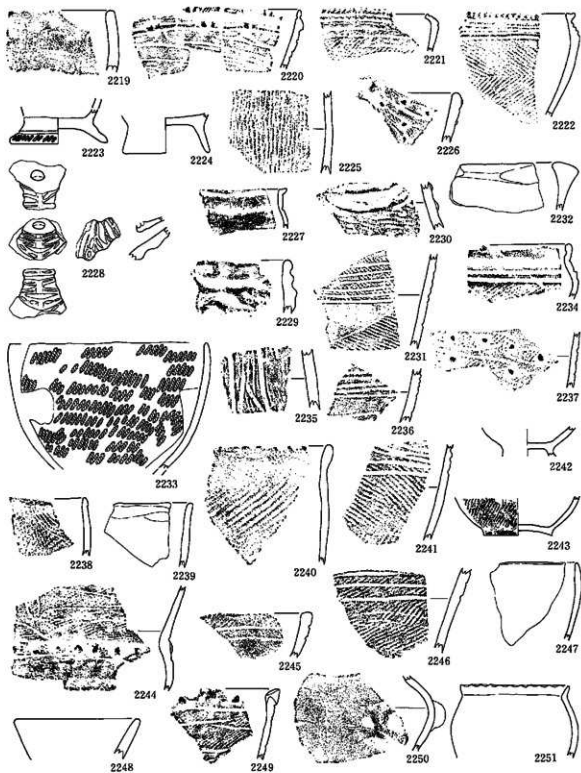
第168圖 層で取りあげた土器(124) (S=1/5)



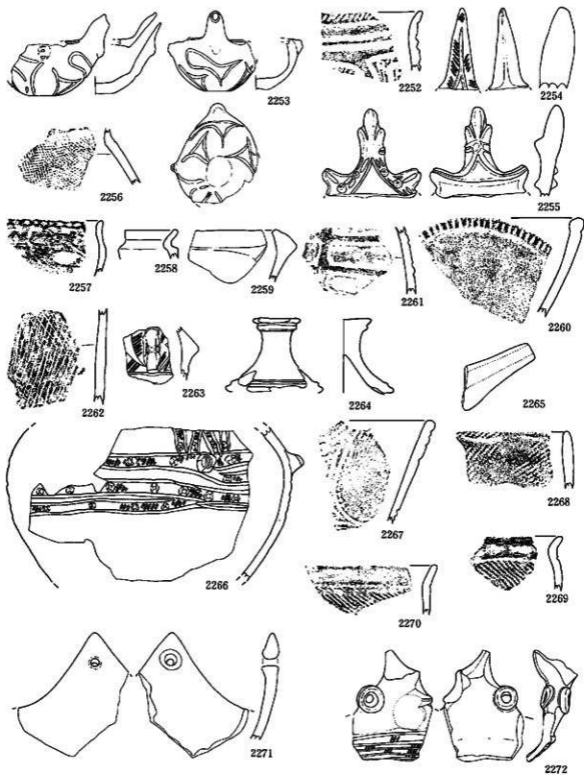
第169図 層で取りあげた土器(125) (S=1/5)



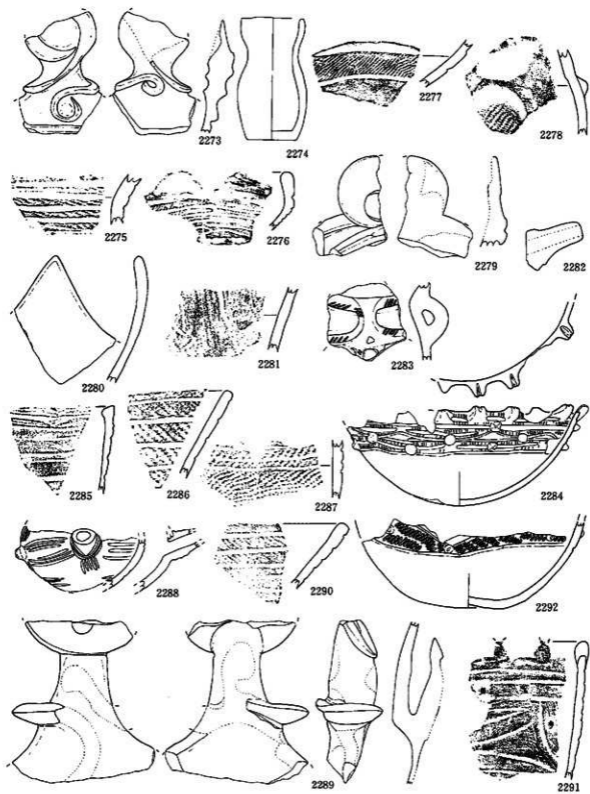
第170図 層で取りあげた土器(126) (S = 1/5)



第171図 層で取りあげた土器(127) (S=1/2)



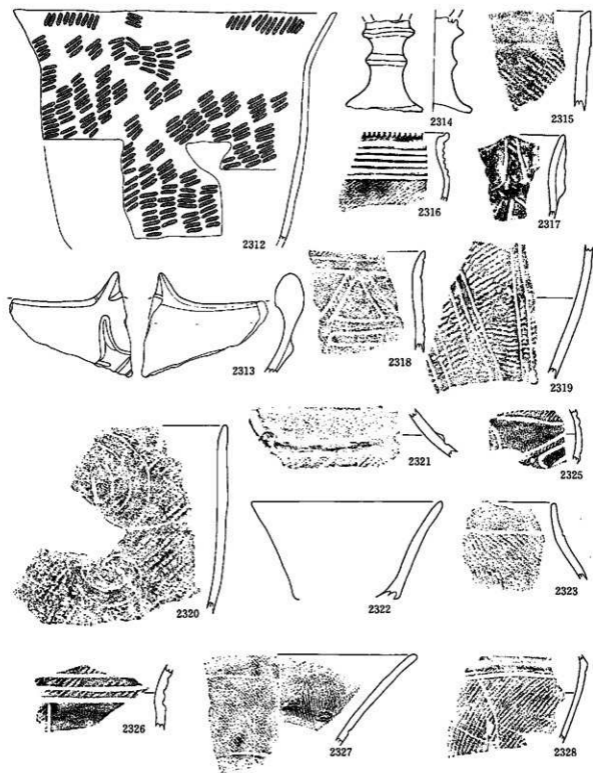
第172図 層で取りあげた土器(128) (S=1/6)



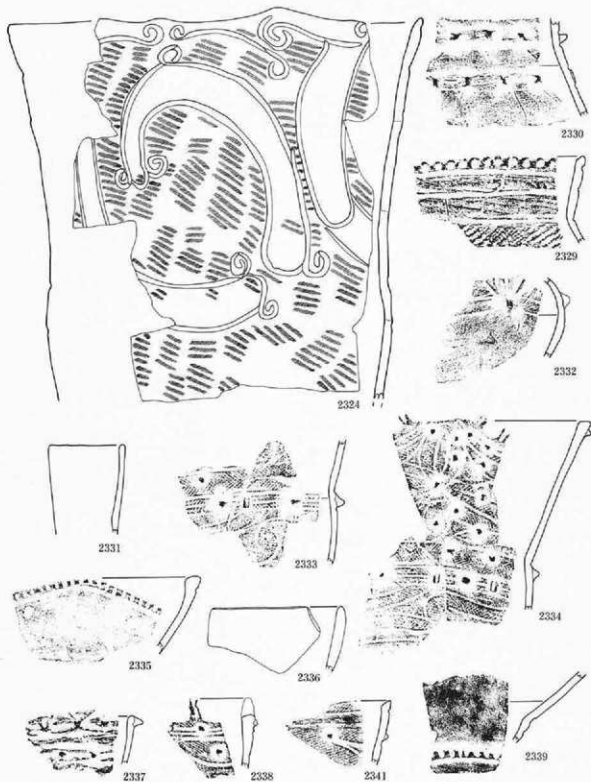
第173図 層で取りあげた土器(139) (S=1/5)



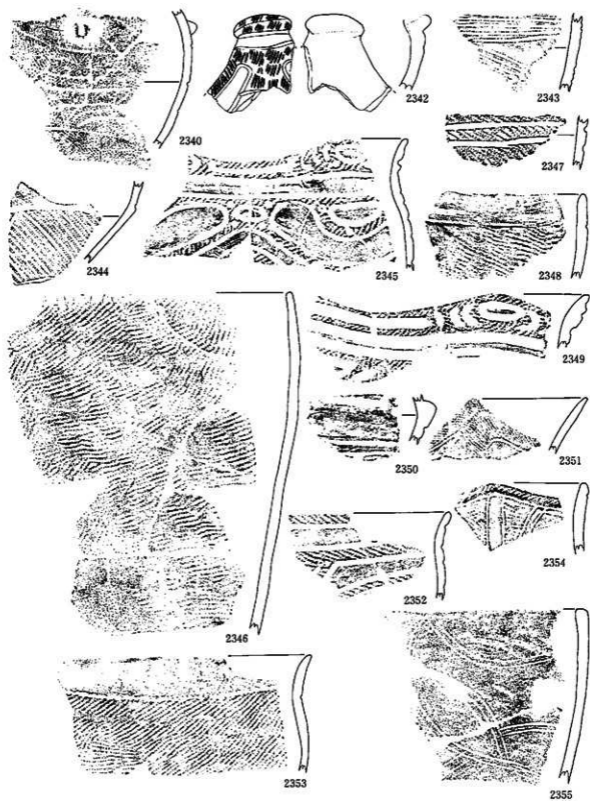
第174回 層で取りあげた土器(130) (S=1/5)



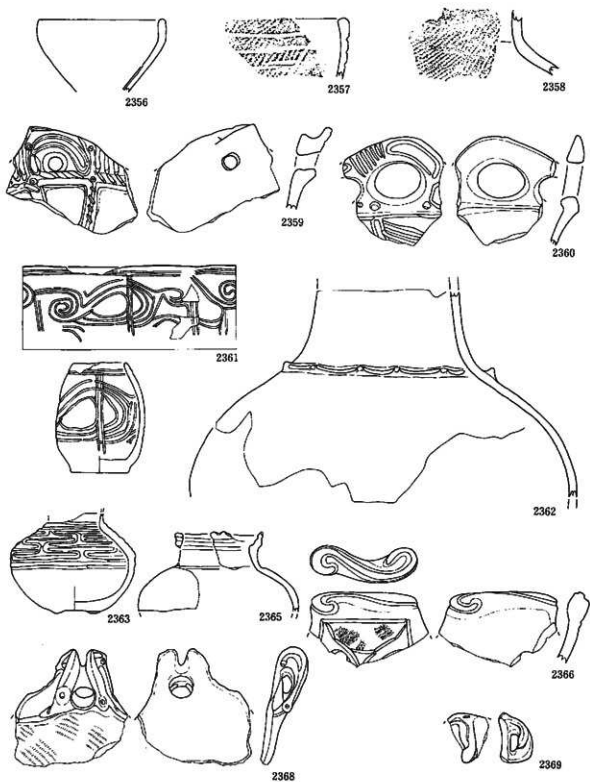
第175図 層で取りあげた土器(181) (S=1/6)



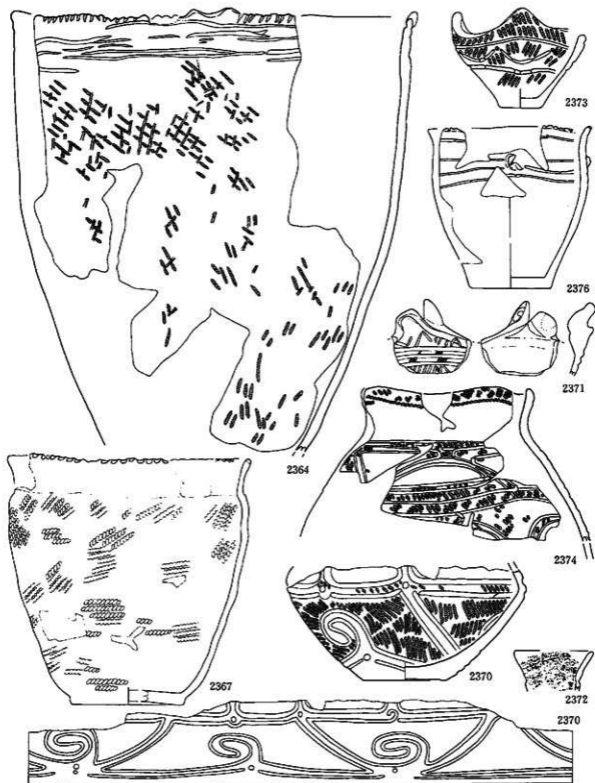
第176図 層で取りあげた土器(132) (S=1/5)



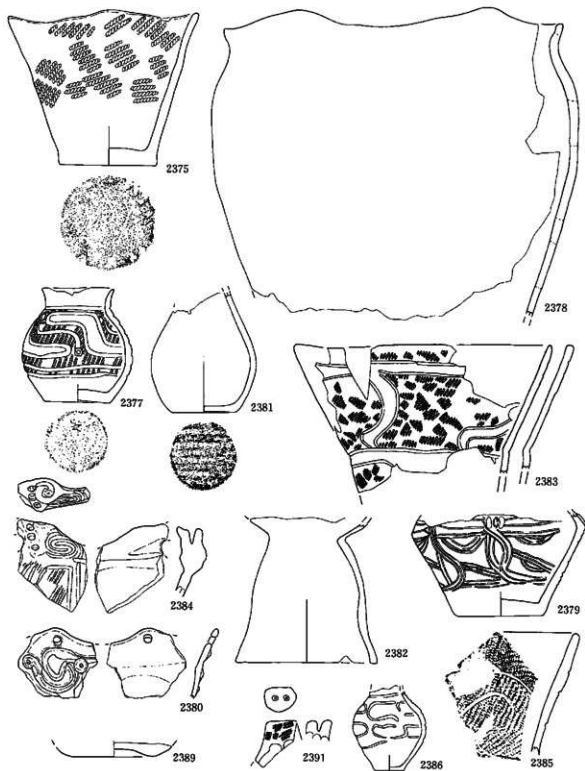
第177図 層で取りあげた土器(133) (S=1/5)



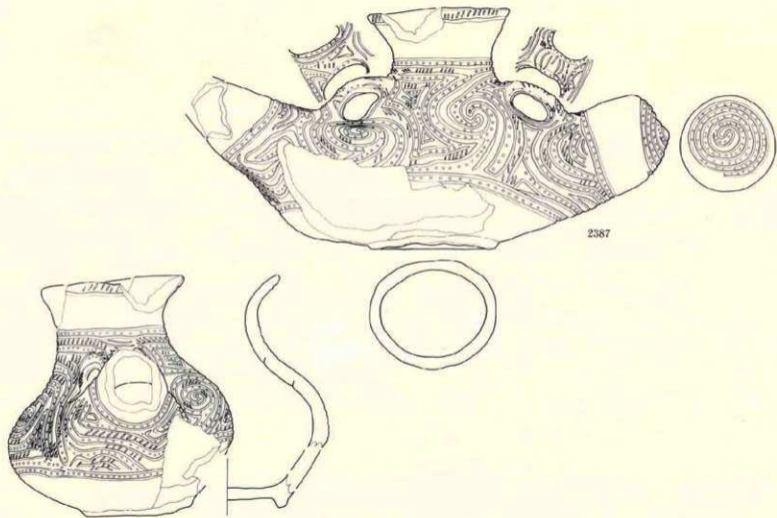
第178層 層で取りあげた土器(134)・その他の土器(1) (S=1/4)
 (2359番-その他の土器)



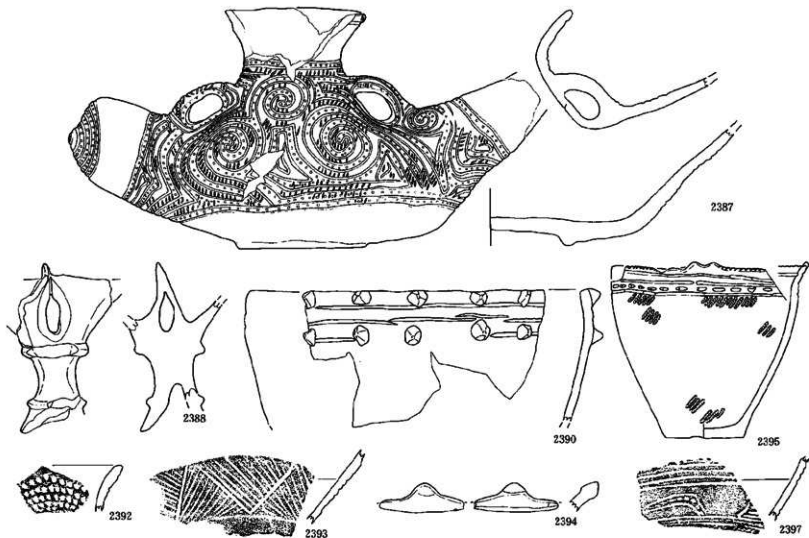
第179図 その他の土器(1) (S=1/2)



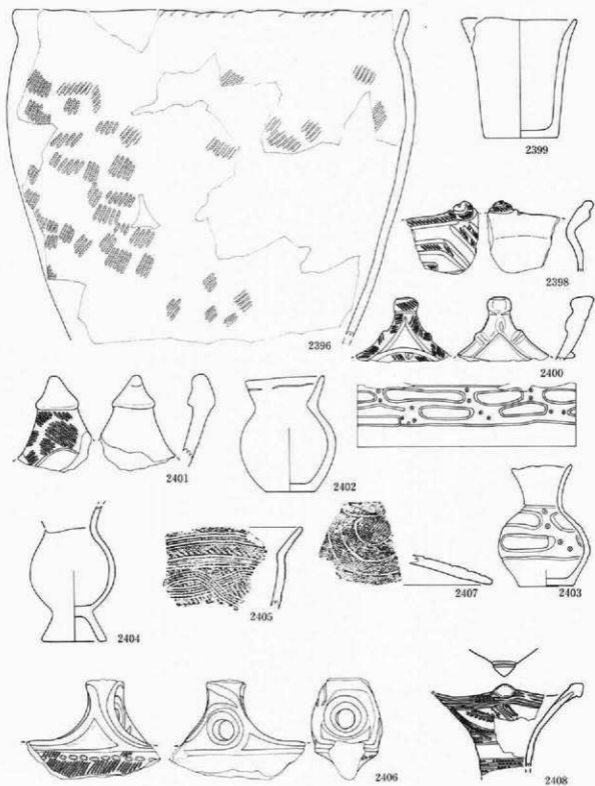
第180図 その他の土器(2) (S=1/5)



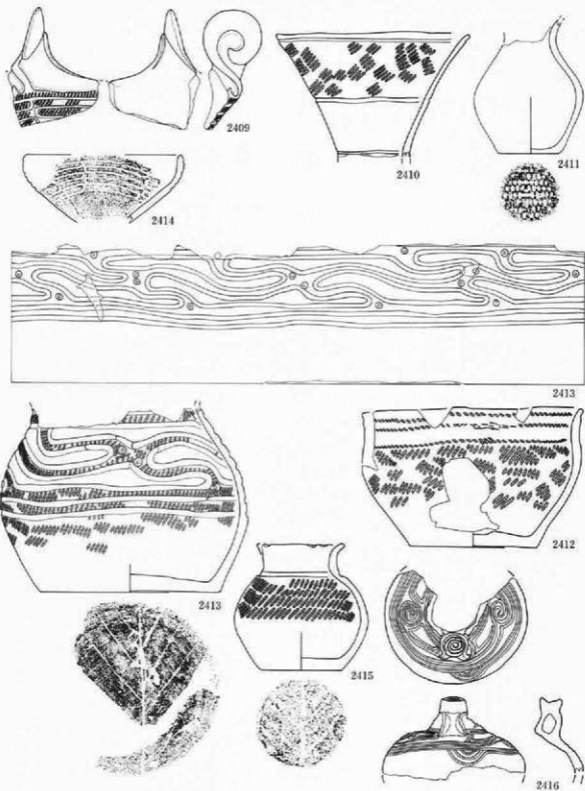
第181図 その他の土器(3) (S=1/5)



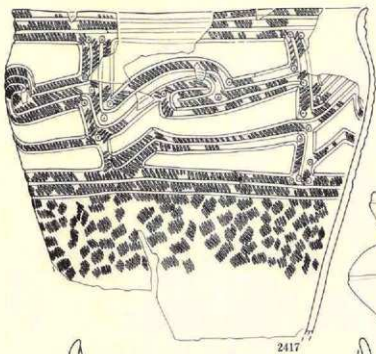
第182図 その他の土器(4) (2387はS=1/2 他はS=1/3)



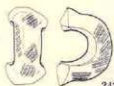
第183図 その他の土器(6) (S = 1/5)



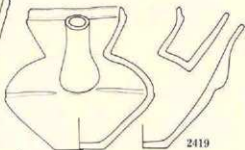
第184図 その他の土器(7) (S=1/5)



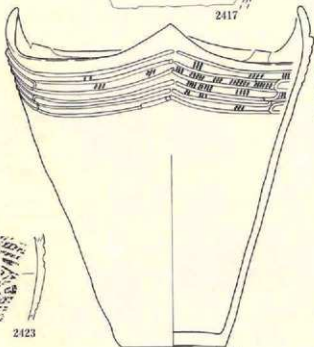
2417



2420



2419



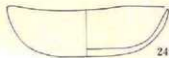
2418



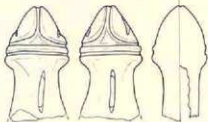
2423



2422

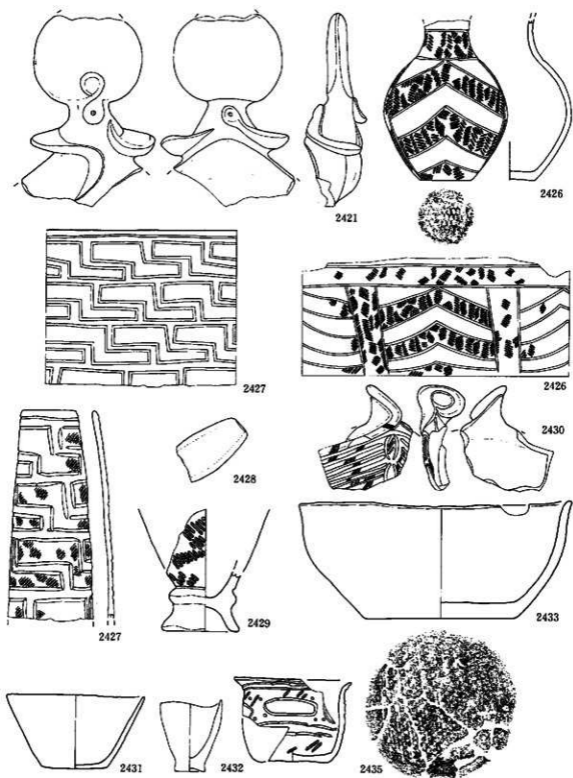


2424

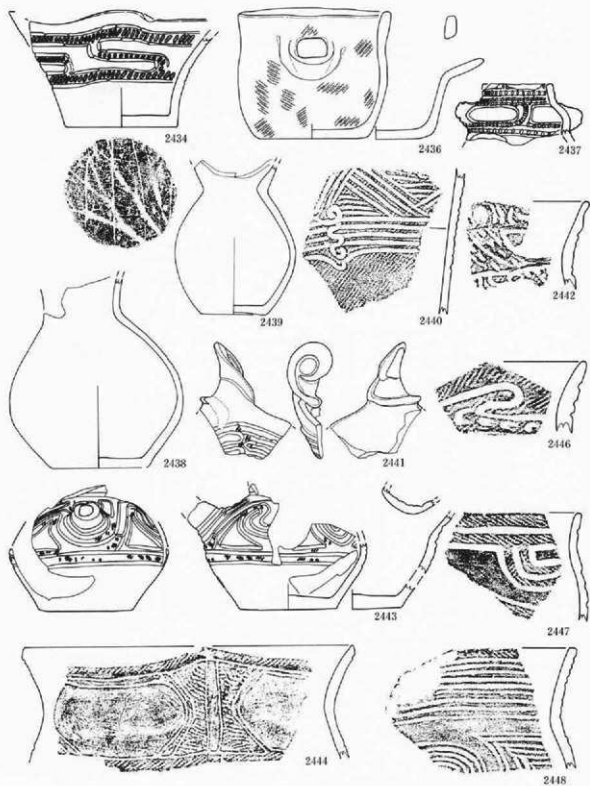


2425

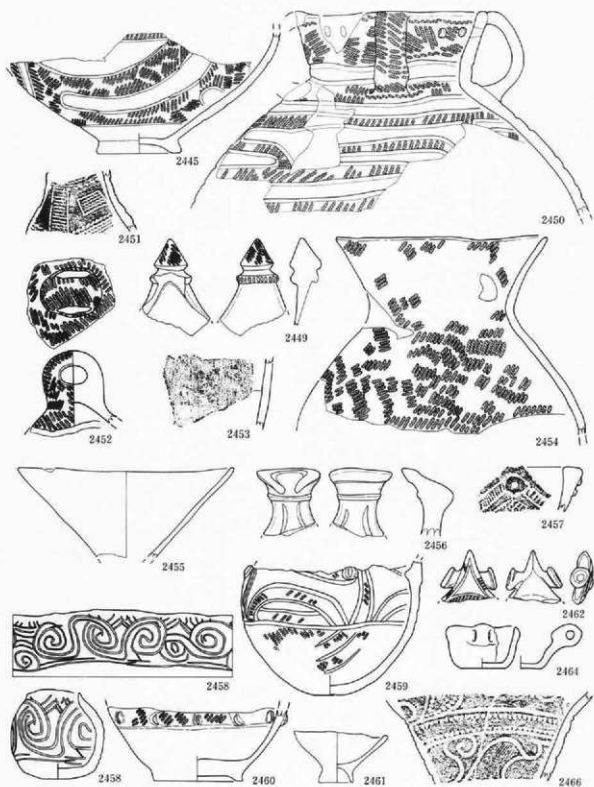
第185図 その他の土器(8) (2417はS=¼ 他はS=⅓)



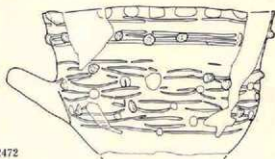
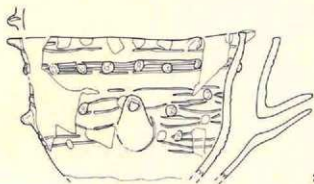
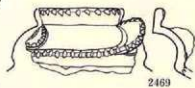
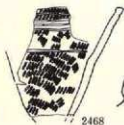
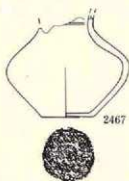
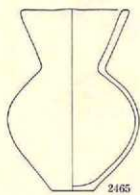
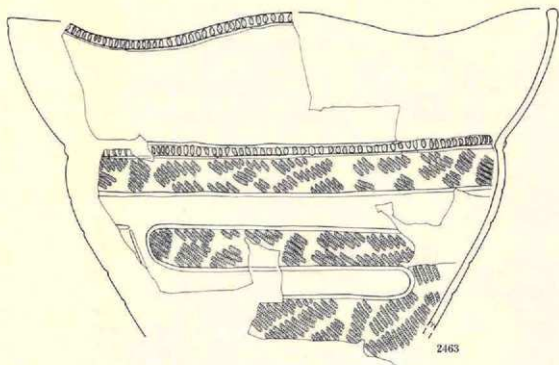
第186図 その他の土器(9) (S=1/5)



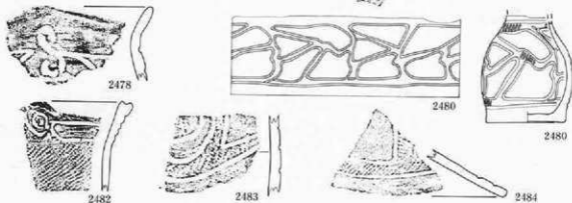
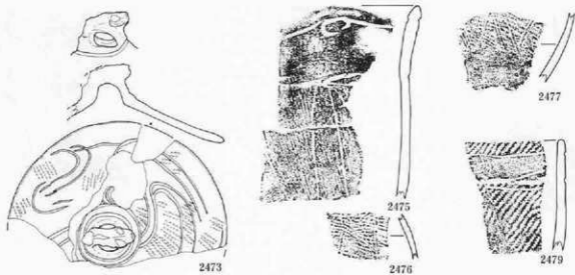
第187図 その他の土器(10) (S=1/5)



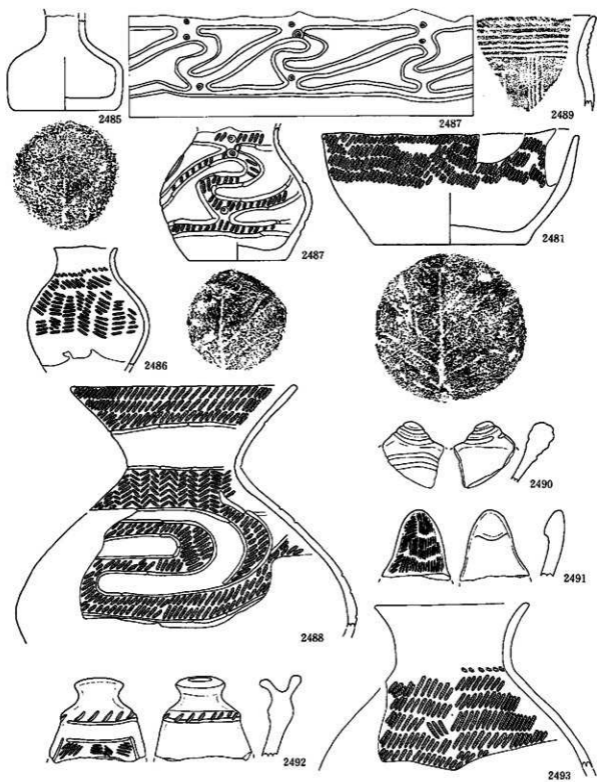
第188図 その他の土器(1) (S = 1/5)



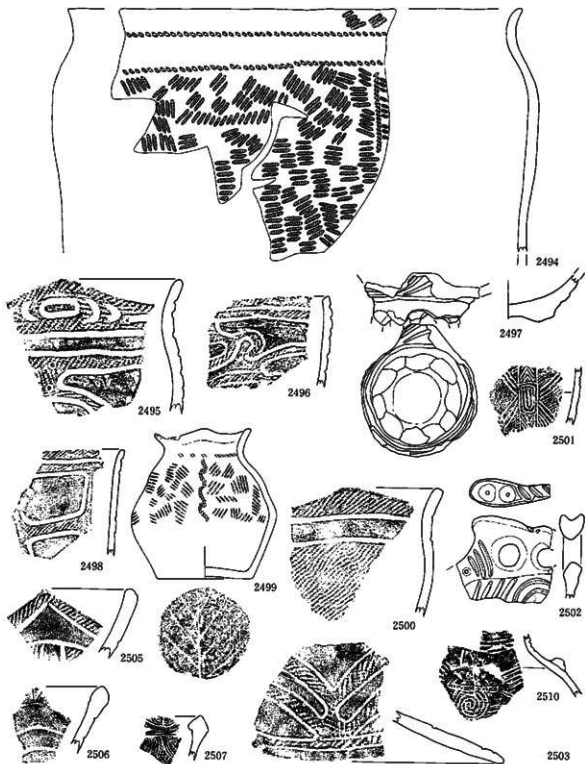
第189図 その他の土器12 (S = 1/3)



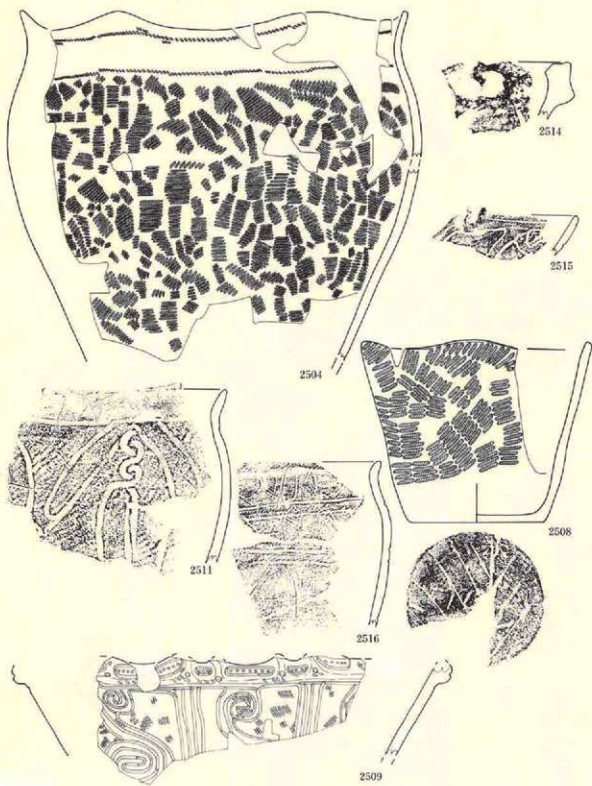
第190図 その他の土器13 (S=1/5)



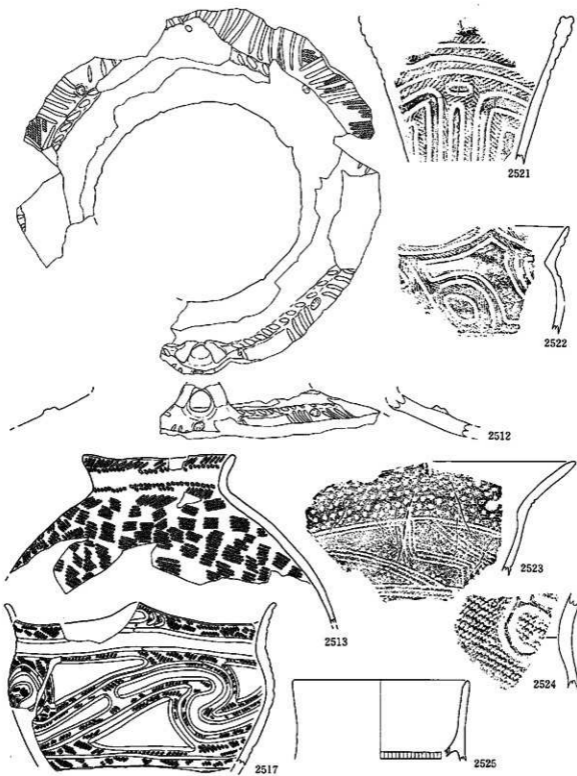
第191図 その他の土器(4) (S=1/5)



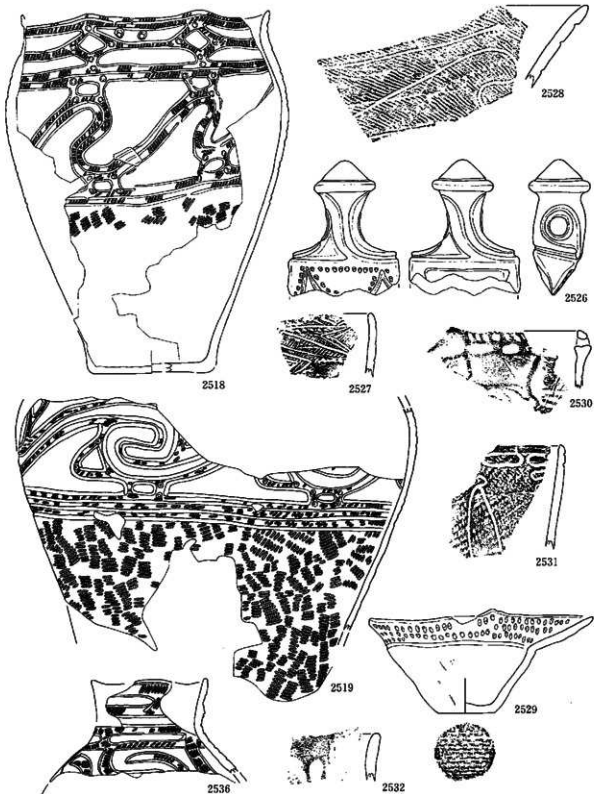
第192図 その他の土器⑨ (S=1/5)



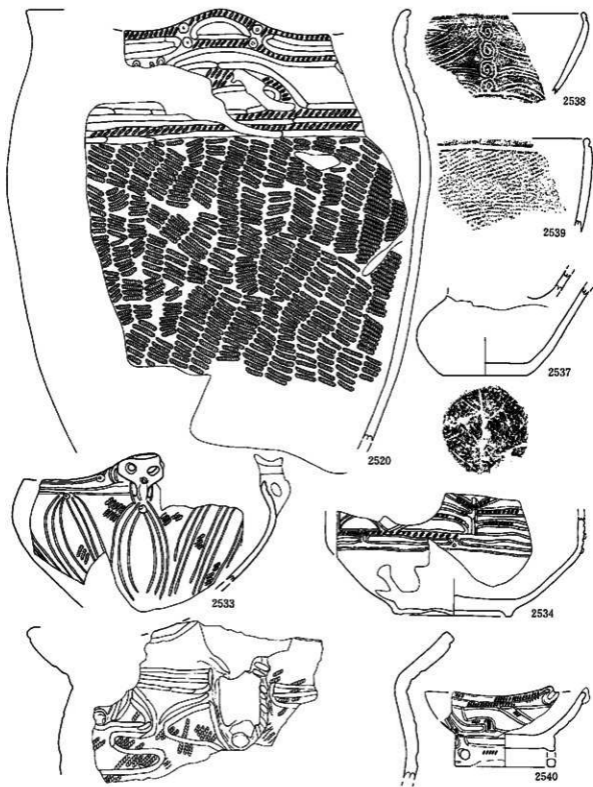
第193図 その他の土器⑥ (S=1/5)



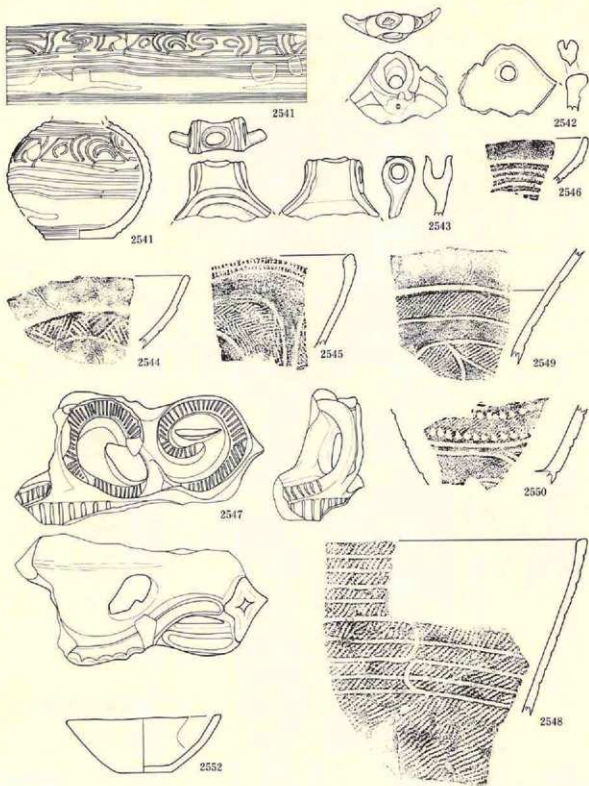
第194図 その他の土器(7) (S=1/2)



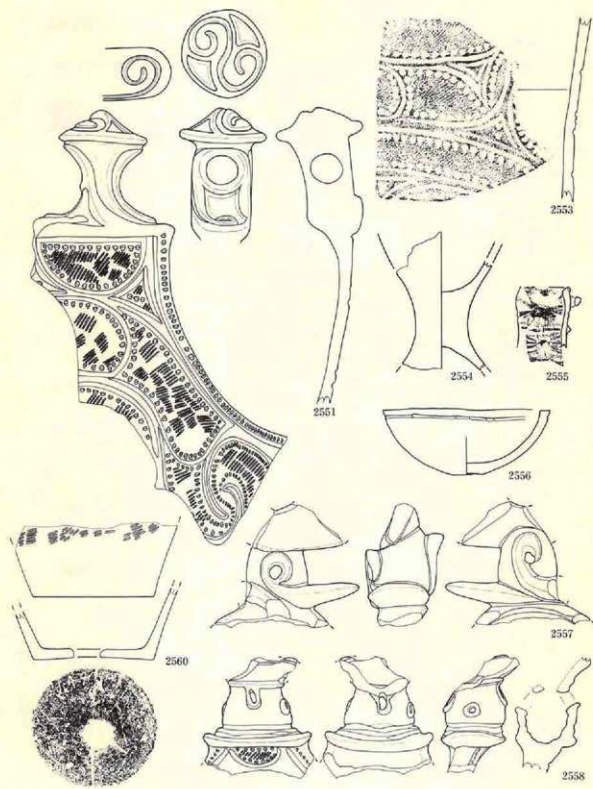
第195図 その他の土器⑧ (2518・2519は $S = \frac{1}{4}$ 他は $S = \frac{1}{2}$)



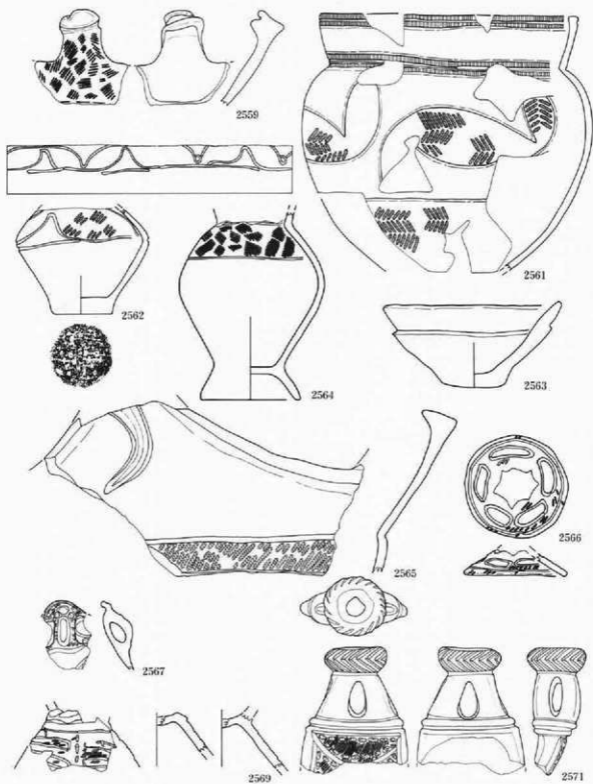
第196図 その他の土器(Ⅱ) (S=1/2)



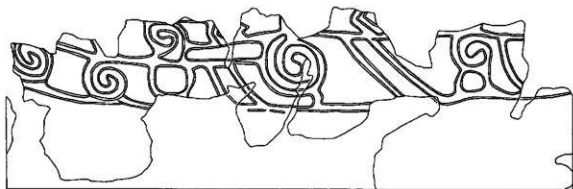
第197回 その他の土器20 (S=1/5)



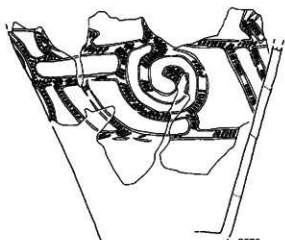
第198図 その他の土器21 (S=1/5)



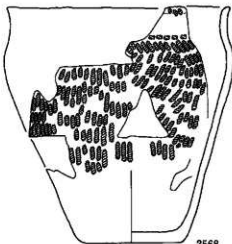
第199図 その他の土器22 (S=1/5)



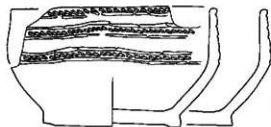
2570



2571



2568



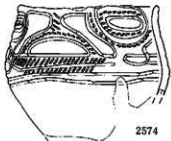
2573



2572

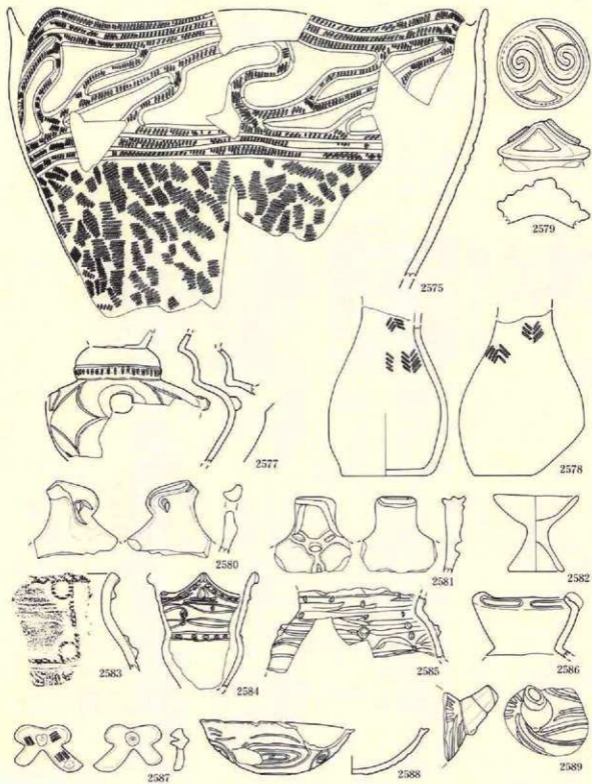


2576

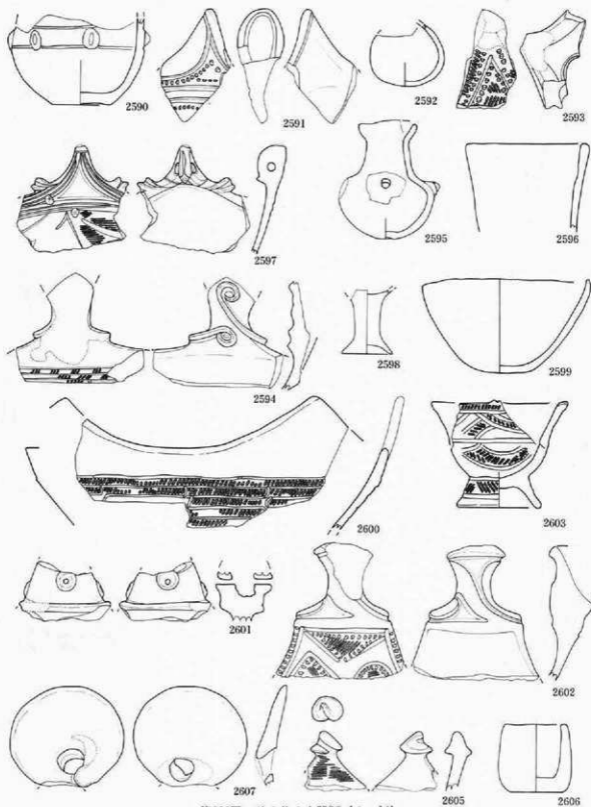


2574

第200図 その他の土器23 (S = 1/5)



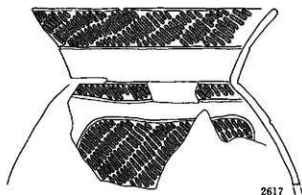
第201図 その他の土器24 (S = 1/5)



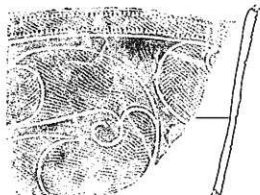
第202図 その他の土器25 (S=1/2)



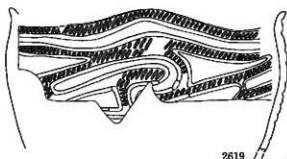
第203図 その他の土器(2) (S=1/5)



2617



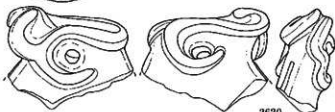
2618



2619



2623



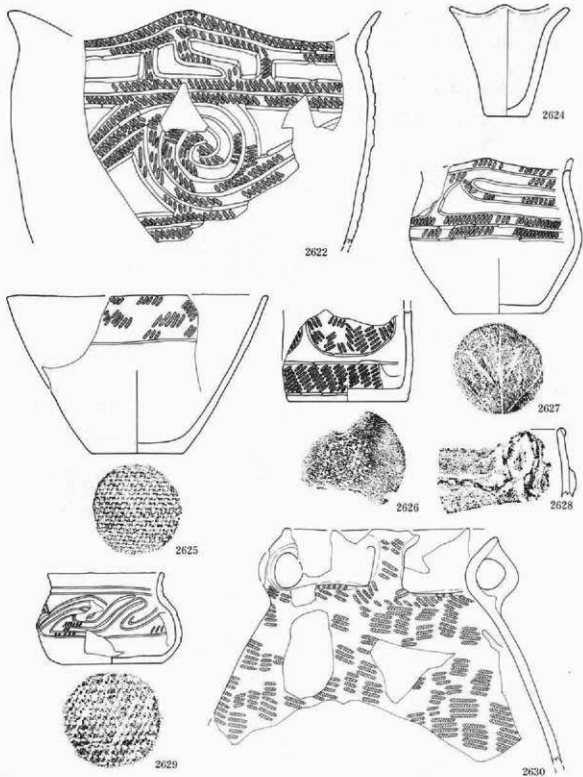
2620



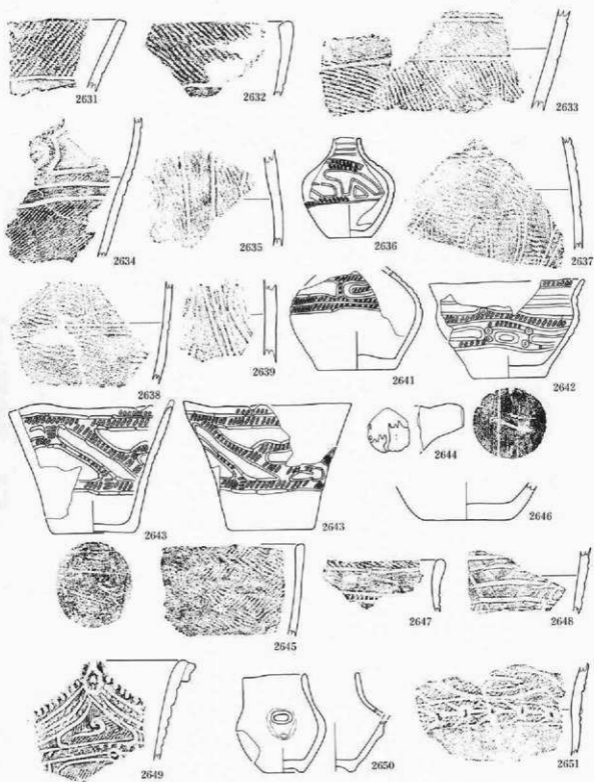
2621



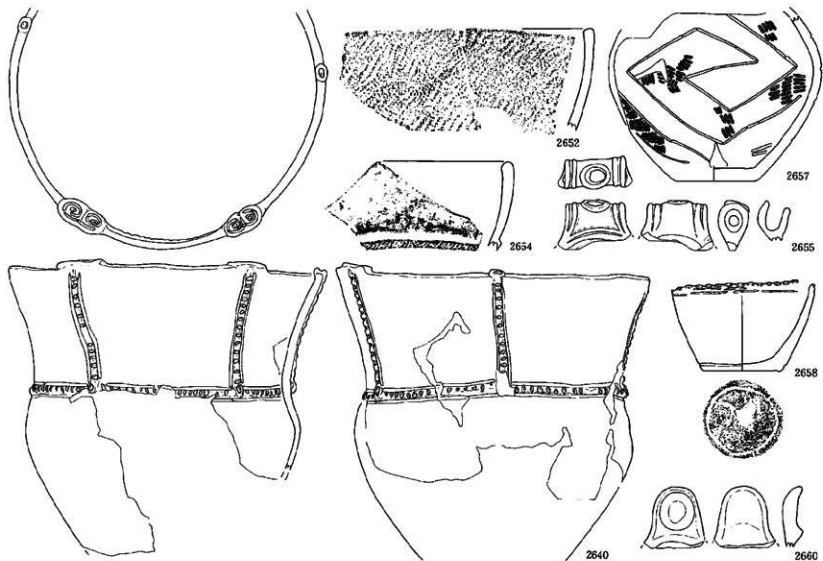
第204図 その他の土器(2620は $S = \frac{1}{4}$ 他は $S = \frac{1}{5}$)



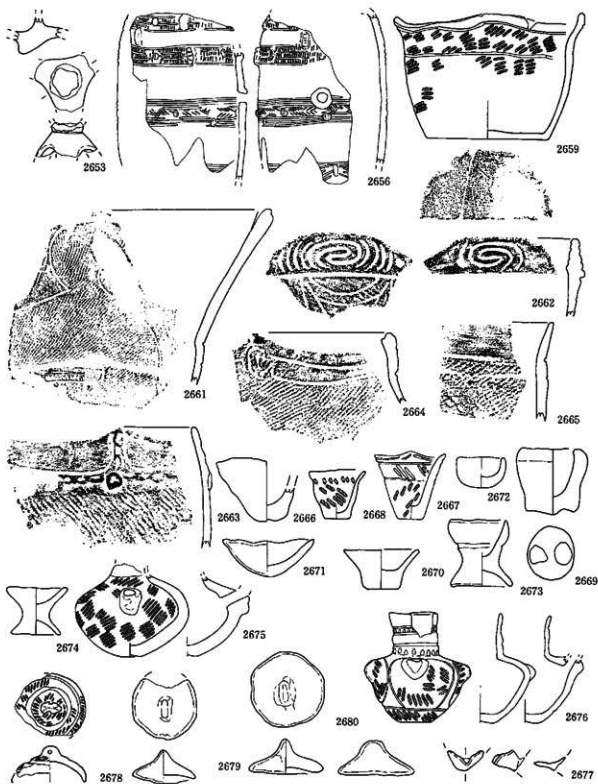
第205図 その他の土器等 (S=1/5)



第206図 その他の土器類 (S=1/5)



第207図 その他の土器③ (S=1/5)



第208図 その他の土器③(ミニチュア土器)

(2653-2656・2659-2661~)
 (2685は S = 1/2 他 S = 1/4)

第9表 土器観察表(1)

— 遺構出土土器 —

図 番 号	出土地点・層位	器種・部位	内 面 (文様・地文・肌体など)	内 面 (調整など)	備 考	本 文 記 載
1	1号住居・柱穴1	深鉢・口縁部	横文	ナデ		
2	" " "	"・胴部		"		
3	" " "	"・口縁部	横文	"		
4	" " "	"・胴部	横文(LR?)	"	やや磨耗	
5	" " "	"・胴部	横文(LR)	ナデ(底)	"	
6	" " "	" " "	" " "	ナデ	"	
7	" "・柱穴2	深鉢・口縁部	横文(LR)	"	"	
8	" " "	胴部	内面的・横文(不明)	"		
9	" " "	"	斜目(斜突に近い)	ナデ(丁寧)		
10	" " "	鉢・口縁部	"	"	やや磨耗	
11	3号住居・柱穴	注口・胴部	磨(上に斜目)	ナデ	"	
12	" " "	胴部	横文(不明)	"	"	
13	" "・ 柱穴1層	口縁部	横文	"		
14	1区・合弁並下	鉢	二山突起4単位・山形突起単位不明・口縁部に斜目・ 横文(LR)	"	内側におこげ	
15	" "・上	"	突起5単位・口縁部に斜目・横文(LR)	"	内側におこげ	
16	1号配石・地山面	鉢・口縁部	斜目	"	やや磨耗	
17	1号配石・表土面 の砂	鉢・胴・胴部	横文(LR)	ミガキ?	内側におこげ	
18	" " "	鉢	口縁部内側に比喩・2個1組の突起4単位・横文 (LR)	ナデ	"	
19	1号ピット・埋土	深鉢・胴部	"	"	磨耗	
20	2層 " "・埋土	鉢・口縁部	首孔・腹の隆帯(上に斜め方向に斜目)	不明	磨耗ひどい	
21	3号ピット	胴部	斜目帯	"	磨耗	
22	" " "	高坏?・口縁部	"	ナデ	やや磨耗	
23	4号ピット・埋土 1層	胴部	横文(LR?)	"	"	
24	" "・埋土	鉢・口縁部	腹の隆帯	"	"	
25	9号ピット・1層	口縁部	"	"	"	
26	9号ピット・埋土 1～2層	鉢・口縁部	口唇に斜目	"	やや磨耗	
27	9号ピット・ "	深鉢・胴部	横文(LR)	"	"	
28	10号ピット・埋土	口縁部	横文(不明)	不明	磨耗ひどい	
29	10号ピット・埋土 1層	台	"	"	磨耗	
30	10号ピット・埋土	胴部	"	ナデ	赤色付着物・磨耗	
31	13号ピット・埋土 1層	口縁部	口唇部に内面的に作出した突起	"	摩滅	
32	14号ピット・埋土	胴部	斜目的な斜目(斜突)	ナデ(丁寧)	やや磨耗	
33	15号 " "・埋 土1層	"	ギョウ状斜目	不明	磨耗	
34	" "・埋 土1層	"	"	ナデ(丁寧)	やや磨耗	
35	17号ピット・埋土	浅鉢・口縁部	口縁部に突起列・横文(不明)	"	"	
36	29号 " "・1層	口縁部	(例語)	"	口縁部内側に突起	
37	"	鉢・口縁部	磨・内面的	ナデ	"	
38	"	口縁部	横文(LR)	ナデ(丁寧)	斜首孔・やや磨耗	
39	30号	"	磨(やや大きめ・つまみ出し→断面三角)	ナデ(底)	やや磨耗	
40	"	"	横文(LR)	ナデ	"	
41	31号	"	口縁に突起(上に斜目)・内面的・横文(LR)	"	やや磨耗	
42	"	胴部	横文(LR?)	"	"	

図 番 号	注土地点・階位	階層・部位	内 容 (文種・地文・図体など)	内 容 (図像など)	備 考	本 文 記 載
43	31号ビット	道?・側部	無文	ナゲ	ヤヤ磨耗	
44	"	側部		"		
45	"	鉄・口縁部	新設した点列・縦文(不明)	不明	磨耗	
46	"	鉄・口縁へ側部	新設部・縦文(LR)	ナゲ		
47	32号ビット	側部	縦・縦文(不明)	"	ヤヤ磨耗	
48	33号ビット・2階	口縁部	無文	"	"	
49	"	縦部	縦線・縦文(不明)	"	"	
50	36号ビット	側部	くし横文	"		
51	40号ビット・埋土 2階	突起			ヤヤ磨耗	
52	40号ビット・	鉄・口縁部	縦文(LR)	ナゲ		
53	44号ビット・	鉄・側部	縦文(RL)	"		
54	" 2階	縦部・縦部	縦文(不明)	"		
55	" 7階	"	口縁部	無文	"	
56	" 7階	"	羽状縦文(LRとRL,0数多集)	"		
57	" 3階	"	内面的な紋目・縦文(LR)	1ガキ?		
58	" 3階	鉄・口縁部	口縁部に刻目・縦文(LR)	沈陥・ナゲ		
59	44号ビット	口縁部	内面的な帯縦文・羽状縦文(LR?)	ナゲ(丁寧)		
60	"	深鉄・口縁部	縦文(LR,RL)	ナゲ(細)		
61	45号ビット・埋土	注口・側部	浮彫的文様・二文歯・羽状縦文(LR,RL,0数多集)	ナゲ	磨耗ひどい	
62	"	鉄・口縁部		"		
63	"	鉄・口縁部	大波状口縁	"		
64	" 3階	鉄・口縁部	二列の羽形帯	ナゲ(細)		
65	土	深鉄・口縁部	縦文(RL,0数多集)	ナゲ	天地逆(重)?	
66	"	口縁部	別部より一段高い帯縦文(RL,0数多集)	"	ヤヤ磨耗	
67	土1階	"		ナゲ(丁寧)	縦線口縁?	
68	"	深鉄・側部	縦文(RL?)	ナゲ		
69	土	鉄	突起単位不明	"	1センチ以上磨?	
70	" 1階	"	縦文(LR,0数多集)	ナゲ(細)	天地逆?	
71	"	口縁部	縦文(LR)	ナゲ		
72	鉄	鉄・口縁へ側部	太く深い沈陥・縦文(LR)	ナゲ(丁寧)		
73	"	鉄・底部	縦文(RL)・側状	ナゲ(丁寧)		
74	47号ビット	鉄・側部	縦文(LR)	ナゲ		
75	51号ビット・埋土 1階	深鉄?・側部	縦文(LR?)?	ナゲ		
76	51号ビット・埋土	鉄・口縁部	縦文(LR)	ナゲ		
77	55号 6階	鉄・口縁部	斜列列・縦文(LR?)	ナゲ(丁寧)	波状口縁?	
78	" 8階	深鉄・口縁部	縦文(?)?		外面にスス・磨耗	
79	53号 1階	側部	磨消縦文(LR)	ナゲ	磨耗	
80	56号 " 1階	注口・側部		ナゲ		
81	階 " 1	口縁部		磨耗	外面にスス・磨耗 ひどい	
82	土	"	波状口縁?	ナゲ		
83	57号ビット・埋土	鉄・口縁部	縦文(?)	"	磨耗	
84	60号ビット・	鉄・口縁部	乱れ・く字状の二列の線帯	"	"	
85	62号 " "	口縁部	波状口縁	"		
86	63号 2階	側部		"	粘土混い・割落	
87	"	深鉄・側部	縦文(LR)	"	粘土混い	

図版 番号	出土地点・層位	器種・部位	外 面 (文 様・地 文・図 像 等)	内 面 (図像など)	備 考	本 文 記 載
88	68号ピット・環土	夾胎	縄文(?)	ナデ	磨耗	
89	" 1層	胴部	縄文(LR)	"		
90	" " 環土	胴・口縁部	内面的な突起	"		
91	" " "	胴部・口縁部		"	磨耗ひどい	
92	" " "	胴・口縁部		"		
93	" " 環土	"	縦状口縁・縄文(RL)	"	磨耗ひどい	
94	3層 上3層 " " " "	"	縄文(LR)	"		
95	" " "	胴部・胴部	縄文(LR)	"		
96	" " "	胴部・口縁部	胴部に2列の縄(LR)の刻印残痕・縄文(LR)	"		
97	" " "	台	3層位の貫通孔	"	磨耗ひどい	
98	" " "	胴部・口縁・胴部	胴部に縄(LR)の刻印残痕・縄文(LR)	"		

第10表 土器観察表(2)

一層で取り上げた土器一

調査 番号	出土地点・層位	器種・部位	外 面 (文 様・地 文・形 体 など)	内 面 (図案など)	備 考	本 文 記載
99	1C・晩期包含層	鉢・口縁部	突起単位不明・口縁部にも突起	ナデ	内面にスス	
100	" " "	底面	網部下縁に沈線・縄文(LR)	"	摩耗ひどい	
101	1Cg・晩期包含層	鉢・口縁部	口唇部に刻目・頸部に突起	ナデ	内面にスス・摩耗 ひどい	
102	1Cj "	底?・口縁部	1ガキ	1ガキ?		
103	" " "	注口?・口縁部	突起頂部に刻目・縄文(?)	ナデ	摩耗	
104	" " "	台	貫通孔	"		
105	" " "	鉢・口縁部		"	摩耗	
106	" " "	洗鉢・口縁部	口縁内側に沈線	"	やや摩耗	
107	" " "	鉢・口縁部		"	外面にスス・やや 摩耗	
108	" " "	口縁部	口縁内側にも同様の三叉文・口唇部に沈線	"		
109	" " "	底?・肩部	縄文(LR)	"		
110	" " "	鉢・口縁部	口縁内側に沈線・縄文(LR)	"	内面におこげ	
111	" " "		突起			
112	1Ck "	深鉢・口縁部		(磨耗)	摩耗	
113	" " "	鉢・口縁~胴部	口縁内側に沈線・頸部に突起	"	摩耗ひどい	
114	" " "	底・口縁部	口縁内側・口唇部に沈線	1ガキ?		
115	" " "		"	"	やや摩耗	
116	" " "	鉢	台(4脚)・胴部に縄文(器種不明)	ナデ	摩耗ひどい	
117	" " "	鉢	縄文(LR)	ナデ(磨)	"	
118	1Co "	深鉢・胴部	股状隆起	ナデ	粘土質・摩耗	
119	" " "	鉢・口縁部	口唇部にA突起・B突起・口唇部に沈線・刻目・縄文(LR)	1ガキ?	内面にスス	
120	" " "	洗鉢・口縁部	口縁内側・口唇部に沈線・B突起?	ナデ	磨耗ひどい・赤色 付着	
121	" " "	鉢・口縁部	口縁内側に沈線・口唇部に内彫的な突起列	"	摩耗	
122	" " "		斜状縄文(LR・LR)			
123	" " "	鉢		"		
124	" " "	底		"		
125	" " "	底・肩部		"	やや摩耗	
126	1Co・晩期包含層	鉢・口縁~胴部	突起単位不明・縄文(?)	ナデ?	内面におこげ・摩 耗ひどい	
127	" " "	洗鉢?・口縁部	口縁内側・口唇部に沈線	"	摩耗ひどい	
128	" " "	鉢・口縁部	山形突起	"	"	
129	" " "	深鉢・口縁~胴部	2条沈線・その下に刻目・沈線・縄文(?)	ナデ(磨)		P88
130	" " "	深鉢・口縁部	口縁内側に沈線・縄文(?)	ナデ	内面におこげ・摩 耗ひどい	
131	" " "	鉢・口縁部	口縁内側に沈線	"	摩耗ひどい	
132	" " "		縄文(?)	"	摩耗	
133	" " "		口唇部に沈線	"	"	
134	" " "	洗鉢・口縁部	1ガキ	1ガキ?	やや摩耗	
135	" " "	深鉢・口縁部		ナデ	摩耗ひどい	
136	" " "	鉢・口縁~胴部	口縁内側に沈線・縄文(LR)	"	内面におこげ・摩 耗ひどい	
137	" " "	深鉢・胴部	縄文(LR?)	"	摩耗ひどい	
138	1Ci "	鉢・口縁部	口縁内側・口唇部に沈線	"	内面におこげ・摩 耗ひどい	
139	" " "	深鉢・口縁部		"		
140	" " "	底・口縁部	除去痕・縄文(LR)	ナデ?		

調査号	出土地点・層位	器種・部位	外 面 (文様・地文・裏面など)	内 面 (調整など)	備 考	本文記載
141	1 C1・陶器保存庫	甕・胴部		ナダ?		
142	" "	深鉢・口縁～胴部	口縁部に細長い刻目・縄文 (LR)	"	摩耗	
143	" "	鉢・口縁～胴部	口縁内側に沈線・突起部に沈線・縄文 (LR)	ミガキ?		
144	" "	鉢・口縁～胴部	口縁内側、口唇部に沈線・A突起、B突起・縄文 (LR)	ミガキ	内側にスス	
145	" "	煎茶 合	縄文 (LR)	ミガキ?	摩耗・天地逆?	
146	" "	"	"	ナダ	やや摩耗	
147	" "	深鉢・口縁部	口縁内側に沈線	ナダ (鑑)	"	
148	" "	"	"	ナダ	"	
149	" "	"	"	"	"	
150	" "	深鉢・突起	口縁内側一部割溝・縄文 (RL)	"	やや摩耗	
151	1 C1・陶器保存庫	深鉢・口縁部	山の突起 (頂部に凹)	ナダ		
152	" "	鉢・口縁部	口縁内側に沈線・口唇部に沈線	"		
153	" "	"	"	"		
154	" "	甕・胴部		"		
155	" "	深鉢・胴部	縄文 (LR)	"	外側に吹きこぼれ?	
156	" "	甕・胴部		"		
157	" "	鉢	4単位のA突起・胴部文様はミズベレ状	"		
158	18号ビット	鉢・口縁部	縄文 (LR)	"	やや摩耗	
159	2 C6・1層	甕?・胴部	縄文 (LR)	"	"	
160	" "	深鉢・口縁～胴部	波状口縁・縄文 (LR)	"		
161	" "	深鉢・口縁部	波状口縁?・縄文 (LR)	ミガキ?		
162	" "	"	縄文(?)	ナダ	摩耗	
163	" "	鉢		"	内側にスス?	
164	" "	鉢・口縁部		"		
165	" 2層下層	深鉢・胴部	無文(?)	"		
166	" "	"	赤紋(?)	"		
167	" "	"	縄文 (LR)	"	内側摩耗	
168	" "	"	"	"	天地逆?	
169	" "	鉢・口縁部		ミガキ?		
170	" "	深鉢・口縁部	突起単位不明・縄文 (LR、B突起多量)	ナダ (丁寧)		
171	" 2層	鉢・口縁～胴部	波状口縁 (単位不明)・縄文(?)	ミガキ?		
172	2 C6・1層下から 3層上4層下	"	ミガキ・縄文 (LR)	"		
173	"	深鉢・口縁～胴部	小波状口縁頂部に刻目、その下にボタン状刻目文・縄文(?)	ナダ?	やや摩耗	
174	" B1層	甕・胴部	縄文 (LR)	"	"	
175	" "	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	"	磨きもつと急か?	
176	2 C6・B1層	鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナダ (鑑)		
177	2 C1・"	浅鉢	突起単位不明、口唇部と口縁内側に沈線	ミガキ?	内側面に沈線	
178	2 C6・B3層	深鉢・口縁部		ナダ (鑑)	外側にスス	
179	" "	甕・胴部		ナダ		
180	" "	鉢・口縁～胴部	口縁内側に沈線	"	丹塗に拭きこぼれ	
181	" "	鉢・口縁部	口縁内側に沈線・口唇部に刻目・縄文(?)	"		
182	" "	甕	突起単位不明・胴部文様は内面的	不明	摩耗	
183	" 1層	突起	縄文 (LR)	ミガキ?	摩耗ひどい	
184	" 1層下層	鉢	突起単位不明・口縁内側に突起下から始まる沈線	ナダ (鑑)	"	P88
185	3 B1・1層上層	鉢・胴～底部	底面に木炭痕	ナダ		

図版 番号	出土地点・層位	器種・部位	内 面 (文様・地文・痕跡など)	内 面 (図像など)	備 考	本 文 記 載
186	2Ce・2層上部	鉢	正産の突起1単位?・二山突起は5?・縄文(RL)	ナデ	厚紙のどい・内側に おこげ	
187	"・2層下部	鉢・口縁部		"	厚紙	
188	"・"	深鉢・突起	縄文(RL)	"		
189	2Dd・"	深鉢	真漆孔・把手・縄文(RL?)	"		
190	2Ca・"	点	真漆孔	"		
191	"・2層	深鉢・口縁部	縄文(LR)	不明	厚紙	
192	"・"	鉢・胴部	縄文(LR)	ナデ	厚紙のどい	
193	"・"	壺・胴部		"		
194	2Ci・1層下部	壺	縄文(LR?)	ナデ?	厚紙	
195	"・2層→3層	口縁部	縄文(LR?)	"	"	
196	"・"	鉢・口縁部	痕跡突起・爪形文	ナデ(裏)		
197	2Cj・B1層	鉢・口縁→胴部	漆文(R?)?	"	内側におこげ?	
198	"・1層下部	鉢?・口縁部	縄文(RL)	ナデ		
199	"・"	"	縄文(?)	ナデ(裏)	厚紙	
200	"・1層	深鉢・胴部	縄文(RLR)	ナデ		
201	2Cj・2層上部	壺・胴部		"		
202	"・"	"	縄文(RL、0段多量)	"		
203	"・"	深鉢	突起単位不明・縄文(LR)	ナデ		
204	"・2層下部	点	環状文様3単位・縄文(LR)	"		
205	"・2層	底面	羽状縄文(RL?)	"		
206	"・"	深鉢・口縁→胴部	縄文(RL)	"	内外側にスス	
207	2Ca・1層上部	鉢・口縁部	縄文(RL)	"		
208	"・1層下部	"	1)環部片割に環状の刻目	"		
209	"・"	深鉢・胴部	縄文(RLR?)	"		
210	"・"	"	縄文(RL)	"		
211	"・1層下部	鉢・口縁部	縄文(?)	"	厚紙	
212	"・"	"	"	"	内側におこげ・厚 紙	
213	"・"	壺・胴→底面	縄文(LR)・底面に割代痕	ナデ		
214	"・2層上部	深鉢・口縁部	縄文(LR)	"	厚紙	
215	"・"	鉢・口縁部	縄文(LR)	"	やや厚紙	
216	"・"	"	"	ナデ(下等)		
217	"・"・下等	深鉢・胴部	縄文(胴部、痕不明)	ナデ	外側にスス?	
218	"・"	深鉢	段の環状漆帯・首孔は4単位・縄文(LR)	"	厚紙	
219	"・"	鉢・口縁部	環状口縁・流部に刻目	"	やや厚紙	
220	"・"	"	"	"		
221	"・2層(～20 cm)	"	縄文(RL)・ヒギキ?	"		
222	2Co・1層	深鉢・胴部	縄文(LR?)	"	やや厚紙	
223	"・"	鉢・口縁部	縄文(LR)	"		
224	"・"	深鉢・口縁部	縄文(不明)	"	厚紙のどい	
225	"・"	鉢・胴部	縄文(LR)	"	内側におこげ	
226	2Co・1b層上部	鉢・口縁部	環状口縁	ナデ		
227	"・"	"	環状口縁・縄文(RL)	ヒギキ?		
228	"・"	鉢・胴部		ナデ		
229	"・"	深鉢・口縁部	縄文(LR)	ナデ(裏)	外側にスス	
230	"・"	壺?・胴部	羽状縄文(LR、RL?)	ナデ		

図 番 書 号	出土地点・層位	器種・部位	内 面 (文 様・地 文・形 状 など)	内 面 (調整など)	備 考	本 文 記 載
231	2 Co・1層	鉢・口縁部	顔の輪帯(上に縄文?)・御面正刷(LR)・縄文(LR)	ナデ		P88
232	"・4層上部	深鉢・胴部	縄文(不明)	"		
233	"・"	深鉢・口縁→胴部	御面正刷(LR)・縄文(LR)	"		
234	"・"	深鉢・胴部	縄文(?)?	"		
235	"・"	深鉢・口縁部	縄文(?)?	ナデ(細)		
236	"・"	深鉢・胴部	縄文(?)	ナデ	内側にスス	
237	"・"	"	縄文(?)?	"		
238	"・"	"	縄文(LR)	"		
239	"・"	"	"	"		
240	"・"	"	竪状帯?	"		
241	"・"	"	縄文(?)	"	中々摩耗	
242	"・4層	深鉢・口縁部	縄文(RL)	"	内側にスス?	
243	"・"	鉢・口縁部	縄文(LR)	ヒギキ?		
244	"・2層下部	突起	縄文(?)	ナデ		
245	"・"	深鉢・胴部	縄文(RL、0最多角)	"	中々摩耗	
246	"・"	鉢・口縁部	縄文(?)	"	"	
247	18号ビット	"	縄文(LR、0最多角)	"		
248	2 Co・2層	深鉢・胴部	縄文(RL?)	"		
249	2 Co・1層下部 10 cm	深鉢	竪状口縁・縄文(?)	"	粘土質い	
250	"・"・" 20 cm	鉢・口縁部	縄文(LR)	"		
251	"・1層から30 cm	鉢?・口縁部?	口縁部帯付	ナデ(細)		
252	"・1層から30 cm	底面	"	ナデ		
253	"・1層下部	鉢・口縁→胴部	縄文(LR)	"		
254	"・"	鉢・口縁部	縄文(LR)	"		
255	"・"	鉢・口縁→胴部	"	"		
256	"・1層	鉢・口縁部	"	"		
257	"・"	深鉢	胴部に縄(LR)の御面正刷、その他は竪縄縄文(LR)	"		P88
258	"・"	鉢・胴部	縄文(LR)	"		
259	"・"	"	パネム状(一筋縄帯状)	ナデ(丁寧)		
260	"・"	深鉢・口縁部	胴部に縄(LR)の御面正刷・縄文(LR)	ナデ		
261	"・"	深鉢・胴部	"	"		
262	"・"	"	胴部に(LR)の御面正刷・縄文(LR)	"		
263	"・"	鉢・口縁→胴部	縄文(LR)	"		
264	"・"	深鉢・胴部	縄文(LR)	"		
265	"・2層上部	深鉢・胴部	縄文(LR?)	"	外側にスス	
266	"・"	"	縄文(?)	"	天地逆?	
267	"・"	深鉢・口縁部	縄文(?)	"	粘土質い	
268	"・"	深鉢・口縁→胴部	竪目状縄文(R?)	"	"	
269	"・2層	深鉢・口縁部	胴部に縄(LR)の御面正刷・縄文(LR)	"	中々摩耗	
270	"・"	深鉢・口縁→胴部	胴部に縄(LR)の御面正刷・縄文(LR)	"		
271	"・"	鉢・胴部	底面	"	粘土質い	
272	"・"	口縁部	縄文(RL?)	"	内側に赤てび・厚 肌	
273	"・"	鉢・胴部	"	"	摩耗	
274	2 Co・2層	深鉢・胴部	縄文(LR)	"		
275	"・"	"	中々パネム状(竪縄状)・縄文(LR?)	"		

図版 番号	出土地点・層位	器種・部位	系 部 (文様・地文・彫刻など)	内 面 (調整など)	備 考	本 文 記 載
276	2Ca・2層	深鉢・胴部	深鉢文①	ナデ		
277	2Ct・1層	鉢・口縁部	口縁内面に三文文・口縁部に刻目	〃		
278	〃 〃 〃	深鉢・口縁部	頸部に縄(LR)の刻目止痕・縄文(LR)	〃		
279	〃 〃 〃	鉢	突起8単位?・縄文(LR)	ナデ		
280	〃 〃 〃	深鉢・胴部	突起単位不明・縄文(LR)	〃	推察孔?	
281	〃・1b層	深鉢・胴部	縄文(LR)	ナデ		
282	〃 〃 〃	鉢・口縁部	縄文(LR)	〃		
283	〃 〃 〃	〃	〃	〃		
284	〃 〃 〃	〃	突起単位2か1・口縁部に縄(LR, 3cm)の刻目止痕	〃	中々厚紙	
285	〃・1b層下部	皿	口縁部・底部に縄(LR)の刻目止痕・縄文(LR)	〃		
286	〃・2層10cm	深鉢・口縁部	深鉢文①	ナデ	底部裏木腐痕?	
287	〃 〃 〃 20cm	深鉢・胴部	〃	〃		
288	〃 〃 〃	深鉢・口縁部	〃	〃		
289	〃・2層下	〃	隆帯状・縄文(LR)	〃		
290	〃 〃 〃	〃	隆帯跡い	〃		
291	〃 〃 〃	突起	〃	〃	中々厚紙	
292	〃・B3層	皿?・口縁部	〃	ナデ		
293	2Ca・1層下部	深鉢・底部	縄文(LR)・網代痕	〃		
294	〃 〃 〃	深鉢・口縁部	縄文(LR)	〃		
295	〃 〃 〃	〃	ボナン状刻付文	〃		
296	〃 〃 〃	深鉢・口縁~胴部	深鉢文①?	〃	厚紙	
297	〃 〃 〃	深鉢・口縁部	縄文(LR)	〃		
298	〃・1層下部より10cm	深鉢	貫通孔・縄文(RL)	(不明)	厚紙	
299	2Ca・1層下部から20cm	深鉢・底部	縄文(LR)	(不明)	厚紙	
300	〃・1層	深鉢・口縁部	縄文①?	ナデ	中々厚紙	
301	〃・1a層上部	鉢・口縁部	縄文(LR)	〃		
302	〃 〃 〃	深鉢・口縁部	頸部に縄文(LR)の刻目止痕・縄文(LR)	〃		
303	〃 〃 〃	深鉢・口縁~胴部	口縁部中々隆帯のみ・刻目止痕(LR)・縄文(LR)	〃	外面一面に吹きこ	P録
304	〃・1a層下部	深鉢・口縁部	深鉢文①	〃	外面にスス	
305	〃・2層上部	鉢	網代痕	〃		
306	〃 〃 〃	鉢・胴部	〃	ナデ(黒色高厚?)	外面厚紙	
307	〃 〃 〃	深鉢・胴部	縄文(RL)	ナデ	厚紙	
308	〃 〃 〃	鉢・口縁部	頸部は刺突・縄文①?	〃		
309	〃・2層下部	深鉢・口縁部	バラの花状突起・縄文(RLR)	〃	厚紙	
310	〃・2層	〃	縄文(LR)	〃		
311	〃 〃 〃	鉢・口縁部	縄文(RL)	ナデ(黒色高厚?)	外面にスス	
312	2Ca・1層から10cm	深鉢・胴部	把手	ナデ	厚紙	
313	〃・1b層上部	鉢・胴部	縄文(LR)	ナデ		
314	〃 〃 〃	深鉢・胴部	縄文(LR)	〃		
315	〃 〃 〃 下部	〃	深鉢文①	〃		
316	〃 〃 〃	深鉢・口縁部	朝日状深鉢文①	〃		
317	〃・1b層	深鉢・頸部	深鉢文①?	〃		
318	〃 〃 〃	口縁部	縄文(LR)	〃	中々厚紙	
319	〃 〃 〃	鉢・口縁部	縄文(LR?)	〃		
320	〃 〃 〃	皿・口縁部	縄文(LR)	〃		

図 番 号	出土地点・層位	器種・部位	再 出 品 (文・線・地・文・彫・体 など)	内 出 (調整など)	備 考	本 文 記 載
321	2 Cy・4層下部	深鉢・口縁部	黒糸文(?)	ナゲ	やや摩耗	
322	" " "	"	口縁部に線帯・キ+ナビタ紋文	"		
323	" " "	深鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
324	2 Cy・4層下部	鉢・口縁部	縄文 (LR)	"	やや摩耗	
325	" " "	"	"	"	"	
326	" " "	"	"	"	内側一面におこげ	
327	" " "	深鉢・胴部	黒糸文(?)	"		
328	" " "	"	縄文 (RL)	"		
329	" " "	深鉢・口縁部		"		
330	" " "	鉢?・口縁部	縄文 (LR)	"	天地逆(蓋)?	
331	" " "	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
332	" " "	深鉢・胴部	黒糸文(?)	"		
333	" " "	鉢・口縁部	黒糸文(?)	"		
334	" " "	深鉢・胴部	黒糸文(?)	"		
335	"・2層	"	線の線帯・縄文 (LR)	"		
336	" " "	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	"	胎土悪い	
337	" " "	"	黒糸文(?)	"	内側におこげ	
338	2 Dn・2層中間部	深鉢・胴部	黒糸文(?)	"		
339	" " "	浅鉢	4単位の変形・縄文 (RL)	"		
340	2 Dn・25層	鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
341	" " "	深鉢・口縁部	黒糸文(?)?	ナゲ		
342	" " "	深鉢・胴部	くし蓋文	"		
343	" " "	"	黒糸文 (R?)	"	胎土悪い	
344	"・2～3層	鉢・口縁部		"	摩耗	
345	" " "	"		"		
346	2 Df・B1層		台	"		
347	" " "	皿・口縁部	口縁部に内彫的な突起	"	やや摩耗	
348	"・B2層	浅鉢?・口縁部	口縁内彫、口縁部に突起	ミガキ		
349	2 Df・B3層	皿・胴部	突起	ナゲ		
350	2 Df・B2層	深鉢・口縁部	器部に縄 (LR) の側面圧痕・縄文(?)	"	やや摩耗	
351	"・6層	"	器部に縄 (LR) の側面圧痕・縄文 (LR)	"		
352	" " "	鉢・口縁部	縄文 (RL)	"		
353	" " "	胴部	縄文 (LR)	"	やや摩耗	
354	"・4～5層	鉢・口縁部	縄文 (RL)	"		
355	" " "	"	縄文(?)	"	摩耗	
356	" " "	皿・口縁～胴部		"		
357	" " "	鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
358	2 Dg・23層	鉢・口縁部	引込縄文 (RL)	"		
359	" " "	鉢		"		
360	" " "	深鉢・口縁部		"		
361	" " "	鉢・口縁部		ナゲ(丁寧)		
362	" " "	"	縄文 (LR)	ナゲ		
363	" " "	"	縄文 (RL)	"	内側におこげ	
364	" " "	鉢・口縁～胴部	縄文 (RL?)	"	ニ・テ・ム・ア土着?	
365	" " "	浅鉢		"	摩耗	

図 番 号	出土地点・時代	器種・部位	内 面 (文様・地文・原形など)	内 面 (図様など)	備 考	本 文 記 載
366	2 Dg・6 期	鉢・口縁部	羽状縄文 (LR)	ナデ		
367	“ “ “	“	“	“		
368	“ “ “	“	縄文 (R?)	ナデ (細)	やや摩耗	
369	“ “ “	鉢・胴部	縄文 (RL?)	ナデ	胎土悪い・やや摩 耗	
370	“ “ “	底面	いざぎ?	いざぎ?		
371	“ “ 6 期	口縁部		ナデ		
372	“ “ “	深鉢・口縁部		“	胎土悪い・摩耗	
373	“ “ “	鉢・胴部	縄文 (RL)	“		
374	2 Dg・6 期	鉢・胴部	縄文 (RL?)	“	外面に吹きこぼれ	
375	“ “ “	鉢・底面	朝代痕	“		
376	“ “ “	蓋		“	内面におこげ?	
377	“ “ “	口縁部	羽状縄文 (LR, RL?)	“		
378	“ “ “	深鉢・口縁部	突起・縄文 (LR)	“		
379	“ “ 1 b 期	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	“	やや摩耗	
380	“ “ “	鉢・口縁部		“	やや摩耗	
381	“ “ 2 期上部	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	“	摩耗	
382	“ “ 2 期	深鉢・胴部	縄糸文内			
383	2 Dk・B3 期	蓋・目部				
384	“ “ “	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	“	内外面にスス	
385	“ “ “	底?・底面	4 足	“	内面におこげ	
386	“ “ “	深鉢・口縁部		“		
387	“ “ “	胴部	縄文 (LR)	“	外面に吹きこぼれ	
388	“ “ “	鉢・口縁部	口縁内割・口縁部に沈線・縄文 (LR)	“	内面におこげ	
389	2 Dkl・B3 期	底	羽状文線 4 単位・縄文 (LR)	胎土で		
390	2 Dk・“	“	口縁内割・口唇部に沈線・胴部文線 4 単位・縄文 (LR)	いざぎ		
391	“ “ “	底・口縁部	口縁内割に沈線・口唇部に爪形文?・朝代痕	ナデ		
392	2 Dk・6 期上部	台	高台・縄文 (LR)			
393	“ “ 1 b 期	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	“	外面スス・やや摩 耗	
394	“ “ “	口縁部	縄文 (LR)	“		
395	“ “ “	“	“	“		
396	“ “ “	鉢・口縁部	縄文 (RL)	“		
397	2 Dkl・4a4 期	底・口縁~胴部	胴部に縄 (LR) の朝代狂痕・縄文 (LR)	“	やや摩耗	
398	2 Dkl・4a4 期	底・口縁~胴部	縄文 (LR)	“	胎土悪い	
399	“ “ “	蓋	“	“		
400	“ “ 4a5 期	鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナデ		
401	“ “ “	鉢・口縁~胴部	縄文 (LR)	“	外面に吹きこぼ れ・摩耗	
402	“ “ “	“	“	“		
403	“ “ “	底・口縁部	口縁内割に 2 本沈線・口唇部に突起	“	やや摩耗	
404	2 Dk・“	鉢・口縁部	縄文 (RL)	“		
405	“ “ “	“	縄文 (RL?)	“	やや摩耗	
406	2 Dkl・“	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	“		
407	2 Dk・“	底・口縁部	縄文 (LR)	“		
408	2 Dkl・4a6 期	鉢・胴部	沈線層(胎土状表面)・縄文 (LR)			
409	“ “ “	“	縄文 (LR)			
410	“ “ “	鉢・口縁部	縄文 (LR)	“		

図 類 番号	出土地点・高位	器種・部位	内 容 (文 様・地 文・取 柄 など)	内 原 (調査など)	備 考	本文 記載
411	2 D1 - 23 部	鉢・胴部	羽状縄文(?)	"	やや摩耗	
412	" - "	漆鉢・口縁部	横方向の調整痕	"		
413	" - 6 部上部	蓋	(丁寧なナデ)	"		
414	" - 6 部下部	鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナデ		
415	" - "	漆鉢・胴部	縄文 (RL)	"		
416	" - "	鉢・胴部	縄文 (LR)	"	やや摩耗	
417	" - "	鉢・口縁部	"	"		
418	" - "	胴部	"	"		
419	" - "	鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
420	" - "	注口・胴部	段差	"		
421	" - "	口縁部	縄文 (LR)	"		
422	" - "	"	"	"	やや摩耗	
423	2 D1 - 6 部下部	口縁部	縄文 (LR)	ナデ		
424	" - 6 部	鉢・口縁部	実録図部に 3 条の竜刺・縄文(?)	"	摩耗	
425	" - "	口縁部	"	不明	"	
426	" - "	漆鉢・胴部	龍刺・縄文 (RL)	ナデ		
427	" - 1 b 部	漆鉢・口縁部	胴部に縄 (RL) の刻印汪痕・縄文 (RL)	ナデ		
428	" - "	漆鉢・胴部	縄文 (LR?)	"	摩耗	
429	" - "	漆鉢・口縁部	口唇部に 2 条沈線・真通孔	"	胎土悪い	
430	" - 4 a 2 部	蓋・口縁・胴部	縄文 (LR)	"		
431	" - "	漆鉢・胴部	縄文 (RL)	"		
432	" - "	蓋・口縁部	縄文 (LR)	"		
433	2 D1m - 4 a 5 部	鉢・口縁部	縄文 (RL)	"		
434	" - "	"	縄文(?)	"	摩耗	
435	" - "	"	縄文 (LR)	"	やや摩耗	
436	2 D1 - "	鉢・胴部	縄文 (RL)	"		
437	" - "	蓋	朝代痕?	"	摩耗	
438	2 D1m - "	鉢	口縁部に縄 (LR, 2.5 cm) の断面残痕・縄文 (LR)	"	摩耗	
439	2 D1 - "	蓋	本取痕?	"	やや摩耗	
440	" - "	鉢	"	"		
441	" - 4 a 6 部	蓋・胴部	"	ナデ	摩耗	
442	" - "	鉢・胴部	縄文 (LR)	"	胎土悪い・摩耗	
443	" - "	鉢・口縁部	"	"		
444	" - "	"	"	不明	摩耗	
445	" - "	漆鉢・胴部	縄文 (LR)	ナデ		
446	" - "	鉢・口縁部	"	"	やや摩耗	
447	" - 2 部	蓋・胴部	"	"		
448	2 D1 - 2 部	鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナデ (丁寧)		
449	" - "	鉢・口縁部	折り返げた突起・縄文 (RL?)	ナデ		
450	" - "	"	縄文 (RL)	"		
451	" - "	台	縄文 (LR?)	ナデ (細)		
452	" - "	蓋	3 層位の旋紋のモチーフの間に 2 角形のモチーフ・縄文 (RL)	復讐で		
453	" - "	鉢	文様 6 単位・縄文 (LR) - 朝代痕	ナデ		
454	2 D1m - 23 b 部上 部	鉢・口縁部	"	ナデ (丁寧)	やや摩耗	
455	" - "	鉢・胴部	縄文 (LR)	ナデ	"	

図 番 番 号	出土地点・部位	器種・部位	外 面 (文 様・地 文・原 形 など)	内 面 (文 様など)	備 考	本 文 記 載
456	2 Dm・23cm 上層	鉢・胴部	縄文 (RL)	ナデ		
457	"	縁部	羽状縄文 (RL と LR?)	"	胎土厚い・外面吹きこぼれ	
458	"・23cm 下層	鉢・口縁部	突起部内面にも波線・縄文?	"	厚底	
459	"	縁部・口縁部	口縁部内側に縄文 (RL)	"	内面に吹きこぼれ	
460	"・23cm	鉢・口縁部	羽状縄文 (不明)	"	厚底	
461	"	縁部・口縁部	"	"	内面におこげ	
462	"	"	くし縞文	ナデ (厚)		
463	"	注口?・胴部	羽状縄文 (RL と LR)	ナデ		
464	"	注口・胴部	羽状縄文 (RL のみ、0 数多量)	ナデ (厚)		
465	2 Dm ~ 2 Dm 1 層	縁部・口縁部	(ナデ)	ナデ	胎土厚い	
466	"	鉢	口縁部に2つの括弧した縦長の突起(単位不明)・縄文?	"	厚底	
467	2 Dm・10cm 3 層	鉢・口縁部	(丁寧なナデ)	ナデ (丁寧)		
468	"	"	口縁部	"		
469	"	口縁部	右側に突起・縄文?	ナデ	やや厚底	
470	"	鉢	縄文 (LR?)	ナデ (厚)	"	
471	2 Dm・10cm 3 層	縁部・胴部	縄文 (RL)	ナデ		
472	"	"	"	不明	やや厚底	
473	"・6層上層	鉢・胴部	縄文 (LR?)	ナデ		
474	"	縁部・胴部	縄文 (RL)	"		
475	"	鉢・胴部		ナデ (丁寧)	天地逆?	
476	"	鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナデ	やや厚底	
477	"・6層下層	"	"	"		
478	"	"	縄文 (RL)	"	やや厚底	
479	"	縁部・口縁部	ゆるいくし縞文	"	外側に吹きこぼれ	
480	"	"	縄文 (RL?)	不明	厚底ほどい	
481	"	縁部・胴部	羽状縄文 (LR のみ)	"	内面厚底	
482	"	底	(ナデ)	ナデ		
483	"	"	(丁寧なナデ)	"	一部割差	
484	"・4a5c 層	鉢・口縁部	縄文 (LR?)	ナデ	厚底	
485	"・4a5 層	鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
486	"	縁部・口縁部	縄文 (RL)	"	外側に吹きこぼれ	
487	"	鉢・口縁部	"	ナデ (丁寧)	内面におこげ	
488	"	縁部・口縁部	突起部 (RL)・縄文 (RL)	ナデ	"	
489	"	"	"	"	厚底	
490	"	縁部	縄文 (LR)	"	外底スス?	
491	"	底	突起部に (RL) の突起部・縄文 (RL)	"	やや厚底	
492	"・3層	縁部・胴部	縄文 (LR)	ナデ		
493	2 Dm ~ 2 Dm 1 層	縁部・口縁部	くし縞文	ナデ (厚)		
494	"・1層	合付鉢	口縁部粘土の結核 (上に刺目)・刺目・縄文 (LR)	"	外底スス	
495	2 Dm・10cm 3 層	縁部・口縁部	縄文 (LR)	ナデ		
496	2 Dm・10cm 3 層	底・胴部	縄文 (RL?)	ナデ (厚)	厚底	
497	"	鉢・口縁部	縄文 (RL)	ナデ?	"	
498	"	"	縄文?	ナデ	やや厚底	
499	"	縁部・胴部	縄文 (RL)	不明	厚底	
500	"	鉢・胴部	"	ナデ		

図 番 号	出土地点・部位	器種・部位	内 容 (文 種・地 文・原 体 など)	内 容 (調査など)	備 考	本 文 記 載
501	25m - 10a3 層上層	鉢・口縁部	(イガキ?)	不明	内側摩耗	
502	" "	"	"	ナデ	"	
503	" "	"	口縁部と胴部の間に設くし原文	"	内側摩耗	
504	" " 10a5 層下 部	"	縄文(?)	不明	摩耗のどい	
505	" "	"	縄文 (RL)	ナデ	内側におこげ	
506	" "	胴部・口縁部	胴部に縄 (LR) の御魂汪痕・縄文 (LR)	"	摩耗	
507	" "	鉢・胴部	縄文 (RL)	"	摩耗	
508	" "	胴部・口縁部	縄文 (LR)	ナデ?	"	
509	" "	鉢・口縁部	縄文(?)	ナデ	やや摩耗	
510	" "	"	縄文 (RL) ?	"	"	
511	" "	"	縄文 (RL)	"	"	
512	" "	胴部・胴部	縄文?	"	外側摩耗・内側おこげ	
513	" "	"	縄文(?)	"	やや摩耗	
514	" "	注口・胴部	浮彫的・(イガキ?)	指などで	"	
515	" "	胴部・胴部	縄文 (RL)	ナデ	"	
516	" " 4a5c 層	鉢・口縁部	縄文 (RL)	"	"	
517	" "	鉢・胴部	縄文 (LR)	"	"	
518	" "	鉢・口縁部	縄文 (LR)	"	"	
519	" "	胴部・口縁部	口縁部一段高い・縄文 (LR)	ナデ?	やや摩耗	
520	" "	鉢・胴部	縄文 (LR?)	"	外側摩耗	
521	" "	鉢・胴部	"	ナデ	"	
522	" "	蓋・胴部	胴部に縄(?)の御魂汪痕・縄文(?)	不明	摩耗のどい	
523	" "	鉢・口縁部	縄文 (RL)	ナデ?	やや摩耗	
524	" "	胴部・口縁部	縄文 (LR)	不明	内側摩耗	
525	" "	胴部・胴部	縄文 (RL)	イガキ?	"	
526	" "	胴部・口縁部	縄文 (LR)	ナデ?	やや摩耗	
527	" "	"	縄文 (RL)	"	"	
528	" "	胴部・胴部	縄文(?)	ナデ	"	
529	" "	胴部・口縁部	縄文 (LR)	"	"	
530	" "	"	"	"	"	
531	" "	鉢・胴一底部	"	"	やや摩耗	
532	" " 4a5 層	胴部・口縁部	縄文 (LR)	ナデ	やや摩耗	
533	" "	洗鉢	"	(不明)	摩耗のどい、割傷	
534	" "	鉢	"	ナデ	摩耗のどい	
535	" " 2 層下部	胴部・胴部	腹の隆起・縄文(?)	ナデ	"	
536	" "	鉢・口縁部	縄文 (RL?)	"	"	
537	" "	"	"	"	"	
538	" "	胴部・胴部	縄文 (LR?)	ナデ?	外側に突きこぼれ・摩耗	
539	" "	胴部・口縁部	縄文 (RL)	"	内側摩耗	
540	" "	実器	"	(不明)	摩耗	
541	" " 2 層	胴部・胴部	"	"	"	
542	" "	胴部・口縁部	口縁部、胴部に縄 (RL) の御魂汪痕・縄文 (RL)	不明	内側摩耗のどい	P 8
543	" "	"	"	ナデ(丁寧)	"	
544	2 Do - 26 a 層	"	くし原文	ナデ	"	
545	2 Do - 26 a 層	胴部	"	ナデ	"	

調査番号	出土地点・層位	器種・部位	材質 (文様・地文・肌体など)	内面 (調整など)	備考	本文記載
546	2 Do・2層目	注口?・胴部	縄文器類形状・二又尖底・縄文(LR)	ナデ(縄)		
547	" " "	鉢・胴部	"	ナデ		
548	" " 26a2層	注口?・胴部	ミズベレ状縁帯	ナデ		
549	" " 27層	鉢・口縁部	やや尖りぎみの突起	"		
550	" " "	蓋?・胴部	横状突起の鋭くし歯状状縁	"		
551	" " 10層上層	鉢・口縁部	縄文(LR)	ナデ(縄)		
552	" " 10層下層	深鉢・口縁部	状縁深い・縄文(LR)	ナデ		
553	" " "	"	縄文(LR)	"		
554	" " "	"	"	"	やや厚縁	
555	" " "	深鉢・胴部	"	"	"	
556	" " "	"	縄文(RL)	"	"	
557	" " "	鉢・口縁部	縄文(LR)	"	やや厚縁	
558	" " "	注口・胴部	羽状縄文(LRのみ)		厚なで	
559	" " "	鉢・口縁部	縄文(RL?)	ナデ	やや厚縁	
560	" " "	"	縄文(RL)	"	"	
561	" " "	深鉢・胴部	縄文(RL?)	"	"	
562	" " "	深鉢・口縁部	横状口縁・縄文(LR?)	"	"	
563	" " "	"	横状口縁・縄文(?)	ナデ?	厚縁	
564	" " "	"	縄文(?)	"	厚縁・外側に突きこぼれ?	
565	" " "	鉢・口縁部	"	ナデ(丁寧)	"	
566	" " "	"	縄文(LR)	ナデ	"	
567	" " 10層	口縁部	羽状縄文(RLのみ?)	不明	厚縁	
568	" " "	鉢・胴部	縄文(?)	ナデ?	"	
569	" " "	鉢・口縁部	縄文(LR?)	ナデ	外側やや厚縁	
570	2 Do・10層	鉢・口縁部	縄文(LR)	ナデ	"	
571	" " 2層下層	口	縄文(RL)	"	やや厚縁	
572	" " "	深鉢・口縁部	横状口縁・縄文(?)	ナデ(丁寧)	"	
573	" " "	鉢?・口縁部	山形突起、内面にも列目	ナデ	やや厚縁	
574	" " "	鉢・胴部	"	ナデ?	厚縁	
575	" " "	鉢・口縁部	状縁深い・縄文(LR)	"	やや厚縁	
576	" " "	深鉢・口縁部	縄文(RL)	ナデ(縄)	"	
577	" " "	深鉢	ゆるやかな横状口縁(単位不明)・縄文(LR)	ナデ	縁部明確	
578	" " "	深鉢・口縁部	縄文(LR)	(不明)	厚縁	
579	" " 2層	深鉢・胴部	縄文(LR)	ナデ	"	
580	" " "	深・口縁部	頸部に縄(RL)の刻印残痕・縄文(RL)	"	内面に突きこぼれ?	
581	" " "	"	縄文(LR)	"	"	
582	" " "	鉢・口縁部	(ナデ?)	ナデ	外側に突きこぼれ	
583	" " "	深鉢	縄文(LR)	"	外側やや厚縁	
584	2 Dp・1h層下層	鉢・口縁部	縄文(RL)	ナデ	外側に突きこぼれ	
585	2 Dp・4a2層	"	"	ナデ(丁寧)	"	
586	" " "	鉢・胴部	"	ナデ	"	
587	" " "	鉢・口縁部	"	"	"	
588	2 Dpq・4a3層	深鉢・口縁部	横糸文(?)	"	縁上深い	
589	" " "	"	縄文(RL)	"	外側に突きこぼれ	
590	" " "	"	縄文(?)	"	"	

図番 番号	出土地点・部位	種類・部位	外 面 (文 様・造 文・図 像 など)	内 面 (彫塑など)	備 考	本 文 記 載
501	2Dp・4a3層	漆鉢	頸部に縹(LR)の御面正儀・縹文(LR)	ナデ	外側に吹きこぼれ	
502	" "	鉢・割部	縹文(LR)	ナデ(丁寧)		
503	" "	鉢・口縁部	"	ナデ		
504	" "	"	"	"	摩耗	
505	2Dp・4a3層	漆鉢・口縁部	頸部に縹(LR)の御面正儀・縹文(LR)	ナデ	やや摩耗	
506	" "	鉢・口縁部	縹文(LR)	"	"	
507	" "	"	口縁部、頸部に縹(LR)の御面正儀・縹文(LR)	ナデ?	摩耗	
508	" "	漆鉢・口縁部	縹文(LR)	ナデ	やや摩耗	
509	"・4a4層	盃・胴部	縹文(LR?)	胎なで	"	
500	" "	漆鉢・口縁部	羽状縹文(LRのみ)	ナデ		
501	" "	"	口縁部、頸部に縹(LR)の御面正儀・縹文(LR)	"		
502	" "	漆鉢・胴部	縹文(LR)・(イダキ?)	ヒダキ?	外側に丁寧なつくろ	
503	" "	漆鉢	頸部に縹(LR)の御面正儀・縹文(LR)	ナデ		
504	2Dcp・4a4層	鉢	4単位の子らやかな波状打線・縹文(LR)	"	やや摩耗	
505	"・4a5層	漆鉢・胴部	縹文(LR)	ナデ	内側灰色	
506	" "	鉢・口縁部	縹文(LR)	"	"	
507	" "	漆鉢・胴部	"	"	"	
508	" "	"	縹文(RL)	"	"	
509	" "	鉢・口縁部	縹文(RL)	"	"	
510	" "	鉢・胴部	縹文(LR)	"	"	
511	2Dp・ "	盃	上下の漢文様の間に粘土の結付・深い割実判	"	外側摩耗ひどい	
512	" "	漆鉢	口縁部、頸部に縹(LR、4cm)の御面正儀・縹文(LR)	"	"	P図
513	" "	鉢	4波状?・縹文(LR?)	"	摩耗	
514	2Dcp・2層	盃・胴部	頸部に縹(RL)の御面正儀・縹文(RL)	ナデ		
515	" "	鉢	口縁部に縹(LR)の御面正儀・縹文(RL?)	"	内側におこげ	
516	2Dq・1b層上部	鉢・口縁部	縹文(RL)	"	"	
517	"・4a1層上 部	鉢	縹文(RL)	ナデ	外側に吹きこぼれ	
518	" "	漆鉢	"	"	外側にスス	
519	2Dq・4a1層上 部	鉢	縹文(LR)	ナデ	"	
520	" "	鉢・割部	縹文(RL)	"	"	
521	"・4a1層	盃・胴部	縹文(LR)	"	"	
522	" "	"	口縁部	"	"	
523	" "	鉢・口縁部	縹文(?)	"	やや摩耗	
524	" "	"	縹文(LR)	"	内側におこげ	
525	" "	"	"	"	"	
526	" "	鉢・割部	縹文(RL)	"	"	
527	" "	"	(不明)	"	摩耗	
528	" "	漆鉢・胴部	縹文(RL)	"	"	
529	" "	台	縹文(LR)	"	摩耗	
530	" "	鉢・口縁部	おじったような突起・頸部に縹(RL)の御面正儀・縹文(RL)	"	"	
531	" "	漆鉢・口縁部	縹文(RL)	"	"	
532	2Dq・ "	漆鉢	頸部に縹(RL、3.5cm)の割実正儀・縹文(RL)	"	内外面スス・外面 摩耗	
533	2Dq・4a3層上 部(10cm)	鉢・口縁部	おじったような突起・縹文(LR)	ナデ	内側におこげ	
534	" "	"	縹文(LR)	ナデ(丁寧)	"	
535	"・4a3層下 部	"	右傾した突起・縹文(LR)	ナデ	"	

図版 番号	出土地点・部位	器種・部位	外 面 (文様・地文・原形など)	内 面 (図章など)	備 考	本文 記載
606	2 Dq・4 a 5 層	口縁部	(ナデ)	ナデ	内面口縁部成色	
607	" " "	鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
608	2 Dqr・"	深鉢・頸部	縄文 (LR)	"	外面に吹きこぼれ・摩耗	
609	" " "	蓋・口縁部	頸部に縄 (RL) の創面汪痕・縄文 (RL)	"		
610	2 Dq・2 層上部	蓋	縄文 (LR)	"	やや摩耗	
611	2 Dqr・2 層中部 (30 cm)	深鉢	文様 4 単位	"		
612	2 Dq・2 層	深鉢・口縁部	頸部に縞の残存	ナデ	摩耗	
613	" " "	鉢・胴部	縄文 (RL)	"		
614	2 Dq・2 層	鉢・口縁部	頸部に縄 (LR) の創面汪痕・縄文 (LR)	ナデ?	摩耗	
615	2 Dr・10 層	鉢	頸部に縄 (RL) の創面汪痕・縄文 (RL)・黒代痕	ナデ		
616	2 Drs・10 a 1 層 下部	深鉢・胴部	縄文 (RL)	ナデ		
617	2 Dr・10 a 1 層	鉢・胴部	"	"		
618	" " 10 a 3 層上 部	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
619	" " "	深鉢・胴部	"	"		
620	" " "	鉢・口縁部	縄文 (RL)	"		
621	" " 10 a 3 層	口縁部	縄文 (LR)	"	内面におこげ?	
622	" " "	浅鉢	4 島の沈線?	"	摩耗	
623	" " 6 層中部	鉢・口縁部	沈線・黒代痕い・縄文(?)	ナデ (丁取)		
624	" " 6 層下部	鉢	縄文 (LR)	ナデ	内面におこげ?	
625	2 Drs・6 b 層	深鉢・胴部	縄文 (RL)	"	やや摩耗	
626	2 Dr・17 層	鉢	(ナデ)	"	"	
627	" " "	蓋	縄文 (RL)	ナデ (黒)		
628	" " "	"	(不明)・木炭痕	(不明)	摩耗	
629	" " 16 層	鉢・胴部	縄文(?)	ナデ	おこげ?・摩耗	
630	" " "	鉢・口縁部	縄文(?)	"	外周摩耗著しい	
631	" " 4 a 1 層上 部	合			やや摩耗	
632	" " 4 a 1 層	深鉢・口縁部	口縁部・頸部に縄 (LR) の創面汪痕・縄文 (LR)	ナデ (丁取)		P 跡
633	" " "	深鉢	縄文 (LR)	ナデ		
634	" " "	"	頸部に縄 (RL) の創面汪痕・縄文 (RL)	"	外面にスス	
635	" " "	鉢・胴部	縄文 (RL)	"	やや摩耗	
636	" " "	鉢・口縁部	"	"		
637	" " "	片口	文様 2 単位・縄文 (LR)	"		
638	" " "	鉢	(イダキ)	(イダキ?)	内外面におこげ	P 跡
639	2 Dr・4 a 5 層	鉢・胴部	縄文(?)	不明	摩耗著しい	
670	" " "	"	縄文 (LR)	ナデ		
671	" " "	"	縄文 (RL)	"	やや摩耗	
672	" " 2 層	"	縄文 (LR)	"		
673	" " "	深鉢・口縁部		ナデ?	外面に吹きこぼれ・摩耗	
674	2 Da・2 Da 3 層	鉢・口縁部	山形突起	ナデ	摩耗	
675	" " "	注口・胴部	縄文帯一枚高い・瘤状突起・縄文 (LR)	指なで		
676	" " "	深鉢・口縁部		ナデ		
677	" " 10 a 1 層上 部	深鉢・頸部	縄文 (LR)	"		
678	" " "	鉢・口縁部	"	"		
679	" " "	"	"	"		
680	" " 10 a 1 層	鉢・胴部	縄文 (RL)	"		

図番 番号	出土地点・層位	器種・部位	内 面 (文・線・地文・取付など)	内 面 (調整など)	備 考	本 文 記 載
681	2 Da・10 a 1 層	深鉢・口縁部	波線刻い・縄文 (LR)	ナデ		
682	" "	"	縄文 (LR)	"	外周にスス	
683	"・10 a 3 層下 部	"	口縁内側肥厚 (内側に折り返し)・縄文 (RL)	"		
684	" "	"	縄文 (RL)	"	摩耗著しい	
685	" "	口縁部	縄文 (LR)	"		
686	" "	鉢・胴部	縄文 (RL)	"	摩耗著しい	
687	" "	不明	縄文 (LR)	"	天地逆?	
688	" "	深鉢・胴部	縄文付	"	磨耗著しい	
689	"・10 a 3 層	深鉢	縄文 (LR)	"	摩耗	
690	" "	鉢	6 筋位の波状・縄文 (LR)	"	内外周摩耗	
691	" "	突起			摩耗	
692	"・6 層	注口・注口～胴部		ナデ	摩耗	
693	"・4 a 5 層	鉢	(ナデ)	"	ミルチムア土器?	
694	2 Da・2 層	鉢	頸部に縄 (LR) の側面残留・縄文 (LR?)	ナデ	やや摩耗	
695	" "	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	"	摩耗	
696	2 Da・"	"	"	"		
697	" "	深鉢・胴部	割目状波高文 (R?)	ナデ?	内面にちりこび・摩 耗	
698	2 Da・"	深鉢	縄文 (LR)	"	やや摩耗	
699	2 Da・"	注口?・胴部	一段高い縄文帯・縄文付?	ナデ	"	
700	" "	突起				
701	" "	深鉢・胴～底部	縄文付	ナデ	やや摩耗	
702	" "	鉢・口縁部	(ナデ)	"		
703	"・18 層	"	貫通孔 (挿管孔?・製作後に充填)・(ミガキ)	ミガキ?		
704	" "	底	(ナデ)	ナデ		
705	" "	口縁部		ナデ (丁寧)		
706	" "	"	波線彫欠損・(ミガキ)	"		
707	" "	底・胴部	縄文 (RL)	ナデ		
708	" "	鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
709	" "	"	"	ナデ (丁寧)	やや摩耗	
710	" "	深鉢・口縁部	くし線文	ナデ		
711	" "	底?・胴部	縄文付	"	摩耗	
712	" "	鉢・口縁部	縄文帯一段高い・縄文付?	"	"	
713	" "	鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
714	" "	深鉢・口縁部	(ナデ)	"		
715	" "	深鉢・胴部	縦の波帯・縄文 (RL)	"		
716	" "	底		"	やや摩耗	
717	"・10 層	深鉢・口縁部	くし線文	ナデ		
718	" "	深鉢	縄文 (LR?)	"	胎土悪い・摩耗	
719	2 Da・10 層	深鉢・胴部	縄文 (LR)	ナデ		
720	" "	"	"	"		
721	" "	深鉢	縄文 (LR?)	ミガキ?		
722	" "	注口・胴部	やや高めの縦長の突起 (後に割目)・縄文 (RL)	ナデ (細)		
723	" "	底・胴部	縄文付	ナデ	二次焼成?	
724	" "	深鉢	縄文 (LR)	"	内外面におこび	
725	" "	口縁部	(ミガキ?)	ミガキ?		

図 番 号	内土地点・標位	源種・標位	外 面 (文 種・地 文・面 体 など)	内 面 (刻字など)	備 考	本 文 記 載
726	2 Dc・10 標	合		ナデ	摩耗	
727	" " "	採録	縄文 (LR)	"		
728	" " "	突部		"		
729	" "・2 標 (鳩山 東上)	採録	縄文 (RL)	ナデ	やや摩耗	
730	" " "	鉢		ナデ	摩耗	
731	" " "	採録・口縁部	頸部に縄 (LR) の刻印残痕・縄文 (LR?)	ナデ?	内面摩耗	
732	" " "	採録・突起	縄文 (LR、0 段多曲)	"	摩耗	
733	" " "	鉢・口縁部	縄文 (LR)	"	"	
734	" " "	"	"	ナデ (丁寧)	外面に吹きこぼれ	
735	" " "	"	縄文 (RL)	ナデ	"	
736	" " "	採録・口縁部	縄文 (LR)	"	やや摩耗	
737	" " "	採録・突起	縄文(?)	不明	内面削落・摩耗	
738	" " "	採録・胴部	"	ナデ	やや摩耗	
739	" " "	採録	口縁部に縄文 (RL)	ナデ (丁寧)	外面二次焼成?	
740	" " "	器・口縁部	口縁部縄文施文の後に刺突・縄文 (LR)	ナデ		
741	" " "	"	縄文 (LR)	"		
742	" "・2 標下部	採録	口縁部刻目・口縁部がタン状跡付割傷・器底文(?)	"		
743	" "・6 標	採録・胴部	縄文 (RL)	ナデ (丁寧)	外面に吹きこぼれ	
744	2 Du・6 標	鉢・口縁部	縄文 (RL)	ナデ (丁寧)		
745	" " "	鉢・胴部	"	"		
746	" " "	採録	縄文 (RL)	ナデ	外面に吹きこぼれ・摩耗	
747	" "・5 標	"	(ナデ)	"		
748	" " "	"	縄文 (LR)	"	内面におこげ?	
749	" " "	採録・口縁部	"	"		
750	" " "	"	"	"		
751	" " "	"	"	"	外面にスス	
752	" " "	採録・胴部	"	"		
753	" " "	鉢・胴部	縄文(?)	ナデ?	摩耗	
754	" " "	"	縄文 (LR)	ナデ		
755	" " "	合付鉢	頸部・胴部文様 4 単位・台の貫通孔 3 単位?・縄文 (LR)	"	内面におこげ?	
756	" "・1 b 標下部	鉢・口縁部	縄文 (RL?)	ナデ	下部二次焼成?	
757	" " "	器?・胴部	縄文 (LR)	"		
758	" "・1 b 標	採録・口縁部	口縁部・胴部に縄 (LR) の刻印残痕・縄文 (LR)	"	外面にスス	
759	" " "	"	口縁部・胴部に縄 (RL) に縄 (LR) の刻印残痕・縄文 (LR)	ナデ (重)		
760	" " "	鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナデ		
761	" " "	採録・口縁部	頸部に縄 (LR) の刻印残痕・縄文 (LR)	"		
762	" " "	鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
763	" " "	採録・口縁部	器底文 (R?)	"	胎土悪い	
764	" " "	鉢・口縁部	縄文 (LR)、一部刻印残痕 (LR)	"		下標
765	" " "	鉢・胴部	(ナデ)	"		
766	" " "	"	縄文 (LR)・木炭痕	"		
767	" " "	胴部		指でマ	子づぶぬ	
768	" " "	鉢	4 単位・文様 4 単位・縄文 (LR)・木炭痕	ナデ (重)		
769	2 Du・1 b 標	器	文様 2 単位・縄文 (LR)	ナデ		
770	" "・4 a 3 標	鉢	縄文 (LR)	ナデ	外面摩耗	

図 版 番 号	出土地点・部位	器種・部位	外 形 (文 様・地 文・図 像 等)	内 装 (図像など)	備 考	本 文 記 載
771	2 Dev・4a3層	漆鉢	縄文(LR)	ナデ		
772	" " "	"	口縁内側に太く浅めの波線	"		
773	2 Du "	鉢・口縁部	"	"		
774	" " "	漆鉢	口縁部、肩部に縄(LR)の御面荘痕・縄文(LR)	"	外面にスス	
775	" - 4a4層	漆鉢・胴部	縄文(LR)	"		
776	" " "	漆鉢・口縁部	口縁部、肩部に縄(LR)の御面荘痕・縄文(LR)	"	外面摩耗	
777	" " "	漆鉢・胴部	縄文(?)	"		
778	" " "	"	縄文(LR)	"	外面にスス	
779	" " "	"	縄文(?)	"		
780	" " "	鉢・口縁部	口縁部内側に折り返し	"		
781	" " "	漆鉢・口縁部	縄文(?)	"		
782	" " "	台付鉢	縄文(LR)	"		
783	" " "	鉢	4波状・肩部に縄(LR)の御面荘痕・縄文(LR)	"		
784	2 Dev・4a5層 下部	漆鉢・口縁部	口縁部、肩部に縄(LR)の御面荘痕・縄文(LR)	ナデ		
785	" " "	鉢	2波状・波部に刻目・縄文(LR)	"		
786	2 Du・4a5層	漆鉢・口縁部	縄文(?)	ナデ		
787	" " "	蓋?・胴部	(蓋はナデ)			
788	" " "	鉢・胴部	縄文(LR)	"		
789	" " "	漆鉢・口縁部	口縁部、肩部に縄(LR)の御面荘痕・縄文(LR)	"		
790	" " "	鉢・胴部	縄文(RL)	"		
791	" " "	漆鉢・胴部	縄文(?)	"		
792	" " "	鉢	口縁部、肩部に縄(LR)の御面荘痕・縄文(LR)			
793	" " "	鉢・胴部	縄文(?)	"	外面やや摩耗	
794	2 Du・4a5層	漆鉢・口縁部		ナデ	やや摩耗	
795	" " "	漆鉢?・胴部	縄文(?)?	"		
796	" " "	漆鉢	縄文(LR)・木蓋痕			
797	2 Dev・8層	漆鉢・胴部	縄文(RL)	ナデ	やや摩耗	
798	" " "	"	縄文(LR)	"		
799	" " "	鉢・口縁部		"	外面やや摩耗	
800	" - 5b1層	漆鉢・胴部	縄文(LR)	"	外面摩耗	
801	" - 1b層	"	縄文(RL)	"		
802	" " "	漆鉢・口縁部	頸部に縄(RL)の御面荘痕・縄文(RL)	"		
803	" " "	"	一つ長溝孔、2つの小さな深い割突・縄文(LR)	"	外面やや摩耗	
804	" " "	"	縄文(?)	"		
805	" " "	"	縄文(LR?)	"	外面やや摩耗	
806	" " "	漆鉢・胴部	頸部に縄(RL)の御面荘痕・縄文(RL)	"		
807	" - 4a2層	漆鉢・胴部	縄文(LR)	"	外面にスス	
808	" " "	漆鉢	"			
809	" - 4a3層上 部	漆鉢・胴部	縄文(RL)	ナデ(丁寧)		
810	" " "	漆鉢・口縁部	縄文(LR)	ナデ	やや摩耗	
811	" " "	漆鉢・胴部	胴部中央に刻目・縄文(LR)			
812	" " "	蓋・胴部	頸部に縄(LR)の御面荘痕・縄文(LR)	"		
813	" " "	鉢・胴部	縄文(LR)	"		
814	" " "	浅鉢	縄文(LR)	"		
815	" " "	鉢・口縁部	"	"		

図番 番号	出土地点・層位	器種・部位	名 番 (文種・地文・図体など)	内 形 (図型など)	備 考	本 文 記 載
816	1 Dr・4a3層上	鉢・口縁部	縄文 (RL?)	ナデ	外面やや摩耗	
817	" " "	鉢・胴部	"	"	"	
818	" " "	深鉢・口縁部	口縁、頸部に縄 (RL) の創面残留・縄文 (RL)	"	"	
819	1 Dr・4a3層上	突起		ナデ	摩耗	
820	"・4a3層	深鉢・胴部	縄文 (RL)	ナデ	二次焼成	
821	" " "	鉢・口縁部	縄文 (LR)	"	内面におこげ、摩耗	
822	" " "	深鉢・胴部	口縁、頸部に縄 (RL) の創面残留・縄文 (RL)	"		
823	" " "	深鉢・口縁部	頸部に縄 (RL) の創面残留・縄文 (RL)	"		
824	" " "	"	縄文 (LR)	"		
825	" " "	"	頸部に縄 (RL) の創面残留・縄文 (RL)	"	磨蝕孔	
826	" " "	"	縄文(?)?	"	摩耗	
827	" " "	深鉢	縄文 (RL、0段多角)	"		
828	"・4a4層	鉢	縄文 (LR)	ナデ		
829	" " "	深鉢・胴部	"	"	摩耗	
830	" " "	蓋?・胴部	"	"	やや摩耗	
831	" " "	鉢・口縁部	"	"	"	
832	"・4a5層	蓋・胴部	"	"	摩耗著しい	
833	" " "	鉢・口縁部	縄文 (RL)	"	やや摩耗	
834	" " "	深鉢・胴部	縄文 (LR)	"	外面にスス	
835	" " "	蓋?・胴部	"	"	やや摩耗	
836	" " "	深鉢・口縁部	頸部に縄 (LR) の創面残留・縄文 (LR)	"		
837	" " "	鉢・胴部	縄文 (RL)	"		
838	" " "	深鉢・胴部	"	"		
839	" " "	深鉢・口縁部	口縁、頸部に縄 (RL) の創面残留・縄文 (RL)	"		
840	" " "	"	"	"	やや摩耗	
841	" " "	"	縄文(口縁部 RL、以下 LR)	"		P 88
842	" " "	"	縄文 (RL)	"		
843	" " "	深鉢・胴部	"	"	外面一面にスス	
844	2 Dr・4a5層	鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナデ		
845	" " "	深鉢・口縁部	頸部に縄 (RL) の創面残留・縄文 (RL)	"		
846	" " "	"	頸部下に磨蝕の刺突・頸部に創面残留 (LR)・縄文 (LR)	"		
847	" " "	"	縄文 (LR)	"		
848	" " "	深鉢・胴部	縄文 (RL)	"	外面にスス	
849	" " "	深鉢	"	"	"	
850	" " "	"	縄文 (LR)	"	"	
851	" " "	蓋	文種4単位?・縄文 (LR)	"	摩耗ひどい	
852	"・2層上部	鉢・胴部	縄文 (LR)	ナデ	外面やや摩耗	
853	" " "	深鉢・口縁部	縄文(?)?	"	"	
854	2 Draw・2層上部	深鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
855	" " "	深鉢・口縁部	縄文(?)	"	胎土磨い	
856	" " "	蓋?・口縁部	(ナデ)	ナデ(磨)		
857	" " "	深鉢・胴部	縄文 (R?)	ナデ		
858	" " "	"	縄文 (LR)	"		
859	"・2層中部	蓋・口縁部	"	"		
860	"・2層下部	深鉢・胴部	磨蝕角磨赤文(?)	"		

調査番号	出土地点・部位	器種・部位	外 形 (文様・地文・原形など)	内 容 (調性など)	備 考	本文記載
861	2 Dw・10a1部 下部	漆鉢・胴部	縄文 (RL?)	ナゲ	やや摩耗	
862	2 Dw・10 部	漆鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
863	" " "	"	"	ナゲ (丁寧)	やや摩耗	
864	" " 10a1部 下部	漆鉢・突起	縄文 (RL)	(削痕)		
865	" " "	漆鉢・口縁部	沈殿層い・縄文 (RL)	ナゲ	やや摩耗	
866	" " "	"	縄文 (RL)	"		
867	" " 10a1部	鉢	縄文 (LR)	"	ミホチユア土器?	
868	" " 10a2部上 部	漆鉢・胴部	縄文 (RL)	ナゲ		
869	2 Dw・10a2部 中部部	漆鉢・口縁部	胴部に縄 (LR) の削面汪痕・縄文 (LR)	ナゲ	やや摩耗	
870	" " "	鉢・胴部	縄文 (RL)	"	"	
871	" " "	漆鉢・胴部	"	"	外割摩耗	
872	" " 10a2部下 部	"	"	"	やや摩耗	
873	" " "	漆鉢・口縁部	"	"	やや摩耗	
874	" " "	蓋	"	(磨耗)	摩耗	
875	" " "	漆鉢・口縁部	縄文 (RL)	ナゲ	やや摩耗	
876	" " "	"	"	"		
877	" " "	"	縄文 (LR)	"	やや摩耗	
878	" " "	"	縄文 (RL)	"	内割摩耗	
879	" " 10a2部	漆鉢	(ナゲ)	"	ミホチユア土器?	
880	" " "	鉢・口縁部	突起	"		
881	2 Dwa・11 部	鉢	縄文 (LR)	ナゲ	外割スス・内割摩 耗	
882	" " "	"	(不明)	ナゲ?	摩耗著しい	
883	2 Dw・4a1部	鉢・口縁部	縄文 (LR?)	ナゲ		
884	" " "	漆鉢・口縁部	胴部に縄 (LR) の削面汪痕・縄文 (LR)	"		
885	" " "	"	胴部に縄 (RL) の削面汪痕・縄文 (RL)	"		
886	" " "	"	(ナゲ)	"		
887	" " "	底部	縄文 (LR?)	"	摩耗	
888	" " "	漆鉢	縄文 (RL)	"	外割にスス・二次 磨耗	
889	" " "	漆鉢・口縁部	"	"		
890	2 Dwa・ "	鉢・胴部	"	"		
891	" " "	漆鉢・口縁部	胴部に縄 (RL) の削面汪痕・縄文 (RL)	"		
892	" " "	"	縄文 (RL)	"		
893	" " "	"	"	"	摩耗	
894	2 Dwa・4a1部	漆鉢・口縁部	沈殿層い・縄文 (RL)	ナゲ		
895	" " "	漆鉢・胴部	縄文 (RL)	"	やや摩耗	
896	" " "	"	"	"	摩耗	
897	" " "	漆鉢・口縁部	胴部に縄 (LR) の削面汪痕・縄文 (LR?)	"	"	
898	" " "	"	尖形単位4以上(6?)・縄文 (RL)	"	やや摩耗	
899	" " "	蓋	胴部に縄 (RL) の削面汪痕・縄文 (RL)	"		
900	" " 4a1部 下部	漆鉢	平縁・(ナゲ)・水雲霞	"		
901	2 Dw・4a1a2 部	漆鉢・口縁部	縄文 (RL)	ナゲ		
902	" " "	"	"	"		
903	" " "	"	"	"		
904	" " "	"	縄文 (LR)	"		
905	" " "	漆鉢・胴部	縄文 (RL)	"		

図 番 番 号	出土地点・標尺	器種・部位	外 形 (文 様・地 文・取 付 など)	内 面 (調査など)	備 考	本 文 記 載
906	2Dw・4a1a2 器	深鉢・口縁部	縁部に網 (RL) の點描正歯・縄文 (RL)	ナゲ		
907	" " "	"	縄文 (RL)	"		
908	" " "	深鉢	縄文 (LR)・朝代瓦	"	やや厚紙	
909	2Dx・18a1器 (上部)	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナゲ		
910	" "・19a1器 (下部)	深鉢・胴部	縄文 (RL)	不明	厚紙	
911	" " "	底・胴部	縄文 (LR)	ナゲ		
912	" " "	鉢・口縁部		不明	厚紙著しい	
913	" " "	深鉢・底部	朝代瓦	ナゲ	厚紙	
914	" " "	鉢	(ナゲ)	"		
915	" " "	口縁部	縄文 (RL)	"		
916	" " "	深鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
917	" " "	深鉢・口縁部	突起 (頂部割落)	"	やや厚紙	
918	" "・10a1器	深鉢	縄文 (RL)	ナゲ	内面厚紙	
919	2Dx・10a1器	深鉢・胴部	縄文 (RL)	ナゲ		
920	" " "	"	縄文 (LR)	"		
921	" " "	深鉢・突起		"	厚紙	
922	" " "	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	"		
923	" " "	口縁部	(ナゲ?)	"	厚紙	
924	" " "	深鉢	縄文 (LR)	"	外底ふきこぼれ	
"	2Dy・18c2器		(庫上の破片に接合)			
925	2Dx・10a1器	突起	(種々ナゲ)	"	ミニチュア土器?	
926	" " "	浅鉢	"	"	やや厚紙	
927	" "・10a2器中 部部	口縁部		ナゲ	厚紙	
928	" "・10a2器	"	折り返し口縁・縄文(?)	"	"	
929	" " "	深鉢	縄文 (LR)	(不明)	"	
930	" "・11a2器	深鉢・胴部	縄文?	不明	厚紙	
931	" " "	底・胴部	縄文 (LR)	"	"	
932	" " "	深鉢・口縁部	"	"	"	
933	" " "	深鉢・突起	(丁寧なナゲ)	ナゲ (丁寧)		
934	" "・2器	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナゲ		
935	" " "	"	縄文 (RL)	"	二次焼成・厚紙	
936	" " "	"	"	"		
937	" " "	深鉢・胴部	"	"		
938	" " "	底	"	"	やや厚紙	
939	2Dy・22器	深鉢・口縁部	斜目帯 (下に沈線なし)	"	"	
940	" " "	口縁部		"		
941	" " "	胴部	くし縞文	ナゲ (縦)		
942	" "・18器上部	深鉢・胴部	縄文 (LR?)	ナゲ	外底厚紙	
943	" "・18器	深鉢・口縁部	歯溝部一段低い・縄文 (RL)	"		
944	2Dy・18器	深鉢・胴部	くし縞文	ナゲ	やや厚紙	
945	" " "	底・胴部	縄文 (RL)	"	外底二次焼成	
946	" " "	深鉢・胴部	歯溝部一段低い・斜状縄文 (LRのみ)	"		
947	" " "	深鉢・口縁部	(1ダナ?)	ナゲ (丁寧)		
948	" " "	注口?・胴部	歯溝部一段低い・斜状縄文 (RL, LR)	ナゲ		
949	" " "	深鉢・胴部	くし縞文	不明	内面厚紙	

原 版 番 号	出土地点・期位	器種・部位	内 容 (文 書・施 文・彫 刻 体 など)	内 容 (調査など)	備 考	本 文 記 載
950	2 Dy - 18 期	蓋	(丁寧なナゲ?)	不明	内部摩耗	
951	" " "	漆鉢・胴部	唐清部一段低い・羽状施文 (RL のみ)	ナゲ		
952	" " "	鉢・口縁部	施文 (LR)	"		
953	" " "	流鉢		"	外部摩耗	
954	" - 18c 2 期	漆鉢・胴部	施文 (LR)	"	やや摩耗	
955	" " "	注口・胴部	唐清部?一段低い	唐などで		
956	" " "	漆鉢・胴部	施文 (LR)	ナゲ	摩耗	
957	" " "	漆鉢・口縁部	"	"		
958	" " "	漆鉢・胴部	沈線やや深い・施文 (RL)	"		
959	" " "	漆鉢・口縁部	施文 (LR)	"		
960	" " "	蓋?	(ニガキ)	唐などで		
961	" - 10 期 中 間 部	流鉢	木漆面	ニガキ?		
962	" - 10 期 下 部	風車注口	削代痕	ナゲ		P 期
963	" - 10 期	鉢	施文 (LR) ・ (ニガキ)	ナゲ (丁寧)		
964	" " "	漆鉢・胴部	施文 (RL)	不明	摩耗	
965	" " "	鉢・口縁部	施文 (LR)	ナゲ		
966	" " "	口縁部	施文 (RL)	"		
967	" " "	胴部	施文 (RL?)	"		
968	2 Dy - 10 期	漆鉢・口縁部	施文 (LR)	ナゲ	内部摩耗	
969	" " "	"	波状口縁・(ニガキ?)	"	"	
970	" " "	"	施文(?)	不明	摩耗	
971	" " "	漆鉢・胴部	(不明)	ナゲ	摩耗甚しい	
972	" " "	漆鉢・口縁部	頸部に施 (RL) の無肥匠痕・施文 (RL)	"		
973	" " "	"	波状口縁	ナゲ (丁寧)		
974	" " "	注口	唐清部?一段低い	ナゲ		
975	" - 11c 2 期	漆鉢・口縁部	施文 (RL)	ナゲ	摩耗甚しい	
976	" " "	口縁部		"	摩耗	
977	" " "	漆鉢・胴部	施文 (LR?)	"		
978	" " "	蓋?・口縁部	唇に遺す把手跡等・(ナゲ)	"		
979	" " "	漆鉢・口縁部	施文 (LR)	"		
980	" " "	蓋	施文 (RL)	"	内部摩耗	
981	" " "	漆鉢・口縁部	付加痕 (LR, R)	"		
982	" " "	"	施文 (LR)	"		
983	" " "	鉢	(ナゲ)	"	ミニチュア土器?	
984	" - 2 期 上 部	漆鉢・胴部	施文 (RL)	ナゲ		
985	2 Dy - 2 期	蓋	文様 4 単位?・施文 (LR)	"	やや摩耗	
986	2 Etc - 26a 期	胴部	施文 (RL?) ?	ナゲ	外部摩耗甚しい	
987	" " "	漆鉢・口縁部	施文 (LR?)	ナゲ		
988	" " "	"	施文 (LR)	"		
989	" " "	"	施文 (RL)	"		
990	" " "	"	施文 (RL?)	"		
991	" " "	口縁部		"	摩耗	
992	" " "	蓋・蓋部	(ニガキ)	ナゲ (施)		
993	" " "	鉢・口縁部	(ナゲ?)	ナゲ		
994	2 Etc - 26a 期	鉢・口縁部	沈線深い	ナゲ?	摩耗	

図版番号	出土地点・部位	器種・部位	外 面 (文様・地文・痕跡など)	内 面 (刻線など)	備 考	本文記載
905	2区・26a層	夾板	縄文(LR)	ナデ(丁寧)		
906	・・26a2層	深鉢・口縁部	口縁部に磨状突起列	ナデ		
907	・・26b層	胴部	磨状突起	＝		
908	・・	口縁部	山形突起(二又)・縦長の磨(横に削目)	＝	磨き不明	
909	・・	深鉢・胴部	縄文(LR)	＝		
1000	・・	胴部	細かい削目帯(上下に比線)・羽状縄文(RL、LR)	＝		
1001	・・	深鉢・口縁部	縄文(LR)			
1002	・・	＝	一部文様の基点に小さな粘土の粘付(上に削目)	ナデ(磨)		P80
1003	・・	浅鉢	突起部削目	ナデ?	肩長・ミニチュア土質	
1004	・・27層	深鉢・口縁部	人形等状文内に磨状縄文(沈線)	ナデ	内側におこげ	
1005	・・	深鉢	(磨なナデ)	ナデ(磨)		
1006	・・	鉢・胴部		ナデ		
1007	・・	深鉢・口縁部	大波状口縁・磨状突起	＝	やや厚鈍	
1008	・・	胴部		＝	厚鈍	
1009	・・	底?・胴部	(ヒガキ)	ナデ(磨)		
1010	・・	深鉢・口縁部	縄文(LR)	ナデ	内側におこげ	
1011	・・	＝	磨削、くし磨状沈線	＝		
1012	・・	鉢・口縁部		＝		
1013	・・	＝	縄文(LR)	＝	外側厚鈍・内側おこげ	
1014	・・	深鉢	(ナデ)	ナデ(磨)	外側にスス	
1015	・・	壺・口縁部		ナデ	厚鈍	
1016	・・	浅鉢	(ナデ)	ナデ(磨)		
1017	・・	深鉢・口縁部	縄文(LR)	ナデ		
1018	・・	鉢・胴部	縄文?		外側厚鈍著しい	
1019	2区・27a層	注口?・胴部	磨削部?一帯強い、(ヒガキ)	ナデ		
1020	・・	深鉢・口縁部	くし磨文	不明	内側厚鈍	
1021	・・30層	＝	(不明)	ナデ	外側厚鈍著しい	
1022	・・	＝	縄文(LR)	＝		
1023	・・	注口?・胴部	文様磨削状(上にくし磨状沈線)	指なで		
1024	・・	深鉢・口縁部	(ナデ)	ナデ?	内側厚鈍	
1025	・・	注口	(ミニズベル状磨削)	指なで		P88
1026	・・31層	深鉢・口縁部	縄文(LR)	ハラナデ	外側吹きこぼれ	
1027	・・	＝		ナデ(丁寧)		
1028	・・	胴部	縄文?	ナデ	やや厚鈍	
1029	・・	＝	縄文(LR)	＝		
1030	・・	深鉢・口縁部	＝	＝		
1031	・・	底	文様2単位・浮彫的文様・文様内側かい削目	指なで	突起に貫通孔	
1032	・・32層	深鉢	縄文(LR)	ナデ	やや厚鈍	
1033	・・18層	深鉢・口縁部	縄文帯一帯高い・縄文(LR)	ナデ?	内側一面おこげ	
1034	・・	＝	(ナデ)	ナデ		
1035	・・	鉢・口縁部	縄文(RL?)	＝	外側厚鈍	
1036	・・19層下部	深鉢・胴部	縄文(LR)	＝	やや厚鈍	
1037	・・	深鉢・口縁部	＝	＝		
1038	・・	＝	縄文(RL)		外側一面スス	
1039	・・	注口?・胴部	削目帯(沈線なし)・縄文(RL)	ナデ(磨)		

図 書 号	出土地点・爵位	器種・部位	外 国 語 (文 語・地 文・原 形 など)	内 国 語 (調整など)	備 考	本 文 記 載
1040	2 Eix・19 層下部	鉢・口縁部	縄文 (RL)	ナデ		
1041	" " "	"	波状口縁・波線深い・縄文 (LR)	"	ヤヤ摩託	
1042	" " "	波鉢・胴部	羽状縄文 (RL、LR)	"	"	
1043	" " "	波鉢・口縁部	縄文 (LR)	"	"	
1044	2 Eix・19 層下部	波鉢	(丁寧なナデ)	ナデ (丁寧)		
1045	" " 2 層	波鉢・口縁部	縄文 (LR?)	ナデ	外周吹きこぼれ・厚縁	
1046	" " "	波鉢・胴部	縄文 (LR)	"	外周二次焼成	
1047	" " "	波鉢・胴部	縄文(?)	"	厚縁磨しい	
1048	" " "	波鉢・口縁部	夏瀬孔・縄文 (LR)	ナデ?	ヤヤ摩託	
1049	2 Eixp・25 b 層	波鉢・胴部	縄文 (RL)	ナデ		
1050	2 Eixp・"	"	胴部	"	ヤヤ摩託	
1051	" " "	注口?・胴部	縄文 (LR)	"		
1052	" " 2 Eixp1 層	鉢・胴部	垂状突起・縄文 (LR)	"	内側一面おこげ	
1053	" " 18 層	"	"	"	1052 と同一器種	
1054	" " 10 層	波鉢	縄文 (LR?)	ナデ	摩託	
1055	" " "	胴部	刺目帯 (波線なし)・縄文 (RL)	ナデ (難)	ヤヤ摩託	
1056	" " "	波鉢・胴部	(不明)	ナデ	外周摩託	
1057	" " "	"	縄文 (LR)	"		
1058	" " "	口縁部 (ナデ)	"	"	ヤヤ摩託	
1059	" " "	"	縄文 (LR)	"		
1060	" " "	波鉢・口縁部	垂状突起深くし波状波線	"	おこげ・外周摩託	
1061	" " "	"	(ナデ?)	"		
1062	" " "	"	(緩なナデ)	"		
1063	" " "	波鉢・胴部	縄文 (LR)	"	外周摩託	
1064	" " "	突起		(不明)	摩託	
1065	2 Eix・22 層	波	(ナデ?)	ナデ (難)	外側ヤヤ摩託	
1066	" " "	"	(ナデ?)	"	"	
1067	" " "	胴部	文物内にくし波短波線 (刺目)	ナデ		
1068	" " 19 層上部	波鉢	羽状縄文 (LR、RL)	ナデ	二次焼成・摩託	
1069	A Evi・19 層下部	波鉢・胴部	くし波文	不明	摩託	
1070	2 Eix・19 層	突起	縄文(?)	"	"	
1071	" " 18 層	波鉢・口縁部	羽状縄文 (RLのみ)	ナデ (丁寧)		
1072	" " "	波鉢・胴部	"	ナデ	ヤヤ摩託	
1073	" " "	"	縄文 (LR)	ナデ (丁寧)		
1074	" " "	注口?・胴部	縄文 (RL)	ナデ		
1075	" " "	波鉢・胴部	羽状縄文 (RL、LR)	ナデ?	吹きこぼれ・内周厚縁	
1076	" " "	口縁部	(ナデ?)	ナデ	ヤヤ摩託	
1077	" " "	底部		不明	厚縁磨しい	
1078	" " "	鉢?・胴部	縄文 (LR)	ナデ	天輪道?	
1079	" " "	口縁部 (ナデ)	"	"	外周スス	
1080	" " "	波鉢	縄文 (RL)	ナデ (丁寧)	外周二次焼成	
1081	" " "	波鉢・胴部	縄文 (LR)	ナデ		
1082	" " "	"	羽状縄文 (RLのみ)	"		
1083	" " "	口縁部	縄文 (RL)	ナデ (丁寧)	外周厚縁磨しい	
1084	" " "	波鉢・胴部	縄文 (RL)・刺目帯	ナデ	二次焼成	

図 版 番 号	出土地点・層位	器種・部位	外 面 (文 様・絵 文・取 付 など)	内 面 (刷 墨 など)	備 考	本 文 記 載
1085	2Ea・18層	深鉢・口縁部	羽状縄文(?)	ナデ	内面おこげ・厚肌	
1086	“ “ “	“	縄文 (RL)	ナデ (丁寧)		
1087	“ “ “	深鉢・胴部	くし縞文?・縄文 (LR)	ナデ	厚肌	
1088	“ “ “	注口・胴部	縄文 (LR)	ナデ (細)	やや厚肌	
1089	“ “ “	深鉢・口縁部	羽状縄文 (RL, LR)	ナデ		
1090	“ “ “	注口?・胴部	羽状縄文(?)	ナデ (細)	やや厚肌	
1091	“ “ “	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	ナデ		
1092	“ “ “	底	縄文 (LR)	“	やや厚肌	
1093	“ “ “	浅鉢?	“	“	内面に縄文	
1094	2Ea・10層	深鉢・口縁部	右傾した突起、突起左側面に3つの斜目・縄文(?)	不明	厚肌著しい	
1096	“ “ “	“	縄文 (RL)	ナデ		
1096	“ “ “	鉢?・胴部	縄文 (RL?)	“		
1097	“ “ “	底	羽状縄文 (RLのみ)	“	厚肌ひどい	
1098	“ “ “ 下部	深鉢・胴部	縄文 (RL)	ナデ	やや厚肌	
1099	“ “ “	深鉢・口縁部	胴部に縄 (RL) の縦筋仕立・縄文 (RL)	“		
1100	“ “ “	“	縄文 (RL)	“		
1101	“ “ “ 11*2層	“	合	“	やや厚肌	
1102	“ “ “	底・胴部	縄文 (LR)	“		
1103	“ “ “	“	“	“		
1104	“ “ “	底・口縁部	“	“		
1105	“ “ “ 2層	鉢・口縁部	羽状縄文 (RLのみ?)	“	やや厚肌	
1106	“ “ “	深鉢・胴部	縄文 (LR)	“		
1107	“ “ “	深鉢・口縁部	縄文 (RL?)	ナデ	やや厚肌	
1108	“ “ “	“	“	“		
1109	“ “ “	“	波状口縁・縄文(?)	“	やや厚肌	
1110	“ “ “	“	縄文 (LR)	“		
1111	“ “ “	深鉢・胴部	“	ナデ (丁寧)	外面やや厚肌	
1112	“ “ “	深鉢・胴部	縄文 (RL)	ナデ		
1113	“ “ “	鉢	縄文 (LR)	“	外面厚肌	
1114	2Ev・18b層	鉢・口縁部	“	ナデ	やや厚肌	
1115	“ “ “	深鉢・胴部	縄文 (LR)	ナデ (細)	“	
1116	“ “ “	注口・胴部	層の上にも縄文・羽状縄文 (RL, LR, 0数多糸)	指なで		
1117	“ “ “	底?・胴部	(ナデ?)	(刷墨)		
1118	“ “ “	“	羽状縄文 (RL, LR?)	ナデ	外面厚肌	
1119	2Ev・18b層	深鉢・口縁部	“	“		
1120	“ “ “	深鉢・胴部	羽状縄文 (RL, LR)	ナデ		
1121	“ “ “	注口?	口縁部突起?単位・胴部幅3単位	指なで	厚肌ひどい	
1122	“ “ “ 18Q層	深鉢・胴部	くし縞文	ナデ	内面おこげ・厚肌	
1123	“ “ “	深鉢・口縁部	波状口縁・縄文部・波高い・縄文 (LR)	“	外面厚肌	
1124	“ “ “	“	(ナデ)	“		
1125	“ “ “	“	縄文部一帯高い・縄文 (LR?)	“		
1126	“ “ “	“	文様部くし縞状波線	“	内面一面おこげ	
1127	“ “ “	深鉢?・口縁部	縄文 (LR?)	“		
1128	“ “ “	深鉢・口縁部	(ミギキ?)	ミギキ?		
1129	“ “ “	注口・胴部	縄文部一帯高い・底状突起・縄文 (LR)	指なで		

図 版 番 号	出土地点・層位	器種・部位	外 面 (文 様・地 文・意 象 体 など)	内 面 (調整など)	備 考	本 文 記 載
1120	2 Ew・18 Q 層	漆鉢・口縁部	羽状模文(?)	ナデ	摩耗	
1131	" " "	"	縄文 (RL)	"	磨擦孔	
1132	" " "	漆鉢・胴部	(縞なナデ、輪状模を成す)	ナデ?	内面摩耗	
1133	" " "	漆鉢・口縁部	縄文 (LR?)	ナデ		
1134	" " "	"	"	"	摩耗	
1135	" " "	洗鉢?・口縁部?		指なで	窪口?・尻直口 蓋?	
1136	" " "	漆鉢・口縁部	(不明)	ナデ	外面摩耗	
1137	" " "	漆鉢	(ナデ)	"	摩耗	
1138	" " "	漆鉢・胴部	縞状突起・縄文 (?)	"	"	
1139	" " "	"	"	"	"	
1140	" " "	鉢	(縞なナデ)	ナデ (縞)	"	
1141	" " "	漆鉢・口縁部	縞状突起・縄文 (LR)	ナデ		
1142	2 Ewv・18 Q 層	注口・胴部	羽状模文 (RL, LR)	指なで	摩耗	
1143	" " "	注口・胴部	"	"	"	
1144	2 Ewv・18 Q 層	鉢・口縁部	(ミガキ?)	ミガキ?		
1145	" " "	胴部	縄文 (LR)	ナデ		
1146	" " "	鉢・口縁部	口縁内面に沈彫・(ナデ)	"	やや摩耗	
1147	2 Ew・"	漆鉢	文様帯一段高い・縄文 (LR?)	"		
1148	"・2 層	漆鉢	縄文 (LR)	ナデ	外面やや摩耗	
1149	" " "	漆鉢・口縁部	"	"	内面やや摩耗	
1150	" " "	"	"	"	やや摩耗	
1151	" " "	皿・胴部	"	"	外面摩耗	
1152	" " "	口縁部	縄文 (LR)	"	磨擦孔	
1153	" " "	漆鉢・口縁部	縄文 (RL)	"		
1154	" " "	"	"	"	指ナデい・摩耗	
1155	" " "	"	沈彫やや深い・縄文 (LR)	"		
1156	" " "	漆鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
1157	" " "	漆鉢・口縁部	"	ナデ (丁寧)		
1158	" " "	注口?・胴部	縄文帯一段高い・縞状突起・縄文 (LR)	ナデ (縞)		
1159	" " "	鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナデ		
1160	" " "	鉢?・口縁部	"	"		
1161	" " "	口縁部	"	"		
1162	" " "	漆鉢・胴部	縄文 (RL)	"	やや摩耗	
1163	" " "	注口・胴部	磨消部?一段高い・(ミガキ?)	指なで		
1164	" " "	漆鉢・口縁部	縄文 (LR?)	ナデ		
1165	" " "	漆鉢・胴部	縄文帯一段高い・羽状模文 (RLのみ、0 段多條)	"		
1166	" " "	漆鉢	羽状模文 (RL, LR)	"	外面吹きこぼれ	
1167	" " "	洗鉢	(丁寧なナデ?)	"		
1168	2 Ewv・"	漆鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
1169	2 Ewv・2	台?	(ナデ?)	ナデ (縞)	天地道?	
1170	2 Ewv・"	漆鉢・口縁部	波系沈彫・(ナデ)	ナデ		
1171	" " "	鉢	(ナデ)	"		
1172	2 Ewv・"	"	"	"	摩耗の多い	
1173	" " "	漆鉢・口縁部	(縞なナデ)	"	外面スス・内面摩 耗	
1174	2 Ewv・"	漆鉢・口縁部	突起・縄文 (LR、0 段多條)	ミガキ?	やや摩耗	

図 表 番 号	出土地点・層位	器種・部位	内 面 (文 様・地 文・形 体 など)	内 面 (面 数 など)	備 考	本 文 記 載
1219	3 Da・5 層	深鉢・口縁部	口縁部に2条の縄 (DL) の刻印残痕	ナシ		
1220	" " "	"	縄文 (LR)	"		
1221	" " "	"	"	"		P 図
1222	" " "	深鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
1223	" " "	"	胴部に縄 (LR) の刻印残痕・縄文 (LR)	"		
1224	" " "	"	縄文 (LR)	"		
1225	" " "	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		P 図
1226	" " "	"	口縁部、胴部に縄 (LR) の刻印残痕、縄文 (LR)	"		
1227	" " "	"	"	"	内面におこげ	
1228	" " "	"	縄文 (LR)	"	外面にスス	
1229	" " "	深鉢・胴部	"	"	外面摩耗	
1230	" " "	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
1231	" " "	深鉢・胴部	"	"		
1232	" " "	"	"	"		
1233	" " "	鉢・胴部	縄文 (RL)	"		
1234	" " "	鉢・口縁部	"	"		
1235	" " "	深鉢	縄文 (LR)	"		
1236	" " 4 層上部	鉢・口縁部	縄文 (LR)	"	外面にスス	
1237	" " "	深鉢	胴部に縄 (LR) の刻印残痕、縄文 (LR)	"		
1238	" " "	深鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
1239	" " "	"	黒糸文 (?)	"	外面摩耗	
1240	" " "	"	縄文 (RL)	"	"	
1241	" " "	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	"	胎土やや悪い	
1242	" " "	注口	縄文 (LR)	"	摩耗	P 図
1243	" " 4 層下部	深鉢・胴部	黒糸文?	"		
1244	" " "	釜予・胴部	"	"		
1245	" " "	深鉢・口縁部	口縁部に削めの刻目・黒糸文 (R)	"	胎土悪い・外面摩 耗	
1246	" " 4 層	深鉢・胴部	黒糸文 (R)	"		
1247	" " "	深鉢予・口縁部	"	"		
1248	" " "	深鉢・胴部	"	"	外面摩耗	
1249	" " "	"	黒糸文 (R)	"		
1250	" " "	"	"	"	胎土悪い	
1251	" " "	深鉢・口縁部	"	"		
1252	" " "	深鉢・胴部	"	"		
1253	" " "	"	黒糸文?	"	胎土悪い	
1254	" " "	深鉢・胴部	"	"		
1255	" " "	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	"	内面突起部肥厚	
1256	" " "	深鉢・胴部	黒糸文 (R)	"	胎土悪い・外面スス	
1257	" " "	深鉢	口縁部、胴部に縄 (LR) の刻印残痕、縄文 (LR)	"	内面におこげ	P 図
1258	" " "	深鉢・口縁部	口縁部に縄 (LR) の刻印残痕、縄文 (LR)	"		
1259	" " "	深鉢・胴部	縄文 (LR)	"	内面におこげ	
1260	" " "	"	"	"		
1261	" " "	深鉢・胴部	"	"		
1262	" " 9 層下部	深鉢・口縁部	"	"	外面摩耗、おこげ	
1263	" " "	深鉢・胴部	"	"		

図版 番号	出土地点・層位	器種・部位	外 形 (文 様・地 文・形 体 など)	内 形 (刻痕など)	備 考	本文 記載
1264	3 Da・9 層下部	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナデ		
1265	“・9 層	“	“	“	外面スス	
1266	3 Do・9 層	深鉢	頸部に縄 (LR, 4cm) の刻筋汪痕・縄文 (LR)	“	全型スス	
1267	3 Da・2 層上部	深鉢・胴部	くし縄文?、熊爪文?	“	胎土厚い	
1268	“・“	“	縄文 (LR)	“		
1269	“・“	深鉢・口縁部	割目状縄文 (R)	“		
1270	“・“	深鉢・胴部	熊爪文 (R)	“		
1271	“・“	“	縄文 (LR)	“		
1272	3 Do・9 層と 2 層	蓋	文様4単位・割浅窪い・縄文 (LR)・(イダキ?)	“	2つの縦片接合	P 80
1273	“・5 b 1 層	深鉢・口縁部	縄文 (RLR)	“		
1274	“・“	“	縄文 (RL)	“		
1275	“・“	深鉢・胴部	くし縄文	“		
1276	“・“	深鉢・口縁部	頸部に縄 (RL) の刻筋汪痕・縄文 (RL)	“	外面に吹きこぼれ	
1277	“・“	“	縄文 (LR)	“		
1278	“・9 層	“	縄文 (RL)	“		
1279	“・“	“	縄文 (LR)	“		
1280	“・“	深鉢・底部	(ナデ)	“		
1281	“・“	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	“		
1282	“・“	蓋・口縁部	頸部、肩帯によるベネム状(上に割めの割目)・縄文 (LR)	“	胎土やや悪い	
1283	“・“	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	“		
1284	“・“	“	頸部に縄 (LR) の刻筋汪痕・縄文 (RL)	“		
1285	“・“	“	縄文 (LR)	“		
1286	“・“	“	口縁部に縄 (RL) の割筋汪痕・縄文 (RL)	“	外面にスス	
1287	“・“	深鉢・胴部	縄文 (LR)	“	胎土やや悪い	
1288	3 Do・10 層 = 3 Dc 1 層	“	“	“		
1289	“・“	深鉢・口縁部	波状口縁・中央に割めの割突列・縄文 (RL)	“		
1290	“・“	鉢	縄文 (RL)	“	やや厚底	
1291	“・“	深鉢・胴部	“	“		
1292	3 Dc・11 層下部	鉢・口縁部		(不明)	やや厚底	
1293	3 Do・10 層	深鉢・口縁部	波状口縁・縄文 (LR)	ナデ	内面厚底	
1294	“・11 a 1 層	鉢	縄文 (LR)	“		
1295	“・“	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	“		
1296	3 Dc・11 層上部	深鉢	縄文 (RL) 縄文の後にナデ(部位による違いではない)	“	外面厚底・吹きこぼれ	
1297	“・“	深鉢・胴部	縄文 (RL)	“		
1298	“・“	深鉢	突起単位不明・横、下からの割突・縄文 (RL)	“		
1299	“・11 層下部	鉢・口縁部	縄文 (LR)	“	外面やや厚底	
1300	“・“	深鉢・口縁部	縄文 (LR) 縄文の上にナデ	“		
1301	“・“	深鉢・胴部	縄文 (RL?)	“	外面厚底	
1302	“・6 層上部 (10 cm)	“	縄文 (LR)	“		
1303	“・“	“	“	“		
1304	“・“	“	浅窪窪い・縄文 (RL)	“		
1305	“・“	“	縄文 (LR?)	“	外面厚底	
1306	“・6 層上部	蓋・口縁部	頸部に縄 (LR) の割筋汪痕・縄文 (LR)	“		
1307	“・6 層下部 (20 cm)	深鉢・胴部	浅窪窪い・縄文 (LR)	“		
1308	“・“	深鉢・口縁部	“	“	1307 と同一器体?	

調査 番号	出土地点・層位	器種・部位	外 面 (文 様・地 文・豆 体 など)	内 面 (調整など)	備 考	本文 記載
1300	3 De - 6 層下部 (30cm)	漆鉢・口縁部	胴部に縞 (RL) の割面汪痕・縹文 (RL)	ナゲ	口縁部縹文消し忘れ	
1310	" - 5 層下部	"	縹文 (RL)	"	内面一帯おこげ	
1311	" - 5 層	"	口縁に竹管・縹文 (RL)	"	外面おこげ	
1312	" - "	"	口縁、胴部に縞 (RL) の割面汪痕・縹文 (RL)	"		
1313	" - "	漆鉢・胴部	縹文 (RL)	"		
1314	" - "	"	縹文 (LR)	"	外面摩耗	
1315	" - "	漆鉢・口縁部	(不明)	"	外面摩耗ひどい	
1316	3 DoI - 6 層	漆鉢・口縁部	比喩深い・縹文 (RL)	"	外面摩耗	
1317	3 Do - 4a1 層	漆鉢・胴部	縹文 (LR)	"	外面スス	
1318	" - "	"	縹文 (RL)	"		
1319	" - "	漆鉢・口縁部	縹文 (LR)	"		
1320	" - "	漆鉢・胴部	縹文 (RL)	"		
1321	" - "	"	"	"		
1322	" - "	漆鉢・口縁部	"	"		
1323	" - "	漆鉢・胴部	縹文 (LR)	"		
1324	" - "	"	縹文 (RL)	"	外面スス	
1325	" - 9 層	蓋	"	"		
1326	" - "	蓋	縹文 (LR)・木蓋痕	"		
1327	" - "	蓋・口縁部	縹文 (LR)	"		
1328	" - "	鉢・口縁部	"	"		
1329	" - "	漆鉢・口縁部	縹文 (RL)	"	外面スス	
1330	" - "	漆鉢・胴部	"	"	1329 と同一器体	
1331	" - "	"	"	"	外面吹きこぼれ	
1332	" - "	漆鉢・口縁部	縹文 (LR)	"		
1333	" - "	漆鉢・胴部	"	"	外面スス	
1334	" - "	漆鉢・口縁部	(ナゲ)	"		
1335	" - "	"	縹文 (LR?)	"		
1336	" - "	鉢	"	"		
1337	" - "	漆鉢・胴部	縹文 (LR)	"		
1338	" - "	"	"	"		
1339	3 Do - 9 層	漆鉢	縹文 (LR)	"		
1340	" - "	"	"	"		
1341	" - "	"	"	"		
1342	" - "	蓋	胴部に縞 (LR) の割面汪痕・縹文 (LR)	"		
1343	" - "	蓋?・口縁部	(ナゲ)	"		
1344	" - "	漆鉢	縹文 (LR)・木蓋痕	"		
1345	" - 2 層上部	漆鉢・口縁部	口唇部押引の比喩	"		
1346	" - "	"	縹文 (LR)	"		
1347	3 DoI - "	鉢・胴部		"		
1348	" - 2 層下部	漆鉢・口縁部	縹赤文 (R?)	"		
1349	3 DoI - 10 層上部	"	縹文 (LR)	"		
1350	" - "	漆鉢・胴部	胴部下縁文部に斜め割痕、縹文消し忘れ・縹文 (RL)	"		
1351	" - "	漆鉢	(ナゲ)	"	外面割痕	
1352	" - "	漆鉢・胴部	縹文 (?)	"	摩耗	
1353	" - "	漆鉢・口縁部	縹文 (LR)	(不明)	"	

原 画 番 号	出土地点・部位	器種・部位	内 容 (文 種・題 文・原 文 等)	内 容 (訳文など)	備 考	本 文 記 載
1254	3 Dd・10 層上部	鉢	(ナゲ)	ナゲ	二次焼成?	
1255	"・10 層中部 部 (22 cm)	深鉢	(緑々ナゲ、輪紋残る)	ナゲ (緑)	やや摩耗	
1256	" " "	深鉢・胴部	縄文 (RL)	ナゲ		
1257	"・10 層中部 部	深鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
1258	" " "	深鉢・胴部	縄文 (RL)	"		
1259	" " "	"	縄文 (LR)	"		
1260	" " "	"	"	"		
1261	" " "	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	"		
1262	" " "	深鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
1263	" " "	鉢	(ナゲ)	ナゲ (緑)	内面摩耗	
1264	" " "	深鉢・胴部	縄文 (LR)	ナゲ		
1265	" " "	"	縄文 (RL)	ナゲ?	内面摩耗ひどい	
1266	" " "	"	"	ナゲ	外面スス	
1267	" " "	異形	(ナゲ)	"	ミニチュア土器?	
1268	"・10 層下部	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナゲ		
1269	" " "	浅?・胴部	"	"	二次焼成	
1270	" " "	深鉢・口縁部	"	"		
1271	" " "	"	頂部突起(内面に沈線)・胴部に刺突列・縄文 (RL)	"	おこげ・摩耗	
1272	" " "	"	(緑々ナゲ)	ナゲ (緑)		
1273	" " "	深鉢・胴部	縄文 (LR)	ナゲ	内面摩耗	
1274	" " "	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	"		
1275	" " "	鉢?・胴部	沈線混在・縄文 (LR)	ナゲ (緑)		
1276	"・10 層 = 10 a 1 層上部	深鉢・胴部	縄文 (LR)	ナゲ	内面摩耗	
1277	" " "	"	"	ナゲ (丁字)	外面摩耗	
1278	" " "	"	"	ナゲ		
1279	" " "	深鉢・口縁部	"	"		
1280	" " "	突起	縄文 (RL)	"	ヤヤ摩耗	
1281	" " "	深鉢・口縁部	沈線縄文 (LR のみ?)	"		
1282	3 Dcd・10 層 = 10 a 1 層下部	深鉢・胴部	一部縄文消し忘れ・縄文 (LR)	"	ヤヤ摩耗	
1283	" " "	浅・胴部	(不明)	胎土で	外面摩耗	
1284	" " "	深鉢・口縁部	口縁部に沈線等	ナゲ		
1285	3 Dd・10 a 2 層 = 11 a 1 層上部	深鉢	胴部中央に横からの刺突・縄文 (LR のみ)	ミガキ?	摩耗	
"	" " "	"	(皿上の破片に接合)			
"	3 Dcd・11 a 1 層	"	(皿上の破片に接合)			
1286	3 Dd・10 a 2 層 = 11 a 1 層下部	深鉢・口縁部	口縁部にも縄文・縄文 (LR)	ナゲ		
1287	" " "	"	縄文 (RL)	"	摩耗	
1288	" " 11 層下部	鉢?・胴部	縄文 (LR)	"		
1289	" " "	深鉢・口縁部	口縁部・胴部に縄 (RL) の刺突残存・縄文 (RL)	"		
1290	" " "	浅	(不明)	"	外面摩耗ひどい	
1291	" " 11 層	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	"	摩耗	
1292	" " "	"	縄文 (RL)	"	内面摩耗	
1293	" " "	"	"	"		
1294	" " "	深鉢・胴部	"	"		
1295	" " "	深鉢・口縁部	"	"		
1296	" " "	"	縄文 (LR)	"		

図版 番号	出土地点・層位	器種・部位	内 面 (文様・地文・印体など)	内 面 (図像など)	備 考	本文 記載
1397	3 Dd・11 層	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナデ		
1398	" " "	"	縄文 (RL)	"	摩耗ひどい	
1399	" " "	深鉢・胴部	"	"		
1400	" " "	"	滑石文 (?)	"	粘土重い・やや摩 耗	
1401	" " "	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
1402	" " "	"	"	"		
1403	" " 13 a 層	"	"	"		
1404	" " 13 層	"	頸部に縄 (LR) の刻印残存・縄文 (LR)	"		
1405	" " 8 層中部 (20 cm)	深鉢・胴部	沈線・刺突深い・縄文 (LR)	"		
1406	" " 9 層	深鉢	頸部に縄 (LR) の刻印残存・縄文 (LR)	"	外周摩耗	
1407	" " 2 a 層	壺	(不明)	ナデ?	摩耗・割傷ひどい	
1408	" " 2 層上部	深鉢・口縁部	頸部に刻みの残目・縄文 (LR)	ナデ		
1409	" " "	鉢・胴部	刺突深い・縄文 (LR)	"		
1410	" " "	深鉢・胴部	刺突文 (R)	"		
1411	" " "	深鉢	頸部に縄 (LR, 3 cm) の刻印残存・縄文 (LR)	"	やや摩耗	
1412	3 Dd・18 層上部	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	ナデ	やや摩耗	
1413	" " "	深鉢・胴部	縄文 (?)	"	外周摩耗	
1414	" " 18 層下部	深鉢・口縁部	縄文 (LR?)	"		
1415	" " "	深鉢・胴部	縄文 (RL)	"		
1416	" " "	深鉢・口縁部	縄文 (LR?)	ナデ?	摩耗	
1417	" " "	深鉢・胴部	縄文 (LR)	ナデ		
1418	" " "	"	"	"		
1419	" " "	"	縄文 (?)	"	外周摩耗	
1420	" " "	"	縄文 (LR)	"		
1421	" " "	深鉢・胴部	ヒレ状突起・縄文 (LR?)	"	外周摩耗	
1422	" " "	深鉢・胴部	縄文 (RL)	"	やや摩耗	
1423	" " "	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
1424	" " "	深鉢・胴部	縄文 (RL)	"		
1425	" " "	"	"	"	外周スス・摩耗	
1426	" " 18 層下部	鉢	縄文 (LR?)	"	やや摩耗	
1427	" " "	深鉢	5 段状・縄文 (RL)	"		
1428	" " "	深鉢・口縁部	突起単位 6	(不明)	摩耗ひどい	
1429	" " "	深鉢	5 段状	ナデ		
1430	" " "	"	5 段状・文様 5 単位・縄文 (LR)	ニガキ?		
1431	" " 18 層下部 ~19 層上部	深鉢・胴部	(ナデ)	ナデ	やや摩耗	
1432	" " 10 層上部	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
1433	" " "	深鉢・胴部	"	"		
1434	" " "	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	不明	内周摩耗	
1435	" " "	深鉢・胴部	"	ナデ	摩耗	
1436	" " "	"	縄文 (RL)	"		
1437	" " "	深鉢・口縁部	"	"	外周摩耗	
1438	" " "	頸部	縄文 (LR)	"	摩耗	
1439	" " "	深鉢・胴部	縄文 (LR)	"	やや摩耗	
1440	" " "	鉢・胴部	"	"	"	
1441	" " "	深鉢・胴部	"	"		

図版 番号	出土地点・部位	器種・部位	内 面 面 (文様・地文・肌体など)	内 面 面 (紋様など)	備 考	本文 記載
1442	3 De・10 皿上部	深鉢・胴部	縄文 (LR)	ナデ		
1443	〃 〃	深鉢	縄文 (RL)	〃	二次焼成	
1444	〃 〃	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	〃		
1445	〃 〃	口縁部	縄文 (LR)	〃	摩耗	
1446	〃 〃	注口?・胴部	縄文 (?)	指などで	〃	
1447	〃 〃	深鉢・口縁部	沈線跡い、縄文 (LR)	ナデ		
1448	〃 〃	深鉢・胴部	縄文 (LR)	〃		
1449	〃 〃	深鉢・口縁部	〃	〃	やや摩耗	
1450	〃 〃	鉢・口縁部	縄文 (RL)	ヒガキ?		
1451	〃 〃	突起	(丁寧なナデ)	ナデ (丁寧)	やや摩耗	
1452	〃 〃	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	(不明)	〃	
1453	〃・10 皿中部	〃	下からの割突	(不明)	摩耗ひどい	
1454	〃・10 皿下部	深鉢・胴部	縄文 (LR)	ナデ		
1455	〃 〃	注口?・胴部	縄文 (?)	指などで	摩耗	
1456	〃 〃	深鉢・胴部	斜め割突列、縄文 (RL)	ナデ	内面摩耗	
1457	〃 〃	鉢・口縁部	〃	〃	外周摩耗	
1458	〃 〃	深鉢?・口縁部?		(摩耗)		
1459	〃 〃	浅鉢	ナデ	ナデ (煎)		
1460	〃 〃	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナデ		
1461	〃 〃	〃	〃	〃		
1462	〃・11 b1 新下部	深鉢	〃	〃	外周吹きこぼれ	
1463	〃・11 b1 胴	口縁部	縄文 (RL)	〃	内面摩耗	
1464	〃 〃	浅鉢	(ナデ)	〃	やや摩耗	
1465	〃 〃	深鉢・胴部	縄文 (RL)	〃	やや摩耗	
1466	〃・11 b3 胴	深鉢・胴部	頸部に割 (RL) の割面残留、縄文 (RL)	〃		
1467	〃・20 皿上部	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	〃		
1468	〃 〃	深鉢・胴部	〃	〃	摩耗	
1469	〃 〃	〃	〃	〃		
1470	〃 〃	鉢・口縁部	口縁部突起 (内面にも沈線めぐる)	〃		
1471	〃 〃	深鉢	菱形文地基点に斜め割突、縄文 (LR)	(摩耗)	摩耗	
1472	〃・20 皿下部	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナデ		
1473	〃 〃	浅鉢	(ナデ)	〃		
1474	〃 〃	鉢・胴部	縄文 (LR)	〃	外周摩耗ひどい	
1475	〃 〃	深鉢・口縁部	頸部に割 (LR) の割面残留、縄文 (LR)	〃	やや摩耗	
1476	〃 〃	深鉢・胴部	縄文 (LR)	〃		
1477	〃・20 皿	深鉢	頸部に割 (LR) の割面残留、縄文 (LR)	〃	内面摩耗	
1478	〃 〃	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	〃	外周摩耗、内面も 之び	
1479	〃 〃	〃	〃	〃		
1480	〃 〃	鉢・口縁部	鼓頂部に突起 (沈線めぐる)、縄文 (LR)	〃	外周摩耗	
1481	〃 〃	五?・把手	縄文 (RL)	〃		
1482	〃 〃	蓋	〃	(摩耗)		
1483	〃・2 皿上部	鉢・胴部	縄文 (LR)	ナデ		
1484	〃 〃	深鉢・口縁部	〃	〃		
1485	〃 〃	深鉢・胴部	〃	〃		
1486	〃 〃	深鉢・口縁部	〃	〃	やや摩耗	

図版 番号	出土地点・層位	器種・部位	外 面 (文様・地文・基体など)	内 面 (調整など)	備 考	本文 記載
1487	3 De・2階上部	漆鉢・胴部	縄文 (RL)	ナデ		
1488	" " "	漆鉢・胴部	縄文 (LR)	"	外面スス、摩耗	
1489	" " "	"	漆糸文 (R)	"		
1490	" " 2階	漆鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
1491	3 Dgf・6階	漆鉢	縄文 (L)		二次焼成	
1492	" " "	漆鉢・口縁部	"	"		
1493	" " "	漆鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
1494	3 De・9階	漆鉢・胴部	縄文 (RL)		やや摩耗	
1495	" " "	漆鉢・口縁部	縄文 (L)	"		
1496	" " "	"	胴部に縄 (LR) の創面残痕・縄文 (LR)	"		
1497	" " "	"	縄文 (LR)	"		
1498	" " "	漆鉢・胴部	"	"	内面おこげ	
1499	3 Dgf・6～5回	土付鉢	"	(不明)	内面褐色付着物	
1500	" " 5階	盆	(不明)	"	摩耗ひどい	
1501	" " "	漆鉢・胴部	縄文 (RL)	ナデ		
1502	" " "	漆鉢・口縁部	縄文 (?)	"	摩耗	
1503	" " "	"	折り返し口縁・縄文 (RL)	"		
1504	" " "	"	縄文 (LR)	"	外面摩耗	
1505	" " "	盆	縄文 (LR) - 木炭痕	"		
1506	" " 4階	漆鉢・口縁部	縄文 (RL)	"		
1507	" " "	"	縄文 (LR)	"		
1508	" " "	漆鉢・胴部	漆糸文 (R?)	"		
1509	" " "	鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
1510	" " "	漆鉢・口縁部	縄文 (RL)	"		
1511	" " "	"	"	"		
1512	" " "	"	(ナデ)	"		
1513	" " "	鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
1514	" " "	漆鉢・口縁部	"	"	外面スス	
1515	3 Df・"	漆鉢・胴部	漆糸文 (L) ？か、くし痕状沈着	"	"	
1516	" " "	"	くし痕状沈着	"		
1517	" " "	"	漆糸文 (L)	"		
1518	" " "	漆鉢・口縁部	縄文 (LR)、ナデで一帯滑えている	ナデ (丁寧)		
1519	" " "	漆鉢・胴部	漆糸文 (L)	ナデ	外面スス・内面摩 耗	
1520	" " "	鉢・口縁部	口縁部沈着、刺突・縄文 (LR)	"		
1521	" " "	漆鉢・口縁部	胴部に2つの刺目	"	摩耗	
1522	" " "	漆鉢	縄文 (L)	"	外面スス	
1523	" " "	"	口縁部・ベイル状、縄文 (LR)	"	内面おこげ・やや 摩耗	
1524	" " "	漆鉢?	細く磨いた刺目、漆糸文 (L)、消し忘れ	"	やや摩耗	
1525	3 Dgf・"	盆	縄文 (LR)	ナデ (丁寧)		
1526	" " 2階上 部	漆鉢・口縁部	口縁部深い沈着文様	ナデ	内面摩耗	
1527	" " "	漆鉢・胴部	縄文 (RL)、ナデで一帯滑えている	"		
1528	" " "	"	縄文 (LR)	"		
1529	" " "	漆鉢・口縁部	漆糸文 (L)	"	筋十磨い	
1530	3 Df・"	漆鉢・胴部	"	"		
1531	" " "	"	縄文 (RLR)	"		

図 番 号	出土地点・層位	器種・部位	外 面 面 等 (文様・地文・彫刻など)	内 面 面 等 (文様など)	備 考	本 文 記 載
1532	3 Df・2層上部	深鉢・胴部	段の彫刻、縄文(LR)	ナデ		
1533	" " "	深鉢・口縁部	縄文(LR)	"		
1534	" " "	" "	縄文(LR?)	"		
1535	" " "	深鉢・胴部	くし歯状彫刻の縄文	"		
1536	3 Df・2層上部	深鉢・胴部	縄文(L)	ナデ		
1537	" " "	深鉢・口縁部	波瀾部口縁に2つの刺目	"		
1538	" " "	" "	縄文(LR)	"		
1539	3 Dg・6層上部	" "	頸部に縄(LR)の刻印付痕・縄文(LR)	"	外面にスス	
1540	" " "	" "	"	"		
1541	3 Dgh・6～7層	合付鉢	縄文(LR)	"		P 80
1542	" " 5層	釜	(細なナデ)・水取痕	ナデ		
1543	3 Dg・7層上部	深鉢・胴部	縄文(LR)	ナデ		
1544	" " "	" "	縄文(LR)、一部消し忘れ	"		
1545	" " "	" "	縄文(RL)	"	外周摩耗	
1546	" " "	注口	縄文(LR)、割代痕	"		
1547	" " 7層	深鉢	縄文(LR)	"		
1548	" " 5a1層	深鉢・口縁部	縄文(LR)	"		
1549	" " "	深鉢・胴部	"	"		
1550	" " "	" "	縄文(L)	"		
1551	" " "	深鉢・口縁部	頸部に縄(LR)の刻印付痕・割代痕(LR)のみ	"		
1552	" " 5a2層	浅鉢	文様4単位・縄文(LR)	"	やや摩耗	
1553	" " 4層	深鉢・口縁部	口縁部、頸部に縄(LR)の刻印付痕・縄文(LR)	ナデ		
1554	3 Dgh・"	" "	頸部に縄(LR)の刻印付痕・縄文(LR)	"		
1555	" " "	深鉢・胴部	縄文(LR)	ナデ(細)		
1556	3 Dg・"	" "	縄文(L)、一部消し忘れ	ナデ		P 80
1557	" " "	" "	"	"	1556と同一器体	
1558	" " "	鉢・胴部	縄文(LR)	"	内面おこげ	
1559	" " "	深鉢・胴部	"	"	外面スス	
1560	" " "	" "	縄文(L)	"	1556と同一器体	
1561	3 Dgh・4層	鉢	(ナデ)	ナデ		
1562	" " 2層上部	深鉢・口縁部	縄文(L)	ナデ	1566、1567と同一器体	
1563	" " "	深鉢・胴部	"	"		
1564	" " "	" "	"	"	外面スス	
1565	" " "	" "	縄文(RL)	"	1569、1568と同一器体	
1566	" " "	" "	縄文(RL)	"		
1567	" " "	" "	縄文(L)	"	1569、1568と同一器体	
1568	" " "	鉢・胴部	"	"		
1569	" " "	深鉢	縄文(LR)、割代痕	"		
1570	" " 2層	鉢・口縁部	縄文(LR)	"		
1571	3 Dn・3 Dn1層下部	深鉢・口縁部	口縁部へネル状・縄文(LR)	"		
1572	" " 3 Dn1層～3層上部	" "	下方からの刺突列・縄文(RL)	"		
1573	3 Dn・10層上部	釜	羽状縄文(LR、RL?)	(不明)	摩耗の多い	
1574	3 Dn・10層下部	深鉢・口縁部	口縁部輪帯(刺めの刺目)	ナデ		
1575	" " "	" "	口縁部刺突・沈線深い・縄文(LR?)	"	やや摩耗	
1576	" " "	" "	縄文(RL)	"	"	

図 録 番 号	出土地点・層位	器種・部位	外 形 (文 様・地 文・装 体 など)	内 形 (調整など)	備 考	本 文 記 載
1577	3 D6h・10 層下部	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	ナデ		
1578	"・6 層～ 11 層上部	深鉢	縄文 (RL)	"	外面吹きこぼれ	
1579	"・11 層上部	蓋	縄文 (RL)	ナデ		
1580	"・"	深鉢・口縁部	口縁部、頸部に縄 (LR) の刻面汗痕・縄文 (RL?)	"		
1581	"・"	"	縄文 (RL)	"		
1582	"・11～12 層の間	蓋		(不明)	外面摩耗、割落	F 器
1583	3 D6c・13 層上部 (10 cm)	深鉢・口縁部	頸部に縄 (RL) の刻面汗痕・縄文 (RL)	ナデ		
1584	"・6 層上部	"	頸部に縄 (LR) の刻面汗痕・縄文 (LR)	"		
1585	"・"	"	縄文 (LR)	"	内面おこげ	
1586	"・"	鉢・底面		ナデ		
1587	"・"	深鉢	頸部に縄 (LR) の刻面汗痕・縄文 (LR)	"	外面一面ス	
1588	"・"	鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
1589	"・6 層下部	深鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
1590	"・"	"	"	"	内面おこげ	
1591	"・"	"	縄文 (RL)	"	外面ス	
1592	"・"	"			1591 に接合	
1593	"・"	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	ナデ	外面摩耗	
1594	"・"	"	"	"	外面ス、摩耗	
1595	"・"	"	頸部に縄 (LR) の刻面汗痕・縄文 (LR)	"		
1596	"・"	"	口縁部、頸部に縄 (RL) の刻面汗痕・縄文 (RL)	"		
1597	"・6 層	深鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
1598	3 D6h・9 層	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	"		
1599	"・"	深鉢・胴部	器名文 (R)	"		
1600	"・"	"	縄文 (LR)	"		
1601	"・"	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	"		
1602	3 D6c・"	深鉢	"	"		
1603	3 D6h・4 層	深鉢・胴部	縄文 (RL)	ナデ	外面摩耗	
1604	"・"	"	縄文 (LR)	"		
1605	"・"	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	"		
1606	"・"	鉢・胴部		"		
1607	"・"	"	縄文 (LR)	"		
1608	3 D6c・"	"	沈没層いた後にナデ	"		
1609	"・"	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	"	外面吹きこぼれ	
1610	"・"	"	縄文 (RL)	"	中や摩耗	
1611	3 D6c・4 層	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナデ		
1612	"・4 b 1 層	"	胴口状器名文 (R)	"		
1613	"・"	深鉢・胴部	縄文 (?)	"		
1614	"・"	深鉢・口縁部	口縁部、頸部に縄 (LR) の刻面汗痕・縄文 (LR)	"	胎土濃い	
1615	3 D6h・2 層上部	"	縄文 (LR)	"	外面ス	
1616	"・"	"	口縁部、頸部に縄 (LR) の刻面汗痕・縄文 (LR)	"	外面ス	
1617	"・"	鉢	縄文 (LR)。一部磨し忘れ・割代痕	"	外面吹きこぼれ	
1618	3 D6c・"	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
1619	"・"	鉢・胴部	"	"		
1620	3 D6c・"	鉢・口縁部	突起内面にも段線文様・縄文 (LR)	ナデ	内面おこげ、摩耗	
1621	"・"	"	縄文 (R?)	"	外面摩耗	

図番 番号	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・地文・窯跡など)	内面 (図様など)	備考	本文 記載
1622	3 Dm・2層上部	深鉢・胴部	焼赤文 (L?)	ナデ	外面摩耗	
1623	" "	深鉢・口縁部	焼文 (LR)	"	"	
1624	"・2層	鉢?	深い割突	面ナデ? (脚)	蓋?・摩耗	
1625	" "	釜	平口文6単位・焼文 (LR)	ナデ (丁寧)	外面に黒色付着物	P 89
1626	3 Dm・18層上部 (10 cm)	釜?・口縁部	焼文 (?)	ナデ	天端磨?	
1627	"・11層	深鉢・胴部	焼文 (RL)	"	摩耗	
1628	" "	口縁部	"	"	"	
1629	" "	深鉢・口縁部	"	"	"	
1630	"・12a層	深鉢・胴部	"	"	"	
1631	" "	"	"	"	"	
1632	" "	"	"	"	やや摩耗	
1633	" "	深鉢・口縁部	頸部に縄 (LR) の割面注痕・焼文 (LR)	"	"	
1634	" "	"	二つの合形突起 (上に押柱)・焼文 (LR?)	"	内面おこげ	
1635	" "	深鉢・胴部	焼文 (RL)	"	"	
1636	"・14層 - 12層	深鉢・口縁部	(丁寧なナデ)	"	"	
1637	"・4層	深鉢・口縁部	焼文 (LR)	"	摩耗	
1638	" "	鉢	突起4単位・焼文 (LR)	"	内面おこげ	
1639	"・2a層	深鉢・口縁部	焼文 (LR)	"	外面内面ス	
1640	" "	鉢	頸部に一部縄 (LR) の割面注痕・焼文 (LR)	"	"	P 89
1641	" "	深鉢・口縁部	口縁部、頸部に縄 (RL) の割面注痕・焼文 (RL)	"	"	
1642	" "	"	焼文 (RL)	"	"	
1643	" "	"	"	"	外面二次焼成	
1644	" "	深鉢・胴部	焼文 (LR)	"	"	
1645	" "	深鉢・口縁部	頸部に縄 (LR) の割面注痕・焼文 (LR)	"	"	
1646	" "	釜?・把手	焼文 (LR)	"	"	
1647	" "	浅鉢	(1ダ*?)・水置痕	ミダキ?	"	
1648	"・2層上部	深鉢・口縁部	焼文 (RL)	ナデ	"	
1649	"・2層下部	"	焼文 (LR)	"	外面摩耗・内面おこげ	
1650	8 Dm・18層 (10 cm)	鉢?・口縁部	"	"	"	
1651	" "	深鉢・胴部	"	"	"	
1652	" "	"	"	"	摩耗	
1653	"・10層 20 cm	深鉢・口縁部	"	"	"	
1654	" "	"	"	"	摩耗	
1655	"・10層 30 cm	底部	(ナデ)	ナデ	"	
1656	" "	鉢	"	"	"	
1657	"・10層下部	深鉢	焼文 (LR)	"	"	
1658	" "	"	口縁に割目・割面注痕6単位?・焼文 (RL)	"	摩耗	
1659	"・18層	鉢	焼赤文 (L?)	ナデ	"	
1660	" "	胴部	焼文 (RL?)	"	胎土黒い・摩耗	
1661	" "	深鉢・胴部	焼文 (LR)	ナデ	摩耗	
1662	" "	深鉢	押し比喩・焼文 (RL)	(不明)	"	
1663	"・11層	深鉢・口縁部	頸部に縄 (LR) の割面注痕・焼文 (LR)	ナデ	"	
1664	" "	深鉢・胴部	焼文 (RL)	"	摩耗	
1665	" "	深鉢・胴部	くし焼文	"	胎土黒い・内面おこげ	
1666	"・20層	"	焼文 (RL)	"	外面摩耗	

図版 番号	出土地点・層位	器種・部位	外 面 (文様・地文・面体など)	内 面 (裏面など)	備 考	本文 記載
1667	3 Dk・20層	鉢・口縁部	縄文 (RL)	ナデ	内外面おこげ	
1668	"・2層上部	釜・口縁部	縄文 (L?)	"		
1669	"・"	鉢・胴部	縄文 (LR?)	"		
1670	"・2層	深鉢	縄文 (LR)	"	やや摩耗	
1671	3 Dk・4層	深鉢・胴部	縄文 (L)	ナデ		
1672	3 Dk・"	"	縄文 (L)	"		
1673	"・"	"	器の上に銘の刻目・把手あり・継糸文 (L)	"	1672と同一個体	
1674	3 Dk・"	深鉢	縄文 (R)・木炭痕	"	外面吹きこぼれ	P冊
1675	3 Dk・"	釜	把手4つ・器身に刻目・縄文(?)はナデで消えている	"		
1676	3 Dk・2層上部	深鉢・胴部	くし縄文	ナデ		
1677	"・"	"	縄文 (LR)	"	外側摩耗	
1678	"・4 b 2層中層	深鉢	突起上に刻目、その下に2つの貫通孔・縄文 (LR)	"	1649と同一個体	
1679	"・4 b 2層	深鉢・器部	器身に周 (RL) の刻目並び・縄文 (RL)	ナデ	内面おこげ	
1680	"・"	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
1681	"・2層	深鉢・胴部	縄文 (R)	"		
1682	3 Dk・5 a 1層	"	縄文 (L)	"	外面スス	
1683	"・"	鉢・口縁部	"	"	"	
1684	"・"	深鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
1685	"・"	深鉢・口縁部	縄文 (L)	"	外面スス	
1686	"・4 b 1層下部	深鉢・胴部	縄文 (L)	ナデ		
1687	"・"	"	縄文 (LR)	"		
1688	"・"	"	縄文 (RL)	"		
1689	"・"	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
1690	3 Dkm・4 b 1層	深鉢・胴部	縄文 (L)	"	1682と同一個体?	
1691	3 Dk・4 b 1層	鉢・口縁部	突起器身に6つの竹管文?・突起下に貫通孔			
1692	"・"	深鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
1693	"・"	深鉢・口縁部	口縁部、器身に縄 (LR) の刻目並び・縄文 (LR)	"		
1694	"・"	鉢・胴部		"	内面おこげ	
1695	"・2層上部	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナデ (縦)		
1696	"・"	深鉢・胴部	竹管文列・竹管による刻目・縄文 (LR)	ナデ	数十層	
1697	"・"	鉢・口縁部	縄文 (L)	"	外面スス	
1698	3 Dm1・"	深鉢・胴部		"		
1699	3 Dkm・"	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
1700	3 Dm・13層 (30 cm)	釜	(ナデ)・現代風	"		
1701	3 Dkm・11層	深鉢・胴部	縄文 (RL)	ナデ	外面スス	
1702	"・"	深鉢・口縁部	"	"		
1703	3 Dkm・13層下部	深鉢・胴部	縄文 (LR)	"	数十層	
1704	"・"	"	"	"		
1705	"・"	鉢・胴部	縄文 (RL)	"	外面スス	
1706	3 Dm・"	釜・器部	文様4単位・縄文 (LR)	"		
1707	3 Dkm・4 c 1層	鉢・胴部	縄文 (LR)	ナデ	内面おこげ	
1708	"・"	鉢・口縁部	"	"	1707と同一個体	
1709	"・"	深鉢・口縁部	"	"		
1710	3 Dkm・4 c 2層	把手		"		
1711	3 Dm・4 c 2層	鉢	4段状?・竹管による垂直方向の刻目・縄文 (RL?)	ナデ		

図版番号	出土地点・部位	器種・部位	外 面 (文様・地文・痕跡など)	内 面 (割線など)	備 考	本文記載
1712	3Dm・4C2層	鉢	4線状?・割線4単位・縄文(LR)・木炭痕	ナデ		
1713	3Dm・4c2~4b1層の間	合付鉢?	(ナデ)	"	内面おこげ?	
1714	"・4b1層上部	深鉢・口縁部	縄文(LR)	"	内面おこげ	
1715	"・"	"	縄文(L)	"	外面スス	
1716	"・4b1層下部	鉢・胴部	"	"		
1717	"・"	深鉢・胴部	縄文(LR)	"	外面摩耗	
1718	"・"	深鉢・胴部	"	"	"	
1719	"・4b1層	"	縄文(L)、押し忘れ	"	胎十番	
1720	"・"	"	縄文(LR)	"	"	
1721	"・"	"	縄文(LR)	"	縁口縁・摩耗	
1722	"・"	深鉢	"	"	外面スス・内面おこげ	
1723	"・"	"	頸部に縄(LR)の割線正痕・縄文(LR)	"		
1724	"・4b1層最下部	鉢	文様4単位?・縄文(LR)	"		
1725	3Dm・4b2層上部	"	縄文(LR)	"	外面スス・内面おこげ	
1726	"・4b2層	深鉢・胴部	縄文(LR)	ナデ		
1727	"・"	深鉢・口縁部	口縁部、頸部に縄(LR)の割線正痕・縄文(LR)	"	外面スス	
1728	3Dm・2層上部	深鉢・胴部	捺文(L)	"		
1729	"・"	深鉢・口縁部	縄文(LR)	"		
1730	"・"	深鉢・胴部	腹の捺文・縄文(LR)	"		
1731	3Dm・10層上部	"	縄文(LR)	"	摩耗	
1732	"・10層	"	縄文(RL)	"		
1733	"・11層上部	"	"	"		
1734	"・11層上部(5cm厚)	"	"	"		
1735	"・11層	深鉢・口縁部	"	"	摩耗	
1736	"・"	深鉢・口縁部	縄文(RL)	ナデ		
1737	"・"	鉢	縄文(LR)	"		
1738	"・"	深鉢・胴部	縄文(RL)	"		
1739	3Dm・13層上部	深鉢・口縁部	"	"		
1740	"・"	深鉢・胴部	"	"		
1741	"・"	深鉢	口縁部、頸部に縄(LR)の割線正痕・縄文(LR)	"	外面スス	
1742	"・13層下部	深鉢・胴部	一部縄(L)の割線正痕・縄文(L)	"		
1743	"・"	"	縄文(RL)	"	摩耗	
1744	"・"	深鉢・口縁部	口縁部、頸部に縄(LR)の割線正痕・縄文(LR)	"	外面やや摩耗	
1745	3Dm・15層	"	完全内面にも花葉(3葉)・下からの割突・縄文(LR?)	"	"	
1746	"・"	壺・胴部	縄文(LR)	指で		
1747	"・"	深鉢・口縁部	縄文(RL)	ナデ		
1748	3Dm・4c1層	壺・胴部	"	指で	外面褐色塗部	
1749	"・4c2層	深鉢・口縁部	縄文(LR)	ナデ	やや摩耗	
1750	"・"	"	"	"		
1751	"・"	深鉢・底部	"	"		
1752	3Dm・4層(10cmの間)	壺	割線文様3単位・縄文(LR)・時代値	"		
1753	"・4層下部	深鉢・口縁部	縄文(L)	ナデ		
1754	3Dm・4b2層上部	深鉢・胴部	"	"		
1755	"・4b2層下部	"	縄文(R)	"	外面スス	
1756	"・"	深鉢・口縁部	縄文(LR)	"		

図 表 番 号	出土地点・層位	器種・部位	名 称 (文 様・地 文・取 付 など)	内 容 (調数など)	備 考	本 文 記 載
1757	3 Doa・4 b 2 層 下部	深鉢・胴部	縄文 (L)	ナデ	外面スス	
1758	3 Doa・2 層上部	"	屈伏雑沓・縄文 (L,R)	"		
1759	" " "	"	縄文 (L,R)	"	外面スス	
1760	" " "	壺・口縁部	"	"		
1761	" " "	深鉢・口縁部	口縁部、肩部に縄 (L,R) の動物汪痕・縄文 (L,R)	ナデ		
1762	" " "	深鉢・胴部	縄文 (L,R)	"		
1763	" " "	"	"	"		
1764	" " "	深鉢・口縁部	"	"	やや厚紙	
1765	" " "	壺	縄文 (L)	"		
1766	" " "	"	器壁上に折めの刻目	"		P 冊
1767	"・2 層中部	鉢	縄文 (L,R)	ナデ		
1768	" " "	深鉢・口縁部	"	"		
1769	" " "	深鉢・胴部	"	"	内面おこげ	
1770	3 Doa・10 層上部	"	"	"		
1771	" " "	深鉢・口縁部	右側下からの折戻・縄文 (RL)	"		
1772	" " "	"	下からの折戻・縄文 (RL)	"		
1773	" " "	壺?・口縁部	縄文 (L,R)	"	やや厚紙	
1774	" " "	"	縄文 (L,?)	"		
1775	" " "	"	縄文 (RL)	"	やや厚紙	
1776	"・10 層中部	鉢・口縁部	縄文 (L,R)	ナデ (丁寧)		
1777	" " "	深鉢・口縁部	突起部内面に波線 (3 葉)・縄文 (RL)	ナデ		
1778	"・10 層下部	"	突起部内面に波線 (3 葉)・縄文 (L,R)	"	やや厚紙	
1779	"・10 層	鉢・胴部	折戻縄文 (RL, L,R)	"	厚紙	
1780	"・12 a 層	深鉢・胴部	縄文 (L)	指でマデ?		
1781	" " "	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	ナデ	外面厚紙	
1782	" " "	深鉢・胴部	"	"	外面スス	
1783	" " "	深鉢・口縁部	縄文 (L,R)	"		
1784	"・12 c 層	深鉢・胴部	"	"		
1785	" " "	深鉢・胴部	縄文 (L,R)	ナデ		
1786	" " "	深鉢・胴部	縄文 (RL)	"	外面厚紙	
1787	"・4 b 1 層上 部	深鉢	折余文 (R)	"	外面スス	
1788	"・4 b 1 層上 部	深鉢・口縁部	縄文 (L,R)	"		
1789	"・4 b 1 層下 部	"	口縁部、肩部に縄 (L,R) の動物汪痕・縄文 (L,R)	"	やや厚紙	
1790	" " "	深鉢・胴部	"	"		
1791	"・4 b 1 層	"	縄文 (RL)	"		
1792	" " "	深鉢・口縁部	縄文 (L,R)	"		
1793	"・4 b 1 層~ 4 b 2 層の点	"	縄文 (L)	"		
1794	" " "	鉢	"	(不明)	厚紙	
1795	" " "	深鉢	縄文 (L,R)・網代痕	ナデ		
1796	3 Des・4 b 1 層上 部	深鉢・胴部	縄文 (L,R)	ナデ	外面スス	
1797	" " "	壺・口縁部	(ナ?)	"		
1798	" " "	深鉢・口縁部	縄文 (L,R)	"		
1799	" " "	深鉢・胴部	"	"		
1800	" " "	深鉢・口縁部	"	"	外面スス	
1801	" " "	"	"	"	"	

記 号 番 号	出土地点・層位	器種・部位	外 面 (文 様・地 文・模 様 等)	内 面 (裏文など)	備 考	本 文 記 載
1802	3 Dr・4 b 1 層上	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナデ	外面スス	
1803	" " " " 下部	鉢	口縁部・キムク・縄文 (LR)	"	"	
1804	" " " "	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
1805	" " " "	鉢・胴部	"	"		
1806	" " " "	深鉢・口縁部	"	"		
1807	" " " "	深鉢・胴部	"	"	外面スス	
1808	" " " "	鉢	"	"	摩耗	
1809	" " " " 4 b 1 層	壺?・胴部	注線器文の後ナデ	"		
1810	3 Dr・4 b 1 層	深鉢・口縁部	口縁部・頸部に縄 (LR) の割部任意・縄文 (LR)	ナデ	スス	
1811	3 Dr・4 b 1 層	台	台座に6つの瓦通孔	"		
1812	" " " "	深鉢・口縁部	頸部に縄 (LR) の割部任意・縄文 (LR)	"	外面スス	
1813	3 Dr・4 b 1 層	壺?・口縁部	縄文 (LR)	"		
1814	" " " "	深鉢・口縁部	口縁部・頸部に縄 (LR) の割部任意・縄文 (LR)	"		
1815	" " " "	"	頸部に縄 (LR) の割部任意・縄文 (LR)	"		
1816	" " " "	鉢・胴部	一部割部任意 (LR) ・縄文 (LR)	"	内面おこげ	
1817	" " " " 4 b 2 層上	口縁部	縄文 (LR)	"		
1818	" " " "	深鉢・胴部	"	"		
1819	3 Dr・4 b 2 層上	深鉢・胴部	ボタン状付文・割伏線帯・縄文 (LR)	"		
1820	" " " "	鉢・胴部	縄文 (R?)	"		
1821	" " " "	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	"	外面摩耗	
1822	3 Dr・4 b 2 層中	"	縄文 (R)	"		
1823	" " " "	深鉢・胴部	縄文 (LR)	"	外面スス	
1824	" " " "	"	"	"		
1825	" " " "	"	"	"	外面スス	
1826	" " " " 4 b 2 層下	"	"	"		
1827	" " " "	"	縄文 (R)	ナデ		
1828	" " " " 4 b 2 層	"	縄文 (LR)	"	外面摩耗	
1829	" " " "	深鉢・口縁部	突起部に瓦通孔・割伏線帯・縄文 (RL)	"		
1830	3 Dr・10 層下部	深鉢・胴部	横首状縄文 (R)	ナデ	内面摩耗	
1831	" " " "	"	縄文 (LR)	"	外面スス	
1832	" " " "	深鉢・口縁部	(ナデ)	"		
1833	3 Dr・4 b 1 層	深鉢・胴部	縄文 (R)	"		
1834	" " " "	深鉢・口縁部	(ナデ)	"		
1835	3 Dr・4 b 1 層	深鉢・胴部	横首状縄文 (R)	ナデ		
1836	" " " "	深鉢	縄文 (LR)	"	摩耗	
1837	" " " " 4 b 2 層上	深鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
1838	" " " " 4 b 2 層中	胴部	"	"		
1839	" " " "	深鉢・口縁部	縄文 (LR) ・一部消し忘れ	"	外面スス	
1840	3 Dr・10 層上部	"	縄文 (LR)	ナデ?	摩耗	
1841	" " " " 11-12-15a 2 層	鉢	縄文 (RL) ・木葉痕	ナデ		
1842	" " " " 4 b 1 層下	"	胴部文様帯部?・縄文 (LR) ・木葉痕	"		
1843	" " " " 4 b 1 層	深鉢・口縁部	縄文 (R)	ナデ		
1844	" " " "	"	縄文 (LR)	"		
1845	" " " " 4 b 2 層	"	頸部に縄 (LR) の割部任意・縄文 (LR)	"		
1846	" " " "	"	口縁部に縄 (LR) の割部任意・縄文?	"		

図版 番号	出土地点・層位	器種・部位	内 面 (文様・地名・面体など)	内 面 (刻痕など)	備 考	本文 記載
1847	3 Da・4 b 2層	甌鉢	縄文 (LR)	ナダ		
1848	3 Da・10 層上部	"	4 波状・刺状文様 4 波状・縄文 (LR)	"		
1849	"・4 b 2 層中 部部	"	縄文 (LR)	"	1878 と同一器体	
1850	"・4 層	蓋	竹葉・縄文 (LR)	指などで	赤色付動物・摩耗	
1851	3 Dy・4 b 1 層中 部部 (20 cm)	甌鉢・口縁部	縄文 (RL)	ナダ		
1852	"・4 b 1 層下 部	"	貝透孔・縄文 (LR)	"		
1853	3 Ea・19 層上部	"	くし痕状波線	"	内面摩耗	
1854	"・ "	注口・胴部	羽状縄文 (LR, RL, 0 段多歯)	指などで	器土厚 中や基・中 層部	
1855	"・19 層下部	台?	台上に貫通孔 (透孔ではない)	ナダ		
1856	"・ "	甌鉢・口縁部	羽状縄文 (LR のみ?)	"	摩耗	
1857	"・19 層	口縁部	縄文 (LR)	"		
1858	"・ "	甌鉢・胴部	"	"		
1859	"・ "	注口・胴部	羽状縄文 (LR, RL, 0 段多歯)	指などで		
1860	"・ "	注鉢・口縁部	"	ナダ	外面スス	
1861	"・ "	甌鉢・胴部	羽状縄文 (LR, RL?)	"	外面摩耗	
1862	"・ "	甌鉢・口縁部	縄文 (RL, 0 段多歯)	"		
1863	"・18 層上部	甌鉢・胴部	縄文 (RL)	"		
1864	"・18 層中間	"	縄文 (LR)	"		
1865	"・ "	"	刺状波線・縄文 (L)	"	外面摩耗	
1866	"・ "	"	器底文 (R)	"		
1867	"・ "	注口・胴部	(丁寧なナダ)	指などで		
1868	"・ "	甌鉢・胴部	縄文 (LR)	ナダ		
1869	"・18 層下部	鉢・口縁部	刺目帯 (上下に比較なし)	"		
1870	"・ "	"	刺目帯 (下に波線?、一段高い)	"		
1871	"・ "	甌鉢・口縁部	縄文 (RL)	"		
1872	"・ "	甌鉢・胴部	縄文 (LR)	ナダ (丁寧)		
1873	"・ "	甌鉢・口縁部	くし痕文	ナダ	やや摩耗	
1874	"・ "	口縁部	縄文 (LR)	"		
1875	"・ "	甌鉢	"	ヒガキ?		
1876	"・18 層上部	甌鉢・胴部	縄文 (RL)	ナダ	内面おこげ	
1877	"・ "	甌鉢・口縁部	波状口縁・縄文 (RL)	"		
1878	"・ "	鉢・口縁部	(丁寧なナダ)	"		
1879	"・ "	甌鉢・胴部	羽状縄文 (RL, LR?)	"	外面摩耗	
1880	"・ "	甌鉢・口縁部	縄文 (LR)	"	外面スス	
1881	"・ "	鉢	"	ヒガキ?		
1882	"・ "	注口・胴部	縄文 (LR?)	指などで	外面摩耗	
1883	"・ "	鉢・口縁部	(ヒガキ?)	ナダ		
1884	3 Ea (7 Dy 次 ?)・10 層上部	台	縄文 (LR)	ナダ		
1885	3 Ea・10 層下部	甌鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナダ?	内面摩耗	
1886	"・ "	"	縄文 (RL)	ナダ		
1887	"・ "	"	縄文 (LR)	"	摩耗	
1888	"・ "	"	"	"		
1889	"・ "	"	くし痕文	ナダ (箱)		
1890	"・ "	台	(ナダ)	ナダ		
1891	"・ "	甌鉢・口縁部	縄文 (RL?)	"	外面摩耗	

国 番 号	出土地点・層位	器種・部位	片 面 (文様・地文・図様など)	内 面 (裏面など)	備 考	本 文 記 載
1892	3Ea・10層下部	厚鉢・口縁部	縄文(RL?)	ナデ	外面磨耗	
1893	“ “ “	“	“	“	“	
1894	“ “ “	洗鉢	(くし器文)	“	やや磨耗	
1895	“ “ “	厚鉢	縄文(LR)	“	外面スス・内面摩 耗	
1896	“ “ 10層	厚鉢・胴部	縄文(LR)	ナデ	外面やや磨耗	
1897	3Ea・1層	傘?・胴部	縄文(RL)	“	“	
1898	“ “ 18層上部	厚鉢・口縁部	縄文(LR)	“	外面磨耗	
1899	“ “ “	注口・胴部	“	指なで	“	
1900	“ “ “	洗鉢?・胴部	縄文(RL)	ナデ	“	
1901	“ “ “	厚鉢・胴部	(くし器文)	“	“	
1902	“ “ “	傘?・胴部	磨いた突起(上に削り)・羽状縄文(LRのみ?)	“	“	
1903	“ “ 18層中部	口縁部	縄文(LR)	指なで	二次焼成?	
1904	“ “ “	鉢・口縁部	灰目帯(Fに比線?・一段高い)・(イガキ?)	ナデ(丁寧)	“	
1905	“ “ 18層下部	傘?・胴部	縄文(RL)	ナデ	“	
1906	“ “ “	注口?・胴部	縄文(LR)	ナデ(細)	“	
1907	“ “ “	厚鉢・口縁部	“	ナデ	“	
1908	“ “ “	“	“	“	“	
1909	“ “ “	“	縄文(RL)	“	やや磨耗	
1910	“ “ “	洗鉢	(ナデ)	“	“	
1911	“ “ “	口縁部	羽状縄文(RL, LR)	ナデ(丁寧)	“	
1912	“ “ “	鉢・口縁部	縄文(LR)	“	“	
1913	“ “ “	鉢・胴部	縄文(RL)	ナデ	やや磨耗	
1914	“ “ “	注口・胴部	磨いた削り帯(沈線なし)	指なで	“	
1915	“ “ 18Q層上 部	“	器具の磨いた突起(上に磨の削り)・ヒイズレ状 磨・磨いた削り	“	“	
1916	“ “ “	鉢・口縁部	文様内にくし器状沈線	ナデ	磨耗	
1917	3Ebc・16Q層	傘・口縁部	(ナデ)	ナデ?	“	
1918	3Ea・18層上 部	鉢・口縁部	灰目帯(Fに比線?・一段高い)	ナデ	“	
1919	“ “ “	厚鉢・胴部	縄文(LR)	“	“	
1920	“ “ “	鉢	口縁部突起上に磨の削り・丸い灰目帯	イガキ?	“	
1921	“ “ “	“	一段高い縄文帯・縄文(LR)	ナデ	“	
1922	“ “ “	厚鉢・胴部	(くし器文)	“	“	
1923	“ “ “	鉢・口縁部	突起・磨いた削り	“	“	
1924	“ “ 19層下部	厚鉢・口縁部	縄文(LR)	ナデ	外面磨耗ひどい	
1925	“ “ “	鉢・口縁部	(イガキ?)	イガキ?	“	
1926	“ “ “	鉢・胴部	縄文(LR)	ナデ	“	
1927	“ “ “	鉢・胴部	灰目帯(沈線なし)	ナデ(丁寧)	“	
1928	“ “ “	傘?・胴部	縄文(LR)	ナデ(細)	“	
1929	“ “ “	厚鉢・胴部	縄文(RL)	ナデ	“	
1930	“ “ “	“	縄文(LR)	“	“	
1931	“ “ “	鉢・口縁部	(丁寧なナデ)	“	“	
1932	“ “ 19層	注口?・胴部	縄文帯一段高い・縄文(LR)	指なで	“	
1933	“ “ “	厚鉢・口縁部	(ナデ)	ナデ	“	
1934	“ “ “	鉢?・胴部	縄文(LR)	ナデ(細)	“	
1935	“ “ “	鉢・胴部	“	ナデ	“	
1936	“ “ “	傘?・胴部	縄文帯一段高い・羽状縄文?	ナデ(細)	磨耗	

図 表 番 号	出土地点・副位	器種・部位	名 前 (文 様・地 文・原 形 など)	内 面 (調整など)	備 考	本 文 記 載
1937	3Eh・19a層	甕?・胴部	縄文部一段高い・縄文(LR)	ナデ(縄)	摩耗	
1938	" " "	鉢・胴部	縄文部一段高い・縄文(RL?)	ナデ	"	
1939	" " "	鉢・底部	羽状縄文(RLのみ)	"		
1940	" " "	鉢・胴部	斜目帯(沈線なし)・縄文(LR)	"	内面おこげ	
1941	3Eh・10層上部	浅鉢		"	ミニチュア土器?	
1942	" " "	深鉢・口縁部	縄文(LR)	"	摩耗	
1943	" " "	注口・口縁部	縄文(RL)		指なで	
1944	" " "	鉢・口縁部	縄文(LR?)	ナデ	外面スス	
1945	" " "	鉢・胴部	斜目帯・縄文(LR)	"		
1946	" " "	鉢・口縁部	(ナデ)	"	やや摩耗	
1947	" " "	口縁部	縄文(RL、0段多帯)	"		
1948	" " "	深鉢・口縁部	結状隆部・縄文?	"	内面摩耗	
1949	" " "	深鉢・底部	(ナデ)	"		
1950	" " "	深鉢・胴部	縄文(LR?)	"	摩耗	
1951	" " 10層下部	深鉢・胴部	縄文(LR)	"	"	
1952	" " 10層	深鉢・口縁部	"	"	"	
1953	" " "	鉢・口縁部	縄文(RL)	"	内外面おこげ	
1954	" " "	深鉢・胴部	縄文(LR)	"		
1955	" " "	深鉢・口縁部	押引交線・縄文(RL)	"		
1956	" " "	深鉢・胴部	縄文(LR)	"	摩耗	
1957	" " "	鉢・口縁部	縄文(RL)	"	"	
1958	" " "	深鉢・口縁部	"	"		
1959	" " 20層	鉢・口縁部	(丁寧なナデ)	ミガキ?		
1960	" " "	注口?・胴部	縄文(LR)	ナデ		
1961	" " "	索	新部文様4単位・縄文(LR)	"		
1962	" " 2層	口縁部	縄文(RL)	ナデ		
1963	" " "	深鉢・口縁部	"	"		
1964	" " "	"	"	"	摩耗	
1965	" " "	"	突起・下からの刺突・縄文(LR)	"	貫通孔高銅からせ ん孔	
1966	3Eg・19層	深鉢	縄文(LR)	ナデ		
1967	" " 19層?	注口・胴部	磨消部?一段高い		指なで	
1968	" " "	深鉢・口縁部	縄文部一段高い・縄文(LR)	ナデ		
1969	" " "	"	(ナデ)	"		
1970	" " "	深鉢	縄文(LR)	"		
1971	" " "	"	"	"	内面おこげ	
1972	" " 18層下部	深鉢・胴部	縄文(LR)	ナデ	外面スス	
1973	" " "	瓦形	爪形文	ナデ(瓦継)	天地逆?	
1974	" " 18層	注口・注口部	注口下に突起・(ミガキ)	ナデ		
1975	" " "	鉢・胴部	縄文部一段高い・縄文(?)	ナデ		
1976	" " "	鉢	縄文(LR)	"	外面摩消ひどい	
1977	" " "	注口・胴部	羽状縄文(LRのみ)		指なで	
1978	" " "	注口・胴部	磨消部?一段高い・(ミガキ)	"		
1979	" " "	深鉢・胴部	くし編文	ナデ	やや摩耗	
1980	" " "	深鉢・口縁部	"	"	"	
1981	" " "	鉢?・胴部	縄文(LR)	"		

図 番 号	出土地点・階位	器種・部位	外 面 (文様・地文・原形など)	内 面 (裏面など)	備 考	本 文 記 載
1982	3Ea・18層	鉢・胴部	縄文(LR)	ナデ	摩耗	
1983	" "	盆	縄文文様3単位・縄文(LR)・(イガキ?)	ナデ		
1984	" "	深鉢・胴部	縄文(LR)	ナデ	外面スス	
1985	" "	注口・胴部	磨消部一段低い・(丁寧なナデ?)	指まで		
1986	" - 18b層	鉢・口縁部	縄文(?)	ナデ	外面摩耗	
1987	" "	蓋	(ナデ)	"		
1988	" "	注口	(イガキ?)	"	やや摩耗	
1989	" - 10層上部	鉢	縄文(RL)	ナデ		
1990	" "	深鉢・胴部	"	"		
1991	" "		合	"	摩耗	
1992	" "	鉢・口縁部	(丁寧なナデ)	ナデ(丁寧)		
1993	" "	深鉢・胴部	縄文(L?)	ナデ		
1994	" "	"	縄文(LR)	ナデ?	内面摩耗	
1995	" "	蓋?	(丁寧なナデ)	ナデ		
1996	" "	深鉢・口縁部	縄文(LR)	"	外面摩耗	
1997	" "	深鉢・胴部	縄文(RL)	"	"	
1998	" "	口縁部	縄文(RL)	"		
1999	" "	"	羽状縄文(LRとLR?)	"	外面摩耗	
2000	" "	深鉢・口縁部	縄文?	ナデ?	摩耗ひどい	
2001	" "	"	沈線やや深く太い・縄文(LR)	ナデ		
2002	" "	注口	注口下にボタン状貼付文	"	やや摩耗	
2003	" "	深鉢	縄文	イガキ		
2004	" - 10層下部	深鉢・胴部	斜め石下から削突	ナデ		
2005	" "	"	縄文(RL)	"		
2006	" "	"	"	"		
2007	" "	深鉢・口縁部	縄糸文(R)	"		
2008	" "	深鉢・口縁部	斜め石、左からの削突	ナデ	外面摩耗	
2009	" "	盆・裏部	縄文(RL)	ナデ		
2010	" "	深鉢・口縁部	"	"	外面スス	
2011	" "	"	縄文(LR)	"	やや摩耗	
2012	" "	"	"	"	"	
2013	" "	鉢・底面	"	"		
2014	" - 10層	盆・底面	縄文形一段高い・縄文(LR)	指まで		
2015	" "	深鉢・胴部	縄文(LR)	ナデ	外面摩耗	
2016	" "	深鉢・口縁部	くし縄文	"		
2017	" - 2層上部	鉢・口縁部	羽状縄文(LRのみ)	"		
2018	" "	"	縄文(LR)	"		
2019	" "	深鉢・胴部	"	ナデ?	内面摩耗	
2020	" "	鉢?・胴部	"	ナデ		
2021	" "	鉢	縄文(LR)	ナデ	外面やや摩耗	
2022	" "	突縁	(丁寧なナデ)	"		
2023	" "	深鉢・口縁部	縄文(LR)	"	やや摩耗	
2024	" "	深鉢・胴部	"	"		
2025	" "	"	縄糸文(R)	不明	摩耗	
2026	" "	鉢・口縁部	突起	ナデ	外面摩耗ひどい	

調査 番号	内土地点・階位	基層・部位	内 面 (文種・地文・草体など)	内 面 (調整など)	備 考	本文 記載
2027	3 E _g ・2層上部	鉢	縄文 (LR)	ナゲ	外面摩耗	
2028	" " "	西鉢	"	ナゲ (丁寧)		
2029	" " 2層中部	深鉢・口縁部	頸部に縄 (RL) の割面注痕・縄文 (RL)	ナゲ	摩耗	
2030	" " "	鉢・口縁部	縄文 (LR)	ミダキ?	外面摩耗	
2031	" " 2層下部	深鉢・胴部	竹管文 (垂直に押圧)	ナゲ	やや摩耗	
2032	3 E _h ・21層	深鉢・口縁部	(ナゲ)	ナゲ?	内面摩耗	
2033	" " 10層	鉢・胴部	縄文 (RL)	ナゲ		
2034	" " "	深鉢・口縁部	"	"		
2035	" " "	"	"	"	やや摩耗	
2036	" " "	"	波状口縁・(ナゲ)	"		
2037	" " "	鉢・胴部	縄文 (LR)	ナゲ (腹)		
2038	" " "	鉢	"	ナゲ		
2039	" " 2層上部	口縁部	縄文 (L?)	ナゲ		
2040	" " 2層	鉢・口縁部	縄文?	ナゲ?	摩耗	
2041	3 E _h ・10層上部	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	ナゲ	やや摩耗	
2042	" " "	"	"	"		
2043	" " "	台	(ナゲ)	"		
2044	" " "	深鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
2045	" " "	深鉢・口縁部	波状口縁	"	やや摩耗	
2046	" " "	鉢・口縁部	割目・縄文 (LR)	"		
2047	" " "	台	縄文 (LR)	"		
2048	" " "	深鉢・胴部	"	"		
2049	" " "	台	(ナゲ)	短なで	外面摩耗	
2050	" " 10層中部	深鉢・口縁部	縄文 (LR?)	ナゲ	やや摩耗	
2051	" " "	鉢・底部	(丁寧なナゲ)	"		
2052	" " "	台	(ナゲ)	"	やや摩耗	
2053	" " 10層下部	深鉢・口縁部	深い割痕 (垂直方向)	"		
2054	" " "	"	縄文 (LR)	"	やや摩耗	
2055	" " "	"	"	"		
2056	" " 10層	鉢・胴部	"	"		
2057	" " "	深鉢	突起・胴部文様5単位・縄文 (LR)	"	内外面おこげ	
2058	" " 4 f 1層	台	胴部文様3単位・縄文 (LR)・網代文	ナゲ	摩耗	
2059	" " 4 b 2層	深鉢・胴部	縄文 (LR)	ナゲ	やや摩耗	
2060	" " "	"	"	"		
2061	" " "	"	"	"		
2062	" " "	深鉢・口縁部	頸部に縄 (RL) の割面注痕・縄文 (LR)	"	内面おこげ	
2063	3 E _h ・18層上部	釜?・胴部	縄文 (RL)	"	外面摩耗	
2064	" " 18層下部	深鉢・口縁部	割目帯 (下に波線?、一段高い)・(ナゲ)	"	紐着孔	
2065	" " "	深鉢・胴部	縄文 (RL)	"	やや摩耗	
2066	" " 10層上部	"	"	"	内面やや摩耗	
2067	" " "	深鉢・口縁部	突起部部の口縁部に割目・縄文 (LR)	"		
2068	" " "	"	くし縄文	ナゲ?	内面やや摩耗	
2069	" " "	"	縄文 (RL)	"	摩耗	
2070	" " "	釜?・口縁部	"	"	やや摩耗	
2071	" " 10層中部	深鉢・胴部	くし縄文・縄文 (LR)	"	"	

図 番 号	出土地点・時代	器種・部位	外 面 (文 様・地 文・装 飾 など)	内 面 (図 像 など)	備 考	本文記載
2072	3 Ep・10 層中層部	深鉢・胴部	縦の帯状・縄文 (LR)	ナダ?		
2073	" " "	口縁部	縄文 (LR)	ナダ (丁寧)		
2074	" " "	深鉢・胴部	"	ナダ	やや摩耗	
2075	" " "	深鉢・口縁部	"	"		
2076	" " "	深鉢・胴部	"	"	外面やや摩耗	
2077	" " "	深鉢・口縁部	突如・縄文 (LR)	ナダ (丁寧)		
2078	" " "	"	突如4単位・図部文様線の区切り10単位・縄文 (RL)	ミギキ?		
2079	" " "	底	縄文 (LR)	ナダ	外面やや摩耗	
2080	" " 10 層下部	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナダ		
2081	" " "	口縁部	"	(割落)		
2082	" " "	底・口縁部	(丁寧なナダ)	ナダ		
2083	" " "	深鉢	下方からの割落・縄文 (LR)	ナダ	外面やや摩耗	
" " 411 層			(※上の破片に接合)			
" " 3 Ep・4 b 2 層			"			
2084	3 Ep・10 層	深鉢・胴部	縄文 (RL)	ナダ		
2085	" " "	底・口縁部	縄文 (LR)	"		
2086	" " "	深鉢・胴部	"	"		
2087	" " "	底・口縁部	(ナダ)	ナダ (脆)		
2088	" " 411 層	深鉢・口縁部	縄文 (R?)	ナダ		
2089	" " 4 b 2 層上層部	突如	中空・貫通孔	指なせ	ソケット状の蓋し込み	
2090	" " "	鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナダ?	やや摩耗	
2091	3 Ep・10 層下部	鉢・胴部	縄文 (LR)	ナダ		
2092	" " "	底・胴部	磨消面?一登高い。(ミギキ?)	指なせ		
2093	" " "	深鉢	5 線状?・無目帯(下に沈没)・縄文 (RL・0 段多線)	ナダ (丁寧)	摩耗	
2094	" " 10 層中層部	深鉢	縄文 (LR)	ナダ (丁寧)	外面スス	
2095	3 Ep・10 層上部	"	下からの割落・縄文 (RL?)	ナダ		
2096	" " "	深鉢・口縁部	頸部に削 (LR) の表面研磨・縄文 (LR)	"		
2097	" " "	口縁部	縄文 (LR)	"	摩耗	
2098	" " "	鉢・胴部	縄文 (RL)	"		
2099	" " "	深鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
2100	" " 10 層中層部	深鉢・口縁部	"	"	スス	
2101	" " 10 層下部	深鉢・胴部	"	"		
2102	" " "	鉢・口縁部	縄文 (RL)	"		
2103	" " "	深鉢	縄文 (LR)	ナダ		
" " 3 Ep・411 層			(※上の破片に接合)			
" " 3 Ep・"			"			
" " 3 Ep・4 b 2 層上層部			"			
" " 4 a 1 層			"			
" " 411 層			"			
2104	3 Ep・4 b 1 層上層部	深鉢・口縁部	口縁部、胴部に削 (LR) の表面研磨・縄文 (LR)	ナダ	外面摩耗	
2105	" " 411 層上層部	"	縄文 (LR)	"	内面おこげ	
2106	" " "	"	口縁部、胴部に削 (LR) の表面研磨・縄文 (LR)	"	外面摩耗	
2107	" " 4 b 2 層上層部	鉢・口縁部	縄文 (LR)	"	内面おこげ	
2108	" " "	深鉢・胴部	縦の帯状・縄文 (L)	"	外面スス	
2109	" " "	"	縞赤文 (R)	"		

調査 番号	出土地点・層位	形態・部位	内 面 (文様・地文・目付など)	内 面 (調整など)	備 考	本文 記載
2110	3Ea・4b2層上	深鉢	横口状無文(R)	ナデ		
2111	3Ea・10層上部 (10cm)	鉢・胴部	横文(RL)	ナデ		
2112	" " "	金釘・胴部	(ナデ)	"		
2113	" " "	深鉢・胴部	下からの刺突・横文(RL)	"		
2114	" " "	深鉢・口縁部	突起・貫通孔・横文(LR)	"		
2115	" " 10層上部	深鉢・口縁部	(丁寧なナデ)	ナデ		
2116	" " "	深鉢・胴部	横文(RL)	"		
2117	" " 10層 (20cm)	"	横文(LR)	"	厚底	
2118	" " "	深鉢・口縁部	口唇部に刻目・横文(LR)	"		
2119	" " "	"	横文(RL)	"	やや厚底	
2120	" " 10層 (26cm)	鉢・胴部	横文(R?)	"	軽微孔?	
2121	" " 4f1層上 部	"	横文(LR)	"		
2122	" " "	鉢	横文(RL)	"	やや厚底	
2123	" " "	深鉢・口縁部	無文(R)	"	外面スス	
2124	" " "	深鉢・胴部	"	"	胎土意・外面スス	
2125	" " 4f1層中 間部	壺・胴部	口縁下に横(RL)の刺突(注・横文(RLのみ))	"		
2126	" " "	壺	横文(LR)・刺突	指などで	外面やや厚底	
2127	" " 4f1層	鉢・胴部	横文(LR)	ナデ		
2128	" " "	深鉢・胴部	"	"		
2129	3Ea・4f1層	深鉢・胴部	横文(LR)	ナデ		
2130	" " "	"	"	"		
2131	" " "	鉢・口縁部	口唇部に刻目・突起	"		
2132	" " "	深鉢・胴部	横文(LR)	"		
2133	" " "	鉢・胴部	"	"	やや厚底	
2134	" " "	深鉢・胴部	横文地文の後に突起・横文(LR)	"		
2135	" " "	深鉢・口縁部	突起に比較めぐる・胴部下からの刺突列・横文(LR)	"	外面厚底	
2136	3Ea・4b2層 (10cm)	壺	横文(LR)	ナデ(丁寧)		
2137	" " 10層上部 (10cm)	深鉢・口縁部	突起	1.5cm		
2138	" " 10層下部 (20~30cm)	深鉢・口縁部	横文(RL)	ナデ		
2139	" " "	"	波状口縁・横文(RL)	"		
2140	" " 4f1層	深鉢・胴部	横文(RL)	"		
2141	" " 4b2層	"	横文(LR)	"	やや厚底	
2142	3Ea・4b1層下 部	深鉢・口縁部	"	"		
2143	" " "	"	"	"		
2144	" " "	鉢・胴部	"	"		
2145	" " 4b2層下 部	"	横文(RL)	"		
2146	" " "	深鉢・胴部	頸部に横(LR)の刺突(注・横文(LR))	"		
2147	3Ea・10層 (1.10cm)	深鉢・口縁部	波状口縁・横文(?)	"	やや厚底	
2148	" " "	鉢・口縁部	横文(LR)	"		
2149	" " "	注口?・胴部	横文(?)	指などで	厚底	
2150	" " "	深鉢・口縁部	左傾した突起・横文(LR?)	ナデ	突起列落	
2151	" " "	鉢・口縁部	横文(RL)	ナデ(丁寧)		
2152	" " 10層10cm	"	横文(LR)	"	やや厚底	
2153	" " 4a1層下 部	深鉢・胴部	"	"	"	
2154	" " "	"	無文(R)	"		

図 番 番号	注土地点・部位	箇所・部位	内 面 (文 種・地 文・器 体 など)	内 面 (図 像 など)	備 考	本文 記載
2155	3E・4f1 層	扉跡・扉部	縄文 (LR)	ナデ (丁寧)		
2156	" " "	扉跡・口縁部	"	"		
2157	" " "	扉跡・口縁部	縄文 (LR)	ナデ	内面をこげ	
2158	" " "	"	類部に属 (RL) の製器匠痕・縄文 (RL)	"	やや厚紙	
2159	" " "	扉跡・扉部	縄文 (LR)	"		
2160	" " "	扉跡・口縁部	類部に属 (RL, 2.8 cm) の製器匠痕・縄文 (RL)	"		
2161	" " "	"	縄文 (LR)	"		
2162	" " "	扉跡・扉部	"	"		
2163	" " "	蓋?・扉部	"	"	やや厚紙	
2164	" " "	鉢	"	"	"	
2165	" " 4b2 層上 部	鉢・扉部	"	"	"	
2166	" " "	"	"	"	厚紙	
2167	" " "	皿・口縁部	縄文 (LR) ・ (純なナデ)	"		
2168	" " 4b2 層 (上 12 cm)	扉跡・口縁部	縄文 (RL)	"		
2169	" " "	鉢・扉部	"	"		
2170	" " "	扉跡・口縁部	"	"		
2171	3E・10 層	"	類部に属 (RL) の製器匠痕	"		
2172	" " 4b1 層下 部	"	口縁部に凸状痕等・器承文 (R)	"		
2173	" " 4f1 層	"	縄文 (LR)	"	突起あり・厚紙	
2174	" " "	扉跡・扉部	朝目状器承文 (R)	"		
2175	" " "	扉跡・口縁部	縄文 (LR)	(文種)	内面? 赤色塗彩	
2176	" " "	扉跡・胴部	"	ナデ		
2177	" " "	蓋?	正面が口縁・凸状把手部跡・縄文 (LR)	"	厚紙	
2178	" " 4b2 層 (上 10 cm)	扉跡・口縁部	類部に属 (LR) の製器匠痕・縄文 (LR)	"		
2179	" " "	鉢	縄文 (RL)	"	内面をこげ?	
2180	" " "	鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
2181	4Bb・10 層上部	扉跡・口縁部	"	"		
2182	" " "	鉢・胴部	刻目帯 (沈埋なし) ・縄文 (RL)	ナデ		
2183	" " 10 層下部	鉢・口縁部	縄文?	ナデ?	厚紙	
2184	4Fc・2 層	"	文線部一段高い・縄文 (LR)	"	"	
2185	" " 14 層及び 14a	鉢・胴部	縄文 (LR)	ナデ	"	
2186	4Fcd・14 層	鉢・口縁部	文線部一段高い・縄文 (LR)	"		
2187	" " "	注口・胴部	"	指などで	やや厚紙	
2188	4Fc・14c 層	"	縄文 (?)	"	"	
2189	" " 4b 及び 4 b' 層	突起?	"	ナデ?	厚紙	
2190	4Fd・1 層	扉跡	口縁部刻目による突起内・彫去痕い・縄文 (LR)	ナデ	植糸孔・やや厚紙	
2191	" " "	鉢・口縁部	口縁部に刻目・縄文 (LR)	"	"	
2192	" " "	扉跡・口縁部	口縁内側に沈埋・口唇部に刻目・縄文 (RL)	"	やや厚紙	
2193	" " "	蓋・口縁部	口唇部後に凹状突起・中央に貫通孔の跡・縄文 (RL)	"	厚紙	
2194	" " 2 層	口縁部	口縁に凸状突起・縄文 (LR)	ナデ	やや厚紙	
2195	" " "	注口	縄文 (LR)	指などで	厚紙	P 39
2196	" " 16 層	扉跡・胴部	縄文 (LR)	ナデ		
2197	" " "	注口	扉状突起内に扉状押圧	"	厚紙	
2198	" " "	蓋?・把手	扉状把手・彫去突起・縄文 (LR)	ナデ (種)		
2199	" " "	鉢・口縁部	縄文 (RL)	ナデ	厚紙	

図版 番号	出土地点・部位	種類・部位	外 部 (文様・地文・面体など)	内 部 (調陰など)	備 考	本 文 記 載
2200	4Fb・4層上部 (10cm)	漆鉢・口縁部	口縁部、輪部に縄(LR)の刻線辻渡	ナデ	横溝孔・摩耗	
2201	" "	" "	腹の横状把手割痕・縄文(RL)	"	摩耗	
2202	" "	鉢・口縁部	突起・貫通孔	"	"	
2203	4Fb・1層	漆鉢・底面	縄文(LR)	ナデ(縦)	摩耗ひどい	
2204	" "	蓋・胴部	羽状縄文(RL, LR)	ナデ	摩耗	
2205	" "	漆鉢・口縁部	縄文(RL)	"	やや摩耗	
2206	" "	鉢・口縁部	口唇部割目・羽状縄文(LR, RL)	不割	摩耗	
2207	" "	漆鉢・口縁部	口唇部に2条の沈線・縄文(RL)	ナデ	"	
2208	" "	蓋・胴部	縄文(RL)	"	"	
2209	" "	漆鉢・口縁部	口唇部割目による突起列・彫去残い・縄文(LR)	"	外面スス	P80
2210	" "	" "	"	"	摩耗ひどい	
2211	" - 2層	注口・胴部	"	"	やや摩耗	
2212	" "	蓋	(ナデ)	"	"	
2213	" "	鉢・口縁部	"	"	"	
2214	" - 3層	漆鉢・胴部	縄文(RL)	ナデ	"	
2215	" "	" "	縄文(LR)	"	"	
2216	4Fdb・"	台	(輪やナデ)	ナデ(縦)	"	
2217	4Fb・2層10cm	鉢・底面	縄文(RL, 0数多條)	ナデ	"	
2218	" - 4b層及び 3b層	鉢・口縁部	縄文(RL)	ナデ	やや摩耗	
2219	" "	漆鉢・口縁部	くし指状沈線	"	"	
2220	4Fb・21層	鉢・口縁部	口唇部割目・突起・口唇部突起・彫去残い・縄文(RL)	"	口縁内面に沈線	
2221	" "	" "	口唇部割目・彫去残い・縄文(?)	"	内面にこげ・外面 摩耗	
2222	" "	" "	口唇部沈線・割目・羽状縄文(LR, RL)	ナデ(丁寧)	"	
2223	" - 1層	台	縄文(LR)	"	"	
2224	" - 2c層	台	(ナデ)	ナデ	"	
2225	" - 2b層	漆鉢・胴部	縄文(L)	"	"	
2226	" - 2層10cm	漆鉢・口縁部	横状口縁・縦割目に高い突起突起・縄文(LR)	"	内面にこげ	
2227	" "	鉢・口縁部	(ナデ)	"	"	
2228	" - 2層20cm	漆鉢・口縁部	隆帯	ナデ	やや摩耗	
2229	" "	漆鉢・胴部	段状隆帯・縄文(LR)	"	粘土質	
2230	" "	漆鉢・胴部	縄文(RL)	ナデ	"	
2231	" "	漆鉢・胴部	縄文(RL)	ナデ	"	
2232	" "	鉢・口縁部	(ナデ)	"	"	
2233	" "	鉢	縄文(LR)	ナデ(縦)	"	
2234	" - 12層	鉢・口縁部	小波状口縁・縦割の割痕・縄文(RL?)	ナデ	口縁内面に沈線	
2235	" - 16層	漆鉢・胴部	縄文(R)	"	粘土質	
2236	" "	" "	(不明)	"	摩耗	
2237	" - 4層10cm	" "	縄文(RL)	"	"	
2238	4Fb・1層	鉢・口縁部	縄文(LR)	"	"	
2239	" "	" "	(ナデ)	ナデ(縦)	"	
2240	" "	漆鉢・口縁部	口唇部割目による突起列・縄文(LR)	ナデ	外面スス・摩耗	
2241	" - 20層	漆鉢・胴部	縄文(RL)	"	内外面にこげ	
2242	" "	底面	(ナデ?)	"	"	
2243	" "	" "	縄文(LR)	"	"	
2244	" "	漆鉢・胴部	縄文(RL)	"	粘土質・内面にこげ	

図面 番号	出土地点・部位	器種・部位	外 面 (文様・地文・図様など)	内 面 (調色など)	備 考	本文 記載
2245	4F・20層と2層の間	深鉢・口縁部	縄文?	ナゲ	外函厚紙	
2246	“ - 2層10cm	深鉢・胴部	縄文(LR)	“		
2247	“ - “	深鉢・口縁部	(ナゲ)	ナゲ(縄)		
2248	“ - “	口縁部	“	ナゲ		
2249	“ - “	深鉢・口縁部	縄文(RL)	ナゲ(縄)	内面おこげ	
2250	“ - 2層10cm	注門?・胴部	つまみ状突起(把手?)	ナゲ		
2251	“ - 2層	鉢	“	“	熟土層	
2252	“ - 3層	深鉢・口縁部	縄文(?)	“	外函厚紙	
2253	4F・21層(上から40cm)	注門	(イダキ)		指で	(ニテヘア土層?)
2254	4F・21層(上から40cm)	突起	縄文(RL)	ナゲ	厚紙	
2255	“ - “	深鉢・口縁部	口縁部にミズベレ状・瘤状突起	“		
2256	“ - 3層上から20cm	壺・胴部	羽状縄文(RLのみ)	ナゲ(縄)		
2257	“ - “	鉢・口縁部	口縁部割目による突起列・(ナゲ)	ナゲ	やや厚紙	
2258	“ - 3層下部(下から20cm)	壺?・口縁部	(縄なナゲ)	“		
2259	4F・21層上から10cm	鉢・口縁部	(ナゲ)	ナゲ(丁寧)		
2260	“ - “	“	割目帯(沈線なし)	ナゲ	外函厚紙・内面おこげ	
2261	“ - “	鉢?・胴部	半環状文様	“		
2262	“ - 4層と3層下から10cm	深鉢・胴部	縄文(R)	“	内面一面おこげ	
2263	4F・21層(上から30cm)	鉢・胴部	突起(貫通孔)・縄文(LR)	“	内函厚紙	
2264	4F・21層上から30cm	風形	(イダキ?)	ナゲ		P 00
2265	“ - 21層上から40cm	注門	(丁寧なナゲ)			
2266	“ - “	壺?	縄文(LR)	ナゲ	外函厚紙	
2267	“ - 3層上から(21層との境)	深鉢・口縁部	波状口縁・縄文(LR)	ナゲ	外函厚紙・内面おこげ	
2268	“ - “	“	縄文(LR)	ナゲ(縄)		
2269	“ - 3層上から20cm	“	頸部に縄(RL)の輪状文様・縄文(RL)	ナゲ		
2270	“ - “	“	“	“		
2271	4F・21層上から30cm	深鉢・口縁部	貫通孔	“	やや厚紙	
2272	“ - “	“	貫通孔・縄文(LR)	イダキ	内面おこげ	
2273	“ - “	“	突起・(イダキ)	ナゲ		
2274	“ - “	鉢?	(ナゲ)	“	やや厚紙	
2275	“ - 3層上から10cm	深鉢・胴部	沈線深い・縄文(LR)	ナゲ		
2276	“ - “	鉢・口縁部	縄文(LR)	“	内面おこげ	
2277	“ - “	鉢・胴部	“	“		
2278	“ - “	深鉢・胴部	縄文(RL)	“		
2279	“ - “	突起	(イダキ)	“	やや厚紙	
2280	“ - “	鉢・口縁部	“	ナゲ(丁寧)	“	
2281	4F・3層上から20cm	深鉢・胴部	指文(R)?・縄文の後にナゲ	ナゲ		
2282	4F・21層上から30cm	注口	注口下に小さな瘤状突起		接合部からの割傷	
2283	50cm	鉢?・胴部	把手・縄文(LR)	ナゲ	厚紙	
2284	4F・21層上から30cm	深鉢	ミズベレ状突起(上に細かい割目)・丸底	“	“	
2285	“ - 3層上から10cm	深鉢・口縁部	突起列帯・文様部一段高い・縄文(?)	ナゲ	やや厚紙	
2286	“ - “	“	縄文(RL)	“		
2287	“ - “	深鉢・胴部	縄文(LR)	“		
2288	4F・21層50cm(上から)	注門	ミズベレ状突起	“	やや厚紙	
2289	“ - 3層(21層との境)	突起	(ナゲ)	“	厚紙	

図 類 番 号	出土地点・層位	器種・部位	内 面 (文 様・地 文・型 体 など)	内 面 (調整など)	備 考	本文 記載
2290	4 Fy・3層上から 10 cm	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	ナゲ	摩耗	
2291	" " "	"	文様部一段高い・縄文 (RL)	"		
2292	" " "	鉢・胴一段高い	縄文部一段高い・縄文 (LR)			
2293	" " 3層上から 20 cm	深鉢・胴部	縄文 (?)	ナゲ	外面摩耗	
2294	" " 3層	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
2295	" " 3層及び4層	"	縄文 (LR)	"		
2296	5 Fc・21層上から 20 cm	"	突起・縄文 (LR)	"		
2297	" " 3層上から 10 cm	深鉢・口縁部	胴部に縄 (LR) の刻印追加・縄文 (LR)	ナゲ	外面やや摩耗	
2298	" " "	"	沈線深い・縄文 (RL)	"		
2299	" " "	"	縄文 (RL)	"	細粒孔・摩耗	
2300	" " "	深鉢・胴部	横目状縄文 (R)	"		
2301	" " "	深鉢?・口縁部	隆帯状に右方向から削突	"		
2302	" " 3層最下部	台	(ナゲ)	"	やや摩耗	
2303	" " "	深鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
2304	5 Fc・21層上から 40 cm	深鉢・口縁部	縄文 (RL)	ナゲ?	やや摩耗	
2305	5 Fc・21層上から 20 cm	鉢・口縁部	縄文 (LR)	1ガキ?	内面おこげ	
2306	5 Fc・21層上から 20 cm	鉢・口縁部	突起 (新高)・縄文 (LR)	ナゲ	摩耗	
2307	" " 21層上から 20 cm	歯・口縁部	縄文 (LR, 8段多葉)	"	一部摩耗	
2308	" " 21層上から 40 cm	鉢	(ナゲ)	"	ミニチュア土器?	
2309	" " "	口縁部	(丁寧なナゲ)	ナゲ (鑑)		
2310	" " "	鉢	"	ナゲ		
2311	5 Fm・21層から 10 cm	深鉢・口縁部	突起	(不明)	摩耗	
2312	" " 30 cm	深鉢	縄文 (LR)	ナゲ?	やや摩耗	
	" " 40 cm					
	5 Fc・30 cm					
2313	" " 10 cm	鉢・口縁部	(1ガキ)	1ガキ		
2314	5 Fc・21層上から 40 cm	甕形	(鑑なナゲ)		造り落	
2315	5 Fm・3c層=3層 最下部	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナゲ	やや摩耗	
2316	5 Fc・3d層上から 20 cm	"	口縁内側に反縁・上から4本目に溝状の刻痕・縄文 (?)	"	外面摩耗・内面おこげ	
2317	" " 3e層	"	隆帯上に刻めの刻目	"	粘土層	
2318	" " "	"	縄文 (?)	"	粘土層・外面摩耗ひどい	
2319	" " "	深鉢・胴部	縄文 (L)	"	外面スス	
2320	" " "	深鉢	縄文 (LR)	"	粘土層・摩耗剥落	
2321	5 Fy・3d層	深鉢・胴部	縄文 (RL)	"	摩耗	
2322	" " "	鉢	(ナゲ)	"		
2323	" " "	深鉢・胴部	胴部に縄 (RL) の刻印追加・縄文 (RL)	"	やや摩耗	
2324	" " 3d層 表上から 20 cm	深鉢	縄文 (L)	(不明)	摩耗	
2325	5 Fmwy・2d=3d層	鉢・胴部	縄文 (LR)	ナゲ	粘土層・やや摩耗	
2326	6 Fc・3d層	深鉢・胴部	縄文 (LR?)	"	やや摩耗	
2327	" " 3d層	口縁部	縄文 (RL, 8段多葉)	"	摩耗	
2328	" " 3d層	鉢・胴部	縄文 (LR)	"		
2329	" " "	深鉢・口縁部	口縁部刻痕による突起判・縄文 (LR)	ナゲ (鑑)	内面おこげ	
2330	海部群ペルト・18層	鉢?・胴部	"	"		
2331	" " "	庄口?・口縁部	(ナゲ)	胎内で	やや摩耗	
2332	" " "	庄口・胴部	"	ナゲ (鑑)		

原 版 号	出土地点・部位	原形・部位	外 面 (文 様・地 文・意 象 など)	内 面 (刻痕など)	備 考	本文 記載
2333	道原洞ベクト・18 b層	漆鉢・胴部	宗状模文 (LR, RL)	ナデ	内面おこげ	
2334	〃 〃 〃	漆鉢	縄文 (LR)	〃		
2335	〃 〃 〃	鉢・口縁部	朝日帯 (比喩なし、一般高い)	〃	縁部孔	
2336	〃 〃 〃	〃	(ナデ)	〃		
2337	〃 〃 〃	〃	鳥羽状に彫、瘤間に深い短比喩	〃		
2338	〃 〃 〃	漆鉢・口縁部	縄文 (LR)	〃		
2339	a層 〃 〃 18	鉢・口縁部	朝日帯 (比喩なし、一般高い)	〃		
2340	〃 〃 〃	注口?・胴部	宗状模文 (?)	指などで	摩耗、剥落の多い	
2341	a層 〃 〃 18	鉢・口縁部	縄文 (RL)	ナデ	やや摩耗	
2342	層 〃 〃 18	〃	縄文 (LR)	〃		
2343	〃 〃 〃	漆鉢・胴部		ナデ		
2344	〃 〃 〃	〃	縄文 (RL)	ナデ (丁寧)		
2345	〃 〃 〃	漆鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナデ		
2346	〃 〃 〃	漆鉢	〃	〃	内面おこげ	
2347	b1層 〃 〃 4	漆鉢・胴部	縄文 (RL)	〃		
2348	〃 〃 〃	漆鉢・口縁部	縄文 (LR)	〃		
2349	〃 〃 〃	〃	〃	〃		
2350	〃 〃 〃	鉢・胴部		〃		
2351	b2層 〃 〃 4	漆鉢・口縁部	縄文 (LR)	〃		
2352	b2層 〃 〃 4	〃	縄文 (RL)	〃		
2353	〃 〃 〃	〃	雲母に縄 (LR) の空面正画・縄文 (LR)	〃	内面おこげ	
2354	〃 〃 〃	漆鉢・口縁部	比喩深い、縄文 (LR)	ナデ		
2355	層 〃 〃 2	〃	くし模文	〃	外面スス・内面摩 耗	
2356	〃 〃 〃	鉢	(丁寧なナデ)	〃		
2357	〃 〃 〃	鉢・口縁部	縄文 (LR)	〃		
2358	〃 〃 〃	雲・胴部	雲母に縄 (LR) の表面正画・縄文 (LR)	〃		

第11表 土器観察表(3)

-その他の土器-

図 番 号	出土地点・層位	種類・部位	外 面 (文 様・地 文・面 体 など)	内 面 (調査など)	備 考	本文 記載
2359	1 B・後堀台包	鉢・口縁部	胎土上に斜めの刻目	(不明)	厚紙ひどい	
2360	" " "	"		ナブ	内面おこげ	
2361	" " "	鉢		"	外底厚紙	
2362	1 C・ "	釜・胴部		"	外底厚紙・胎土	
2363	1 C	壺	4足	"	内面やや厚紙	
2364	1 C・遊物台包	深鉢	口縁部内側に波線・斜目状刻み文 (R)	ナブ?	内面厚紙ひどい	
2365	1 C ₁ ・20 cm	壺	口縁内側に2条波線・突起1単位?	ナブ		
2366	1 Cの北・トレン ナ内	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	(不明)	厚紙	
2367	2 C ₁ ・後堀台包 上から10 cm	鉢	口縁部斜目・縄文 (LR)	ナブ (鑑)	外底厚紙	
2368	2 C ₁ ・40 cm	鉢・口縁部	縄文 (L)	ナブ		
2369	2 C ₁ ・真土下10 cm	"	把手	"	厚紙	
2370	"・1層下から 30 cm	深鉢	文様3単位・縄文 (RL)	"	外底ス	
2371	2 C ₁ ・20 cm	鉢・口縁部	縄文 (LR)	"	やや厚紙	
2372	"・1層下40 cm	鉢・口縁部	口縁部・胎土に2本の粗かい斜突列・胎土に短長の 溝	指などで?	ミルチニア土器	
2373	" " "	鉢	突起3単位・竹管・縄文 (LR)	ナブ	"	
2374	"・50 cm	釜	4波状・文様4単位・口縁部に縄 (RL) の刻み波 文 (RL)	"		P器
2375	2 C ₁ ・1層上層よ り	鉢	4波状・縄文 (LR)	ナブ (鑑)		
2376	2 C ₁ ・10 cm	"	口縁部に粘土ひもを貼付して上に刻目・輪郭に突起	ナブ		
2377	"・20~30 cm	釜	文様3単位・縄文 (LR)・水滲び?	"	やや厚紙	
2378	" " "	深鉢	8波状?・(1単位ナブ)	"	"	
2379	2 C ₁ ・1層下40 cm	鉢	文様それぞれ違う(単位とらない)	ナブ?	内面おこげ・厚紙	
2380	2 D ₁ ・20 cm	鉢・口縁部	粘土ひも・ボタン状貼付	(不明)	厚紙	
2381	"・30 cm	釜	割代紙	ナブ (鑑)	内面おこげ・厚紙	
2382	"・60 cm	釜		ナブ	天周逆?・厚紙ひ どい	
2383	"・1層下30 cm	深鉢	縄文 (LR)	"	外周吹きこぼれ	
2384	2 D ₁ ・40 cm	鉢・口縁部	"	"	やや厚紙	
2385	2 D ₁ ・1層下40 cm	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナブ	外周割落	
2386	"・60 cm	釜		"	ミルチニア土器?	
2387	2 D ₁ ・1層下40 cm	鉢	粗かい斜突・縄文 (LR)	"		P器
2388	2 D ₁ ・40 cm	深鉢		"	天周逆?・厚紙	
2389	2 D ₁ ・1層下40 cm	底部	黒色付着物(アスファルト?)で糊着した跡あり		(外底逆用)	
2390	" " "	鉢		ナブ	やや厚紙	
2391	2 D ₁ ・1層下20 cm	突起	縄文 (LR)	"	"	
2392	2 D ₁ ・" 10 cm	鉢・口縁部	下方からの斜突	ナブ		
2393	" " " 10 cm	深鉢・胴部		"		
2394	" " " 10 cm	鉢・口縁部	(ナブ)	"		
2395	" " " 20 cm	鉢	突起1単位・縄文 (LR)	"	外底厚紙・内面一 面おこげ	
2396	" " " 20 cm	深鉢	縄文 (LR)	(不明)	厚紙	
2397	" " " 30 cm	鉢・胴部	口縁部に斜めの斜目・縄文(?)	ナブ	やや厚紙	
2398	" " " 50 cm	鉢・口縁部	縄文 (RL)・0波多條	ナブ(丁寧)		
2399	"・50 cm	鉢	(ナブ)	ナブ	やや厚紙	
2400	2 D ₁ ・1層下20 cm	鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナブ?	厚紙	

図 版 番号	出土地点・部位	器種・部位	内 面 (文 様・地 文・原 形 など)	内 面 (図 像 など)	備 考	本 文 記 載
2401	2 Dm・重箱下 30 cm	鉢・口縁部	突起・縄文 (RL)	ミガキ		
2402	" " " 50 cm	底	(ミガキ?)	ミガキ?		
2403	" " " 70 cm	底	竹筥	ナデ?	摩耗ひどい	
2404	2 Dm・40 cm	台付蓋	(ナデ)	ナデ	外面やや摩耗	
2405	" " " 50 cm	鉢	縄文 (RL)	ナデ		
2406	" " " 重箱下 50 cm	湖鉢・口縁部	貫通孔・縄文 (LR)	ミガキ		
2407	2 Do・10 cm	蓋?	縄文 (LR)	ナデ		
2408	" " " 重箱下 40 cm	鉢	突起 1 単位?・右下からの削突・縄文 (LR)	ナデ (丁寧)		
2409	" " " 重箱下 70 cm	鉢・口縁部	縄文 (LR)	ミガキ	内面おこげ?	
2410	" " " 70 cm	蓋?・口縁部	"	ミガキ?		
2411	" " " 80 cm	蓋	(ナデ)・縄代版	ナデ		
2412	2 Dp " " 40 cm	浅鉢	口縁部に 3 条の縄 (LR, 3 cm) の刻印残存・縄文 (LR)	ナデ (丁寧)		P 90
2413	" " " 瓶口蓋 1 寸	蓋	縄文 (LR)・水滲痕	ナデ		
2414	2 Dm・重箱下 30 cm	鉢	縄文 (?)	ナデ	やや摩耗	
2415	" " " 50 cm	蓋	口縁部の刻目 3 つ 1 組で 4 単位・縄文 (LR)・木炭痕	"		
2416	" " " 重箱下 50 cm	注口?	"	"		
2417	2 Dr・40 cm	湖鉢	新編文様 8 単位・縄文 (RL)	"	内面吹きこぼれ	
2418	" " " 20~30 cm	"	4 條状・新編文様突起部で突起・縄文 (LR)・木炭痕	"	貫通孔 (円蓋すん文)	
2419	" " "	注口	(ミガキ)	ミガキ		
2420	" " " 30 cm	蓋?・把手	縄文 (LR)	"	やや摩耗	
2421	" " " 60 cm	湖鉢・突起	(ミガキ?)	ミガキ?	"	
2422	" " " 70 cm	底	突起 1 単位・四角文様 2 種類 (波とクランク) 2 単位	ナデ?	摩耗 (木炭屑類混入)	
2423	2 Dm・60 cm	鉢・湖鉢	縄文 (LR)	ナデ	治土製	
2424	2 Dm・重箱下 50 cm	浅鉢	(ナデ)	"		
2425	" " " 60 cm	突起	左右に三叉状の刻削・縦長の貫通孔	"	摩耗	
2426	" " "	蓋	文様 2 単位・別状縄文 (LRのみ)・縄代版	ナデ?	"	
2427	" " "	筒	縄文 (LR)	ナデ	やや摩耗	
2428	2 Dm・70 cm	注口	"	"		
2429	" " "	台付鉢	縄文 (RL)	(不明)	二次焼成・摩耗	
2430	" " " 80 cm	鉢・口縁部	突起・縄文 (LR)	ナデ		
2431	" " "	浅鉢	(ナデ?)	ナデ?	摩耗	
2432	2 Dm・重箱下 30 cm	鉢?	(指などで)	指などで	ミニチュア土器?	
2433	" " "	浅鉢	(ナデ)・縄代版	ナデ (丁寧)	外側スス	
2434	" " " 30 cm	"	4 條状?・文様 4 単位・縄文 (LR)・木炭痕	ナデ		
2435	" " "	鉢	新突・縄文 (LR)	"		P 90
2436	" " " 60 cm	注口	縄文 (LR?)	"	摩耗	
2437	" " " 重箱下 50 cm	注口?	突起 4 単位・隆帯上に刻目	"	摩耗・割傷	
2438	" " " 80 cm	底	(ナデ)	"	底面割傷	
2439	" " "	"	"	"	摩耗	
2440	" " "	湖鉢・湖鉢	沈線太いが濃くない・縄文 (LR)	ナデ		
2441	" " "	湖鉢・湖鉢	縄文 (LR)	ミガキ?		
2442	" " 上部	鉢・口縁部	頸部に斜めに縄 (LR) の刻印残存	ナデ		
2443	2 Dm・重箱下 50 cm	注口	刻削文様 5 単位?・縄文 (LR)	"	治土製	
2444	2 Dm " " 50 cm	湖鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナデ	内面おこげ	
2445	" " "	鉢	"	"		

図版番号	出土地点・編位	素材・形位	内面 (文様・地文・彫刻など)	内面 (調整など)	備考	本文記載
2446	2 Da・重機下50 cm	深鉢・口縁部	浅彫深い・縄文 (LR)	ナデ		
2447	" " " "	"	縄文 (RL)	"		
2448	" " " "	"	"	ナデ (丁寧)	外凸摩耗	
2449	" " " "	鉢・口縁部	斜目帯・縄文 (RL)	(不明)	やや摩耗	
2450	2 Da・60 cm	盆	口縁部に縄 (LR, 2.3 cm) の斜目注痕・縄文 (LR)	ナデ (丁寧)		P30
2451	2 Dy・20 cm	盆・製部	上からの斜実列・縄 (L) の斜目注痕列を文様内に走らす	ナデ		
2452	2 Dc・重機下30 cm	蓋	縄文 (RL, 0段多生)	"		
2453	2 D	深鉢・胴部	くし編文	ナデ	やや摩耗	
2454	2 Ea・40 cm	盆	縄文 (LR)	ナデ?	摩耗	
"	"・80 cm	"	(傘上の破片に接合)			
2455	"・90 cm	鉢	(ナデ?)	ナデ?	摩耗	
2456	2 Ek・重機下70 cm	突起	突起	ナデ	やや摩耗	
2457	2 Ep・"10 cm	深鉢・口縁部	突起部十字状沈線・ボタン状突起・細かい斜目	ナデ		
2458	"・"・60 cm	鉢	文様3単位	"		
2459	" " " "	注口	槽3単位・胴部文様4単位・内脚の文様・縄文 (RL)	"	摩耗ひどい	
2460	" " " "	鉢	2種類の突起を単位?・縄文 (LR)	"		
2461	2 Ee・40 cm	鉢	(手づくね)	"	ヒムキユア土器?	
2462	2 Ee・30 cm	突起	縄文 (RL?)	ナデ?	摩耗	
2463	"・40 cm	深鉢	5段状?・胴部文様3単位?・縄文 (RL)	ナデ		
2464	"・重機下20 cm	須形 (内形?) 土器	(ナデ)	指などで	やや摩耗	
2465	2 Ee・60 cm	盆	(ヒギキ?)	ヒギキ?	"	
2466	"・重機下70 cm	深鉢・胴部	竹管様工具で下から削製・縄文 (LR)	ナデ		
2467	"・80 cm	盆	(ヒギキ?)・胴代版	ナデ?	やや摩耗	
2468	" " "	鉢	縄文 (LR)	ナデ		
2469	"・90 cm	注口?	斜目帯・(ヒギキ)	"	内面に爪の跡	
2470	2 Ew・重機下50 cm	深鉢・口縁部	船かく深い斜目列	ナデ		
2471	" " " "	底部	(ナデ)	縄文 (RL)		
2472	"・80 cm	注口	口縁部突起上に斜目・ヒズバレ状	(不明)	摩耗	
2473	3 Da・重機下10 cm	蓋	いのしし状のつまみ・縄文 (RL?)	"	摩耗ひどい	
2474	"・重機下(部) 51) 30~25 cm	深鉢	右下方からの斜実列・羽状縄文 (LR & LR?)	ナデ		
2475	"・重機下30 cm	"	捺承文 (K)	"	外凸スス	
2476	" " " "	鉢・製部	縄文 (LR)	"		
2477	" " " "	"	"	"	粉土層・内外凸スス	
2478	" " " "	深鉢・口縁部	(ナデ)	ナデ		
2479	" " " "	"	頸部に縄 (LR) の斜目注痕・縄文 (LR)	"	やや摩耗	
2480	" " " "	盆	縄文 (LR)	"		
2481	"・30 cm	浅鉢	縄文 (LR)・木製版	"	外面吹きこぼれ	
2482	"・重機より 120 cm	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナデ	外面スス	
2483	"・ベルト上部	深鉢・製部	"	"	やや摩耗	
2484	3 Dc・重機下30 cm	蓋	"	"	"	
2485	" " " "	盆	(ナデ?)・木製版	"		
2486	"・重機下?"	"	頸部に縄 (LR, 2.6 cm) の斜目注痕・縄文 (LR)	"	摩耗	
2487	3 De・20 cm	"	胴部文様3単位・竹管・縄文 (LR)・木製版	指などで	やや摩耗	
2488	"・重機より30 cm	"	縄文 (LR)	ナデ	"	
2489	3 Dd・"20 cm	深鉢・口縁部	縄文 (RL?)	ナデ	摩耗	

図 新 番 号	内土地点・部位	部類・部位	内 面 (文 様・地 文・彫 刻 等 注 意 点 等)	内 面 (図 像 等)	備 考	本 文 記 載
2400	3 Dd・重畳より 20 cm	突起	(不明)	(不明)	厚紙のどい	
2401	" " " " 30	"	縄文 (RL)	ナデ?	やや厚紙	
2402	" " " " "	"	刻めの創目列・縄文 (RL)	ナデ	"	
2403	" " " " 50	巻	頸部に縄 (LR) の創面圧痕・縄文 (LR)	"	"	
2404	" " " " 50 cm	線跡	口縁部・頸部に縄 (LR, 5 cm) の創面圧痕・縄文 (LR)	"	"	
2405	" " " " 重畳下 50	線跡・口縁部	縄文 (LR)	ナデ	"	
2406	" " " " "	"	"	"	胎上や中巻	
2407	3 Dd・重畳より 20 cm	異形?・凹?	5 足	"	"	
2408	3 Dg " " 10	跡・口縁部	縄文 (RL)	ナデ	"	
2409	" " " " "	痕?	4 趾状・頸部・胴部に縄 (LR) の創面圧痕・縄文 (LR)	"	木蓋板	
2500	" " " " 20	線跡・口縁部	縄文 (LR)	ナデ	"	
2501	" " " " 30	跡・胴部	"	"	外器スス	
2502	" " " " "	線跡・口縁部	(ナデ)	"	"	
2503	3 Dn・重畳下 30	痕?	縄文 (LR)	ナデ	天地逆?	
2504	" " " " 40 cm	線跡	4 趾状?・口縁部・胴部に縄 (LR, 3.5 cm) の創面圧痕・縄文 (LR)	"	"	
2505	3 Df・重畳より 10	線跡・口縁部	縄文 (LR)	"	"	
2506	" " " " "	"	突起	"	外器厚紙	
2507	" " " " 30	"	突起・突起部に円錐もの同心円状彫・細かい割突	"	やや厚紙	
2508	" " " " 70 cm	跡	4 趾状・縄文 (LR)・木蓋板	"	"	
2509	3 Dk・重畳より 20 cm	線跡	頸部上に刻めの創目・縄文 (?)	"	"	
2510	" " " " 70 cm	痕?・凹部	肩胛中央に痕の履状把手創目・細かい割突・縄文 (LR)	"	胎下?	
2511	3 Dd・重畳下 20	線跡	縄文 (LR)	ナデ	"	
2512	" " " " 重畳より 30	巻	頸部上に刻めの創目・縄文 (LR)	"	"	
2513	3 Dm・重畳から 5 cm	"	口縁部・頸部に縄 (LR, 3.5 cm) の創面圧痕・縄文 (LR)	"	"	
2514	" " " " 重畳より 30	線跡・口縁部	ひねった突起	ナデ	"	
2515	" " " " "	跡・口縁部	趾状口縁・胴部にひねった粘土の貼付・縄文 (RL)	"	"	
2516	" " " " "	線跡	縄文 (LR)	"	内面おこげ	
2517	" " " " "	跡	4 趾状・文様内彫的・縄文 (RL)	ナデ (丁寧)	"	
2518	3 Dmn・重畳より 30 cm	線跡	縄文 (LR)	ナデ	踏巻孔	
2519	" " " " "	"	竹管・縄文 (LR)	"	外器スス	
2520	" " " " "	"	縄文 (RL)	ナデ (丁寧)	"	
2521	3 Dm・重畳より 40 cm	線跡	突起内面にも紋線・縄文・縄文 (RL)	ナデ	"	
2522	3 Dn・重畳より 20 cm	"	縄文 (RL, 0 趾多巻)	"	内外面おこげ	
2523	" " " " "	"	竹管跡工法で創突	"	外面スス・厚紙のどい	
2524	" " " " 重畳下 40	線跡・胴部	線跡・縄文 (LR)	"	内面厚紙	
2525	3 Dn・重畳より 10 cm	柱口?	中巻?の底に貫通孔 (第 36 図 962 と同じ?)	"	厚紙	
2526	" " " " "	線跡・口縁部	突起・貫通孔	(不明)	"	
2527	" " " " 20	跡・口縁部	右下からの割突・縄文 (RL)	ナデ	"	
2528	" " " " "	線跡・口縁部	口縁部にも縄文・下からの割突列・縄文 (RL)	ナデ	内面厚紙	
2529	" " " " "	片口?	2 趾位の趾状口縁・下からの割突・創代痕	"	やや厚紙	
2530	" " " " 30	跡・口縁部	中央に 2 つの貫通孔・絞の隆帯	ナデ	"	
2531	3 Dg " " 20	線跡・口縁部	縄文 (LR)	"	"	
2532	" " " " "	"	縄文 (LR)	"	"	
2533	" " " " "	跡	突起部に貫通孔・縄文 (LR)	"	やや厚紙	
2534	3 Df " " "	線跡	頸部上に縄文 (LR)	"	外器スス	

図 版 番号	出土地点・部位	種類・形状	外 形 (文様・地文・彫刻など)	内 面 (調整など)	備 考	本文 記載
2525	3 Dc・東横下 20 cm	漆鉢	2つの貫孔・腹部上に斜めの割目・縄文 (LR)	ナデ		
2526	3 Dc・ "	蓋	胴部文様 3 単位・縄文 (LR)	"		
2527	3 Dc・ "	注口	(縄なナデ)・木蓋痕	"		
2528	3 Dc・ "	漆鉢	"	ナデ		
2529	3 Dy・ "	漆鉢・口縁部	縄文 (LR)	"		
2540	"・ "	台付鉢	突起、おの貫通孔単位不明・縄文 (LR)	"	内面おこげ	
2541	"・ "	蓋	"	"	外面摩耗	
2542	"・ "	鉢・口縁部	突起	ナデ (縹)	摩耗	
2543	3 Ea・ "	"	"	(不明)	"	
2544	"・ "	漆鉢	"	ナデ	摩耗	
2545	"・ "	漆鉢・口縁部	文様部一段高い・羽状縄文 (RLのみ?)	"	内面おこげ	
2546	"・ "	漆鉢・口縁部	"	"	外面摩耗ひどい	
2547	"・ "	漆鉢・口縁部	突起・2つの貫通孔・腹部上に斜めの割目	ナデ (縹)	やや摩耗	
2548	"・ "	漆鉢	縄文 (LR)	ナデ	外面摩耗	
2549	"・ "	漆鉢・胴部	"	"	やや摩耗	
2550	"・ "	"	下からの斜突刺・縄文 (LR?)	"	摩耗	
2551	"・ 45 cm	漆鉢・口縁部	突起・貫通孔・縄文 (RL?)	"	"	
2552	"・ "	漆鉢	(ナデ)	"	やや摩耗	
2553	3 Ea・ 68 cm	漆鉢・胴部	下からの斜突刺・縄文 (LR)	ナデ	外面摩耗	
2554	"・ 81 cm	異形	(丁寧なナデ)	"	外面やや摩耗	
2555	3 Eb・東横下 20 cm	注口?・口縁部	把手(つまみ)状突起(中央に貫通孔)・ミズバネ状・尾節	指なで		
2556	"・ 50 cm	漆鉢	(ミガキ)	"		
2557	"・ "	突起	中空・貫通孔	ナデ	やや摩耗	
2558	"・ 70 cm	漆鉢・口縁部	突起・貫通孔・縄文 (LR?)	ナデ (丁寧)		
2559	"・ "	鉢・口縁部	突起・縄文 (LR)	ナデ?	やや摩耗	
2560	3 Ea・ 90 cm	鉢・胴部	(縄なナデ)・木蓋痕	ナデ	"	F 50
2561	3 Ee・東横から 20 cm	漆鉢	胴部文様 5 単位・羽状縄文 (RL, LR?)	"	摩耗のどい	
2562	"・ 40 cm	蓋	胴部文様 3 単位?・縄文 (LR)・網代痕	指なで	外面やや摩耗	
2563	3 Ee・東横下 20 cm	漆鉢	底部丸く安定しない・(ナデ)	ナデ		
2564	3 Ee・東横より 10 cm	台付鉢	縄文 (RL)	"	外面摩耗	
2565	3 Em・東横 30 cm	漆鉢・口縁部	突起胴部隆部・縄文 (LR)	"	やや摩耗	
2566	3 Ee・東横より 20 cm	蓋	胴部文様 5 単位・縄文 (LR)	ナデ (縹)	"	
2567	"・ "	突起	縄文 (LR)	"	"	
2568	"・ "	鉢	胴部隆 (RL) の割目3個・縄文 (RL)・網代痕	ナデ		
2569	"・東横下 50 cm	台?	腹の下からの斜突・文様 2 単位	"		
2570	"・ "	漆鉢	縄文 (LR)	ナデ (丁寧)		
2571	3 Ee・東横より 20 cm	漆鉢・口縁部	突起・4つの貫通孔・縄文 (LR)	(不明)	やや摩耗	
2572	3 Ee・ "	鉢	(縄なナデ)・木蓋痕	ナデ	"	
2573	"・東横から 20 cm	漆鉢	文様内に網 (LR, 4 cm) の割目3個	"	やや摩耗	F 50
2574	"・東横下 40 cm	鉢	文様の狭い部分に網 (LR) の割目3個・縄文 (LR)	"	"	F 50
2575	"・ "	漆鉢	6 波状?・縄文 (LR)	ナデ (丁寧)		
2576	3 Ee・東横より 20 cm	蓋?	(丁寧なナデ)	ナデ	やや摩耗	
2577	3 Ee・ 30 cm	注口	胴部文様 4 単位・胴部部?一段高い	ナデ?	筋上高・摩耗	
2578	3 Ee・表上から 50 cm	異形蓋	羽状縄文 (?), 斜めの部分を下にしても座る	ナデ	外面摩耗のどい	
2579	"・ "	突起	"	(不明)	摩耗	

図番 番号	出上地点・部位	層様・部位	外 面 (文様・地文・装飾など)	内 面 (調音など)	備 考	本文 記載
2580	4 Ea・重畳下30 cm	鉢・口縁部	貫通孔	ナダ		
2581	"	"	突起・縦状隆起	"	内面や厚縁	
2582	4 Eb・重畳より 20cm	"	"	"	「ニチュア?」・厚 縁	
2583	4 Ee・重畳下30 cm	厚縁・口縁部	縁縁上に刻目	ナダ	内面おこげ	
2584	4 Fc・底面 表土から30cm	鉢	突起単位不明・突起頂部に縦長の瘤	"	「ニチュア」土器	
2585	"・表土から70 cm	皿?	縦帯のやや大きめの瘤(単位・文様部一致高い)	"	縁縁の間に瘤	
2586	4 Fe・底面 下土から30cm	皿?・口縁部	突起?単位・文様4単位・(丁寧なナダ)	ナダ(丁寧)		
2587	4 Fg・表土から 10cm	突起	やや尖りぶりの縦状突起・内面の瘤に突起・縦文 (LR?)	(不明)	厚縁	
2588	4 Fj・ " 40 cm	厚縁	口縁部に沈線・文様4単位(それぞれ彫跡に異なる)	ナダ	"	
2589	4 Fm・ " 40 cm	注口	突起下層・ミズバレ状隆起	指なで	やや厚縁	
2590	"	鉢	瘤?単位?	"	やや厚縁	
2591	4 Fn・ " 70 cm	厚縁・口縁部	突起・縦文(?)	(不明)	厚縁	
2592	4 Fp・ " 68 cm	鉢	(ナダ)	ナダ	「ニチュア」土器?	
2593	" " 50 cm	突起	貫通孔・下からの突起・縦文(LR)			
2594	4 Fl・ " 40 cm	厚縁・口縁部	突起(前後)・縦文(LR?)	「イガキ」	スス・外面厚縁	
2595	4 Fw・ " 40 cm	注口	瘤(上に刻目)3単位・縦帯	(不明)	「ニチュア」・厚縁	
2596	4 Fx・ " 26 cm	注口?	(ナダ)	指なで	やや厚縁	
2597	" " 68 cm	厚縁・口縁部	外面三角形の部分一致低い・瘤・縦文(RL?)	ナダ		
2598	" " 40 cm	胴形	(器なナダ)	"	「ニチュア」?	
2599	4 Fy・ " 30 cm	厚縁	"	ナダ(器)		
2600	5 Fa・ " 40 cm	厚縁・口縁部	突起単位不明・縦文(LR)	ナダ(丁寧)		
2601	" " 40 cm	突起	4つのボタン状突起(貫通孔)	(不明)	厚縁	
2602	" " 50 cm	厚縁・口縁部	突起(前後)・縦文(LR)	ナダ	やや厚縁	P 80
2603	" " 50 cm	台付鉢	縦状縦文(LR、RL?)	ナダ	外面厚縁口どい	
2604	" " 50 cm	厚縁	文様3単位・縦文(LR)	ナダ	外面厚縁・内面お こげ	
2605	" " 70 cm	鉢・口縁部	突起・縦文(RL)	"	やや厚縁	
2606	" " 70 cm	鉢	"	(不明)	厚縁	
2607	5 Fd・ " 60 cm	突起	貫通孔	ナダ?	やや厚縁	
2608	" " 60 cm	"	突起部中央・貫通孔	(不明)	"	
2609	5 Fe・ " 30 cm	注口	ミズバレ状隆起	"	割目褐色付着物	
2610	5 Fh・ " 40 cm	突起	中央一致高い	「イガキ」	やや厚縁	
2611	" " 50 cm	厚縁・口縁部	突起	(不明)	厚縁	
2612	" " 80 cm	厚縁	胴部文様4単位?・縦文(LR)	ナダ	厚縁口どい	
2613	5 Fi・ " 20 cm	鉢・口縁部	(「イガキ」)	「イガキ」		
2614	" " 50 cm	厚縁・口縁部	突起・貫通孔・縦文(RL)	ナダ?	やや厚縁	
2615	5 Fj・ " 40 cm	鉢	胴部文様3単位?・縦文(LR)	ナダ?	"	
2616	" " 50 cm	鉢	縦文(LR)・胴代底	"	やや厚縁	
2617	" " 50 cm	鉢	縦文(RL)	"	"	
2618	5 Fk・表土から50 cm	鉢・胴部	文様単位不明・縦文(LR)	ナダ(丁寧)	外面スス	
2619	" " 50 cm	鉢・口縁部	4突起?・縦文(LR)	ナダ	やや厚縁	
2620	5 Fl・ " 50 cm	突起	突起・貫通孔	ナダ?	厚縁	
2621	" " 40 cm	厚縁	縦文(RL)	"	外面スス・内面厚 縁	
2622	5 Fm・ " 30 cm	"	縦文(RL)	ナダ	やや厚縁	
2623	5 Fp・ " 40 cm	台	胴部文様5単位・縦文(LR)・木敷痕	"	外面やや厚縁	
2624	6 Fa・ " 30 cm	鉢	7突起?・(ナダ)	"	「ニチュア」土器	

図 録 番 号	出土地点・副位	器種・部位	外 面 (文 様・地 文・原 体 など)	内 面 (調整など)	備 考	本 文 記 載
2625	5 F1・表上から50 ㎝	鉢	縄文 (LR)・朝代煎	ナデ	外面摩耗	
2626	1 Cy	鉢?	朝部文様4単位・引状縄文 (LRのみ?)・朝代煎	=	外面やや摩耗	
2627	2 Cj	鉢?	寛延単位不明 (3?)・朝部文様3単位?・縄文 (LR)・木炭痕	=	=	
2628	2 Cr	深鉢・口縁部	線状幾何・縄文 (RL)	ナデ	外面スス・摩耗	
2629	2 Cs	鉢	文様4単位・縄文 (LR)・朝代煎	ナデ?	摩耗	
2630	2 Df	壺	把手4単位・縄文 (LR)	ナデ	=	
2631	2 Dg	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナデ		
2632	=	=	縄文 (RL)・0度多葉	ナデ (丁寧)		
2633	=	深鉢・胴部	縄文 (RL)	ナデ	やや摩耗	
2634	2 Da	=	=	=		
2635	3 Da	=	庶余文 (R)			
2636	3 Db	壺	縄文 (RL)	ナデ?	摩耗ひどい	
2637	3 Dg-e-f	深鉢・胴部	縄文 (LR)	ナデ		
2638	=	=	=	=	外面やや摩耗	
2639	=	=	=	=	=	
2640	3 Dmn	深鉢	線の幾何 (上に斜目) 5単位・線帯貼付後に沈線など できる	ヒガキ		F 90
2641	=	壺	縄文 (LR)	ナデ		
2642	=	鉢	文様単位とらない・縄文 (LR)	=	外面摩耗	
2643	3 Dm・東北ヤク ション①	=	1単位・文様4単位・縄文 (LR)・木炭痕			
2644	3 Df・3 Dp・3 Dy	把手		=	開口に黒色付着物	
2645	4 Fx	深鉢・口縁部	羽状縄文 (RL, LR?)	ナデ	摩耗ひどい	
2646	=	底席	(ナデ)	=	=	
2647	=	鉢・口縁部	斜目帯 (上下に沈線)	=	やや摩耗	
2648	=	鉢・胴部	縄文 (LR)	ナデ (丁寧)		
2649	1 Eo・カタラン	深鉢・口縁部	沼部に縦長のヨ字状突起・オタン状貼付・縄文 (LR)	ナデ	外面スス	
2650	2 Eo・ "	注口	注口下に帯・(ナデ)	指手で	ミニチュア?	
2651	2 Eov・カタラン	深鉢・口縁部	くびれ部に縦状突起・縄文 (LR)	ナデ	摩耗ひどい	
2652	=・2	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナデ	外面スス・内面摩 耗	
2653	3 Ea・カタラン	台	(ナデ)	=	ミニチュア?	
2654	3 Eo・ "	鉢・口縁部	縄文 (LR)・(ヒガキ?)	ナデ		
2655	北区・2層上部	突起		(不明)	摩耗	
2656	南区	注口?・胴部	縦長の帯 (上に斜目) 3単位?・細かい斜目	指手で	全部欠形	
2657	不明	壺	縄文 (RL)・0度多葉	=	摩耗	
2658	=	浅鉢	口縁部点列・底部直上に沈線	=	外面摩耗	
2659	=	=	4単位・突起部に斜目1つ・縄文 (LR)・木炭痕	=		
2660	=	突起		(不明)	摩耗	
2661	=	深鉢・口縁部	縄文 (LR)	ナデ		
2662	文化課・試験所	=	縄文 (RL)	=		
2663	白古瀬・ "	=	オタン状貼付・線帯上に刺突・縄文 (LR)	=	把手部・内面む らび	
2664	不明	=	縄文 (LR)	=	外面スス	
2665	=	=	胴部に2本の縄 (LR) の断面汪飯・縄文 (LR)	=	=	

第12表 土器観察表(4)

—ミニチュア土器—

図版 番号	出土地点・層位	種類・部位	外 形 (文様・胎文・厚体など)	内 形 (裏面など)	備 考	本文 記載
2666	2 Dx・10 a 1 下層	鉢 (ミニチュア)	(観なナゲ)	ナゲ	＝	
2667	3 Df・カタケン	＝	3 放射・文様5 単位・縄文 (LR)	＝	やや厚紙	
2668	2 Dw・直線下 40 cm	＝	頸部に縄 (RL) の断続汪痕・縄文 (RL)	＝		
2669	4 Fg・21 層上から 50 cm	＝	(胎なで)	指なで		
2670	2 Dp・4 a d 層	鉢? (ミニチュア)	(ナゲ)	ナゲ		
2671	2 Dy・直線下 30 cm	＝	(手づくね)	指なで		
2672	2 Ep・10 cm	＝	(ナゲ)	ナゲ	やや厚紙	
2673	4 Fh・黄土から 30 cm	＝	[丁寧なナゲ]	＝		
2674	1 Fg・黄土から 40 cm	＝	(ナゲ)	＝	瓦地不明・やや厚紙	
2675	2 Ea・18 層	注口 (ミニチュア)	注口下層・縄文 (LR)	(不明)	外面厚紙	
2676	3 Ea・30 cm	＝	3 単位の層・縄文 (RL)・やや厚紙	＝	やや厚紙	
2677	6 Fe・5 d 層	片口? (ミニチュア)	(ナゲ)	ナゲ		
2678	4 Fi・黄土から 60 cm	蓋 (ミニチュア)	つまみ部に貫通孔・縄文 (LR)	ナゲ (丁寧)	やや厚紙	
2679	5 Fd・黄土から 30 cm	＝	(ナゲ)	ナゲ		
2680	5 Fe・21 層上から 30 cm	＝	つまみは後で貼付・[丁寧なナゲ]	＝		

2. 土製品 (第 209 図～第 237 図、第 13 表)

本遺跡から出土した土製品は、土器の可能性の有るもの(土器?) 11 点、土鍾 6 点、耳飾 20 点、腕輪形土製品 6 点、土偶 242 点(不明なもの 3 点を含む)、鐔形土製品 20 点、スタンプ形土製品 5 点、その他の製品(不明土製品のうち土器、土偶と思われるもの) 27 点、焼粘土塊 36 点、円盤状土製品 198 点、その他の再利用品 3 点である。以下、種類ごとに概要を述べ、表の補足をしていく。なお、以上の順序は、製品から再利用品へ、製品の中では実用品と思われるものから非実用品と思われるものの順(実用品→装飾品→祭祀用具?)になっている。また、表の見方等の注意事項は本章の冒頭に述べてあるので参照していただきたい。

土器? (1～11)

土器の一部あるいは土器と同じような用途に使われたと思われるもので、11 点出土した。5 は鐔形土製品の可能性もある。8 は内側の整形から考えると袋状の土器(壺や注口土器等)のようである。

土鍾 (12～17)

6 点出土した。12～14 は有溝土鍾で、15～17 は装飾品の可能性も高いが、15 は装飾品にしては雑な作りで中央に貫通孔の有るので、16、17 は形態が 15 と似ているので一緒にして、土鍾に分類した。13 の有溝土鍾の溝は磨耗している。

耳飾 (18～37)

20 点出土した。本遺跡出土の耳飾を形態から分類すると、臼形で貫通孔のないもの(臼形 a 類)、臼形で中央に貫通孔の有るもの(臼形 b 類)、環状のもの(環状形)に分けられ、臼形 a 類は 18～28 で 11 点、臼形 b 類は 29～34 で 6 点、環状形は 35～37 で 3 点ということになり、臼形 a 類が半数以上を占める(註 1)。また、25、27、28、29、32、33、34 には赤色付着物の痕跡が認められる。

腕輪形土製品 (38～43)

6 点出土した。41 は、それぞれ隣接するグリッドから出土した 3 つの破片が接合して完形に復元されたものである。なお、「腕輪形土製品」という名称は既存の報告書に倣ったままで、重量から考えると腕輪として使われたとは考えにくいので、この名称は不適当かもしれない。

土偶 (44～282)

239 点出土した。個々の遺物の補足をする前に、製作痕、形態(姿態)、付着物、出土状況についてまとめておく。

製作痕が認められた土偶は、56、57、81、137、157、229、233、234、242、251、253、254、265、268、269 である。これらから、頸と胴部の接合の仕方、胴部、脚部の作り方等が示唆される。

立像以外の姿態（ポーズ）をとる土偶は、127、138、148？、187？、223？、235？、244、275？、281？である。後期に、腕を組んで脚を曲げる、いわゆる屈折像姿態をとる土偶が存在することはよく知られており、本遺跡の土偶もそれに類似するものが多いが、127、138はそれとはやや異なっている。

付着物は赤色と黒色付着物（アスファルトの可能性が高い）の両方が認められる。黒色付着物は他の土製品には認められなかった。赤色付着物の痕跡が認められた土偶は56、57、63の3点で、56、57は晩期中葉の土偶と思われる、63は後期のものと思われる。黒色付着物が認められた土偶は41点あり、出土土偶の約15%を占める（註2）。付着箇所はいずれも割口で、黒色付着物が破損部位の接合に使われたことは明らかである。付着箇所が特定の部位に集中するという傾向は認められなかった。

本遺跡出土土偶に特異な出土状況は認められず、出土位置も一ヶ所に集中するという事はなかった。また、特定の箇所に破損が集中しているとも思われず、やはり壊れやすい箇所（特に頸）から壊れているように思われる。

以下、表の補足をしていく。

56は、腕部は中実であるが、破損面の輪痕から胴部は中空であったと考えられる。57も同様に一部中実であった可能性が高い。81と137は、胴部の割口から、二枚の粘土板を裏表に貼合わせて作っていることが分かる。157の頸の割口には差し込み式の頸が折れて残っている。191は、内面の製作痕から、乳房は胴部と別に作り、胸部の穴にはめこんで内側から接着していることが分かる。200の右脚の割口は比較的なめらかであり、粘土接合面からの剥離の可能性がある。223は重さが465gある。229は太い粘土芯に薄い粘土を包むように被せて作っているように思われる。233は、割口から、二枚の粘土板を裏表に貼合わせて脚部を作っていることが分かる。234も同様の製作が窺われるが、233と違って裏表でなく左右に貼合わせて作っている。238の脚部には隆帯状の帯縄文が認められ、関東地方の安行式土器の影響が窺われる。いわゆるみずく土偶であろうか。242は、割口から、81等と同様に粘土板を貼合わせて作っていると思われるが、土偶でない可能性もある。251も81等と同様に二枚の粘土板を裏表に貼合わせて作っている。253の腰部の三角形の区画は磨消縄文のネガ部分のように一段低くなっている。また、この土偶の胸部の欠損面には棒状の痕跡があるが、これは腕部と胴部を棒にさしてつないだ跡であろうか。254の頸の割口には157と同様の製作痕が認められる。265は内部が脱落しており、その欠損面から、この土偶は胴部、肩部、腕部がそれぞれ別々の三つの粘土塊で、それをくっつけて製作しているように思われる。ただし265は内部脱落ではなく中空の可能性もあり、もしそうだとすれば、以上の痕跡は粘土の輪痕ということになる。268は胴部の割口から251等と同様に二枚の粘土板を裏表に貼合わせて作ったことがわかる。269の頸の割口に

は254と同様の製作痕が認められる。

土偶？(283～285)

土偶とはやや異なるが、本遺跡出土の土製品(土器を含む)の中では土偶に最も近いもので、3点ある。284は、欠損面から、厚い粘土板が接合面から剥離したように思われる。223のような大形土偶の一部であろうか。

鐮形土製品(286～305)

20点出土した。ただし、302～305の4点は形態が他とやや異なり、鐮形土製品に含めないほうが良いかもしれない。特に302、303は土器に含めた方が良いかもしれない。頂部に貫通孔をもつものがほとんどで、20点中18点見られる。また、286、289、304、305の4点には内側にスス状の付着物が見られる(註3)。

スタンプ形土製品(306～310)

5点出土したが、形態もそれぞれ異なる。

その他の土製品(311～337)

再利用品でない土製品のうち類例をあまり見ず不明なものを一括した。27点ある。313は内面の貫通孔の部分が筒状に突出している。注口土器と同じような用途を果たしたものか。333は土器の一部等にも見えるが、特に顕著な剥離痕は認められない。323～325は、今から考えると台形状の大形突起(例えば第124図1453)の頂部の装飾のように思われる。

焼粘土塊(338～373)

36点出土した。352のみ図示し、348、349、353、357、360、373については写真のみ掲載した(写真図版90)。本遺跡出土の焼粘土塊は胎土に顕著な混和材はほとんど含まず、また指や木葉等の圧痕は認められなかった。大きく二つに大別されるようである。ひとつは、白く板状で(大きさの割に)軽く、胎土にほとんど何も含まないもので、341、346、347、365等が相当する。もうひとつは、橙色で凹凸が激しくて重く、胎土に砂粒等を含むもので、大部分がこれにあたる。後者には巨大な中実土偶の内部が脱落したものも含まれているのではないかとと思われる。

円盤状土製品(374～571)

土器の再利用品のうち形が円盤状で貫通孔を持たないもので、198点出土した。

379は単なる土器の破片で再利用品でない可能性もある。386は内面におこげがいっぱい付着している土器を再利用している。435の利用土器には羽状縄文が施されており、原体は0段多条の単節、RLとLRである。

その他の再利用品(572～574)

土器の再利用品のうち、円盤状で貫通孔を持たないもの以外を一括した。3点ある。572、573は全体の形は円形で中央に一つ貫通孔を持つ。574は全体の形は三角形で、中央に二つ小さな

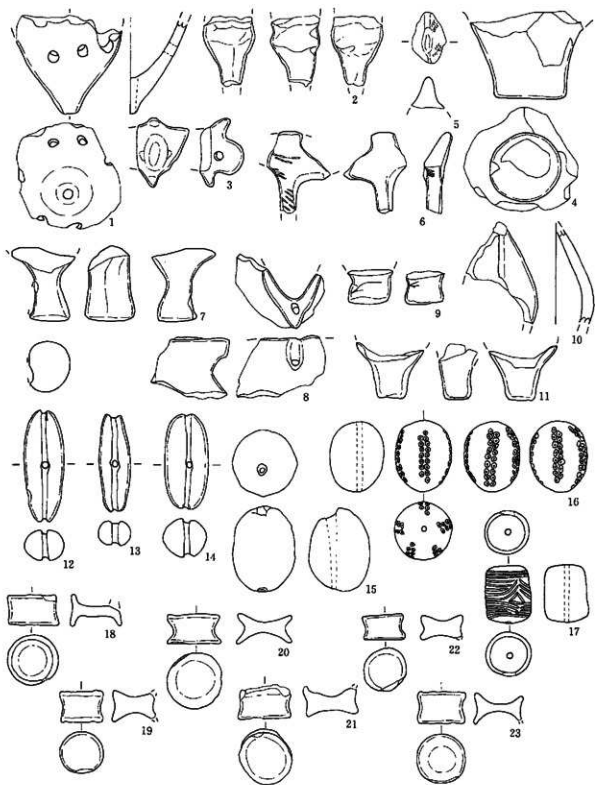
貫通孔を持つ。

註

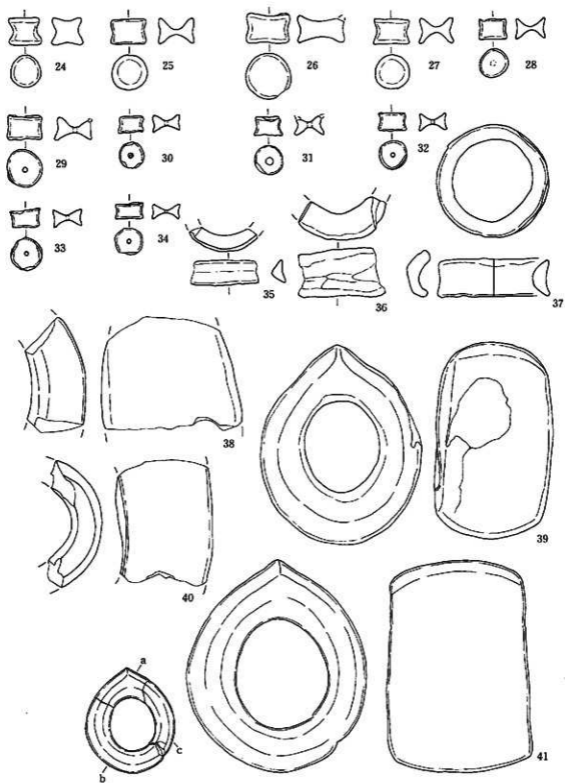
- 註1. 岩手県花泉町貝塚では、「滑車形耳飾り」(本報告書の圖形状に相当)は「全て後期末より晩期の層において発見」されたようで(金子ほか 1971)、宮城県気仙沼市田新貝塚でも同様の結果が得られている(藤沼ほか 1986)。
- 註2. この割合は、本遺跡と時期的に重なる部分の多い岩手県大迫町立石遺跡(212点の土偶が出土)のものと同様であり、興味深い(中村ほか 1979)。
- 註3. 青森県青森市近野遺跡では13点中7点(三浦ほか 1974)、岩手県立石遺跡では30点中10点(中村ほか 1979)、ススの付着が見られたようである。

参考文献

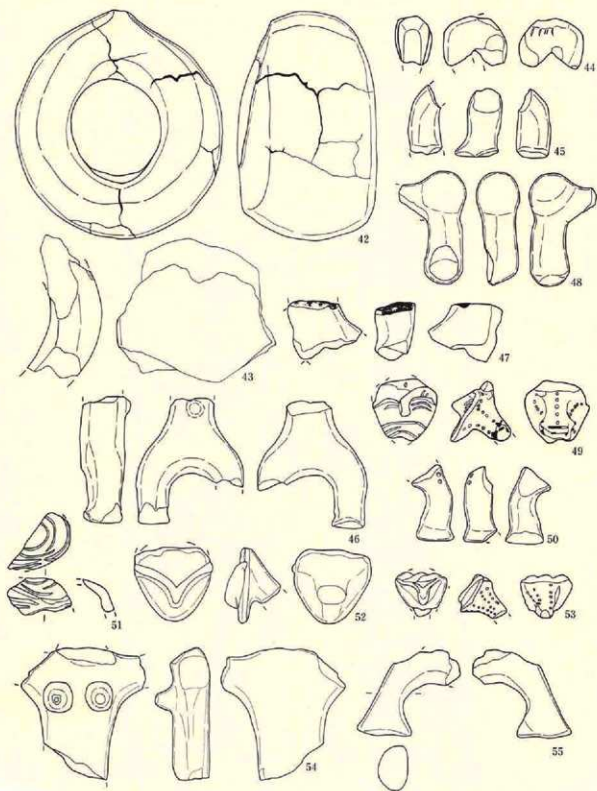
- 金子浩昌ほか 1971 「第5章第3節 土製品」『貝塚貝塚』花泉町教育委員会
- 田中耕作 1991 「村区遺跡出土の「ねかせ」状態の焼粘土塊について」『北越考古学』4
- 中村良幸ほか 1979 「第V章第2節 土製品」『立石遺跡』大迫町教育委員会
- 藤沼邦彦ほか 1986 「第3章第2節Ⅱ. 土製品」『田新貝塚』宮城県教育委員会
- 三浦圭介ほか 1974 「TV土偶・土製品」『近畿遺跡発掘調査報告書(1)』青森県教育委員会



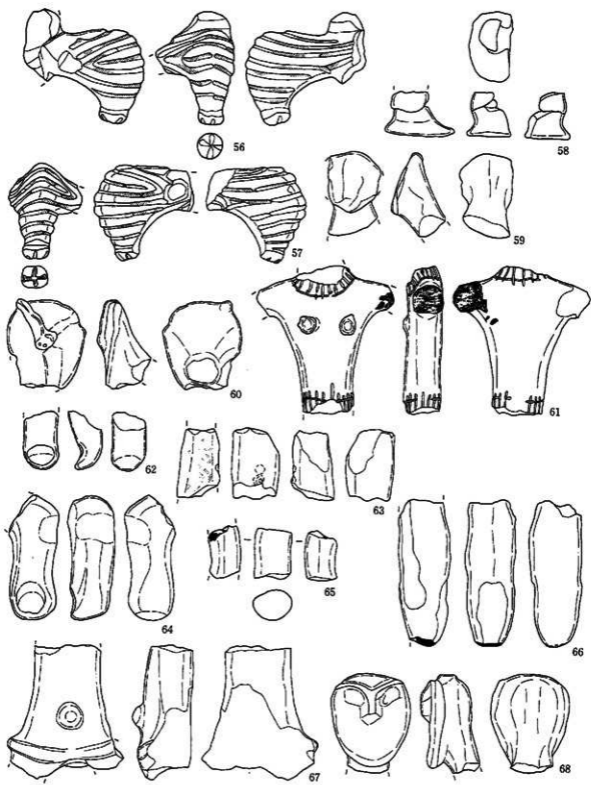
第209图 土製品(1) (S = 1/2)



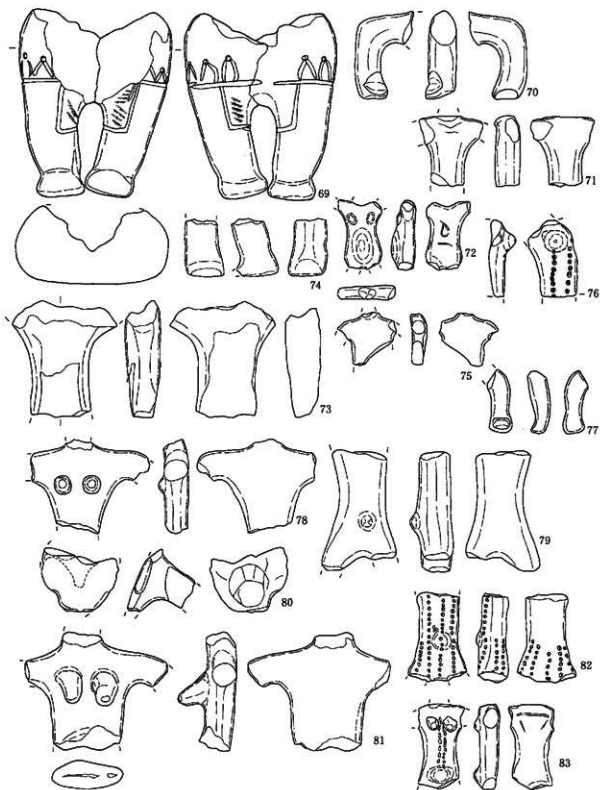
第210圖 土製品(2) (S = 1/2)



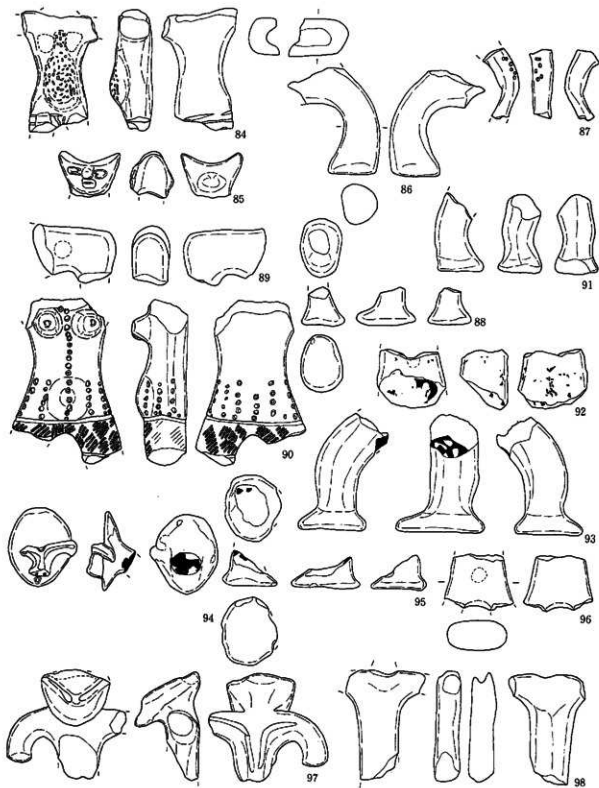
第211圖 土製品(3) (S=1/2)



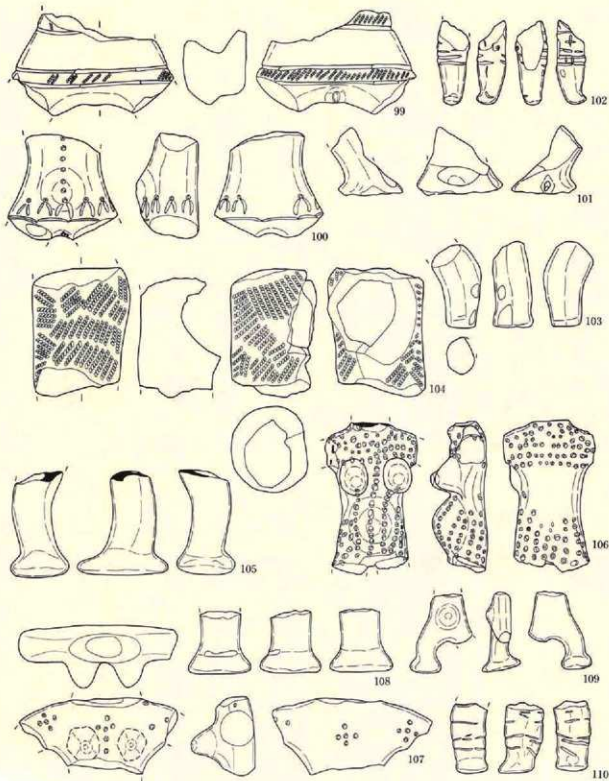
第212圖 土製品(4) (S = 1/2)



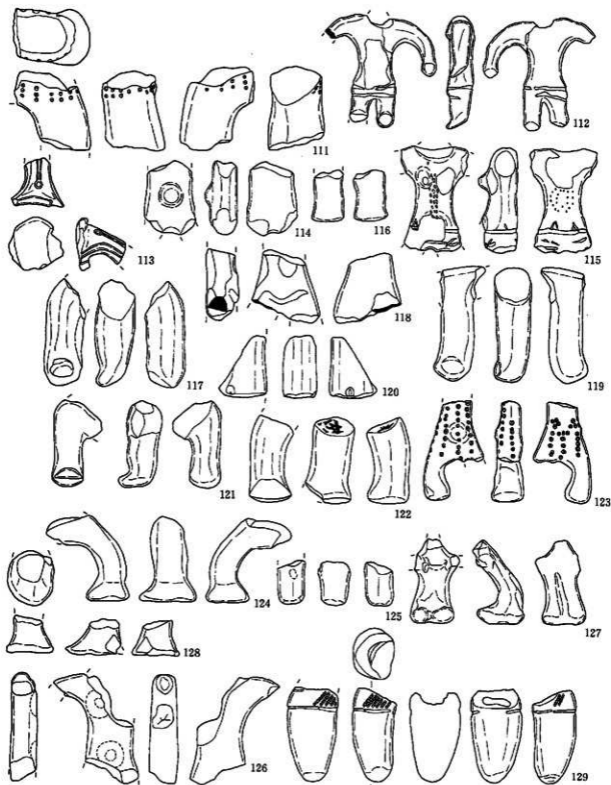
第213圖 土製品(5) (S = 1/2)



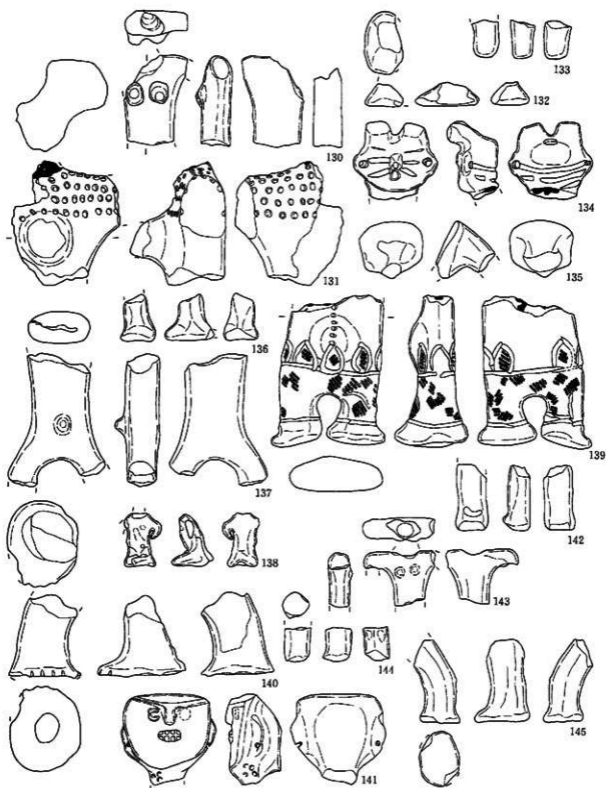
第214圖 土製品(6) (S=1/2)



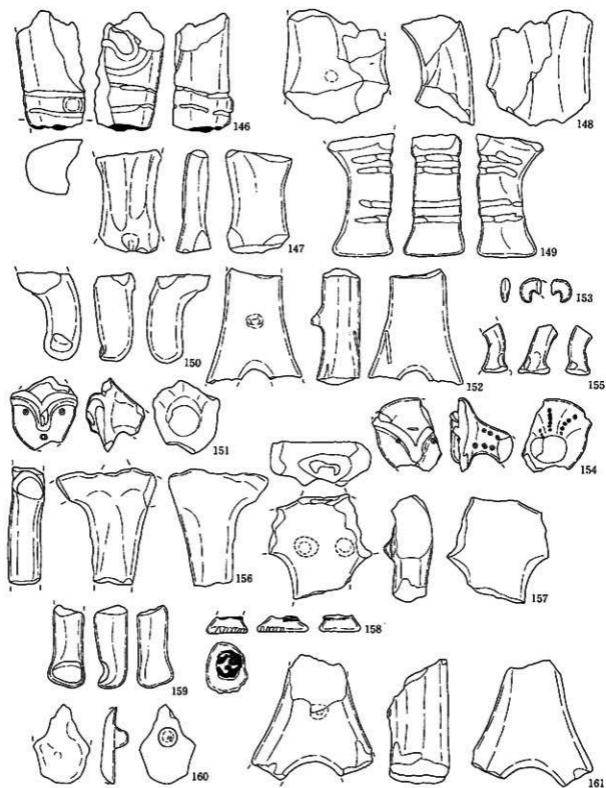
第215図 土製品(7) (S=1/2)



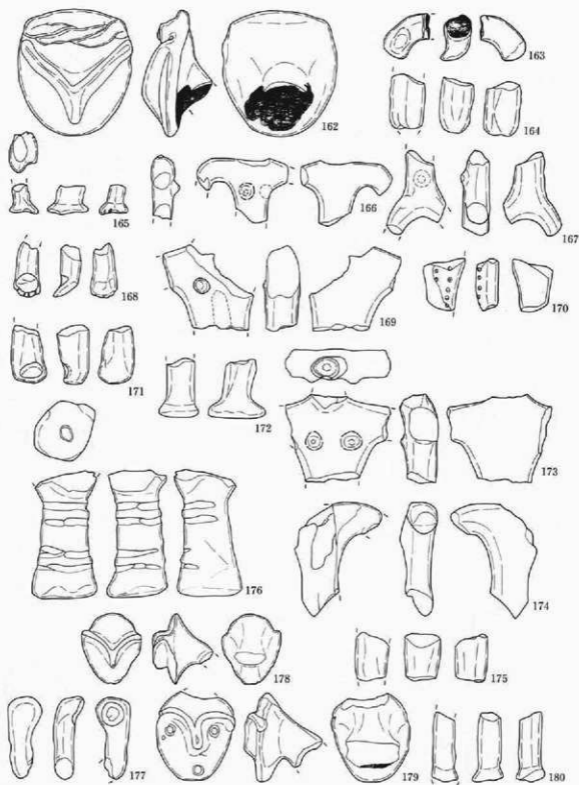
第216圖 土製品(8) (S=1/2)



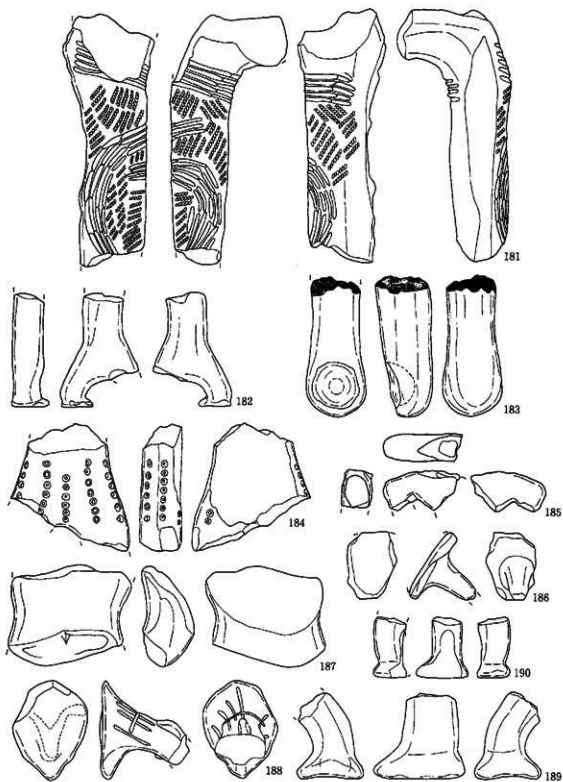
第217图 土製品(9) (S=1/2)



第218圖 土製品00 (S=1/2)



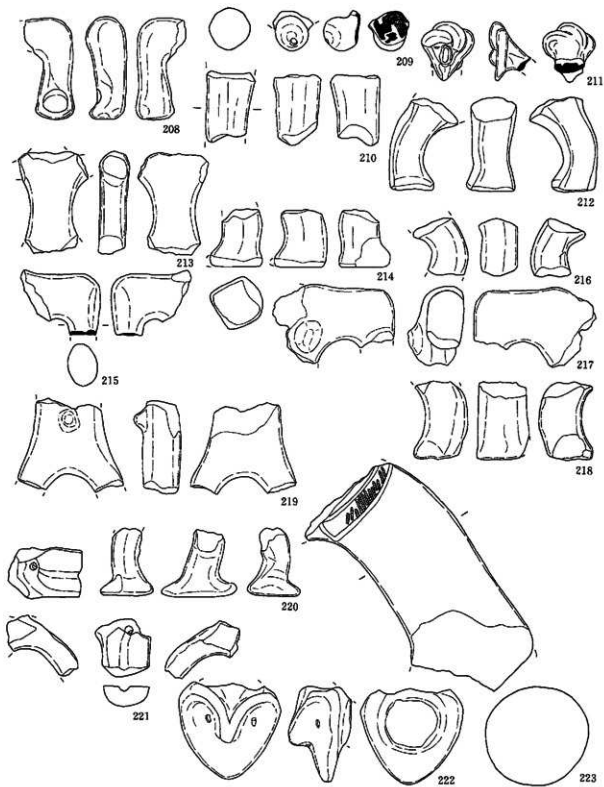
第219圖 土製品(1) (S=1/2)



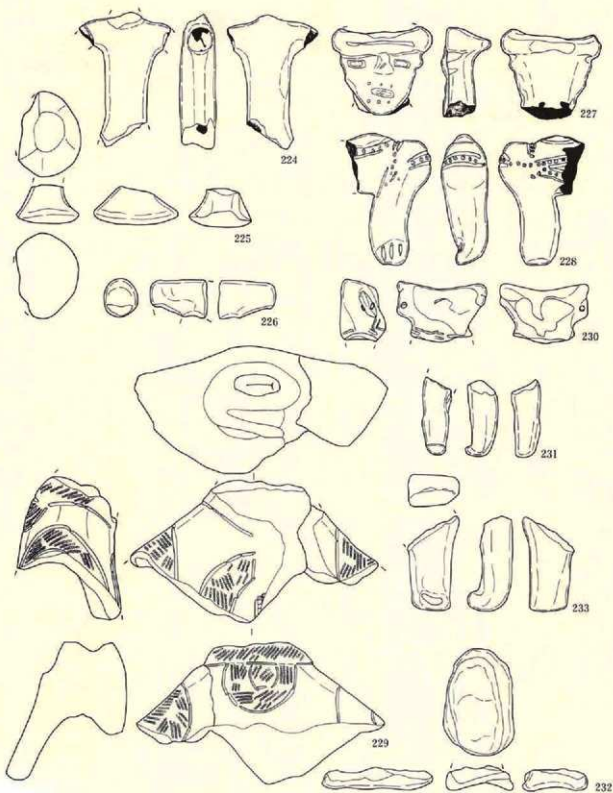
第220圖 土製品(2) (S = 1/2)



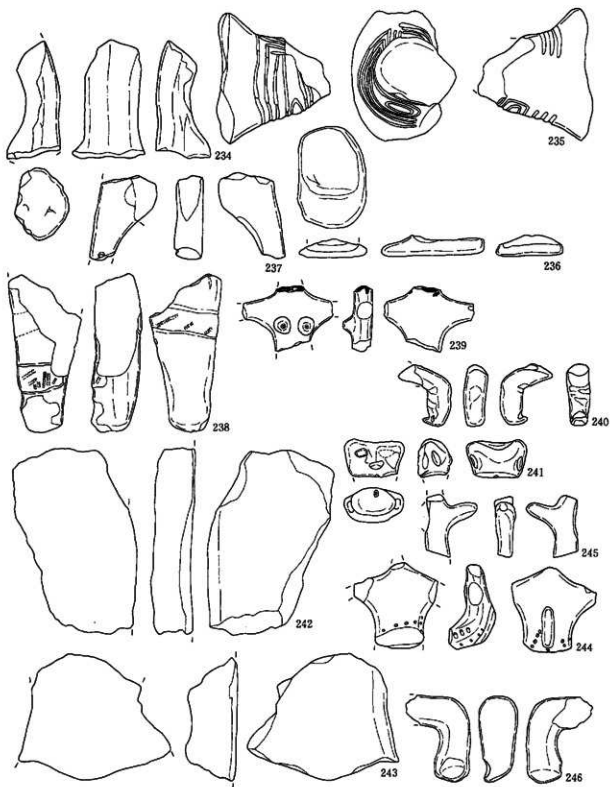
第221图 土製品(9) (S=1/2)



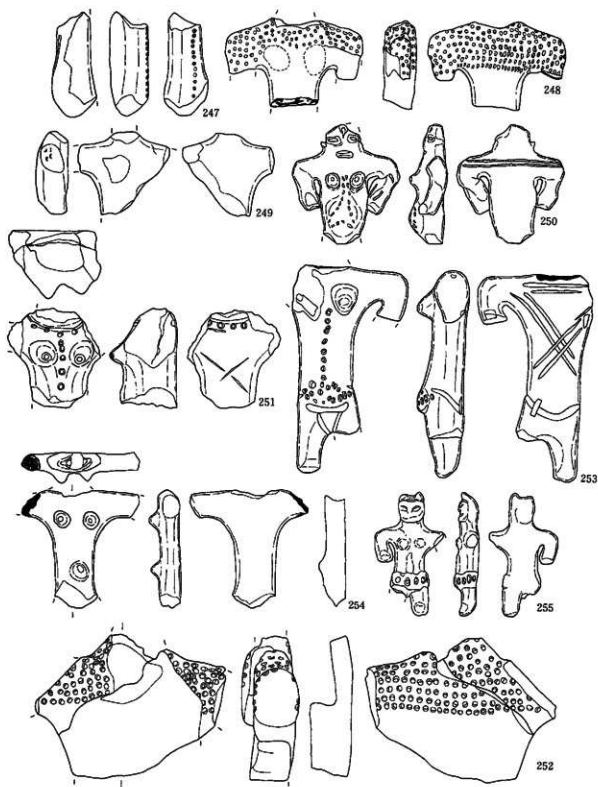
第222图 土製品04 (S=1/2)



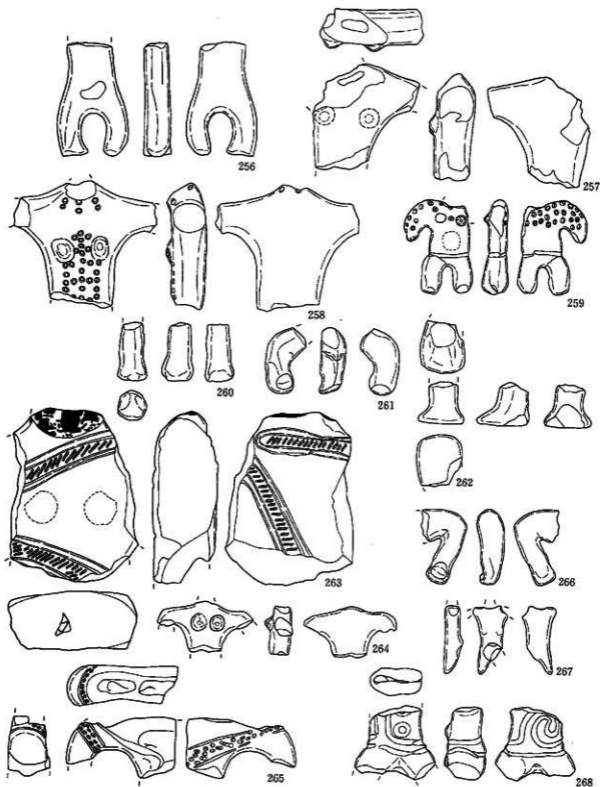
第223図 土製品19 (S = 1/2)



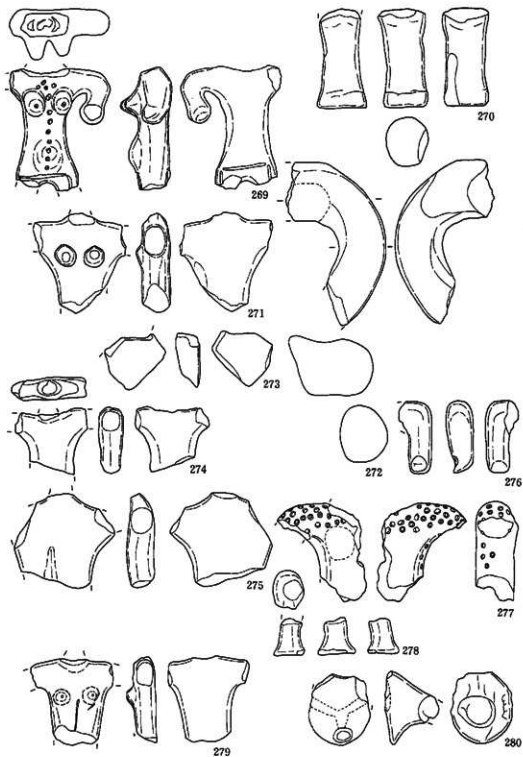
第224圖 土製品16 (S = 1/2)



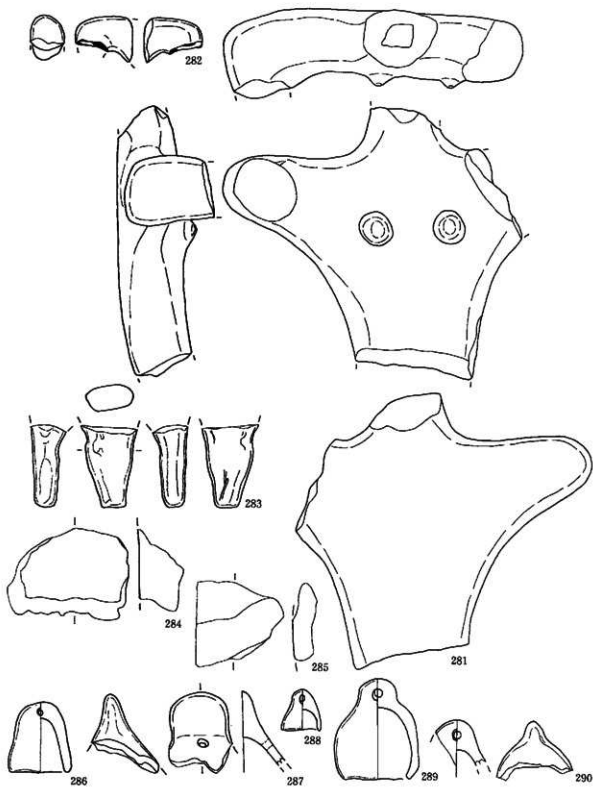
第225圖 土製品(7) (S = 1/2)



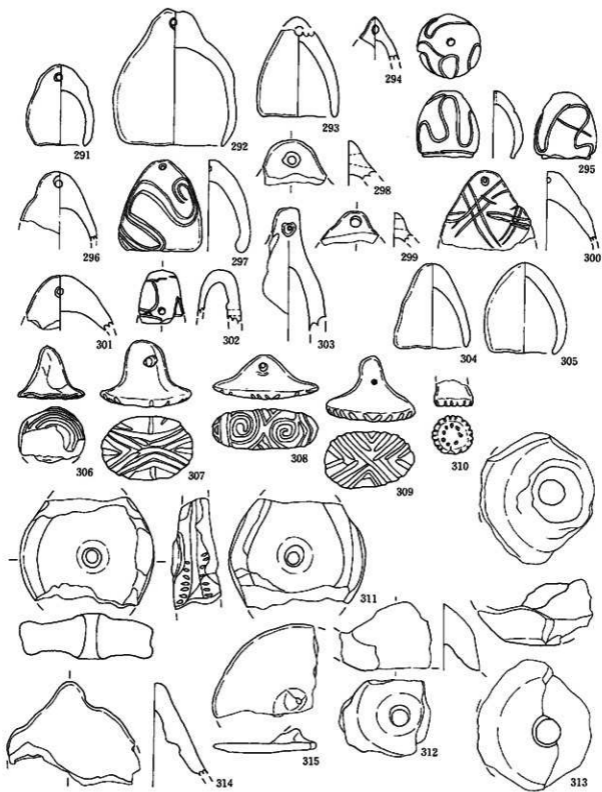
第226图 土製品(10) (S = 1/2)



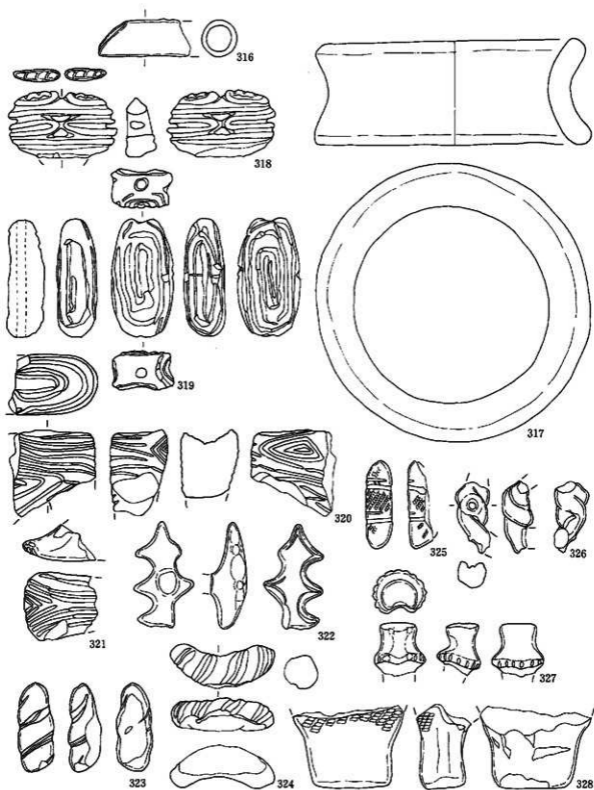
第227图 土製品09 (S=1/2)



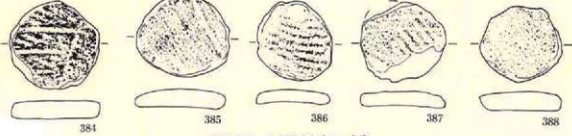
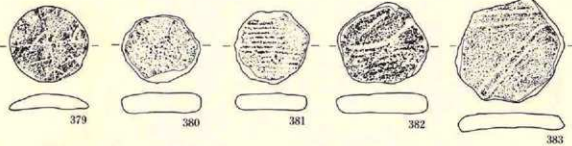
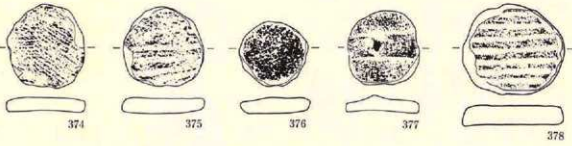
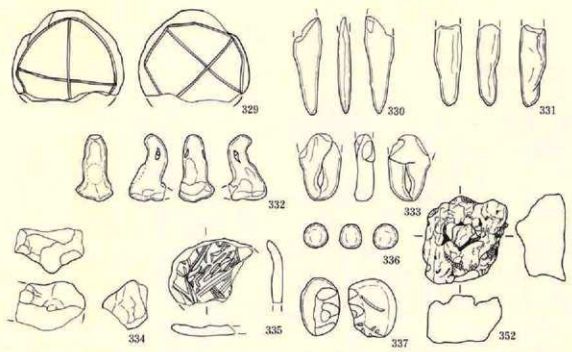
第228圖 土製品(20 (S=1/2))



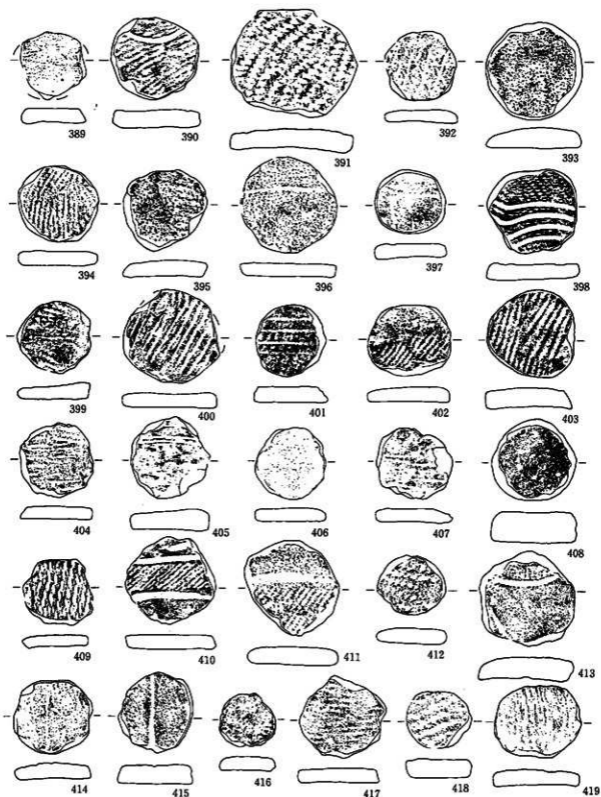
第229图 土製品(2) (S=1/2)



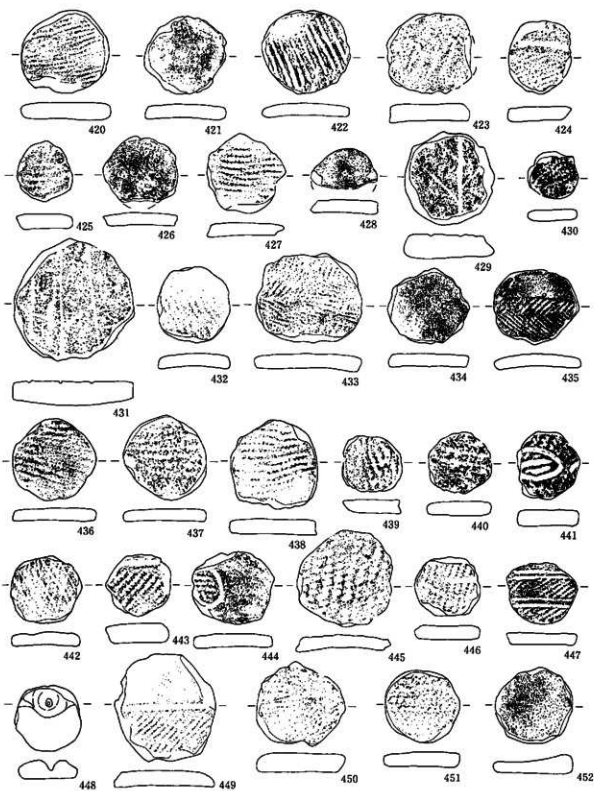
第230图 土製品(2) (S=1/2)



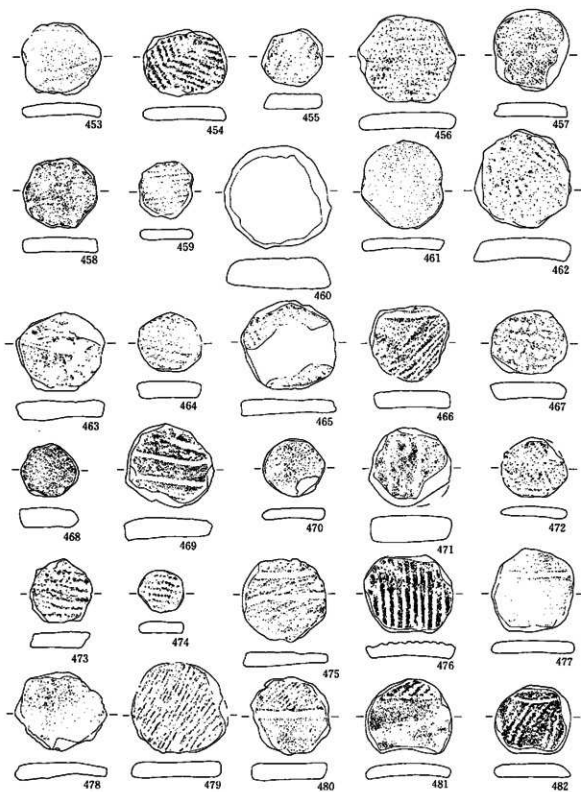
第231圖 土製品23 (S = 1/2)



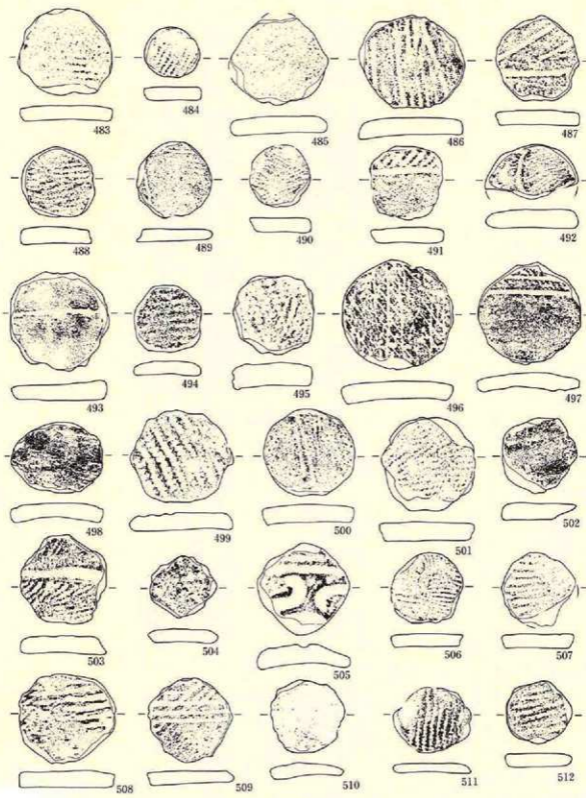
第232圖 土製品20 (S = 1/2)



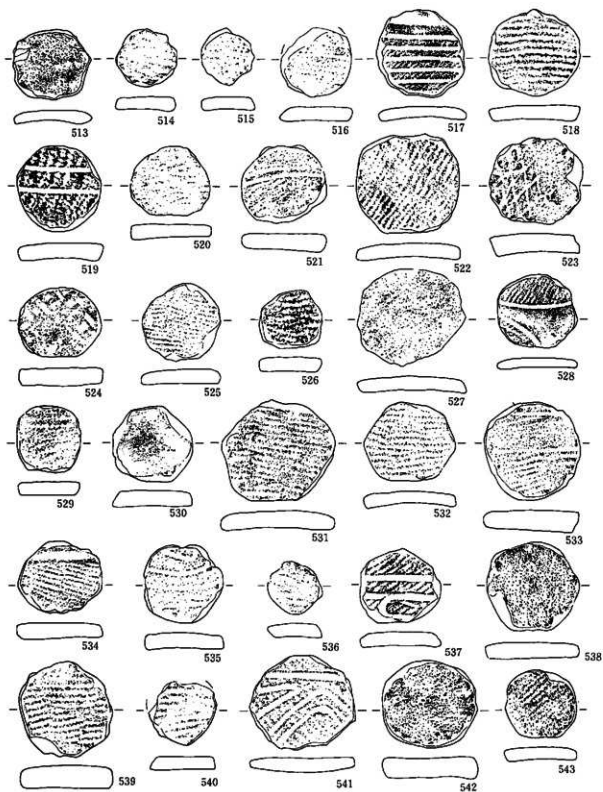
第233圖 土製品25 (S=1/2)



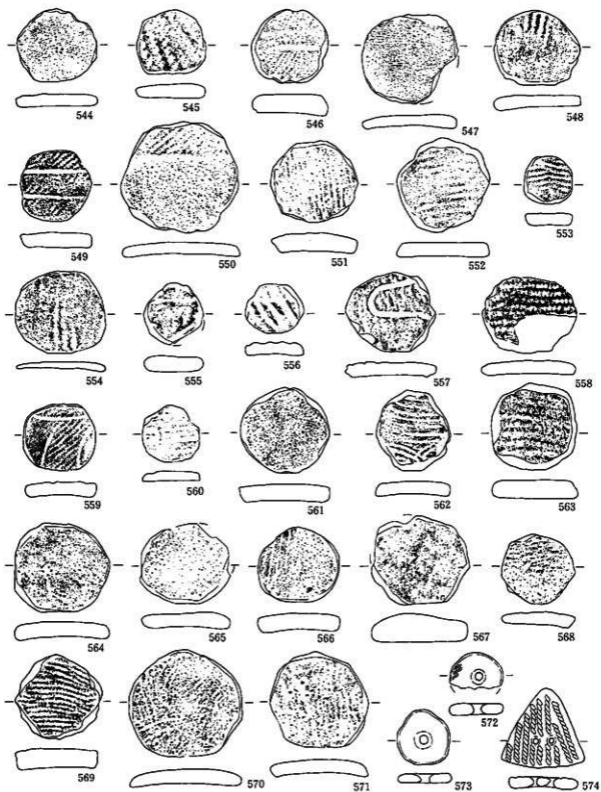
第234圖 土製品26 (S=1/2)



第235圖 土製品27 (S = 1/2)



第236圖 土製品(2) (S = 1/2)



第237圖 土製品(2) (S = 1/2)

第13表 土製品観察表

(1) 土器?

調査番号	出土地点・部位	器種・部位	外面 (文様・地文・形状など)	内面 (調整など)	備考	本文記載
1	3 Da・4 a 5 層下層	ろうと?・底層	貫通孔	ナア		
2	2 E a - カタラン	不明・脚?	(製法謎)			
3	2 E p - 30 層	不明・把手?	貫通孔	ナア		
4	2 E c - 横断面	不明・台?	(割深多い)		接合部から割断	
5	3 D j - 直線から 30 cm	蓋?・把手?	縦文		"	P 320
6	3 D m - 13 層上層	不明・完結?	縦赤文 (R?)	ナア		
7	3 E r - 13 層下層 (20 ~ 30 cm)	不明・脚?			接合部から割断	
8	3 E r - 13 層下層 (20 ~ 30 cm)	不明・口縁	貫通孔	ナア		P 320
9	4 F d - 焼土の器	不明・脚?			接合部から割断	
10	4 F w - 黄土より 80 cm	不明・口縁?		ナア	器具形土製品?	
11	5 F a - 黄土より 20 cm	不明・脚?				

(2) 土甕

調査番号	出土地点・部位	器種	最大寸法値 (cm)			重量 (g)	残存状態	備考	本文記載
			長さ	幅	厚さ				
12	2 C a - 4 層下層	有肩土甕	5.25	2.10	1.65	18.36	ほぼ完形	趾土品・貫通孔・整形丁字	
13	2 C a - 1 層から 30 cm	"	5.10	1.80	1.30	10.35	完形	貫通孔・整形丁字	P 320
14	3 D f - 4 層	"	5.00	2.35	2.00	24.49	"	貫通孔	
15	4 F j - 黄土より 60 cm	"	4.50	3.30	3.20	45.29	"	貫通孔・整形脚・装飾品?	P 320
16	2 E p	"	3.70	2.10	3.00	30.72	"	貫通孔・竹管文・装飾品?	"
17	4 F d - 14 層	"	3.00	2.35	2.30	21.25	"	貫通孔・洗線文様・装飾品?	"

(3) 耳飾

調査番号	出土地点・部位	器種	最大寸法値 (cm)			重量 (g)	付着物	残存状態	備考	本文記載
			外径	幅	厚さ					
18	2 C a - 焼土より 40 cm	臼形 a	2.70	1.60	2.45	8.31	なし	ほぼ完形		
19	2 C a - 6 b 層上部	"	2.35	1.60	1.95	7.94	"	完形	摩耗	
20	2 E k - 不明	"	2.95	1.60	2.18	9.48	"	"	"	
21	2 E j - 50 cm	"	2.8	1.80	2.55	12.27	"	一部欠損	"	
22	3 D d - 直線より 20 cm	"	2.20	1.35	1.85	6.13	"	ほぼ完形		
23	3 D j - 直線より 30 cm	"	2.50	1.60	2.15	7.36	"	"	摩耗	
24	3 D e - 直線より 20 cm	"	1.80	1.40	1.20	3.72	"	完形	"	
25	3 E k - 直線より 20 cm	"	1.90	1.30	1.65	3.94	赤色付着物?	"		
26	4 F d - 黄土より 70 ~ 80 cm	"	2.30	1.55	2.05	9.54	なし	ほぼ完形		
27	5 F i - 21 層上から 40 cm	"	1.85	1.30	1.55	3.76	赤色付着物?	完形		
28	5 F j - 黄土より 70 cm	"	1.45	1.05	1.30	1.95	赤色付着物	ほぼ完形		
29	2 C j - 20 cm	臼形 b	1.80	1.30	0.80	3.48	"	完形	貫通孔	
30	2 E a - 直線より 10 cm カタランなし	"	1.35	0.85	0.60	1.27	なし	ほぼ完形	"	
31	3 D m - 直線より 40 cm	"	1.50	1.00	0.40	1.58	"	一部欠損	"	
32	3 D n - 2 層上部	"	1.45	0.95	0.50	1.54	赤色付着物	"	"	
33	3 D r - 1 層	"	1.50	1.00	0.60	1.81	"	"	"	
34	3 E p - 直線より 30 cm	"	1.45	0.85	0.55	1.01	"	"	"	
35	2 E h	脚状	1.20	5.50	3.30	なし	1/4			
36	2 E r - 30 cm	"	2.50	0.75	15.08	"	"	整形脚		
37	3 F y - 黄土より 60 cm	"	5.80	2.00	0.70	27.80	"	完形	趾土品	

(4) 腕輪形土製品

図取番号	出土地点・層位	最大計測値 (cm)				重量(g)	保存状態	備考	本文記載
		内径		幅	厚さ				
		長さ	幅						
38	2 Dn・70 cm			7.35	2.60	116.20	破片		
39	2 Dp・4 a 5 層	5.00	4.10	5.90	3.05	420.00	ほぼ完整	一部割傷	
40	3 Dqf・4 層			4.50	1.65	79.55	1/2 割		
41 a	3 Dmn						破片	接合→完成	
41 b	3 Dns・4 c 1 層	6.30	4.60	7.40	3.00	555.00	1/2	a, c は厚紙, b は残り貝	
41 c	3 Di・重機下 50 cm						1/4	b にスス状付着物	
42	30 Dn・4 層	5.90	4.65	5.65	3.50	745.00	完整	一部割傷、厚紙	
43	3 Di・重機下 50 cm					2.55	163.35	破片	表面割傷

(5) 土偶

図取番号	出土地点・層位	部位・保存状態・割れ口	つくり	文様など (地文・装飾)	付着物	備考	本文記載
44	1 号住・焼土内	右肩・首のところ凹状	中実	瓜形文?	なし	縦なつくり	
45	18 号ビット・2 層	右肩・肩の上の割れ口凹状	中実	なし	なし		
46	18 号ビット・4 層	下半身	中実	なし	なし		
47	67 号ビット・3 層	頭部・顔部下の割れ口凸状 (欠片?)	中実	なし	上の割口に黒色付着物		
48	67 号ビット・6 層	広胸・首の割れ口凹状	中実	なし	なし	手の裏面	
49	3 Ew・産産ブツク	顔・首の割れ口凸状	中実	刺突・沈線	首の割口に黒色付着物		
50	1 Co・産産位穴内	右胸	中実	刺突	なし		
51	1 Ci・"	肩か部・一部厚紙	中空	沈線	なし	胎土良	
52	(1 B)・使割包含物	顔	中実	なし	なし		
53	1 Dr・産機から 20 cm	顔・首の割れ口凸状	中実	刺突	なし		
54	1 Ds・重機下から 40 cm	顔	中実	なし	なし		
55	2 Ca・1 層下部	右胸	中実	なし	なし		
56	2 Ce→2 Da・B 3 層	左肩	一部 中空	沈線	赤色付着物	胎土良	P 321
57	2 Ca・2 層	右肩	中実	なし	なし		P 321
58	2 Ch・4 a 5 層	右足?	中実	なし	なし		
59	2 Cj・40 cm	顔部・顔部割傷	中実	なし	首の割口に黒色付着物		
60	2 Cn・1 層	顔	中実	なし	なし		
61	2 Co・30 cm	顔・首の割れ口やや凹状	中実	沈線	右胸の割口に黒色付着物		
62	2 Cq・6 b 層上部	右手?	中実	なし	なし		
63	2 Cr・1 層から 20 cm	顔	中実	なし	赤色付着物?		
64	2 Cl・1 b 層最下部	左胸	中実	なし	なし		
65	2 Cr・2 層	左胸?	中実	なし	片方の割口に黒色付着物		
66	2 Dd・18 cm	顔か部?・刺突ひどい	中実	なし	なし		
67	2 Dg・重機より 20 cm	顔・上の割れ口に傷状痕	中実	なし	なし		
68	2 Dj・産機より 30 cm	顔	中実	なし	なし	目出裏面	
69	2 Dk・10 層下部	下半身・顔部・割れ口凹状	中実	刺突・バツツ状圧痕	なし		
70	2 Dk・産機より 20 cm	右胸・割れ口やや凹	中実	なし	なし	手の裏面	
71	2 Dk・産機より 30 cm	顔	中実	なし	なし	背下に突出部	
72	2 Di・23 層	顔・厚紙ひどい・首の割れ口 凹状	中実	なし	なし		
73	2 Di・6 層下部	顔・刺突・上の割れ口凹状	中実	なし	なし		
74	2 Di・4 a 5 層	左足?	中実	なし	なし		
75	2 Di・産機より 10 cm	顔	中実	なし	なし		
76	2 Di・産機より 10 cm	顔右半分	中実	刺突	なし		

図版 番号	出土地点・層位	部位・残存状態・割れ口	つくり	文様など (地文・装飾)	付着物	備考	本文 記載
77	2Dh・重機より10cm	左腕	中実	なし	なし		
78	2Dh・重機より20cm	胴	〃	〃	〃		
79	2Dh・重機より60cm	胴～腰	〃	〃	〃		
80	2Dh・上から地上部	頭	〃	〃	〃		
81	2Dh・重機より20cm	胴	〃	〃	〃		P.321
82	2Dh・10a3層上部	胴～腰	〃	刺突	〃		
83	2Dh・25a2層	胴～腰・首と腕の割れ口部	〃	刺突・沈陥	〃		
84	2Dh・27層	胴～腰・首部	〃	変わった刺突	〃		
85	2Dh・18層	頭・首の割れ口部	〃	なし	〃	顔面装飾土粉付	
86	2Dh・10層	左腕・割れ口部	〃	〃	〃		
87	2Dh・10層下部	左腕？・割れ口部	〃	刺突	〃		
88	2Dh・10層下部	右足？	〃	なし	〃		
89	2Dh・10層下部	左腕・胴部への割れ口や凹状	〃	〃	〃		
90	2Dh・2層	胴～腰・上の割れ口に粘土、右腕の割れ口に、左腕の割れ口部	〃	刺突・横文(L.R)	上の割れ口に黒色付着物？	變形丁字	
91	2Dh・重機より70cm	右腕	〃	なし	なし		
92	2Dp・4a2層	腹・上の割れ口部	〃	〃	割れ口などに黒色付着物		
93	2Dp・重機より20cm	右腕・割れ口部	〃	〃	割れ口に黒色付着物		
94	2Dq・4a1層上部	頭・割れ口部	〃	〃	〃		
95	2Dq・4a1層	右足？	〃	〃	割れ口に黒色付着物？		
96	2Dqr・4a5層	腹	〃	〃	なし		
97	2Dq・重機より30cm	上半身	〃	〃	〃		
98	2Dr・重機より40cm	胴・首の割れ口部	〃	〃	〃	背面中央に線痕	
99	2Dr・80cm	腹・上の割れ口部	〃	横線文(H.L)	〃	女性表現	
100	2Dr・重機より50cm	腹・腰の割れ口部	〃	横線文・刺突	〃		
101	2Dr・60cm	左足？	〃	なし	〃		
102	2Dh・10a1層	右腕	〃	沈陥	〃		
103	2Dh・10a1層中間部	右腕？・胴への割れ口部	〃	横文(L.R)	〃		
104	2Dh・10a2層	左腕	〃	なし	〃		
105	2Dh・10a3層	右腕	〃	〃	割れ口に黒色付着物		
106	2Dh・重機より30cm	胴・右腕部	〃	刺突	首と右腕の割れ口に黒色付着物		
107	2Dh・重機より20cm	胴部上半・首の割れ口部	〃	〃	なし		
108	2Dh・重機より50cm	足(左右不明)	〃	なし	〃		
109	2Dh・60cm	下半身	〃	〃	〃		
110	2Dh・18層	右腕	〃	加沈陥	〃		
111	2Dh・2層	左腕・上の割れ口縁部からの刺突	〃	刺突	〃		
112	2Dh・重機より20cm	首から下・首の割れ口縁部からの刺突(凹状)	〃	沈陥	右腕の割れ口に黒色付着物		
113	2Dh・重機より50cm	頭？・顔面装飾なし	〃	〃	なし	顔？	
114	2Dh・重機より50cm	腹	〃	なし	〃		
115	2Dh・60cm	胴	〃	変わった刺突	〃		
116	2Dh・70cm	足(左右不明)	〃	なし	〃		
117	2Dv・4a5層	右腕？	中実	なし	なし	手羽表現	
118	2Dw・10a1層下部	腹・刺突多し	〃	〃	右腕の割れ口に黒色付着物		
119	2Dw・10a2中間部	右腕・首の割れ口部	〃	〃	なし		
120	2Dwx・4a1層	腹左半分	〃	〃	〃		
121	2Dw・重機より30cm	右腕	〃	〃	〃		

図 表 番 号	出土地点・層位	形状・保存状態・割れ口	つくり	文様など (施文・装飾)	付 着 物	備 考	本 文 記 載
122	2 Dv・市橋より 30 cm	右胴	中実	なし	上の割口に黒色付着物		
123	2 Dv・市橋より 40 cm	下半身	"	刺突	なし		
124	2 Dv・10 a 1 層下部	左胴	"	なし	"		
125	2 Dv・10 a 1 層	左胴?・上の割口や中胴状	"	"	"	ひび割れ痕	
126	2 Dv・10 a 2 層下部	胴・首の割口凸状、中央に 芝形痕?	"	"	"		
127	2 Dv・市橋より 20 cm	胴一帯・厚底	"	"	"	顔折像痕跡	
128	2 Dv・市橋より 20 cm	右足	"	"	"		
129	2 Dv・市橋より 30 cm	胴の胴・割口凸状	"	施文 (LR)	"		
130	2 Dy・2 層	胴・首の割口凸状	"	なし	"		
131	2 D・60 cm	左胴・胴の割口凸状	"	刺突	首の割口に黒色付着物		
132	2 Ee・50 cm	右足	"	なし	なし		
133	2 Ekp・20 a 層	左足?	"	"	"		
134	2 Ek・27 層	胴・首の割口凸状	"	沈線	割口に黒色付着物	両耳に貫通孔	
135	2 Ek・27 層	胴・顔面胴部・首の割口凸 状	"	なし	なし		
136	2 Ekm・27 層	左足	"	"	"		
137	2 Ek・31 層	下半身・胴の割口に製作痕	"	"	"		P 321
138	2 Ee・50 cm	首から下	"	"	"	顔折像痕跡	
139	2 Ee・16 層 (下 20 ~ 30 cm)	下半身	"	施文・施文 (RL)	割口に黒色付着物		
140	3 Ea・11 a 2 層	右足、足の裏の割口中央凸状 (趾形痕?)	"	刺目 (足の指?)	なし		
141	2 Ev・18 Q 層	胴	"	竹管	"	耳に貫通孔	
142	2 Ew・2 層 (18 Q アップ?)	右足?	"	なし	"		
143	2 Ew・20 cm	胴・首の割口凸状	"	"	"		
144	2 Ew・50 cm	左足?	"	"	"		
145	2 Ew・市橋下より 60 cm	左胴	"	"	"		
146	2 E・80 cm	胴?・胴中央に志神痕?	"	沈線	下の割口に黒色付着物		
147	3 C・8 層	胴 (長さ不明)	"	なし	なし		
148	3 Da・4 層下部	胴?	"	"	"	顔折像痕跡?	
149	3 Db・市橋下 40 cm	左胴・顔面からの割痕	"	沈線	"	178 と同一個体?	
150	3 Db・市橋下 40 cm	左胴	"	なし	"		
151	3 Db	胴	"	竹管	"		
152	3 Dc・市橋から 10 cm	胴一帯	"	なし	"		
153	3 Dc・40 cm	右胴	"	"	"	非常に小さい	
154	3 Dd・11 層上部	胴・首の割口凸状	"	刺突	"		
155	3 Dd・市橋から 30 cm	左胴	"	なし	"		
156	3 Dd・市橋下 30 cm	胴	"	"	"		
157	3 Dd・	胴・首の割口に製作痕	"	"	"		P 321
158	3 Dv・10 層下部	右足	"	刺目 (足の指)	割口に黒色付着物		
159	3 Dv・市橋から 20 cm	左胴?	"	なし	なし		
160	3 Ddi・11 層上部	胴?・首は顔面からの割 痕	"	"	"		
161	3 Ddi・15 層上部 10 cm	胴	"	"	"		
162	3 Ddi・13 層	胴	"	"	割口に黒色付着物		
163	3 Ddi・2 層	右足?	"	"	"		
164	3 Ddi・2 層	胴?	中実	なし	なし		
165	3 Dii・市橋下 30 cm	足 (左右不明)	"	刺目 (足の指?)	"		
166	3 Dii・市橋下 40 cm	胴	"	なし	"		

図 番 号	出土地点・層位	部位・保存状態・割れ口	つくり	文様など (地文・装飾)	付 着 物	備 考	本 文 記 載
157	3 Dh・重層下 40 cm	横へ横	中空	なし	なし		
158	3 Dh・重層下 40 cm	右手	”	斜目(字の指)	”		
159	3 Dh・12 a 部	胴・首の割口部状	”	なし	”		
170	3 Dj・10 層下部	左腕?	”	斜突	”		
171	3 Dj・重層から 30 cm	右手?	”	なし	”		
172	3 Dh・4 層	左足?・横り眼い(ゴロゴロ)	”	”	”		
173	3 Dm・4 b 1 層	胴・首の割口部状(層合面からの割傷)	”	”	”		
174	3 Dm・重層から 20 cm	胴(左)・胴高	”	”	”		
175	3 Dm・10 層	胴?	”	”	”		
176	3 Dm・重層から 20 cm	左腕?・層合面からの割傷	”	沈線	”	14号と同一形状?	
177	3 Dm・重層から 30 cm	右腕	”	なし	”		
178	3 Dm・12 a 2 層	胴・首層合面からの割傷(凸状)	”	”	”		
179	3 Dm・重層から 18 cm	胴・首の割口部状	”	”	割口黒色付着物		
180	3 Dm・重層から 28 cm	右腕?	”	”	なし		
181	3 Dm・重層から 28 cm	右腕?	”	沈線・縄文(LR)	”		
182	3 Dm・重層から 20~28 cm	下半身・胴の割口中部に芯押痕	”	なし	”		
183	3 Dm・重層から 48 cm	手?	”	”	割口黒色付着物		
184	3 Dm・重層から 78 cm	胴	”	斜突(竹管)	なし		
185	3 Dm・重層から 78 cm	右腕・首の割口部状(層合面からの割傷)	”	なし	”		
186	3 Dm・重層から 20 cm	胴・胴部胴高・首凸状	”	”	”		
187	3 Dm・重層から 28 cm	胴?	”	”	”	層析後追加?	
188	3 Dm	胴・首の割口部状	”	沈線	”		
189	3 Dm・重層から 30 cm	左足	”	なし	”		
190	3 Ea・10 層上部	右足	”	”	”		
191	3 Ea・重層下 20 cm	右腕?・基部に製作痕	中空	”	”	胎土良	P 321
192	3 Ea・重層下 30 cm	右手	中空	なし	”		
193	3 Ea・50 cm	胴・胴部胴高	”	”	”		
194	3 Ea・8 b 層	右腕?	”	”	”		
195	3 Eb・重層下 18 cm	右手	”	”	”		
196	3 Eb・重層から 70 cm	胴・首の割口部状	”	”	”		
197	3 Eb・重層から 70 cm	左手	”	”	”		
198	3 Ef・10 層	胴・首の割口部状	”	”	右腕の割口に黒色付着物		
199	3 Ef・8 b 層(こげ茶の地)	左足	”	”	なし		
200	3 Eg・10 層下部	下半身・へそ割傷	”	斜突	”		P 321
201	3 Eg・10 層下部	胴・胴部胴高	”	斜突(竹管)	首の割口黒色付着物		
202	3 Eg・80 cm	胴?	”	沈線	なし		
203	3 Ek・10 層	胴・胴部胴高	”	斜突	”		
204	3 Ek・10 層上部	左腕	”	なし	”		
205	3 Ek・10 層中部部	胴・胴部胴高	”	”	”		
206	3 Ek・重層から 10 cm	胴・首の割口部状(層合面からの割傷)	”	斜突	左腕の割口に黒色付着物		
207	3 Ek・” 20 cm	胴?	”	なし	なし		
208	3 Ek・”	左腕	”	”	”		
209	3 Ek・”	乳房?	”	(斜突)	割口に黒色付着物		
210	3 Ek・”	胴?	”	なし	なし		
211	3 Ek・” 20 cm	胴	”	”	割口に黒色付着物		

図版 番号	出土地点・単位	部位・残存状態・割れ口	つくり	文様など (地文・装飾)	付着物	備考	本文 記載
212	3 E _g ・重機から 20 cm	右腕	中央	なし	なし		
213	〃・重機から 30 cm	胴・首の割れ口状	〃	〃	〃	乳房なし	
214	3 E _g ・重機から 20 cm	左足	〃	〃	〃		
215	3 E _v ・4 F1 層	右肩	〃	〃	胴の割口に黒色付着物		
216	〃・重機から 20 cm	左腕?	〃	〃	なし		
217	〃・重機から 30 cm	左肩	〃	〃	〃		
218	3 E _w ・4 F1 層	左足	〃	〃	〃		
219	〃・〃	胴・上の割れ口割め	〃	〃	〃		
220	〃・重機から 40 cm	右足	〃	〃	〃		
221	4 E _c ・重機から 10 cm	左腕?	〃	〃	〃		
222	道路側ベルト・18 a 層	胴	〃	〃	〃		
223	〃・2 層	胴	〃	縄文 (LR)	〃	乳房像あり?	P 321
224	道路側・黄土	胴	〃	なし	両腕、胴の割口に黒色付着物	乳房なし	
225	1 C の北・トレンチ内 1 m	右足	〃	〃	なし		
226	3 F _x ・表土から 90 cm	右肩・胴の割れ口表面	〃	〃	〃		
227	3 F _y ・表土から 80 cm	胴・腕、接合面からの割断	〃	〃	首の割口に黒色付着物		
228	4 F _d ・15 層	左腕	〃	洗擦・刺突	割口に黒色付着物		
229	〃・表土から 50 cm	胴?・下の割れ口	〃	洗擦・縄文 (LR)	なし		P 321
230	〃・地下層 表土から 70 ~ 80 cm	胴・顔面刺突	〃	短洗擦	〃	耳に貫通孔	
231	〃・表土から 90 cm	右腕?	〃	なし	〃		
232	〃・2 層	足?・接合面からの割断	〃	〃	〃		
233	4 F _e ・表土から 50 cm	左腕	〃	〃	〃		P 321
234	4 F _h ・4 b 層+3 b 層	左腕	〃	〃	〃		
235	〃・表土から 80 cm 3 b 上面から 60 cm	左腕?・胴への割れ口、接合面からの割断	〃	洗擦	〃	乳房像あり?	
236	〃・表土から 90 cm	左足、接合面からの割断	〃	なし	〃		
237	4 F _i ・18 層	右腕・上の割れ口	〃	刺突	〃		
238	〃・表土から 50 cm	右腕	〃	帯縄文	〃		P 321
239	〃・表土から 80 cm	胴・左腕、胴の割れ口は新しい	〃	なし	首の割口に黒色付着物		
240	4 F _j ・表土から 50 cm	左腕、接合面からの割断?	〃	〃	なし		
241	4 F _m ・表土から 50 cm	胴・首、接合面からの割断	〃	なし	〃	首の裏に刺突	
242	4 F _n ・表土から 80 cm	背面の左脇腹?	〃	〃	〃		P 321
243	〃・〃	背面の右脇腹?	〃	〃	〃		
244	4 F _v ・3 b 層 40 cm	胴	〃	刺突	〃	乳房像あり	
245	4 F _v ・表土から 50 cm	胴	〃	なし	〃		
246	〃・表土から 60 cm	左腕	〃	〃	〃		
247	4 F _v ・表土から 80 cm	右腕・胸中央に凸棒痕	〃	刺突	〃		
248	4 F _w ・21 層 上から 50 cm 割れ口状	胴・乳房割落・首の割れ口	〃	〃	右腕、胴の割口に黒色付着物		
249	〃・表土から 80 cm	胴・乳房割落	〃	なし	右腕の割口に黒色付着物		
250	4 F _x ・21 層 上から 30 cm	胴へ胴	〃	刺突・洗擦	なし		
251	〃・表土から 60 cm	胴	〃	刺突	〃		P 321
252	〃・表土から 60 cm 内 70 cm 位	胴・首の割れ口状	〃	〃	〃		
253	4 F _y ・3 層 上から 10 cm	首から下・胸肩割口に棒状痕	〃	刺突・パンツ状区画成跡	首の割口に黒色付着物		P 321
254	〃・表土から 80 cm	胴・首に製作痕	〃	なし	右腕の割口に黒色付着物		
255	4 F _v ・表土から 60 cm (4 b 上から 40 cm)	左腕、右足欠損・割れ口状	〃	(刺突)	なし		
256	〃・表土から 80 cm	下半身・へそ割痕	〃	なし	〃		

図 庫 番 号	出土地点・層位	部位・保存状態・割れ口	つくり	文様など (地文・装飾)	付 着 物	備 考	本 文 記 載
257	5Fc・21層上から18cm	胴・首の割口形状	中実	なし	なし		
258	"・21層上から28cm	胴	"	刺突	"		
259	"・表土から50cm	首から下・厚紙着しい	"	"	"		
260	5Fc・表土から70cm	右足?	"	なし	"		
261	"・"	右腕	"	"	"		
262	5Fd・"	右足	"	"	"		
263	"・表土から80cm	胴	"	帯模文(LR)	首の割口に黒色付着物		
264	"・表土から100cm	胴	"	なし	なし		
265	5Fe・表土から68cm	右腕・内部結帯	"	比喩間に刺突	"		P321
266	"・表土から78cm	左腕	"	なし	"		
267	5Fc~e・3層から10cm	首から下	"	"	"		
268	5Fh・21層上から30cm	胴~首	"	沈線	"	尻の穴?	P321
269	"・21層上から30cm	胴・首の割口に製作痕	"	刺突	"		"
270	"・表土から38cm	右腕?	"	なし	"		
271	5Pi・21層上から30cm	胴	"	"	"		
272	5Pi・21層~56cm	左腕・上の割口形状	"	"	"		
273	"・表土から70cm	右肩(背)	"	"	"		
274	5Fh・21層上から30cm	胴・首の割口に製作痕	"	"	"	乳房なし?	
275	"・表土から38cm	胴	"	"	"	顔折像痕?	P321
276	5Po・21層~10cm	左腕	"	"	"		
277	"・21層上~30cm	右腕・首の割口形状	"	刺突	"		
278	5Pa・表土から30cm	右足?	"	なし	"		
279	5Pi・表土から66cm (3層との境目)	胴・首の割口形状	"	"	"	正中線	
280	5Pa・表土から38cm	胴・首~鼻刺帯・首の割口形状	"	"	"		
281	5Py?・1地層下	胴・厚紙ひどい・首の割口に製作痕	"	"	"	胴を焼む?	
282	6Pe・3d層	右腕	"	"	胴の割口に黒色付着物		

(6) 土偶?

図 庫 番 号	出土地点・層位	部位・保存状態・割れ口	つくり	文様など (地文・装飾)	付 着 物	備 考	本 文 記 載
283	3Eγ・表土から80cm	胴?・顔台からの割線	中実	なし	なし	土器の物?	
284	4Pi・"	胴部(背中)破片?	"	"	"		P321
285	"・"	不明	"	"	"		

(7) 鐮形土製品

図 表 番号	出土地点・部位	最大計測値 (cm)			重量 (g)	保存形態	備考	本文 記載
		高さ	幅	厚さ				
286	2 Dm・78 cm	3.88	3.40	0.90	18.97	完形	貫通孔・摩耗・内面にスス?	
287	2 Dr・6 趾中部			2.45	20.77	破片	貫通孔	
288	2 Dn・10 a 3 趾	2.10	2.10	1.00	4.03	完形	貫通孔・鐮形丁寧	
289	2 Dn・16 趾	5.40	4.40	1.58	36.01	〃	貫通孔・鐮形端・内面にスス?	
290	2 Kx・2 趾			1.58	12.44	破片	貫通孔	
291	3 Dc・9 趾	4.15	3.55	1.35	24.73	完形	貫通孔 (内側からのせん孔?)	
292	3 Dc・9 趾	7.10	6.35	1.58	87.56	〃	貫通孔	
293	3 Dc・			4.36	51.07	一部欠損	貫通孔	
294	3 Dn・5 a 1 趾			1.30	3.30	破片	貫通孔	
295	3 Dn・重傷より 20 cm	3.80	3.25	0.78	15.68	完形	貫通孔・文様あり	
296	3 Dn・4 趾			1.98	19.92	1/2	貫通孔	
297	3 Dy・重傷より 20 cm	4.75	4.35	1.18	36.94	一部欠損	貫通孔・文様あり・内面にスス	
298	3 Kx・重傷より 20 cm			1.88	13.87	破片	貫通孔	
299	3 Fy・表土から 80 cm			1.38	5.30	〃	貫通孔	
300	4 Fm・21 趾上から 50 cm			1.48	19.14	欠損	貫通孔・文様あり	
301	4 Fw・21 趾上から 60 cm			1.85	19.22	破片	貫通孔	
302	2 Kx・26 b 趾			0.60	11.84	〃	貫通孔	P 322
303	4 Fc・14 趾及び 14 a 趾			3.10	29.11	欠損	貫通孔	〃
304	2 Ca・1 b 趾	4.45	4.90	1.25	29.72	完形	内面にスス?	〃
305	3 Dn・裏面逆縁	4.75	4.45	0.70	31.78	〃	内面にスス	〃

(8) スタンプ形土製品

図 表 番号	出土地点・部位	最大計測値 (cm)			重量 (g)	保存状態	備考	本文 記載
		長さ	幅	高さ				
306	2 Kx・カクラン	3.50	35.0	2.80	14.62	欠損	壺形端・刺溝	
307	3 Dn・10 趾上部	4.80	5.35	3.50	24.68	完形	貫通孔	
308	3 Kx・重傷より 20 cm	5.50	2.10	2.30	14.98	〃	貫通孔	
309	4 Fy・3 趾から 10 cm	4.60	3.00	3.50	25.21	〃	貫通孔	
310	5 Fe・表土	2.10	2.00		5.36	欠損		

(9) その他

図版 番号	出土地点・層位	名称・種類	重量(g)	保存状態	備 考	本文 記載
311	1 Dn		99.49	欠損	西邊孔・周辺に磨	
312	3 Dc・4 層	異形土器の一部?	54.32	破片	壺形罐	
313	北区・2 層上部	"	65.33	欠損		P 222
314	2 Dp・壺縁より 30 cm	群形土製品?	49.54	"	群土器・壺形罐	
315	2 Dc・壺縁より 60 cm	群形土器?	19.89	"	一般的な蓋とは形類等全く違う	
316	5 Fd・21 層上から 60 cm	同状土製品	11.80	"	土器の注口部にしては異状で奇い	
317	3 Eg・19 層下部	群状土製品	430.00	完形	形状は写真りに似るが大きさは全く違う	
318	2 Dk・10 cm	土器の突起? 蓋物?	22.79	欠損	浮彫的文様・刻線した跡あり	
319	3 Dc・壺縁より 40 cm		46.45	完形	異様孔・類な沈積文飾	
320	2 Cp・4 a 4 層		55.41	欠損	刻線凹みている	
321	3 Eg・壺縁より 30 cm	スタンプ形土製品?	18.74	破片		
322	2 Dg	"	16.30	欠損		
323	45 号 pit・埋土	土器の一部?	14.14	"	刻線した跡	
324	3 Eb・壺縁より 70 cm	"	18.41	"	"	
325	4 Ft・表上から 50 cm	"	8.19	"	縄文 (LR)	
326	2 Dw・壺縁より 50 cm	"	7.48	"		
327	2 Dc・壺縁下より 30 cm	"	12.67	"		
328	5 Fh・表上から 70 cm	土器?	59.65	"	縄文 (RL)	
329	遺跡側ベルト・10 層		23.43	"	河利用結とは思われない	
330	2 Do・2 層下部		3.75	"	厚紙	
331	5 Fe・表上から 50 cm		6.93	"	"	
332	10 ベルト・24 = 3 g 層		7.34	"	西邊孔・土器の突起には思われない	
333	5 Fn・21 層上から 30 cm		5.80	"		P 222
334	4 Fj・2 C 層	土器?	15.27	"	裏面、接合部からの刻線	
335	4 Fk・壺縁より 20 cm	土器の一部 (破物)?	10.30	"	くし器文?	
336	3 Dg~f・5 層	土器	1.72	完形		
337	3 Dh・6 層下部		8.87	完形?	北沢あり・非常に奇い	

10 焼粘土塊

図 番 号	出土地点・層位	計測値 (cm)			重量 (g)	備 考	図	本 文 記 載
		長さ	幅	高さ				
338	2 Dc・1号住居	1.20	1.10	0.80	1.10	褐色・球状		なし
339	1号 pit・埋土	2.75	2.60	1.30	9.81	褐色		なし
340	45号 pit	2.40	2.10	1.10	7.13	かっ色・平明面あり		〃
341	2 Dcへ・重機より5cm B3層	4.20	3.60	3.10	23.21	ピンクがかった白・平明面あり・非常に軽い		〃
342	2 Dc・23b層	8.85	3.60	1.80	56.43	褐色・平明面あり・重い		〃
343	2 Dc	2.10	1.70	1.25	5.39	褐色		〃
344	2 Dc・25a層	2.90	2.75	1.85	10.05	〃		〃
345	2 Dc・重機より50cm	2.60	2.10	1.50	9.13	褐色・小石?を含む		〃
346	2 Dc・10層	3.25	2.90	2.05	13.53	白〜黄かっ色・平明面あり		〃
347	2 Du.v・重機から50cm	6.19	4.65	3.30	40.20	ピンクがかった白・平明面あり・軽い		〃
348	2 Dc・重機下50cm	4.20	3.15	2.40	25.07	褐色		写真のみ
349	〃・60cm	5.60	3.95	2.60	35.24	〃		〃
350	2 Ebc・26a層	2.70	2.00	1.45	11.37	褐色・何か硬物残らしきものを含む・重い		なし
351	2 Ebc・27層	2.55	2.05	1.60	7.30	かっ色		〃
352	〃・28層	5.25	3.90	2.30	34.65	灰〜褐色・凹面を持つ?の塊?		あり
353	〃・31層	3.30	2.45	1.80	14.75	かっ色・砂粒等顯著に含む・重い		写真のみ
354	2 Ee・10cm	3.80	2.75	1.60	117.8	褐色・平明面を持つ(ナアの板?)・砂粒等含む		なし
355	2 Ee・11a2層下部	3.80	3.60	2.20	20.04	褐色		〃
356	3 Cj・カタラン	3.35	2.95	1.30	12.63	褐色・平明面を持つ		〃
357	3 Da・9層	3.60	3.30	2.30	21.54	クリームかかった白		写真のみ
358	3 Dc・重機より20cm	2.50	1.80	1.10	6.00	褐色		なし
359	3 Dc・2層上部	4.40	2.90	25.17	26.17	褐色・板状・平明面あり		〃
360	3 Dc・4層	3.35	2.35	1.50	10.74	かっ色・平明面あり		写真のみ
361	3 Dc・重機より10cm	2.25	1.60	0.95	3.79	褐色・平明面あり		なし
362	3 Ee・重機より50cm	5.30	4.00	1.40	30.99	褐色・板状・平明面あり		〃
363	3 Ee・10層	3.25	2.50	1.50	9.97	褐色・凹面を持つ(指の痕?)		〃
364	3 Ee・10層下部	2.50	1.90	1.50	7.34	褐色〜灰色		〃
365	3 Ee・重機より30cm	6.00	3.30	1.70	28.05	白〜かっ色・板状・平明面あり		〃
366	3 Ee・重機より20cm	3.60	2.40	2.25	19.14	褐色		〃
367	道路部・18b層	4.35	3.80	3.85	45.48	赤褐色・重い		〃
368	3 Fx・表土より60cm	4.40	2.55	2.30	24.18	赤褐色		〃
369	4 Fx・21層上より90cm	4.00	3.60	1.40	22.59	かっ色〜褐色・平明面あり		〃
370	5 Fc・21層上より30cm	2.50	2.70	1.60	16.62	かっ色		〃
371	5 Fc・21層より30cm	1.60	1.25	1.20	2.65	かっ色		〃
372	5 Fj・表土より70cm	5.00	2.75	1.95	33.86	褐色		〃
373	5 Fx・表土より80cm	3.10	2.85	1.80	14.72	〃		写真のみ

01) ⑧円盤状土製品

図 番 号	出土地点・部位	計測値 (cm)			重量 (g)	周縁の加工	保存状態	利用上部の番号	備 考	本 文 記 載
		直径	幅径	厚さ						
374	34号 pit - 2層	4.30	4.10	0.66	15.87		完形	継承文 (R)		
375	1B・後期包含層	4.15	4.30	0.85	16.76		〃	継承文?	全体的に摩耗	
376	1B	3.40	3.60	0.80	10.40		〃		摩耗ひどい	
377	1Co	3.80	4.80	0.80	10.86	研磨	ほぼ完形	継文上部	全体的に摩耗	
378	1C・中期包含層	5.25	4.20	1.00	31.88	研磨?	〃	継承文?	〃	
379	1Br・カタラン	4.25	4.00	0.70	12.59	〃	〃	沈積による文 化?	〃	P322
380	2Cd - 20 cm	4.10	3.25	1.00	18.01	〃	〃		〃	
381	2Cm - 2層	3.85	3.85	0.85	16.35		〃	継文 (LR)		
382	2Co - 1層下 30 cm	4.75	4.20	1.00	24.24		〃	継文? 兩 端欠?	全体的に摩耗	
383	2Co - 1層下部ベルト	5.50	5.30	0.80	29.55	一部研磨?	〃	十割内1式?	〃	
384	2Cl - 10 cm	4.60	4.60	1.00	25.55	研磨?	〃		中々摩耗	
385	2Cl - 10 cm	4.80	4.30	1.00	23.24	全面研磨	〃		〃	
386	2Cj - B2層	4.20	3.90	0.60	13.89	研磨?	〃	継文 (LR)		P322
387	2Cj - 1層下部	4.45	4.20	0.80	18.11	〃	欠損?	継文 (LR)	中々摩耗	
388	2Cj - 2層上部	4.35	4.00	1.00	19.80	〃	ほぼ完形		〃	
389	2Cj - 2層~3層	3.50	3.20	0.80	11.89	〃	ほぼ完形?	継承文	〃	
390	2Cj - 40 cm	4.60	4.30	1.00	22.80	研磨	ほぼ完形	継文 (L)・兩 端欠?	〃	
391	2Cm	6.60	5.80	1.18	46.89	〃	〃	継文 (RL)		
392	2Cn - 2層	3.85	3.50	0.78	11.71	研磨?	〃	報告状継承文 (?)	中々摩耗	
393	2Cn - 50 cm	5.10	5.05	1.18	27.13	〃	〃		摩耗	
394	2Co - 1層下から10 cm	4.25	4.00	0.65	16.00	研磨	〃	継文 (LR)	中々摩耗	
395	2Co - 1層下から10 cm	4.40	4.20	0.85	18.91	研磨?	欠損?			
396	2Co - 10 cm	5.05	5.00	0.70	22.12	〃	完形		中々摩耗	
397	2Ct - 1層	3.70	3.30	0.80	12.21	〃	〃	継文 (LR) 不備?		
398	2Ct - 30 cm	4.70	4.40	0.90	21.23	〃	完形?	〃・筋溝		
399	2Cy - 4層下部	4.70	3.75	0.80	14.19	研磨?	完形	継文 (R)		
400	2Cy - 直線下 30 cm	4.90	4.90	0.80	22.89		完形?	継承文 (R)		
401	2Dc - 直線下 40 cm	3.80	3.65	0.80	15.44	一部研磨	一部欠損?	継承文 (?)		
402	2Dc - 60 cm	4.80	3.75	0.80	14.87	全面研磨	完形	継文 (LR)		
403	2Db~c - 2 Db 4層	4.60	4.55	0.90	25.14	全面研磨	完形	継文 (RL)		
404	2Df - 2層下部	3.75	3.75	0.65	14.12	一部研磨	完形	継承文 (?)		
405	2Df - 50 cm	4.20	4.10	1.10	19.55		完形			
406	2Db - 40 cm	3.80	3.80	0.70	13.66	研磨	完形			
407	2Dh - 直線下 30 cm	3.65	0.70	0.70	13.95	研磨?	完形	継承文(R?)?	摩耗	
408	2Dh1 - 4 a 6層	4.52	4.50	1.50	37.29	全面研磨	完形			
409	2Dh1 - 〃	3.50	3.50	0.60	9.55	研磨?	一部欠損	継文 (LR)		
410	2Dk - 直線から 20 cm	4.75	4.65	0.70	17.94	研磨	完形	継文 (LR)		
411	2Dk - 直線下 30 cm	5.10	4.65	1.00	26.45	一部研磨	完形	継文 (LR)		
412	2Dk - 直線 60 cm	3.80	3.15	0.85	9.98		完形	継文 (LR?)	中々摩耗	
413	2Dk - 直線 60 cm	5.10	5.00	1.28	32.51		完形			
414	2Dk - 直線 18 cm	4.10	3.90	0.88	17.02	一部研磨	完形	報告状継承文 (R?)	中々摩耗	

図 版 番 号	出土地点・部位	計測値 (cm)			重量 (g)	周辺的加工	残存状態	利用土製の跡子	備 考	本 記 文 書
		長径	短径	厚さ						
415	2 Dd・壺腹 60 cm	4.40	3.85	1.00	21.61	一部研磨	ほぼ完成形		やや摩耗	
416	2 Dd・70 cm	2.35	2.85	0.70	8.23		ほぼ完成形			
417	2 Dm・壺腹下 50 cm	4.30	4.25	0.75	17.53		ほぼ完成形	縄文 (RL?)	やや摩耗	
418	2 Dm・2 Dm 1 割	3.40	3.95	1.00	12.49		"	縄赤文 (L) ?	"	
419	2 Dm・壺腹から 50 cm	4.55	3.80	0.80	19.77	一部研磨	完形	縄文 (L,R?) ?		
420	2 Do・10 割下部	4.60	4.30	0.90	22.37	研磨?	一部欠損	縄文 (LR)		
421	2 Do・壺腹下部 cm	4.30	4.10	0.65	16.28		完形?	中層・スス付着		
422	2 Dq-p・2 割	4.55	4.40	0.55	16.58		完形	縄赤文 (R)		
423	2 Dqr・2 割上部	4.45	4.15	0.90	22.76		ほぼ完成形	縄文?		
424	2 Dqr・2 割上部	3.80	3.40	0.75	12.48	一部研磨	完形	縄文 (RL)	やや摩耗	
425	2 Dq・20 cm	3.10	2.90	0.75	9.07	全面研磨	完形	縄文 (RL)		
426	2 Dq・50 cm	3.90	3.35	0.60	11.21	一部研磨	一部欠損			
427	2 Pq	4.60	4.10	0.70	13.32	全面研磨	"	縄文 (LR)		
428	2 Dr・壺腹から 10 cm	3.45	2.10	0.65	5.78	研磨	欠損			
429	2 Dr・60 cm	4.90	4.85	1.25	31.53	"	完形	波路・木葉痕		
430	2 Ds・10 x 1 割上部	2.60	2.45	0.55	5.02	"	"	縄文?	摩耗	
431	2 Ds・2 割	5.30	6.30	1.25	56.88		"	波路・木葉痕		
432	2 Ds・壺腹下 30 cm	4.00	3.75	0.65	14.14	研磨	"	縄文 (RL)	やや摩耗	
433	2 Ds・18 割	5.50	4.60	0.80	30.32	"	"	縄文 (LR)	"	
434	2 Ds・18 割	4.30	4.00	0.60	16.04	一部研磨	"			
435	2 Ds・壺腹下 30 cm	4.45	3.90	0.60	13.19		"	円縁部・羽状 縄文		F322
436	2 Ds・70 cm	4.45	4.30	0.60	13.66	研磨	"	縄文 (LR)	やや摩耗	
437	2 Ds・90 cm	4.40	4.35	0.60	14.28	全面研磨	"	縄文 (LR)	"	
438	2 Du・15 割上部	4.70	4.55	0.80	24.63		"	"		
439	2 Du・40 cm	3.15	2.95	0.70	9.29		一部欠損?	"	やや摩耗	
440	2 Dvw・2 割上部	4.30	3.50	0.80	9.16		完形		摩耗	
441	2 Dv・40 cm	3.50	3.30	0.85	12.00		"			
442	2 Dvw・10 x 1 割中部	3.70	3.50	0.70	11.28		"	縦目状縄赤文 (?)	やや摩耗	
443	2 Dv・壺腹下 40 cm	3.40	3.20	1.08	15.95		"	縄文 (LR)	"	
444	2 Dv・70 cm	4.20	3.80	0.78	14.32		"	"		
445	2 Dv・70 cm	5.10	5.00	0.75	21.45		"	縄文 (RL)	やや摩耗	
446	2 Dv	3.45	3.85	0.70	11.11	研磨	"	縄文 (LR)	"	
447	2 Dv・10 x 1 下部	3.55	3.15	0.60	9.35		"	"		
448	2 Dv・2 割	3.50	3.50	1.00	11.86		"	波路	摩耗	
449	2 Cy・壺腹下 40 cm	5.60	5.25	0.80	31.18		完形	円縁部・縄文 (LR)		
450	2 Dy・80 cm	4.65	4.30	1.00	24.31		"	縄赤文 (R?) ?	やや摩耗	
451	2 Dy・80 cm	3.90	3.85	0.80	15.23	研磨	"	縄赤文 (R) ?	"	
452	2 Dy・80 cm	4.00	3.95	1.10	18.38		"	不明	表面割傷	
453	2 Dk・26 b 割	4.20	3.70	0.70	13.44		完形?	注目土層? 羽状縄文		
454	2 Dk・19 割上部	4.40	3.90	0.75	16.25		"	縄文 (LR)のみ	磨削形	
455	2 Dk・11 x 2 割	3.15	3.00	0.80	9.33	摩耗?	完形	縄文 (RL)のみ		
456	2 Dk・11 x 2 割	5.20	4.90	0.90	26.25		"	縄文 (LR)のみ	摩耗	
457	2 Rn・11 x 2 割	4.25	4.00	0.70	15.51		"	滑縄文(?) ?	"	
458	2 Bv・60 cm	3.90	3.70	0.88	14.22		"	縄文	やや摩耗	
459	2 Bv・18 Q 割	3.85	2.20	0.55	6.43	研磨?	"	縄文(?)のみ	"	

調査番号	出土地点・部位	計測値 (cm)			重量(g)	周辺の加工	保存状態	利用上層の様子	備考	本館文庫
		長さ	幅	厚さ						
450	2 Ew・2 器	5.00	5.30	1.60	58.06	摩耗?	完整	無文		
451	2 Ew・20 cm	4.65	4.25	0.60	15.79	研磨?	"	"		
452	3 Cj・カタラン	5.20	5.10	1.18	34.15		"	縄文(LR)?		
453	3 Cd・直線から10 cm	4.70	4.15	1.15	22.61		"	砥部・木漆皮		
454	3 Da・4 器	3.35	3.15	0.90	12.84	研磨?	"	縄文(LR)のみ		
455	3 Da・空線から30 cm	5.00	4.70	0.85	21.71		"	縄文(RL)のみ	裏面研磨	
456	3 Da・直線下40 cm	4.18	4.00	0.90	20.13		完整	縄文(L)?		
457	3 Da・カタラン	4.00	3.40	0.90	17.10		"	縄文(?)?のみ		
458	3 Dc・6 層上部10 cm	3.10	2.80	1.00	11.02	摩耗?	"	無文	やや摩耗	
459	3 Dc・7 層	4.80	4.30	1.10	22.90		完整?	沈箱		
470	3 Dd・10 層中間部	3.30	3.15	0.5	7.86	研磨	完整	無文		
471	3 Dd・10 a 2 = 11 a 1 下部	4.30	4.20	1.40	29.94	研磨?	一部欠損	砥部・木漆皮?		
472	3 Dd・直線から30 cm	3.50	3.20	0.50	6.29		"	縄文(RL)のみ		
473	3 De・29 層上部	3.40	3.30	0.80	11.38		完整	縄文(RL)のみ		
474	3 Dc・2 器	2.40	2.25	0.60	4.05		"	"		
475	3 Ddf・2 器	4.40	4.40	0.80	18.44		"	沈箱・縄文?		
476	3 Ddf・2 層上部	4.70	4.10	0.80	19.55	摩耗?	"	縄文(L)のみ	隅丸形状	
477	3 Df・直線下30 cm	4.40	4.35	0.60	15.33		"	沈箱・縄文(R)		
478	3 Dg・直線から20 cm	4.80	4.20	0.80	19.93		"	無文	裏面研磨	
479	3 Dg・直線下30 cm	4.80	4.70	0.90	20.20	一部欠損	一部欠損	縄文(L)のみ		
480	3 Dg・直線から30 cm	4.20	4.10	0.50	18.95		完整	沈箱・縄文(?)		
481	3 Dg・直線40 cm	4.50	4.80	0.60	17.18	一部研磨/摩耗	一部欠損	縄文(LR)・スズ付		
482	3 Dhl・2 層上部	4.85	3.65	0.75	17.17	摩耗?	"	沈箱・縄文(LR)	表面研磨	
483	3 Dhl・2 器	4.85	4.50	0.70	22.18		"	縄文(LR)のみ	"	
484	3 Di・直線から10 cm	2.90	2.60	0.70	7.50	金銭研磨	ほぼ完整	縄文(RL)のみ		
485	3 Di・2 層下部	5.50	4.45	0.90	24.63	一部摩耗?	ほぼ完整?	無文		
486	3 Dj・直線下40 cm	5.50	4.90	1.00	31.26	"	完整	縄文(L?)のみ		
487	3 Dj・直線下60 cm	4.45	4.30	0.75	18.73		"	沈箱・縄文(L)		
488	3 Di・4 b 1 層下部	3.80	3.30	0.90	15.30	一部研磨/摩耗	"	縄文(RL)のみ	裏面研磨	
489	3 Di・直線から30 cm	3.85	3.95	0.70	14.40		ほぼ完整	沈箱		
490	3 Do・4 b 1 層~4 b 2 層の間	3.20	3.15	0.75	9.74	一部摩耗?	"	開口状態縄文(R)		
491	3 Do・直線より50 cm	3.90	3.70	0.90	12.61		完整	沈箱・縄文(LR)	やや摩耗	
492	3 Dns・4 b 1 層下部	4.95	2.85	1.00	15.51	研磨	1/2	沈箱・縄文(?)	"	
493	3 Dr・直線から20 cm	5.15	5.05	1.00	31.37	一部摩耗	ほぼ完整	無文	裏面に沈箱?	
494	3 Dr・直線から30 cm	3.50	3.50	0.70	12.21		"	縄文(LR)のみ	表面研磨	
495	3 Dr・4 b 2 層中間	4.25	4.10	1.30	26.81		"	縄文(R)		
496	3 Ds・3 Dy・直線から20 cm	5.80	5.80	0.95	42.81		"	保存状態縄文(R)のみ		
497	3 Ds・直線から30 cm	5.20	5.20	0.90	29.66		"	沈箱のみ		
498	3 Ds・直線下40 cm	4.90	3.60	0.80	20.20		完整	無文	内面研磨	
499	3 Ds・直線下50 cm	5.40	4.80	0.90	27.30		ほぼ完整	縄文(LR)のみ		
500	3 Ds・3 Dy・3 Dy	4.75	4.50	0.90	25.48	全面研磨	"	縄文?	表面研磨ひどい	
501	3 Ds・直線から10 cm	4.90	4.90	1.00	30.19		"	縄文(LR)のみ		
502	3 Dy・4 b 1 層下部	3.90	3.90	0.80	14.20	一部研磨?	一部欠損	(不明)	摩耗ひどい	
503	3 Ea・10 層下部	4.65	4.50	0.85	22.93		ほぼ完整	沈箱・縄文(LR)		
504	3 Ea・直線下20 cm	3.50	3.30	0.70	10.83		"	(不明)	粘土厚い・研磨	

調査番号	出土地点・層位	計測値 (cm)			重さ(g)	瓦の加工	残存状態	利用土層の様子	備考	本記載
		長さ	幅	厚さ						
505	3Ea・70 cm	4.85	4.80	1.00	23.76	一部研削	ほぼ完成	漆部	摩耗ひどい	
506	3Ea・15層中部	3.85	3.65	0.65	12.68			縄文(L,R)のみ		
507	3Ea・重機下40 cm	3.85	3.85	0.70	13.23		一部欠損	縄文(RL)のみ		
508	3Ea・2層上部	5.80	4.70	0.90	26.66	一部研削		漆部・縄文(R?)のみ	表面一部脱落	
509	3Ea・*	4.45	4.40	0.70	16.38	一部研削	ほぼ完成	漆部	裏面におこげ	
510	3Ea・2層中部	3.85	3.85	0.75	14.55			無文		
511	3Ea・4f2層	4.10	3.50	0.50	9.59			縄文(L,R)のみ	楕円形	
512	3Ea・重機から10 cm	3.40	3.30	0.70	16.21	摩耗		縄文(RL)のみ	摩耗ひどい	
513	3Ea・重機下30 cm	4.10	3.70	0.60	11.92	一部研削?		無文		
514	3Ea・10層上部	3.15	3.00	0.70	8.45			縄文(L,R)のみ	やや摩耗	
515	3Ea・10層	3.80	2.80	0.60	6.28	摩耗		縄文(L,R)のみ		
516	3Ea・4b2層上部10 cm	3.70	3.60	0.70	11.08	一部研削		縄文(L)のみ		
517	3Ea・重機より20 cm	4.70	4.55	0.60	16.72	摩耗		沈部、縄文(L,R)	短曲	
518	3Ea・4f1層	4.80	4.50	0.75	21.05	一部研削		縄文(L,R)のみ		
519	3Ea・重機下40 cm	4.55	4.40	0.90	26.69	全面研削		沈部、縄文(L,R)		
520	3Ea・4b2層上部	4.15	3.60	0.75	13.70		一部欠損	縄文(L,R)のみ		
521	3Ea・重機から20 cm	4.45	4.10	0.55	15.16	摩耗	ほぼ完成	沈部、縄文(L)	やや摩耗	
522	3Ea・重機から20 cm	5.35	5.10	0.75	32.58	一部研削		縄文(L,R)のみ	楕円方形	
523	3Ea・4b1層上部	4.90	4.50	1.00	25.44	一部研削	ほぼ完成	網目状縄文(R?)のみ		
524	3Ea・4b2層10 cm	4.30	3.70	0.90	19.72	全面研削	完成	沈部、網目状	摩耗ひどい	
525	3Fa・表土から100 cm Hb上層から80 cm	4.10	4.00	0.70	16.09	一部研削	一部欠損	縄文(L,R)のみ		
526	4Ea・重機下40 cm	3.30	3.00	0.80	9.95	一部研削	ほぼ完成			
527	・2層上部	5.80	5.10	0.65	23.75	摩耗		(不明)	摩耗ひどい	
528	・10層下部	4.15	3.90	0.50	18.35			沈部、縄文(L,R)		
529	道路側ベルト・4b1層	3.85	3.30	0.70	12.87	摩耗		縄文(L,R)のみ	裏面摩耗	
530	・・4b2層	4.10	4.00	0.80	17.90	一部研削		無文		
531	・・4b2層	5.90	5.30	0.95	38.23	一部研削		縄文(L,R)のみ		
532	・・2層	4.80	4.15	0.55	18.25	摩耗	一部欠損	縄文(L)のみ		
533	北区南土	5.15	5.05	1.10	36.03	研削	ほぼ完成	沈部、縄文(R?)のみ		
534	4Fe・4f及び4b層	4.40	3.38	0.80	16.47			沈部、縄文(R)		
535	4Fb・表土から100 cm	4.10	4.10	0.75	16.94	摩耗	一部欠損	沈部、縄文(?)	表面摩耗	
536	4Fe・2層	2.85	2.75	0.65	6.38		ほぼ完成	縄文(?)のみ		
537	4Fb・表土から70 cm	4.20	3.80	0.70	15.40			沈部、縄文(L,R)		
538	4Fb・表土から90 cm	4.90	4.70	0.90	27.18	研削	一部欠損	無文		
539	4Fb・2cと2層の間	5.80	4.80	1.15	36.77	摩耗		縄文(L,R)のみ		
540	4Fb	3.25	3.40	0.70	10.36					
541	4Fb・Hb40 cm	5.40	5.00	0.75	36.99	一部研削		沈部、縄文(L,R)	やや短曲	
542	4Fb・表土から80 cm	5.80	4.70	1.15	35.85	全面研削	完成	沈部・木炭層	底面摩耗	
543	4Fb・表土から80 cm	3.70	3.60	0.70	12.32	研削	ほぼ完成	縄文(RL)のみ	摩耗	
544	4Fb・3層から10 cm	4.85	3.70	0.80	11.89		一部欠損	無文		
545	4Fb・表土から80 cm	3.60	3.30	0.70	11.31			縄文(L,R)のみ	やや摩耗	
546	4Fb・表土から90 cm	3.95	3.80	1.00	17.51	摩耗		沈部、縄文(L,R)		
547	4Fb・表土から60 cm	4.85	4.60	0.85	17.90		欠損	くし縄文		
548	5Fc・表土から70 cm	4.50	3.90	0.70	15.83	摩耗	一部欠損	縄文(RL)のみ	摩耗	
549	5Fb・表土から70 cm	3.70	3.65	0.75	12.25		一部欠損	縄文(RL)のみ		

図 番 番 号	出土地点・層位	計測値 (cm)			重量 (g)	周回の加工	残存状態	利用土器の様子	備 考	本文 記載
		長径	短径	厚さ						
550	5 F1・21層上から20 cm 中央石の下	6.30	5.80	0.60	28.87	摩耗	ほぼ完成	沈積・縄文 (L,R)?	摩耗	
551	5 F1・"	4.55	4.25	1.00	23.20	"	"	漆糸文 (R) ののみ	表面摩耗	
552	5 F1・"	4.90	4.90	0.70	20.21	"	"	縄文 (L,R) ののみ	"	
553	5 F1・表土から10 cm 21層上から50 cm	4.50	4.50	0.55	11.81	摩耗	"	"	表面摩耗	
554	5 Fm・表土から40 cm	4.70	4.25	0.40	5.47	"	欠損	縄文 (L,R) ののみ	摩耗・表面割 傷	
555	5 Fm・21層～20 cm	3.20	3.10	0.80	10.16	"	一部欠損	沈積・縄文 (L,R)	表面摩耗	
556	5 Fm・21層上から40 cm (最下)	3.05	2.50	0.70	6.72	"	ほぼ完成	縄 糸 文 (R) ののみ	やや摩耗	
557	5 Fb・表土から40 cm	4.75	4.10	5.20	18.34	"	"	沈積・漆糸文 (?)	"	
558	5 Fb・表土から60 cm	5.00	4.00	0.70	16.87	一部摩耗	欠損	縄文 (L,R) の のみ		
559	5 Fb・表土から50 cm	4.80	4.50	0.70	11.71	全周摩耗	完成	沈積ののみ?	表面摩耗ほど い	
560	5 Fb・表土から50 cm	3.00	2.95	0.50	5.26	"	ほぼ完成	沈積・縄文 (L,R)	"	
561	5 Fb・表土から40 cm	4.55	4.50	0.80	22.14	全周研磨	"	無文?	表面摩耗	
562	5 Fb・表土から40 cm	4.20	3.90	0.65	13.92	摩耗	一部欠損	沈積ののみ	摩耗	
563	5 Fb・表土から60 cm	4.55	4.45	1.80	26.08	"	ほぼ完成	縄文 (L,R)? ののみ	"	
564	5 Fb・21層	5.80	4.70	0.80	24.18	"	"	(不明)	"	
565	5 Fb・21層	4.70	4.20	0.85	20.13	"	一部欠損	無文?	"	
566	5 Fb・表土から60 cm	4.25	3.90	0.85	18.12	研磨	"	無文(?)	"	
567	5 Fw・ベムト10	5.10	4.65	1.45	34.27	摩耗	ほぼ完成	底部	摩耗ほどい	
568	5 Fx・表土から30 cm	3.85	3.70	0.70	10.75	"	"	縄 糸 文 (?) ののみ	"	
569	5 Fy・表土から30 cm	4.40	4.40	0.85	22.86	"	一部欠損	縄文 (L,R) ののみ	"	
570	5 Fz・1号配石下	5.30	5.70	0.80	36.01	摩耗	ほぼ完成	沈積・漆糸文?	表面摩耗ほど い	
571	6 Fc・"	5.10	5.00	0.75	23.07	"	"	縄文?	"	

12 ①・②以外の再利用品

図 番 番 号	出土地点・層位	分類・名称	最大計測値 (cm)			重量 (g)	残存状態	利用土器の様子	備 考	本文 記載
			縦	横	厚さ					
572	2 Cc・6層下部	円盤状	2.80	-	9.00	3.64	欠損	縄文 (L,R)	貫通孔	P323
573	4 F1・表土から40 cm	"	2.50	2.85	9.50	5.04	完成	"	"	"
574	3 Di・壁機から10 cm	三角形	4.20	4.40	8.80	12.29	"	縄文 (L,R)	貫通孔2	"

3. 石器・石製品 (第 238 図～第 262 図、第 15 表)

本遺跡出土の石器・石製品は、石鏃 685 点、尖頭器? 4 点、嘴状石器 1 点、石錐 215 点、石筥 11 点、石匙 114 点、異形石器 5 点、掻器・削器等その他が 845 点、打製石斧 11 点、磨製石斧 94 点、磨石 146 点、敲石 5 点、凹石 58 点、石皿 7 点、砥石 2 点、切目石錘 1 点、打欠石錘 20 点、アスファルト付石錘 5 点、有効礫 (石錘) 2 点、石棒 15 点、石剣類 32 点 (うち、石剣 2 点、石刀 7 点、不明 23 点)、石冠 2 点、有孔石製品 2 点、円盤状石製品 28 点、石器製作時の剥片類が 95.747 kg である。



第 14 表 石器分類表
(今回関係する器種に限定、数字は記載順序)

本報告書では、第 14 表のように石器を分類した。掻器・削器等その他とは、定型化しておらず既知の分類では分類できないものであり、いわゆる不定形石器、石匙が欠損して石匙とわからなくなったものなどが含まれる。以下、各器種ごとに概要、表の補足を述べていく。なお、表の見方などの注意事項は本章の冒頭部分に書いてある。

石鏃 (1～80)

685 点出土しており、80 点を掲載した。77 は異形石器の可能性がある。78 は、平面形では石錐に分類されるが、断面が石錐にしては平らで薄いので石鏃として扱った。

尖頭器 (81～84)

縄文時代後・晩期の石器に尖頭器という名称はあまりふさわしくないと思われたので? をつけた。石鏃として扱うにはやや大きいものである。4 点出土した。

嘴状石器 (85)

大野壺司氏が秋田県八木遺跡出土の石器に注意して命名したもので、「比較的小型・両面加工の石器で、先端部に、鳥の嘴状に似て鋭く尖る部分を持つ石器」(大野 1989) である。本遺跡では 1 点しか出土していないが、先端部が欠損していると石鏃と区別がつかないので、

石鏃の中にこの石器が含まれている可能性がある。

石錐 (86～100)

215点出土し、15点を掲載した。98～100は、石錐にしては先端部が薄いので？をつけた。

石筭 (101～106)

11点出土しているが、本遺跡のものは何れも筭というより尖頭器に近い。

石匙 (107～135)

114点出土しており、29点を掲載した。135は再利用品の可能性がある。

異形石器 (136、137)

5点出土しており、2点掲載した。

搔器・削器等その他 (138～194)

定型化しておらず、既知の分類では分類できないものであり、いわゆる不定形石器や石匙等が欠損してわからなくなったものも含まれる。845点出土しており、57点掲載した。139は噴状石器、174は石錐の可能性がある。169は石鏃に似ているが、石鏃にしてはやや厚すぎる。193は、いわゆるナイフ的でガンガン敲いて使用した痕跡が窺われるが楔ではないようである。

打製石斧 (195～205)

11点出土している。197は石質を含めて平泉付近でよく出土する型で、柳之御所跡でも出土している。205は、実測図では表現していないが、裏面を磨っているようである。

磨製石斧 (206～215)

94点出土しており、8点掲載した。208、209、211～215は非常に丁寧に磨かれている。207、209、214、215は小型であり実用品ではないかもしれない。

磨石 (216～221)

146点出土しており、6点掲載した。216は中央に敲いた痕跡があり、219は周縁部に黒色付着物が認められ、221は凹部に擦痕が認められる。

敲石 (222～226)

5点出土している。223、224は周縁部に敲いた痕跡があり、226は空ヶ峯遺跡の報告で「特殊な叩き石」と紹介されたもので(志間 1991)、先端部の細い方に敲いた痕跡がある。

凹石 (227～232)

58点出土しており、6点掲載した。227は他のものとは様子が違うもので、周縁部にも敲いた痕跡が認められる。228は凹が他と異なってはっきりしており、相手は石錐状のものと思われる。229は磨石の転用か？ 231は敲石の方に含めた方が良くないかもしれない。

石皿 (233～239)

7点出土した。238、239は自然石をそのまま利用しているようである。

砥石 (240、241)

2点出土した。

切目石錘 (242)

1点出土した。

打欠石錘 (243～262)

20点出土した。第IV章で述べたように3 Dmnで特徴ある出土状態を示した(243～259)。244には黒色付着物らしい痕跡が認められる。

アスファルト付石錘 (263～267)

5点出土した。名称は前述の八木遺跡の報告書に倣ったままで(大野 1989)、黒色付着物の分析鑑定はしていない。

有孔礫(石錘) (268、269)

2点出土。これも八木遺跡の報告書に倣って分類したもので、自然石の可能性もある。

石棒 (270～284)

15点出土。271の割口には黒色付着物が、272には赤色付着物が認められる。272～279は縦に割けたような感じに割れている。277は、他の部分が一面擦痕状の痕跡が認められるのに対し、基部右側には敲打痕状のものが認められる。280、283は他と比べて大きく、282、284は逆に非常に小さいもので、他とは違った用途が推定される。

石剣類 (285～316)

32点出土。石剣とわかるものは2点(285、286)、石刀とわかるものは7点(287～293)ある。289、291、292の側面には溝状の凹が認められ、302の側面も凹んでいる。

石冠 (317、318)

2点出土。

有孔石製品 (319、320)

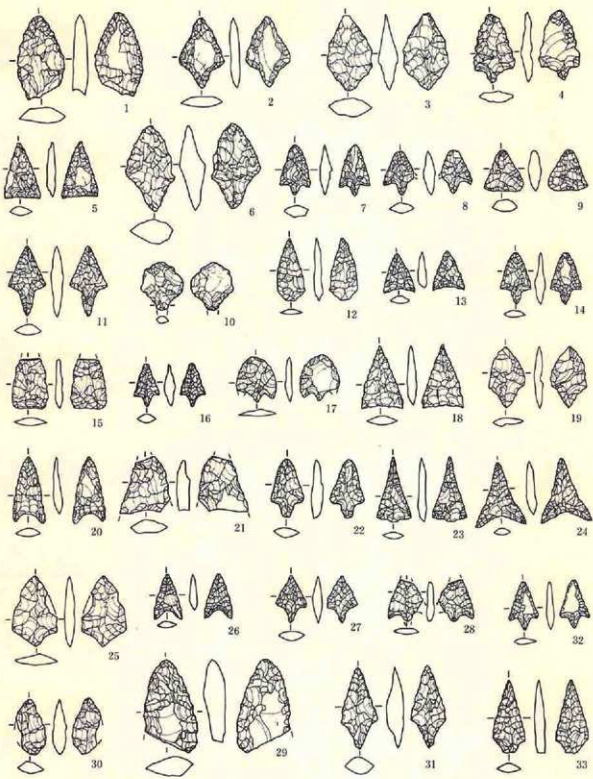
別種と思われるが、類例を知らないので一括した。320は全面に擦痕？が認められる。

円盤状石製品 (321～348)

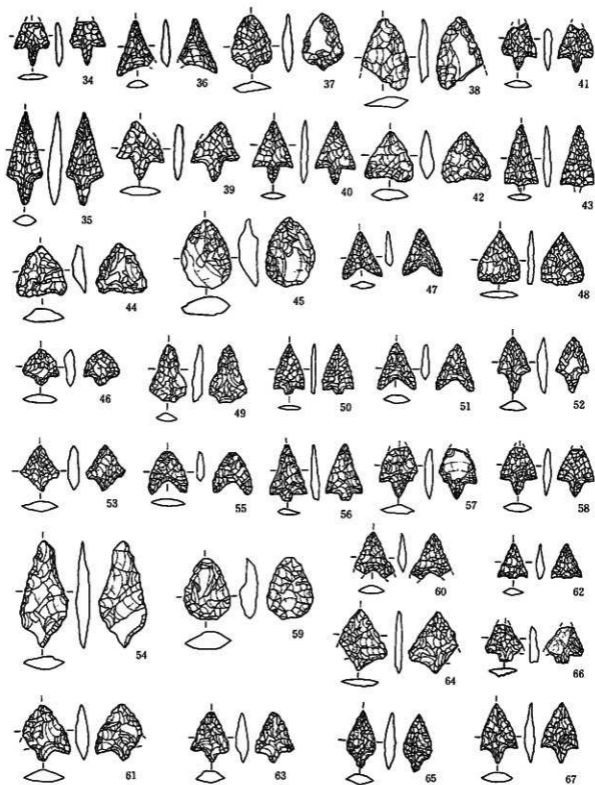
28点出土。幾つかの類型に分かれると思われ、特に321、327、332、334、337、344はよく似ている。327、333は周縁部が磨耗している。340、342、345、346は周縁部の加工が一周しておらず、未製品か？347は他と異なり、周辺ではなく下面？を打ち欠いている。

参考文献

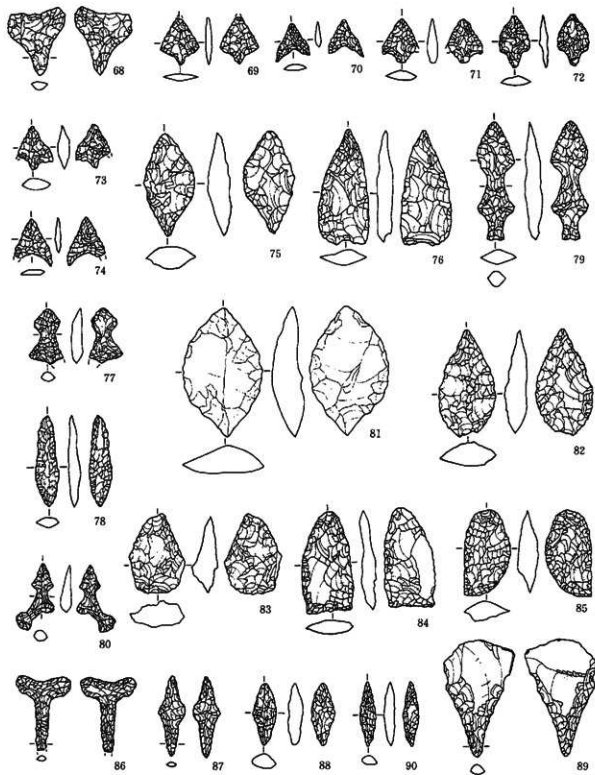
- 大野恵司 1989「第4章第2節石器」『八木遺跡発掘調査報告書』秋田県教育委員会
志間泰治 1991「4. d. 石器と石製品」『宝ヶ塚』斎藤編恩会



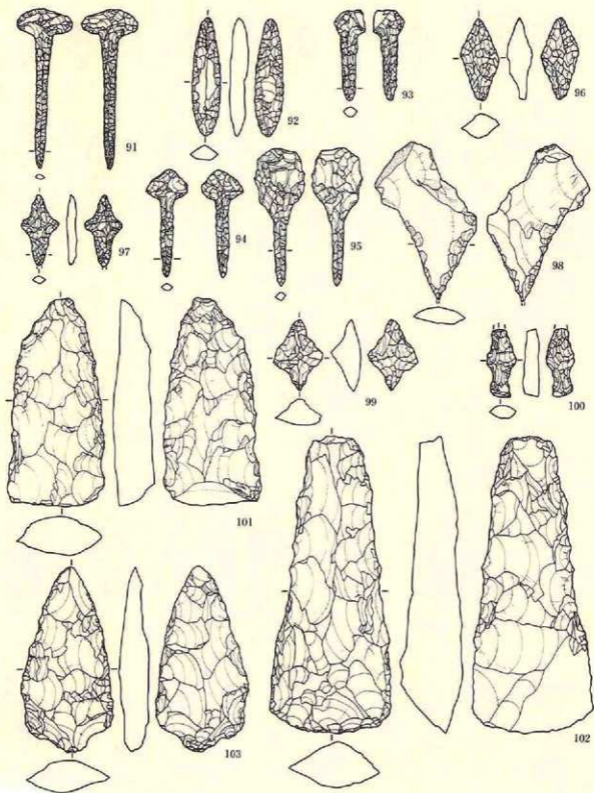
第238圖 石器(1) (S = 2/3)



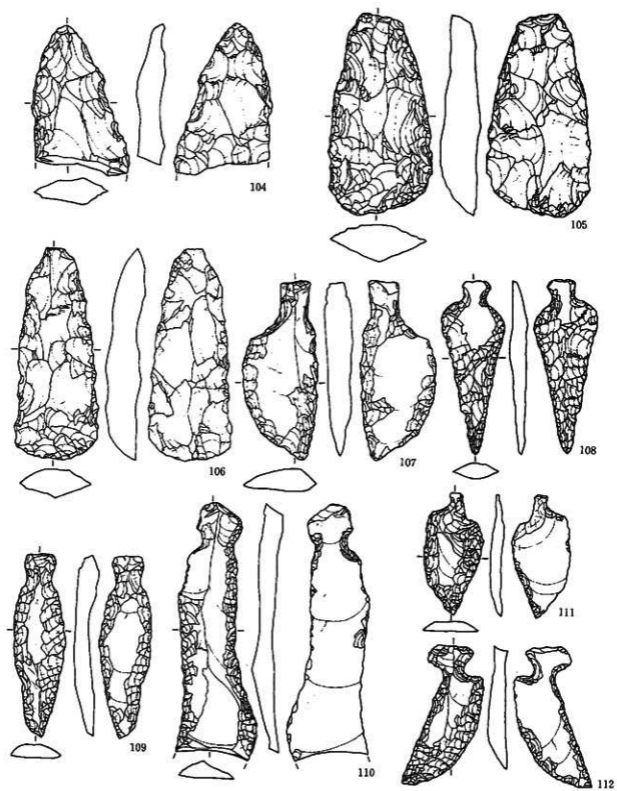
第239圖 石鏃(2) (S=3/5)



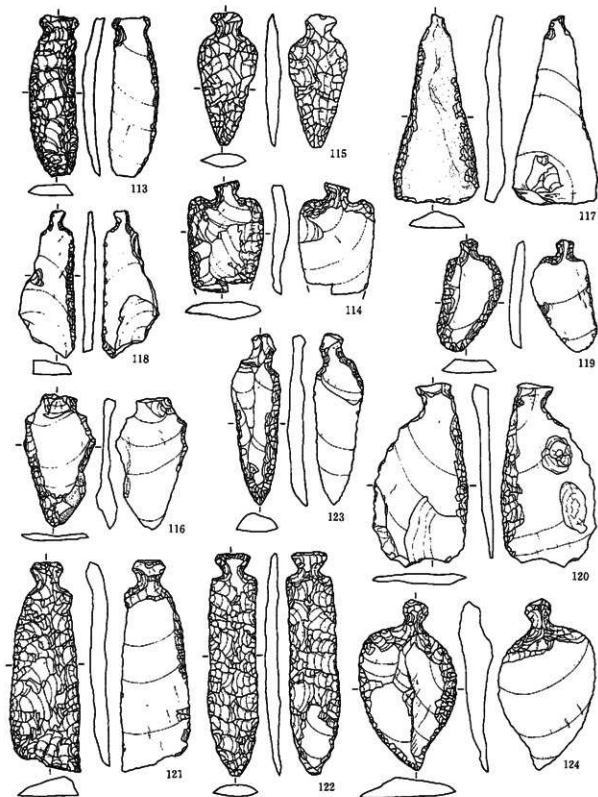
第240圖 石器(3) (S=3%)



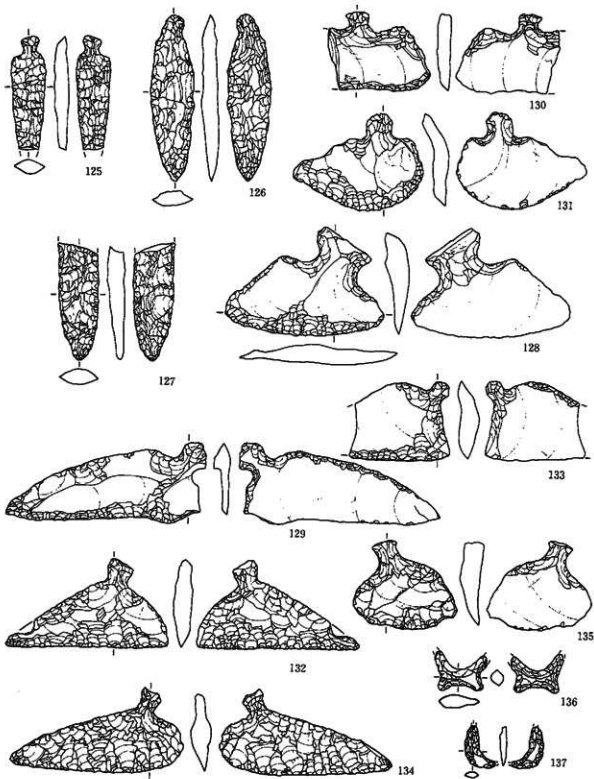
第241圖 石器(4) (S=3/5)



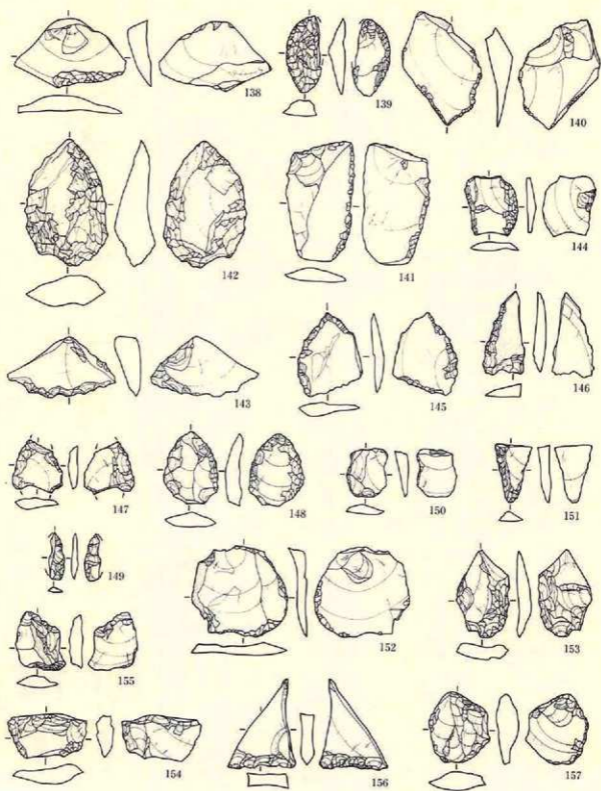
第242图 石器(5) (S=3/5)



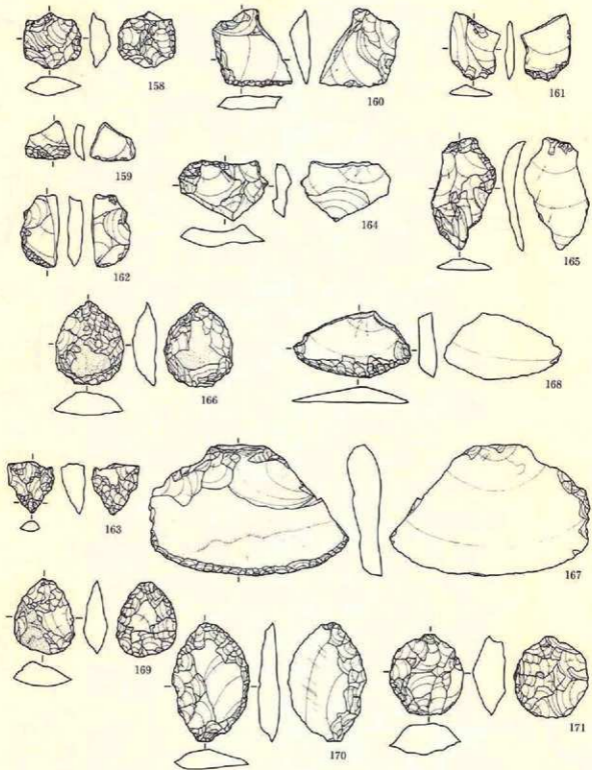
第243圖 石器(6) (S=3/5)



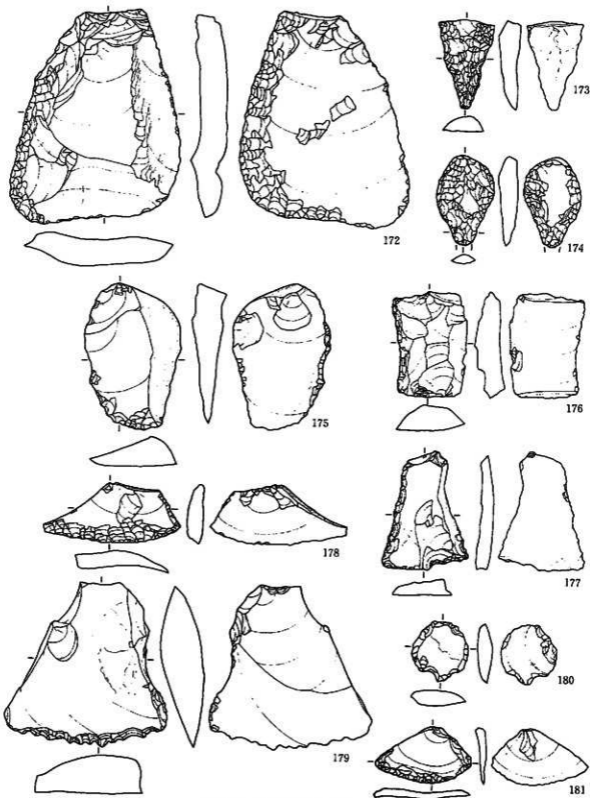
第244圖 石器(7) (S = 1/4)



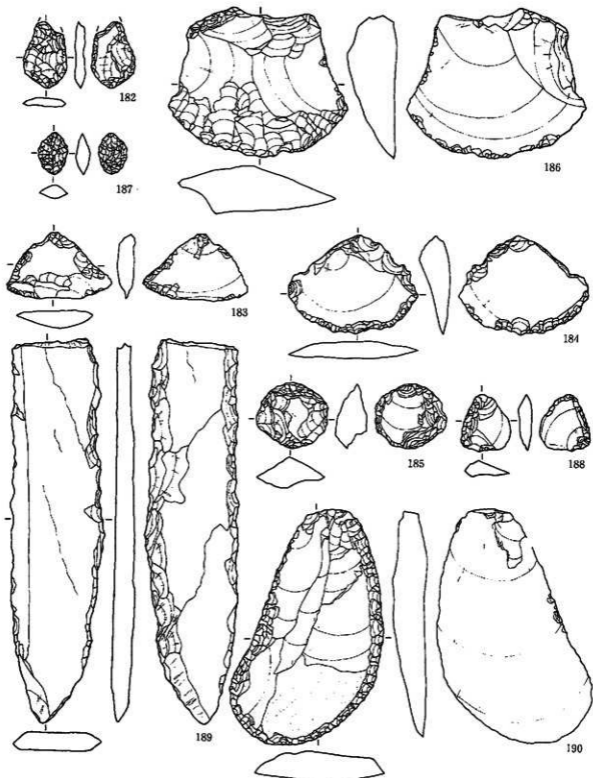
第245图 石器(B) (S=5)



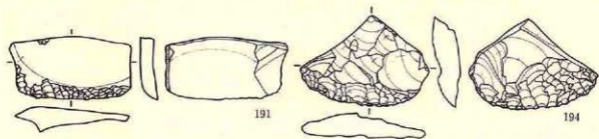
第246图 石器(9) (S=2/3)



第247图 石器00 (S=3/5)

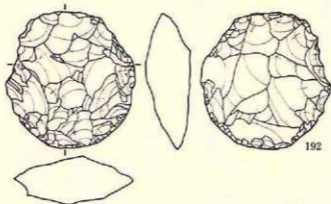


第248圖 石器(1) (S=3/5)

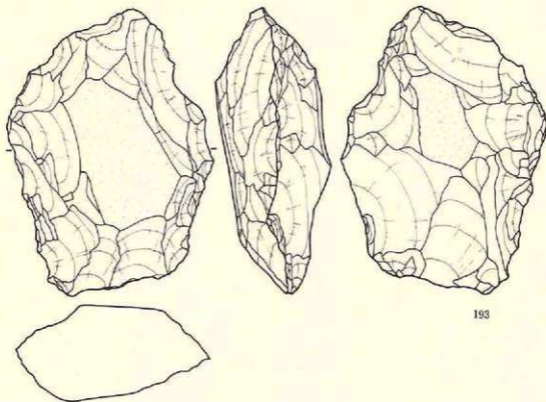


191

194

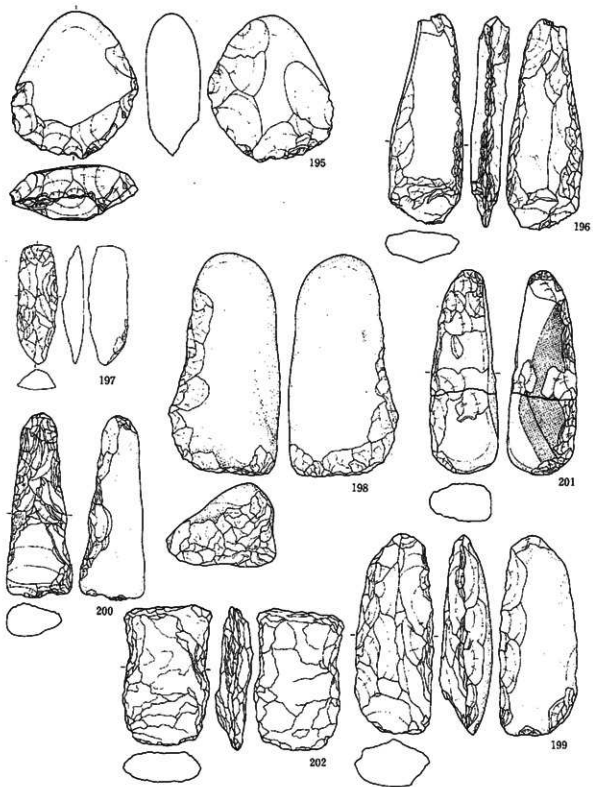


192

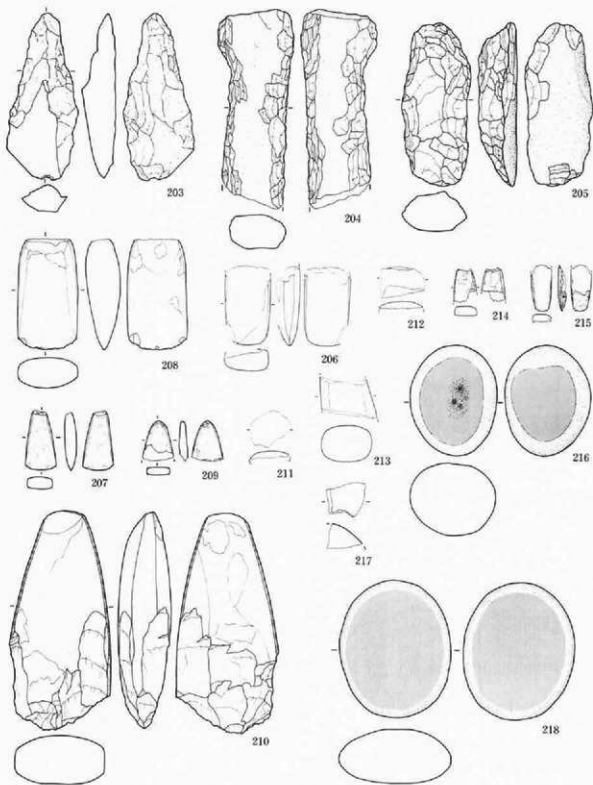


193

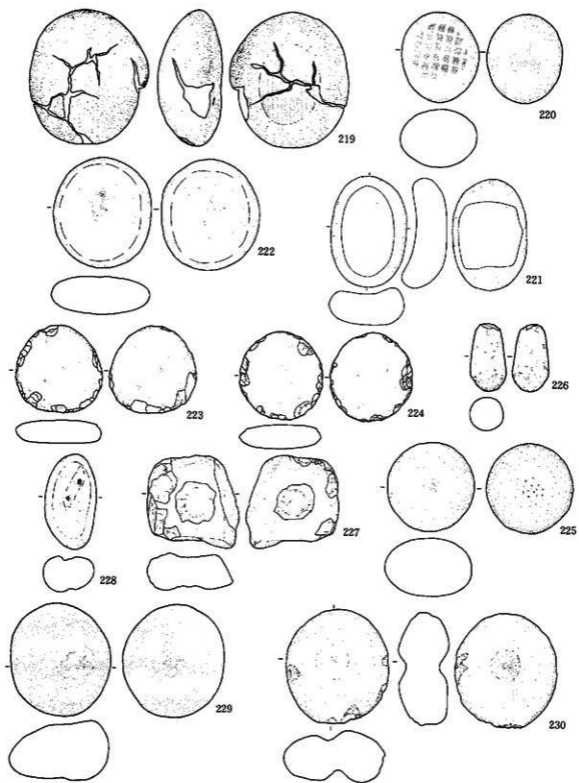
第249圖 石器⑫ (S=3/5)



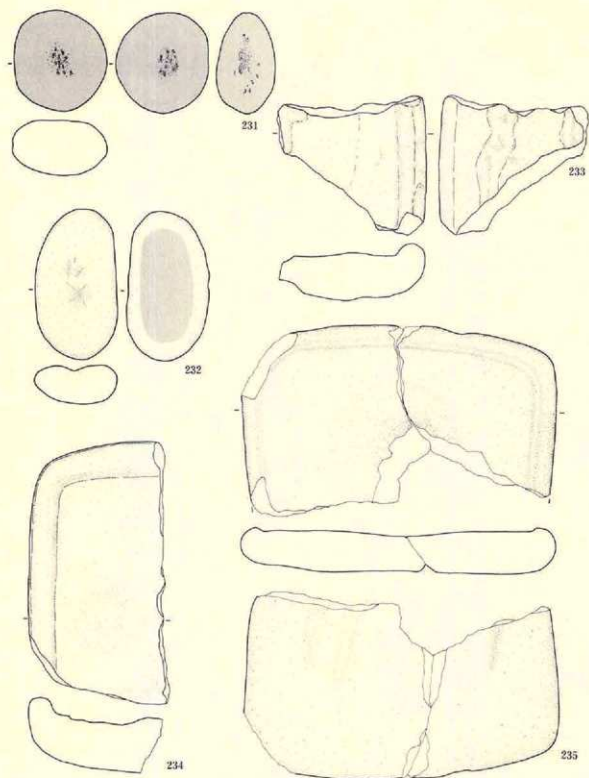
第250圖 石器18 (S=1/6)



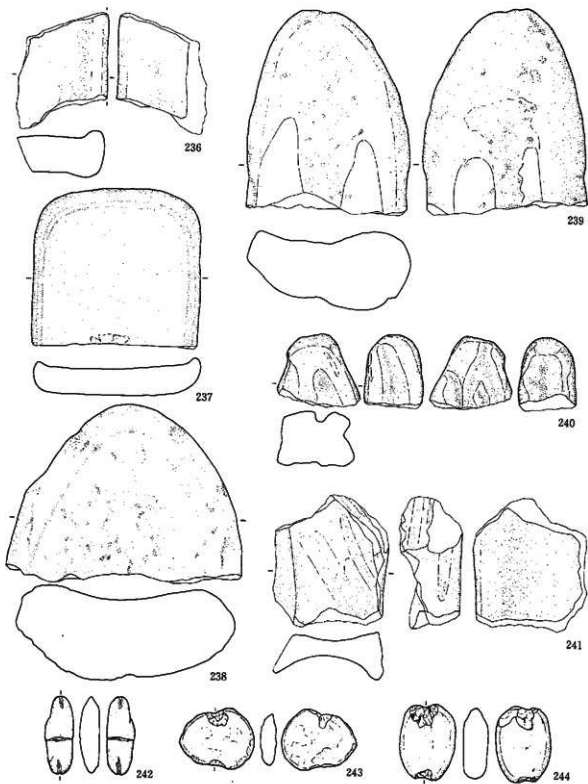
第251圖 石器04 (S = 1/5)



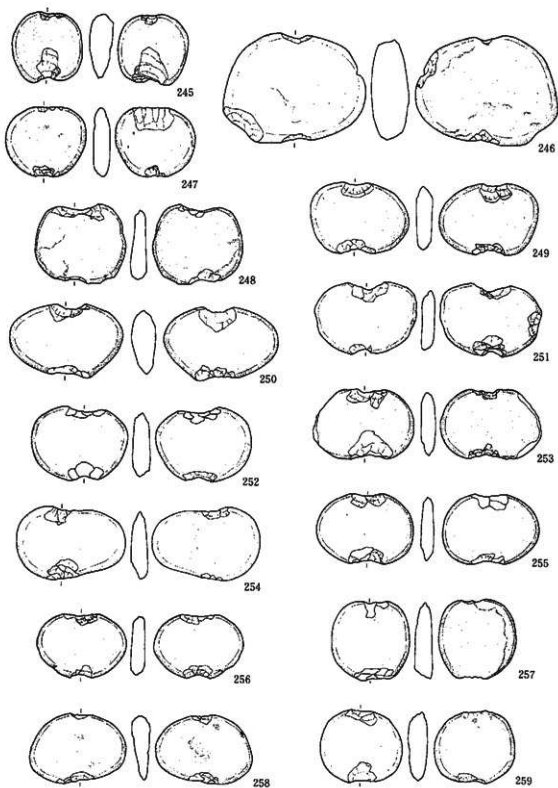
第252圖 石器(1) (S=1/5)



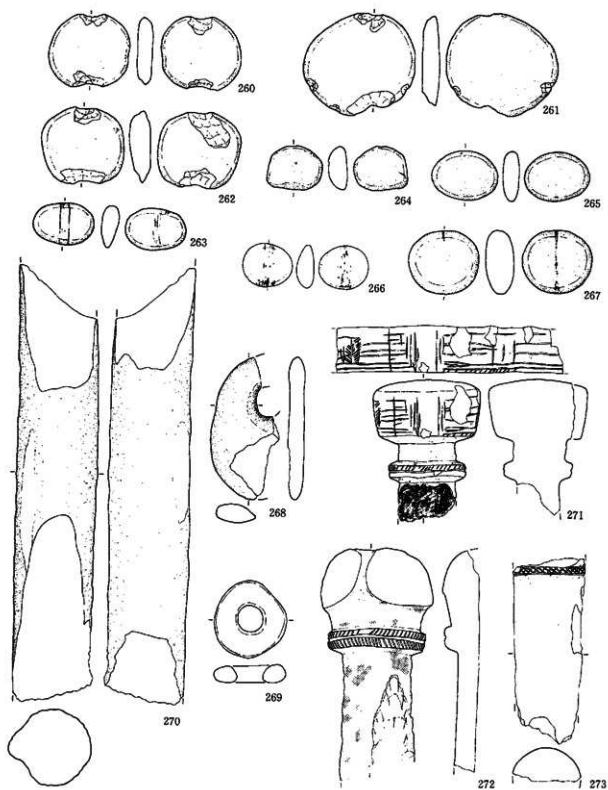
第253圖 石器16 (S = 1/5)



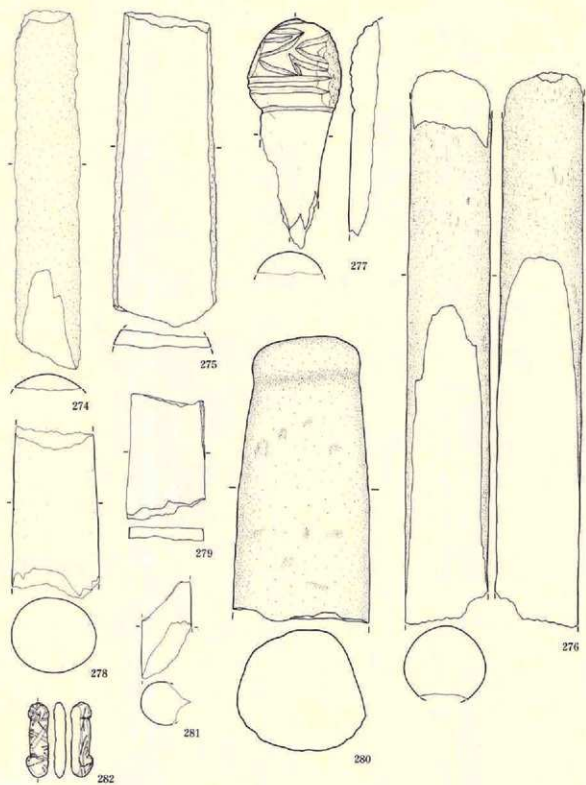
第254圖 石器(7) (S=1/6)



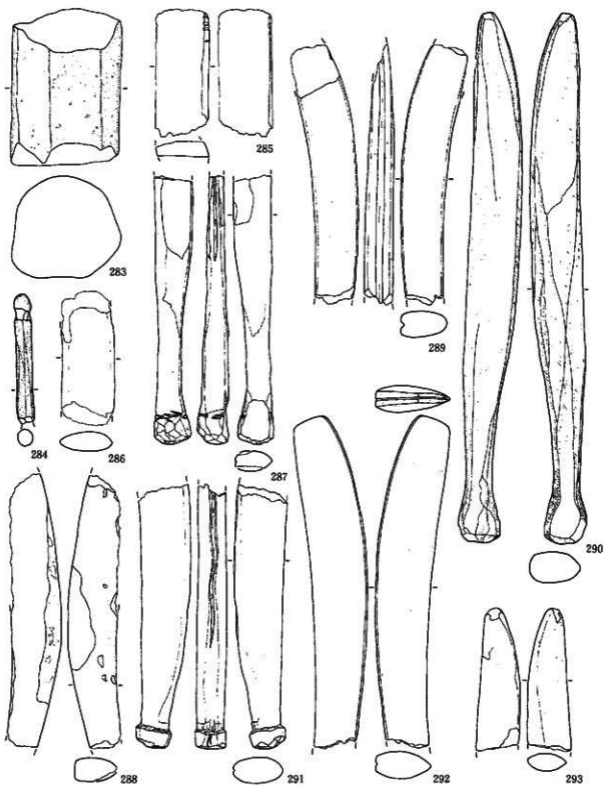
第255图 石器10 (S=1/5)



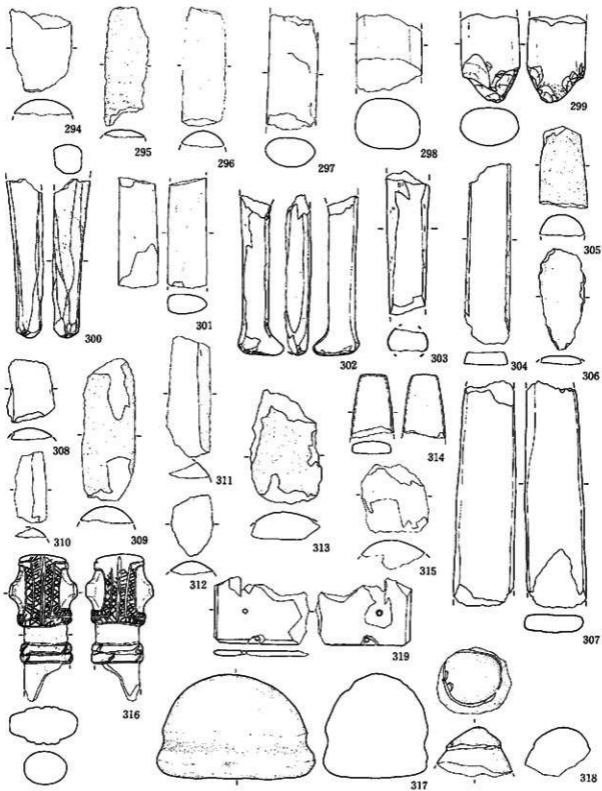
第256图 石器⑨・石製品(1) (260~267 S=1/3, 268~273 S=1/2)



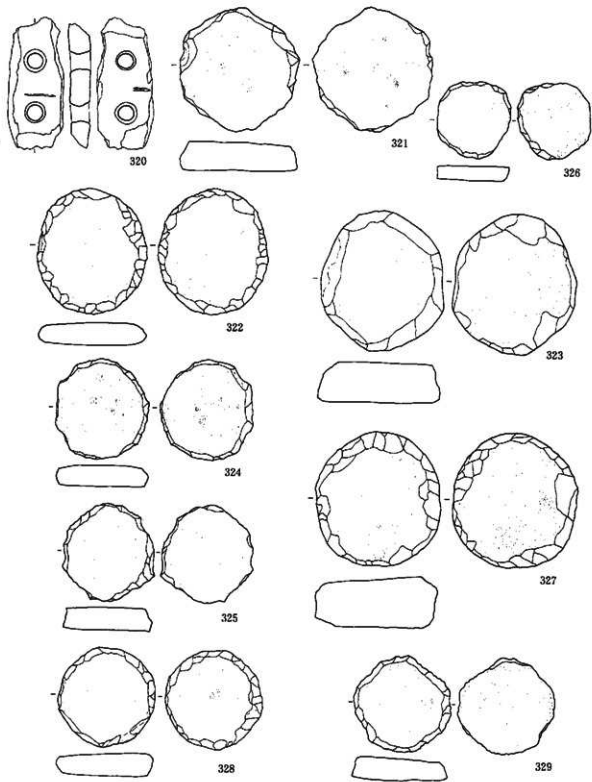
第257图 石製品(2) (S = 1/2)



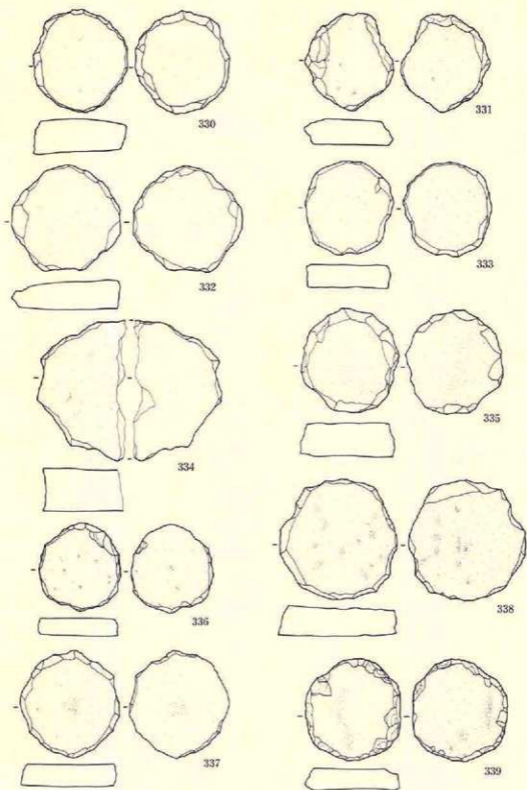
第258図 石製品(3) (S = 1/2)



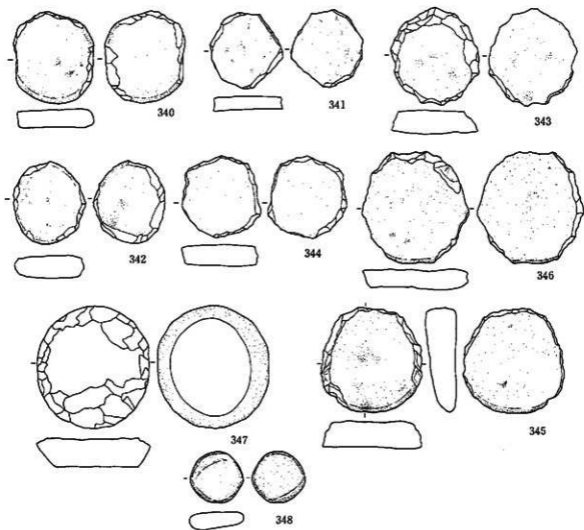
第259圖 石製品(4) (S=1/2)



第260圖 石製品(5) (S = 1/2)



第261图 石製品(6) (S = 1/2)



第262圖 石製品(7) (S=1/2)

第15表 石器・石製品観察表

No	出土地点・副位	器 種	最大計測値 (cm)			重量 (g)	石 質	保存状態	本文記載
			長さ	幅	厚さ				
1	1号住柱穴	石鏃	3.3	1.8	0.6	3.56	珪質砂岩	欠損 (基部)	
2	"	"	2.7	1.8	0.4	1.42	凝灰岩質礫岩	完形	
3	"	"	2.9	1.8	0.7	2.77	珪質砂岩	ほぼ完形	
4	7号ピット 埋土	"	2.7	1.6	0.4	1.39	赤色凝灰岩	"	
5	11号ピット "	"	2.2	1.4	0.3	0.87	凝灰凝灰岩	完形	
6	12号ピット "	"	3.4	2	1	4.33	チャート	ほぼ完形	
7	15号ピット "	"	2	1.3	0.5	0.72	珪質砂岩	完形	
8	23号ピット "	"	1.7	1.2	0.5	0.60	赤色凝灰岩	一部欠損	
9	27号ピット "	"	1.6	1.3	0.3	0.91	黒曜石	ほぼ完形	
10	42号ピット 埋土1層	"	1.9	1.7	0.6	1.69	チャート質粘板岩	1/2 (先端欠損)	
11	44号ピット "	"	2.7	1.5	0.4	0.92	赤色凝灰岩	完形	
12	45号ピット 埋土2層	"	2.4	1.1	0.3	0.62	凝質砂岩	一部欠損 (基部)	
13	46号ピット 埋土	"	1.5	1.2	0.3	0.44	チャート	完形	
14	47号ピット "	"	2	1.2	0.4	0.61	凝灰岩質礫岩	ほぼ完形	
15	51号ピット 埋土1層	"	1.9	1.4	0.3	1.09	凝灰岩質礫岩	欠損 (先端)	
16	"	"	1.6	1	0.5	0.35	チャート質粘板岩	ほぼ完形	
17	"	"	1.8	1.5	0.3	0.69	チャート	欠損	
18	53号ピット 埋土4号	"	2.4	1.8	0.4	0.87	珪質砂岩	完形	
19	56号ピット "	"	2.4	1.4	0.3	0.82	チャート	ほぼ完形	
20	56号ピット 埋土1層	"	2.6	1.3	0.3	0.76	珪質砂岩	"	
21	56号ピット 1層	"	2.2	2	0.6	2.31	チャート	欠損	
22	56号ピット 埋土	"	2.3	1.3	0.5	0.94	赤色凝灰岩	ほぼ完形	
23	"	"	2.5	1.4	0.3	0.70	チャート	"	
24	"	"	2.5	2	0.4	0.74	凝灰岩質礫岩	完形	
25	"	"	2.8	1.8	0.4	1.47	チャート	欠損	
26	67号ピット 埋土6層	"	1.7	1.2	0.3	0.36	チャート	ほぼ完形	
27	"	"	1.9	1.2	0.4	0.50	黒曜石	完形	
28	"	"	1.6	1.4	0.3	0.31	珪質砂岩	欠損 (先端部)	
29	1Ca 粘層付合板	"	3.7	2.1	0.9	5.84	珪質砂岩	欠損 (基部)	
30	1Ca 粘層付合板	"	2.2	1.2	0.5	1.16	珪質砂岩	"	
31	2Ca~2Da-B3層	"	3.2	1.4	0.7	1.80	チャート質粘板岩	ほぼ完形	
32	2Ca	"	1.9	1.2	0.3	0.41	珪質砂岩	"	
33	2Dc	"	2.9	1.3	0.4	1.26	凝質砂岩	一部欠損	
34	2Df	"	1.7	1.3	0.25	0.30	チャート	1/2 (先端欠)	
35	2Dh・遺層下20cm	"	3.6	1.4	0.5	1.43	チャート	完形	
36	2Di・16層	"	2.2	1.5	0.3	0.55	赤色凝灰岩	一部欠損 (基部)	
37	2Di・4a5層	"	2.3	1.6	0.4	1.18	"	一部欠損	
38	2Di・26a~27層	"	2.8	1.8	0.5	1.67	チャート	欠損 (基部)	
39	2Dp	"	2.3	1.8	0.35	0.77	珪質砂岩	欠損	
40	2Dq	"	2.4	1.5	0.25	0.61	凝灰岩質礫岩	完形	
41	2Dr・6b層	"	1.9	1.4	0.3	0.49	チャート	一部欠損 (先端)	
42	2Dr	"	2	1.8	0.5	1.25	赤色凝灰岩	"	
43	2Di・18層	"	2.4	1.3	0.3	0.66	チャート	一部欠損 (基部)	
44	2Dv・遺層下50cm	"	2	1.8	0.5	1.42	黒曜石	一部欠損 (先端)	
45	2Dv・"	"	2.7	1.8	0.7	3.42	チャート	一部欠損?	
46	2Dw・10層下部	"	1.4	1.4	0.4	0.50	チャート	ほぼ完形	
47	2Dwx・10a2層	"	1.8	1.5	0.3	0.40	赤色凝灰岩	"	

No	出土地点・層位	層 種	最大計測値 (cm)			重量(%)	石 質	保存状態	本 文 記 載
			長さ	幅	厚さ				
48	2Dx	石層	2.1	1.6	0.25	0.82	チャート	欠損(基部)	
49	2Ep	"	2.3	1.4	0.4	0.82	チャート	"	
50	2Ep	"	2	1.2	0.16	0.38	チャート	ほぼ完形	
51	2Ep	"	1.8	1.5	0.3	0.48	チャート	完形	
52	2Ep	"	2.2	1.2	0.4	0.63	粘板岩	"	
53	2Ep	"	1.8	1.5	0.43	0.77	チャート質粘板岩	ほぼ完形	
54	2Eu・18層	"	4.2	1.9	0.6	3.43	粘板岩	欠損	
55	3Di・18層下部	"	1.7	1.5	0.3	0.45	赤色凝灰岩	ほぼ完形	
56	3Di・13層(赤土中)	"	2.2	1.4	0.3	0.62	"	"	
57	3Dm・4c1層	"	2	1.5	0.3	0.67	チャート質粘板岩	欠損(先端部)	
58	3Do・12a2層	"	1.8	1.4	0.3	0.66	チャート	一部欠損(先端部)	
59	3Dr・b層	"	2.4	1.8	0.7	2.58	"	一部欠損	
60	3Dr・b層	"	1.8	1.6	0.3	0.50	赤色凝灰岩	欠損(基部)	
61	3Dr・b層	"	2.2	1.8	0.5	1.52	"	一部欠損	
62	3Dr・b層	"	1.3	1.2	0.3	0.30	"	一部欠損(基部)	
63	3Dr	"	2	1.5	0.5	0.86	"	完形	
64	3Eb	"	2.4	1.9	0.3	0.70	チャート	一部欠損	
65	3Eb	"	2.2	1.9	0.4	0.78	粘質泥岩	完形	
66	3Ef・10層	"	1.4	1.5	0.35	0.46	チャート質粘板岩	欠損(先端、基部)	
67	3Ek・道幅から20cm	"	2.3	1.4	0.4	0.89	チャート	完形	
68	3E1・19層上部	"	2.7	2.2	0.7	2.13	"	一部欠損(先端部)	
69	3E1・19層中間部	"	1.9	1.5	0.25	0.46	"	"	
70	3E2	"	1.5	1.5	0.25	0.24	"	ほぼ完形	
71	3Ep・風見	"	1.7	1.3	0.4	0.66	チャート	一部欠損(先端部)	
72	南北セクション③ 2層上部	"	2.1	1.2	0.3	0.64	赤色凝灰岩	ほぼ完形	
73	加藤街ベルト b層	"	1.7	1.4	0.5	0.64	"	一部欠損	
74	北区 4a2層	"	1.9	1.4	0.2	0.37	黒曜石	一部欠損(基部)	
75	4Fo	"	4	2	0.9	5.69	赤色凝灰岩	ほぼ完形	
76	5Fc～e・5d'層から18cm	石層	4.5	1.9	0.6	4.78	殊長質細粒凝灰岩	一部欠損(基部)	
77	横断位内十層	"?	2.2	1.3	0.4	0.92	黒曜石	"	P 368
78	3Eb	"?	3.6	0.9	0.4	1.23	凝質凝灰岩	一部欠損(先端部)	"
79	4Fl・黄土から30cm	"?	4.6	1.4	0.7	3.17	チャート質 粘板岩	一部欠損	
80	5Fj・21層上から29cm	"	2.7	1.5	0.45	0.76	赤色凝灰岩	欠損(基部)	
81	11号ピット 粘土	尖稜岩	5.1	3.1	1.2	16.32	殊長質粗粒凝灰岩	ほぼ完形	
82	13号ピット 1層粘土	"	4.2	2.2	0.9	7.22	赤色凝灰岩	"	
83	北区ピット?	"	3.1	2.2	1	5.99	粘質泥岩	欠損	
84	南区ピット?	"	3.9	2	0.6	4.58	殊長質粗粒凝灰岩	一部欠損(先端)	
85	2C6・土層から30cm	塊状石層	3.3	1.8	0.8	3.98	赤色凝灰岩	完形	
86	13号ピット 埋工7層3層の層から	石層	3	2.2	0.5	1.25	粘質泥岩	一部欠損(先端)	
87	2Ek・25a層	"	3.2	1.1	0.4	1.01	粘質泥岩	ほぼ完形	
88	2Ek・25a層	"	2.5	0.9	0.6	1.23	チャート	厚層(先端)	
89	2Ek・31層	"	4.6	2.9	0.5	6.74	殊長質粗粒凝灰岩	一部欠損(先端)	
90	3Dn・10層中間部	"	2.6	0.8	0.4	0.54	チャート	ほぼ完形	
91	3Dm・13層中間部	"	0.2	2.2	0.7	2.61	粘質泥岩	"	
92	3Dn・30層下部	"	4.6	1.1	0.7	2.78	"	欠損(先端部)	
93	3Dn・4b2層中間部	"	3.5	1.2	0.6	1.81	チャート	"	
94	4Pi・18層	"	4.2	1.9	0.6	1.77	チャート質粘板岩	一部欠損(先端)	

No.	出土地点・層位	器 種	最大計測値 (cm)			重量 (g)	石 質	残存状態	本 文 記 載
			長さ	幅	厚さ				
95	4 Fj - 表土から 50 cm	石籠	5.3	1.9	1.2	6.98	チャート	ほぼ完形	
96	4 Fj - 21 層 (2 層との境)	"	3.2	1.5	0.9	3.34	"	一部欠損 (先端)	
97	4 Fw - 表土から 60 cm	"	2.7	1.5	0.4	0.95	チャート	"	
98	18 号ビッド	石籠?	5.2	3.8	0.7	17.40	粘板岩	"	
99	2 C - 10 cm	"	2.8	1.9	1.1	2.55	流紋岩質燧石層状灰岩	"	
100	4 Fx - 21 層上から 40 cm	"	2.6	1.1	0.6	1.65	珪質泥岩	欠損 (先端部)	
101	68 号ビッド	石籠	8.1	3.8	1.5	47.57	珪長質燧石層状灰岩	一部欠損	
102	2 Co - 1 層下から 10 cm	"	11.6	4.8	2.5	103.96	珪質凝灰岩	完形?	
103	4 Ft - 表土から 100 cm	"	7.3	3.5	1.3	29.44	珪長質燧石層状灰岩	"	
104	5 Fy - 40 cm	"	5.9	3.5	1	23.62	硬質泥岩	欠損	
105	5 Fx - 3 層	"	7.0	4.1	1.4	45.39	珪長質燧石層状灰岩	一部欠損 (先端)?	
106	6 Fd - 表土から 40 cm	"	8.3	3.4	1.3	34.64	珪長質燧石層状灰岩	完形?	
107	44 号ビッド・埋土 3 層	石籠 (たて)	7	3	1.1	17.76	"	完形	
108	1 C - 1 層	"	6.7	2.5	0.6	0.95	硬質泥岩	ほぼ完形	
109	2 Co - 1 層	"	7.2	2.1	0.8	10.02	珪質凝灰岩	一部欠損 (先端)	
110	2 Dn - 20 cm	"	10.1	3.2	0.9	23.92	粘板岩	欠損 (先端)	
111	2 Dm - 23 層	"	4.8	2.3	0.4	4.95	珪質泥岩	一部欠損 (基部)	
112	2 Ek - 26 a 層	"	5.6	2.1	0.7	9.23	粘板岩	完形	
113	2 Ek - 27 層	"	6.3	1.9	0.5	7.22	珪長質燧石層状灰岩	欠損 (先端)	
114	2 Eo - 18 層上部	"	4.3	2.9	0.7	7.71	チャート	"	
115	2 Eo - 40 cm	"	5.2	2.3	0.6	5.49	チャート質粘板岩	一部欠損 (先端)	
116	2 Ew - 18 Q 層	"	5.2	2.5	0.8	5.91	珪質泥岩	欠損 (胴部側縁)	
117	3 De - 2 層上部	"	7.4	3.3	0.7	16.64	赤色凝灰岩	一部欠損 (基部)	
118	3 De - "	"	5.7	2.2	0.6	7.01	珪質泥岩	欠損?	
119	3 Dq - 4 層上部	"	4.4	2.3	0.5	5.36	粘板岩	完形?	
120	3 Ee - 30 cm	"	7.2	3.7	0.6	11.83	粘板岩	欠損 (先端部)	
121	3 Ek - 4 f 1 層	"	8.3	3.7	0.7	16.97	珪長質燧石層状灰岩	完形	
122	3 Ee - 燧石	"	8.8	2	0.6	10.38	"	欠損 (胴部側縁)	
123	4 Fe - 表土から 60 cm	"	6.7	1.9	0.7	8.49	珪質泥岩	完形	
124	4 Fw - 21 層上から 20 cm	"	6.8	3.6	1.3	17.98	"	"	
125	5 Fj - 表土から 40 cm	"	4.5	1.4	0.6	3.21	チャート	欠損 (先端部)	
126	5 Fx - 表土から 60 cm 3 層	石籠 (たて)	6.5	1.7	0.7	6.76	流紋岩質燧石層状灰岩	完形	
127	洞区	"?	4.6	1.6	0.6	5.05	珪長質燧石層状灰岩	欠損 (基部)	
128	1 号住	石籠 (横)	4.3	6.2	0.9	18.45	珪質泥岩	完形	
129	2 Dn - 20 cm	"	3.2	7.9	0.8	19.05	珪質泥岩	完形?	
130	2 Do - 26 a ~ 27 層	"	3.1	4.1	0.5	8.56	チャート	欠損	
131	2 Do - 26 a ~ 27 層	"	3.8	5.1	0.6	10.38	珪質泥岩	完形	
132	2 Eo - 18 層	"	3.5	6.4	0.7	10.31	チャート	一部欠損	
133	3 Ee - 18 b 層	"	3.1	4	0.8	8.07	流紋岩質燧石層状灰岩	欠損 (先端部)	
134	5 Fx - 21 層上から 40 cm	"	3.4	6.8	0.8	11.21	チャート質粘板岩	完形	
135	洞区?・2 層上から 10 cm	"	3.5	4.1	0.8	7.58	珪長質燧石層状灰岩	ほぼ完形?	P 369
136	2 Dn - 重機から 20 cm	異形石器	1.6	2.1	0.5	1.05	軟質石英	欠損 (端部)	
137	3 Dm - 4 F 30 cm	"	1.7	1.3	0.3	0.40	流紋岩質燧石層状灰岩	ほぼ完形?	
138	1 号住	溝・形、その他	2.7	4.4	0.8	3.25	流紋岩質燧石層状灰岩	完形?	
139	1 号ビッド 埋土	"	3	1.4	0.6	2.39	赤色凝灰岩	欠損	P 369
140	3 号 - 埋土 1 層	"	4.3	3.1	0.9	8.71	流紋岩質燧石層状灰岩	完形?	
141	11 号 - 埋土	"	4.7	2.6	0.5	8.15	硬質泥岩	"	

No	出土地点・部位	産 種	最大寸法値 (cm)			重量 (g)	石 質	保存状態	本 文 記 載
			長さ	幅	厚さ				
142	12号ピット 2~3層	脈・割、その他	4.9	3.2	1.4	20.32	チャート質粘板岩	完形?	
143	13号 礎土	"	2.4	4.3	1	7.19	粘板岩	欠損?	
144	29号 "	"	2.3	2.1	1.09		チャート	欠損	
145	30号 "	"	3.3	2.5	0.5	3.30	緑質泥岩	完形?	
146	31号 "	"	3.3	1.6	0.4	2.22	粘板岩	欠損?	
147	31号 "	"	2.1	2	0.4	1.53	チャート質粘板岩	欠損	
148	31号 "	"	2.6	2.1	0.6	4.00	緑質泥岩	ほぼ完形	
149	45号 礎土	"	1.6	0.6	0.2	0.25	緑質泥岩	欠損	
150	46号 礎土1層	"	1.9	1.5	0.4	1.40	チャート	"	
151	46号ピット 礎土1層	"	2.3	1.4	0.4	1.20	緑質泥岩	欠損	
152	45号 "	"	3.6	3.7	0.5	8.13	粘板岩	完形?	
153	56号 礎土	"	3.5	2.1	0.5	3.61	緑質泥岩	欠損?	
154	56号 "	"	1.8	3.1	0.7	4.12	緑質泥岩	欠損	
155	56号 "	"	2.3	1.9	0.5	2.22	緑質泥岩	完形?	
156	56号 1層	"	3.5	2.7	0.5	4.60	緑質泥岩	欠損	
157	57号 礎土	"	2.8	2.4	0.8	5.02	緑質泥岩	完形?	
158	57号 礎土2層	"	2.2	2.3	0.8	3.79	赤色凝灰岩	欠損	
159	58号 礎土3層	"	1.5	1.6	0.3	1.17	凝灰岩質粘板岩	"	
160	3Bw 溝際ブロック	"	3.1	3.1	0.8	6.35	緑質泥岩	欠損?	
161	1C・表層包含層	"	2.6	1.9	0.4	1.91	緑質泥岩	"	
162	"	"	2.9	1.5	0.6	3.26	凝灰岩質粘板岩	"	
163	1Co・表層包含層	"	2	1.9	0.9	2.99	赤色凝灰岩	欠損	
164	1Co・表層包含層	"	2.4	3.5	0.7	5.52	"	"	
165	1Cl・表層包含層	"	4.4	2.5	0.6	5.56	チャート質粘板岩	完形?	
166	1Ep	"	3.2	2.7	0.9	8.25	黒曜石	完形	
167	2Ca・1層	"	5.1	7.9	1.2	44.66	硬質泥岩	一部欠損?	
168	2Ca・1層下から20cm	"	2.6	4.6	0.6	6.27	凝灰岩質粘板岩	完形	
169	2Ca・2層	"	3	2.4	0.9	6.33	赤色凝灰岩	"	P 366
170	2Db・下20cm	"	4.7	3.1	0.8	11.31	緑色粘板岩	完形	
171	2Dn・2Dn1層	"	3.2	2.9	1.2	11.66	チャート	一部欠損	
172	2Dn・70cm	"	3.4	6.6	1.1	89.80	チャート質粘板岩	完形	
173	2Do・26a~27層	"	3.5	2.1	0.8	5.05	緑質泥岩	欠損	
174	2Dt・18層	"	3.5	2.3	0.7	4.86	黒曜石	"	P 368
175	2Dt・2層(鳩山頂上)	"	5.7	3.8	1.2	27.36	緑色粘板岩	一部欠損	
176	2Du・1b層下部	"	4.1	2.9	1	14.23	緑色粘板岩	欠損	
177	2Dv・壁下50cm	"	4.7	2.3	0.6	9.42	凝灰岩質粘板岩	欠損?	
178	2Dy・22層	"	2.3	5.3	0.6	7.72	緑色粘板岩	一部欠損	
179	2Ea・壁底	"	6.4	6.3	1.6	54.92	硬質泥岩	完形?	
180	2Eh・27層	"	2.3	2.2	0.6	2.90	凝灰岩質粘板岩	"	
181	2Eh・27層	"	2.3	3.7	0.3	3.12	チャート	ほぼ完形	
182	2Ep・10cm厚さ?	"	2.6	1.7	0.5	2.28	チャート	欠損	
183	2Ev・18Q層	"	2.6	4.1	0.7	5.07	赤色凝灰岩	一部欠損?	
184	2Ew・18b層中間	"	3.9	5.1	1.1	18.99	緑色粘板岩	"	
185	3Di・11層	"	2.6	2.8	1.2	7.30	チャート質粘板岩	欠損?	
186	3Dj・2a層	"	5.9	7	1.9	50.57	緑色粘板岩	完形?	
187	3De・10層下部	"	1.6	1.1	0.5	0.81	赤色凝灰岩	ほぼ完形	
188	3Di・壁下から30cm	"	2.2	1.9	0.8	2.13	緑質泥岩	完形	

No.	出土地点・層位	層 種	最大寸法 (cm)			重量 (g)	石 質	保存状態	本 文 記 載
			長さ	幅	厚さ				
188	3 Ea・重層から 20 cm	黒・黒・その他	15.1	3.7	0.7	66.28	粘板岩	欠損	
190	深層側ベルト・4b2層	"	9.2	8	1.3	67.16	緑質泥岩	完形	
191	北区・4a4層	"	2.4	4.8	0.9	9.14	"	完形?	
192	4 Fo・6 ベルト 1層	"	5.3	5.1	1.8	42.75	暗黒凝灰岩	欠損	
193	5 Fm・3層から 10 cm	"	11.2	8	4.1	307.99	硬質泥岩	"	P 369
194	5 Fh・表土から 60 cm	"	3.5	5	1	15.57	緑質泥岩	"	
195	1号肥石・表土から 40 cm	打製石片	11.4	9.9	4.2	825	粘板岩	"	
196	11号ビット・上層から 10 cm	"	16.3	5.7	2.3	281.13	千枚岩質凝灰岩	一部欠損	
197	15号ビット・埋土	"	9.4	3.1	1.6	58.39	粘板岩	ほぼ完形?	P 368
198	68号ビット	"	17.2	8.5	6.6	1120	両輝石夾小岩	一部欠損	
199	3 Dd・11a2層	"	15.7	6.2	4	460	粘板岩	欠損	
200	4 Fj・表土から 70 cm	"	14.6	5.1	2.6	235.08	粘板岩	"	
201	4 Fj・2層	"	15.9	5.4	2.9	428	緑色凝灰岩	1/2→接合	
202	4 Fj・21層から 30 cm	"	11.1	6.8	2.3	249.92	粘板岩	完形?	
203	5 Fd・表土から 30 cm	"	8.6	3.7	1.7	48.31	ホルンフェルス	破片?	
204	5 Fa・" 50 cm	"	15.4	5.9	2.6	368	粘板岩	欠損	
205	5 Fw・3c-3g下層	"	12.7	5.3	3	256.94	粘板岩	完形?	P 368
206	68号ビット	磨製石片	6.1	3.5	1.6	56.15	凝結凝灰岩	1/2	
207	1c1・鉄屑包合層	"	4.6	2.5	0.9	17.26	チャート質暗色凝灰岩	一部欠損(基部)	P 369
208	3 Dmm	"	8.6	4.8	2.7	183.21	輝石夾山岩	欠損(基部)	"
209	3 Eb・重層 40 cm	"	3.1	2.4	0.7	6.45	凝灰岩	1/2(先端欠損)	"
210	4 Fj・11b上から 30 cm	"	11.5	5.3	2.5	227.85	硬砂岩	欠損(先端)	
211	2 Dm・10a3層	"?	2.9	3.1	0.5	6.30	凝灰岩	破片	P 368
212	3 Ec・取層下 70 cm	"?	2.5	3.5	0.5	7.52	細粒凝灰岩	"	"
213	5 Fi・21層上から 30 cm	"?	3.3	4.4	2.8	78.15	"	"	"
214	2 Dq・4a3層下部	"(小形)	2.6	1.8	0.7	5.13	凝結泥片岩	1/2(先端・基部)	
215	埋土	"(小形)	3.6	1.6	0.5	5.31	粘板岩	欠損(先端)	
216	1号肥石	磨石	8.6	6.8	3.7	490	両輝石夾山岩	完形	"
217	58号ビット	"	2.7	3.1	1.9	18.71	両輝石夾山岩	破片	
218	2 Cj・2層→3層	"	10.5	8.8	4.4	700	角閃石夾山岩	完形	
219	2 Co・4層下段	"	19.4	9.3	5	830	両輝石夾山岩	ほぼ完形	P 368
220	2 Eak・25b層	磨石	7	8	4.5	279.54	両輝石夾山岩	完形	
221	4 Fj・1層	"	8.7	5.9	2.3	211.63	緑質質凝結凝灰岩	"	P 368
222	56号ビット 埋土 1層	磨石	8.6	7.8	3	279.54	両輝石夾山岩	"	
223	68号ビット	"	6.8	6.8	1.8	118.84	凝灰岩	ほぼ完形	P 368
224	4 Fj・表土から 30 cm	"	6.9	6.5	1.9	118.31	凝結凝灰岩	"	"
225	3 Dm・4b1層上部	"	6.9	6.9	4.5	282.58	両輝石夾山岩	完形	
226	3 Dmm・11層上部	特殊な肥石	5.2	2.9	2.7	59.12	粘板岩	ほぼ完形?	P 368
227	62号ビット 埋土層側	磨石?	7.3	7.2	2.8	255.75	粘板岩	"	"
228	1 B・鉄屑包合層	磨石?	7.5	4	2.7	85.57	凝灰岩	"	"
229	2 Ch・2層(1→20 cm)	磨石	8.8	7.9	4.8	535	両輝石夾山岩	"	"
230	2 Cj・30 cm	"	9	8	4	239.86	"(磨石)	一部欠損	
231	2 Dvw・2層	"	7.7	7.2	4.3	358	両輝石夾山岩	完形	P 368
232	4 Fa・21層上から 40 cm	"	11.5	6.7	3.2	335	プロビライト質暗色凝灰岩	完形	
233	1 Dv	石皿	10.8	11.6	3.6	408	デイサイト質凝灰岩	1/4以下	
234	3 Dd・重層から 50 cm	"	20.6	10.6	4.2	1375	両輝石夾山岩	1/3?	
235	3 Di・重層から 30 cm	"	14.2	24.6	3.4	174.5	緑質質凝結凝灰岩	1/2以下	

No	出土地点・層位	器 種	最大寸法値 (cm)			収束(%)	石 質	保存状態	本 文 記 載
			長さ	幅	厚さ				
236	3 Dn - 重機下 50 cm	石環	9.2	7	3.6	168.15	凝灰岩	破片	
237	3 Ff - 機孔	"	12.4	13.1	2.2	504.9	アイサイト質凝灰岩	1/2	
238	2 Du - 40 cm 伊石?	"?	12.7	18.5	6.4	2150	両輝石安山岩	"	P 369
239	3 Em - 18 b 上層	"	15.7	12.9	5.9	970	"	"	"
240	4 Fy - 表土から 90 cm	磁石	5.8	6.5	4	177.64	両輝石安山岩	欠損	
241	2 Du - 重機から 30 cm	"?	10.4	9	4.8	342	凝灰岩	不明	
242	2 Du - " 10 cm	切目石輪	6.2	2.2	1.6	29.53	緑色凝灰岩	完形	
243	60 号ビット 4層	打欠石輪	4.9	5.9	1.2	35.04	アイサイト質凝灰岩	"	
244	2 Cy - 4 層下層	"	6.1	4.3	1.9	81.47	緑色凝灰岩	"	P 370
245	2 Dc - 4 a 1 層下層	"	5.4	5.5	1.8	71.49	粘板岩	"	
246	3 Dd - 10 a 2 - 11 a 1 層下層	"	8.5	11.2	2.9	485	両輝石安山岩	"	
247	3 Dn - 9 層	"	5.3	6.3	1.3	61.56	アイサイト質凝灰岩	"	
248	3 Dmn - 重機下 20 cm	"	6.1	7.1	1.3	71.03	両輝石安山岩	"	
249	3 Dmn - " 30 cm	"	5.5	7.8	1.2	89.31	緑色凝灰岩	"	
250	3 Dmn - " 30 cm	"	5.7	9	1.9	129.68	両輝石安山岩	"	
251	3 Dmn - 重機下 40 cm	"	3.5	6.9	1	61.40	両輝石安山岩	完形	
252	" " "	"	5.8	7.5	1.4	91.86	両輝石安山岩	"	
253	" " "	"	5.4	7.9	1.2	86.11	"	一部欠損	
254	" " "	"	5.7	8.5	1.3	96.22	"	完形	
255	" " "	"	5.5	7.8	1	68.85	粘板岩	"	
256	" " "	"	5	6	1.1	63.38	両輝石安山岩	"	
257	" " "	"	6.2	6.1	1.3	84.14	"	"	
258	" " "	"	5.5	7.5	1.5	78.15	"	"	
259	" " "	"	5.8	6.4	1.6	80.38	両輝石安山岩	"	
260	" " "	打欠石輪	5.6	6.3	1.2	66.63	両輝石安山岩	"	
261	3 Dya - 4 b 2 層上層	"	7.6	8.8	1.3	140.71	両輝石安山岩	"	
262	5 Fc - 21 層上から 60 cm	"	5.9	6.5	1.6	95.32	"	"	
263	3 Df - 4 層	アスファルト石輪	3.3	4.9	1.3	30.51	凝灰岩	"	
264	3 Df - 4 層	"	3.4	4.3	1.5	31.38	アイサイト質凝灰岩	"	
265	3 Df - 4 層	"	3.9	5.2	1.3	36.77	"	"	
266	3 Dg - 4 層	"	3.4	3.8	1.4	27.63	両輝石安山岩	"	
267	4 Fr - 3 層上から 10 cm	"	4.9	5.5	2.2	98.07	両輝石安山岩	完形	
268	2 Dg - 6 層	有孔脚 (石輪)	7.4	3.6	1	28.72	凝灰質粘板岩	1/2?	
269	3 Dmn - 4 b 2 層	"	6	3.6	1.4	44.31	凝灰凝灰岩	完形	
270	2 Df - 10 cm	石輪	33	4.2	4.1	550	粘板岩	(別冊のみ)	
271	2 Df - 40 cm	"	7.3	5.6	6.8	210.55	粘板岩	破部のみ	P 370
272	2 Dc - 重機から 20 cm	"	12.2	5.9	2	138.38	"	欠損	
273	2 Ek - 50 cm	"	9.8	3.8	1.8	99.71	粘板岩	"	
274	2 Er - 60 cm	"	18.7	3.3	0.9	76.47	粘板岩	"	
275	2 Eu - 30 cm	"	16.4	5.4	0.8	107.12	粘板岩	"	
276	4 Fg - 21 層上から 30 cm	石輪	26.9	4.4	4	635	"	欠損	
277	4 Fi - 12 層	"	11	4.6	1.1	90.42	"	"	
278	4 Fa - 21 層から 20 cm	"	8.9	4.6	3.9	268.42	"	"	
279	4 Fy - 表土から 90 cm	"	6.6	4.1	0.6	27.56	"	破片	
280	5 Fd - 21 層上から 10 cm	"	15.1	6.1	6.3	1010	アイサイト	欠損	
281	5 Fa - 表土から 80 cm	"	7.5	3.9	3.4	96.76	粘板岩	割断破片	
282	4 Fe - 2 層	"?	4	1.2	0.6	3.51	凝灰凝灰岩	欠損	P 370

No.	出土地点・層位	器 種	最大寸法値 (cm)			重量 (g)	石 質	残存状態	本文記載
			長さ	幅	厚さ				
283	4 Fb・表土から 70 cm	石棒?	12.2	8.4	7.8	1418	ダイアイト	割部破片	P 370
284	“・” 50 cm	“?	6.8	1	0.9	7.57	新緑凝灰岩	一部欠損(基部)	“
285	6a号ビット	石剣	6.7	2.8	0.8	18.56	粘板岩	破片	“
286	3 Fy・表土から 45 cm	“	7	2.7	1.1	33.72	“	“	“
287	2 Dd・50 cm	石刀	14.1	2	1.4	53.51	粘板岩	欠損(先端)	“
288	2 Dk・40 cm	“	2.6	14.5	1.2	44.17	“	欠損	“
289	2 Dc・正ペレット左側1b~4 a1層	“	2.5	13.6	1.4	81.30	“	“	P 370
290	3 Dd・重機下 60 cm	“	2.6	27.7	1.6	179.15	“	ほぼ完形	“
291	3 Dy・“から 70 cm	“	14	2.8	1.5	79.79	“	欠損(先端)	P 370
292	3 Ea・“下 40 cm	“	17.6	2.9	1.4	122.39	“	欠損	“
293	3 Ev・カクラン	“	2.3	7.6	0.9	22.92	“	基部破片	“
294	6a号ビット 埋土3層	石剣類	4.3	3.2	0.9	15.37	粘板岩	破片	“
295	1 Dv・30~40 cm	“	6.2	2.2	0.4	7.12	粘板岩	“	“
296	1 Ea・カクラン	“	6.2	2.2	0.9	17.87	粘板岩	“	“
297	2 Cm・2層	“	5.9	2.6	1.5	31.16	“	“	“
298	2 Cs・2層 (~20 cm)	“	4	3.5	2.6	43.64	“	“	“
299	2 Cy・4層下部	“	4.6	3.1	2	45.31	“	“	“
300	2 Dk・重機から 30 cm	“	8.3	1.8	1.5	38.31	“	欠損(先端)	“
301	2 Du・2 Dv・4a3層	石剣類	2	5.7	1	21.91	千枚岩質凝灰岩	破片	“
302	2 Dy・11a2層	“	8.3	2.4	1.3	29.46	粘板岩	欠損(先端)	P 370
303	2 Dq・重機から 20 cm	“	7.5	2.2	1.1	29.48	粘板岩	破片	“
304	2 Ev・21層	“	9.5	2.3	0.7	33.21	粘板岩	“	“
305	2 Ew・重機下 30 cm	“	4.3	2.6	1.1	17.74	粘板岩	“	“
306	3 Dd・10a2=11a1層	“	5.3	2.3	0.5	6.12	粘板岩	“	“
307	3 Fy・表土から 50 cm B1b から 30 cm	“	3.1	11.9	0.9	79.82	千枚岩質凝灰岩	欠損	“
308	4 Fa・16層	“	3.3	2.5	0.6	6.85	粘板岩	破片	“
309	4 Fb・表土から 60 cm	“	7.4	2.8	1	26.56	粘板岩	“	“
310	4 Fc・表土から 30 cm	“	3.7	1.7	0.5	3.39	粘板岩	“	“
311	4 Fe・表土から 60 cm	“	6.4	2.3	0.8	12.34	粘板岩	破片	“
312	4 Fo・“ 70 cm	“	3.2	2.2	0.7	5.36	粘板岩	“	“
313	4 Fv・21層上から 30 cm	“	6	3.7	1.5	44.65	粘板岩	“	“
314	5 Fe・表土から 80 cm	“	3.3	2.2	0.7	8.88	粘板岩	“	“
315	5 Fd・“ 28 cm	“	3.6	3.5	1.6	19.79	粘板岩	“	“
316	5 Fg・表土から 50 cm B1b上 面から 30 cm	“	7.7	3.6	2	68.75	粘板岩	破片(縁部のみ)	“
317	4 Fo・1層	石瓦	5.5	8.3	5.5	375	両輝石安山岩	完形	“
318	2 Dk・重機下 20 cm	“?	2.5	3.7	3.2	22.27	流紋岩質凝灰岩	欠損	“
319	1 Dv・10 cm	石製香炉品?	3.5	5	0.3	7.95	粘板岩	“	“
320	2 Dv・20 cm	石製香炉品	6.9	2.9	1.1	29.17	粘板岩	“	P 370
321	1 B・後期包含層	円盤状石製品	6.5	6.3	1.5	102.19	緑色凝灰岩	一部欠損?	“
322	1 Cy・10 cm	“	8.6	5.8	1.2	75.40	“	完形	“
323	1 Cy	“	7.4	6.5	2.1	189.95	両輝石安山岩	完形?	“
324	2 Cv	“	5.3	4.9	1.1	45.96	流紋岩質凝灰岩	ほぼ完形	“
325	2 C	“	5.2	4.8	1.2	51.63	両輝石安山岩	“	“
326	2 Dv・2層	“	4	3.9	0.7	19.31	両輝石安山岩	完形?	“
327	2 Dk・1b層	“	7	6.5	2.7	254.66	両輝石安山岩	完形	P 370
328	2 Dk・1b層	“	5.3	5.1	1.2	54.49	“	“	“
329	2 Dm・70 cm	“	5.1	5.1	1.2	47.76	両輝石安山岩	完形?	“

No	出土地点・部位	器 種	最大計測値 (cm)			量数(個)	石 質	保存状態	本 文 記 載
			長さ	幅	厚さ				
330	2 Dc	円筒状石製品	5.4	5	1.7	78.31	両輝石安山岩	完形?	
331	2 Do・2層下部	"	5.1	4.6	1.4	47.50	両輝石安山岩	一部欠損	
332	2 Dst	"	5.8	5.7	1.5	77.63	"	ほぼ完形	
333	2 Dw・60 cm	"	4.9	4.5	1.3	32.69	凝灰岩	"	P 370
334	2 Ek・26 a層	"	7.4	4.5	2.3	127.91	両輝石安山岩	1/2	
335	2 Ew・30 cm	"	5.5	5	1.8	73.89	両輝石安山岩	ほぼ完形	
336	3 Da・壺橋から30 cm	"	4.7	4.3	0.9	29.59	細粒凝灰岩	"	
337	3 Dd・" 10 cm	"	5.7	5.2	1.2	62.28	両輝石安山岩	"	
338	3 Df・壺橋から50 cm	"	6.4	5.1	1.6	108.72	緑色凝灰岩	"	
339	3 Df・" 30 cm	"	5.4	5	1.1	49.74	"	"	
340	3 Dk・4 b 2層	"	4.9	4.3	1	27.35	細粒凝灰岩	完形?	P 370
341	3 Dc・11 層上部	"	4.1	3.9	0.7	16.69	アイサイト質凝灰岩	"	
342	3 Ea	"	4.5	3.8	1.2	14.96	黄緑色質凝灰岩	"	P 370
343	3 Eb・70 cm	"	5.2	4.7	1.2	49.26	両輝石安山岩	"	
344	3 Ev・4 a 1 層下部	"	4.4	4.2	1.1	36.54	"	完形	
345	3 Fv・4 b 2 層 (上10 cm)	"	5.5	5.3	1.5	61.78	両輝石安山岩	"	P 370
346	5 Fm・2 層 (10 cm)	"	5.9	5.7	1	49.04	"	"	"
347	2 Ew・壺橋下30 cm	" ?	6.5	5.9	1.5	95.77	凝灰岩	完形?	"
348	3 Dc	"	2.80	2.65	0.95	8.89	未鑑定	完形	

4. 平安時代及びそれ以降の遺物（第263図）

いずれも表土に近い部分および攪乱層の出土で、原位置を保っているものか後代に他の遺跡から持ち込まれたものか不明である。全て掲載した。

1はろくろ使用の土師器の坏で、内面は黒色処理されミガキが施されている。4 F d、1層出土。

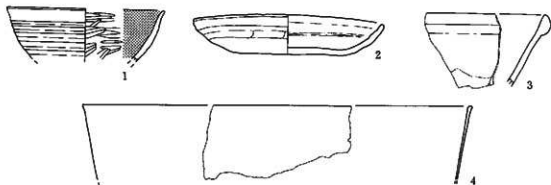
2は手づくねのかわらけで、外面の調整ははやや崩れてきているが二段ナデであり、12世紀後半に位置付けられると思われる（松本 1992）。2 D y、重機で削いだ面から10 cm以内に出土。

3は中国産陶磁器（白磁）の玉縁の椀で、口径は16.5 cm前後になるようである。いわゆる太宰府編年（横田・森田 1978）のIV類（12世紀）に相当すると思われる。2 D y、重機で削いだ面から10 cm以内に出土。

4は青銅製のものと思われるが、器種は不明である。平安時代よりずっと後代に下る可能性が高い。2 E v w、攪乱層の出土である。

参考文献

- 松本建彦 1992 「物之御所遺跡におけるかわらけ存在の意味」『紀要』XII 岩手県埋蔵文化財センター
横田賢次郎・森田 勉 1978 「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』4



第263図 平安時代以降の遺物（ $s = \frac{1}{2}$ ）

VI. 考 察

1. 遺物

①縄文土器・弥生土器

本遺跡出土土器を出土状況をもとに分類し、他遺跡出土土器との比較検討を通じて型式の編年表の中に位置付けたい。

(1)分類

出土状況に基づいた分類ということで層で取り上げた土器が中心になるのだが、第IV章の捨て場の節で述べたように、取り上げ時の手抜きもあり現場で確認したほど明白に層位的に出土していない。そこで、いささか恣意的な作業になると思われるが、比較的良好に出土している地点を選んで、これまでの土器編年の成果を考慮して分類した。その結果、縄文土器は中期、後期、晩期の土器に大別され、後期の土器はさらに細かく分けられる。なお、第264図～第276図の集成図の各土器の番号は、第V章の土器図版に合致する。

(a)縄文時代中期の土器 (27、139、209、221、289、309)

非常に少なく、後期初頭の土器に混じって散見される程度である。ほとんど全て大木8b～9式に比定される。

(b)縄文時代後期の土器 (第264図～第275図)

本遺跡出土土器の大部分を占め、さらに細かく細分される。ところで、東北地方の縄文時代後期の編年はまだ確立しておらず、不明な点が多い。そこで、既存の編年に合わせて分類するのではなく、出土土器を本遺跡での出土状況をもとに分類してみることにした。その結果、大きくⅠ～Ⅲ群に分けられた。三つに分ける基準となったのがⅡ群土器で、最も多量に出土し、遺跡内での分布も広い。この土器群との関係で出土土器を分類できるのである。そして、Ⅱ群土器より下層で出土する土器をⅠ群土器、上層で出土する土器をⅢ群土器とした。

Ⅰ群土器 (第264図ほか)

Ⅱ群土器より下層から出土し(2Ct、3Dfg、3Drsでの出土状況など)、すなわちⅡ群土器より古く、後期初頭～前葉に位置付けられる土器群。型式学的には細分が可能だが、層位的には分けられず、また出土量も少ないため一括した。宮戸Ib式のA～B群土器(後藤1974)と言われたものに最も近い。鎖状隆帯を持つ土器は認められるが(第264図218、1829)、門前式(吉田1960、熊谷1986)らしい文様を持つ土器はほとんどない(註1)。また、東北地方北部の、葛西 勳氏(葛西1979)や成田滋彦氏(成田1981、1989)、本間宏氏(本間1985、1987、1988)の言う十腰内I式の古段階(十腰内Ia式)およびそれ以前の特徴を持つ

土器も少ないようである(249、1523、2354、2444、2522、641 1803、2261等が相当?)。

II群土器(第265図～第267図)

I群土器より新しく、III群土器より古い、後期前葉に位置付けられる土器群。十腰内I式の新段階(十腰内Ib式)(成田 1989ほか)に相当あるいは比定できると思われる。第267図の下段の土器群も、611の出土状況(2Dp q)、1625の出土状況(3Dh i)などから、この時期に位置付けられると思われ、十腰内I式(新)類似の一群をII群a類、これらの土器群をII群b類とした。なお、II群a類の第265図1298は次のIII群1類に非常によく似ているが、頸部で内湾するというII群土器の器形を残しており、また胴部の文様が3本沈線で描かれていることから、II群最終末と考えた。また、第266図1803、641等は逆にやや古い特徴を持っており、I群に位置付けたほうが良いかもしれない。さらに、b類に含めた2509、1190はI群の新しい部分に位置付けるべきかとも思われるが、2509は口縁部の細かい刺突、1190は内面にも文様が見られること、胴部の文様が多条の沈線ではなく二本の沈線で描かれて性質が変わってきていることなどからII群に含めた。

III群土器(第268図～第275図)

II群土器より新しく、後期中葉以降に位置付けられる一群。III群土器は層位的にも型式学的にも細別が可能で、1～6類に細別した。1～6類は時期差を考慮した区分で、古→新の順になっている。II群→III群1類→III群2類→III群3類の序列は主として3De j、3Ea fの出土状況から示唆され、II群土器は下層の2～20層から、III群1類土器は11b1層～10層下部、III群2類土器は10層上部、III群3類土器は上層の18～19層から出土している。基本的に10層下部がIII群1類土器、10層上部がIII群2類土器、18層がIII群3類土器を出土する層のようである。他のグリッドでも大体同様の土器が出土している。

4類以降は本遺跡では出土量が少ないので、本遺跡から比較的近く(直線距離で約35km)当該土器のまとまった出土量を見た宮城県気仙沼市田柄貝塚の、出土状況に基づいたIII～IV群の土器分類(手塚 1986)を念頭において分類した。本遺跡では層位的に良好な状態で出土した地点はないが、2Do、2Ekの出土状況からその可能性を示唆され、大体において、4類が30層出土土器、5類が27層出土土器、6類が26a、26b層出土土器に相当する。なお、3類土器を出土する18層は30層より下の層である。

以下、各類ごとにその概要を述べていくが、遺跡内出土土器の検討ということで器種組成が押さえにくいので、ここでは深鉢形土器(中でも頸部が外反する器形)を中心に述べていくことをお断わりしておく。

・1類土器(第268図、第269図)

(出土地点・層)2Dyの10層、3Ddの10層、10a1～10a2層、3De j、3Ea fの

11 b 1 ~ 10 層下部等で出土。基本的に 10 層下部が 1 類土器の出土層である。

〔器種・器形・形態〕深鉢形土器以外は不明な点が多い。深鉢形土器は頸部で大きく直線的に外反する（内側に種）器形に最大の特徴を持ち（第 268 図）、この点で、頸部で内湾し口縁部で再び外反する II 群 a 類土器（第 265 図）と明確に区別される。口縁部の突起もやや発達してきて波状になることも多い（第 268 図 2083、2528、227）。波状口縁は II 群のそれが小さく緩やかに曲線的なのに対し、大きく直線的になる。壺形土器には長胴のものなどがあり、注口土器、片口土器、蓋形土器などもあるようである（第 269 図）。

〔文様帯・文様・装飾〕深鉢形土器では、大きく外反する口頸部に広い口縁部文様帯（I 文様帯）を持つ（第 268 図）。口縁部文様帯には、地文（縄文）の上に数条の平行沈線や刺突を充填することが多く、沈線に沿って一列の刺突列を施すこともある（第 268 図 2528、227）。この刺突列は 2 類土器に受け継がれ発展する（第 270 図）。また、平行沈線を() 状あるいは蛇行沈線で縦に区切ることも多い（第 269 図 1895、2418、578）。

胴部文様帯は、II 群土器に似たモチーフをとることが多いが、文様を描く沈線が II 群土器では 3 条であることが多いのに対し、III 群 1 類では 2 本（沈線間に縄文）あるいは逆に 4 本以上になっている。文様モチーフは II 群土器に似たもの以外には非常に直線的なものもある（第 269 図 2657）。この種の直線的な文様は次の 2 類土器の時期になると曲線的になり末端が丸くなる（第 282 図 7 参照）。

・ 2 類土器（第 270 図、第 271 図）

〔出土地点・層〕 2 D n の 10 a 3 層下部、3 D e j、3 E a f の 10 層上部、3 E l の 10 層上部～中間部、3 E q の 10 層上部等で出土。基本的に 10 層上部が 2 類の出土層である。

〔器種・器形・形態〕前段階の 1 類土器のそれをほぼ踏襲し、器形・形態は 1 類土器の特徴をさらに強めた感じになる。すなわち、外反する頸部はより発達し胴部に比してその割合が大きくなる（第 270 図 1662）。突起も非常に発達し、大きな波状口縁がま見られる（第 271 図 690）。

〔文様帯・文様・装飾〕口縁部とは別に頸部に文様帯（II a 文様帯）が発達し、胴部と同様の文様が描かれる（第 270 図 1148）。また様々な大形の立体的な突起が発達し、中空のものも多い（第 270 図 2558）。

文様は、前段階からの直線的な文様も見られるが、曲線的で単位が大きい磨消縄文に特徴が見られる。弧線文も存在する（第 270 図 1452）。文様の末端は丸く閉じていることが多く（第 270 図 1662、第 271 図 1955、515）、文様の中をさらに細かく区切るという手法も見られる（第 270 図 1086、2551）。文様描線に沿って刺突が加えられることも多い（第 270 図 170、1086、1148、2551）。

・ 3 類土器（第 272 図、第 273 図）

〔出土地点・層〕 2 D m の 23 b 層、3 D e j、3 E a f の 18 層下部、3 E b の 18 層中間部～下部、3 E g の 19、18、18 b 層等で出土。基本的に 18 層が 3 類の出土層である。

〔器種・器形・形態〕 前段階をほぼ踏襲しているように思われる。波状口縁の深鉢は口縁部の発達がさらに強まり、相対的に胴部が非常に小さくなる（第 272 図 1427）。また波状口縁は 5 単位が多くなる。口縁部が直立あるいは内傾する鉢形土器（広口壺）が出現するようである（第 273 図 2561）。

〔文様帯・文様・装飾〕 口縁部等にはしばしば施される刻目が大きな特徴としてあげられる（第 272 図 459、2463、1870）。この刻目は前段階（2 類）の刺突（第 270 図 1148）に取って代ったものと考えられる。曲線的な文様は前段階のそれに比べて単位がはっきりし、大きな楕円形（木の葉状？）の連続とみなされるモチーフを取ることが多い（第 272 図 1430、第 273 図 2561）。縄文は羽状縄文であるのが普通である。磨消縄文と同じ手法で、縄文を施さず、ネガ部分を一段低くする手法が注口土器などにまみ見られる（第 273 図 974）。

4 類以降は出土量が少ないので簡単に触れるにとどめる。4～6 類の比較的まとまった出土は、2 D s、2 E k、2 E v、4 F c d 等に限られ、このことから 4～6 類の主体となる層はこれより北東のより沢に近い部分にあったものと考えられる。

・ 4 類土器（第 274 図上段）

口縁部に山形突起が施されしばしば縄文帯が見られる。田柄貝塚の IV 群土器に相当する。

・ 5 類土器（第 274 図下段～第 275 図上段）

小さな瘤状突起が非常に多く施される。田柄貝塚の V 群土器に相当する。

・ 6 類土器（第 275 図下段）

入組帯状文が発達する時期であり、田柄貝塚の VI 群、VII 群に相当する。本遺跡での出土は非常に少ない。

（c）縄文時代晩期の土器（第 276 図）

前葉らしい土器もわずかに見られたが、ほとんど全て中葉に位置付けられる。後葉は出土していない。中葉の中でも、大洞 A 式に近似を示す大洞 C 式の新しい部分に位置付けられるものがほとんどで（註 2）、主として晩期の捨て場から出土している。

（d）弥生土器（第 170 図 2208）

1 点のみ確認した。前期前葉に位置付けられよう。

（2）年代と検討

本遺跡から多量に出土した縄文時代後期の土器について、他遺跡出土土器との比較を通じて各土器群の内容の検討を行ない、後期編年が確立している関東地方との対比を示すことで年代

的位置付けを行ないたい。比較する遺跡の一部は第Ⅱ章第4節で示したが、地域差が絡んでくる恐れがあるので、新山権現社遺跡を中心にして次のような地域区分を考えた。

・A地域→本遺跡から50 km以内にある遺跡。岩手県貝島貝塚(花泉町教育委員会 1971)、宮城県田柄貝塚(宮城県教育委員会 1986)、岩手県八天遺跡(北上市教育委員会 1978)などが含まれる。

・B地域→A地域より北にあり、太平洋側で本遺跡から50 km以上100 km以内にある遺跡。岩手県立石遺跡(大迫町教育委員会 1979)、同萩内遺跡(岩手県埋蔵文化財センター 1982)、同崎山弁天遺跡(大槌町教育委員会 1974)などが含まれる。

・C地域→A地域より南にあり、太平洋側で本遺跡から50 km以上100 km以内にある遺跡。宮城県宝ヶ峯遺跡(斉藤報恩会 1991)などが含まれる。

・D地域→A地域より北にあり、日本海側で本遺跡から50 km以上100 km以内にある遺跡。秋田県八木遺跡(秋田県教育委員会 1989)などが含まれる。

・E地域→A地域より北にあり、太平洋側、日本海側を問わず本遺跡から100 km以上にある遺跡。秋田県大湯環状列石周辺遺跡(鹿角市教育委員会 1986ほか)、青森県風張(1)遺跡(八戸市教育委員会 1991)、同四ツ石遺跡(青森山田高校 1986)、同上尾較(2)遺跡(青森県教育委員会 1988)などが含まれる。

なお、本来なら、A地域より南にあり、日本海側で本遺跡から50 km以上100 km以内にある地域と、A地域より南にあり、本遺跡から100 km以上にある地域も比較するべきなのだろうが、紙数と時間の関係で省略し、本遺跡出土土器と類似の土器が比較的よく見られる地域に限定することにした。

I群土器については、出土量が少ないので、これ以上の検討は省略するが、A地域の八天遺跡、田柄貝塚、D地域の八木遺跡等でまとまって出土しており参考になる。

II群土器(第277図、第278図)

まずa類土器から。A地域ではまとまって出土している遺跡は今のところ見られない。まとまった資料はB、E地域に多く、この地域では枚挙に暇がないほどある。図示した以外では、青森県近野遺跡(青森県教育委員会 1975)、同大石平遺跡(青森県教育委員会 1985ほか)、同丹後谷地遺跡(八戸市教育委員会 1986)、同田面木平(1)遺跡(八戸市教育委員会 1988)などがある。

萩内遺跡や大湯環状列石周辺遺跡、上尾較(2)遺跡には本類からIII群1類への変遷を示す良好な資料が見られる。例えば第277図8がそれで、器形や口縁部文様はかなりIII群1類に近いが、胴部文様は三本沈線で文様を描くII群a類土器のそれであり、器形も頸部で内湾するというII群土器の名残をとどめている。II群土器の最終末と捉えるべきであろう。また、第

278 図 15 の文様は、Ⅲ群 1 類にしばしば見られる直線を縦に区切る文様の祖型をなすものと考えられる。

次に b 類。東北地方北部には見られず、南部にもほとんど見られないようである（本間 1990）。b 類の中の第 267 図 2387 の注口土器と類似の文様を持つ土器は北関東に見られ、群馬県勢多郡赤城村三原田遺跡から出土した注口土器（註 3）がやや似ている。

b 類系列の文様を持つ土器の中心は堀ノ内 1 式併行期にある（本遺跡の I 群土器の新しい部分）。この点、筆者も同意するものであるが、果たしてこの時期でこの系列の文様は途絶えてしまい、次の段階には全く残らないと考えて良いものかと疑問を持ってもいる。後藤勝彦氏は宮城県南境貝塚出土土器の検討を通して、堀ノ内 1 式併行である B 群土器から C 群土器への変遷が見られるとし、C 群に分類した第 12 類は「文様の系列からいえば東北北半十腰内 1 式、大湯式の影響がやや強い」土器であるとした（後藤 1974）。この点で一般的な考え方を指示しているのだが、A 群から B 群へと系統的に変遷してきた土器がこのような別系列の C 群土器に全くとって代わられるというのはむしろ不自然のような気がする。また、具体的な資料はあげにくい、この時期に東北地方中～南部で見られる十腰内 1 式（新）類似の文様を持つ土器は壺形土器が多く、鉢形土器は、その土器組成の割合に比して少ないように思われる。秋田県南部の八木遺跡でも（秋田県教育委員会 1989）同様の様相が見られる（第 278 図 2、3）。ここでは、問題提起ということで I 群土器の中でも新しい様相を持つと思われる第 278 図 4、5 の土器をあえていっしょに掲げておいた。

Ⅲ群 1 類土器（第 279 図～第 281 図）

A 地域ではまとまって出土した遺跡は今のところ見られないが、田柄貝塚等にも散見される（第 279 図 1）。本類は B 地域の葬内遺跡（岩手県埋蔵文化財センター 1982）、崎山弁天遺跡（大槌町教育委員会 1974）にまとまった出土が見られる。B 地域以外では E 地域に比較的よく見られ、秋田県北部の大湯環状列石周辺遺跡（鹿角市教育委員会 1986 ほか）、はりま館遺跡（秋田県教育委員会 1984）、青森県四ツ石遺跡（青森山田高校 1986）などがある。

本遺跡の検討で指摘した以外に、次の点がこの類の特徴として補足される。それは口縁部の文様帯に直線的な文様を持つ土器についてである。直線的な文様はこの段階では口縁部の形態に大きく左右され、平縁なら平行直線となるが（第 279 図 1、第 280 図 9、第 281 図 10）、波状口縁だと沈縁もそれに釣られて波状になるということである（第 279 図 7、第 280 図 8、第 281 図 7、8）。この波状になる類は、次の 2 類の段階になると口縁との間に無文帯をはさむ（縦の突起を施すことが多い）ため、口縁の形態に左右されずいずれも平行直線になるようである（第 283 図 8）。

本類はこれまであまり注意されなかった一群で、その一部は本報告書で言う II 群（十腰内 I

式(脚)に分類されたり、次のⅢ群2類(十腰内Ⅱ式)に分類されたり、ただ漠然と加曾利B1式あるいはB2式併行とされることが多く、まとまった一群として扱われることはほとんどなかった。比較的まとまって出土した岩手県崎山弁天遺跡でも(大楯町教育委員会 1974)、報告者は、本報告書の第279図9～14などの土器をV群4類として、第282図4、8、第283図3などと一緒に扱い、加曾利BⅡ式併行に位置付けている。以上の経緯は、層位的に良好な資料に恵まれなかったことが最大の原因であるが、型式学的分析にも大いに問題があったように思われる。それは、常に関東地方編年を対照することに力が注がれ、東北地方での系統の変遷という視野が欠けていたからである。系統の変遷という点からみれば、十腰内Ⅰ式とⅡ式の間には大きな隔たりがあり、本類のような土器を間に挟めば十腰内Ⅰ式からⅡ式へはスムーズに変遷するという予測が型式学的にも導かれたはずである。ところで、東北地方の後期にも層位的資料から導出された編年がある。すなわち宮戸編年であるが(後藤 1962)、残念ながら後期後半に比べ前半の資料が少なかったため、本類は型式として分類されていない。

以上のような経緯のために本類はなかなか独立した一型式として分類されなかったのであるが、1986年になって、葛西 勵氏が、「十腰内Ⅰ式土器第4段階と十腰内Ⅱ式a類の間を埋める資料」として青森県四ツ石遺跡出土の第Ⅲ群土器に注目し(一部を本稿の第281図に図示した)、「四ツ石式土器」と仮称した(葛西 1986)。四ツ石遺跡の第Ⅲ群土器には十腰内Ⅱ式(本報告書の第Ⅲ群2類)土器も含んでおり、また発掘調査の報文という性格のため詳細は述べられておらず、さらに前後型式との関係が層位的にはっきりと示されなかったためか、残念ながら大方の支持を受けるにはいたらなかったようである(註4)。しかし、本類土器を初めて一型式として認定した氏の業績は高く評価されるべきであろう。

東北地方の土器編年において本類土器はなかなか正当に位置付けられなかったのであるが、北海道ではどうであったろうか。もちろん別地域なので全く同じような土器はないが、船泊上層式の中に同様の特徴を持つ土器があることに注意される。船泊砂丘遺跡第四遺跡の報文(児玉・大場 1952)で第三類C土器に分類された第四十二図～第四十九図の土器で、その器形(頸部で大きく外反し、波状口縁を持つものが多い)および文様に直線的な沈線が多用されること等に類似性が認められ、特に第四十二図の土器は口縁部文様帯を縦に分断する手法を持ち、この特徴は本類(第268図2095、第279図3)にも認められる。船泊上層式は前述の遺跡の第二層～第三層出土土器を基に層位的に導出された型式で、一部他の時期の土器を含み報告者も述べているように細分される可能性もあるが、関東編年との対比から型式学的に導出された十腰内Ⅱ～Ⅴ式や他の東北地方諸遺跡の編年とは一線を画するものである。また、北海道道央～道南の船泊上層式の直前の型式としてウサクマイC式や大津式が、それより前の型式としてはトリサキ式があげられているが(森田 1981)(註5)、これらの土器型式は十腰内Ⅰ式と似

た特徴を持っており、これらの土器型式から推移して成立した船泊上層式が、十腰内Ⅰ式から変遷した本類土器と似た特徴を持つのはある意味では当然と言える。

Ⅲ群 2類土器 (第282図、第283図)

本類もA地域には現時点ではあまり見られない。他の地域にも特にまとまって出土した遺跡は見られないが、それぞれの地域で確実に出土している。図示した遺跡以外では、E地域の、秋田県はりま館遺跡(秋田県教育委員会 1984)、青森県李平Ⅱ号遺跡(尾上町教育委員会 1980)(註6)、同十腰内遺跡(磯崎ほか 1968)などがある。

本類はこれまで十腰内Ⅱ群と呼ばれてきた土器群にほぼ相当する(磯崎ほか 1968)。

Ⅲ群 3類土器 (第284図、第285図)

本類は前述した1類、2類に比べて出土量が多く、東北地方北半部全域にまとまった資料が見られる。A地域でも岩手県貝島貝塚(花泉町教育委員会 1971)、宮城県田柄貝塚(宮城県教育委員会 1986)等でまとまっており、その他、C地域の宝ヶ峯遺跡(斎藤報恩会 1991)、E地域の岩手県川口Ⅱ遺跡(岩手県埋蔵文化財センター 1985)、秋田県中小板遺跡(秋田県教育委員会 1988)、青森県風張(Ⅰ)遺跡(八戸市教育委員会 1991)、同丹後谷地遺跡(八戸市教育委員会 1986)などが注目される。また、本類は層位的出土資料にも恵まれ、川口Ⅱ遺跡のA C 2、B B 1、B D 2住居跡、風張(Ⅰ)遺跡第13号住居跡、丹後谷地遺跡第24号住居跡出土資料などがある。第285図13～18は風張(Ⅰ)遺跡第13号住居跡出土資料である。

本類は十腰内Ⅲ群にほぼ相当するが(磯崎ほか 1968)、筆者は十腰内Ⅲ式も含めて十腰内Ⅱ～Ⅴ式という型式名は使うべきでないと考えている。ここで、十腰内編年をめぐる東北地方後期編年の現状についての疑問を述べておきたい。いわゆる十腰内編年(十腰内Ⅰ～Ⅴ式)は言うまでもなく磯崎正彦氏の十腰内遺跡出土土器の分類(十腰内Ⅰ群～Ⅵ群)に基づいている(磯崎ほか 1968)。その分類過程について少し長くなるが引用すると、「第Ⅰ群土器は黒褐色土層下半部(第Ⅱ層b)で、また第Ⅵ群土器は黒色土層(第Ⅰ層)において、かなりはっきりと疆むことができた。しかし、第Ⅱ群から第Ⅴ群までの土器は第4層から第6層まで、僅か20cm前後の厚みしかもたない黒褐色土層上半部(第Ⅱ層a)に、層位的な上下関係もなく雑然と存在していたにすぎなかった。そのため、層位的な分類の不可能だった第Ⅱ群から第Ⅴ群までの土器は、他地方における既成型式との比較によって分類した時に、ちょうど4つのグループに識別することができたという程度にすぎない」(p.331)。他地方における既成型式との比較による分類とは「黒褐色土層上半部から発見されたもののうち、関東地方の加曾利B1・2式に相当するものをまづ除き、第Ⅱ・Ⅲ群とした。次に東北地方南部で新地式と呼ばれている瘤状突起の多い一群を除いて第Ⅴ群とし、残りを一括して第Ⅳ群としたわけである」(p.341)というものであり、磯崎氏も述べているように「内容において不備な点が著しく多いのである」

(p 331)。したがって、その分類過程を考えれば、第Ⅱ～Ⅴ群は一遺跡内出土土器の分類にとどまるものであり、とても型式として昇華し得るものではない。確かに磯崎氏の分類は優れたもので、第Ⅱ～Ⅴ群の「群別は一応型式的な差であり」、「型式推移の大勢として第Ⅰ群から第Ⅵ群土器への序列については、ほとんど疑問の余地がない」(p 331)が、あくまで一つの目安であり型式としても暫定的なもので、良好な層位的出土資料が出土した時点で取って代られる性質を持つものである。ところが、その後良好な資料が積み重ねられても(註7)相変わらず十腰内Ⅲ～Ⅴ式は使われ続けたのである(註8)。それだけ磯崎氏の編年が優れていて非の打ち所がなかったと言えそれまでであるが、その述べられた内容を見るかぎり、そのようには思われない。特に問題となるのは残りもののⅣ群とⅢ群、Ⅴ群との境である。Ⅲ群とⅣ群の違いは羽状編文の原体の違いであるが、これは層位的一括資料に基づいて検討された違いならともかく、混在したものから型式学的に分類された土器群の中での違いであるから説得力に乏しい。また、第Ⅲ群土器の特徴として、やや膨れ上がった口縁の外側に連続して加えられた刻目を挙げているが、同様の刻目は第Ⅳ群として分類された土器の中にもあり(報文のPL, 74-128など)、その違いはどこに求められるのであろうか。これらの問題点のため十腰内Ⅲ式、Ⅳ式の内容は研究者によって異なっているのが現状である。根拠が乏しく型式として妥当であるかどうか不明な型式ではなく、誰もが共通に検討し得る良好な層位的資料に基づいて設定された型式がやはり必要であろう。十腰内Ⅲ～Ⅴ式はもう卒業する時期に来ているのではないだろうか(註9)。

Ⅲ群4類以降は本遺跡では出土量が少ないが、A地域の田柄貝塚でかなりまとまった量が良好な状態で出土しており(宮城県教育委員会 1986)、また詳細な検討があるので(手塚 1986、高柳 1988)、本報告書では割愛する。

東北地方の後期、特に中葉には確立した型式名がなかった。これまで使われてきたものには、十腰内Ⅱ式、Ⅲ式(磯崎ほか 1968)、宮戸Ⅱa、Ⅱb式(後藤 1962ほか)、宝ヶ峯式(伊東 1952)などがあるが、十腰内Ⅱ式、Ⅲ式には層位的裏付けがなく、前述したように十腰内Ⅰ式とⅡ式の間には大きな隔りがある。宮戸Ⅱa、Ⅱb式には層位的裏付けはあるが、Ⅲa、Ⅲb式に比べて時間幅が広く、型式内容に不明な点が多い。宝ヶ峯式にいたっては学史上の意味しかない。本遺跡の検討で抽出したⅢ群1類～3類は一応の層位的裏付けもあり、Ⅱ群a類からⅢ群3類まで大きな隔りもなく系統的に変遷する。また、分布もある程度の広がりを持ちB地域までは確実に存在することが押さえられた。そこで、器種組成の確定等の課題は残すが、本遺跡のⅢ群1～3類土器をそれぞれ新山権現社1～3式とし、東北地方中部(北半部まで広がる可能性が高い)の後期中葉の土器型式として提唱したいと思う。併せて、田柄貝塚Ⅳ～Ⅶ群を田柄1～4式として後期後葉の型式名として提唱したい。なお、初頭～前葉については、

A地域の中でも地域差があり不明な点が多く、本遺跡の検討からは導き出すことができないので保留しておく。

最後に、以上の型式が関東地方のどの型式に併行するかの見通しを述べて本項のまとめとする。

新山権現社2式は十腰内Ⅱ群相当であり、これを分類した磯崎正彦氏は加曾利B1式併行と言っている(磯崎ほか 1968)(註10)。しかし、十腰内Ⅰ式(新)(本遺跡のⅡ群a類)は、しばしば言われてきたように(註11)、堀ノ内2式併行であることは間違いないと思われるし、十腰内Ⅱ群はⅠ群との間に大きな隔たりがあり、これが堀ノ内2式のすぐ後にくる加曾利B1式と併行するとはとても思われない。さらに十腰内Ⅱ群b類にはⅡa文様帯が見られる。山内清男氏は、関東地方でⅡa文様帯が見られるのは加曾利B2式からと述べている(山内 1964)。以上から十腰内Ⅱ群に相当する新山権現社2式は加曾利B2式併行と考えた方が良いと思われる。そして、新山権現社1式は、十腰内Ⅰ式(新)と新山権現社2式の位置付けおよび共通の要素が見出だせる船泊上層式の位置付けから(鷹野 1978)、加曾利B1式併行になる可能性が高い。また、新山権現社2式からの系統性が強い新山権現社3式は、口縁部にしばしば刻目帯を持ち、これは加曾利B3式にも共通する要素であることから(大塚 1983、1989)、加曾利B3式に併行すると思われる。

田柄1～4式については詳述は避けるが、1式は曾谷式、2式は安行1式、3～4式は安行2式に併行すると思われる。

註

1. 小破片なのでわかりにくい、第48図118等は門前式の文様を持つようである。
2. 大洞C式の細分については金子(1993)参照。なお、第276図140、2190、2220等は大洞C式の古い部分に位置付けられ、大洞C式の新しい部分に位置付けられそうな小破片も僅かながら見られる。
3. 谷藤(1990)のp.111の4の土器。
4. 最近刊行された青森県の縄文時代中期、後期の概説書「青い森の縄文時代とその社会」(青森県教育委員会 1993)でも、十腰内Ⅰ式の直後は十腰内Ⅱ式になっている。秋田県の後期の土器を概説した高橋(1989)でも、本類の特徴を持つ土器は十腰内Ⅱ式に相当すると述べた第Ⅱ期第1段階に含まれている。
5. ただし、ワッカマイC式(森田 1981)の一部は船泊上層式に含まれるように思われ、船泊上層式の前には白灰3式(山岸 1983)をあてたほうが良いと思う。
6. 報告書の図版の一部をコピーしたのを見たことがあるが、まだ報告書は見えていない。
7. 十腰内Ⅱ群の層位的に良好な資料は本遺跡以外ほとんど見られないが、Ⅲ～Ⅴ群の資料は年々増加し、岡田(1986)で示されたもの以外では、十腰内Ⅲ群では岩手県川口遺跡の各住居跡出土資料(岩手県埋蔵文化財センター 1985)、十腰内Ⅳ、Ⅴ群では青森県風張(1)遺跡の各住居跡出土資料(八戸市教育委員会 1991)、十腰内Ⅳ、Ⅴ群では青森県大湊近川遺跡(青森県教育委員会 1987)、岩手県大日向Ⅱ遺跡(岩手県埋蔵文化財センター 1985)、岩手県根平貝塚(岩手県立博物館 1987)の住居跡出土資料などが注目される。
8. 十腰内Ⅲ～Ⅴ群の良好な出土資料による再検討は岡田康博氏が行っている(岡田 1986)。しかし、氏も十腰内Ⅲ～Ⅴ群の分類が基本的に妥当であるという方向で、再検討は主として各群の内容の明確化と細分に向けられているようである。したがって、分類基準も基本的に磯崎氏のそれに倣い、Ⅲ群土器の併行型式として加曾利B2式を挙げている。氏の検討で疑問に思うのは青森県神明町遺跡第6号住居跡出土土器の位置付けである。報告書で第Ⅲ群と位置付けられた土器を(杉山 1980)、羽伏縄文土器が一種の原体でなく二種の原体であることからⅣ群に位置付けている。Ⅳ群に位置付ける根拠がこれ以外に明確に述べられていないので何とも言えないが、もしⅢ群とⅣ群を分ける根拠が原体の違いに拠っているとしたら問題ではないかと思われる。すなわち、この原体の違いが

時期差であるとは断片的あるいはその他の方法で未だ立証されていないのだから。実際、氏がIV群であると提示した第3図の神明町遺跡出土土器の中にはどうみてもII群としか思えない土器（氏の第3図下段中央の刻目帯を持つ口縁部破片）もあり、III群とされた第2図の中宇田遺跡資料の中に全く同様の特徴を持つ口縁部破片があるのである。十層内IV群は本文中に引用したように型式としては最も危うい一群であり、断片的資料を基に型式学的により慎重に再検討する必要があるのではないだろうか。型式として明確に位置付けられない限り、併行型式が西ノ浜式ではないと変更してあまり意味がないと思われる。また、逆に、明確に位置付けなければ、分類の根拠が薄く型式として不適当な十層内IV群（=式）という名称は使うべきではないであろう。総じて氏の検討には系統の変遷という型式学的観点からの検討が少ないため不明な点が多く、応用が利かず、氏の分類を使って他の出土土器を位置付けることははたは難しいと言わざるを得ない。浅学非才を顧みず言いたいことを言わせていただき礼を失したと思われるが、一読者の率直な感想である。

- 註9. 良好な資料を検討して別の型式名を使うべきと考える。同じ型式名を使って内容だけ変更すると誤解を招きやすいからである。十層内II～V群は断片的に別れたものではなく、また分類した磯橋氏自身も「内容において不審な点が多く著しい」と認めているのだから、十層内II～V式という名称に拘る必要はないと思われる。本稿では報告書という性格上他の遺跡出土土器に関する詳細な検討ができず、十層内編年の代案（ただしI式を除く）を述べるべきできなかったが、本報告書のIII群1類から3類を中心とした編年案を別稿で詳細に論じるつもりである。
- 註10. 新山権現社2、3式は十層内II、III群にほぼ相当する。磯橋氏は十層内II、III群は加曾利B1、2式に相当すると述べ、山内清男氏の『日本先史土器器型』(山内 1940)を引用している。その指摘は、「第II群土器は「第II群土器は「加曾利B1式」とほとんど変わりない文様構成を示す一群である」、II群A類は「胴部上半の狭い部分に直線的な文様の発達したものである。平行線のところどころに弧形やS字形の注文を加える手法は、関東地方の加曾利B1式に一般的なものであるとはいってもない」(以上、p.337)、第III群土器は「やや膨れ上がった口縁の外側に線形に刻目を加えた特徴のある仲間である。関東地方の加曾利B2式に相当するものであろう」(p.338)、III群の鉢形土器は「ほとんど花弁状の大きな放射状口縁となるらしい。このような口縁部の形は関東地方の加曾利B2式の放射状が多い」(p.340)というものである。

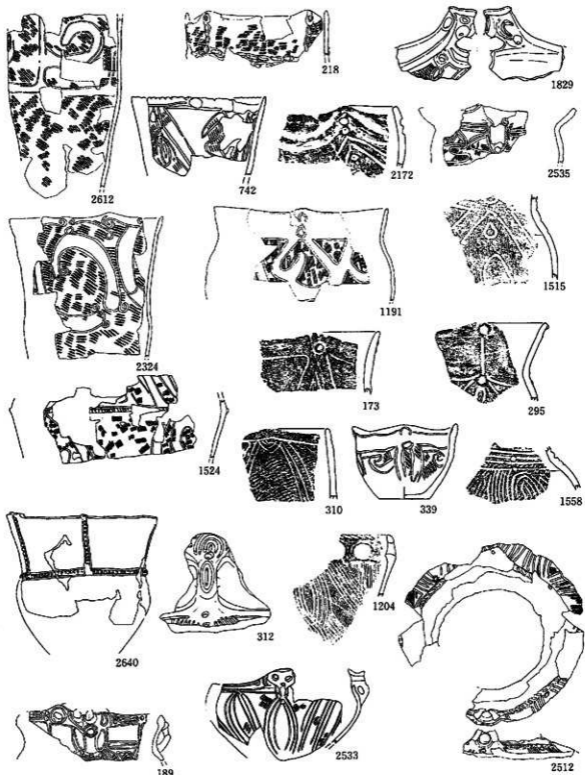
ここで注意しなければならぬのは、加曾利B1～3式は山内氏が設定した型式であるが、その典拠であり磯橋氏が引用した『日本先史土器器型』には説明および具体的に提示した土器が少なく、特に加曾利B3式については資料が提示されず概念的説明のみであったことであり、全体の構成がつかまず、そのため型式名が確立した現在においても、その内容、特にB2とB3式の間は研究者によって異なっていることである(大塚 1983、1989、鈴木 1991、安藤子 1988等参照)。したがって、現在の研究動向から考えれば、磯橋氏がIII群が加曾利B2式に相当すると述べた特徴はB2式に固有なものではなくB3式にも通じると思われるのである。また、疑問に思うのは十層内II群B類にはII A文様帯があり、関東地方でII A文様帯が出現するのは加曾利B2式からであると同山内氏が述べている(山内 1964)。前述のように十層内II群B類は関東編年との対比から分類されたものであり、山内氏から教示を受けていた磯橋氏がなぜ十層内II群B類を加曾利B1式相当に位置付けたのであろうか。さらに重要なことは東北地方の変遷が関東地方のそれと全く同じではなく、独自の変遷が考えられることである。特に直線的な文様は関東地方と似た特徴を示しながら独自の変遷を示し関東地方より長く存在する。以上から、磯橋氏の位置付けにそれほど拘る必要はないと考える。

- 註11. 秋元(1986)ほか。

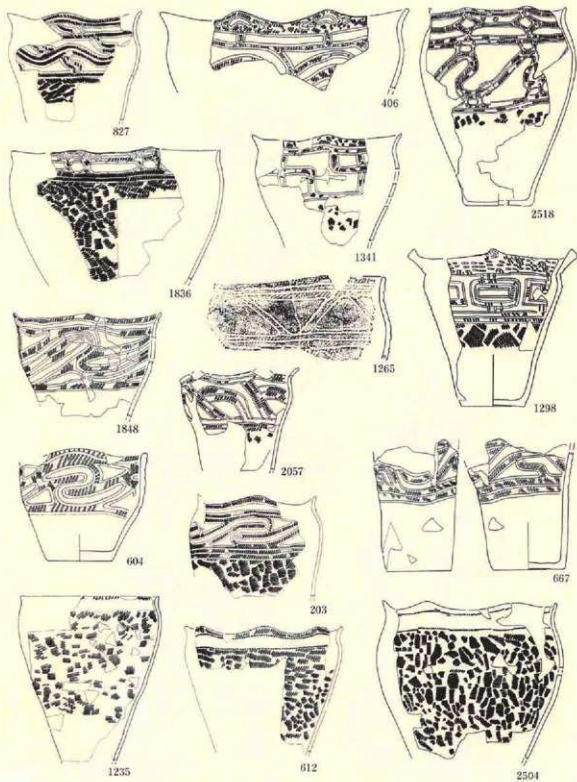
参考文献

- 青森県教育委員会 1975 『近野遺跡発掘調査報告書(1)』
1985 『大石平遺跡』
1987 『大湊近江遺跡』
1988 『上原野(2)遺跡II』
1992 『青い森の縄文人とその社会』
- 青森山田高等学校考古学研究会 1986 『集録文』15
- 秋田県教育委員会 1984 『東北縦貫自動車道発掘調査報告書X』
1988 『中小坂遺跡発掘調査報告書』
1989 『八木遺跡発掘調査報告書』
- 秋元信夫 1986 『第Ⅷ章 4. 周辺遺跡出土土器と大湊式土器』『大湊環状列石周辺遺跡発掘調査報告書(2)』鹿角市教育委員会
- 安藤子昭二 1988 『加曾利B様式土器の変遷と年代(1)』『東京考古』6
- 磯橋正彦ほか 1968 『第15期 十層内遺跡』『岩木山』岩木山刊行会
- 伊東信雄 1952 『宮城県史1(古代史)』宮城県史刊行会
- 岩手県縄文文化財センター 1982 『新内遺跡』
1985 『川口II遺跡発掘調査報告書』
1986 『大日向II遺跡発掘調査報告書』

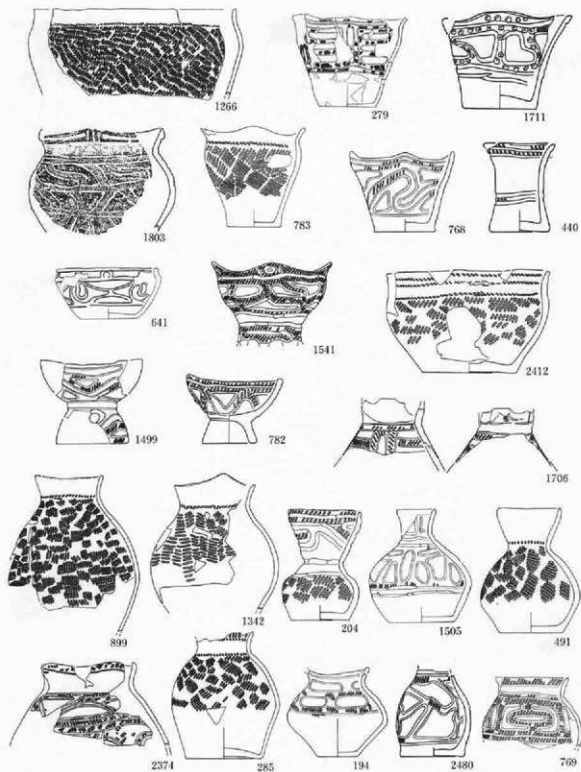
- 岩手県立博物館 1987 『櫻井貝塚発掘調査報告書』
- 岡田康博 1986 「十勝内第Ⅱ群・第Ⅳ群・第Ⅴ群土器の再検討」『弘前大学考古学』3
- 尾上町教育委員会 1980 『李平Ⅱ号遺跡発掘調査報告書』
- 大塚達朗 1983 「縄文時代後期加曾利B式土器の研究1」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』2
- 1989 「加曾利B式三細別に於ける細部の解明」『先史考古学』2 阿佐ヶ谷先史学研究会
- 大畑町教育委員会 1974 『崎山弁天遺跡』
- 大迫町教育委員会 1979 『立石遺跡』
- 高西 勲 1979 「十勝内Ⅰ式土器の編年の細分」『北奥古代文化』11
- 1986 「7. おわりに」『熊本文』15 青森山田高等学校考古学研究会
- 鹿角市教育委員会 1986～1992 『大湯環状列石周辺遺跡発掘調査報告書①』～『大湯環状列石周辺遺跡発掘調査報告書②』
- 金子昭彦 1993 「大洞C式の土偶」『古代』95 早稲田大学考古学会
- 北上市教育委員会 1978 『八天遺跡』
- 熊谷孝正 1986 「門前式土器の検討」『岩手県立博物館研究報告』4
- 児玉・大場 1982 「礼文島船泊砂丘遺跡の発掘について」『北方文化研究報告』7 北海道大学
- 後藤勝彦 1962 「陸前宮戸島里浜台西貝塚出土の土器について」『考古学雑誌』48-1
- 1974 『縄文後期宮戸Ⅰb式周辺の吟味』『東北の考古・歴史論集』
- 斎藤頼惠会 1991 『宝ヶ塚』
- 杉山 武 1980 「第6号住居跡」『神明町遺跡発掘調査報告書』青森県教育委員会
- 鈴木正博 1991 「『寺尾式土器』の再吟味」『古代』92 早稲田大学考古学会
- 廣野光行 1978 「北海道における縄文時代後期中葉の土器の編年について」『考古学雑誌』63-4 日本考古学会
- 高橋忠彦 1989 「秋田県の縄文時代後期の土器」『秋田県縄文文化財センター研究紀要』4
- 高橋圭一 1988 「仙台湾周辺の縄文時代後期後葉から晩期初頭にかけての編年動向」『古代』85 早稲田大学考古学会
- 谷藤保彦 1990 「後期前葉の土器」『縄文後期の諸問題』縄文セミナーの会
- 手塚 均 1986 「第Ⅲ章第1節9. ③各土器群の内容」『田柄貝塚Ⅰ』宮城県教育委員会
- 成田道彦 1981 「青森県の土器」『縄文文化の研究4 縄文土器Ⅱ』雄山閣
- 1989 「入江・十勝内式土器様式」『縄文土器大観4 後期 晩期 続縄文』小学館
- 八戸市教育委員会 1986 「八戸新都市区域内縄文文化財発掘調査報告書Ⅱ-丹後谷地遺跡-」
- 1988 「八戸新都市区域内縄文文化財発掘調査報告書Ⅴ-出面水平遺跡-」
- 1991 『風張山遺跡Ⅰ』
- 花泉町教育委員会 1971 『貝島貝塚』
- 本間 宏 1985 「東北地方北部における縄文後期前葉土器群の実態」『よねしろ考古』1
- 1987 「縄文時代後期初頭土器群の研究1」『よねしろ考古』3
- 1988 「縄文時代後期初頭土器群の研究2」『よねしろ考古』4
- 宮城県教育委員会 1966 『田柄貝塚Ⅰ』
- 森田知忠 1981 「北海道」『縄文土器大成3 後期』講談社
- 山岸英夫 1983 「白坂第3地点の調査・第14期土器総括」『白坂』松前町教育委員会
- 山内南男 1940 『日本先史土器図説』先史考古学会（1987年に再版されたものを引用）
- 1964 『文様帯系統論』『日本原始美術1 縄文式土器』講談社
- 吉田義昭 1960 「門前貝塚」盛岡市公民館



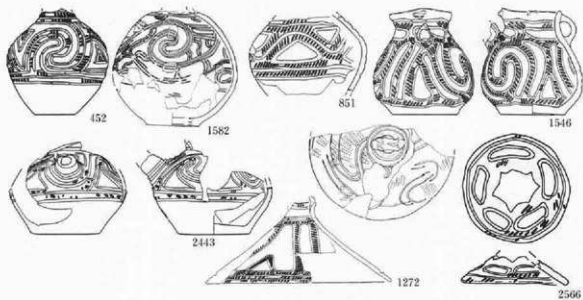
第264图 出土土器集成(1) — I群—
(繪尺不同)



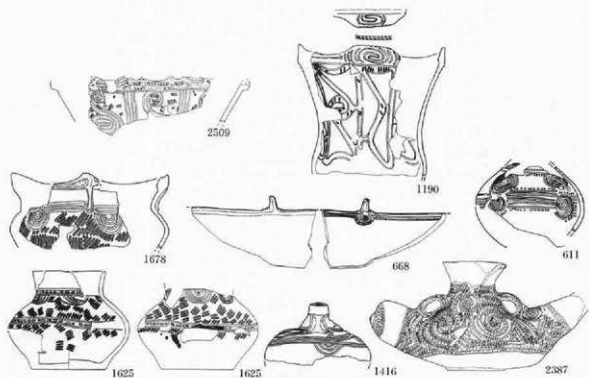
第265图 出土土器集成(2) — II群(1)—
(轴尺不同)



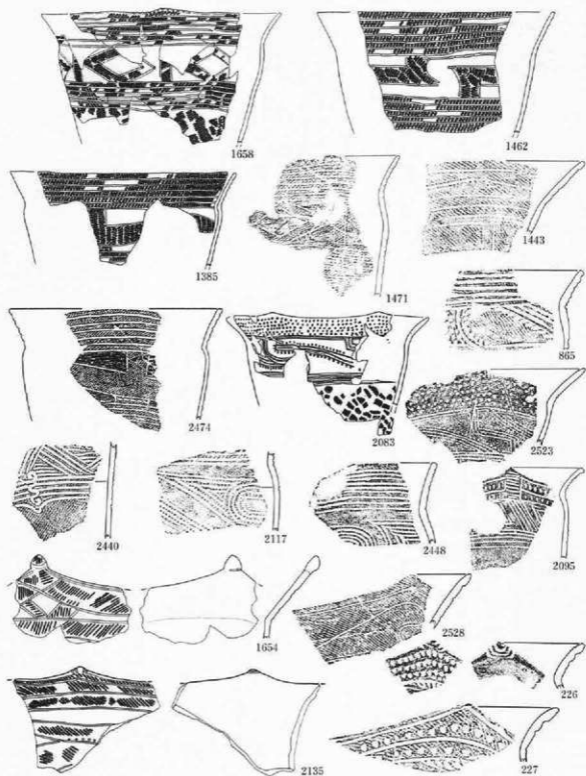
第266图 出土土器集成(3) — II群(2)—
(楕尺不同)



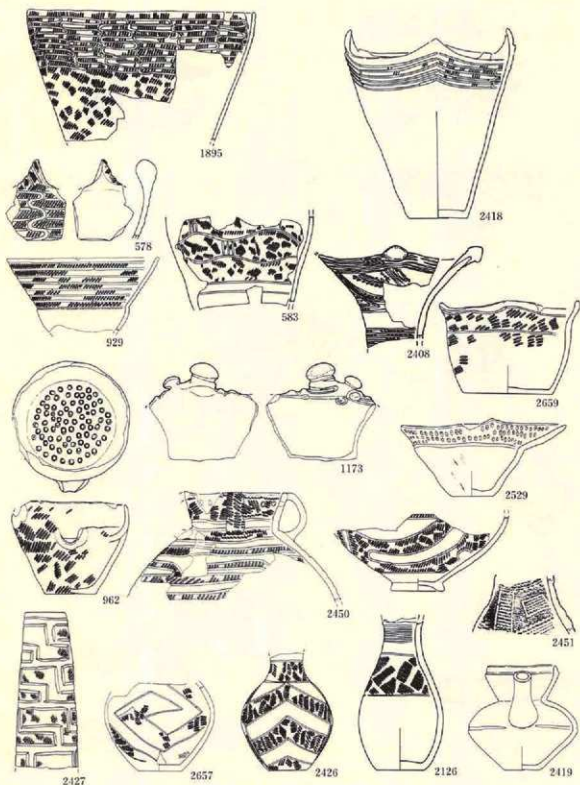
以上 a 類
以下 b 類



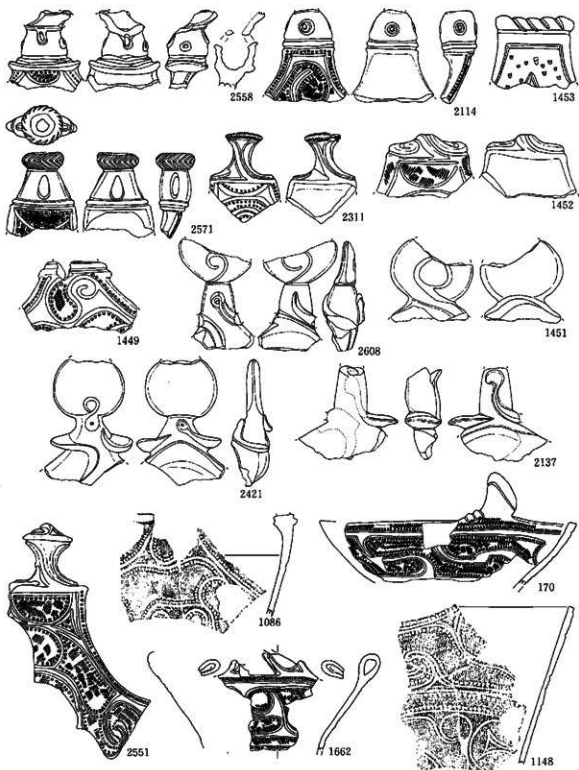
第267圖 出土土器集成(4) — II群(3)—
(縮尺不同)



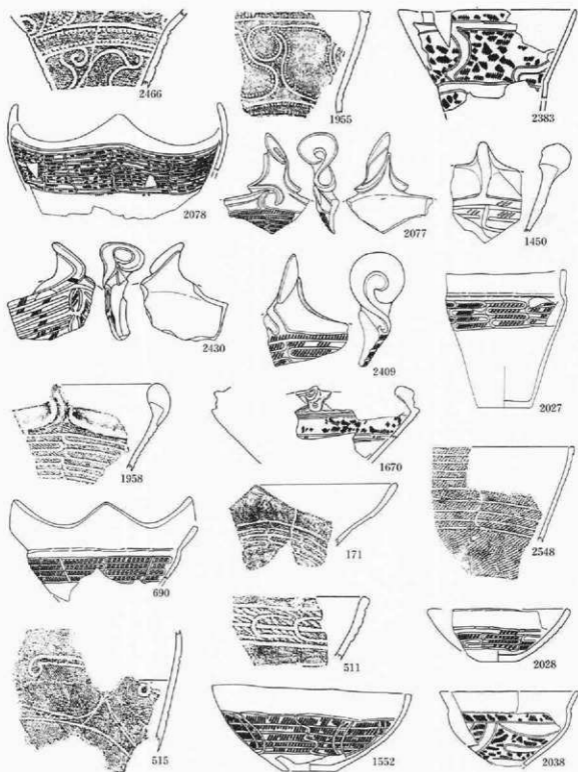
第268图 出土土器集成(5) —III群I類I—
(縮尺不同)



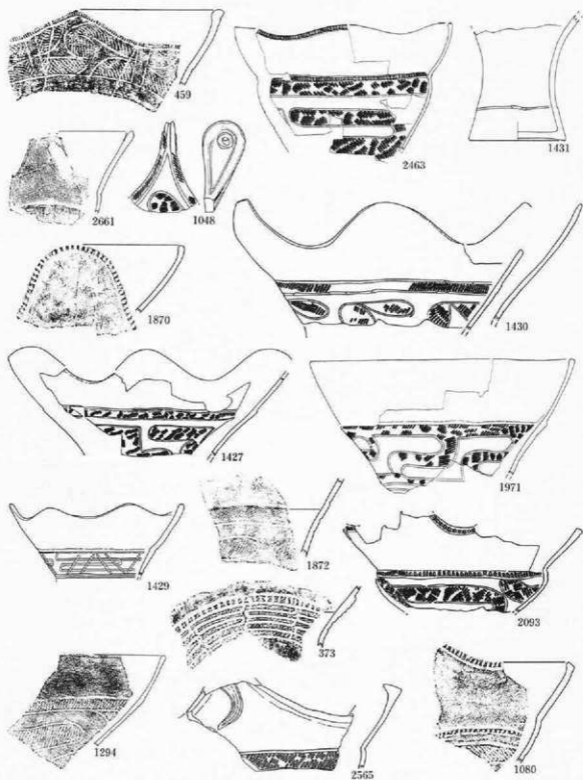
第269圖 出土土器集成(6) 一Ⅲ群1類2—
(輪尺不同)



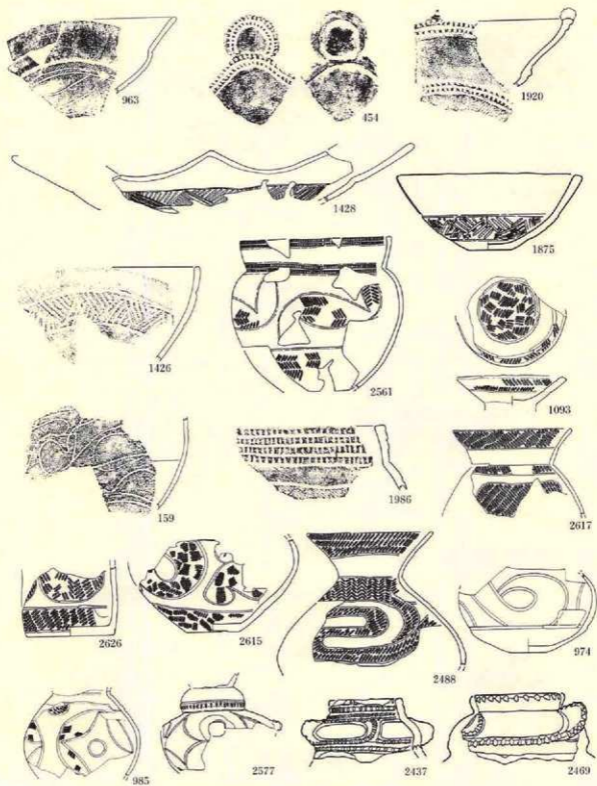
第270图 出土土器集成(7) —III群2類(1)—
(繪尺不同)



第271图 出土土器集成(8) —III群2類2—
(縮尺不同)



第272圖 出土土器集成(9) 一Ⅲ群3類(1) —
 (縮尺不同)

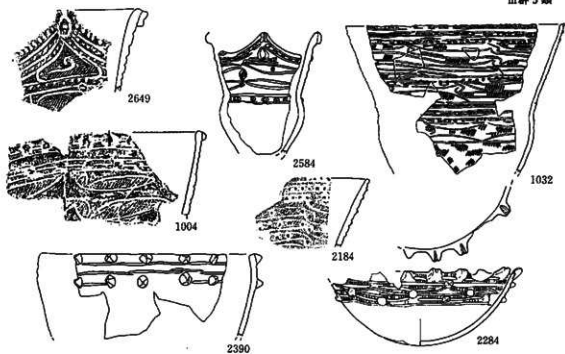


第273回 出土土器集成10 —III群3類2—
(縮尺不同)

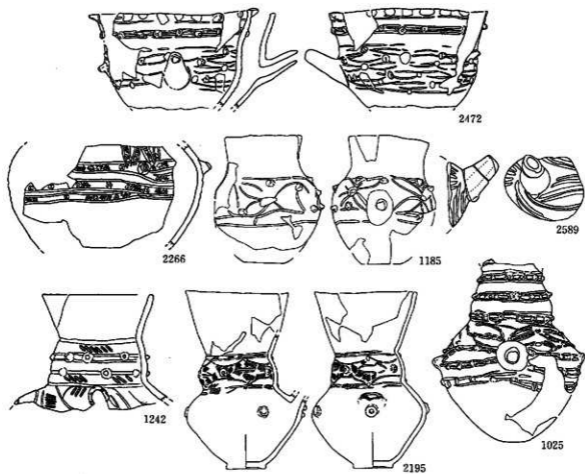


Ⅲ群4類

Ⅲ群5類

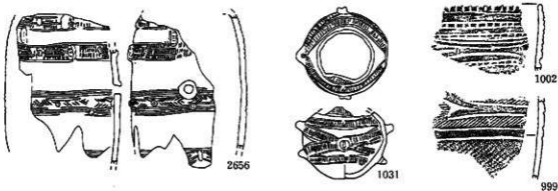


第274圖 出土土器集成(Ⅱ) —Ⅲ群4類·Ⅲ群5類(1)—
(繪尺不同)

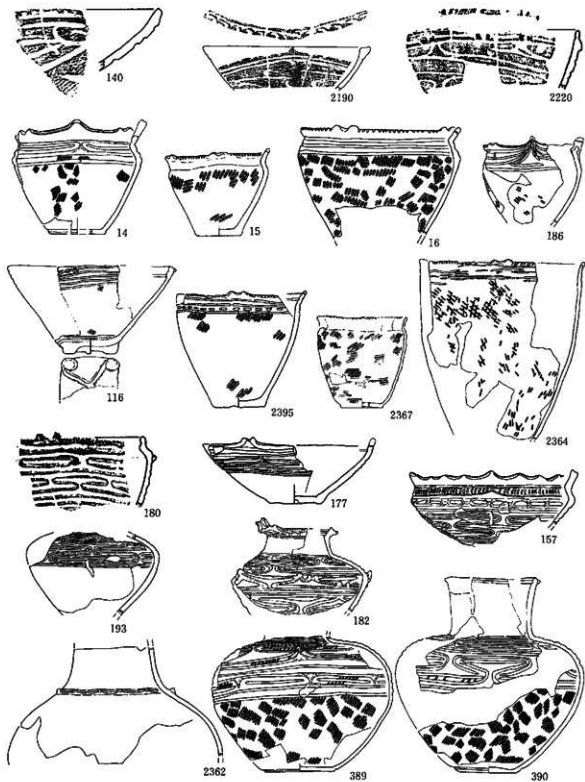


以上Ⅲ群5類

Ⅲ群6類



第275圖 出土土器集成(2) —Ⅲ群5類(2)·Ⅲ群6類—
(縮尺不同)



第276図 出土土器集成13 一晩期中葉の土器—
 (縮尺不同)



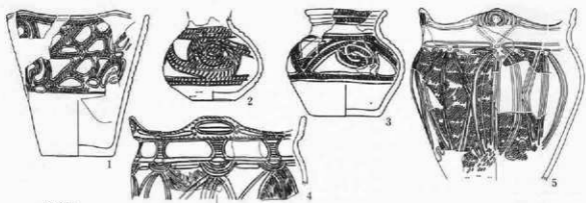
- 1・2：貝島貝塚(岩手県)
 3・4：田柄貝塚(宮城県)
 5・6：八天遺跡(岩手県)
 7-13・16-18：石内遺跡(岩手県)
 14・15：立石遺跡(岩手県)

A地域

B地域



第277图 参考土器(1) — II群土器(1)—
 (縮尺不同)



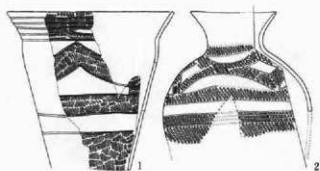
D地域

E地域

1~5：八木遺跡(秋田県)
6~12：大湯環状列石周辺遺跡(秋田県)
13~16：土尾塚2遺跡(青森県)



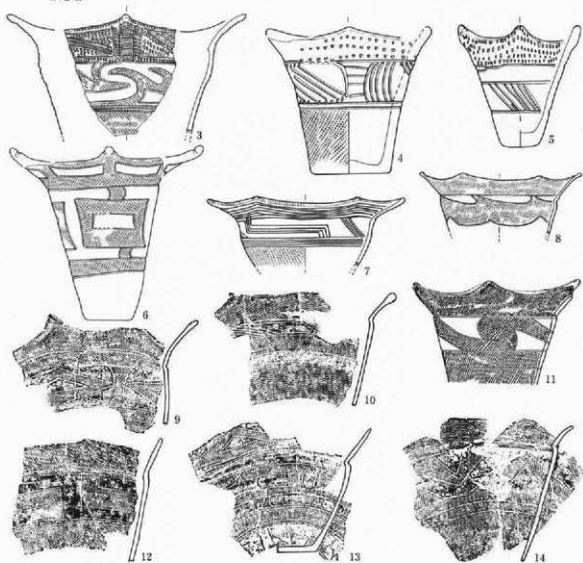
第278図 参考土器2) —II群土器2)— (4、5はI群?)
(縮尺不同)



- 1 : 田網貝塚(宮城県)
 2 : 八天遺跡(岩手県)
 3 ~ 8 : 荷内遺跡(岩手県)
 9 ~ 14 : 崎山弁天遺跡(岩手県)

A地域

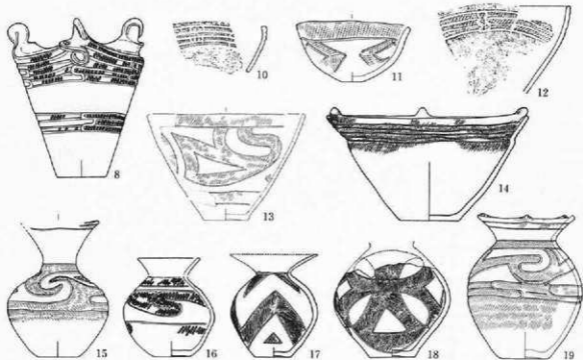
B地域



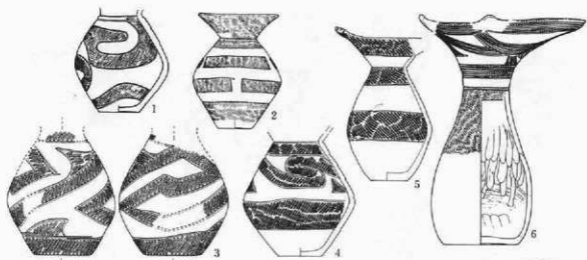
第279図 参考土器(3) —III群1類土器(1)—
 (縮尺不同)



1-4-6-9-10-12-14-17-18：
 崎山弁天遺跡(岩手県)
 2-3：立石遺跡(岩手県)
 5-7-8-11-13-15-16-19：
 若内遺跡(岩手県)



第280圖 參考土器(4) 一Ⅲ群1類土器(2)一
 (縮尺不同)



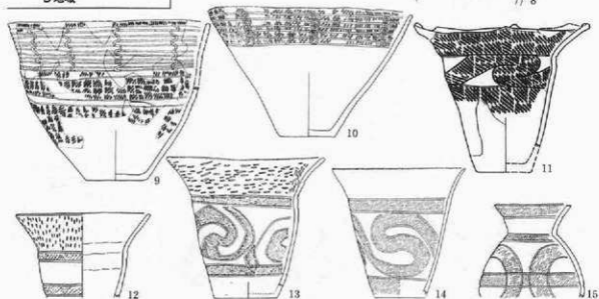
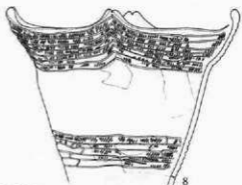
B地域



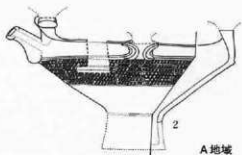
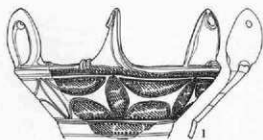
D地域

- 1：崎山弁天遺跡(岩手県)
 2・3・6：石内遺跡(岩手県)
 4・5：立石遺跡(岩手県)
 7：八木遺跡(秋田県)
 8～11：大徳環状列石岡辺遺跡
 (秋田県)
 12～15：四ツ石遺跡(青森県)

E地域



第281図 参考土器(5) —Ⅲ群1類土器(3)—
 (縮尺不同)



A地域

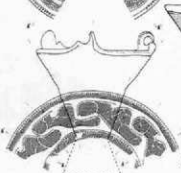
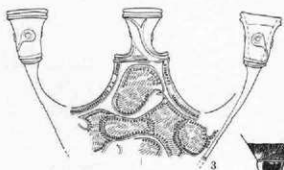
1：田柄貝塚(宮城県)

2：八天遺跡(岩手県)

3・5-7・10：萩内遺跡(岩手県)

4・8：崎山弁天遺跡(岩手県)

9：立石遺跡(岩手県)



B地域

第282図 参考土器(6) 一Ⅲ群2類土器(1)
(縮尺不同)

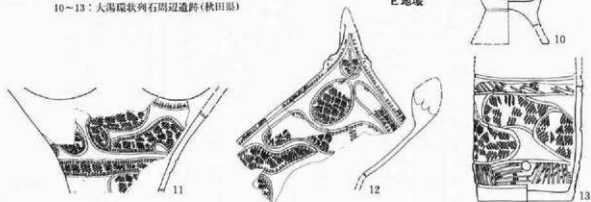


- 1・2・4：蔦内遺跡(岩手県)
 3：崎山弁天遺跡(岩手県)
 5：立石遺跡(岩手県)
 6：宝ヶ峯遺跡(宮城県)

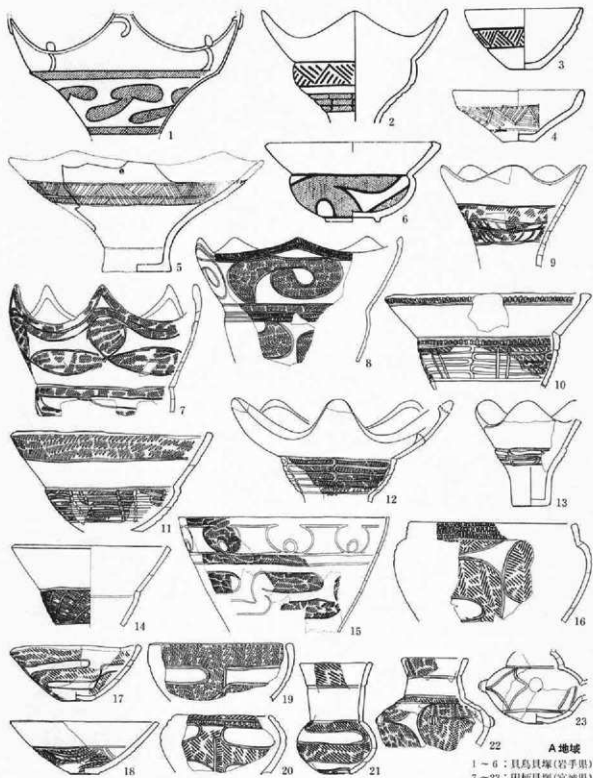
7～9：八木遺跡(秋田県)



10～13：大湯環状列石周辺遺跡(秋田県)

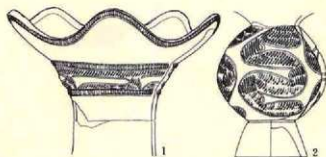


第283図 参考土器(7) —III群2類土器(2)—
 (縮尺不同)



第284圖 參考土器(8) 一川群3類土器(1) —
(縮尺不同)

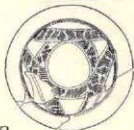
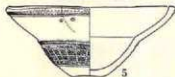
A 地域
1-6: 瓦島貝塚(岩手県)
7-23: 田柄貝塚(宮城県)



1・2：立石道鈴(岩手県)



B地域 C地域



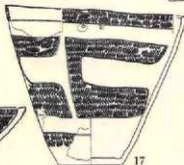
3-11：宝ヶ峯道鈴(宮城県)



D地域



E地域



第285図 参考土器(9) — III群3類土器(2) —
(縮尺不同)

12：八木道鈴(秋田県)

13-18：風葉(1)道鈴(青森県)

②土製品

本遺跡で出土した土製品のうち類例のよく知られているものは、有溝土甕、耳飾、腕輪形土製品、土偶、鐙形土製品、スタンプ形土製品、焼粘土塊、円盤状土製品である。ところで、本遺跡から出土した土器には、中期後葉、後期、晩期のものがあり、土製品もこれらの時期にまたがっている可能性がある。しかし、出土地点および類例から、土偶の一部(51、56、57)と円盤状土製品等の再利用品の一部以外は基本的に後期に属すると考えて良いと思われる。そこで、まず後期の土製品の組成について検討してみることにする。

後期の土製品は再利用品を除くと、土偶が236点と最も多く、他の土製品が数点から十数点なのに対して際立っている。こうした傾向は、まとまった土製品の出土を見た他の後期の遺跡(第Ⅱ章第4節周辺の遺跡参照)でも大体認められる(註1)。東北地方北部の縄文時代後期に存在する土製品には、上に挙げたもの他に、手・足形付土製品、土面、鼻・口・耳形土製品、動物形土製品(イノシシが多い)、キノコ形土製品などが知られているが、今回の調査では出土していない(註2)。

以下、まず最も出土量の多い土偶について考察を加え、次に土偶以外の土製品について若干の考察を加えることにする。

(1)土偶

(a)分類と分布—編年—

後期と晩期に大別される。これは出土地点もさることながら土偶そのものに大きな違いがあるので明確に区別できる。すなわち晩期のものは土器の項でも述べたように胎土が後期のものと明らかに違って精選されており、また土器と共通の文様を持つものが多いからである。

・後期

この時期の土偶の編年は遅々として進んでいないので(註3)、分類基準から検討していかねばならない。土偶の編年は、主として土器との共伴関係か土器と共通する文様を基に土器編年を対照するという二つの方法で行なわれてきた。しかし、後期の土偶、特に前半の土偶は文様を持つことが少ない。このために編年が違まなかったわけであり、したがって前者の方法で土偶を分類する必要があるのだが、本遺跡は、土器の項でも述べたように、地点差はあるが層位差は必ずしも明確ではなく、土器との共伴もはっきりとは捉えられないのである。そこで、他遺跡の良好な出土資料を参照して後期の土偶の編年を組み立て、これを基に本遺跡の土偶を分類し、その、遺跡内での分布を土器の分布と比較することで検証するという方法を取ることにした。なお、土偶の時期分類については土器のそれに合わせ、Ⅰ群土器の時期をⅠ期、Ⅱ群土器の時期をⅡ期、Ⅲ群Ⅰ類土器の時期をⅢ-Ⅰ期というように表現する。

Ⅰ～Ⅱ期については良好な層位的出土資料が見当たらないが、土器文様との共通性からⅡ期に

は岩手県立石遺跡例（第286図3）のような土偶が存在することがわかる。この時期の土偶は刺突を施すものが主流で、この土偶がこの時期の特徴を必ずしも伝えているとは言えないが、形態（顔、手足、プロポーションなどの人体表現）には共通するものがあり、これからこの時期の他の土偶を類推できる。その特徴は胴部が非常に細長いことである。なお、中期末には岩手県館IV遺跡のような人体付土器があり（註4）、これと立石遺跡例との関係からI期の土偶の特徴を系統的に推定することも可能である。館IV遺跡例は後期前半の土偶と非常に似た特徴を持っており、頭部特に顔部は後期のものとほとんど変わらない。その他の特徴としては、明確な腕・脚の表現を持たず、体部全体が逆三角形の板状であり、肩は頭部より上にあり、体部の輪郭に沿って刺突列が見られ、また体部中央に格子状の刺突列を持つことである。

Ⅲ-1期～Ⅲ-2期にも良好な層位的出土例がないが、Ⅲ-3期には青森県風張(1)遺跡第15住居跡床面出土の「合掌土偶」がある（第289図1）（註5）。眉と鼻は一統きの隆帯でT字状に表現され、目と口も楕円形の粘土の隆起で表現されている。そして特に注目されるのが頸である。後期前半の土偶の頸は前方に突出するのが特徴であるが、この土偶は既に突出していない。また、正中線を隆帯（上に刺突）で明確に表現するのも後期前半の土偶にはあまり見られない特徴である。Ⅲ-4期には同じく風張(1)遺跡に顔面突起付土器が出土しており（第290図1）、これと同様の顔部を持つ土偶が岩手県上斗内Ⅲ遺跡（第290図2）、宮城県宝ヶ峰遺跡（第290図3）から出土している。この時期の土偶は正中線および腹部の表現が発達するようである。この時期以降もあまり良好な層位的出土資料は見られないが、宮城県田柄貝塚にはこの時期の特徴を示唆する土偶が見られる（宮城県教育委員会 1986）。

以上の資料を基に後期の土偶に型式学的検討を加えると、次のような変遷が考えられる。

I期

中期末の館IV遺跡例とⅡ期の立石遺跡例の間をスムーズに繋ぐことを想定して、後期初頭と思われる土偶に型式学的検討を加えると次のような変遷が考えられる。板状で腕・脚の表現がはっきりしない段階（古段階）→板状で腕はないが脚の表現を持つ段階（中段階）→板状で腕・脚の両方の表現を持つ段階（新段階）。この時期の土偶はいずれも頸が前方に突出している。

古段階

板状で腕・脚の表現がはっきりしない段階。中期末からの名残として体部の輪郭に沿った刺突列や体部全体に格子状の刺突列や沈線が見られる。この段階の例として、青森県四戸橋遺跡例（註6）、同野場(5)遺跡例（註7）、岩手県湯舟沢遺跡例（註8）、同五十瀬神社前遺跡例（註9）、秋田県八木遺跡例（註10）などが挙げられる。

中段階

板状で腕はないが脚の表現を持つ段階。格子状の沈線は頸や腹部に限られるようになる。こ

の段階の例として青森県大石平遺跡例（註11）、同丹後谷地遺跡例（註12）などが挙げられる。

新段階

板状で腕・脚の両方の表現を持つ段階。Ⅱ期の土偶にかなり近いが、上半身がこれまでの形態の名残として逆三角形の板状で、下半身に比べて横幅が広い。青森県近野遺跡例（註13）などがこの段階にあたる。

これらの諸段階がどの土器型式に相当するかは、土器の方も不明な点が多いので、明言できないが、新段階はおそらく十腰内Ⅰ式(初)に相当すると思う。

Ⅱ期（後期前葉、十腰内Ⅰ式(初)）（第286図）

腕・脚の表現を明確に持ち、体部は板状でなくなるが、その名残として肩が張り体部は逆三角形に近く、胴長で脚が短い。頭部は依然として前方に突出し、顔部は、V字状の隆帯で眉・鼻を表現し、眼・鼻の穴・口を刺突で表現することが多いが省略することもある。体部のあちこちに刺突列を施すことは多いが、次期以降のように肩部に集中的に施すということはない。

Ⅲ-1期（後期中葉、新山権現社1式）（第287図）

基本的には前段階を踏襲しているが、胴は短くなる傾向にある。頭部に結髪状の表現が現れ、鼻がやや大きく表現されるようになる。眼・口は刺突というより横に引いて（凹線眼手法と呼ぶ）吊り眼状に表現される。胴部の刺突は肩部に集中的に施されるようになる。また、後期後半の土偶の特徴である腰部の鋸歯文がこの段階から明確に施されるようになる（註14）。

Ⅲ-2期（後期中葉、新山権現社2式）（第288図）

前段階の変遷の方向をそのまま受け継いでいるが、目は吊り目ではなく水平に表現される。結髪は形骸化する。眉と鼻はVというよりT字状に表現され、鼻が眉から独立して表現される場合も多い。頸の前方への突出も非常に弱まる。

Ⅲ-3期（後期中葉、新山権現社3式）（第289図）

この段階は後期の中の一つの画期と捉えられる。この段階に至って頸の突出はなくなり、眼・口を楕円形の粘土の貼付で表現する手法が出現するが、凹線眼手法も依然として見られる。隆帯等によって正中線を明確に表現するようになる。関東地方の山形土偶の影響を受けて（上野 1991）、腰部が横に張り出す場合も多い。また、岩手県荊内遺跡例（註15）に代表される非常に大形の土偶が作られるが、中空のものはまだ出現していないようである。

Ⅲ-4期（後期後葉、田柄1式）（第290図）

腰部の張り出しも弱まり、体部全体の形としてはⅡ期にむしろ近くなる（胴の張り出しはⅡ期よりずっと小さいが）。正中線の表現も依然として見られ、これに加えて腹部を刺突、隆帯等で強調する傾向が見られる。腰部には鋸歯文の代わりに刺突と短沈線の組合せで同様の文様を表現することもまま見られる。また腰部から脚部には平行沈線等の表現が多くなり始める段階

である。この段階で中空の土偶が出現するらしい(註16)。

Ⅲ-5期(後期後葉、田柄2式)(第291図)

腹部の突出と正中線を一続きの隆帯で表現するようになる段階である。腰部以下の文様装飾はさらに強まり、多くの短沈線を施す場合も多い。

Ⅲ-6期(後期末、田柄3~4式)

正中線から腹部の隆帯は下端が横に、すなわち腰部側面に広がり、全体として逆T字状になる。背面中央にはしばしば入組帯状文が施される。顔部の眉の隆帯は弧を描くようになる。また、口の周りには刺青状の三角形の沈線や縄文、刺突等が施される。頸の下には隆帯や沈線でV字状の表現が見られることが多い。この段階は土器型式に対応させれば二つに別れるはずだが区別がつきにくい。新段階には両脇腹などに三叉文が施されることが多いようであるが、一応現時点では、古段階には岩手県蕨内遺跡例(註17)、新段階には宮城県田柄貝塚例(註18)などが相当すると思われる。

以上、代表的な土偶の変遷について述べてきたが、この他に土器と共通の文様が顕著に施される土偶やポーズを採る土偶がこの時期には存在する。前者は(第286図1、3、第287図1~3、第289図1)、Ⅱ期からⅢ-3期くらいまで代表的な素文に近い土偶あるいは刺突のみ施される土偶との違いが大きい(代表的な土偶よりずっとスマートである)、Ⅲ-4期以降になると区別しがたくなる。また、ポーズをとる土偶は、類例が少なくその動向ははっきりしないが、Ⅱ期からⅢ-4期までは確実に存在する(第286図4、第288図10、第289図1、8)。Ⅲ-4期のものは図示しなかったが、青森県野面平遺跡出土土偶(磯前(1987)の写真1)などがある。なお、代表的な土偶も、その大きさは様々である。

以上の編年にしたがって本遺跡の土偶を分類したのが第292図~第295図である(各土偶の番号は第V章の図版に合致する)。Ⅰ期の特徴を持つ土偶は本遺跡では出土していないようである。ただし、顔部表現は中期末からⅡ期までほとんど変化がないので、Ⅱ期のものとして挙げた頭部のみの資料の中には(第292図)、この時期のものが含まれている可能性がある。また、Ⅲ-6期の特徴を持つ土偶も出土していないようである。

次にこの分類が正しいかどうかを検討してみたのが第296図、第297図の分布図である。後期前葉はⅡ期、中葉はⅢ-1期からⅢ-3期、後葉はⅢ-4期からⅢ-5期に相当する。これを見ると、前葉の土偶は南区では北端の3F~4Fmnには見られず、中葉の土偶は北区で南西寄りの地山標高の高い部分には見られず、後葉の土偶は北区でも南区でも、中葉の土偶よりさらに北寄りの地山標高の低い部分に集中している。この地点差は大體土器のそれに合致するものであり、本稿の土偶の時期比定がそれほどおかしくないことがわかる。

・晩期(第211図51、第212図56、57、第221図191)

明確に晩期と言えるものは51、56、57の3点であり、191も晩期の可能性がある。51は大洞C式(古)の可能性が高く、56、57は大洞C式(新)のものと思われる(註19)。

(b)製作・出土状況—用途に関して—

製作痕が認められたのは、56、57、81、137、157、229、233、234、242、251、253、254、265、268、269である。56、57は晩期中葉の土偶で、一部中実の作り方を示唆する。それ以外は後期の土偶で、数が少ないので時期による違いは確認できないが、157、254、269から頸部と胴部の接合の仕方、81、137、233、234、242、251、268から胴部、脚部の作り方が示唆される。頸と胴は、頸の先端の凸部を胴の凹部に差し込んで接合するという方法が採られたようで、これは既に岩手県立石遺跡の報告書で中村良幸氏が注目した製作方法であり(中村 1979)、東北地方北部の後期前半の土偶に一般的に採られた方法と思われる。胴部、脚部は二枚の粘土板を張り合わせて作るという方法が採られたようである。

出土状況に関しては、他の遺跡と同様にバラバラの破片で出土し、完形に近いものはほとんど見られない。破損箇所は頸が最も多く、壊れやすいところに集中しているように思われる。また、比較的完形に近いものとして、112、138、250、253、255、259が挙げられ、出土土偶の中でも小形のものに多い傾向が認められる。これは小さいものの方が壊れにくいからであろう。以上から、土偶は壊したものと考えるより壊れたものと考えの方が自然であるように思われる。黒色付着物(アスファルトの可能性が高い)で修復しようとした土偶が15%ほど見られたことも(註20)、この考えを指示しうるのであろう。そして、本遺跡の土偶は特定の箇所に集中することなく、土器と同じように廃棄されていることから、藤沼邦彦氏が述べているように(藤沼 1979)、修復できる間は修復して使い、いよいよ使いものにならなくなった時に捨てたものと思われる。

では、壊したものでないのなら、土偶はどうしてバラバラになって出土することが多いのであろうか。壊れやすい用途としては、(狩猟の時などに)頻繁に持ち歩いた、祭りの時の扱われ方(振り回す等)など、いろいろな状況が考えられるが、とくに後者に関してはオシラサマの扱われ方が注意される。縄文時代の土偶とオシラサマとの関連については根拠はないが、大林太良氏も関連があるとの見通しを述べている(大林 1991)。

オシラサマの考察の中で柳田国男氏は(柳田 1951)、オシラサマの原型は家の神であり、その信仰の祖型を保っているものとして福島県の沿海地帯、阿武隈川流域等で信仰されているシンメサマを挙げ、「オシンメサマを持ち伝えた旧家の主婦は、夢にしばしば神の催促を聴き、一年に一度はこの木偶を背に負うて、立ち出でてあるきまわらぬと、必ず何とも知れないぶらぶら病にかかる」と述べ、オシラサマも同様に子供らに背負われて田舎道を行くのが見られたと述べている。また、オシラサマをもみ廻して家の吉凶を占うのが信仰の要であると述べている。

さらに、「オシラ神によって山中の進路を決」することがあり、獵人の秘伝の中に「狩の門出には、オシラサマを手を持ちて拝むべし。その向きたる方角必ず獲物あり。口伝」という文句があると記している。

私は、縄文時代の土偶も狩猟の時などに持ち歩いて進路を決めるような場合もあったのではないかと、そうでなくても土偶は持ち歩かれることが多かったのではないかと考えている。このような扱われ方をすれば木偶でない土偶は壊れることも多いだろう。また、山中で壊れたために部位が見つからずアスファルトで修復されることなくそのまま使われ、ために発掘後に接合することなく、足りない部位も多いのではないかと推測している。

以上は単なる推測に過ぎず、それではなぜ壊れやすい土で作ったのか、壊れやすい形態をしているのか等の問題が残る。ここでは、土偶がたいした根拠もないまま壊したものとされ、『日本書紀』のオホゲツヒメやウケモチの神話、東南アジアのハイヌヴェル神話に結びつけた解釈(小野 1984、吉田 1987 など)が定説化している現状を憂い、一つの対案を示したままで、今後土偶にさらなる検討を加え、考察していきたいと考えている。

(2)その他の土製品

土偶以外の主な土製品の分布を示したのが第 298 図である。これを見るといずれの土製品も偏在することがないようである。

土偶以外の土製品では鐔形土製品が注意される。この遺物は貫通孔を持つものが多く、内面にス状の付着物のあるものが見られたことから(註 21)、用途を推定し検討することが可能である。

註

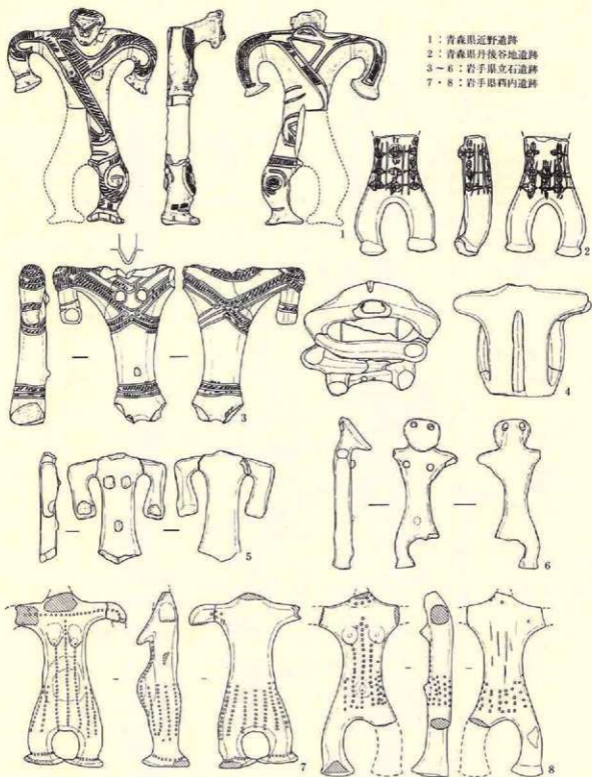
1. 次の遺跡の報告書参照した。岩手県内遺跡(岩手県埋蔵文化財センター 1982)、同立石遺跡(大迫町教育委員会 1979)、同貝島貝塚(花泉町教育委員会 1971)、秋田県八木遺跡(秋田県教育委員会 1989)、宮城県田所貝塚(宮城県教育委員会 1986)。ただし、田所貝塚では最も出土量の多いのは耳飾で、239 点出土しており、土偶の 52 点に比べて圧倒的に多い。これはたまたま調査した地点によるものであり、別の地点を調査すれば土偶が多く出土するのだろうか。
2. ただし、手・足形土製品については時期(1期に多いようである)と分布(北部に限られるようである)の関係で、キノコ形土製品については分布(北部に限られるようである)の関係で、本遺跡から出土しない可能性もある。
3. 土偶の編年は江坂伸弥氏の業績による部分が大きく(江坂 1980)、その後の編年研究は主として江坂氏の提示した編年表を再検討あるいは細分する方向に進んでおり、江坂氏が扱わなかった時期・地域についてはあまり進んでいないようである。東北地方の後期の土偶については、土器の編年自体が確立していなかったこととあって、江坂氏もほとんど触れなかったのである。この地域の後期の土偶の編年は、葛西 勲氏、高柳圭一氏が扱っているが、葛西氏のものは初編～前編に際して(葛西 1986)、高柳氏のものは後編に限っており(高柳 1987)、全般を扱ったものは見られなかった。本報告書の編年は、両氏の編年を参考にさせていただいたが、葛西氏の編年は、土偶の変遷には納得がいくが伴出土器形式には疑問が多い。
4. 雄IV遺跡の報告書は岩手県埋蔵文化財センターから今年度(1993年)刊行される予定。
5. 報告者は、聖穴住居跡内でこの土偶と共伴した土器は十腰内IV式に相当すると述べている(藤田 1990)。土器の考察で述べたように、十腰内IV群はその設定経緯に問題があり(磯崎ほか 1988)、その型式内容は不明な点が多く、研究者によってその範囲は様々で、型式として使用するには疑問が多い。報告書を見ると(八戸市教育委員会 1991)、床面からは明らかに本報告書のⅡ群 3類に相当すると思われる土器も出土している(報告書の 8、10)。土偶の文様を見ると、頸には二条の割目帯があり、背面の文様の末端は植物のつる状に丸くなっていて、この文様描出方法は古い特徴で、土器の場合はⅡ群 2類に認められる場合が多く(第 282 図 8、第 283 図 7)、3類でも古い段階には認められる(秋田県教育委員会(1993)の第 16 図 25)。以上からこの土偶をⅡ-3類に比定しても問題は無いと思う。

- 注6. 葛西(1986)の第4図
 注7. 青森県教育委員会(1992)のp.104
 注8. 滝沢村教育委員会(1986)の第83図2
 注9. 岩手県教育委員会(1979)の第33図1
 注10. 秋田県教育委員会(1986)の第54図39
 注11. 青森県教育委員会(1985)の第325図1
 注12. 八戸市教育委員会(1986)の第248図23
 注13. 青森県教育委員会(1977)の第121図11
 注14. この文様の祖型は堀ノ内2式土器にしばしば見られる平行沈線の間を連続した三角形のモチーフであると思われる(第265図1265の文様がこれに類似)、この文様を腰部に持つ土偶が群馬県田沼郡上野村中城遺跡から出土しており、群馬県立歴史博物館に展示されている。
 注15. 岩手県埋蔵文化財センター(1982)の別図版10
 注16. 東北地方の出土例は管見にないが、北海道茅部郡南茅部町春保内野遺跡から出土した人形土偶(小笠原(1976))はこの時期に位置付けられると思う。
 注17. 岩手県埋蔵文化財センター(1982)の図版570の189、図版576の221
 注18. 宮城県教育委員会(1986)の3
 注19. 金子(1993)参照。なお、この論文で大洞C₂式(II)に位置付けた宮城県宝ヶ峯遺跡例は後期後葉(Ⅲ-5期)の間違っていた。ここにお詫びして訂正する次第である。
 注20. 第V章でも述べたように、この割合は岩手県立石遺跡と同じである。比較し得る調査例が増えないと何とも言えないが、偶然の一致ではないように思われる。
 注21. ススの付着は青森県近野遺跡(青森県教育委員会 1975)、岩手県立石遺跡(大迫町教育委員会 1979)等でも確認されている。

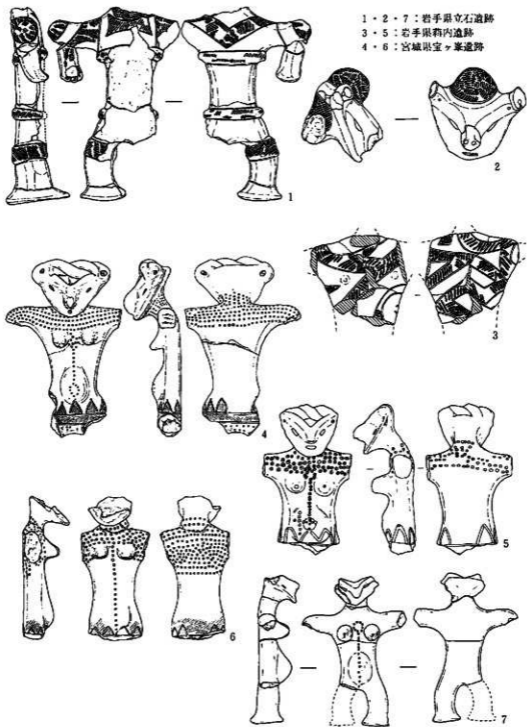
参考文献

- 青森県教育委員会 1975 『近野遺跡発掘調査報告書(II)』
 1977 『近野遺跡発掘調査報告書(III)』
 1985 『大石平遺跡発掘調査報告書』
 1992 『青い森の縄文人とその社会 縄文時代中期・後期編』
 秋田県教育委員会 1989 『八木遺跡発掘調査報告書』
 1993 『東北横新自動車道秋田線発掘調査報告書XV』
 磯崎正彦ほか 1968 『第16期 十層内遺跡』『岩木山』岩木山刊行会
 磯前順一 1987 『屈折像土偶について』『考古学雑誌』72-3
 岩手県教育委員会 1979 『東北新幹線開拓埋蔵文化財調査報告書I』
 岩手県埋蔵文化財センター 1982 『科内遺跡』
 江坂舞弥 1990 『土偶』校倉書房
 上野善一 1991 『北関東地方における後・晩期土偶の変遷について(1)』『岩木山立博物館研究紀要』8
 大迫町教育委員会 1979 『立石遺跡』
 大林太良 1991 『シベリアのオンゴンからみた縄文土偶』『北奥古代文化』21
 小野美代子 1984 『土偶の知識』(考古学シリーズ18)東京美術社
 小笠原忠久 1976 『北海道春保内野出土の中空土偶』『考古学雑誌』63-4
 葛西 助 1996 『十層内1式土器に伴う土偶について』『歴史文化』14 青森山田高校考古学研究室
 金子昭彦 1993 『大洞C₂式の土偶』『古代』95 早稲田大学考古学会
 高橋幸一 1987 『東北地方に於ける縄文時代後期後半の土偶』『随想』5 早稲田大学大学院考古学研究会
 滝沢村教育委員会 1986 『藤舟沢遺跡』
 中村良幸 1979 『V第2節 土製品』『立石遺跡』大迫町教育委員会
 八戸市教育委員会 1986 『八戸新都市域内埋蔵文化財発掘調査報告書II』
 1991 『孤嶽山遺跡I』
 花巻町教育委員会 1971 『貝島貝塚』
 藤田亮一 1990 『青森県八戸市風張(II)遺跡出土の合掌土偶』『考古学雑誌』76-2
 藤沼邦彦 1979 『土偶-付土製飯面・動物型土製品-』『世界陶磁全集1 日本原産』小学館
 宮城県教育委員会 1986 『田柄貝塚II』
 御田国男 1951 『大白神考』実業之日本社
 吉田敦彦 1987 『縄文の神話』青土社

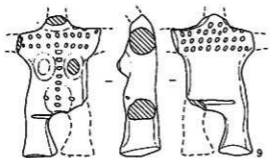
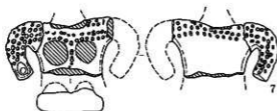
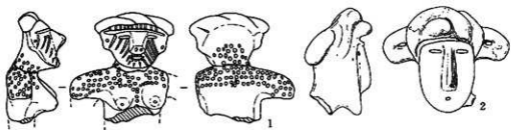
- 1 : 青森県近野遺跡
 2 : 青森県丹後谷地遺跡
 3-6 : 岩手県立石遺跡
 7・8 : 岩手県朝内遺跡



第286図 参考土偶(1) —II期の土偶—
 (縮尺不同)



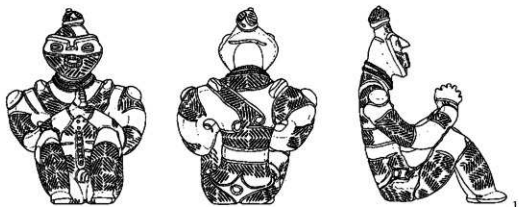
第287図 参考土偶(2) —III—1期の土偶—
 (楕尺不同)



1-7-9：岩手県森内遺跡
2-6-8-10：宮城縣宝ヶ峯遺跡



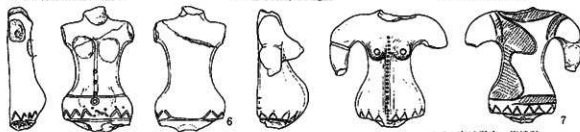
第288回 参考土偶(3) —III— 2期の土偶—
(縮尺不同)



1-3: 青森県風張(II)遺跡

4: 若手照湯舟沢遺跡

5: 若手岩科内遺跡



6-7: 宮城県宝ヶ原遺跡



8: 福島県上岡遺跡

第289図 参考土偶(4) 一Ⅲ-3期の土偶一
(縮尺不同)



1・4・6：青森県風張1遺跡

3・9：宮城県宝ヶ峯遺跡



2：岩手県上斗内田遺跡



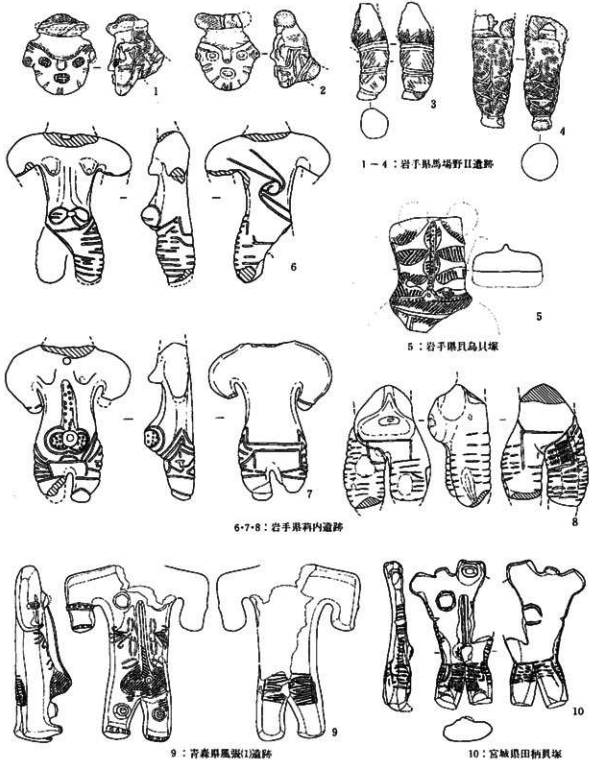
5：岩手県具島貝塚

7：宮城県沼津貝塚



8：岩手県手代森遺跡

第290図 参考土偶(5) —III—4期の土偶—
(縮尺不同)



1-4: 岩手県馬場野II遺跡

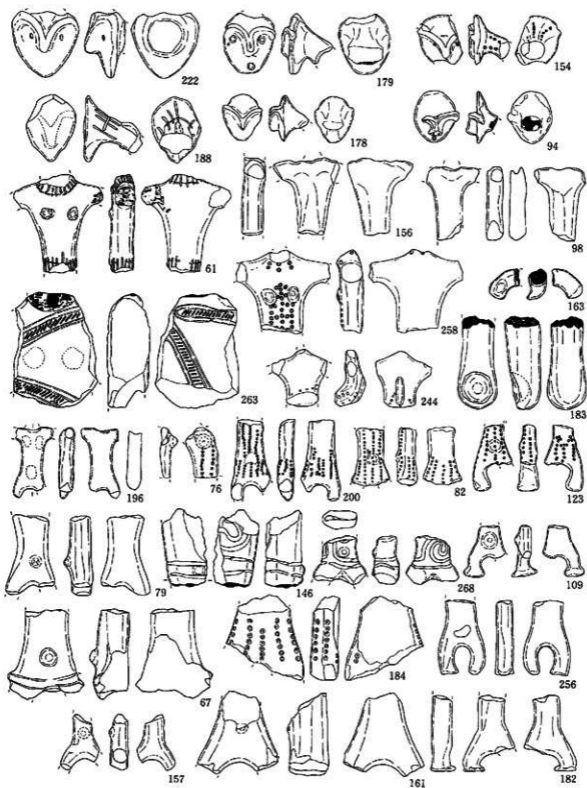
5: 岩手県丸島貝塚

6-7-8: 岩手県新内遺跡

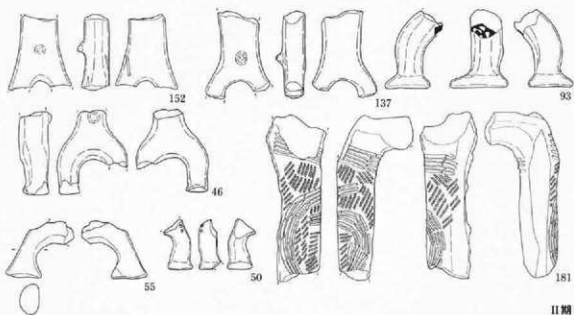
9: 青森県風張(1)遺跡

10: 宮城県田柄貝塚

第291図 参考土偶(6) —III—5期の土偶—
(縮尺不同)

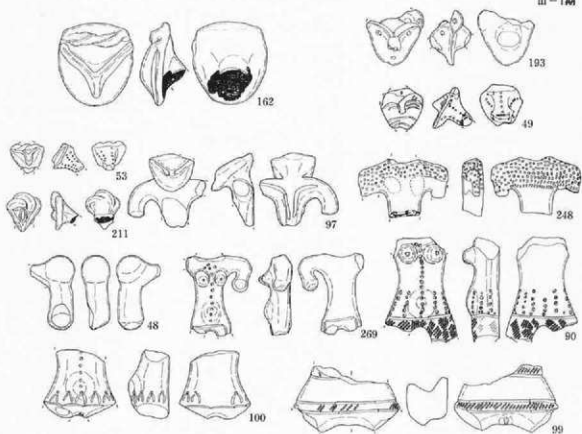


第292図 出土土偶集成(1) - II期の土偶(1)-

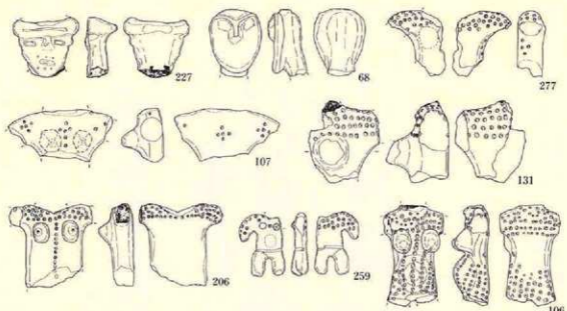


II期

III-1期

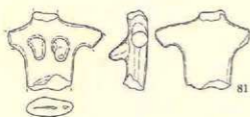


第293図 出土土偶集成(2) - II期の土偶(2)・III-1期の土偶 -

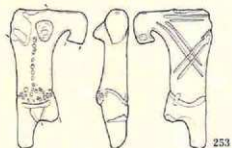
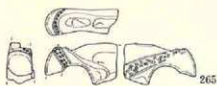
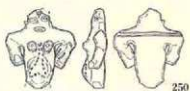
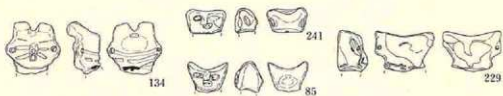


III-2 期

III-3 期

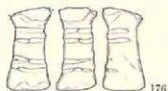
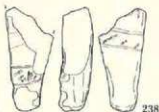
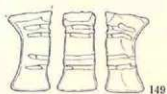
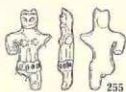


第294図 出土土偶集成(3) - III-2期・III-3期の土偶 -



III-4期

III-5期

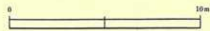
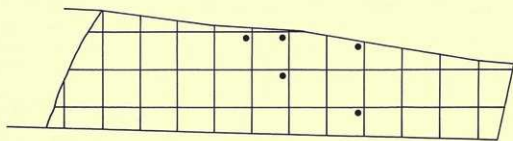
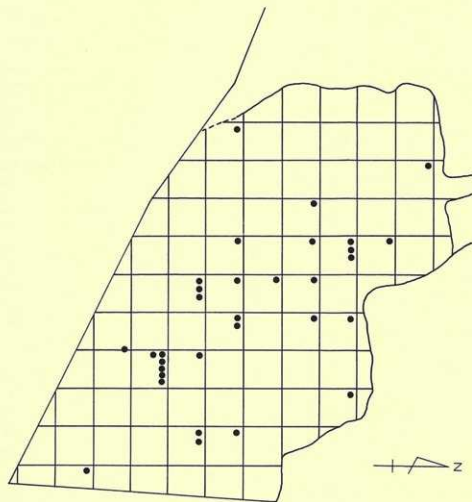


第295図 出土土偶集成(4) - III-4期・III-5期の土偶 -

● 後期前葉の土偶

※後期前葉の土偶は分布図の他に以下の場所でも出土している。

- ・ 18号土坑→1点
- ・ 1 C o→1点
- ・ 1 B (後期包含層)→1点
- ・ 2 E→1点
- ・ 道路側ベルト(北区)→1点
- ・ 4 F→1点

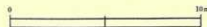
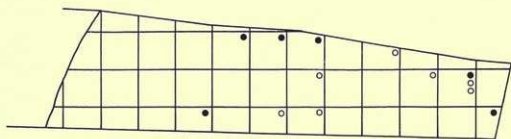
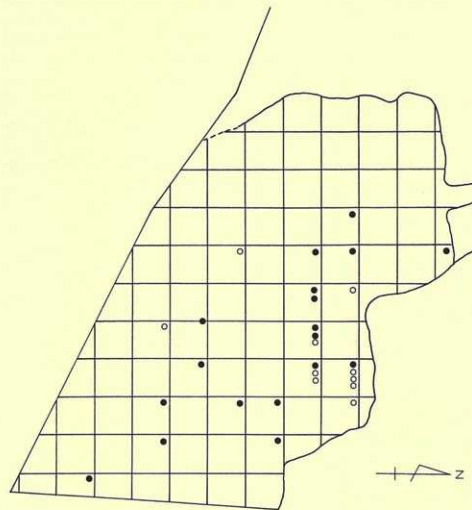


第296図 出土土偶分布図(1)

● 後期中葉の土偶

○ 後期後葉の土偶

※後期中葉の土偶は分布図の他に
次の場所でも出土している。
・ 67号土坑(6層)→1点
・ 2 D 南キから60cm→1点
・ 4 F 表土から60cm→1点



第297図 出土土偶分布図(2)

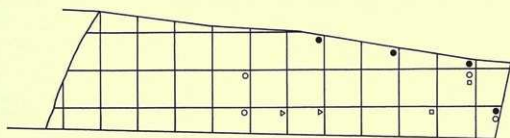
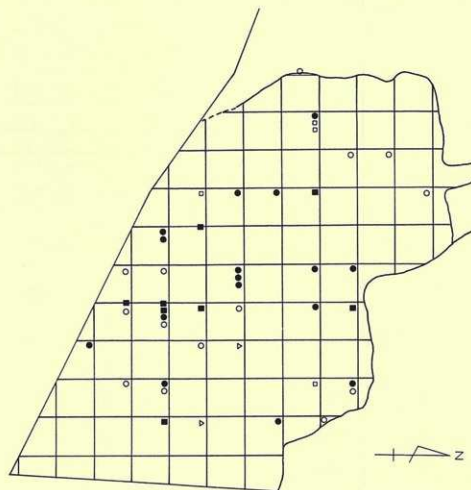
- 土 鉢
- 耳 飾り
- 板輪彩土製品
- 鐙彩土製品
- △ スタンプ状土製品

※耳飾りは分布図の他に以下の
場所出土している。

- ・ 2 E b → 1点
- ・ 2 E r → 1点

※スタンプ彩土製品は分布図の
他に以下の場所出土している。

- ・ 2 E a → 1点



第298図 出土土製品分布図

③石器・石製品

遺跡出土石器の組成、石材の産地、出土状況について若干の考察を行なう。

本遺跡の石器の組成を、石器のまとまった出土点数のあったほぼ同時期の遺跡と比較しても(註1)、特に際立った特徴は認められず、石礫が高い比率を示すという一般的な組成を示していると思われる。この中でやや注目されるのが嘴状石器で、この石器は秋田県八木遺跡で初めて注意されたものであり(大野 1989)、時期・分布はまだはっきりしないが、少なくとも奥羽山脈を挟んで50km以上離れた二つの遺跡に見られたことは注目されよう。

石材の原産地については、黒曜石の割片を選んで分析をお願いした(附編参照)。その結果を見ると、一部月山、男鹿、湯倉という推定結果もあるが、基本的には近在の北上川流域を産地とする原石を利用しているようである。

出土状況については、打欠石礫、石器製作時の割片に興味深い出土状況が見られた。打欠石礫は漁網礫と考えられているが、3Dmnで集中、それも輪状に集中して出土したことは、この解釈を裏付けるものと言えよう。すなわち、網に付けられたまま捨てられたと思われるのである。石器製作時の割片は、本遺跡では廃棄された焼土の中に混じって多量に出土することが多かった。割片石器の製作は炉辺で行なわれたと考えられているが、この出土状況はそれを裏付けるとと思われる。すなわち、炉を掃除する時に、炉の焼土の中に入っていた割片も一緒に捨てられたと考えられるのである。

註

註1. 次の報告書を参照した。岩手県立石遺跡(大迫町教育委員会 1979)、同県内遺跡(岩手県埋蔵文化財センター 1982)、岩手県貝島貝塚(花泉町教育委員会 1971)、宮城県田所貝塚(宮城県教育委員会 1986)、秋田県八木遺跡(秋田県教育委員会 1989)

参考文献

- 秋田県教育委員会 1989 『八木遺跡発掘調査報告書』
岩手県埋蔵文化財センター 1982 『新内遺跡』
大野盛司 1989 「第4章第2節 石器」『八木遺跡発掘調査報告書』秋田県教育委員会
大迫町教育委員会 1979 『立石遺跡』
花泉町教育委員会 1971 『貝島貝塚』
宮城県教育委員会 1986 『田所貝塚Ⅱ』

2. 遺構

調査で検出した遺構は、いずれも縄文時代のもので、後期前葉の竪穴住居跡？1棟、後期後半の竪穴住居跡2棟、晩期中葉の墓壇1基、晩期中葉の配石遺構3基、後～晩期に属すると思われる土坑69基、後期の捨て場、晩期の捨て場である。土坑を除いた遺構について、類例と比較して若干の考察を行なう。

①竪穴住居跡

後期後半の2棟について類例と比較する。1号住居跡は、平面形は不明だが、石囲炉を検出し、3号住居跡は、隅丸方形で4.5×4.5m程の規模を持つものと推定されたが炉は検出できなかった。東北地方北部の縄文時代後期後半の竪穴住居跡は、平面形は円形を基調とし、炉は石囲炉が多く、また地床が認められるようであり、支柱穴は4本が比較的多いようである。壁に沿って周溝がめぐるものはほとんどないが、支柱穴がめぐるものはしばしば見られる(註1)。出入口状施設(壁に直交する、二本の平行する長楕円形の土坑)を持つものもある(註2)。以上の傾向は1号住居跡にあてはまるが、問題は3号住居跡の平面形である。しかし、この時期にも、青森県尻高(4)遺跡第4号住居跡(青森県教育委員会 1985)に見るように、隅丸方形に近いものも存在するようであり、本遺跡の3号住居跡の推定プランもそれほど外れたものではないと思われる。

②墓壇

本遺跡の墓壇は合わせ口土器から認定したもので、平面形等は不明である。時期は合わせ口土器から晩期中葉(大洞C式)と考えた。なお、3号配石下の56号土坑も墓壇(配石墓)の可能性もある。

東北地方北部の晩期中葉の墓壇としては、青森県上尾較(1)遺跡(青森県教育委員会 1987)、秋田県平鹿遺跡(秋田県教育委員会 1983)等でまとまって検出されている。検出例は少ないが、本遺跡の近くでは杉の堂遺跡でも検出されている(水沢市教育委員会 1982)。以上を参考にすると、その平面形は楕円形が圧倒的に多く、ついで円形である。また配石を伴うものも多い。本遺跡の墓壇は晩期の捨て場中に作られているが、捨て場と墓壇が同一の場所に形成される例は前述の平鹿遺跡などでも見られる。

本遺跡例で特筆すべきは合わせ口土器である。合わせ口土器として一般に知られるのは、大形深鉢あるいは大形壺と鉢の組合せの、晩期後葉の合わせ口カメ棺である(註3)。しかし、本遺跡のものは両方ともやや小形の鉢形土器であり、また、この時期には別に埋設土器も存在することから(註4)、カメ棺とは性格が異なるものと思われる。埋土の比較的上層から出土したことから、供献品ととらえるべきものであろうか。

③配石遺構

検出された3基は、何れも晩期中葉(大洞C₂式)と推定され、3号配石は下部に土坑(56号土坑)を持つ。

配石遺構の検出は近年とみに増加しているが、その大部分は後期のもので、晩期中葉のものはあまり見られない。下部に土坑を持つ3号配石は配石墓と考えられるが、晩期中葉の配石墓の検出例はよく知られ、前述の平鹿、杉の堂遺跡等にも見られる。

④捨て場

遺物の考察で得られた結果を元に、捨て場の形成過程について考察してみる。なお、後期は、土器分類にしたがって、I期(初頭～前葉)、II期(前葉)、III期(中葉～後葉)に分ける。

I期→捨て場の中心は今回検出された部分にはなく、辛うじて北区の南縁にかかった程度である。おそらく北区の調査区より南および削平されて消滅した部分にあったものと思われる。

II期→本調査区の北区に捨て場の主体があったものと思われる。

III期→II期の捨て場の形成により捨て場がさらに北の谷に向かって延び、この時期の捨て場は、その北縁部、つまり、北区の攪乱部分、南区の北半部および南区より北東の部分にあったものと思われる。

晩期前葉～中葉。本遺跡に捨て場があったかどうか不明だが、調査区から土器が数片出土している。

晩期中葉(大洞C₂式例)。北区の雨裂跡を中心に捨て場が形成。

貝塚を含めた後期の捨て場には、近隣のものでは貝島貝塚(花泉町教育委員会 1971)、田柄貝塚(宮城県教育委員会 1986)などがある。両貝塚とも、新山権現社遺跡と同様に、斜面に形成された捨て場である。晩期中葉の捨て場の検出例は多く枚挙に暇がないが、本遺跡のすぐ近くに(直線距離で約4km)東裏遺跡B地点があり(岩手県教育委員会 1980)、その他、岩手県九年横遺跡(北上市教育委員会 1977ほか)、同安増屋敷遺跡(岩手県埋蔵文化財センター 1984)、秋田県平鹿遺跡(秋田県教育委員会 1983)、青森県今津遺跡(青森県教育委員会 1986)などが有名である。

註

註1. 次の、多数の後期後半の住居跡を検出した遺跡の報告書を参照してつかんだ傾向である。青森県尻高(4)遺跡(青森県教育委員会 1985)、同大洞近川遺跡(青森県教育委員会 1987)、同丹後谷地遺跡(八戸市教育委員会 1986)、岩手県若成田IV遺跡(岩手県埋蔵文化財センター 1983)、同八戸屋敷II遺跡(岩手県埋蔵文化財センター 1983)、同大日向II遺跡(岩手県埋蔵文化財センター 1986)、同馬場野II遺跡(岩手県埋蔵文化財センター 1986)。

註2. 例えば、馬場野II遺跡のLⅢ-01住居址、LⅣ-04住居址など(岩手県埋蔵文化財センター 1986)。

註3. 例えば、青森県虚空蔵遺跡(名川町教育委員会 1978)、同尻高(4)遺跡(青森県教育委員会 1985)などで検出されている。

註4. 例えば、宮城県横狭遺跡(宮城県教育委員会 1990)などで検出されている。

参考文献

- 青森県教育委員会 1985 『瓦高(2)・(3)・(4)遺跡発掘調査報告書』
1986 『今年遺跡・開成遺跡発掘調査報告書』
1987 『大湫近川遺跡』
1987 『上尾松(1)遺跡C地区』
秋田県教育委員会 1983 『平鹿遺跡発掘調査報告書』
岩手県教育委員会 1980 『東北縦貫自動車道関係歴史文化財調査報告書VI』
岩手県歴史文化財センター 1983 『君成田IV遺跡発掘調査報告書』
1983 『丸屋敷II遺跡発掘調査報告書』
1984 『安堵塚遺跡発掘調査報告書』
1986 『馬場野II遺跡発掘調査報告書』
1986 『大日向II遺跡発掘調査報告書』
北上市教育委員会 1977～1988 『九年横遺跡第3次発掘調査報告書』～『九年横遺跡第11次発掘調査報告書』
名川町教育委員会 1978 『虚空遺跡発掘調査報告書』
八戸市教育委員会 1986 『八戸新都市区域埋蔵文化財発掘調査報告書』
花泉町教育委員会 1971 『貝島貝塚』
水沢市教育委員会 1982 『杉の堂遺跡-第4次発掘調査概報-』
宮城県教育委員会 1985 『田柄貝塚』
1990 『摺砥遺跡』

3. 遺跡

(1)遺跡の性格

調査区を中心とした遺跡の性格について各時期ごとにまとめておく。

・縄文時代後期

調査区およびその周辺に集落があり、谷に向かって落ちる斜面を捨て場として利用していたと考えられる。北区東半部はⅡ期(後期前葉)の捨て場の中心と考えられ、Ⅲ期(後期中葉～後葉)には、Ⅱ期の捨て場に堅穴住居が建てられ、その北東部を捨て場として利用していたと考えられる。

・縄文時代晩期前葉

不明であるが、土器片が調査区から出土している。

・縄文時代晩期中葉

調査区周辺に集落があり、北区の雨裂跡などを捨て場として利用し、また南区の5F～6F付近を墓地等に利用し、捨て場にも墓を作ったものと考えられる。

(2)地域の中で

周辺の遺跡には不明な点が多いので(第Ⅱ章第4節参照)、ここではもっと広く、東北地方の中で新山権現社遺跡がどのように位置付けられるかを、土器の面から検討してみる。時期は、本調査区で主体であった後期に限り、前葉(Ⅱ期)を中心に検討する。

Ⅱ期の土器はa類とb類に二分された。二つの違いは系列差と考えられ、土器の考察で見たように、a類は本遺跡より北に多く出土する。そしてb類は南に類似した特徴を持つ(注1)。

本遺跡ではa類が圧倒的に多く、b類は少ない。しかし、Ⅰ群土器と比較すると、Ⅱ群a類土器との間には系統の変遷を見ることはできない。むしろb類土器の方に系統の変遷を見いだすことができるのである。そして、前述したように、Ⅲ群1類土器はⅡ群a類土器から系統的に変遷し、これ以降2類、3類にも大きな隔たりはない。以上をまとめると、本遺跡の土器様相はⅡ群土器の時期(Ⅱ期)に大きな変化が認められるのである。

後期初頭の東北地方の各地域の土器様相は大きな違いがあり、岩手県内でも北部と南部では大きく異なっている(註2)。そして、本遺跡のⅠ群土器は本遺跡より南の宮城県北部に多く認められるのである(註3)。土器の考察では、勉強不足で、本遺跡より南の土器の検討を省いたが、Ⅲ群3類の土器は南の宝ヶ峯遺跡(斎藤報恩会 1991)でも多く認められ、また北部の風張(1)遺跡(八戸市教育委員会 1990)でも見られた。

以上のことから、東北地方の後期の土器型式の分布は時期によって大きく変化していることが指摘できる。新山権現社遺跡は、後期初頭には宮城県北部を中心とする土器型式の小さな分布圏の中にあっただが、前葉(Ⅱ期)に、北の、十疊内Ⅰ式を代表とする土器型式の大きな分布圏に取り込まれ、さらにこの分布圏は南に拡大していったため、これ以降本遺跡の土器様相は安定して系統的に変遷していったのではないかと推測されるのである。

註

註1. 本間(1990)参照。

註2. 北の土器様相については上村遺跡の報告書(岩手県埋蔵文化財センター 1983)等参照。

註3. 後藤(1974)、本間(1990)参照。

参考文献

- | | | |
|--------------|------|---|
| 岩手県埋蔵文化財センター | 1983 | 『上村遺跡・下村A遺跡・下村B遺跡』 |
| 後藤勝彦 | 1974 | 『縄文後期宮戸Ⅰb式周辺の吟味』『東北の考古・歴史論集』宝文堂 |
| 斎藤報恩会 | 1991 | 『宝ヶ峯』 |
| 八戸市教育委員会 | 1990 | 『風張(1)遺跡Ⅰ』 |
| 本間 宏 | 1990 | 『東北地方南部における縄文後期前葉土器群の変遷過程』『縄文後期の諸問題』縄文セミナーの会(群馬県) |

VII. ま と め

今まで述べてきたことを簡潔書きにしまとめとする。

・検出した遺構は、全て縄文時代のもので、後期前葉の竪穴住居跡？1棟、後期後半の竪穴住居跡2棟、晩期中葉（大洞C₂式）の墓塚1基、配石遺構3基（うち1基は配石墓と考えられる）、後期の捨て場、晩期中葉（大洞C₂式）の捨て場、縄文時代に属すると思われる土坑69基である。

・墓塚の埋土層から合わせ口土器が出土し、後期の捨て場では、打欠石錘、石器剥片に興味深い出土状況が見られた。

・出土遺物は、縄文土器、土製品、石器・石製品、弥生土器、平安時代の土師器、かわらけ、白磁（弥生、平安時代の遺物は各1点づつ）である。

・縄文土器は、総量30×40×30cmのコンテナで約250箱、地点差・層位差が認められる比較的良好な出土状態で、中期後葉、後期全般、晩期前葉～中葉の土器があるが、その主体は後期前葉～中葉で、次に晩期中葉（大洞C₂式前）の土器が多く、中期後葉、晩期前葉の土器は数十点である。

・後期の土器を出土状況を基に、Ⅰ群（初頭～前葉）、Ⅱ群（前葉）、Ⅲ群（中葉～後葉）に分け、Ⅲ群はさらに1～6類に細分した。このうちⅢ群1類～3類を新山権現社1～3式とし、東北地方中部の後期中葉の土器型式名として提唱した。

・後期前葉～中葉の異形土器の優品が出土しており、第181図2387はⅡ群、第96図962はⅢ群1類に属すると思われる。

・土製品の内訳は、土器の可能性のあるもの（土器？）11点、土錘（重飾品になりそうなものを含む）6点、耳飾20点、腕輪形土製品6点、土偶242点（不明なもの3点を含む）、鐙形土製品20点、スタンプ形土製品5点、その他の製品（不明土製品のうち、土器、土偶と思われるもの）27点、焼粘土塊36点、円盤状土製品198点、その他の再利用品3点である。

・土偶は、他遺跡の良好な出土資料から土器編年に対応する形で分類し、それを基に本遺跡での分布図を作り地点差を確かめること（土器分布との比較）で検証した。

・石器・石製品の内訳は、石鎌685点、尖頭器？4点、嘴状石器1点、石錘215点、石鏡11点、石匙114点、異形石器5点、搔器・削器等その他845点、打製石斧11点、磨製石斧94点、磨石146点、敲石5点、凹石58点、石皿7点、砥石2点、切目石錘1点、打欠石錘20点、アスファルト付石錘5点、有孔礫（石錘）2点、石棒15点、石剣類32点（石剣2点、石刀7点、不明23点）、石冠2点、有孔石製品2点、円盤状土製品28点、石器製作時の剥片類が95.747kgである。

写 真 图 版



調査前全景(北区)



調査前全景(南区)

写真図版1 調査前全景



墓 拡



合わせ口土器出土状況



第1号住居跡(炉)



52号ピット



67号ピット



68号ピット

写真図版2 遺構(1)



第1号配石



第2・3号配石(北から)

写真図版3 遺構(2)



3号配石



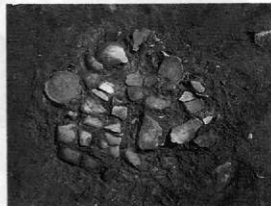
3号配石下の土坑(56号ピット)



56号ピット



1号配石出土器



3Ew廃棄ブロック

写真図版4 遺構(3)



北区調査風景(東から)



北区捨て場(2Aベルト)



南区捨て場(最北端)



南区捨て場(1~3ベルト)



南区(5Fc)土器出土状況



南区捨て場(掘り上がり)



打欠石錘集中地点(3Dmn)



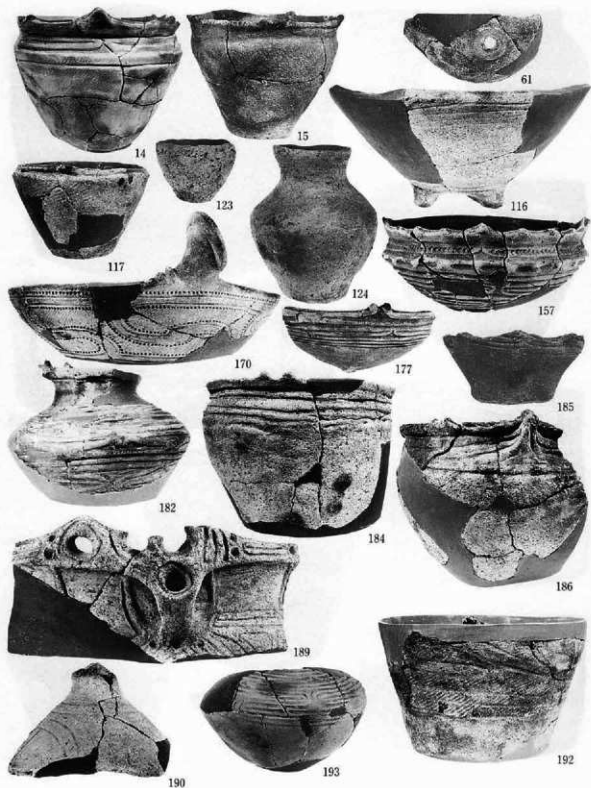
5Fd銅片集中地点



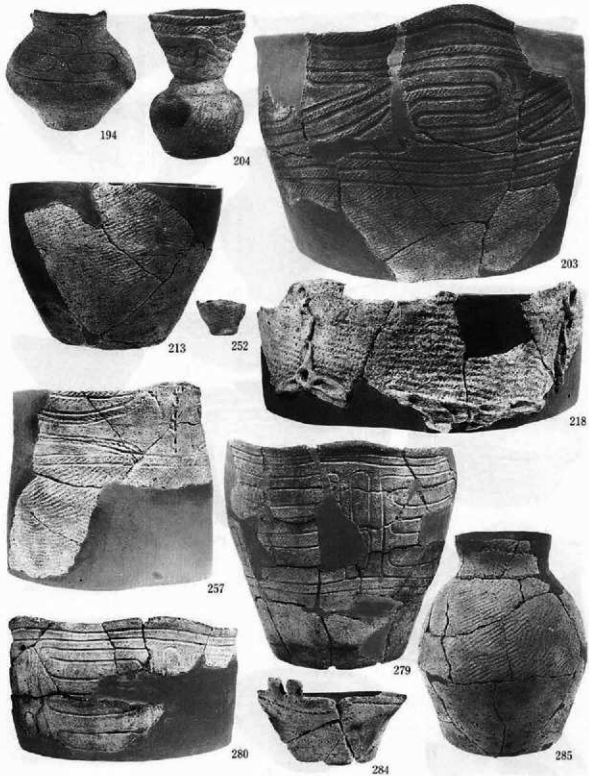
打欠石錘集中地点(3Dmn)



土器出土状況



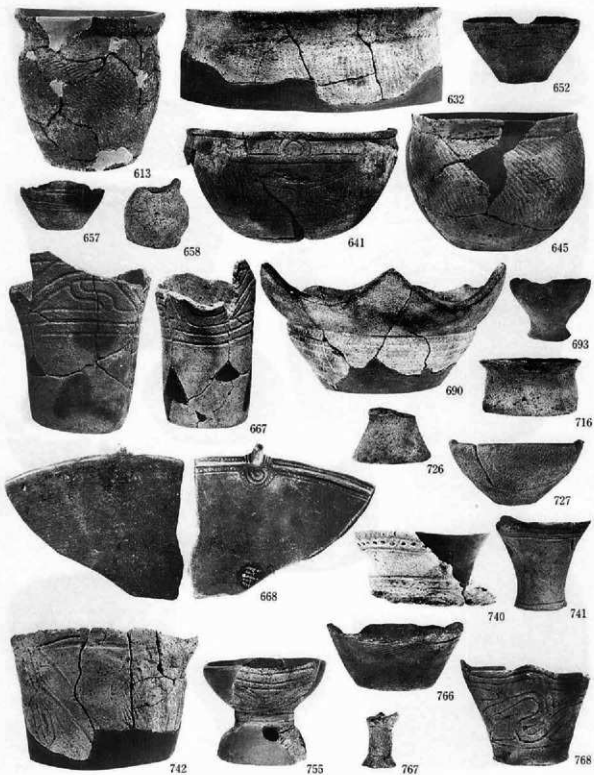
写真図版7 土器(1) (実測した土器) (S=1/2)
 (18は写真図版36にある)



写真図版 8 土器(2) (実測した土器) (S=1/5)



写真図版 9 土器(3) (実測した土器) (S=1/2)



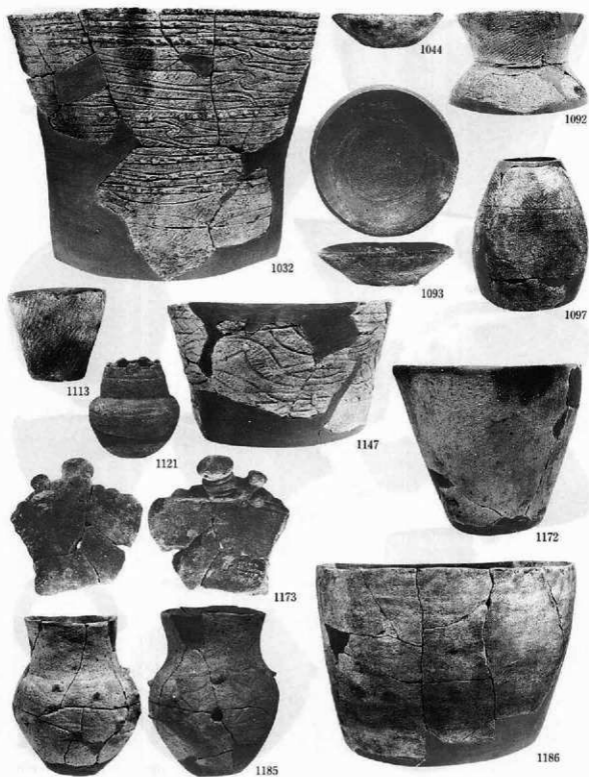
写真図版11 土器(5) (実測した土器) (S=1/2)



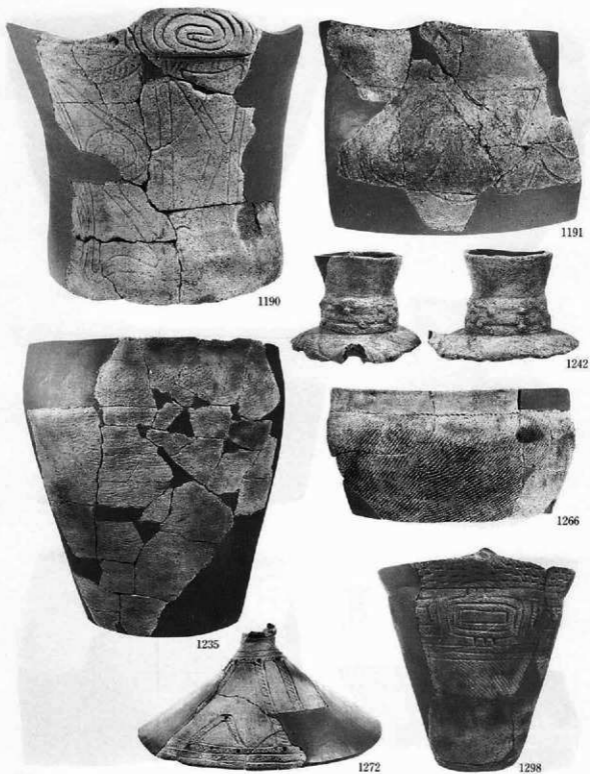
写真図版12 土器(6) (実測した土器) (S=1/2)



写真図版13 土器(7) (実測した土器) (S=1/4)



写真図版14 土器(8) (実測した土器) (1186はS=1/4、他はS=1/2)



写真図版15 土器(9) (実測した土器) (1266はS=1/4、他はS=1/2)



1341



1344



1342



1385



1343



1354



1367



1390

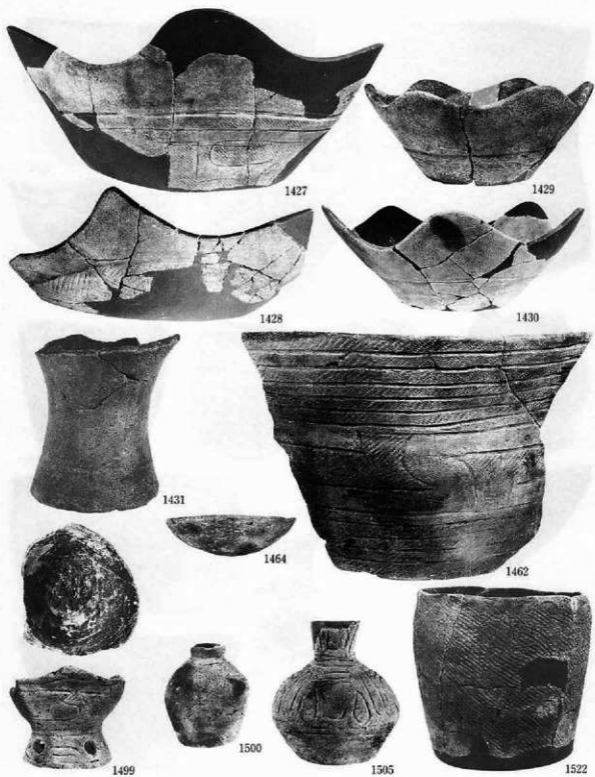


1407

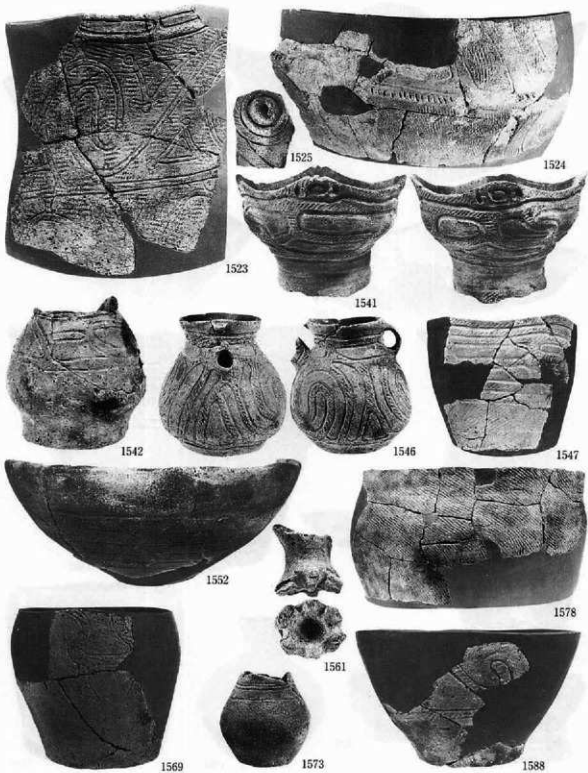


1411

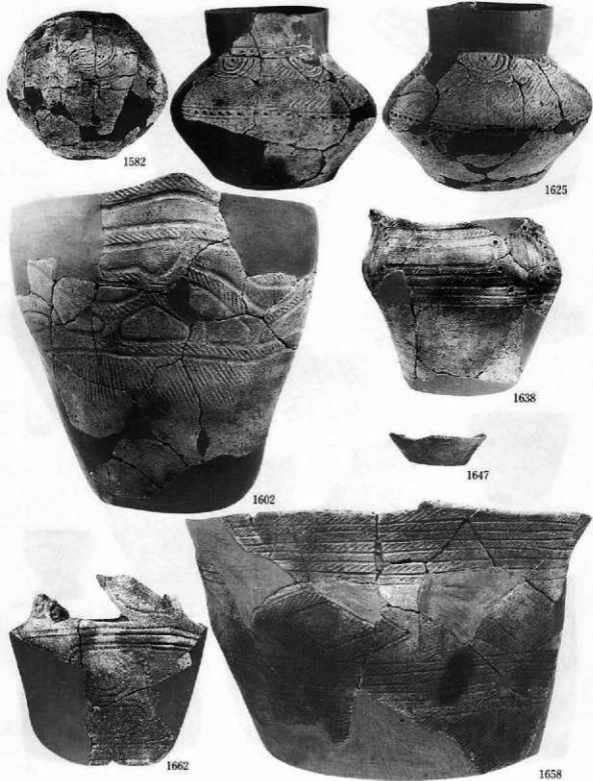
写真図版16 土器(10) (実測した土器) (S=1/5)



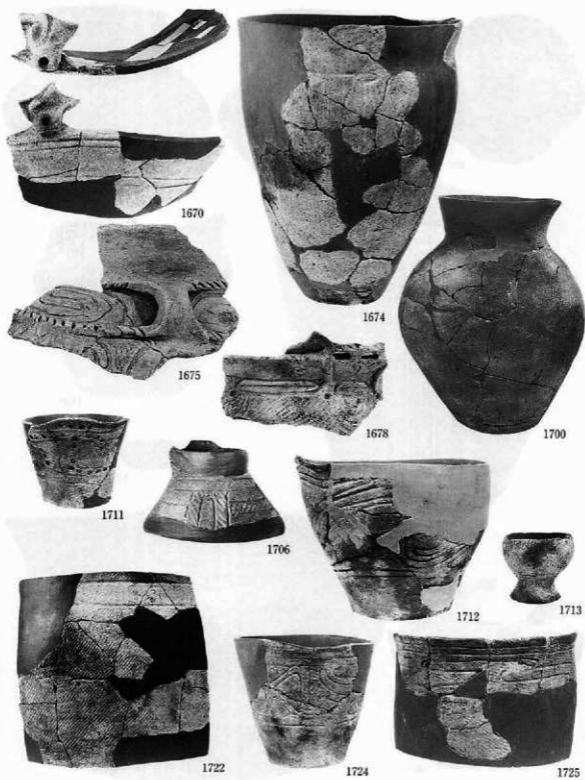
写真図版17 土器(11) (実測した土器) (S=1/2)



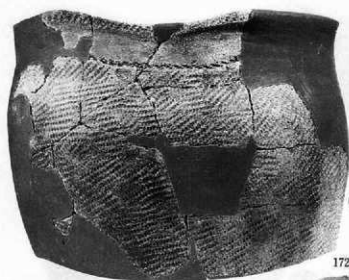
写真図版18 土器(12) (実測した土器) (1578はS=1/4、他はS=1/2)



写真図版19 土器(13) (実測した土器) (S=1/4)



写真図版20 土器(14) (実測した土器) (1674、1722はS=⅓、他はS=⅓)



1723



1752



1765



1766



1794



1795



1836

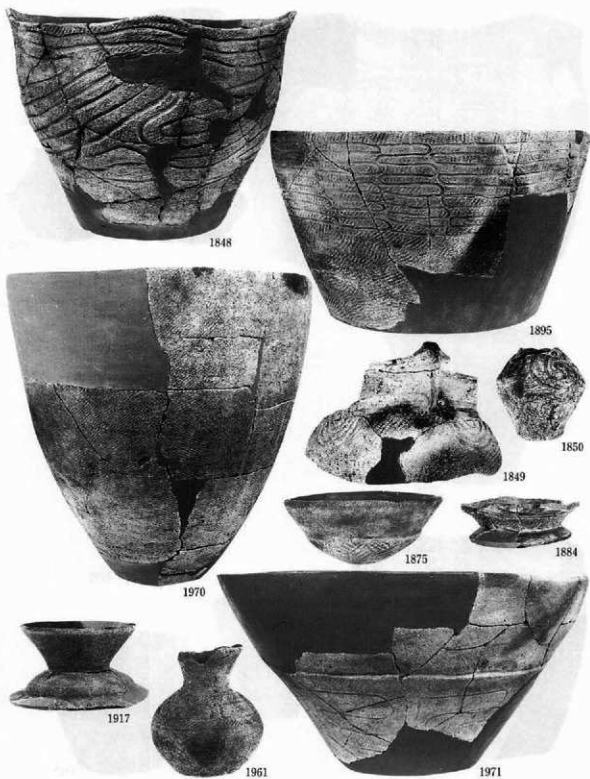


1841

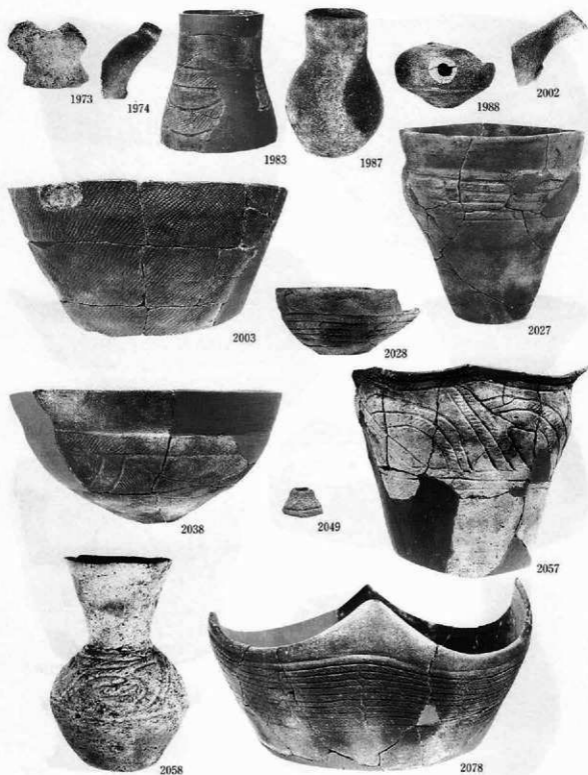


1842

写真図版21 土器(15) (実測した土器) (1795、1836はS=1/4、他はS=1/2)



写真図版22 土器(16) (実測した土器) (1970、1971はS=1/4、他はS=1/2)



写真図版23 土器(17) (実測した土器) (S=1/2)



2079



2083



2082



2093



2103



2110



2126

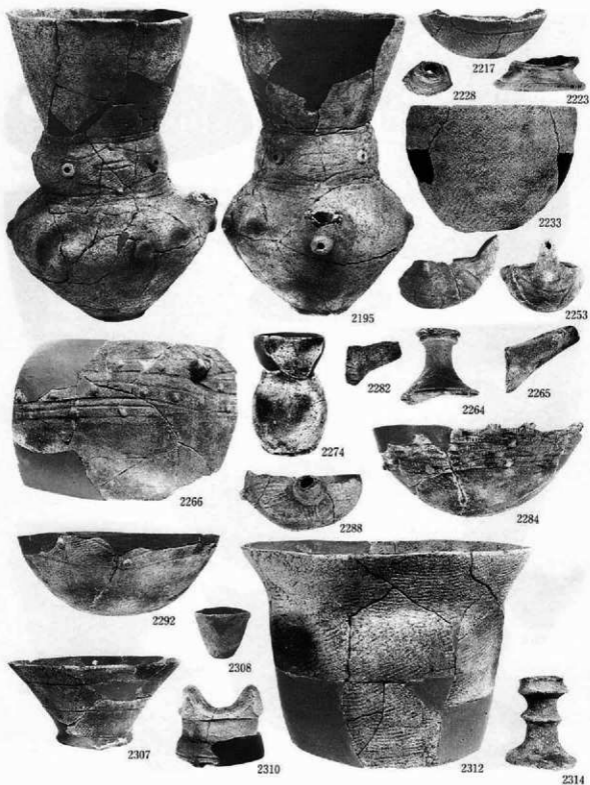


2136



2193

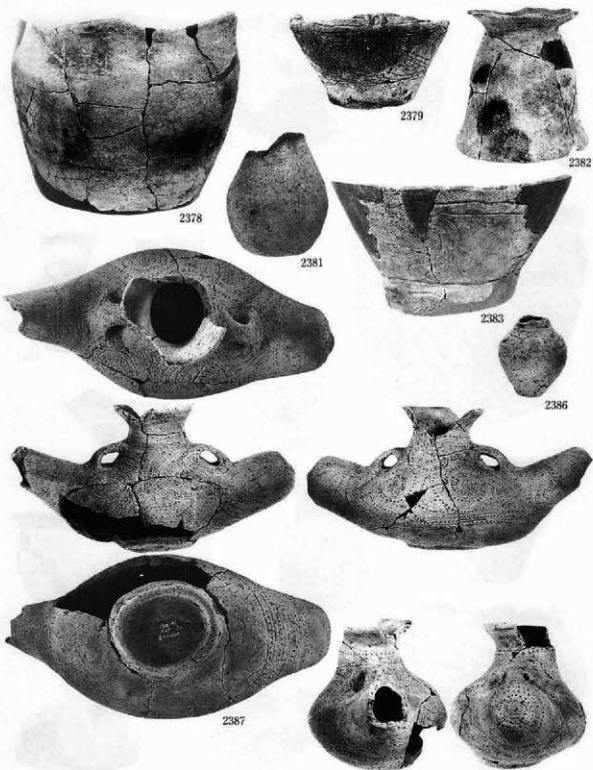
写真図版24 土器(18) (実測した土器) (S=1/4)



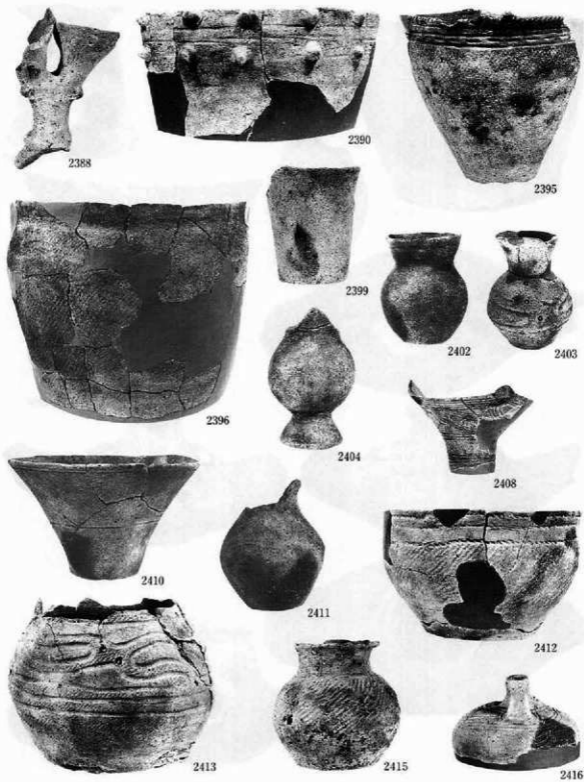
写真図版25 土器(19) (実測した土器) (S=1/4)



写真図版26 土器(20) (実測した土器) (2324、2364はS=1/2、他はS=1/4)



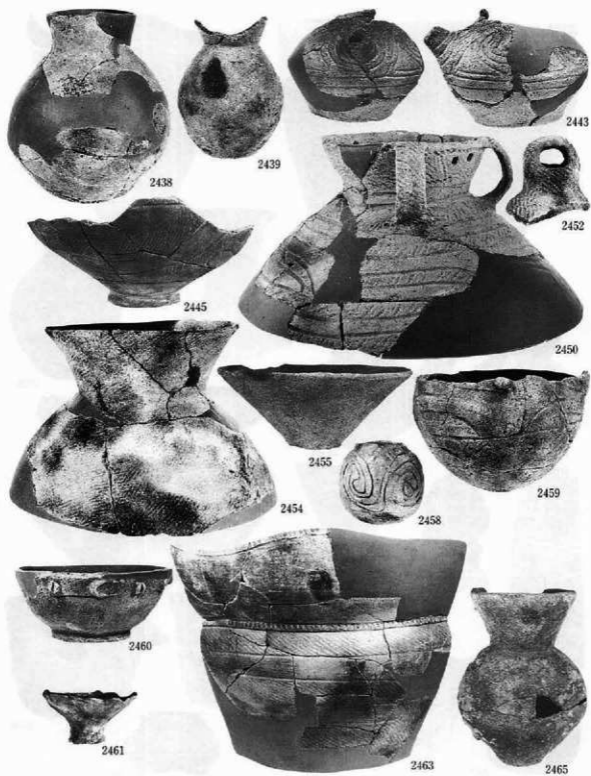
写真図版27 土器(21) (実測した土器) (2378はS=1/2、他はS=1/4)



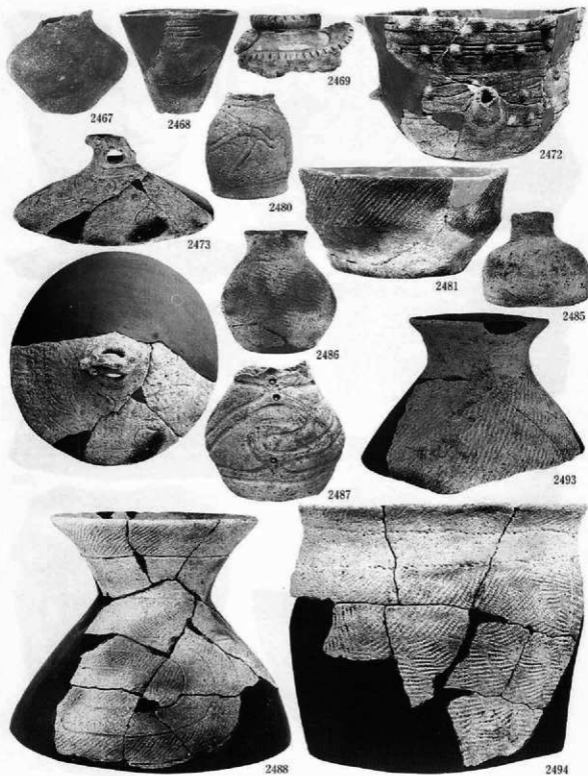
写真図版28 土器(22) (実測した土器) (2396はS=1/2、他はS=1/3)



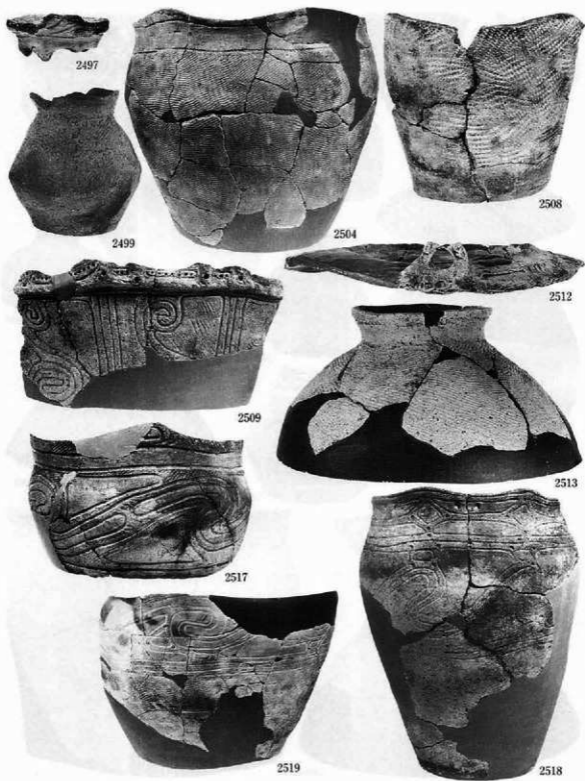
写真図版29 土器(23) (実測した土器) (2417はS=1/2、他はS=1/3)



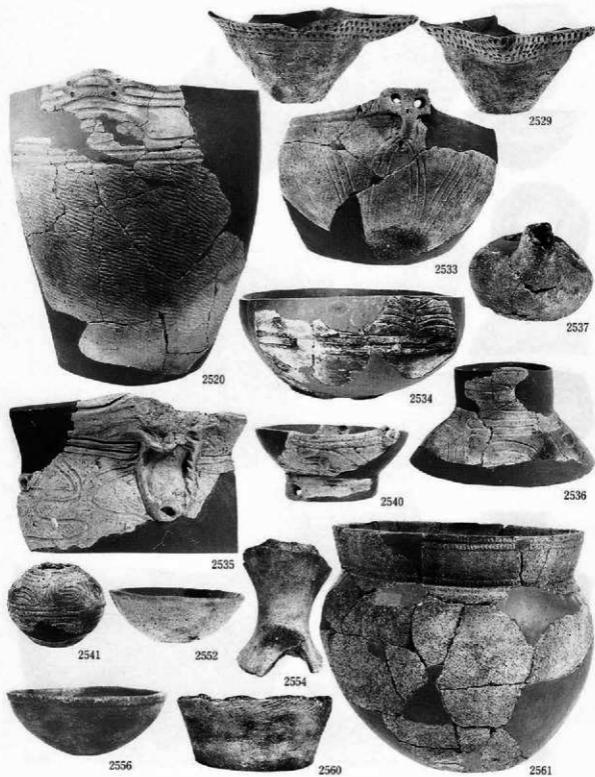
写真図版30 土器(24) (実測した土器) (2463はS=1/4、他はS=1/2)



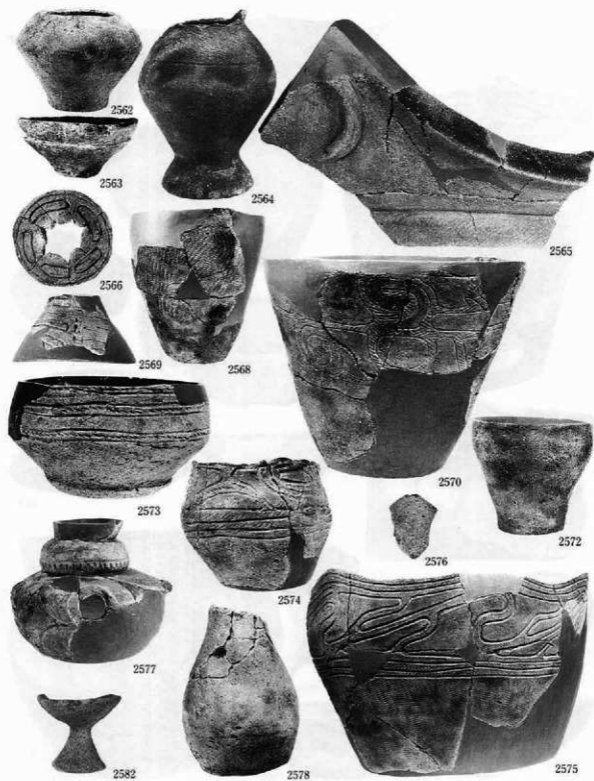
写真図版31 土器(25) (実測した土器) (S=1/5)



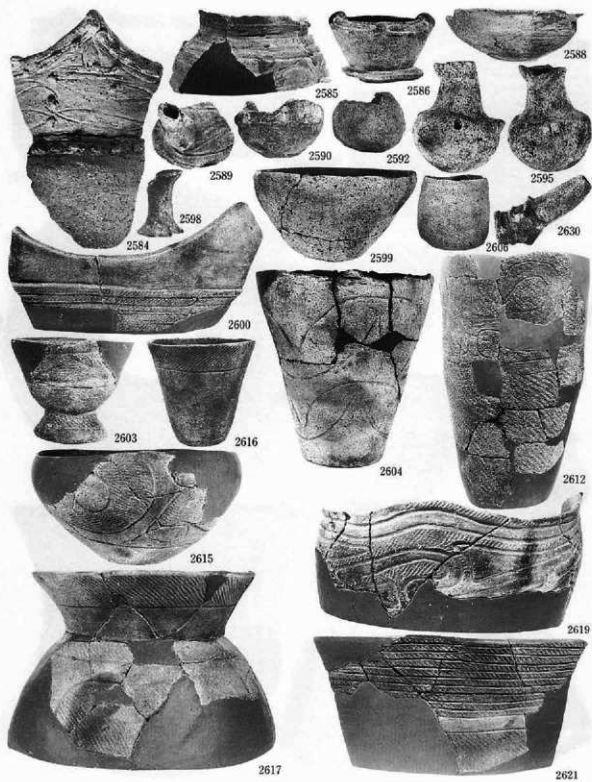
写真図版32 土器(26) (実測した土器) (2518はS=1/4、他はS=1/2)



写真図版33 土器(27) (実測した土器) (2520は $S = \frac{1}{2}$ 、他は $S = \frac{1}{4}$)



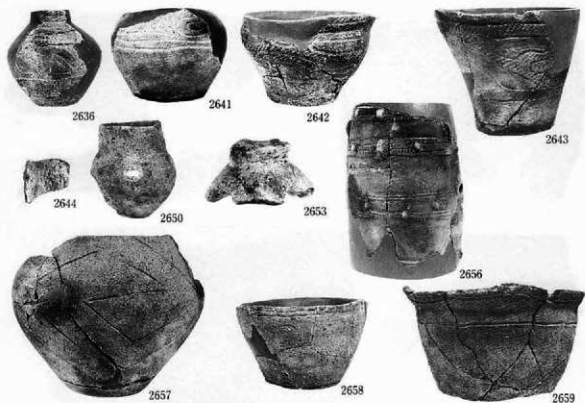
写真図版34 土器(28) (実測した土器) (S=1/4)



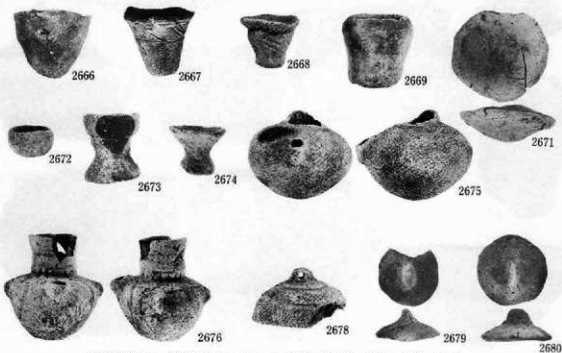
写真図版35 土器(29) (実測した土器) (2620はS=1/2、他はS=1/3)



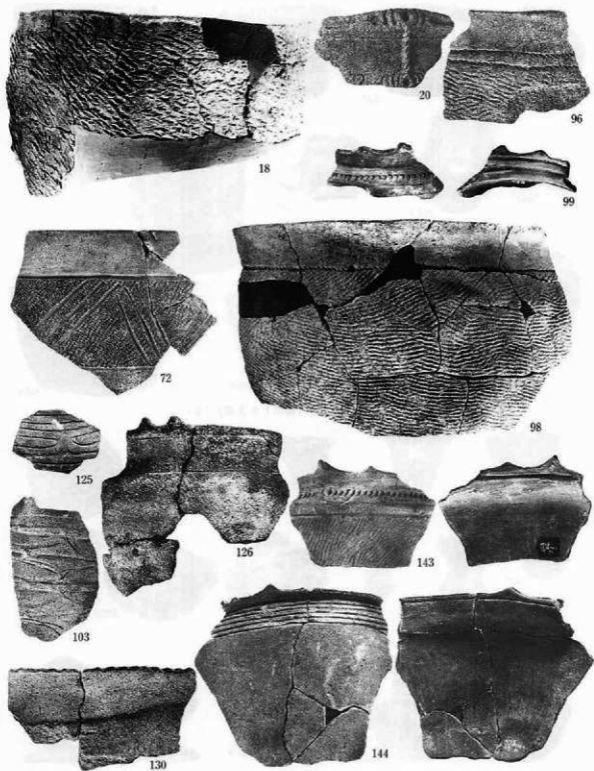
写真図版36 土器(30) (実測した土器) (S=1/4)



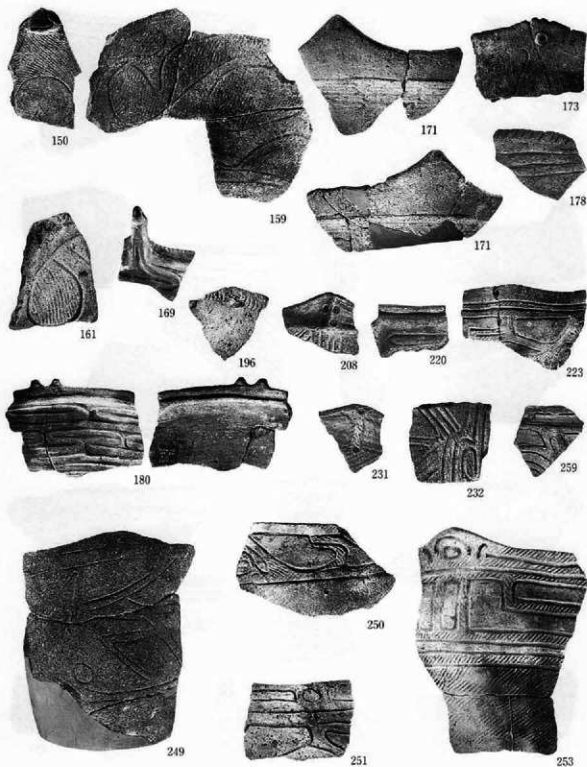
写真図版37 土器(31) (実測した土器) (S=¼)



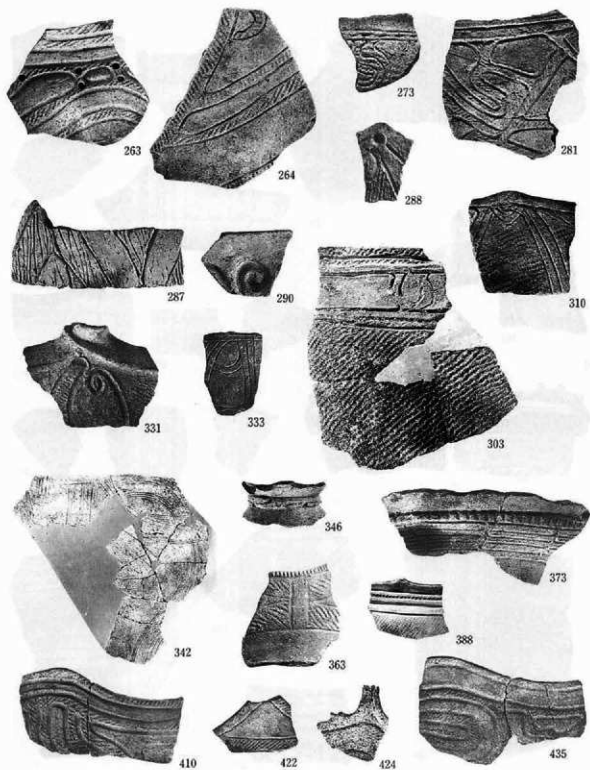
写真図版37 土器(31) (ミニチュア土器) (2636、2641、2642、2643、
 2644、2650、2653、2656、2658、2659はS=¼、他はS=⅓)



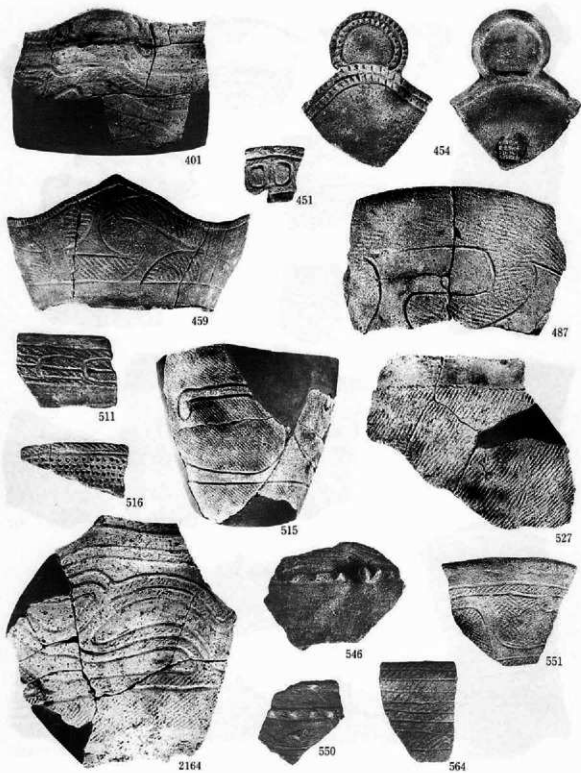
写真図版38 土器(32) (採掘土器) (S=1/4)



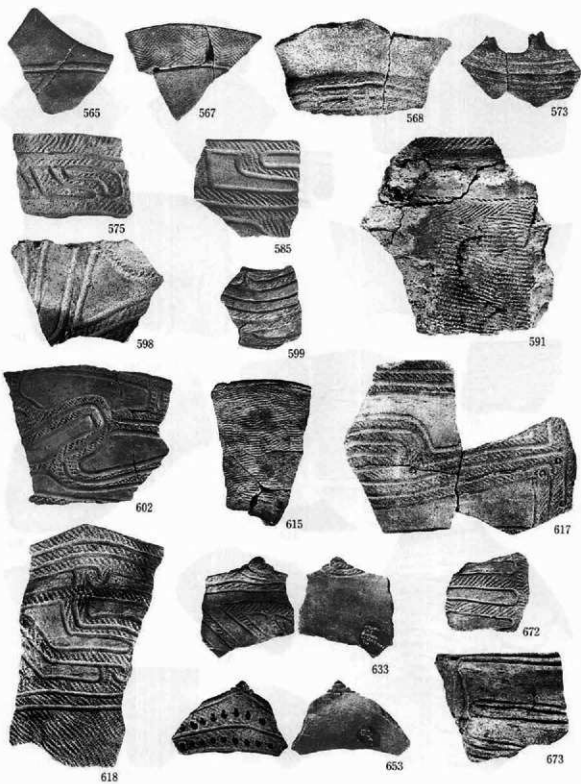
写真图版39 土器(33) (採拓土器) (S = 1/4)



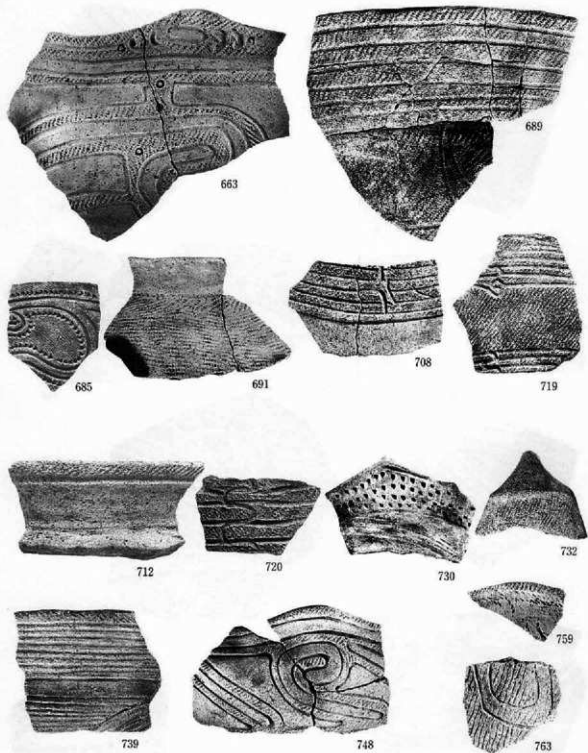
写真図版40 土器(34) (採拓土器) (S=1/4)



写真图版41 土器(35) (採拓土器) (S=1/4)



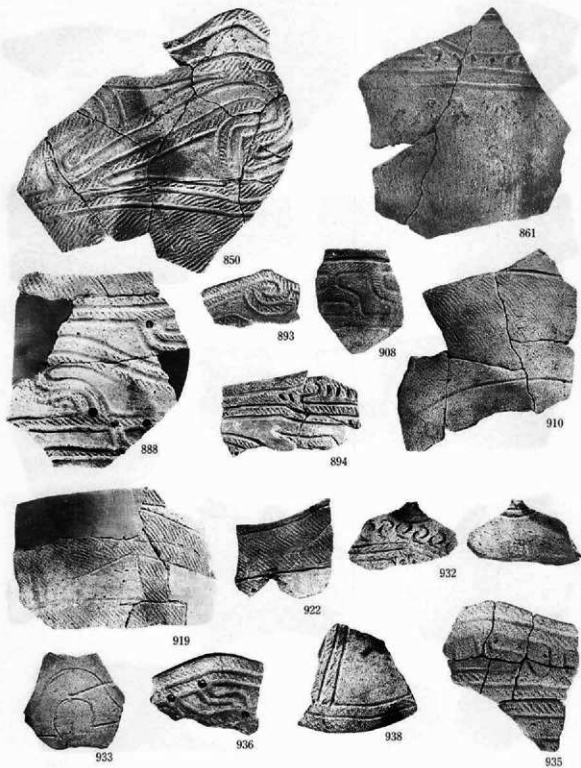
写真図版42 土器(38) (採拓土器) (S=1/2)



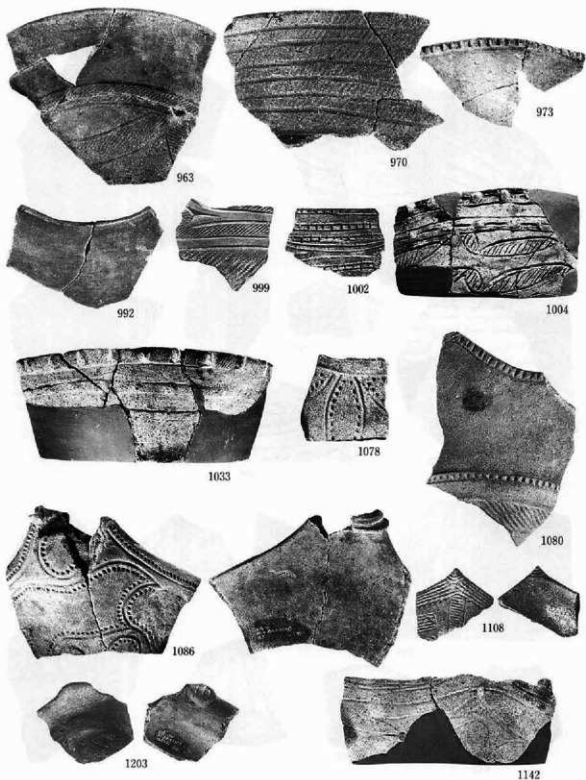
写真図版43 土器(37) (採拓土器) (S=1/4)



写真図版44 土器(38) (採拓土器) (S = 1/4)



写真図版45 土器(39) (採拓土器) (S=1/4)



写真図版46 土器(40) (採拓土器) (S=1/2)



1137



1204



1213



1217



1205



1220



1231



1241



1221



1304



1265



1282



1302

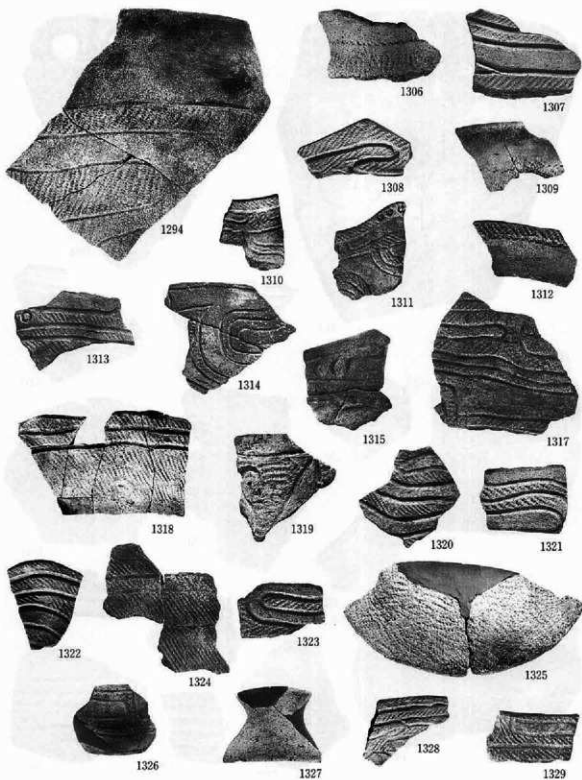


1303

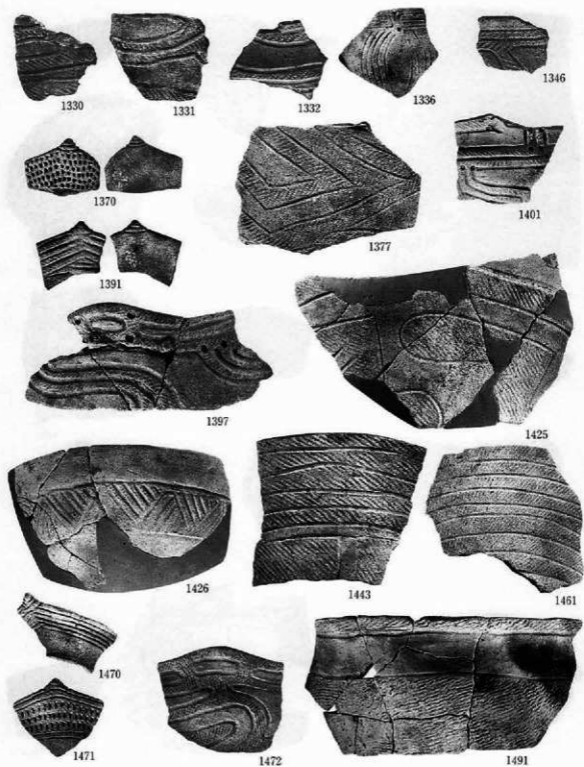


1305

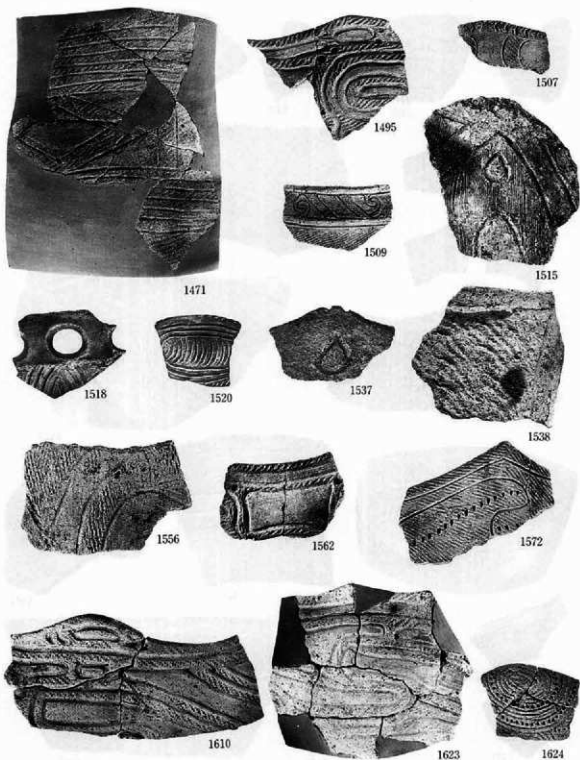
写真图版47 土器(41) (探拓土器) (S=1/4)



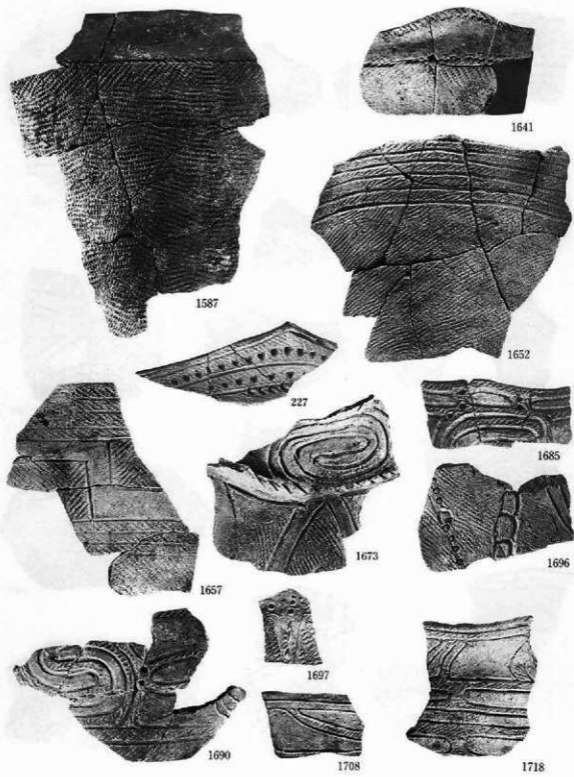
写真図版48 土器(42) (採拓土器) (S=1/4)



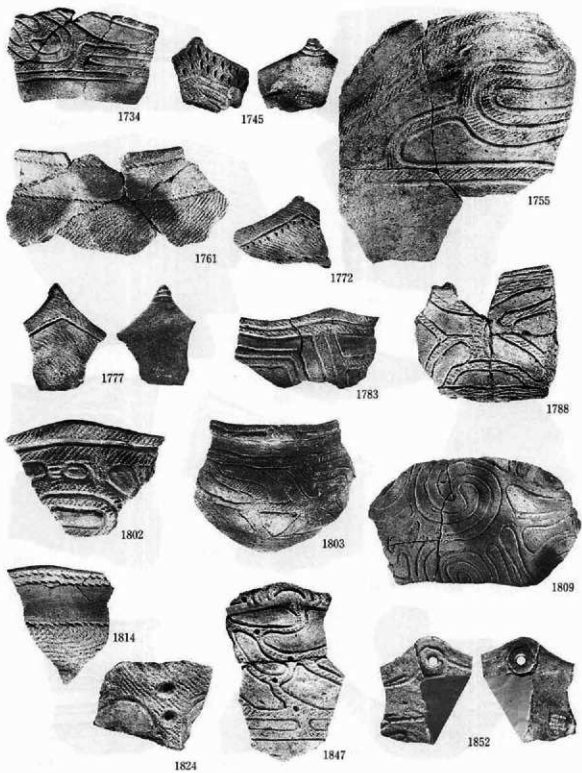
写真図版49 土器(43) (採拓土器) (S=1/4)



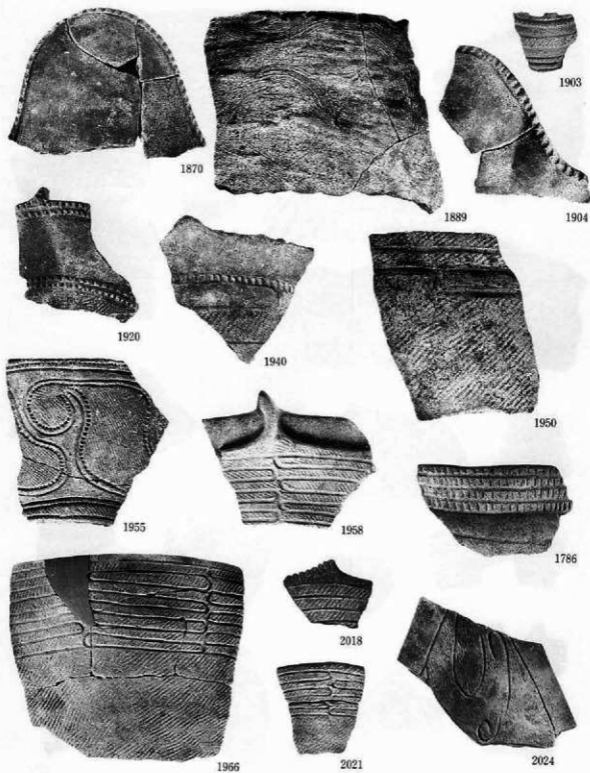
写真図版50 土器(44) (採拓土器) (S=1/2)



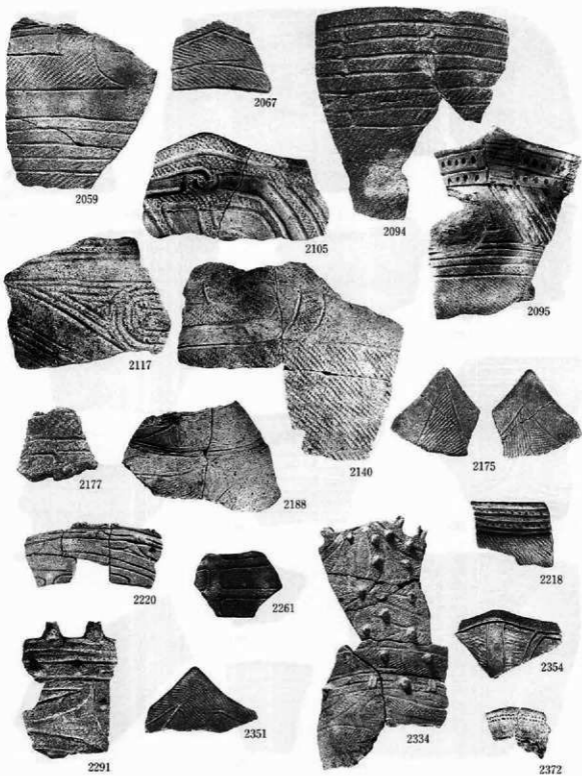
写真图版51 土器(45) (採拓土器) (S=1/6)



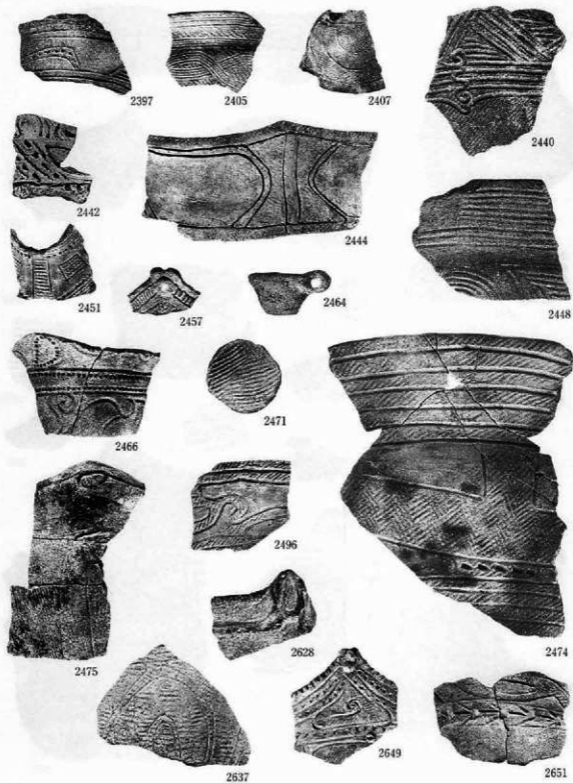
写真図版52 土器(46) (採拓土器) (S=1/2)



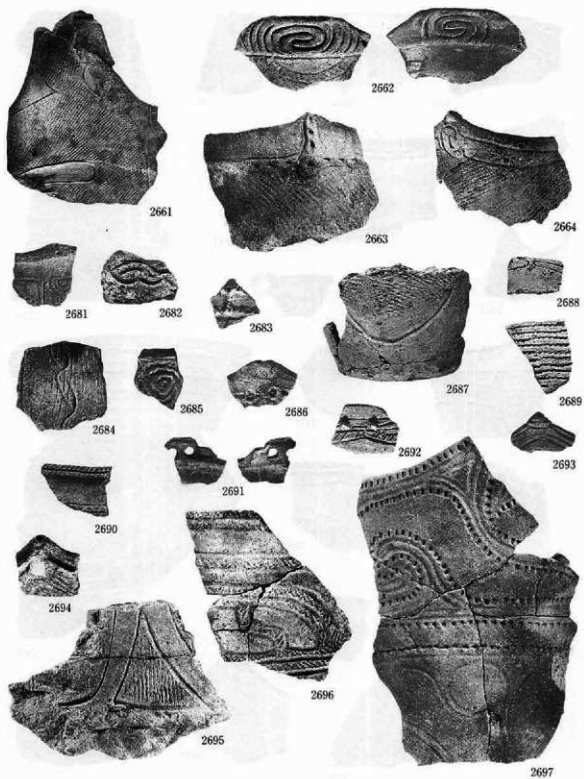
写真図版53 土器(47) (採拓土器) (S=1/4)



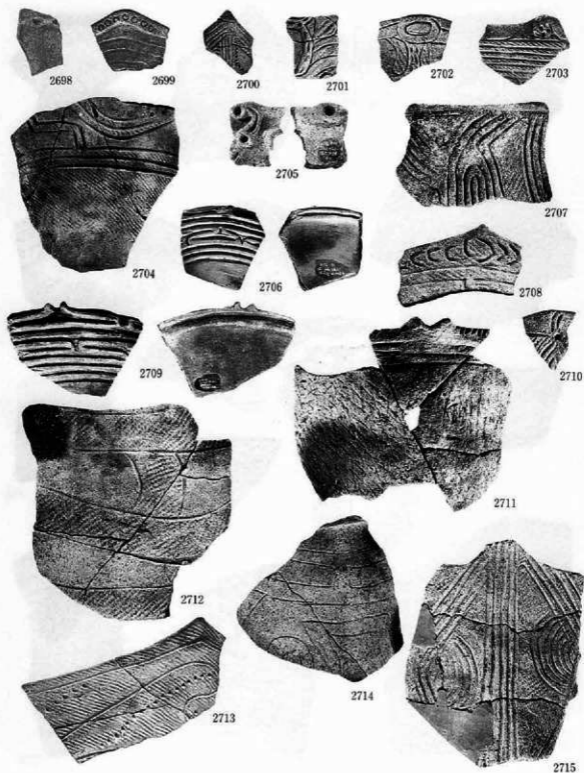
写真図版54 土器(48) (採拓土器) (S=1/2)



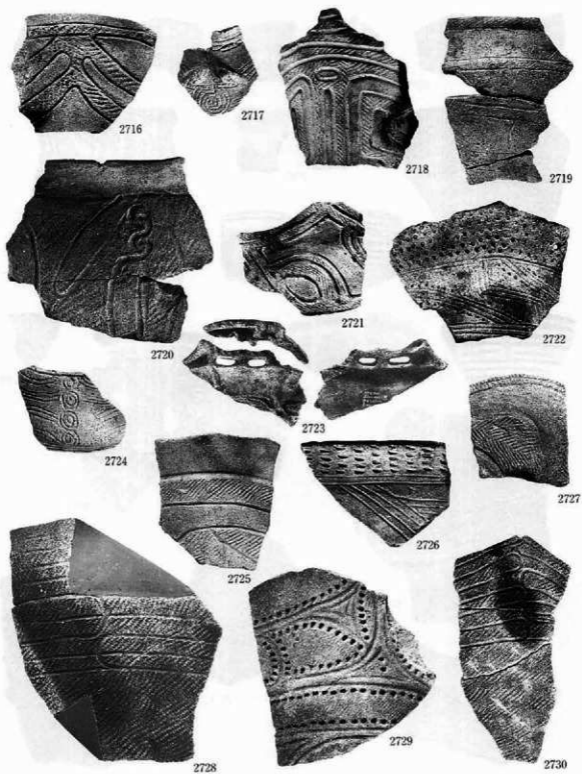
写真图版55 土器(49) (採拓土器) (S=1/2)



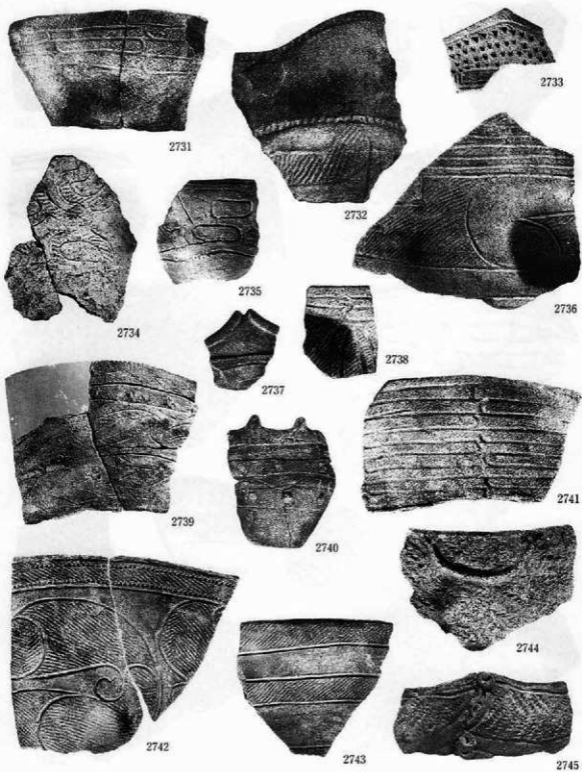
写真圖版56 土器(50) (採掘土器: 2661~2664 • 圖版不掲載: 2681~2697) (S=1/5)



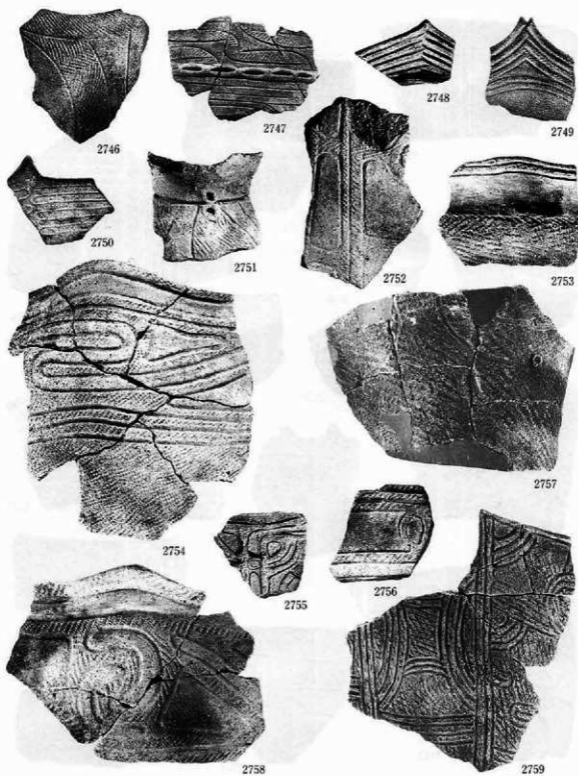
写真図版57 土器(51) (図版不掲載) (S=1/4)



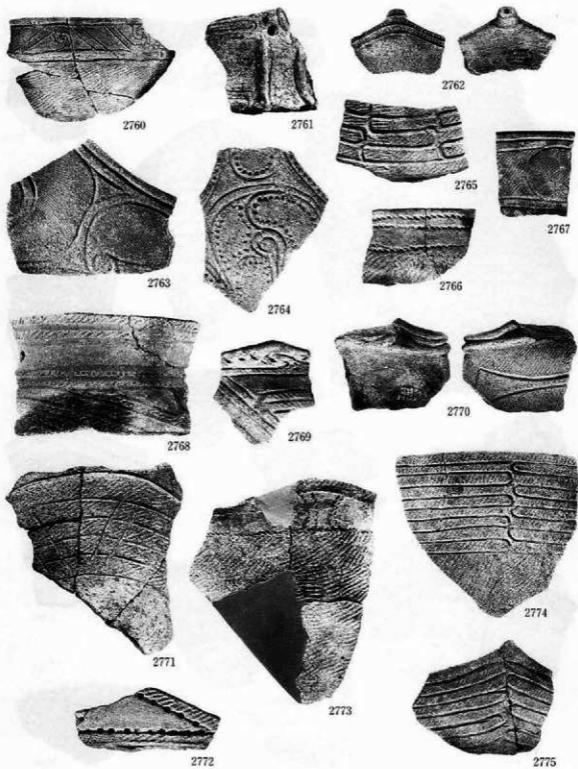
写真図版58 土器(52) (図版不掲載) (S=1/2)



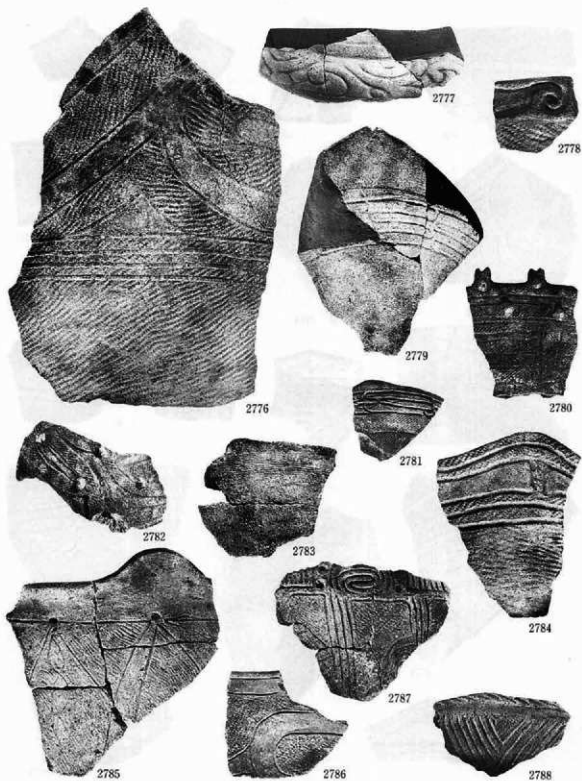
写真図版59 土器(53) (図版不掲載) (S=1/4)



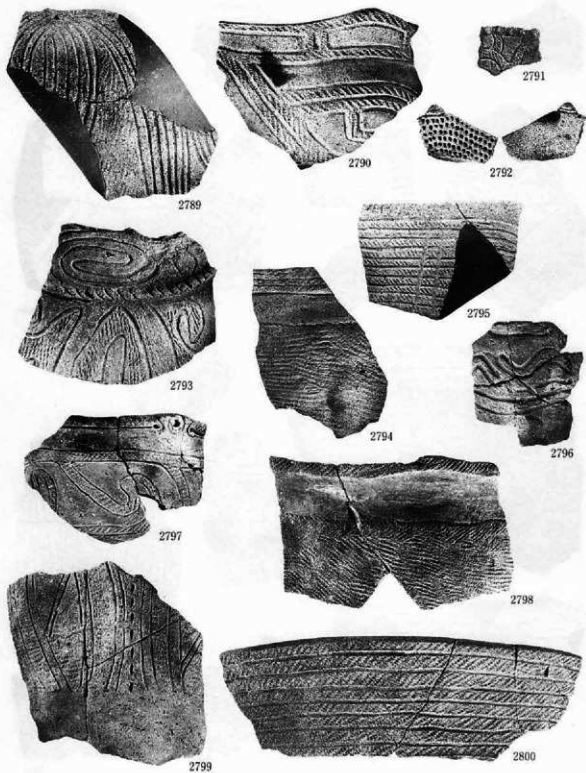
写真図版60 土器(54) (図版不掲載) (S = 1/4)



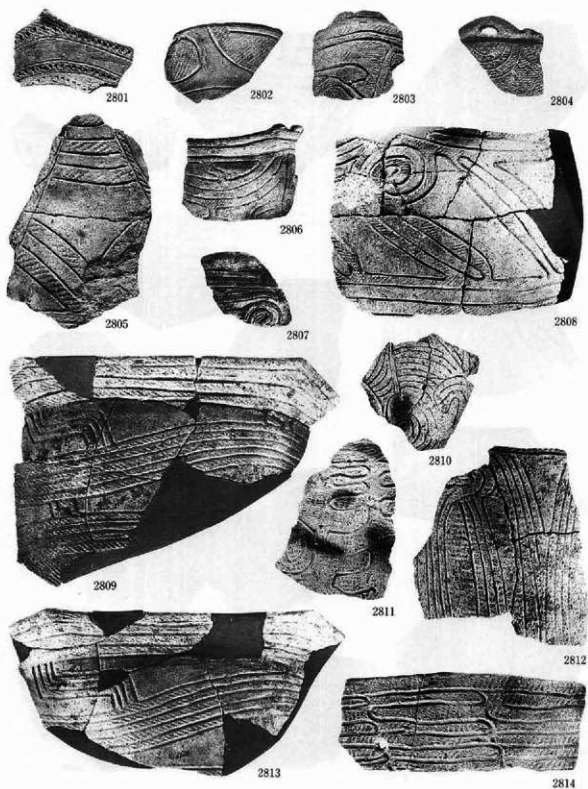
写真図版61 土器(55) (図版不掲載) (S=1/2)



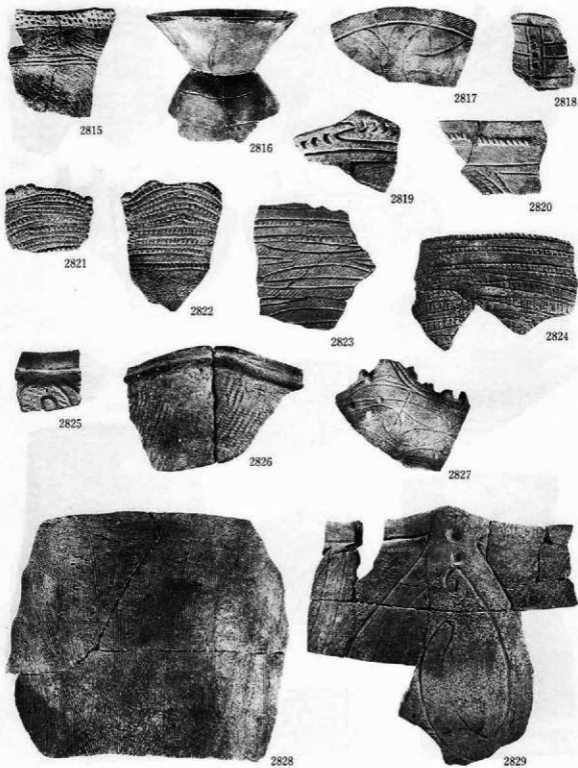
写真図版62 土器(56) (図版不掲載) (S=1/2)



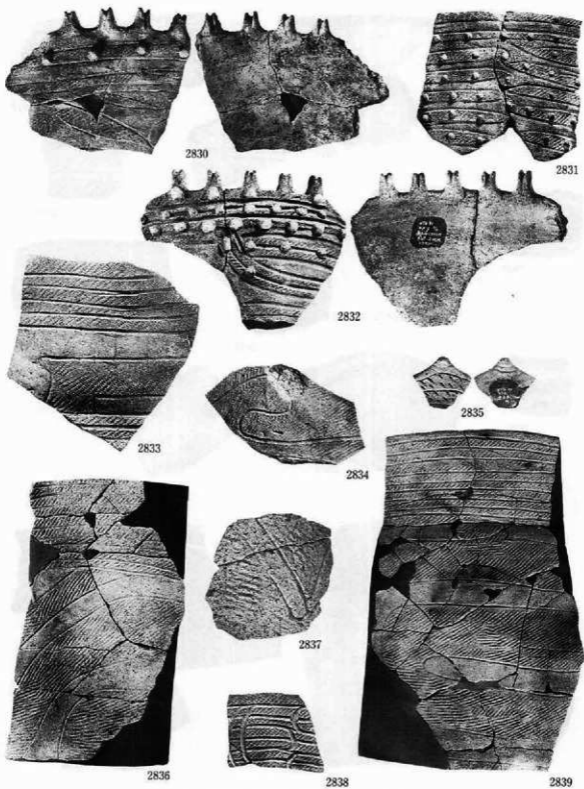
写真図版63 土器(57) (図版不掲載) (S=1/4)



写真図版64 土器(58) (図版不掲載) (S=1/2)



写真図版65 土器(59) (図版不掲載) (S=1/4)



写真図版66 土器(60) (図版不掲載) (S=1/4)



2840



2841



2842



2843



2844



2845



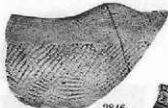
2847



2848



2849



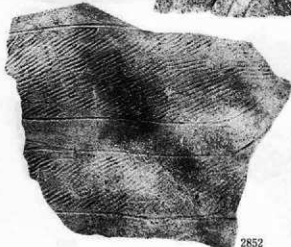
2846



2850



2851

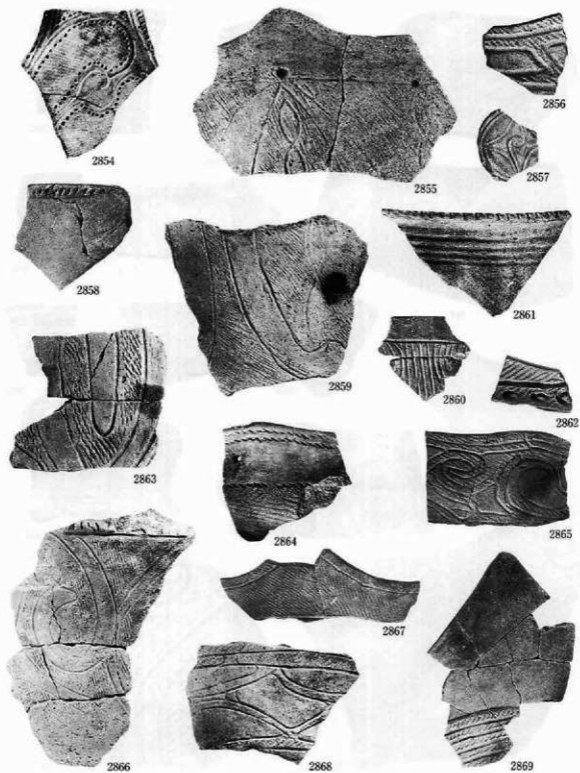


2852

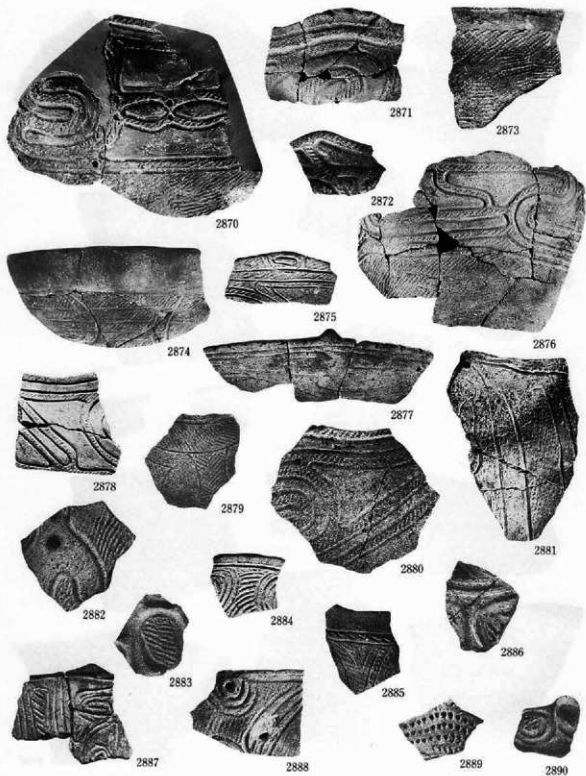


2853

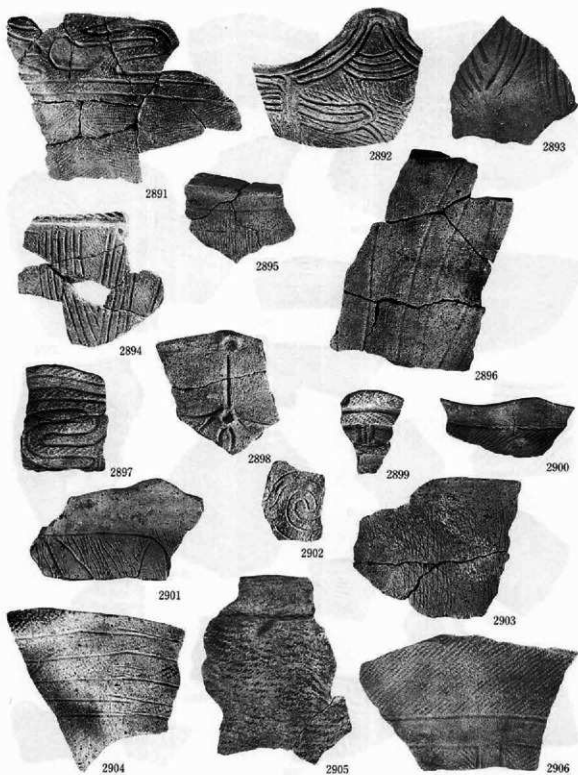
写真図版67 土器(61) (図版不掲載) (S=1/5)



写真図版68 土器(62) (図版不掲載) (S=1/5)



写真図版69 土器(63) (図版不掲載) (S=1/4)



写真図版70 土器(64) (図版不掲載) (S=1/2)



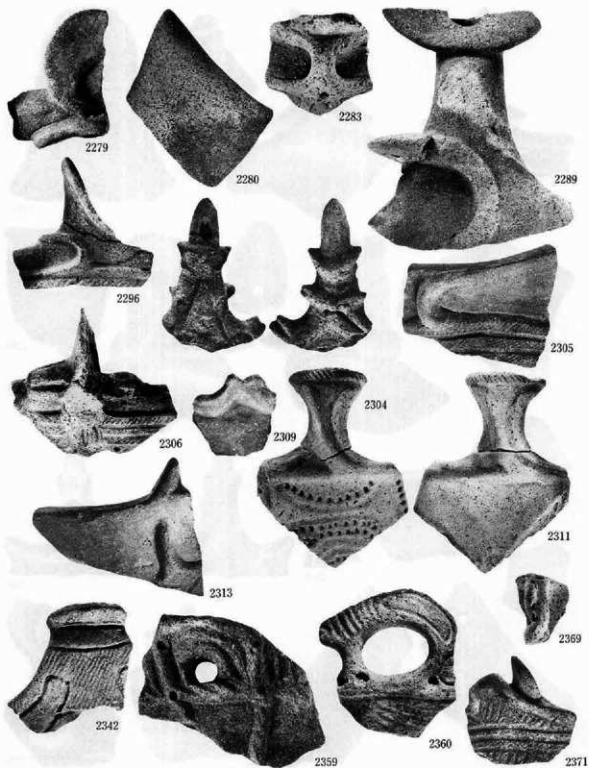
写真図版71 土器(65)(突起類)(S=1/2)



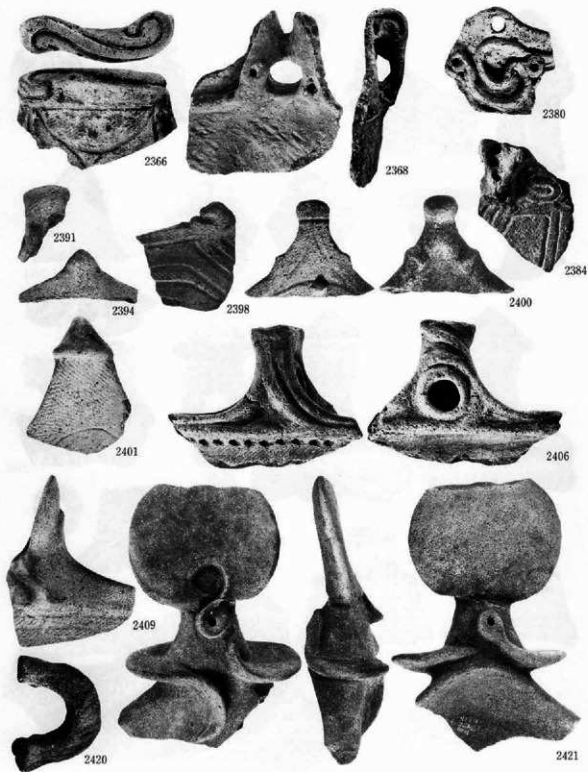
写真図版72 土器(66) (突起類) (S = 1/2)



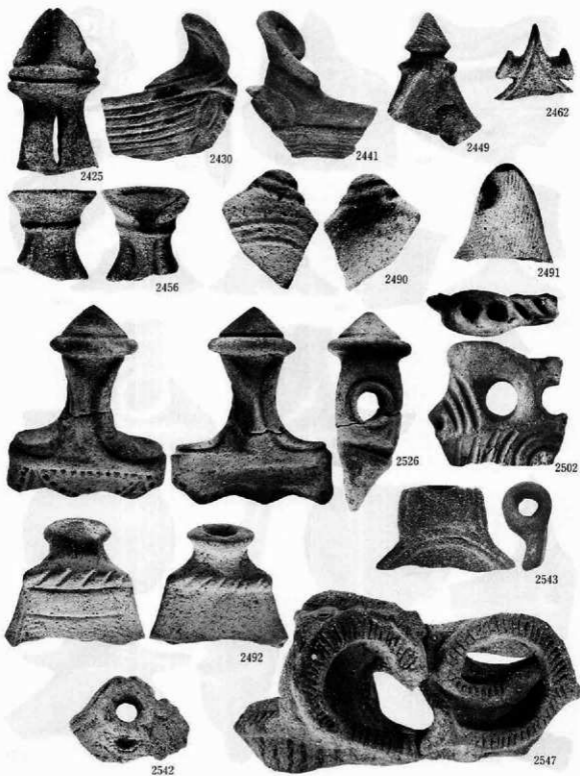
写真図版73 土器(67) (突起類) (S=1/2)



写真图版74 土器(68) (突起類) (S = 1/2)



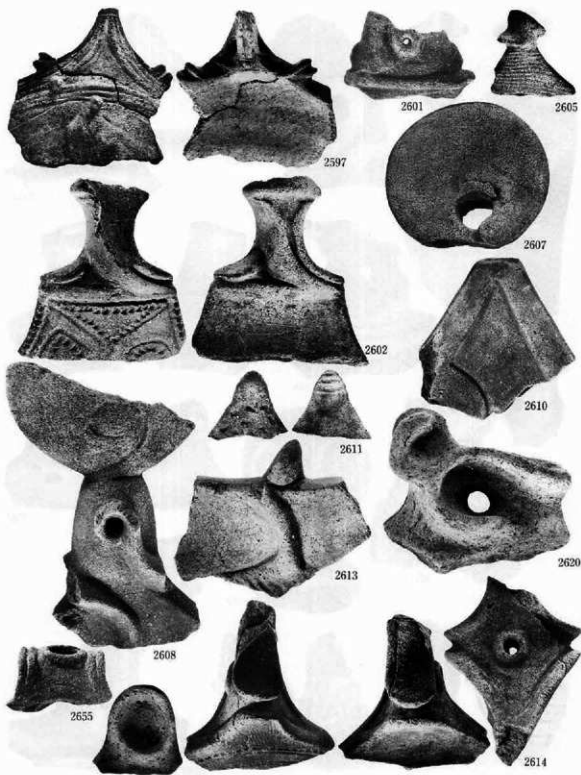
写真図版75 土器(69) (突起類) (S=1/2)



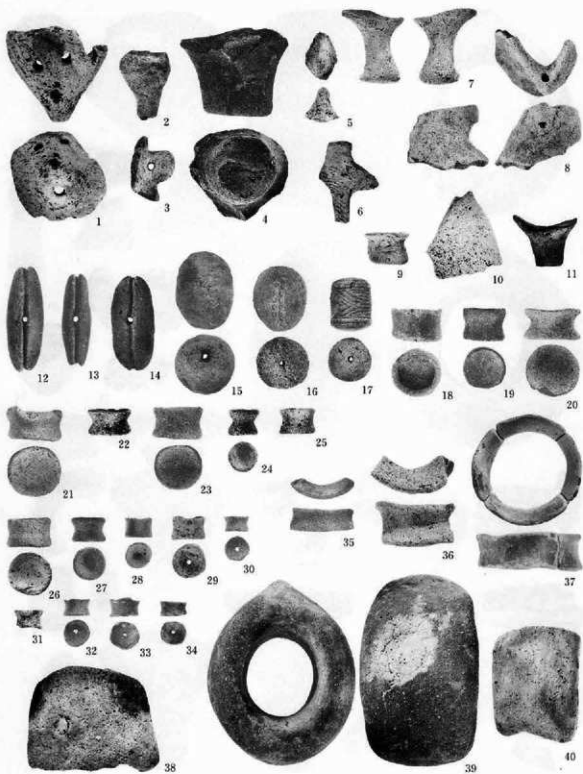
写真图版76 土器(70) (突起類) (S=1/2)



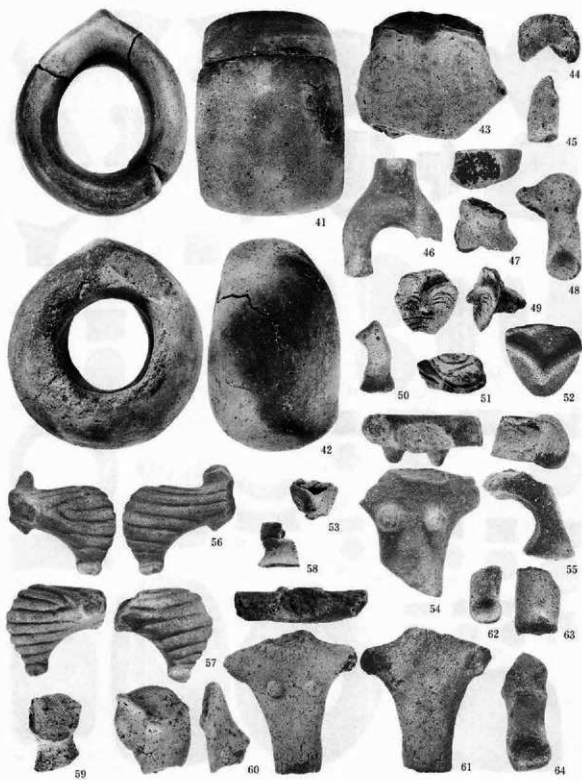
写真図版77 土器(71) (突起類) (2551はS=1/4、他はS=1/2)



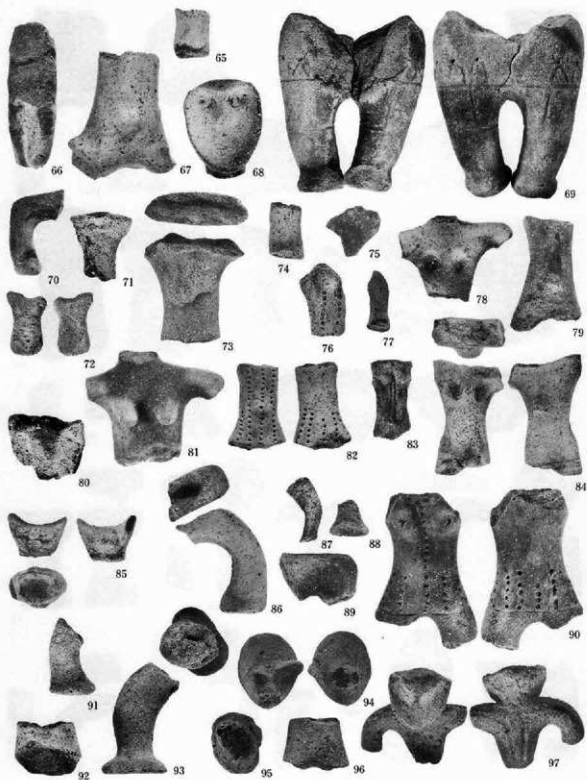
写真图版78 土器(72) (突起類) (S=1/2)



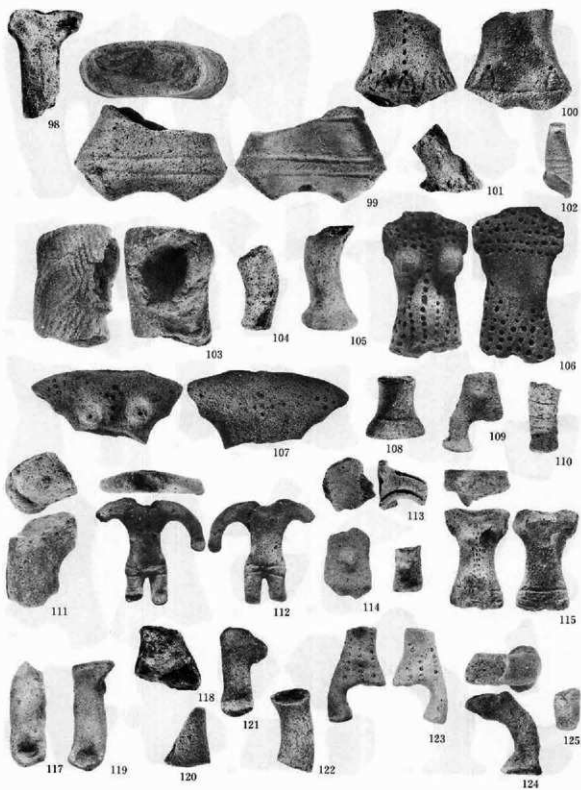
写真図版79 土製品(1) (S=1/2)



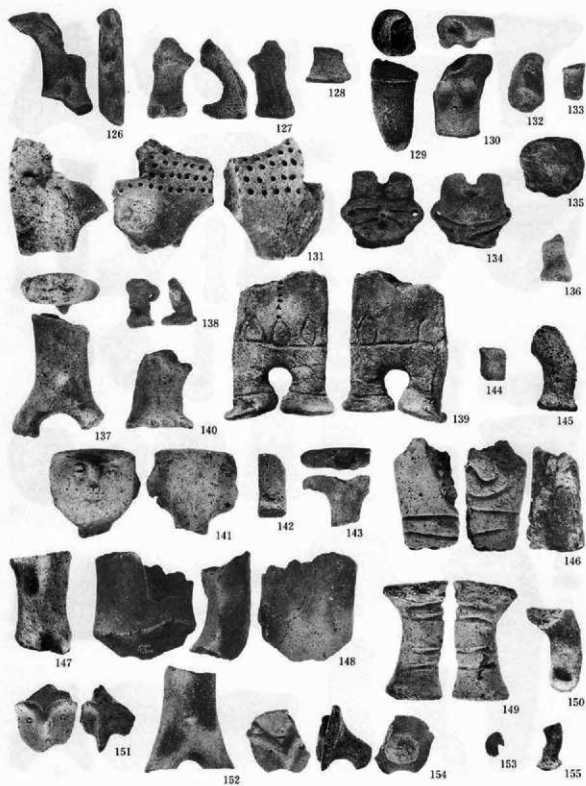
写真図版80 土製品(2) (S=1/2)



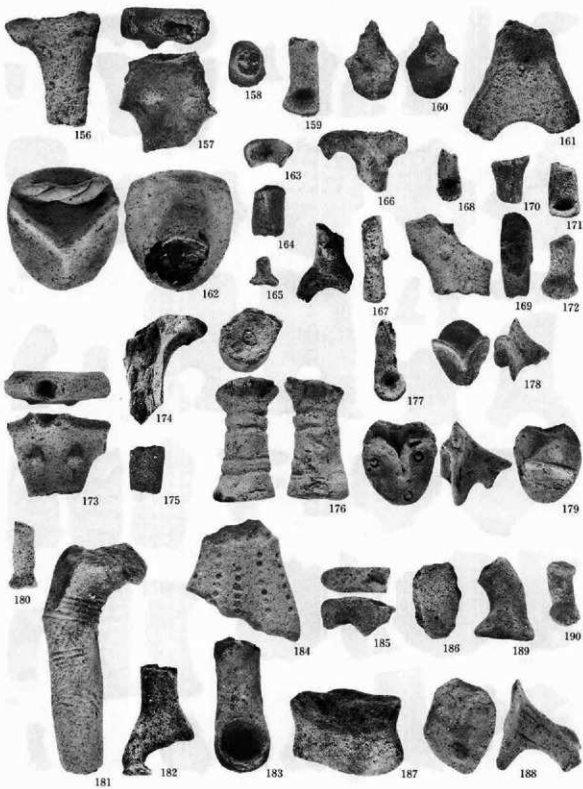
写真図版81 土製品(3) (S = 1/2)



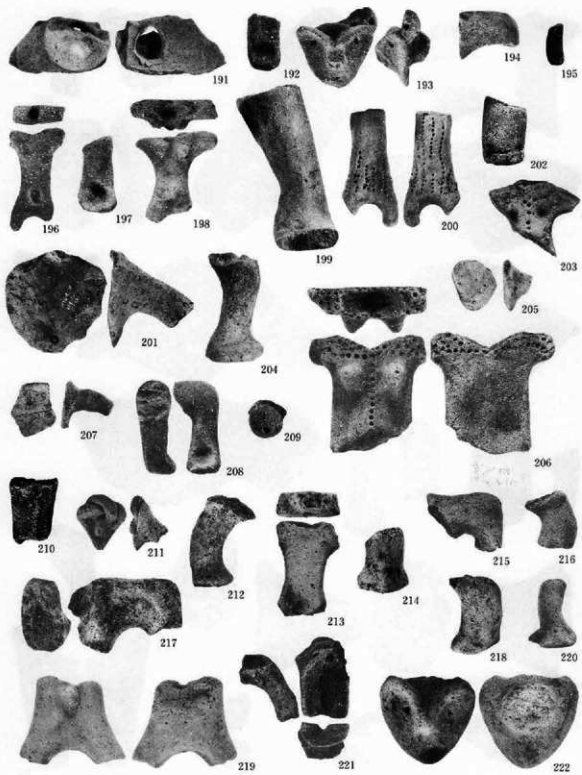
写真図版82 土製品(4) (S = 1/2)



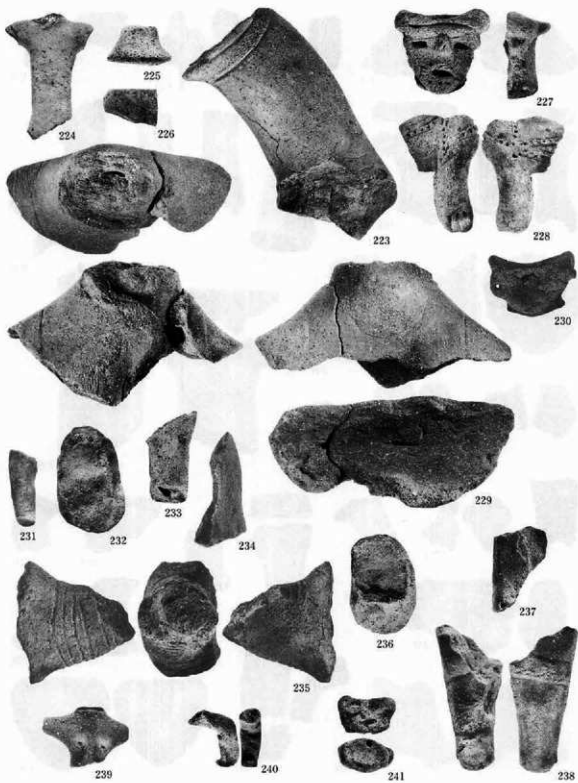
写真図版83 土製品(5) (= 1/2)



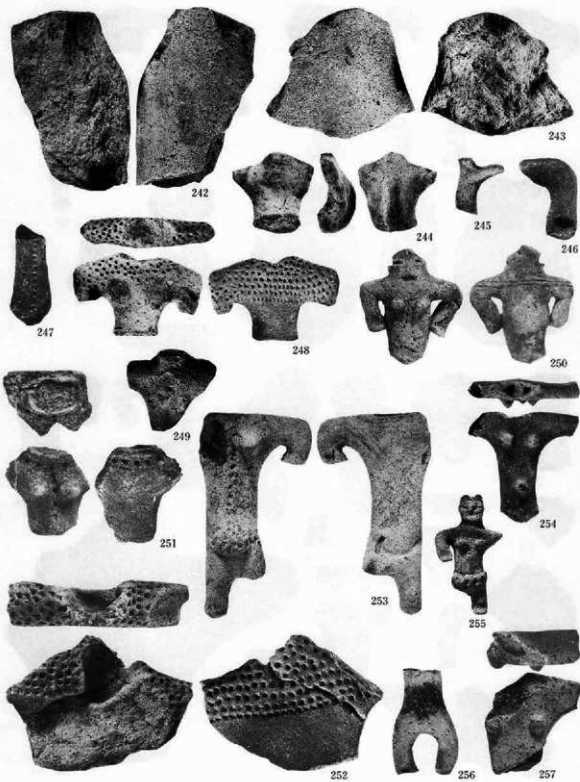
写真図版84 土製品(6) (S = 1/2)



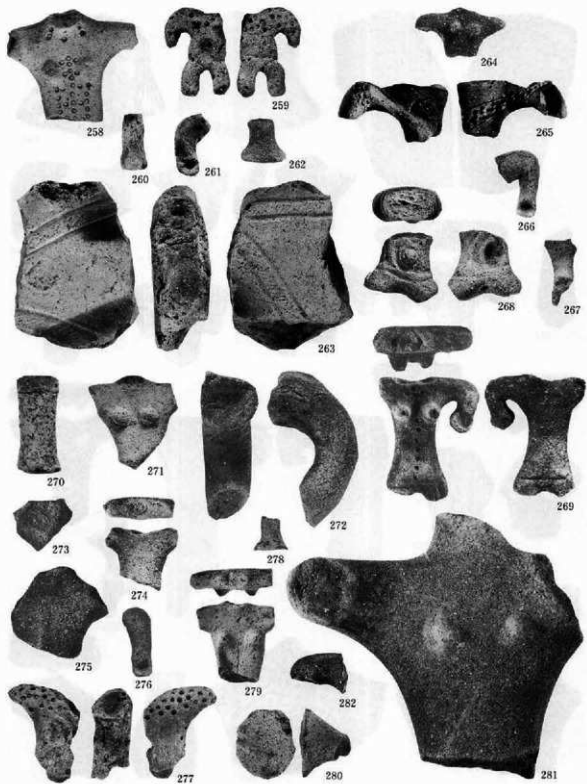
写真図版85 土製品(7) (S=1/2)



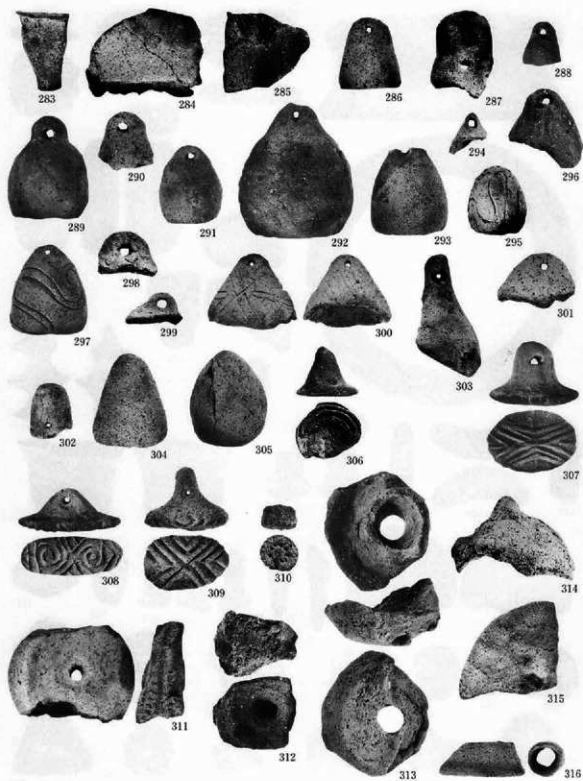
写真図版86 土製品(8) (S = 1/2)



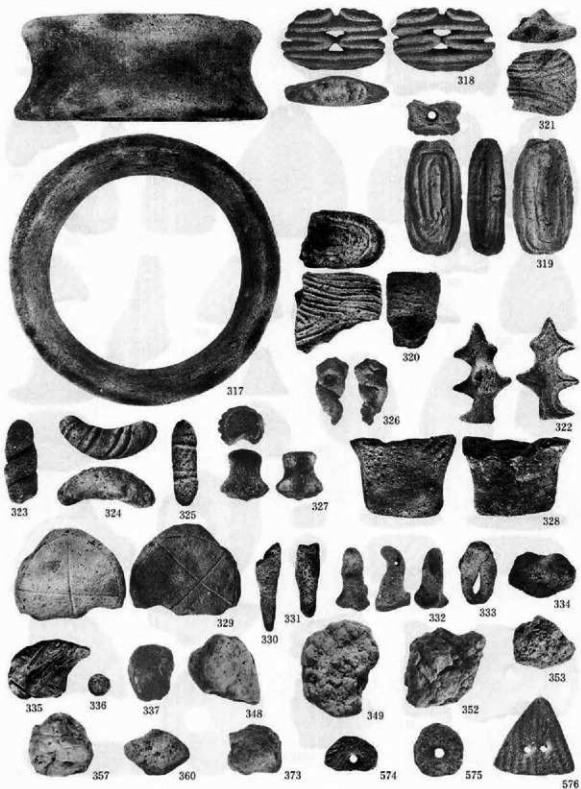
写真図版87 土製品(9) (S=1/2)



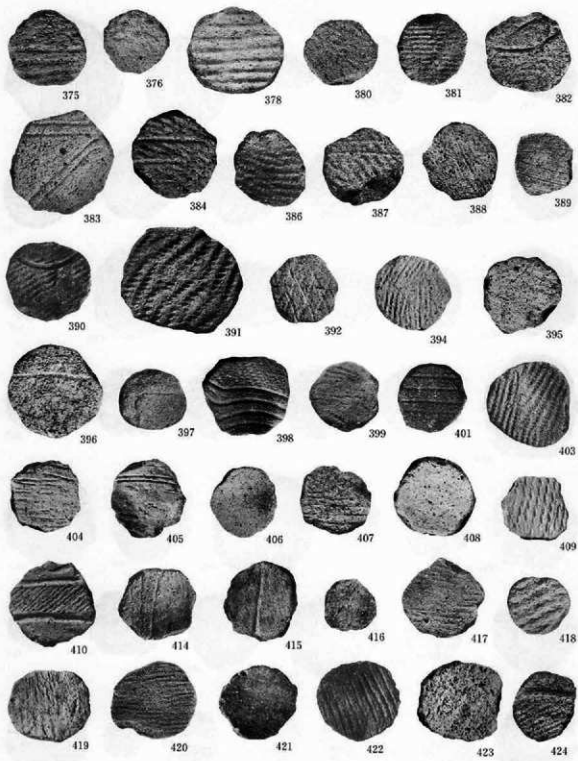
写真図版88 土製品10 (S=1/2)



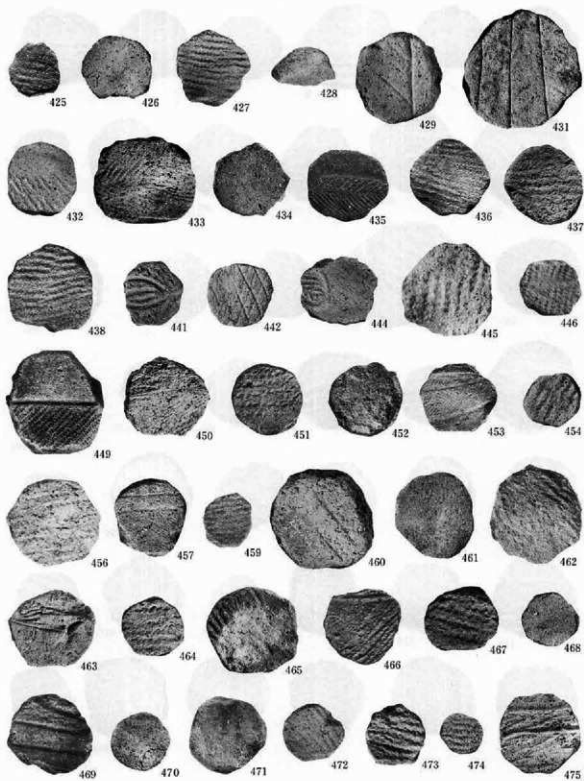
写真図版89 土製品(11) (S=1/2)



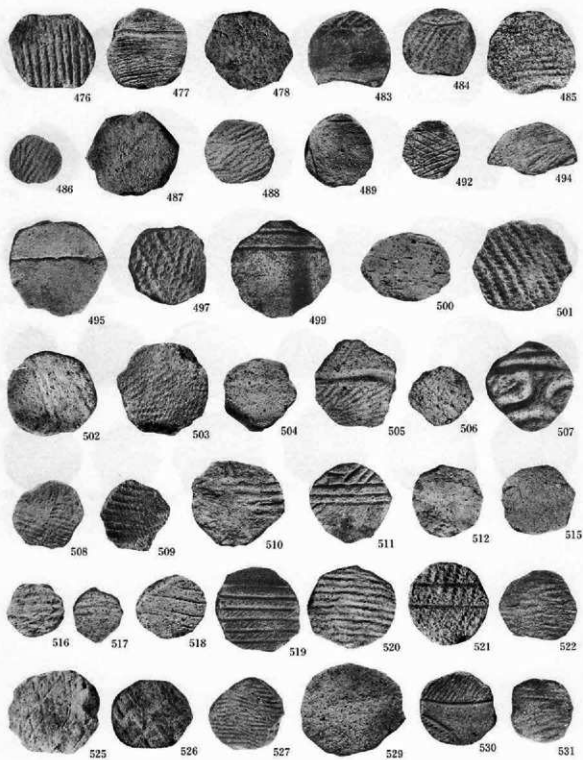
写真図版90 土製品(12) (S=1/2)



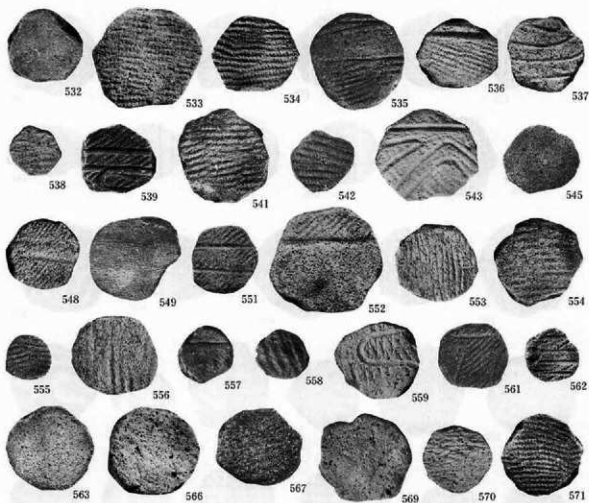
写真図版91 土製品(3) (S=1/2)



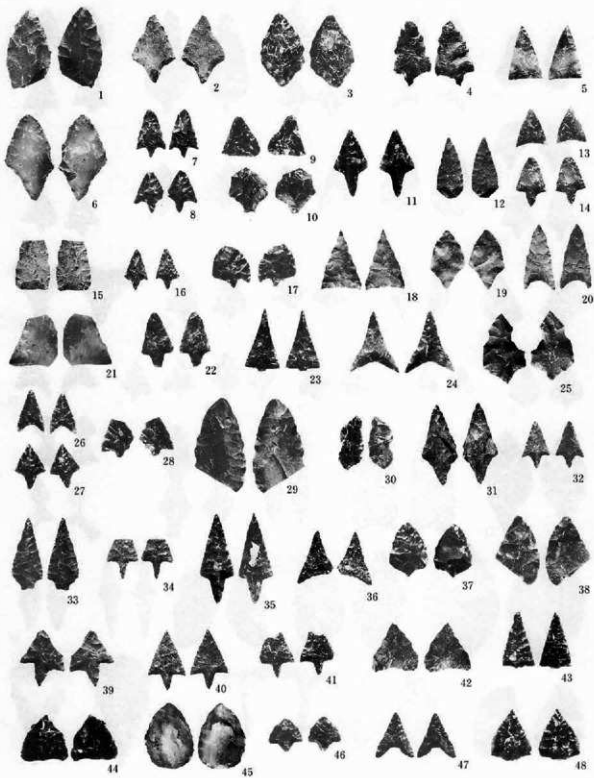
写真図版92 土製品14 (S=1/2)



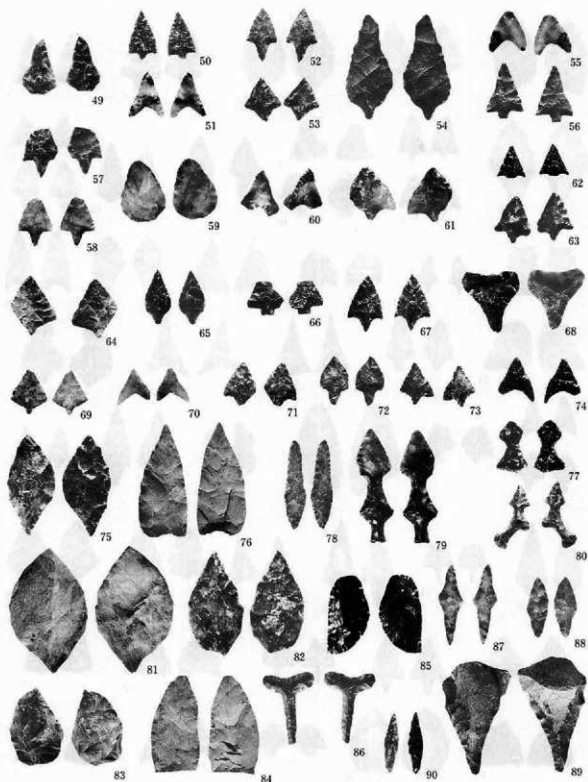
写真図版93 土製品19 (S=1/2)



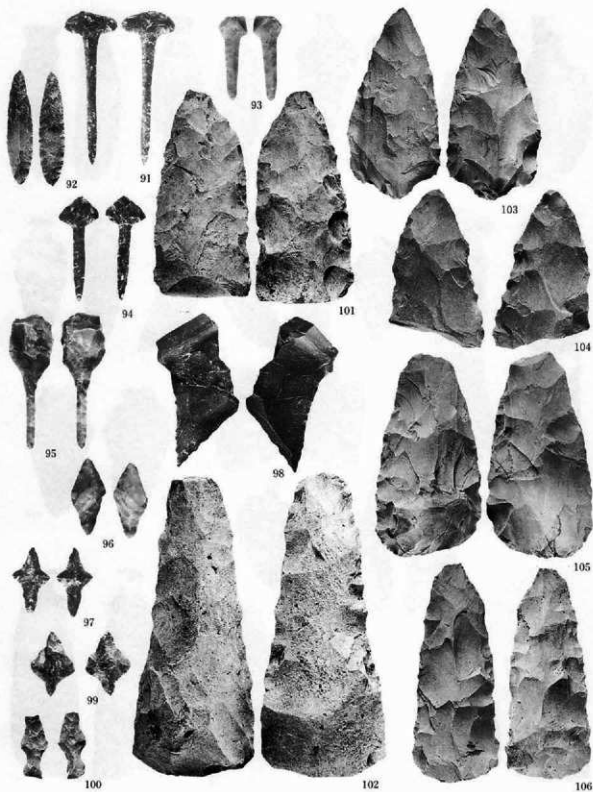
写真図版94 土製品10 (S=1/2)



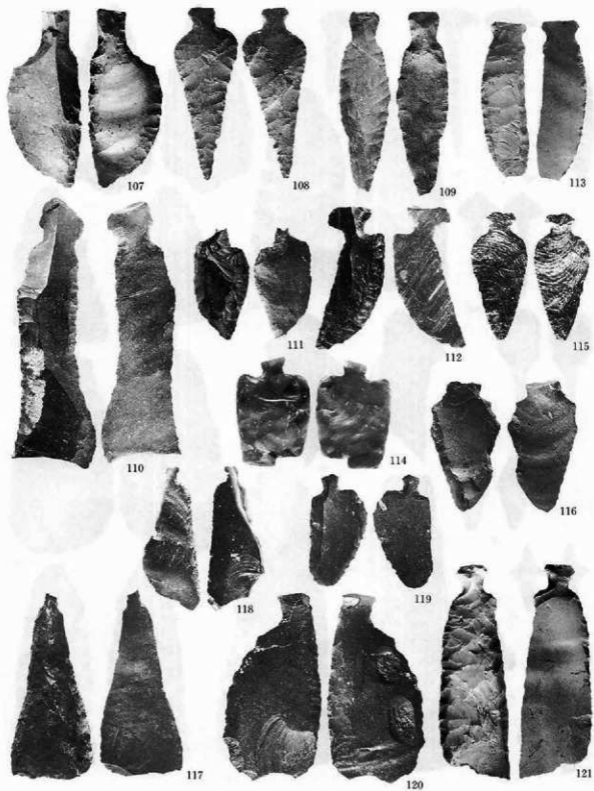
写真図版95 石器(1) (S=3/4)



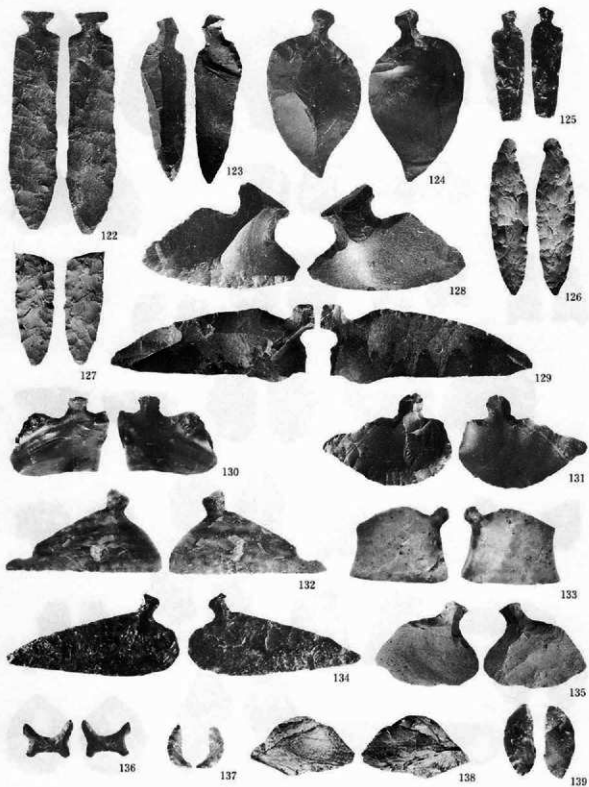
写真図版96 石器(2) (S=3/5)



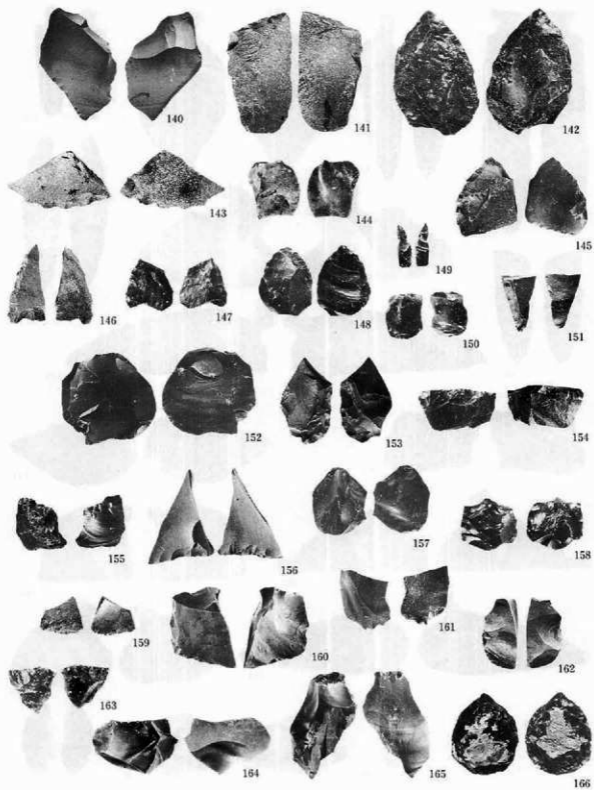
写真図版97 石器(3) (S=3/5)



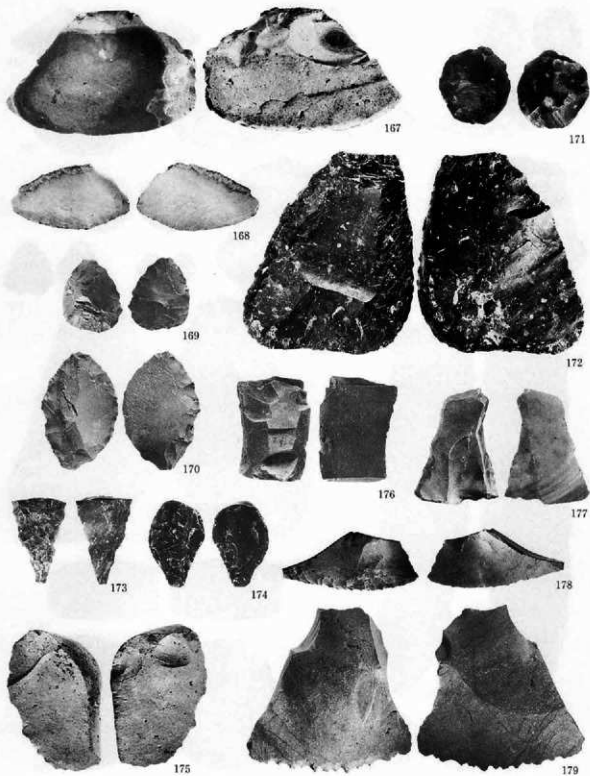
写真図版98 石器(4) (S=3/5)



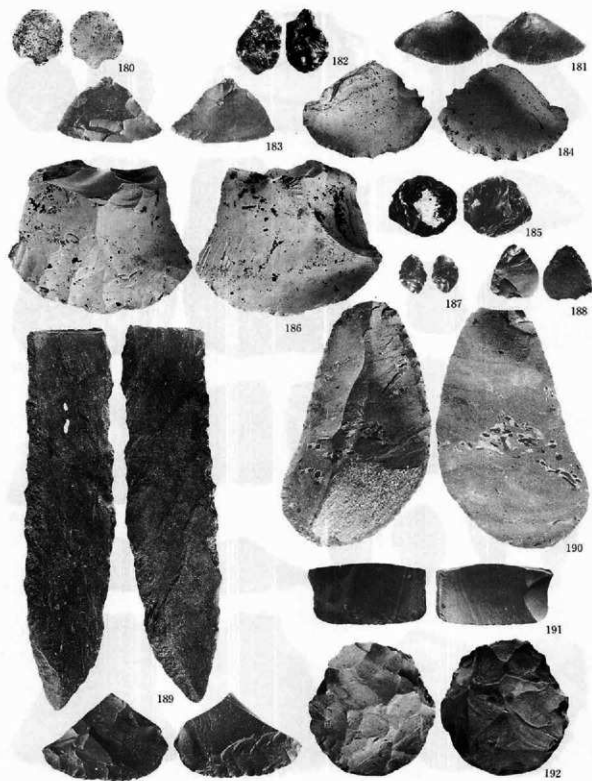
写真図版99 石器(5) (S=3/5)



写真図版100 石器(6) (S=3%)



写真図版101 石器(7) (S=3/5)



写真図版102 石器(8) (S=3/5)



193



195



196



197



198

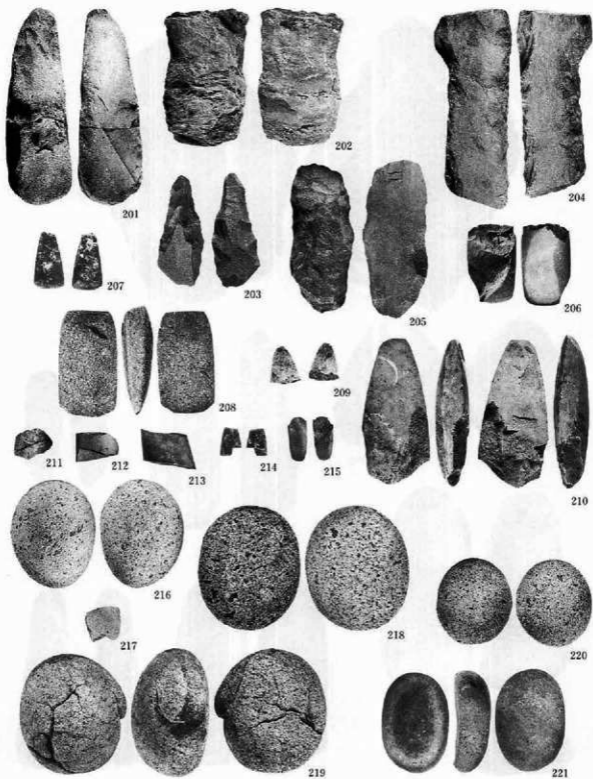


199

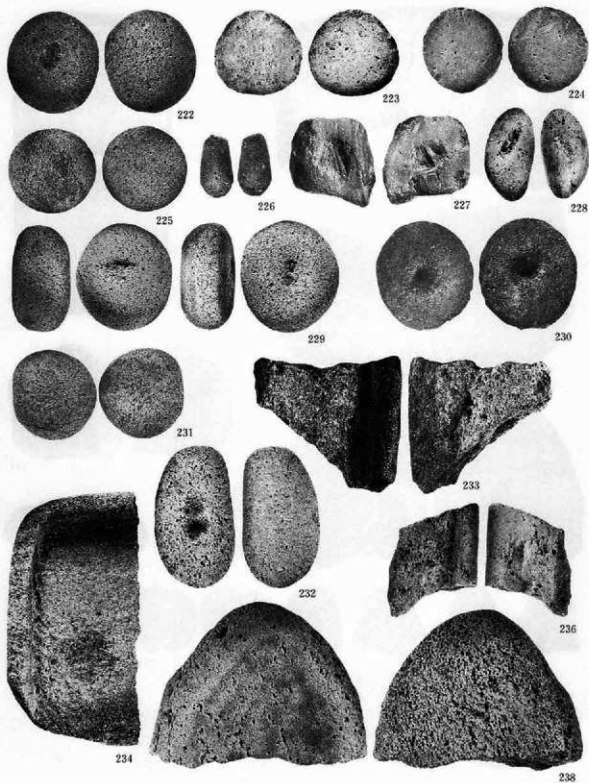


200

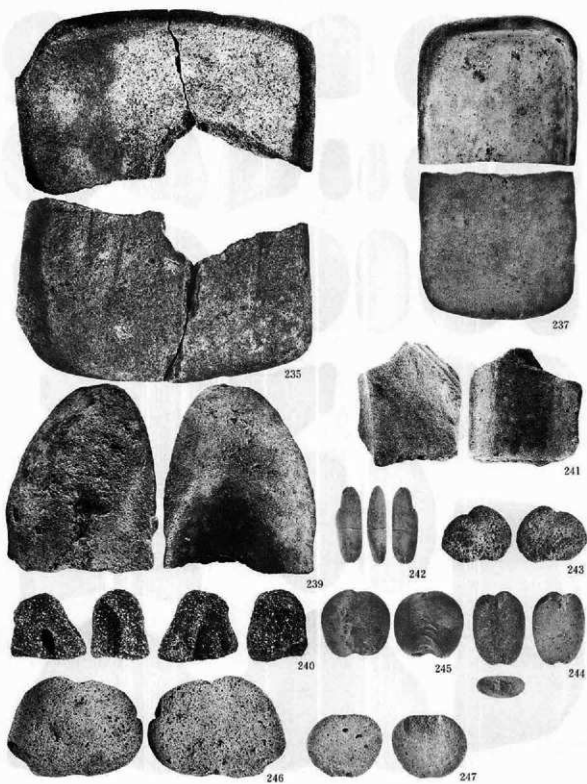
写真図版103 石器(9) (193は $S = \frac{1}{2}$ 、195~200は $S = \frac{1}{5}$)



写真図版104 石器10 (S = 1/5)



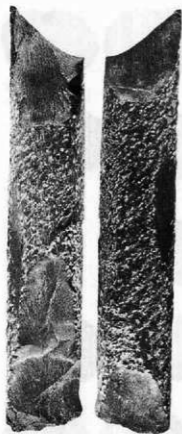
写真図版105 石器(1) (S=1/5)



写真図版106 石器(2) (S=1/3)



写真図版107 石器13 (S=1/2)



270



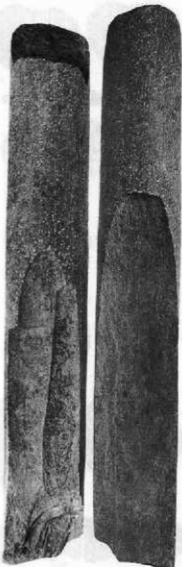
271



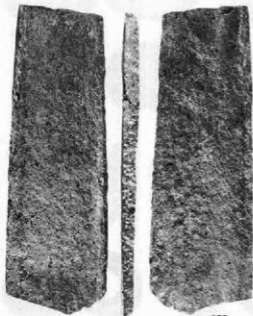
273



272



276

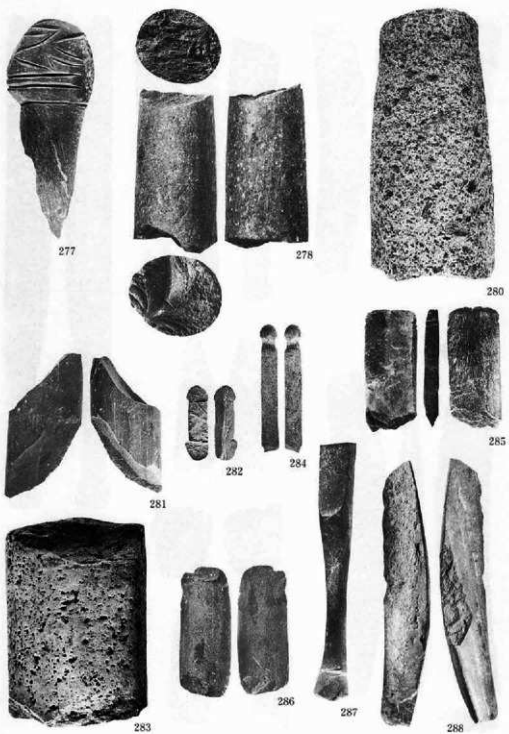


275



274

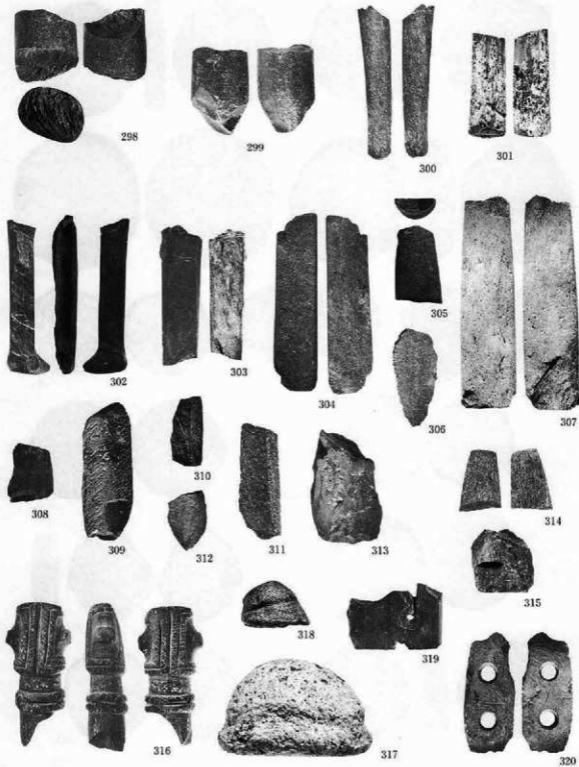
写真図版108 石製品(1) (S=1/2)



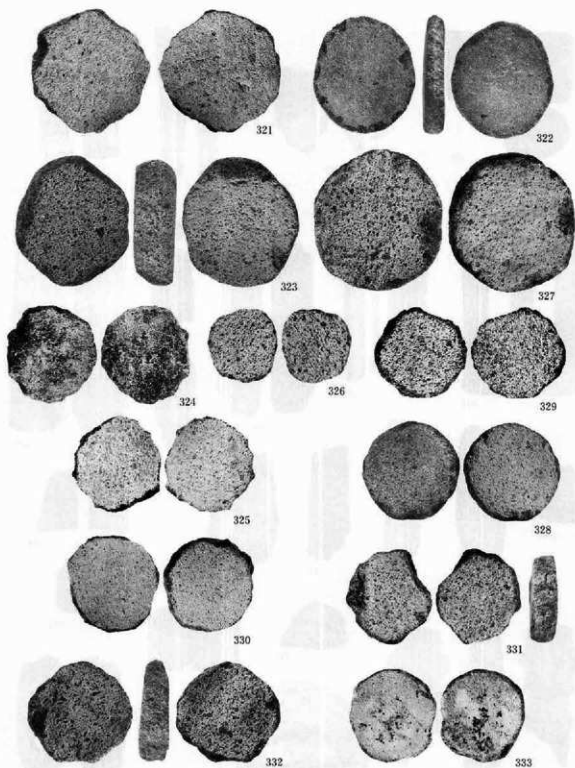
写真図版109 石製品(2) (S = 1/2)



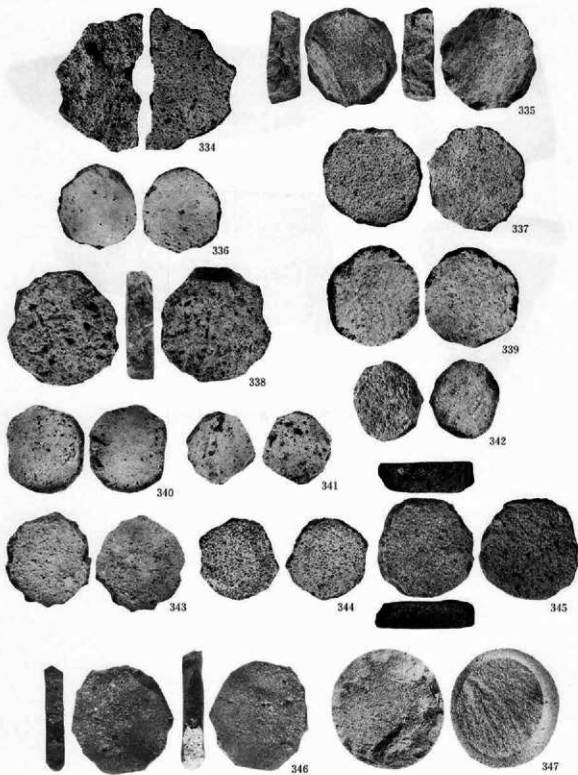
写真図版110 石製品(3) (S=1/2)



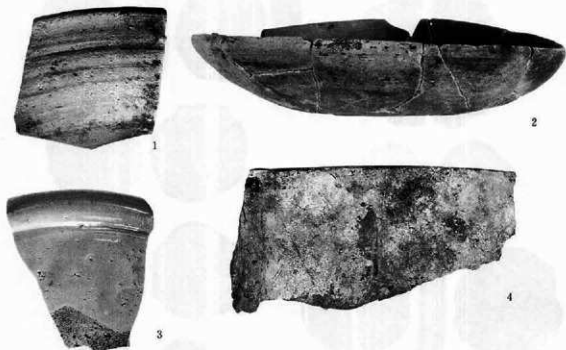
写真図版111 石製品(4) (S=1/2)



写真図版112 石製品(5) (S = 1/2)



写真図版113 石製品(6) (S = 1/2)



写真図版114 平安時代以降の遺物 (S = $\frac{1}{2}$)

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

理事長 小笠原 喜一
副理事長 高橋 敬明

[管理課]

管理課長(兼) 高橋 敬明
課長補佐 森岡 陽一
主 事 佐藤 理

嘱託 根橋 文一
" 吉田 十春
" 佐藤 春男
運兼 転務 技務 士員

[調査課]

調査課長 村上 康昭
課長補佐 鈴木 恵治
" 三浦 謙一

文 化 財 財
專 門 調 査 員 鎌田 勉
" 松本 建速
" 笹平 克子
" 花坂 政博

主任文化財 高橋 興右衛門
" 工藤 利幸
" 中川 重紀

" 佐々木 務
" 金子 昭彦
" 濱田 宏
" 羽柴 直人

" 高橋 正之一
" 渡辺 洋一
" 佐々木 清文

" 星 雅之
" 高木 晃
" 鎌田 精造

文 化 財 財
專 門 調 査 員 高橋 義隆
" 千葉 孝雄
" 斎藤 博司

期 專 門 職 付 員 星 高 木 田 精 阿 千 熊 新 山 小 山 内 柳 田 菅 工 高 溜 佐 阿 千 熊 新 山 小 山 内 柳 田 菅 工 高 溜 佐

" 東海林 幹弘
" 佐々木 均
" 鈴木 貞行
" 伊東 邦格
" 斎藤 敏明

" 博 由一郎
" 信 博 英透
" 倉 口 磨明
" 原 元敬
" 藤 剛樹

" 神 敏一
" 佐々木 信一
" 小原 真一
" 酒井 宗孝

" 高 溜 佐 阿 千 熊 新 山 小 山 内 柳 田 菅 工 高 溜 佐

[資料課]

資料課長 村松 義夫
文 化 財 財 高橋 一浩
專 門 調 査 員

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第188集

新山権現社遺跡発掘調査報告書

一般県道長坂東稻前沢線増石橋橋梁整備事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成5年3月25日

発行 平成5年3月30日

発行 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020 盛岡市下飯岡11-185

TEL (0196) 38-9001・9002

印刷 川口印刷工業株式会社

〒020 盛岡市本町通2-13-8

TEL (0196) 23-3351